

2019年度 スポーツ健康学部 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

総合教育科目_外国語科目	[M0070]	総合英語 I (a) [浦川 智子] 春学期授業/Spring	1
総合教育科目_外国語科目	[M0077]	総合英語 I (b) [浦川 智子] 秋学期授業/Fall	1
総合教育科目_外国語科目	[M0010]	総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】 [浦川 智子] 年間授業/Yearly	2
総合教育科目_外国語科目	[M0071]	総合英語 I (a) [蒔田 裕美] 春学期授業/Spring	3
総合教育科目_外国語科目	[M0078]	総合英語 I (b) [蒔田 裕美] 秋学期授業/Fall	4
総合教育科目_外国語科目	[M0011]	総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】 [蒔田 裕美] 年間授業/Yearly	5
総合教育科目_外国語科目	[M0072]	総合英語 I (a) [石井 創] 春学期授業/Spring	6
総合教育科目_外国語科目	[M0079]	総合英語 I (b) [石井 創] 秋学期授業/Fall	7
総合教育科目_外国語科目	[M0012]	総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】 [石井 創] 年間授業/Yearly	8
総合教育科目_外国語科目	[M0073]	総合英語 I (a) [小川 真也] 春学期授業/Spring	9
総合教育科目_外国語科目	[M0080]	総合英語 I (b) [小川 真也] 秋学期授業/Fall	10
総合教育科目_外国語科目	[M0013]	総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】 [小川 真也] 年間授業/Yearly	11
総合教育科目_外国語科目	[M0074]	総合英語 I (a) [URBANOVA Jana] 春学期授業/Spring	12
総合教育科目_外国語科目	[M0081]	総合英語 I (b) [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	13
総合教育科目_外国語科目	[M0014]	総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】 [URBANOVA Jana] 年間授業/Yearly	14
総合教育科目_外国語科目	[M0075]	総合英語 I (a) [相馬 美明] 春学期授業/Spring	15
総合教育科目_外国語科目	[M0082]	総合英語 I (b) [相馬 美明] 秋学期授業/Fall	16
総合教育科目_外国語科目	[M0015]	総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】 [相馬 美明] 年間授業/Yearly	17
総合教育科目_外国語科目	[M0076]	総合英語 I (a) [式町 眞紀子] 春学期授業/Spring	18
総合教育科目_外国語科目	[M0083]	総合英語 I (b) [式町 眞紀子] 秋学期授業/Fall	19
総合教育科目_外国語科目	[M0016]	総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】 [式町 眞紀子] 年間授業/Yearly	20
総合教育科目_外国語科目	[M0084]	総合英語 II (a) [桑原 洋] 春学期授業/Spring	21
総合教育科目_外国語科目	[M0091]	総合英語 II (b) [桑原 洋] 秋学期授業/Fall	22
総合教育科目_外国語科目	[M0020]	総合英語 II 【2017 年度以前入学生対象】 [桑原 洋] 年間授業/Yearly	23
総合教育科目_外国語科目	[M0085]	総合英語 II (a) [村井 三千男] 春学期授業/Spring	24
総合教育科目_外国語科目	[M0092]	総合英語 II (b) [村井 三千男] 秋学期授業/Fall	25
総合教育科目_外国語科目	[M0021]	総合英語 II 【2017 年度以前入学生対象】 [村井 三千男] 年間授業/Yearly	26
総合教育科目_外国語科目	[M0086]	総合英語 II (a) [川田 アマンディーン] 春学期授業/Spring	28
総合教育科目_外国語科目	[M0093]	総合英語 II (b) [川田 アマンディーン] 秋学期授業/Fall	29
総合教育科目_外国語科目	[M0022]	総合英語 II 【2017 年度以前入学生対象】 [川田 アマンディーン] 年間授 業/Yearly	30
総合教育科目_外国語科目	[M0087]	総合英語 II (a) [大塚 孝一] 春学期授業/Spring	31
総合教育科目_外国語科目	[M0094]	総合英語 II (b) [大塚 孝一] 秋学期授業/Fall	32
総合教育科目_外国語科目	[M0023]	総合英語 II 【2017 年度以前入学生対象】 [大塚 孝一] 年間授業/Yearly	33
総合教育科目_外国語科目	[M0088]	総合英語 II (a) [松下 晴彦] 春学期授業/Spring	34
総合教育科目_外国語科目	[M0095]	総合英語 II (b) [松下 晴彦] 秋学期授業/Fall	34
総合教育科目_外国語科目	[M0024]	総合英語 II 【2017 年度以前入学生対象】 [松下 晴彦] 年間授業/Yearly	35
総合教育科目_外国語科目	[M0089]	総合英語 II (a) [衣川 清子] 春学期授業/Spring	36
総合教育科目_外国語科目	[M0096]	総合英語 II (b) [衣川 清子] 秋学期授業/Fall	37
総合教育科目_外国語科目	[M0025]	総合英語 II 【2017 年度以前入学生対象】 [衣川 清子] 年間授業/Yearly	38
総合教育科目_外国語科目	[M0090]	総合英語 II (a) [喜多 球美] 春学期授業/Spring	39
総合教育科目_外国語科目	[M0097]	総合英語 II (b) [喜多 球美] 秋学期授業/Fall	40
総合教育科目_外国語科目	[M0026]	総合英語 II 【2017 年度以前入学生対象】 [喜多 球美] 年間授業/Yearly	41
総合教育科目_外国語科目	[M0098]	総合英語 III (a) [小川 真也] 春学期授業/Spring	42
総合教育科目_外国語科目	[M0105]	総合英語 III (b) [小川 真也] 秋学期授業/Fall	43
総合教育科目_外国語科目	[M0030]	総合英語 III 【2017 年度以前入学生対象】 [小川 真也] 年間授業/Yearly	44
総合教育科目_外国語科目	[M0099]	総合英語 III (a) [石井 創] 春学期授業/Spring	45
総合教育科目_外国語科目	[M0106]	総合英語 III (b) [石井 創] 秋学期授業/Fall	46
総合教育科目_外国語科目	[M0031]	総合英語 III 【2017 年度以前入学生対象】 [石井 創] 年間授業/Yearly	47
総合教育科目_外国語科目	[M0100]	総合英語 III (a) [相馬 美明] 春学期授業/Spring	48
総合教育科目_外国語科目	[M0107]	総合英語 III (b) [相馬 美明] 秋学期授業/Fall	49
総合教育科目_外国語科目	[M0032]	総合英語 III 【2017 年度以前入学生対象】 [相馬 美明] 年間授業/Yearly	50
総合教育科目_外国語科目	[M0101]	総合英語 III (a) [浦川 智子] 春学期授業/Spring	51

総合教育科目_外国語科目	[M0108]	総合英語Ⅲ (b) [浦川 智子] 秋学期授業/Fall	52
総合教育科目_外国語科目	[M0033]	総合英語Ⅲ 【2017 年度以前入学生対象】 [浦川 智子] 年間授業/Yearly	52
総合教育科目_外国語科目	[M0102]	総合英語Ⅲ (a) [式町 眞紀子] 春学期授業/Spring	53
総合教育科目_外国語科目	[M0109]	総合英語Ⅲ (b) [式町 眞紀子] 秋学期授業/Fall	54
総合教育科目_外国語科目	[M0034]	総合英語Ⅲ 【2017 年度以前入学生対象】 [式町 眞紀子] 年間授業/Yearly	55
総合教育科目_外国語科目	[M0103]	総合英語Ⅲ (a) [URBANOVA Jana] 春学期授業/Spring	56
総合教育科目_外国語科目	[M0110]	総合英語Ⅲ (b) [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	57
総合教育科目_外国語科目	[M0035]	総合英語Ⅲ 【2017 年度以前入学生対象】 [URBANOVA Jana] 年間授業/Yearly	58
総合教育科目_外国語科目	[M0104]	総合英語Ⅲ (a) [蒔田 裕美] 春学期授業/Spring	60
総合教育科目_外国語科目	[M0111]	総合英語Ⅲ (b) [蒔田 裕美] 秋学期授業/Fall	60
総合教育科目_外国語科目	[M0036]	総合英語Ⅲ 【2017 年度以前入学生対象】 [蒔田 裕美] 年間授業/Yearly	61
総合教育科目_外国語科目	[M0112]	総合英語Ⅳ (a) [川田 アマンディーン] 春学期授業/Spring	62
総合教育科目_外国語科目	[M0119]	総合英語Ⅳ (b) [川田 アマンディーン] 秋学期授業/Fall	63
総合教育科目_外国語科目	[M0040]	総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】 [川田 アマンディーン] 年間授 業/Yearly	64
総合教育科目_外国語科目	[M0113]	総合英語Ⅳ (a) [大塚 孝一] 春学期授業/Spring	65
総合教育科目_外国語科目	[M0120]	総合英語Ⅳ (b) [大塚 孝一] 秋学期授業/Fall	66
総合教育科目_外国語科目	[M0041]	総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】 [大塚 孝一] 年間授業/Yearly	66
総合教育科目_外国語科目	[M0114]	総合英語Ⅳ (a) [桑原 洋] 春学期授業/Spring	67
総合教育科目_外国語科目	[M0121]	総合英語Ⅳ (b) [桑原 洋] 秋学期授業/Fall	68
総合教育科目_外国語科目	[M0042]	総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】 [桑原 洋] 年間授業/Yearly	69
総合教育科目_外国語科目	[M0115]	総合英語Ⅳ (a) [衣川 清子] 春学期授業/Spring	70
総合教育科目_外国語科目	[M0122]	総合英語Ⅳ (b) [衣川 清子] 秋学期授業/Fall	71
総合教育科目_外国語科目	[M0043]	総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】 [衣川 清子] 年間授業/Yearly	71
総合教育科目_外国語科目	[M0116]	総合英語Ⅳ (a) [喜多 球美] 春学期授業/Spring	72
総合教育科目_外国語科目	[M0123]	総合英語Ⅳ (b) [喜多 球美] 秋学期授業/Fall	73
総合教育科目_外国語科目	[M0044]	総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】 [喜多 球美] 年間授業/Yearly	74
総合教育科目_外国語科目	[M0117]	総合英語Ⅳ (a) [松下 晴彦] 春学期授業/Spring	75
総合教育科目_外国語科目	[M0124]	総合英語Ⅳ (b) [松下 晴彦] 秋学期授業/Fall	76
総合教育科目_外国語科目	[M0045]	総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】 [松下 晴彦] 年間授業/Yearly	76
総合教育科目_外国語科目	[M0118]	総合英語Ⅳ (a) [村井 三千男] 春学期授業/Spring	77
総合教育科目_外国語科目	[M0125]	総合英語Ⅳ (b) [村井 三千男] 秋学期授業/Fall	78
総合教育科目_外国語科目	[M0046]	総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】 [村井 三千男] 年間授業/Yearly	79
総合教育科目_外国語科目	[M0150]	日本語 1-I [酒井 知子] 春学期授業/Spring	81
総合教育科目_外国語科目	[M0151]	日本語 1-I [酒井 知子] 春学期授業/Spring	82
総合教育科目_外国語科目	[M0152]	日本語 1-I [酒井 知子] 春学期授業/Spring	83
総合教育科目_外国語科目	[M0160]	日本語 1-II [酒井 知子] 秋学期授業/Fall	84
総合教育科目_外国語科目	[M0161]	日本語 1-II [酒井 知子] 秋学期授業/Fall	85
総合教育科目_外国語科目	[M0162]	日本語 1-II [酒井 知子] 秋学期授業/Fall	86
総合教育科目_外国語科目	[M0170]	日本語 2-I [乾 浩] 春学期授業/Spring	87
総合教育科目_外国語科目	[M0171]	日本語 2-I [乾 浩] 春学期授業/Spring	87
総合教育科目_外国語科目	[M0172]	日本語 2-I [乾 浩] 春学期授業/Spring	88
総合教育科目_外国語科目	[M0180]	日本語 2-II [乾 浩] 秋学期授業/Fall	88
総合教育科目_外国語科目	[M0181]	日本語 2-II [乾 浩] 秋学期授業/Fall	89
総合教育科目_外国語科目	[M0182]	日本語 2-II [乾 浩] 秋学期授業/Fall	89
総合教育科目_外国語科目	[M0190]	日本語 3-I [宮本 典以子] 春学期授業/Spring	90
総合教育科目_外国語科目	[M0191]	日本語 3-I [宮本 典以子] 春学期授業/Spring	91
総合教育科目_外国語科目	[M0192]	日本語 3-I [宮本 典以子] 春学期授業/Spring	92
総合教育科目_外国語科目	[M0200]	日本語 3-II [宮本 典以子] 秋学期授業/Fall	93
総合教育科目_外国語科目	[M0201]	日本語 3-II [宮本 典以子] 秋学期授業/Fall	94
総合教育科目_外国語科目	[M0202]	日本語 3-II [宮本 典以子] 秋学期授業/Fall	95
総合教育科目_外国語科目	[M0130]	英語コミュニケーションⅠ (a) [URBANOVA Jana] 春学期授業/Spring	96
総合教育科目_外国語科目	[M0050]	英語コミュニケーションⅠ [URBANOVA Jana] 年間授業/Yearly	97
総合教育科目_外国語科目	[M0131]	英語コミュニケーションⅠ (b) [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	98
総合教育科目_外国語科目	[M0140]	英語コミュニケーションⅡ (a) [Nemes Roland] 春学期授業/Spring	99
総合教育科目_外国語科目	[M0141]	英語コミュニケーションⅡ (b) [Nemes Roland] 秋学期授業/Fall	100
総合教育科目_外国語科目	[M0060]	英語コミュニケーションⅡ [Nemes Roland] 年間授業/Yearly	101

総合教育科目_視野形成科目 (必修)	【M0330】	スポーツ健康学入門 [平野 裕一]	春学期授業/Spring	103
総合教育科目_視野形成科目 (必修)	【M0331】	スポーツ健康学入門 [平野 裕一]	春学期授業/Spring	104
総合教育科目_視野形成科目 (必修)	【M0332】	スポーツ健康学入門 [平野 裕一]	春学期授業/Spring	105
総合教育科目_視野形成科目 (必修)	【M0333】	スポーツ健康学入門 [平野 裕一]	春学期授業/Spring	106
総合教育科目_視野形成科目 (必修)	【M0334】	スポーツ健康学入門 [平野 裕一]	春学期授業/Spring	107
総合教育科目_視野形成科目 (必修)	【M0335】	スポーツ健康学入門 [平野 裕一]	春学期授業/Spring	108
総合教育科目_視野形成科目 (必修)	【M0336】	スポーツ健康学入門 [平野 裕一]	春学期授業/Spring	109
総合教育科目_視野形成科目 (必修)	【M0337】	スポーツ健康学入門 [平野 裕一]	春学期授業/Spring	110
総合教育科目_視野形成科目 (必修)	【M0320】	スポーツとキャリア形成 [伊藤 真紀]	春学期授業/Spring	111
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0530】	経営学 [新海 貴弘]	春学期授業/Spring	112
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0540】	法学 (日本国憲法) [森 浩寿]	春学期授業/Spring	113
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0550】	コミュニケーション論 [山本 浩]	春学期授業/Spring	114
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0700】	保健体育概論 [永木 耕介]	春学期授業/Spring	115
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0600】	情報リテラシー I [新海 貴弘]	春学期授業/Spring	116
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0601】	情報リテラシー I [新海 貴弘]	春学期授業/Spring	117
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0602】	情報リテラシー I [新海 貴弘]	春学期授業/Spring	118
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0680】	統計学 I [笹井 浩行]	春学期授業/Spring	119
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0710】	障害者福祉論 [山岸 倫子]	春学期授業/Spring	120
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0720】	音楽文化論 [関野 直樹]	春学期授業/Spring	121
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0750】	キャリアデザイン論 [加藤 寛之]	春学期授業/Spring	122
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0751】	キャリアデザイン論 [加藤 寛之]	春学期授業/Spring	122
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0760】	オリンピック・パラリンピックを考える [鈴木 良則]	春学期授業/Spring	123
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0610】	情報リテラシー II [新海 貴弘]	秋学期授業/Fall	124
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0611】	情報リテラシー II [新海 貴弘]	秋学期授業/Fall	125
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0612】	情報リテラシー II [新海 貴弘]	秋学期授業/Fall	126
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0560】	人間とスポーツ [成田 道彦]	秋学期授業/Fall	127
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0630】	スポーツレクリエーション論 [谷本 都栄]	秋学期授業/Fall	128
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0690】	統計学 II [笹井 浩行]	秋学期授業/Fall	129
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0570】	女性とスポーツ [伊藤 真紀]	秋学期授業/Fall	130
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0670】	生命倫理 [尾崎 恭一]	秋学期授業/Fall	131
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0520】	数学 [坂本 寛]	春学期授業/Spring	132
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0730】	基礎科学 [瀬戸 宏明]	秋学期授業/Fall	133
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0660】	哲学 [尾崎 恭一]	秋学期授業/Fall	134
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0740】	多摩地域形成論 [池田 寛二]	秋学期授業/Fall	134
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0770】	アスリートキャリア論 [成田 道彦]	春学期授業/Spring	135
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0790】	スポーツ健康学特講 [HANS-JOERG STIEHLER]	春学期授業/Spring	136
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	【M0780】	スポーツ健康学海外演習 [泉 重樹、平野 裕一]	秋学期授業/Fall	137
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1010】	生理学 A [江川 賢一]	春学期授業/Spring	138
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1150】	生理学 [江川 賢一]	春学期授業/Spring	139
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1020】	機能解剖学 [泉 重樹]	春学期授業/Spring	140
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1160】	機能解剖学 A [泉 重樹]	春学期授業/Spring	141
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1040】	スポーツ哲学 [早瀬 健介]	春学期授業/Spring	142
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1630】	スポーツ社会学 [海老島 均]	春学期授業/Spring	143
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1130】	健康科学 [安藤 正志、林田 はるみ]	秋学期授業/Fall	144
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1170】	ヘルスデザイン論 [安藤 正志、林田 はるみ]	秋学期授業/Fall	145
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1050】	スポーツ運動学 I [工藤 裕仁]	秋学期授業/Fall	146
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1070】	スポーツ心理学 A [立谷 泰久]	秋学期授業/Fall	147
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1140】	スポーツ史 [山本 浩]	秋学期授業/Fall	148
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1750】	スポーツビジネス論 I [井上 尊寛]	秋学期授業/Fall	149
専門教育科目	【M1790】	スポーツコーチング論 A [平野 裕一]	秋学期授業/Fall	150
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1080】	運動生理学概論 [江川 賢一]	春学期授業/Spring	151
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1730】	スポーツリスクマネジメント [木下 訓光]	春学期授業/Spring	152
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1120】	スポーツマネジメント論 [川崎 登志喜]	秋学期授業/Fall	153
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	【M1460】	スポーツ実習入門 [永木 耕介]	春学期授業/Spring	155
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	【M1461】	スポーツ実習入門 [永木 耕介]	春学期授業/Spring	156

専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1462】	スポーツ実習入門 [永木 耕介]	春学期授業/Spring	157
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1463】	スポーツ実習入門 [永木 耕介]	春学期授業/Spring	158
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1464】	スポーツ実習入門 [永木 耕介]	春学期授業/Spring	159
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1465】	スポーツ実習入門 [永木 耕介]	春学期授業/Spring	160
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1466】	スポーツ実習入門 [永木 耕介]	春学期授業/Spring	161
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1467】	スポーツ実習入門 [永木 耕介]	春学期授業/Spring	162
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1420】	陸上競技実習 [刈部 俊二]	春学期授業/Spring	163
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1470】	ラケットスポーツ実習 [升 佑二郎]	春学期授業/Spring	164
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1471】	ラケットスポーツ実習 [植村 直己]	春学期授業/Spring	165
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1440】	スイミング実習 [八塚 明憲]	春学期授業/Spring	166
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1441】	スイミング実習 [金田 和也]	春学期授業/Spring	167
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1442】	スイミング実習 [八塚 明憲]	春学期授業/Spring	168
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1443】	スイミング実習 [金田 和也]	春学期授業/Spring	169
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1444】	スイミング実習 [八塚 明憲]	秋学期授業/Fall	170
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1445】	スイミング実習 [金田 和也]	秋学期授業/Fall	171
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1446】	スイミング実習 [八塚 明憲]	秋学期授業/Fall	172
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1447】	スイミング実習 [金田 和也]	秋学期授業/Fall	173
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1480】	ボールスポーツ実習 [川田 尚弘]	春学期授業/Spring	174
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1481】	ボールスポーツ実習 [山口 良博]	春学期授業/Spring	175
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1482】	ボールスポーツ実習 [川田 尚弘]	春学期授業/Spring	176
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1483】	ボールスポーツ実習 [山口 良博]	春学期授業/Spring	177
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1484】	ボールスポーツ実習 [清雲 栄純]	秋学期授業/Fall	178
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1485】	ボールスポーツ実習 [山口 良博]	秋学期授業/Fall	179
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1486】	ボールスポーツ実習 [清雲 栄純]	秋学期授業/Fall	180
専門教育科目_専門基礎科目(実技科目)	【M1487】	ボールスポーツ実習 [山口 良博]	秋学期授業/Fall	181
専門教育科目_専門基幹科目	【M1620】	スポーツトレーニング論Ⅰ [平野 裕一]	春学期授業/Spring	181
専門教育科目_専門基幹科目	【M1610】	スポーツコーチング論Ⅰ [平野 裕一]	秋学期授業/Fall	182
専門教育科目_専門基幹科目	【M1750】	スポーツビジネス論Ⅰ [井上 尊寛]	秋学期授業/Fall	183
専門教育科目_専門基幹科目	【M1030】	衛生学 [鬼頭 英明]	秋学期授業/Fall	184
専門教育科目_専門基幹科目	【M1760】	スポーツ法学Ⅰ [森 浩寿]	秋学期授業/Fall	185
専門教育科目_専門基幹科目	【M1800】	機能解剖学B [加藤 基]	秋学期授業/Fall	186
専門教育科目_専門基幹科目	【M1100】	スポーツ栄養学 [長谷川 祐子]	春学期授業/Spring	187
専門教育科目_専門基幹科目	【M1110】	スポーツバイオメカニクス [工藤 裕仁]	春学期授業/Spring	188
専門教育科目_専門基幹科目	【M1770】	体力測定・評価論 [佐藤 祐輔、泉 重樹]	春学期授業/Spring	189
専門教育科目_専門基幹科目	【M1740】	学校保健 [鬼頭 英明]	春学期授業/Spring	190
専門教育科目_専門基幹科目	【M3070】	スポーツ産業論 [吉田 政幸]	春学期授業/Spring	191
専門教育科目_専門基幹科目	【M3170】	スポーツビジネス論Ⅱ [伊藤 真紀]	春学期授業/Spring	192
専門教育科目_専門基幹科目	【M1780】	予防医学概論 [瀬戸 宏明]	秋学期授業/Fall	193
専門教育科目_専門基幹科目	【M1700】	公衆衛生学 [鬼頭 英明]	秋学期授業/Fall	194
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2010】	運動療法総論 [安藤 正志、林田 はるみ]	秋学期授業/Fall	195
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M1680】	スポーツコンディショニング論Ⅰ [春日井 有輝]	秋学期授業/Fall	196
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2040】	アスレティックトレーナー概論 [泉 重樹]	秋学期授業/Fall	197
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2330】	Health and Exercise Sciences [笹井 浩行]	秋学期授業/Fall	198
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2020】	リハビリテーション概論 [昇 寛]	春学期授業/Spring	199
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2230】	健康と疾患 [安藤 正志]	春学期授業/Spring	200
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2050】	スポーツコンディショニング論Ⅱ [春日井 有輝]	春学期授業/Spring	201
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M1730】	スポーツリスクマネジメント [木下 訓光]	春学期授業/Spring	202
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2340】	テーピング・コンディショニング指導論Ⅰ [春日井 有輝]	春学期授業/Spring	204
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2350】	テーピング・コンディショニング指導論Ⅱ [春日井 有輝]	秋学期授業/Fall	205
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2240】	テーピング・コンディショニング指導論 [春日井 有輝]	年間授業/Yearly	206
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2060】	運動処方・負荷テスト [木下 訓光]	春学期授業/Spring	207
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2250】	スポーツ医学(内科系) [瀬戸 宏明]	春学期授業/Spring	208

専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2080】生活習慣病と身体活動 [木下 訓光] 春学期授業/Spring ..	209
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2090】運動生理学 [瀬戸 宏明] 春学期授業/Spring	210
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2110】アスレティックリハビリテーション [泉 重樹] 秋学期授業/Fall	211
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2260】スポーツ医学 (外科系) [瀬戸 宏明] 秋学期授業/Fall....	212
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2130】ジョギング・ウォーキング実習 [成田 道彦] 春学期授業/Spring213	
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2131】ジョギング・ウォーキング実習 [成田 道彦] 秋学期授業/Fall214	
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2140】フィットネス・トレーニング実習 [伊藤 良彦、春日井 有輝] 春学期授業/Spring	215
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2141】フィットネス・トレーニング実習 [伊藤 良彦、春日井 有輝] 春学期授業/Spring	216
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2150】エアロビック運動実習 [林田 はるみ] 秋学期授業/Fall... 217	
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2270】体力測定・評価実習 [泉 重樹、佐藤 祐輔] 秋学期授業/Fall218	
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2271】体力測定・評価実習 [泉 重樹、佐藤 祐輔] 秋学期授業/Fall219	
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2280】健康増進施設実習 [泉 重樹] 年間授業/Yearly	220
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2291】スポーツ現場実習 A [泉 重樹] 年間授業/Yearly	221
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2292】スポーツ現場実習 B [春日井 有輝] 年間授業/Yearly.. 222	
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2170】スポーツリハビリテーション実習 [安藤 正志] 春学期授業/Spring.....	223
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2190】運動負荷テスト実習 [木下 訓光] 秋学期授業/Fall	224
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2191】運動負荷テスト実習 [木下 訓光] 秋学期授業/Fall	225
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2310】運動学実習 [安藤 正志] 秋学期授業/Fall	226
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2321】スポーツ医科学実習 [木下 訓光、瀬戸 宏明] 秋学期授業/Fall	227
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2322】スポーツ医科学実習 [木下 訓光、瀬戸 宏明] 秋学期授業/Fall	229
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3010】レジャー論 [谷本 都栄] 春学期授業/Spring	231
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M1650】スポーツ文化論 [早瀬 健介] 春学期授業/Spring	232
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3160】地域スポーツ経営論 [川田 尚弘] 春学期授業/Spring .. 233	
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M0620】スポーツとまちづくり [伊藤 真紀] 秋学期授業/Fall... 234	
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3200】スポーツ組織論 [伊藤 真紀] 秋学期授業/Fall	235
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3020】スポーツ経済論 [宮下 量久] 秋学期授業/Fall	236
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3080】スポーツメディア論 [山本 浩] 秋学期授業/Fall..... 237	
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3050】スポーツと政治 [赤堀 宏幸] 春学期授業/Spring..... 239	
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3070】スポーツ産業論 [吉田 政幸] 春学期授業/Spring..... 240	
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3170】スポーツビジネス論Ⅱ [伊藤 真紀] 春学期授業/Spring 241	
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3060】スポーツマーケティング論 [井上 尊寛] 春学期授業/Spring242	
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3090】スポーツ行政論 [川崎 登志喜] 秋学期授業/Fall	243
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3180】スポーツ法学Ⅱ [飯田 研吾] 秋学期授業/Fall..... 244	
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3040】スポーツ取材論 [増島 みどり] 秋学期授業/Fall..... 245	
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3120】スポーツジャーナリズム論 (新聞) [荻田 則夫] 春学期授業/Spring.....	246
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3130】スポーツジャーナリズム論 (放送) [佐塚 元章] 秋学期授業/Fall	247
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3140】スポーツ政策論 [森岡 裕策] 秋学期授業/Fall	249
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3190】スポーツビジネス論Ⅲ [吉田 政幸] 秋学期授業/Fall .. 250	
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3210】スポーツビジネス海外演習 [吉田 政幸、伊藤 真紀] 春学期授業/Spring	251
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3100】スポーツイベント論 [吉田 政幸] 秋学期授業/Fall 252	
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3150】マーケティングリサーチ実習 [井上 尊寛] 年間授業/Yearly253	
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4010】トップアスリート論 [増島 みどり] 春学期授業/Spring 254	
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M0700】保健体育概論 [永木 耕介] 春学期授業/Spring..... 255	
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4020】スポーツトレーニング論Ⅱ [平野 裕一] 秋学期授業/Fall256	
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M1690】スポーツ心理学B [立谷 泰久] 春学期授業/Spring ... 257	
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4030】スポーツ運動学Ⅱ [伊藤 裕仁] 春学期授業/Spring ... 258	
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4050】スポーツ戦略・戦術論 [熊川 大介] 春学期授業/Spring259	
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M4730】スポーツ運動学 [伊藤 裕仁] 秋学期授業/Fall	260

専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4040】	スポーツコーチング論Ⅱ	〔Nemes Roland〕	秋学期授業/Fall	261
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4550】	スポーツコーチング論B	〔Nemes Roland〕	秋学期授業/Fall	262
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4740】	スポーツ戦術論（サッカー）	〔川田 尚弘〕	秋学期授業/Fall	262
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4750】	スポーツ戦術論（ハンドボール）	〔Nemes Roland〕	春学期授業/Spring	263
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4500】	ダンス実習〔町田 樹〕		秋学期授業/Fall	263
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4250】	ダンス指導論演習〔小川 洋子〕		秋学期授業/Fall	265
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4251】	ダンス指導論演習〔小川 洋子〕		秋学期授業/Fall	266
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4510】	柔道実習〔佐藤 伸一郎〕		春学期授業/Spring	267
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4511】	柔道実習〔佐藤 伸一郎〕		春学期授業/Spring	267
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4260】	柔道指導論実習〔佐藤 伸一郎〕		春学期授業/Spring	268
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4261】	柔道指導論実習〔佐藤 伸一郎〕		春学期授業/Spring	268
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4520】	柔道指導論演習〔佐藤 伸一郎〕		秋学期授業/Fall	269
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4521】	柔道指導論演習〔佐藤 伸一郎〕		秋学期授業/Fall	270
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4270】	武道指導論演習〔佐藤 伸一郎〕		秋学期授業/Fall	271
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4271】	武道指導論演習〔佐藤 伸一郎〕		秋学期授業/Fall	272
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4530】	剣道実習〔山崎 廣道〕		春学期授業/Spring	273
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4531】	剣道実習〔山崎 廣道〕		春学期授業/Spring	274
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4280】	剣道指導論実習〔山崎 廣道〕		春学期授業/Spring	275
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4281】	剣道指導論実習〔山崎 廣道〕		春学期授業/Spring	276
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4540】	剣道指導論演習〔古澤 伸晃〕		秋学期授業/Fall	277
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4541】	剣道指導論演習〔古澤 伸晃〕		秋学期授業/Fall	278
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4560】	器械運動実習〔佐藤 彩乃〕		春学期授業/Spring	279
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4561】	器械運動実習〔佐藤 彩乃〕		春学期授業/Spring	280
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4290】	器械運動指導論実習〔佐藤 彩乃〕		春学期授業/Spring	281
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4291】	器械運動指導論実習〔佐藤 彩乃〕		春学期授業/Spring	282
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4570】	器械運動指導論演習〔小野田 桂子〕		秋学期授業/Fall	283
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4580】	体づくり運動実習〔新海 萌子〕		春学期授業/Spring	284
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4581】	体づくり運動実習〔新海 萌子〕		春学期授業/Spring	285
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4300】	体づくり運動指導論実習〔新海 萌子〕		春学期授業/Spring	286
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4301】	体づくり運動指導論実習〔新海 萌子〕		春学期授業/Spring	287
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4590】	体づくり運動指導論演習〔小野田 桂子〕		秋学期授業/Fall	288
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4310】	サッカー指導論実習〔川田 尚弘〕		春学期授業/Spring	289
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4600】	サッカー実習〔川田 尚弘〕		春学期授業/Spring	290
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4320】	サッカー指導論演習〔井上 尊寛〕		秋学期授業/Fall	291
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4370】	バドミントン指導論実習〔升 佑二郎〕		春学期授業/Spring	292
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4640】	バドミントン実習〔升 佑二郎〕		春学期授業/Spring	293
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4380】	バドミントン指導論演習〔升 佑二郎〕		秋学期授業/Fall	294
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4430】	バレーボール指導論実習〔山田 稔〕		春学期授業/Spring	295
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4610】	バレーボール実習〔山田 稔〕		春学期授業/Spring	297
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4440】	バレーボール指導論演習〔山田 稔〕		秋学期授業/Fall	299
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4630】	テニス実習〔植村 直己〕		春学期授業/Spring	301
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4631】	テニス実習〔植村 直己〕		春学期授業/Spring	302
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4330】	テニス指導論実習〔植村 直己〕		春学期授業/Spring	303
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4331】	テニス指導論実習〔植村 直己〕		春学期授業/Spring	304
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4340】	テニス指導論演習〔植村 直己〕		秋学期授業/Fall	305
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4390】	ソフトボール指導論実習〔大田 穂〕		春学期授業/Spring	306
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4650】	ソフトボール実習〔大田 穂〕		春学期授業/Spring	307
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4400】	ソフトボール指導論演習〔大田 穂〕		秋学期授業/Fall	308
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4450】	バスケットボール指導論実習〔清水 貴司〕		春学期授業/Spring	309
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4620】	バスケットボール実習〔清水 貴司〕		春学期授業/Spring	310
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4460】	バスケットボール指導論演習〔清水 貴司〕		秋学期授業/Fall	311
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4160】	陸上競技指導論実習〔荻部 俊二〕		春学期授業/Spring	312

専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4760】陸上競技実習〔荻部 俊二〕春学期授業/Spring	313
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4360】陸上競技指導論演習〔荻部 俊二〕秋学期授業/Fall	314
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4770】スイミング実習〔八塚 明憲〕春学期授業/Spring	315
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4410】スイミング指導論実習〔八塚 明憲〕春学期授業/Spring	316
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4420】スイミング指導論演習〔八塚 明憲〕秋学期授業/Fall	317
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4670】ハンドボール実習〔Nemes Roland〕春学期授業/Spring	318
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4680】ハンドボール指導論演習〔Nemes Roland〕秋学期授業/Fall	319
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4690】青少年指導実習（サッカー）〔川田 尚弘〕秋学期授業/Fall	320
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4700】青少年指導実習（陸上）〔荻部 俊二〕春学期授業/Spring	320
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4660】野外教育実習（スノー）〔平野 裕一〕秋学期授業/Fall	321
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4710】野外教育実習（マリン）〔井上 尊寛〕秋学期授業/Fall	322
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4720】スポーツコーチング海外演習〔井上 尊寛、川田 尚弘〕秋学期授業/Fall	323
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4470】野外教育指導論演習（スノー）〔平野 裕一〕秋学期授業/Fall	324
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4480】野外教育指導論演習（マリン）〔井上 尊寛〕秋学期授業/Fall	325
専門教育科目_専門演習	【M5010】専門演習Ⅰ〔安藤 正志〕年間授業/Yearly	326
専門教育科目_専門演習	【M5011】専門演習Ⅰ〔泉 重樹〕年間授業/Yearly	327
専門教育科目_専門演習	【M5030】専門演習Ⅰ〔伊藤 真紀〕年間授業/Yearly	328
専門教育科目_専門演習	【M5012】専門演習Ⅰ〔井上 尊寛〕年間授業/Yearly	329
専門教育科目_専門演習	【M5031】専門演習Ⅰ〔江川 賢一〕年間授業/Yearly	330
専門教育科目_専門演習	【M5014】専門演習Ⅰ〔荻部 俊二〕年間授業/Yearly	331
専門教育科目_専門演習	【M5015】専門演習Ⅰ〔鬼頭 英明〕年間授業/Yearly	332
専門教育科目_専門演習	【M5016】専門演習Ⅰ〔木下 訓光〕年間授業/Yearly	333
専門教育科目_専門演習	【M5028】専門演習Ⅰ〔瀬戸 宏明〕年間授業/Yearly	334
専門教育科目_専門演習	【M5019】専門演習Ⅰ〔永木 耕介〕年間授業/Yearly	335
専門教育科目_専門演習	【M5020】専門演習Ⅰ〔中澤 史〕年間授業/Yearly	336
専門教育科目_専門演習	【M5021】専門演習Ⅰ〔成田 道彦〕年間授業/Yearly	337
専門教育科目_専門演習	【M5029】専門演習Ⅰ〔Nemes Roland〕年間授業/Yearly	338
専門教育科目_専門演習	【M5024】専門演習Ⅰ〔平野 裕一〕年間授業/Yearly	339
専門教育科目_専門演習	【M5032】専門演習Ⅰ〔宮本 健史〕年間授業/Yearly	340
専門教育科目_専門演習	【M5026】専門演習Ⅰ〔山本 浩〕年間授業/Yearly	341
専門教育科目_専門演習	【M5027】専門演習Ⅰ〔吉田 政幸〕年間授業/Yearly	343
専門教育科目_専門演習	【M5110】専門演習Ⅱ〔安藤 正志〕年間授業/Yearly	344
専門教育科目_専門演習	【M5111】専門演習Ⅱ〔泉 重樹〕年間授業/Yearly	345
専門教育科目_専門演習	【M5129】専門演習Ⅱ〔伊藤 真紀〕年間授業/Yearly	346
専門教育科目_専門演習	【M5112】専門演習Ⅱ〔井上 尊寛〕年間授業/Yearly	347
専門教育科目_専門演習	【M5131】専門演習Ⅱ〔江川 賢一〕年間授業/Yearly	348
専門教育科目_専門演習	【M5114】専門演習Ⅱ〔荻部 俊二〕年間授業/Yearly	349
専門教育科目_専門演習	【M5115】専門演習Ⅱ〔鬼頭 英明〕年間授業/Yearly	350
専門教育科目_専門演習	【M5116】専門演習Ⅱ〔木下 訓光〕年間授業/Yearly	351
専門教育科目_専門演習	【M5117】専門演習Ⅱ〔清雲 栄純〕年間授業/Yearly	352
専門教育科目_専門演習	【M5130】専門演習Ⅱ〔瀬戸 宏明〕年間授業/Yearly	353
専門教育科目_専門演習	【M5119】専門演習Ⅱ〔永木 耕介〕年間授業/Yearly	354
専門教育科目_専門演習	【M5120】専門演習Ⅱ〔中澤 史〕年間授業/Yearly	355
専門教育科目_専門演習	【M5121】専門演習Ⅱ〔成田 道彦〕年間授業/Yearly	356
専門教育科目_専門演習	【M5128】専門演習Ⅱ〔Nemes Roland〕年間授業/Yearly	357
専門教育科目_専門演習	【M5124】専門演習Ⅱ〔平野 裕一〕年間授業/Yearly	358
専門教育科目_専門演習	【M5132】専門演習Ⅱ〔宮本 健史〕年間授業/Yearly	359
専門教育科目_専門演習	【M5126】専門演習Ⅱ〔山本 浩〕年間授業/Yearly	360
専門教育科目_専門演習	【M5127】専門演習Ⅱ〔吉田 政幸〕年間授業/Yearly	362
専門教育科目_専門演習	【M5210】専門演習Ⅲ〔安藤 正志〕年間授業/Yearly	363
専門教育科目_専門演習	【M5211】専門演習Ⅲ〔泉 重樹〕年間授業/Yearly	364
専門教育科目_専門演習	【M5229】専門演習Ⅲ〔伊藤 真紀〕年間授業/Yearly	365
専門教育科目_専門演習	【M5212】専門演習Ⅲ〔井上 尊寛〕年間授業/Yearly	366

専門教育科目_専門演習	【M5214】	専門演習Ⅲ	〔荻部 俊二〕	年間授業/Yearly	368
専門教育科目_専門演習	【M5215】	専門演習Ⅲ	〔鬼頭 英明〕	年間授業/Yearly	369
専門教育科目_専門演習	【M5216】	専門演習Ⅲ	〔木下 訓光〕	年間授業/Yearly	370
専門教育科目_専門演習	【M5217】	専門演習Ⅲ	〔清雲 栄純〕	年間授業/Yearly	371
専門教育科目_専門演習	【M5230】	専門演習Ⅲ	〔瀬戸 宏明〕	年間授業/Yearly	372
専門教育科目_専門演習	【M5219】	専門演習Ⅲ	〔永木 耕介〕	年間授業/Yearly	373
専門教育科目_専門演習	【M5220】	専門演習Ⅲ	〔中澤 史〕	年間授業/Yearly	374
専門教育科目_専門演習	【M5221】	専門演習Ⅲ	〔成田 道彦〕	年間授業/Yearly	375
専門教育科目_専門演習	【M5231】	専門演習Ⅲ	〔Nemes Roland〕	年間授業/Yearly	375
専門教育科目_専門演習	【M5224】	専門演習Ⅲ	〔平野 裕一〕	年間授業/Yearly	376
専門教育科目_専門演習	【M5232】	専門演習Ⅲ	〔宮本 健史〕	年間授業/Yearly	377
専門教育科目_専門演習	【M5228】	専門演習Ⅲ	〔山本 浩〕	年間授業/Yearly	378
専門教育科目_専門演習	【M5227】	専門演習Ⅲ	〔吉田 政幸〕	年間授業/Yearly	379
専門教育科目_専門演習	【M5080】	英語演習Ⅰ	〔相馬 美明〕	年間授業/Yearly	381
専門教育科目_専門演習	【M5090】	英語演習Ⅱ	〔松下 晴彦〕	年間授業/Yearly	382
【M9010】	保健体育科教育法Ⅰ	〔林 園子〕	春学期授業/Spring		383
【M9011】	保健体育科教育法Ⅰ	〔林 園子〕	春学期授業/Spring		384
【M9020】	保健体育科教育法Ⅱ	〔林 園子〕	秋学期授業/Fall		385
【M9021】	保健体育科教育法Ⅱ	〔林 園子〕	秋学期授業/Fall		386
【M9030】	保健体育科教育法Ⅲ	〔永木 耕介〕	秋学期授業/Fall		387
【M9040】	保健体育科教育法Ⅳ	〔林 園子〕	春学期授業/Spring		388
【M9210】	教育実習（事前指導）	〔林 園子〕	秋学期授業/Fall		389
【M9211】	教育実習（事前指導）	〔林 園子〕	秋学期授業/Fall		390
【M9310】	教育実習（高）	〔林 園子〕	年間授業/Yearly		391
【M9320】	教育実習（中・高）	〔林 園子〕	年間授業/Yearly		392
【M9120】	教職実践演習	〔林 園子〕	秋学期授業/Fall		393
【M9121】	教職実践演習	〔林 園子〕	秋学期授業/Fall		394

LANe100IA

総合英語 I (a)

浦川 智子

サブタイトル：(1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／ 1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストで取り上げられた英字新聞を読解するにあたり、次の 3 点に重点を置く。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。ニュースの内容・要点を正確に理解できる。リスニングの演習を通して英語の発音などの特徴を理解する。

【到達目標】

テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、ニュースの要点を正確に把握することができる。同時に、テキストで扱うテーマを通して、海外のニュースや身近なものに興味、関心を抱き、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業で扱う Unit の単語や構文確認、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳だけではなく文法なども丁寧に確認していく。また、英字新聞の特徴についても説明する。原則として 1 回の授業で一つの Unit を扱うが、進度によっては若干の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
第 2 回	News 1	スマホアプリで酪農・畜産業に新しい風を
第 3 回	News 2	ポール・マッカートニー
第 4 回	News 3	英語の勉強をもっと楽しく！
第 5 回	News 4	目覚めや食後の一杯
第 6 回	News 5	先進 7 か国では最後
第 7 回	News 6	おもてなしの心で外国人観光客に優しい国へ
第 8 回	News 7	「ウマミ」「カラオケ」に続くか
第 9 回	News 8	日本郵便
第 10 回	News 9	国会初日に女性議員が着物で正装
第 11 回	News 10	30 年ぶりにカナダ人力士誕生！
第 12 回	News 11	安倍首相のアメリカ議会演説
第 13 回	プレゼンテーション	グループ・プレゼンテーション
第 14 回	試験とまとめ	学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。

【テキスト（教科書）】

高橋百合子 著、『News Made Easy!— First Steps in Reading Newspapers(はじめての時事英語演習)』金星堂、2016 年。

【参考書】

特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）：20%、プレゼンテーション：20%、期末試験：60%、合計 100%として評価する。60%以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストだけでなく、文法の確認や扱ったトピックに関する資料を授業内容に応じて提示していく。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】

The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the news and to improve pronunciation.

LANe100IA

総合英語 I (b)

浦川 智子

サブタイトル：(1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／ 1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストで取り上げられた英字新聞を読解するにあたり、次の 3 点に重点を置く。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。ニュースの内容・要点を正確に理解できる。リスニングの演習を通して英語の発音などの特徴を理解する。

【到達目標】

テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、ニュースの要点を正確に把握することができる。同時に、テキストで扱うテーマを通して、海外のニュースや身近なものに興味、関心を抱き、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業で扱う Unit の単語や構文確認、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳だけではなく文法なども丁寧に確認していく。また、英字新聞の特徴についても説明する。原則として 1 回の授業で一つの Unit を扱うが、進度によっては若干の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
第 2 回	News 12	初音ミク中国「公演」
第 3 回	News 13	ニューヨークに狭小アパートメント出現！
第 4 回	News 14	世界の天気予報官が警告
第 5 回	News 15	7 兆 8100 億円
第 6 回	News 16	ジョージアの大洪水
第 7 回	News 17	母乳バンク
第 8 回	News 18	18 歳の声を政治に
第 9 回	News 19	絶滅したマンモス再生への一歩？
第 10 回	News 20	ナイキ
第 11 回	News 21	出所したくない？!
第 12 回	News 22	アジアインフラ投資銀行
第 13 回	プレゼンテーション	グループ・プレゼンテーション
第 14 回	試験とまとめ	学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。

【テキスト（教科書）】

高橋百合子 著、『News Made Easy!— First Steps in Reading Newspapers(はじめての時事英語演習)』金星堂、2016 年。

【参考書】

特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）：20%、プレゼンテーション：20%、期末試験：60%、合計 100%として評価する。60%以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストだけでなく、文法の確認や扱ったトピックに関する資料を授業内容に応じて提示していく。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】

The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the news and to improve pronunciation.

LANe100IA

総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】

浦川 智子

サブタイトル： (1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストで取り上げられた英字新聞を読解するにあたり、次の 3 点に重点を置く。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。ニュースの内容・要点を正確に理解できる。リスニングの演習を通して英語の発音などの特徴を理解する。

【到達目標】

テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、ニュースの要点を正確に把握することができる。同時に、テキストで扱うテーマを通して、海外のニュースや身近なものに興味、関心を抱き、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業で扱う Unit の単語や構文確認、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳だけでなく文法なども丁寧に確認していく。また、英字新聞の特徴についても説明する。原則として 1 回の授業で一つの Unit を扱うが、進度によっては若干の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
第 2 回	News 1	スマホアプリで酪農・畜産業に新しい風を
第 3 回	News 2	ボール・マッカートニー
第 4 回	News 3	英語の勉強をもっと楽しく！
第 5 回	News 4	目覚めや食後の一杯
第 6 回	News 5	先進 7 개국では最後
第 7 回	News 6	おもてなしの心で外国人観光客に優しい国へ
第 8 回	News 7	「ウマミ」「カラオケ」に続くか
第 9 回	News 8	日本郵便
第 10 回	News 9	国会初日に女性議員が着物で正装
第 11 回	News 10	30 年ぶりにカナダ人力士誕生！
第 12 回	News 11	安倍首相のアメリカ議会演説
第 13 回	プレゼンテーション (1)	グループ・プレゼンテーション
第 14 回	試験とまとめ	春学期における学習到達度をはかる
第 15 回	イントロダクション	秋学期の授業計画の確認
第 16 回	News 12	初音ミク中国「公演」
第 17 回	News 13	ニューヨークに狭小アパートメント出現！
第 18 回	News 14	世界の天気予報官が警告
第 19 回	News 15	7 兆 8100 億円
第 20 回	News 16	ジョージアの大洪水
第 21 回	News 17	母乳バンク
第 22 回	News 18	18 歳の声を政治に
第 23 回	News 19	絶滅したマンモス再生への一歩？
第 24 回	News 20	ナイキ
第 25 回	News 21	出所したくない?!
第 26 回	News 22	アジアインフラ投資銀行
第 27 回	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション
第 28 回	試験とまとめ	秋学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。

【テキスト（教科書）】

高橋百合子 著、『News Made Easy!— First Steps in Reading Newspapers(はじめての時事英語演習)』金星堂、2016 年。

【参考書】

特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）：20%、プレゼンテーション：20%、期末試験：60%、合計 100%として評価する。60%以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストだけでなく、文法の確認や扱ったトピックに関する資料を授業内容に応じて提示していく。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】

The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the news and to improve pronunciation.

LANe100IA

総合英語 I (a)**蒔田 裕美**

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス社会や文化に関する記事の精読を行うことにより、英語の読解力と語彙力を培うことを目的とする。

【到達目標】

学生が辞書を使いながら、内容を正確に把握できる英文の読解力を身につけることを目標とする。

英語の発音記号を理解し、正しい音読ができる。

テキストを精読することにより、イギリスの文化や歴史を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

学生が辞書を使いながら、内容を正確に把握できる英文の読解力を身につけることを目標とする。

英語の発音記号を理解し、正しい音読ができる。

テキストを精読することにより、イギリスの文化や歴史を理解できるようになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や予習の仕方について確認する。
2	Chapter1: Animals: Fictional and Real	Vocabulary Builder Reading Passage
3	Chapter1: Animals: Fictional and Real	Comprehension Summary
4	Chapter2: Exporting Sport	Vocabulary Builder Reading Passage
5	Chapter2: Exporting Sport	Comprehension Summary
6	Chapter3: Literature: The Reading Boom	Vocabulary Builder Reading Passage
7	Chapter3: Literature: The Reading Boom	Comprehension Summary
8	Chapter4: Eating Habits: Changing Tastes	Vocabulary Builder Reading Passage
9	Chapter4: Eating Habits: Changing Tastes	Comprehension Summary
10	Chapter5: Art: Attitudes and Anonymity	Vocabulary Builder Reading Passage
11	Chapter5: Art: Attitudes and Anonymity	Comprehension Summary
12	Chapter6: Population: Food for Thought	Vocabulary Builder Reading Passage
13	Chapter6: Population: Food for Thought	Comprehension Summary
14	まとめ	試験の実施を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生が予習をしていることを前提に進めるので、毎回指定されたテキスト範囲で分からない単語の意味があれば、必ず辞書で調べて授業に臨む。

【テキスト（教科書）】

Anthony Allan 『Insight into Britain』 金星堂、2010 年

葦越知子 『Listening Upgrade for the TOEIC Test』 金星堂、2018 年

授業には、手持ちの辞書を持参すること。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 30%、試験 70%

授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

TOEIC に関する質問を多く受けるので、概要を説明する時間を設けたい。

【Outline and objectives】

The main purpose of this course is to improve students' reading skills in English. In this course students will learn English grammar points and vocabulary through reading essays on Britain. This class will also introduce British culture and history.

LANe100IA

総合英語 I (b)

蒔田 裕美

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス社会や文化に関する記事の精読を行うことにより、英語の読解力と語彙力を培うことを目的とする。

【到達目標】

学生が辞書を使いながら、内容を正確に把握できる英文の読解力を身につけることを目標とする。

英語の発音記号を理解し、正しい音読ができる。

テキストを精読することにより、イギリスの文化や歴史を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

学生は発音記号を学び、英語の音声聞き分け、正しく発音する訓練を行う。読解のためのスキルを説明した後、学生は語彙力を強化する問題、内容理解問題、リスニングの練習を各章ごとに行う。

イギリスに関するテーマを各自で設定し、プレゼンテーション及びディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter7: Antiques: Older is Often Better	Vocabulary Builder Reading Passage Presentation
2	Chapter7: Antiques: Older is Often Better	Presentation Comprehension Summary
3	Chapter8: Smoke-free Britain	Presentation Vocabulary Builder Reading Passage Presentation
4	Chapter8: Smoke-free Britain	Presentation Comprehension Summary
5	Chapter9: Edinburgh: A City of Festivals	Presentation Vocabulary Builder Reading Passage Presentation
6	Chapter9: Edinburgh: A City of Festivals	Presentation Comprehension Summary
7	Chapter10: Television: Reflecting Our Lives	Presentation Vocabulary Builder Reading Passage Presentation
8	Chapter10: Television: Reflecting Our Lives	Presentation Comprehension Summary
9	Chapter11: Structures of the Millennium	Presentation Vocabulary Builder Reading Passage Presentation
10	Chapter11: Structures of the Millennium	Presentation Comprehension Summary
11	Chapter12: Leisure: Indoor and Outdoor	Presentation Vocabulary Builder Reading Passage Presentation
12	Chapter12: Leisure: Indoor and Outdoor	Presentation Comprehension Summary
13	Chapter13: Education in the UK	Presentation Vocabulary Builder Reading Passage Presentation
14	まとめ	試験の実施を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生が予習をしていることを前提に進めるので、毎回指定されたテキスト範囲で分からない単語の意味があれば、必ず辞書で調べて授業に臨む。

【テキスト（教科書）】

Anthony Allan 『Insight into Britain』 金星堂、2010 年

薮越知子 『Listening Upgrade for the TOEIC Test』 金星堂、2018 年

授業には、手持ちの辞書を持参すること。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 30%、試験 60%

授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

TOEIC に関する質問を多く受けるので、概要を説明する時間を設けたい。

【Outline and objectives】

The main purpose of this course is to improve students' reading skills in English. In this course students will learn English grammar points and vocabulary through reading essays on Britain. This class will also introduce British culture and history.

LANe100IA

総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】**蒔田 裕美**

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス文化・歴史に関するエッセイの精読を行うことにより、英語の読解力と語彙力を培うことを目的とする。

【到達目標】

学生が辞書を使いながら、内容を正確に把握できる英文の読解力を身につけることを目標とする。

英語の発音記号を理解し、正しい音読ができる。

テキストを精読することにより、イギリスの文化や歴史を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

学生は発音記号を学び、英語の音声聞き分け、正しく発音する訓練を行う。読解のためのスキルを説明した後、学生は語彙力を強化する問題、内容理解問題、リスニングの練習を各章ごとに行う。

アメリカに関するテーマを各自で設定し、プレゼンテーション及びディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や予習の仕方などを確認する。
2	Chapter1: Animals: Fictional and Real	Vocabulary Builder Reading Passage
3	Chapter1: Animals: Fictional and Real	Comprehension Summary
4	Chapter2: Exporting Sport	Vocabulary Builder Reading Passage
5	Chapter2: Exporting Sport	Comprehension Summary
6	Chapter3: Literature: The Reading Boom	Vocabulary Builder Reading Passage
7	Chapter3: Literature: The Reading Boom	Comprehension Summary
8	Chapter4: Eating Habits: Changing Tastes	Vocabulary Builder Reading Passage
9	Chapter4: Eating Habits: Changing Tastes	Comprehension Summary
10	Chapter5: Art: Attitudes and Anonymity	Vocabulary Builder Reading Passage
11	Chapter5: Art: Attitudes and Anonymity	Comprehension Summary
12	Chapter6: Population: Food for Thought	Vocabulary Builder Reading Passage
13	Chapter6: Population: Food for Thought	Comprehension Summary
14	Chapter7: Antiques: Older is Often Better	Vocabulary Builder Reading Passage
15	Chapter7: Antiques: Older is Often Better	Comprehension Summary Presentation
16	Chapter8: Smoke-free Britain	Vocabulary Builder Reading Passage Presentation
17	Chapter8: Smoke-free Britain	Comprehension Summary Presentation
18	Chapter9: Edinburgh: A City of Festivals	Vocabulary Builder Reading Passage Presentation
19	Chapter9: Edinburgh: A City of Festivals	Comprehension Summary Presentation

20	Chapter10: Television: Reflecting Our Lives	Vocabulary Builder Reading Passage Presentation
21	Chapter10: Television: Reflecting Our Lives	Comprehension Summary Presentation
22	Chapter11: Structures of the Millennium	Vocabulary Builder Reading Passage Presentation
23	Chapter11: Structures of the Millennium	Comprehension Summary Presentation
24	Chapter12: Leisure: Indoor and Outdoor	Vocabulary Builder Reading Passage Presentation
25	Chapter12: Leisure: Indoor and Outdoor	Comprehension Summary Presentation
26	Chapter13: Education in the UK	Vocabulary Builder Reading Passage Presentation
27	Chapter13: Education in the UK	Comprehension Summary
28	まとめ	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生が予習をしていることを前提に進めるので、毎回指定されたテキスト範囲で分からない単語の意味があれば、必ず辞書で調べて授業に臨む。

【テキスト（教科書）】

Anthony Allan 『Insight into Britain』金星堂、2010 年
薮越知子 『Listening Upgrade for the TOEIC Test』金星堂、2018 年
授業には、手持ちの辞書を持参すること。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 40 %、試験 60 %

授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

TOEIC に関する質問を多く受けるので、概要を説明する時間を設けたい。

【Outline and objectives】

The main purpose of this course is to improve students' reading skills in English. In this course students will learn English grammar points and vocabulary through reading essays on Britain. This class will also introduce British culture and history.

LANe100IA

総合英語 I (a)

石井 創

サブタイトル： (3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／ 1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、英字新聞のニュース記事を材料に英語の長文講読を行います。1文1文についてその文法的な構造に則して意味を正しく理解する練習と、いくつかの文のまとまりごとにその内容をおおまかに把握する練習をしてもらいます。これらの練習を通して、論理的に書かれた英文を抵抗なく読めるようになることがこの授業の目的となります。それが、論文のような、よりアカデミックで専門性の高い英文を読むための準備にもなるでしょう。

【到達目標】

1. 文の単なる直訳ではなく、それがあらわす意味内容を解釈する力を身に付ける
2. パラグラフごとにその大意を素早く把握し、さらに記事全体の要旨を正確にまとめられるようになる
3. 英字新聞の記事で頻出する表現法と記事に出てくる色々な分野の語彙を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業2回分で教科書の1つの章を終わらせるペースを予定しています。
1 回目はその章のニュース記事を通読します。記事の各パラグラフを履修者に割り当て、そこで述べられている内容を説明してもらいつつ、文法的に難解もしくは複雑な文や英字新聞特有の表現方法が用いられている文についての解説を行います。また、それらを踏まえて、パラグラフごと、さらに記事全体の要旨をまとめる練習をしていきます。
2 回目は演習問題の回答を履修者に発表してもらいながら、その章で用いられている文法や語彙の確認を行います。また、その章で学んだ内容の理解度を問う小テストを最後に実施します。
このように、授業はリーディングの演習を中心に進めますが、時間に余裕がある場合はリスニングないしライティングの演習も挟んでいきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、自己紹介
第 2 回	第 1 章 スマートスピーカー、日本上陸！	Let's Read
第 3 回	第 1 章 スマートスピーカー、日本上陸！	Build-up, Further Study
第 4 回	第 2 章 未来のエコカー、電気自動車に軍配か？	Let's Read
第 5 回	第 2 章 未来のエコカー、電気自動車に軍配か？	Build-up, Further Study
第 6 回	第 3 章 土俵の女人禁制、伝統か差別か？	Let's Read
第 7 回	第 3 章 土俵の女人禁制、伝統か差別か？	Build-up, Further Study
第 8 回	第 4 章 はれのひ、「晴れの日」を台なしに	Let's Read
第 9 回	第 4 章 はれのひ、「晴れの日」を台なしに	Build-up, Further Study
第 10 回	第 6 章 NHK 受信料訴訟。国民の知る権利を充足？	Let's Read
第 11 回	第 6 章 NHK 受信料訴訟。国民の知る権利を充足？	Build-up, Further Study

第 12 回	第 7 章 少年刑務所、ホテルにリノベーション	Let's Read
第 13 回	第 7 章 少年刑務所、ホテルにリノベーション	Build-up, Further Study
第 14 回	学期末まとめ	学習内容の総復習、期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための予習が必要となります。記事の通読を行う回であれば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら、記事全文に一通り目を通して内容を把握してきてください。記事の内容自体に馴染みがなければ、web サイトなどでそれに関する情報を得ておく、内容理解が一層進むでしょう。演習問題の回であれば、記事の内容を復習しつつ、問題の回答を準備してきてください。わからない語彙を調べることもせず、「何がわからないのか」自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。

【テキスト (教科書)】

2 回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
渡邉あをい・石井隆之. (2019). 『ニュース英語で世界に飛び込む Jump into the World through News in English』東京：三修社. (定価 2,052 円)

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験 60%、小テスト 20%、平常点 (授業態度、予習状況、宿題など) 20%
2. 特別の事情がない限り、欠席が 5 回に達すると単位取得が不可となります。
3. 10 分以上の遅刻を 3 回繰り返すと欠席 1 回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
4. 予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を持参するとよいでしょう。ただしそれは授業中に新たに出た課題のために使用するものであり、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するのは禁止とします。

【その他の重要事項】

履修者の理解度に応じて、教科書の 1 章分の消化にかかる時間を調節したり、別のプリント教材を用いて授業を進める等、授業計画は柔軟に変更していきます。

【Outline and objectives】

In this course, we will read English newspaper articles. Students will be trained in comprehending the meaning of a sentence based on its grammatical structure and figuring out the general content of a paragraph. The goal is to help students read a logical essay in English smoothly as a preparatory step to read specialized academic papers.

LANe100IA

総合英語 I (b)

石井 創

サブタイトル： (3)
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／ 1 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、英字新聞のニュース記事を材料に英語の長文講読を行います。1 文 1 文についてその文法的な構造に則して意味を正しく理解する練習と、いくつかの文のまとまりごとにその内容をおおまかに把握する練習をしてもらいます。これらの練習を通して、論理的に書かれた英文を抵抗なく読めるようになることがこの授業の目的となります。それが、論文のような、よりアカデミックで専門性の高い英文を読むための準備にもなるでしょう。

【到達目標】
1. 文の単なる直訳ではなく、それがあらわす意味内容を解釈する力を身に付ける
2. パラグラフごとにその大意を素早く把握し、さらに記事全体の要旨を正確にまとめられるようになる
3. 英字新聞の記事で頻出する表現法と記事に出てくる色々な分野の語彙を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業 2 回分で教科書の 1 つの章を終わらせるペースを予定しています。1 回目はその章のニュース記事を通読します。記事の各パラグラフを履修者に割り当て、そこで述べられている内容を説明してもらいつつ、文法的に難解もしくは複雑な文や英字新聞特有の表現方法が用いられている文についての解説を行います。また、それらを踏まえて、パラグラフごと、さらに記事全体の要旨をまとめる練習をしていきます。2 回目は演習問題の回答を履修者に発表してもらいながら、その章で用いられている文法や語彙の確認を行います。また、その章で学んだ内容の理解度を問う小テストを最後に実施します。このように、授業はリーディングの演習を中心に進めますが、時間に余裕がある場合はリスニングないしライティングの演習も挟んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、春学期の内容振り返り・期末試験の講評
第 2 回	第 8 章 インスタ映え、地方復興の特効薬に？	Let's Read
第 3 回	第 8 章 インスタ映え、地方復興の特効薬に？	Build-up, Further Study
第 4 回	第 9 章 もったいない！ 食品ロス	Let's Read
第 5 回	第 9 章 もったいない！ 食品ロス	Build-up, Further Study
第 6 回	第 10 章 海洋生物、ヒッチハイクで太平洋を渡る	Let's Read
第 7 回	第 10 章 海洋生物、ヒッチハイクで太平洋を渡る	Build-up, Further Study
第 8 回	第 11 章 エベレスト、単独登山者と障がいを持つ人を禁止	Let's Read
第 9 回	第 11 章 エベレスト、単独登山者と障がいを持つ人を禁止	Build-up, Further Study
第 10 回	第 13 章 命のための行進。6 分 20 秒の沈黙が訴える願い	Let's Read
第 11 回	第 13 章 命のための行進。6 分 20 秒の沈黙が訴える願い	Build-up, Further Study
第 12 回	第 14 章 新時代の英国プリンス	Let's Read
第 13 回	第 14 章 新時代の英国プリンス	Build-up, Further Study

第 14 回 学期末まとめ 学習内容の総復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための予習が必要となります。記事の通読を行う回であれば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら、記事全文に一通り目を通して内容を把握してきてください。記事の内容自体に馴染みがなければ、web サイトなどでそれに関する情報を得ておく、内容理解が一層進むでしょう。演習問題の回であれば、記事の内容を復習しつつ、問題の回答を準備してきてください。わからない語彙を調べることもせず、「何がわからないのか」自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。

【テキスト（教科書）】
渡邊あいを・石井隆之. (2019). 『ニュース英語で世界に飛び込む Jump into the World through News in English』東京：三修社. (定価 2,052 円)

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1. 期末試験 60%、小テスト 20%、平常点（授業態度、予習状況、宿題など）20%
2. 特別の事情がない限り、欠席が 5 回に達すると単位取得が不可となります。
3. 10 分以上の遅刻を 3 回繰り返すと欠席 1 回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
4. 予習をまったく行っていない場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を持参するとよいでしょう。ただしそれは授業中に新たに出た課題のために使用するものであり、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するの禁止とします。

【その他の重要事項】
履修者の理解度に応じて、教科書の 1 章分の消化にかかる時間を調節したり、別のプリント教材を用いて授業を進める等、授業計画は柔軟に変更していきます。

【Outline and objectives】
In this course, we will read English newspaper articles. Students will be trained in comprehending the meaning of a sentence based on its grammatical structure and figuring out the general content of a paragraph. The goal is to help students read a logical essay in English smoothly as a preparatory step to read specialized academic papers.

LANe100IA

総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】

石井 創

サブタイトル： (3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英字新聞のニュース記事を材料に英語の長文講読を行います。1 文 1 文についてその文法的な構造に則して意味を正しく理解する練習と、いくつかの文のまとまりごとにその内容をおおまかに把握する練習をしてもらいます。これらの練習を通して、論理的に書かれた英文を抵抗なく読めるようになることがこの授業の目的となります。それが、論文のような、よりアカデミックで専門性の高い英文を読むための準備にもなるでしょう。

【到達目標】

1. 文の簡単な直訳ではなく、それがあらわす意味内容を解釈する力を身に付ける
2. パラグラフごとにその大意を素早く把握し、さらに記事全体の要旨を正確にまとめられるようになる
3. 英字新聞の記事で頻出する表現法と記事に出てくる色々な分野の語彙を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業 2 回分で教科書の 1 つの章を終わらせるペースを予定しています。1 回目はその章のニュース記事を通読します。記事の各パラグラフを履修者に割り当て、そこで述べられている内容を説明してもらいつつ、文法的に難解もしくは複雑な文や英字新聞特有の表現方法が用いられている文についての解説を行います。また、それらを踏まえて、パラグラフごと、さらに記事全体の要旨をまとめる練習をしていきます。2 回目は演習問題の回答を履修者に発表してもらいながら、その章で用いられている文法や語彙の確認を行います。また、その章で学んだ内容の理解度を問う小テストを最後に実施します。このように、授業はリーディングの演習を中心に進めますが、時間に余裕がある場合はリスニングないしライティングの演習も挟んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、自己紹介
第 2 回	第 1 章 スマートスピーカー、日本上陸！	Let's Read
第 3 回	第 1 章 スマートスピーカー、日本上陸！	Build-up, Further Study
第 4 回	第 2 章 未来のエコカー、電気自動車に軍配か？	Let's Read
第 5 回	第 2 章 未来のエコカー、電気自動車に軍配か？	Build-up, Further Study
第 6 回	第 3 章 土俵の女人禁制、伝統か差別か？	Let's Read
第 7 回	第 3 章 土俵の女人禁制、伝統か差別か？	Build-up, Further Study
第 8 回	第 4 章 はれのひ、「晴れの日」を台なしに	Let's Read
第 9 回	第 4 章 はれのひ、「晴れの日」を台なしに	Build-up, Further Study
第 10 回	第 6 章 NHK 受信料訴訟。国民の知る権利を充足？	Let's Read
第 11 回	第 6 章 NHK 受信料訴訟。国民の知る権利を充足？	Build-up, Further Study
第 12 回	第 7 章 少年刑務所、ホテルにリノベーション	Let's Read

第 13 回	第 7 章 少年刑務所、ホテルにリノベーション	Build-up, Further Study
第 14 回	春学期まとめ	学習内容の総復習、期末試験 授業の内容・進め方・成績評価の説明、春学期の内容振り返り・期末試験の講評
第 15 回	秋学期ガイダンス	
第 16 回	第 8 章 インスタ映え、地方復興の特効薬に？	Let's Read
第 17 回	第 8 章 インスタ映え、地方復興の特効薬に？	Build-up, Further Study
第 18 回	第 9 章 もったいない！食品ロス	Let's Read
第 19 回	第 9 章 もったいない！食品ロス	Build-up, Further Study
第 20 回	第 10 章 海洋生物、ヒッチハイクで太平洋を渡る	Let's Read
第 21 回	第 10 章 海洋生物、ヒッチハイクで太平洋を渡る	Build-up, Further Study
第 22 回	第 11 章 エベレスト、単独登山者と障がいを持つ人を禁止	Let's Read
第 23 回	第 11 章 エベレスト、単独登山者と障がいを持つ人を禁止	Build-up, Further Study
第 24 回	第 13 章 命のための行進。6 分 20 秒の沈黙が訴える願い	Let's Read
第 25 回	第 13 章 命のための行進。6 分 20 秒の沈黙が訴える願い	Build-up, Further Study
第 26 回	第 14 章 新時代の英国プリンセス	Let's Read
第 27 回	第 14 章 新時代の英国プリンセス	Build-up, Further Study
第 28 回	秋学期まとめ	学習内容の総復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための予習が必要となります。記事の通読を行う回であれば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら、記事全文に一通り目を通して内容を把握してきてください。記事の内容自体に馴染みがなければ、web サイトなどでそれに関する情報を得ておく、内容理解が一層進むでしょう。演習問題の回であれば、記事の内容を復習しつつ、問題の回答を準備してきてください。わからない語彙を調べることもせず、「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。

【テキスト（教科書）】

2 回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
渡邊あをい・石井隆之。(2019).『ニュース英語で世界に飛び込む Jump into the World through News in English』東京：三修社。（定価 2,052 円）

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験 60%、小テスト 20%、平常点（授業態度、予習状況、宿題など）20%
2. 特別の事情がない限り、通年で欠席が 10 回に達すると単位取得が不可となります。
3. 10 分以上の遅刻を 3 回繰り返すと欠席 1 回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
4. 予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を持参するといでしょう。ただしそれは授業中に新たに出た課題のために使用するものであり、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するのは禁止とします。

【その他の重要事項】

履修者の理解度に応じて、教科書の 1 章分の消化にかかる時間を調節したり、別のプリント教材を用いて授業を進める等、授業計画は柔軟に変更していきます。

【Outline and objectives】

In this course, we will read English newspaper articles. Students will be trained in comprehending the meaning of a sentence based on its grammatical structure and figuring out the general content of a paragraph. The goal is to help students read a logical essay in English smoothly as a preparatory step to read specialized academic papers.

LANe100IA

総合英語 I (a)

小川 真也

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身につける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、基本的に 1 つの Unit を 2 回の授業に分けて読む。春学期は英文を正確に読むことに主眼を置く。授業冒頭ではテキストから作成したリスニング問題を実施する。続いて単語・熟語・文法事項等を確認しながら訳読し、トピックセンテンスやサポートセンテンスなどパラグラフ構造に注意し、全体の理解を図る。Unit ごとに 2 度小テストを行なう。また、適宜、記事に対する意見を英語でまとめる時間も取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Unit 1-1 Goodbye, Maldives	「さらば、モルディブ」前半講読
3	Unit 1-2 Goodbye, Maldives	「さらば、モルディブ」後半講読
4	Unit 2-1 Sustainable Communities	「持続可能なコミュニティ」前半講読
5	Unit 2-2 Sustainable Communities	「持続可能なコミュニティ」後半講読
6	Unit 1-2 のまとめと英作文	Unit 1-2 の事柄に関する英作文
7	Unit 3-1 Economic Inequality: the Growing Gap	「経済的不平等—広がる格差」前半講読
8	Unit 3-2 Economic Inequality: the Growing Gap	「経済的不平等—広がる格差」後半講読
9	Unit 4-1 Dilemmas for a Responsible Tourist	「『責任ある観光客』のジレンマ」前半講読
10	Unit 4-2 Dilemmas for a Responsible Tourist	「『責任ある観光客』のジレンマ」後半講読
11	Unit 3-4 のまとめと英作文	Unit 3-4 の事柄に関する英作文
12	Unit 5-1 Learning from Nature	「自然からの学び」前半講読
13	Unit 5-2 Learning from Nature	「自然からの学び」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、テキストを読み、わからない語句を辞書で調べて来ること。

Unit ごとに 2 回、小テストを実施するので、必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

Issues That Matter

(David Peaty, 川田潤 著, 金星堂 2018 年 1800 円＋税別)

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %

欠席回数が 3 回を超える場合は、原則として単位修得を認めない。

授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100IA

総合英語 I (b)

小川 真也

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
- ②まとまった量の英語の文章を速く読み、理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、基本的に 1 つの Unit を 2 回の授業に分けて読む。秋学期は英文を速読に主眼を置く。春学期同様、授業冒頭でテキストから作成したリスニング問題を実施する。続いてトピックセンテンスやサポートセンテンスなどパラグラフ構造に注意し、全体の理解を図る。Unit ごとに 2 回小テストを行なう。また、記事に対する意見を英作文する時間も取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の実施の仕方の説明と英作文
2	Unit 6-1 We can't Live Without Water	「水がなければ生きていけない」前半講読
3	Unit 6-2 We can't Live Without Water	「水がなければ生きていけない」後半講読
4	Unit 7-1 Protecting World Heritage	「世界遺産を守れ」前半講読
5	Unit 7-2 Protecting World Heritage	「世界遺産を守れ」後半講読
6	Unit 6-7 のまとめと英作文	Unit 6-7 の事柄に関する英作文
7	Unit 8-1 The War on Sugar	「砂糖をめぐる争い」前半講読
8	Unit 8-2 The War on Sugar	「砂糖をめぐる争い」後半講読
9	Unit 9-1 Energy for a Stable Climate	「安定した気候のためのエネルギー」前半講読
10	Unit 9-2 Energy for a Stable Climate	「安定した気候のためのエネルギー」後半講読
11	Unit 8-9 のまとめと英作文	Unit 8-9 の事柄に関する英作文
12	Unit 10-1 Yasuni: A Dream of the Future?	「ヤスニー未来の夢？」前半講読
13	Unit 10-2 Yasuni: A Dream of the Future?	「ヤスニー未来の夢？」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、テキストを読み、わからない語句を辞書で調べて来ること。

Unit ごとに 2 回小テストを実施するので、必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

Issues That Matter

(David Peaty, 川田潤 著, 金星堂 2018 年 1800 円+税別)

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %

欠席回数が 3 回を超える場合は、原則として単位修得を認めない。

授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100IA

総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】

小川 真也

サブタイトル： (4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身の意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、基本的に 1 つの Unit を 2 回の授業に分けて読む。春学期は英文を正確に読むことに主眼を置く。授業冒頭ではテキストから作成したリスニング問題を実施する。続いて単語・熟語・文法事項等を確認しながら訳読し、トピックセンテンスやサポートセンテンスなどパラグラフ構造に注意し、全体の理解を図る。Unit ごとに 2 度小テストを行なう。また、適宜、記事に対する意見を英語でまとめる時間も取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Unit 1-1 Goodbye, Maldives	「さらば、モルディブ」前半講読
3	Unit 1-2 Goodbye, Maldives	「さらば、モルディブ」後半講読
4	Unit 2-1 Sustainable Communities	「持続可能なコミュニティ」前半講読
5	Unit 2-2 Sustainable Communities	「持続可能なコミュニティ」後半講読
6	Unit 1-2 のまとめと英作文	Unit 1-2 の事柄に関する英作文
7	Unit 3-1 Economic Inequality: the Growing Gap	「経済的不平等—広がる格差」前半講読
8	Unit 3-2 Economic Inequality: the Growing Gap	「経済的不平等—広がる格差」後半講読
9	Unit 4-1 Dilemmas for a Responsible Tourist	「『責任ある観光客』のジレンマ」前半講読
10	Unit 4-2 Dilemmas for a Responsible Tourist	「『責任ある観光客』のジレンマ」後半講読
11	Unit 3-4 のまとめと英作文	Unit 3-4 の事柄に関する英作文
12	Unit 5-1 Learning from Nature	「自然からの学び」前半講読
13	Unit 5-2 Learning from Nature	「自然からの学び」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト
15	イントロダクション	授業の実施の仕方の説明と英作文
16	Unit 6-1 We can't Live Without Water	「水がなければ生きていけない」前半講読
17	Unit 6-2 We can't Live Without Water	「水がなければ生きていけない」後半講読
18	Unit 7-1 Protecting World Heritage	「世界遺産を守れ」前半講読

19	Unit 7-2 Protecting World Heritage	「世界遺産を守れ」後半講読
20	Unit 6-7 のまとめと英作文	Unit 6-7 の事柄に関する英作文
21	Unit 8-1 The War on Sugar	「砂糖をめぐる争い」前半講読
22	Unit 8-2 The War on Sugar	「砂糖をめぐる争い」後半講読
23	Unit 9-1 Energy for a Stable Climate	「安定した気候のためのエネルギー」前半講読
24	Unit 9-2 Energy for a Stable Climate	「安定した気候のためのエネルギー」後半講読
25	Unit 8-9 のまとめと英作文	Unit 8-9 の事柄に関する英作文
26	Unit 10-1 Yasuni: A Dream of the Future?	「ヤスニー未来の夢？」前半講読
27	Unit 10-2 Yasuni: A Dream of the Future?	「ヤスニー未来の夢？」後半講読
28	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、テキストを読み、わからない語句を辞書で調べて来ること。

Unit ごとに 2 回、小テストを実施するので、必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

Issues That Matter

(David Peaty, 川田潤 著, 金星堂 2018 年 1800 円＋税別)

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %

各学期、欠席回数が 3 回を超える場合は、原則として単位修得を認めない。授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100IA

総合英語 I (a)

URBANOVA Jana

サブタイトル：(5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication and understanding in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on reading abilities. You will practice and learn to understand written text, as well as to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Getting to know you	Listening exercise: self-introduction; Speaking: my oldest friend; Grammar explanation and practice: present, past, future tenses; question forming
Week 3	Unit 1 Getting to know you	Reading: blind date; Vocabulary in context; Verbs of similar meaning; Writing: using homonyms – words with two different meanings
Week 4	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading and listening exercise: I love what I do; Speaking: my perfect day, pair work; Grammar: present simple and present continuous; have/ have got
Week 5	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading: the happiness quiz; Vocabulary review; Listening and speaking exercise: talking about neighbours; group discussion: important things in life
Week 6	Unit 3 What's in the news?	Listening exercise: news article; Grammar: past simple and past continuous; regular and irregular verbs; Speaking exercise: talking about the news, group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 What's in the news?	Listening: radio news; Reading: The flight attendant who lost his cool; Vocabulary: adverbs, time expressions; Writing exercise: rewriting a postcard using a variety of adjectives
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2

Week 9	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening: the secret to a long life; Grammar explanation and practice: expressions of quantity, articles; Vocabulary: expressions for counting things
Week 10	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening and reading: unusual places to eat; Speaking: going shopping; Writing exercise: email to an old friend
Week 11	Unit 5 Looking forward	Listening: How does it feel to be 20-something? Grammar: future forms – going to, will and present continuous; Speaking exercise: talking about your likes and plans
Week 12	Unit 5 Looking forward	Reading with comprehension: Hope for the future; Vocabulary: phrasal verbs; Speaking: expressing doubt and certainty
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book and iTutor Pack (Fourth Edition), Oxford University Press, 2012. ISBN: 978-0-19-476966-2

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

Your work will be evaluated as follows:

- Class attendance and active participation: 20%

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Learning English for active communication and understanding in the international environment

LANe100IA

総合英語 I (b)

URBANOVA Jana

サブタイトル：(5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication and understanding in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on reading abilities. You will practice and learn to understand written text, as well as to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parrotting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 The way I see it	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair work; Grammar: comparatives and superlatives
Week 3	Unit 6 The way I see it	Reading and speaking: multicultural London; Vocabulary: synonyms and antonyms; Writing assignment: The town where I was born
Week 4	Unit 7 Living history	Explaining requirements for presentation No. 1 (parrotting); Listening exercise: Frieda Hoffmann – archaeologist and writer; Grammar explanation and practice: present perfect
Week 5	Unit 7 Living history	Reading: Living history; Vocabulary review; Listening and speaking: a family history
Week 6	Unit 8 Girls and boys	Listening and speaking practice: talking about famous people; Grammar: have to, should, must
Week 7	Unit 8 Girls and boys	Reading and speaking: families with all boys or all girls; Group work: things to wear
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parrotting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Time for a story	Reading and listening exercise: Aesop's fable; Grammar practice: narrative tenses and conjunctions
Week 10	Unit 9 Time for a story	Reading and speaking: describing a story; Writing exercise: writing about a book or a film
Week 11	Unit 10 Our interactive world	Listening and speaking exercise: inventions; Grammar: passives
Week 12	Unit 10 Our interactive world	Reading with comprehension: Five Internet firsts; Speaking: talking on the phone, pair work

Week 13 Presentation No. 2

Students' presentations No. 2 on the chosen topic

Week 14 Course wrap up

Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book and iTutor Pack (Fourth Edition), Oxford University Press, 2012. ISBN: 978-0-19-476966-2

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

Your work will be evaluated as follows:

- Class attendance and active participation: 20%
- Writing assignments and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Learning English for active communication and understanding in the international environment

LANe100IA

総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】

URBANOVA Jana

サブタイトル： (5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication and understanding in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on reading abilities. You will practice and learn to understand written text, as well as to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Getting to know you	Listening exercise: self-introduction; Speaking: my oldest friend; Grammar explanation and practice: present, past, future tenses; question forming
Week 3	Unit 1 Getting to know you	Reading: blind date; Vocabulary in context; Verbs of similar meaning; Writing: using homonyms – words with two different meanings
Week 4	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading and listening exercise: I love what I do; Speaking: my perfect day, pair work; Grammar: present simple and present continuous; have/ have got
Week 5	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading: the happiness quiz; Vocabulary review; Listening and speaking exercise: talking about neighbours; group discussion: important things in life
Week 6	Unit 3 What's in the news?	Listening exercise: news article; Grammar: past simple and past continuous; regular and irregular verbs; Speaking exercise: talking about the news, group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 What's in the news?	Listening: radio news; Reading: The flight attendant who lost his cool; Vocabulary: adverbs, time expressions; Writing exercise: rewriting a postcard using a variety of adjectives
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2

Week 9	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening: the secret to a long life; Grammar explanation and practice: expressions of quantity, articles; Vocabulary: expressions for counting things
Week 10	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening and reading: unusual places to eat; Speaking: going shopping; Writing exercise: email to an old friend
Week 11	Unit 5 Looking forward	Listening: How does it feel to be 20-something? Grammar: future forms – going to, will and present continuous; Speaking exercise: talking about your likes and plans
Week 12	Unit 5 Looking forward	Reading with comprehension: Hope for the future; Vocabulary: phrasal verbs; Speaking: expressing doubt and certainty
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 The way I see it	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair work; Grammar: comparatives and superlatives
Week 3	Unit 6 The way I see it	Reading and speaking: multicultural London; Vocabulary: synonyms and antonyms; Writing assignment: The town where I was born
Week 4	Unit 7 Living history	Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Listening exercise: Frieda Hoffmann – archaeologist and writer; Grammar explanation and practice: present perfect
Week 5	Unit 7 Living history	Reading: Living history; Vocabulary review; Listening and speaking: a family history
Week 6	Unit 8 Girls and boys	Listening and speaking practice: talking about famous people; Grammar: have to, should, must
Week 7	Unit 8 Girls and boys	Reading and speaking: families with all boys or all girls; Group work: things to wear
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Time for a story	Reading and listening exercise: Aesop's fable; Grammar practice: narrative tenses and conjunctions
Week 10	Unit 9 Time for a story	Reading and speaking: describing a story; Writing exercise: writing about a book or a film
Week 11	Unit 10 Our interactive world	Listening and speaking exercise: inventions; Grammar: passives
Week 12	Unit 10 Our interactive world	Reading with comprehension: Five Internet firsts; Speaking: talking on the phone, pair work
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book and iTutor Pack (Fourth Edition), Oxford University Press, 2012. ISBN: 978-0-19-476966-2

【参考書】

English to English dictionary: <https://dictionary.cambridge.org/>
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test. Your work will be evaluated as follows:

- Class attendance and active participation: 20%

- Writing assignments and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Learning English for active communication and understanding in the international environment

LANe100IA

総合英語 I (a)

相馬 美明

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なことから意外と軽視されがちな音読について、授業ではできる限り意識的にそれを行い、またそのことを通じ正しく音を知覚し認知することによって、リーディング、リスニングの両面から自信をつけていく。

【到達目標】

読むこと、聞くことの両面から英語の楽しさを再確認し、加えて自らの新たな可能性を見出すこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に授業は毎回 3 本立てとして構成され、講読を中心に、音読・和訳、リスニング・ディクテーション、発話（表現力）などを通じ、英語の基本的なフォー・スキルズについて学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	声をだす①	Kwaidan ①, Exercise 1 PART A, Film ①
3	声をだす② 意識的に声をだす	Film ①～②, Your Song , Questions
4	音に変える	Kwaidan ②, Exercise 2 PART B, Film ③
5	音を聞き取る①	Kwaidan ③, Exercise 3 PART C, Film ③～④
6	音を聞き取る②	Film ④～⑤, Top of the world , Questions
7	音を聞き取る③	Kwaidan ④, Exercise 4 PART A, Film ⑤～⑥
8	音をつくる①	Kwaidan ⑤, Exercise 5 PART B, Film ⑦
9	音をつくる②	Exercise 6 PART C, Film ⑧, レポート内容説明、指示
10	音をつくる③	Kwaidan ⑥, Exercise 7 PART A, The sound of silence , Film ⑧～⑨
11	正確に書き取る①	Kwaidan ⑦, Exercise 8 PART B, Film ⑨
12	正確に書き取る②	Kwaidan ⑧, Exercise 9 PART C, Film ⑨～⑩
13	正確に書き取る③ レポート提出	Exercise PART A-C, まとめ レポート提出
14	まとめ	Film まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画を見るなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。

【参考書】

必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験（60 %）：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。

レポート（10 %）：授業中に指示する内容にそって提出すること。

プレゼンテーション（10 %）：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに比べられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline and objectives】

Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other and at the same time essential when writing, speaking and of course listening. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.

LANe100IA

総合英語 I (b)

相馬 美明

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／1 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なことから意外と軽視されがちな音読について、授業ではできる限り意識的にそれを行い、またそのことを通じ正しく音を知覚し認知することによって、リーディング、リスニングの両面から自信をつけていく。

【到達目標】

読むこと、聞くことの両面から英語の楽しさを再確認し、加えて自らの新たな可能性を見出すこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に授業は毎回 3 本立てとして構成され、講読を中心に、音読・和訳、リスニング・ディクテーション、発話（表現力）などを通じ、英語の基本的なフォー・スキルズについて学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期予定確認	秋学期予定確認。Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
2	集中力をつける	Story ⑨, Exercise 14 PART B, Excellent power of memory, Film ①
3	集中して聞き取る	Story ⑩, Exercise 16 PART C, Coin changer, Film ①
4	集中して聞き取る	Story ⑪, Exercise 17 PART A, Diplomacy, Film ①～②
5	音を育て、発音する	Exercise 18 PART B, プレゼンテーションについて指示、説明
6	瞬時に聞き取る	Story ⑫, Exercise 19 PART C, Film ②, She's got a way.
7	耳から理解する	Story ⑬, Exercise 20 PART A, Film ②～③
8	発話のための準備	Exercise 21 PART B, Film ③, The Story of O-TEI
9	発話のための準備	Exercise 22 PART C, Film ③～④
10	まとめ	Exercise PART A-C まとめ、力だめし
11	プレゼンテーション①	プレゼンテーション①
12	プレゼンテーション②	プレゼンテーション②
13	プレゼンテーション③	プレゼンテーション③
14	まとめ	レポート提出 学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画を見るなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。

【参考書】

必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験（60 %）：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート（10 %）：授業中に指示する内容にそって提出すること。
プレゼンテーション（10 %）：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに比べられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline and objectives】

Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other and at the same time essential when writing, speaking and of course listening. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.

LANe100IA

総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】

相馬 美明

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：1 年次／2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なことながら意外と軽視されがちな音読について、授業ではできうる限り意識的にそれを行い、またそのことを通じ正しく音を知覚し認知することによって、リーディング、リスニングの両面から自信をつけていく。

【到達目標】

読むこと、聞くことの両面から英語の楽しさを再確認し、加えて自らの新たな可能性を見出すこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に授業は毎回 3 本立てとして構成され、講読を中心に、音読・和訳、リスニング・ディクテーション、発話（表現力）などを通じ、英語の基本的なフォー・スキルズについて学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	声をだす①	Kwaidan ①, Exercise 1 PART A, Film ①
3	声をだす② 意識的に声をだす	Film ①～②, Your Song, Questions
4	音に変える	Kwaidan ②, Exercise 2 PART B, Film ③
5	音を聞き取る①	Kwaidan ③, Exercise 3 PART C, Film ③～④
6	音を聞き取る②	Film ④～⑤, Top of the world, Questions
7	音を聞き取る③	Kwaidan ④, Exercise 4 PART A, Film ⑤～⑥
8	音をつくる①	Kwaidan ⑤, Exercise 5 PART B, Film ⑦
9	音をつくる②	Exercise 6 PART C, Film ⑧, レポート内容説明、指示
10	音をつくる③	Kwaidan ⑥, Exercise 7 PART A, The sound of silence, Film ⑧～⑨
11	正確に書き取る①	Kwaidan ⑦, Exercise 8 PART B, Film ⑨
12	正確に書き取る②	Kwaidan ⑧, Exercise 9 PART C, Film ⑨～⑩
13	正確に書き取る③	Exercise PART A-C, まとめ レポート提出
14	まとめ	Film まとめ、リスニングの最終確認、
15	秋学期予定	学期予定確認, Exercise 13 PART A, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
16	集中力をつける	Story ⑨, Exercise 14 PART B, Excellent power of memory, Film ⑩
17	集中して聞き取る	Story ⑩, Exercise 16 PART C, Coin changer, Film ①
18	集中して聞き取る	Story ⑪, Exercise 17 PART A, Diplomacy, Film ①～②
19	音を育て、発音する	Exercise 18 PART B, プレゼンテーションについて指示、説明
20	瞬時に聞き取る	Story ⑫, Exercise 19 PART C, Film ②, She's got a way.
21	耳から理解する	Story ⑬, Exercise 20 PART A, Film ②～③
22	発話のための準備	Exercise 21 PART B, Film ③, The Story of O-TEI
23	発話のための準備	Exercise 22 PART C, Film ③～④
24	まとめ	Exercise PART A-C まとめ、力だめし
25	プレゼンテーション①	プレゼンテーション①
26	プレゼンテーション②	プレゼンテーション②
27	プレゼンテーション③	プレゼンテーション③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画を見るなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。

【参考書】

必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験（60％）：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。

レポート（10％）：授業中に指示する内容にそって提出すること。

プレゼンテーション（10％）：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものにえられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline and objectives】

Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other and at the same time essential when writing, speaking and of course listening. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.

LANe100IA

総合英語 I (a)

式町 眞紀子

サブタイトル：(7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各国に取材した映像ニュースで構成されるレッスンユニット毎に、リスニングとリーディングふたつのスキルで内容確認、エクササイズなどインプット活動を基本として行い、応用としてディスカッションの機会を持ち、意見をまとめたり学習した表現を使ったりなどのアウトプット活動も行い、手段としての英語を実感するために複合的に取り組みます。

【到達目標】

一つには、世界各国のニュースに関連するインタビュー（対話）やナレーション（語り）などさまざまな形式の英文をヴィジュアルイメージ（画像）を頼りに、英語による情報が「なんとなくわかる」程度から「確実にわかる」状態になることを目指します。

二つには、世界各地のニュースを通じて、日本や世界の地理や歴史、さらに文化や風俗に関する知識を増やします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

1 ユニットを、前半・後半に分けて 2 回（2 週）で仕上げるのを基本のペースとします。前半はリスニングを中心とした演習に取り組み、後半はニュースに関連した英文を扱い、リーディングに加えてライティングやディスカッションを取り入れ、仕上げて行きます。また、ニューストピックに関連した英文も適宜取り上げ、ひとつのトピックをさまざまな角度から捉え、考えたりに発表する機会も持ちます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、ガイダンス	クラスメンバーの自己紹介や授業の進め方などを中心に行います。
2	レッスン 1: <i>Emojis</i>	News from Japan 前半 ニュース視聴につづいて演習を行います。
3	レッスン 1: <i>Emojis</i>	News from Japan 後半 関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
4	レッスン 2 : <i>Robots</i>	News from Estonia 前半 ニュース視聴につづいて演習を行います。
5	レッスン 2 : <i>Robots</i>	News from Estonia 後半 関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
6	レッスン 3 : <i>Shopping</i>	News from USA 前半 ニュース視聴につづいて演習を行います。
7	レッスン 3 : <i>Shopping</i>	News from USA 後半 関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
8	Midterm	レビュー。これまでの振り返りを学期後半への指針として行います。
9	レッスン 4 : <i>Volunteering Overseas</i>	News from Senegal 前半 ニュース視聴につづいて演習を行います。
10	レッスン 4 : <i>Volunteering Overseas</i>	News from Senegal 後半 関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
11	レッスン 5 : <i>Pops vs Traditional Culture</i>	News from Saudi Arabia 前半 ニュース視聴につづいて演習を行います。
12	レッスン 5 : <i>Pops vs Traditional Culture</i>	News from Saudi Arabia 後半 関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
13	Term-end Review(1)	学期末レビューその 1 これまで取り上げられた国についてプレゼンテーションを行ってもらいます。
14	Term-end Review(2)	学期末レビューその 2 春学期の学習事項の理解度について行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リスニングセクションについては、Key word study, Listening practice 1&2 についてテキストに目を通し分からない単語は調べて内容を予測しておく。リーディングセクションについても同様にテキストを読み、わからない単語を調べておくこと。授業後は、聞き取れなかった単語、分からなかった単語の意味を復習し、確実に理解するようにすること。また、ニュースの発信地についての地理的情報もきちんと調べる。予習・授業・復習によって補強、完結するにはそれぞれに対し授業時間に相当する時間を充てること。外国語ということもあり、毎日何らかの形で英語に触れることが大切です。

【テキスト（教科書）】

『AFP World News Report 4』成美堂 2017
英和辞典（大学レベル。紙または電子辞書）

【参考書】

英英辞典（各種）、マイケル・スワン著吉田正治訳『オックスフォード実例現代英語用法辞典第4版』研究社、オックスフォード大学出版局（2018）など。語彙力向上に役立つ辞書の活用の仕方を中心に、必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間・期末試験 40 %、小テストおよび追加課題 30 %
平常点とは、授業時の発表や演習など参加態度を含みます。小テスト 30%にはディクテーション等を含みます。
なお、授業ではリスニングも多用するのでクラスメートへの迷惑ともなる遅刻は厳禁、平常点から減点します。

【学生の意見等からの気づき】

文法について細かく解説や、学生に対する問い掛けがあり理解が深まった。学生ひとりひとりに丁寧に对应してもらえたのが良かった。
など、概ね好評であることを励みに、ひきつづき学生主体となる授業運営を心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業については、受講者の理解度に応じて適宜授業内容を調整することもあります。
一般的なことについては、大学生になると様々な場面で自己管理が求められるようになることを、各自がしっかりと認識することを望みます。

【Outline and objectives】

To build vocabulary and develop listening and reading skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.
Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements to enhance their reading skills. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

LANe100IA

総合英語 I (b)

式町 眞紀子

サブタイトル： (7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／ 1 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各国に取材した映像ニュースで構成されるレッスンユニット毎に、リスニングとリーディングふたつのスキルで内容確認、エクササイズなどインプット活動を基本として行い、応用としてディスカッションの機会を持ち、意見をまとめたり学習した表現を使ったりなどのアウトプット活動も行い、手段としての英語を実感するために複合的に取り組みます。

【到達目標】

春学期に引き続き、次の二点を到達目標とします。
一つには、世界各国のニュースに関連するインタビュー（対話）やナレーション（語り）などさまざまな形式の英文をヴィジュアルイメージ（画像）を頼りに、英語による情報が「なんとなくわかる」程度から「確実にわかる」状態になることを目指します。
二つには、世界各地のニュースを通じて、日本や世界の地理や歴史、さらに文化や風俗に関する知識を増やします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

1 ユニットを、1 回（1 週）で仕上げるのを基本のベースとし、春学期よりも速度を上げて取り組みます。ニューストピックに関連した英文や健康関連の英文も適宜取り上げ、ひとつのトピックをさまざまな角度から捉え、考えた発表する機会を持ちます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、ガイダンス	春学期の振り返りと今学期の方針や授業の進め方などについて
2	レッスン 6 : Foreign Visitors	News from Japan ニュース視聴にニュース視聴について各種演習を行います。
3	レッスン 7 : English in the Office	News from Romania ニュース視聴にニュース視聴について各種演習を行います。
4	レッスン 8 : National Parks	News from Canada ニュース視聴にニュース視聴について各種演習を行います。
5	レッスン 9 : Old and New	News from Cuba ニュース視聴にニュース視聴について各種演習を行います。
6	レッスン 10 : The Paris Agreement	News from USA ニュース視聴にニュース視聴について各種演習を行います。
7	Midterm	レビュー。これまでの振り返りを学期後半への指針として行います。
8	レッスン 11 : Social Inequality	News from USA ニュース視聴にニュース視聴について各種演習を行います。
9	レッスン 12 : Trading Partnership	News from Switzerland ニュース視聴にニュース視聴について各種演習を行います。
10	レッスン 13 : Japanese Interpretation of Foreign Culture	News from Japan ニュース視聴にニュース視聴について各種演習を行います。
11	レッスン 14 : Luxury Tax	News from Singapore ニュース視聴にニュース視聴について各種演習を行います。
12	レッスン 15 : Space Travel	News from USA ニュース視聴にニュース視聴について各種演習を行います。
13	Term-end Review(1)	学期末レビューその 1 これまで取り上げられた国についてプレゼンテーションを行ってもらいます。
14	Term-end Review(2)	学期末レビューその 2 春学期の学習事項の理解度について行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リスニングセッションについては、Key word study, Listening practice 1&2 についてテキストに目を通し分からない単語は調べて内容を予測しておく。リーディングセッションについても同様にテキストを読み、わからない単語を調べておくこと。授業後は、聞き取れなかった単語、分からなかった単語の意味を復習し、確実に理解するようにすること。また、ニュースの発信地についての地理的情報もきちんと調べる。予習・授業・復習によって補強、完結するにはそれぞれに対し授業時間に相当する時間を充てること。外国語ということもあり、毎日何らかの形で英語に触れることが大切です。

【テキスト（教科書）】

『AFP World News Report 4』成美堂 2017
英和辞典（大学レベル。紙または電子辞書）

【参考書】

英英辞典（各種）、マイケル・スワン著吉田正治訳『オックスフォード実例現代英語用法辞典第4版』研究社、オックスフォード大学出版局（2018）など。語彙力向上に役立つ辞書の活用の仕方を中心に、必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間・期末試験 40 %、小テストおよび追加課題 30 %
平常点とは、授業時の発表や演習など参加態度を含みます。小テスト 30%にはディクテーション等を含みます。
なお、授業ではリスニングも多用するのでクラスメートへの迷惑ともなる遅刻は厳禁、平常点から減点します。

【学生の意見等からの気づき】

文法について細かく解説や、学生に対する問い掛けがあり理解が深まった。学生ひとりひとりに丁寧に対応してもらえたのが良かった。
など、概ね好評であることを励上記授業計画を目安としますが、受講者の理解度に応じて適宜調整してより効果的な授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

授業については、受講者の理解度に応じて適宜授業内容を調整することもあります。
一般的なことについては、大学生になると様々な場面で自己管理が求められるようになることを、各自がしっかりと認識することを望みます。

【Outline and objectives】

To build vocabulary and develop listening and reading skills for understanding English news broadcasts.
Through this course, students will deepen their news listening comprehension skills. Students will be exposed to a wide genre of news topics and contents. Activities such as dictations, oral summaries, and written summaries will reinforce their understanding of listening selections.

LANe100IA

総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】

式町 眞紀子

サブタイトル：（7）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各国に取材した映像ニュースで構成されるレッスンユニット毎に、リスニングとリーディングふたつのスキルで内容確認、エクササイズなどインプット活動を基本として行い、応用としてディスカッションの機会を持ち、意見をまとめたり学習した表現を使ったりなどのアウトプット活動も行い、手段としての英語を実感するために複合的に取り組みます。

【到達目標】

一つには、世界各国のニュースに関連するインタビュー（対話）やナレーション（語り）などさまざまな形式の英文をヴィジュアルイメージ（画像）を頼りに、英語による情報が「なんとなくわかる」程度から「確実にわかる」状態になることを目指します。
二つには、世界各地のニュースを通じて、日本や世界の地理や歴史、さらに文化や風俗に関する知識を増やします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期では、1 ユニットを、前半・後半に分けて 2 回（2 週）で仕上げるのを基本のペースとします。前半はリスニングを中心とした演習に取り組み、後半はニュースに関連した英文を扱い、リーディングに加えてライティングやディスカッションを取り入れ、仕上げて行きます。また、ニューストピックに関連した英文も適宜取り上げ、ひとつのトピックをさまざまな角度から捉え、考えたり発表する機会も持ちます。
秋学期では 1 ユニットを、1 回（1 週）で仕上げるのを基本のペースとし、春学期よりも速度を上げて取り組みます。ニューストピックに関連した英文や健康関連の英文も適宜取り上げ、ひとつのトピックをさまざまな角度から捉え、考えたり発表する機会も持ちます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、ガイダンス	クラスメンバーの自己紹介や授業の進め方などを中心に行います。
2	レッスン 1: Emojis	News from Japan 前半 ニュース視聴につづいて演習を行います。
3	レッスン 1: Emojis	News from Japan 後半 関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
4	レッスン 2 : Robots	News from Estonia 前半 ニュース視聴につづいて演習を行います。
5	レッスン 2 : Robots	News from Estonia 後半 関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
6	レッスン 3 : Shopping	News from USA 前半 ニュース視聴につづいて演習を行います。
7	レッスン 3 : Shopping	News from USA 後半 関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
8	Midterm	レヴュー。これまでの振り返りを学期後半への指針として行います。
9	レッスン 4 : Volunteering Overseas	News from Senegal 前半 ニュース視聴につづいて演習を行います。
10	レッスン 4 : Volunteering Overseas	News from Senegal 後半 関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
11	レッスン 5 : Pops vs Traditional Culture	News from Saudi Arabia 前半 ニュース視聴につづいて演習を行います。
12	レッスン 5 : Pops vs Traditional Culture	News from Saudi Arabia 後半 関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
13	Term-end Review(1)	学期末レヴューその 1 これまで取り上げられた国についてプレゼンテーションを行ってもらいます。
14	Term-end Review(2)	学期末レヴューその 2 春学期の学習事項の理解度について行います。

15	オリエンテーション、ガイダンス	春学期の振り返りと今学期の方針や授業の進め方などについて
16	レッスン 6：Foreign Visitors	News from Japan ニュース視聴にニュース視聴につづいて各種演習を行います。
17	レッスン 7：English in the Office	News from Romania ニュース視聴にニュース視聴につづいて各種演習を行います。
18	レッスン 8：National Parks	News from Canada ニュース視聴にニュース視聴につづいて各種演習を行います。
19	レッスン 9：Old and New	News from Cuba ニュース視聴にニュース視聴につづいて各種演習を行います。
20	レッスン 10：The Paris Agreement	News from USA ニュース視聴にニュース視聴につづいて各種演習を行います。
21	Midterm	レヴュー。これまでの振り返りを学期後半への指針として行います。
22	レッスン 11：Social Inequality	News from USA ニュース視聴にニュース視聴につづいて各種演習を行います。
23	レッスン 12：Trading Partnership	News from Switzerland ニュース視聴にニュース視聴につづいて各種演習を行います。
24	レッスン 13：Japanese Interpretation of Foreign Culture	News from Japan ニュース視聴にニュース視聴につづいて各種演習を行います。
25	レッスン 14：Luxury Tax	News from Singapore ニュース視聴にニュース視聴につづいて各種演習を行います。
26	レッスン 15：Space Travel	News from USA ニュース視聴にニュース視聴につづいて各種演習を行います。
27	Term-end Review(1)	学期末レヴューその 1 これまで取り上げられた国についてプレゼンテーションを行っていただきます。
28	Term-end Review(2)	学期末レヴューその 2 春学期の学習事項の理解度について行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リスニングセクションについては、Key word study, Listening practice 1&2 についてテキストに目を通し分からない単語は調べて内容を予測しておく。リーディングセクションについても同様にテキストを読み、わからない単語を調べておくこと。授業後は、聞き取れなかった単語、分からなかった単語の意味を復習し、確実に理解するようにすること。また、ニュースの発信地についての地理的情報もきちんと調べる。予習・授業・復習によって補強、完結するにはそれぞれに対し授業時間に相当する時間を充てること。外国語ということもあり、毎日何らかの形で英語に触れることが大切です。

【テキスト（教科書）】

『AFP World News Report 4』成美堂 2017
英和辞典（大学レベル。紙または電子辞書）

【参考書】

英英辞典（各種）、マイケル・スワン著吉田正治訳『オックスフォード実例現代英語用法辞典第4版』研究社、オックスフォード大学出版局（2018）など。語彙力向上に役立つ辞書の活用の仕方を中心に、必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間・期末試験 40 %、小テストおよび追加課題 30 %
平常点とは、授業時の発表や演習など参加態度を含みます。小テスト 30%にはディクテーション等を含みます。
なお、授業ではリスニングも多用するのでクラスメートへの迷惑ともなる遅刻は厳禁、平常点から減点します。

【学生の意見等からの気づき】

文法について細かく解説や、学生に対する問い掛けがあり理解が深まった。学生ひとりひとりに丁寧に対応してもらえたのが良かった。
など、概ね好評であることを励みに、ひきつづき学生主体となる授業運営を心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業については、受講者の理解度に応じて適宜授業内容を調整することもあります。
一般的なことについては、大学生になると様々な場面で自己管理が求められるようになることを、各自がしっかりと認識することを望みます。

【Outline and objectives】

To build vocabulary and develop listening and reading skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.
Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements to enhance their reading skills. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）

桑原 洋

サブタイトル：（1）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学入学までに学習してきた英文法、語彙の学習・定着を通して、英語を正確に理解し、英語で発信できる基礎 (reading, writing の力) を築く。

【到達目標】

- 1 学生は基本的な文法知識を持ち、平易な英語の理解、及び表現に活用できる。
- 2 学生は基本的な語彙を持ち、平易な英語の理解、及び表現に活用できる。
- 3 学生は多彩な話題の平易な英語を読み、要点を理解することができる。
- 4 学生は多彩な話題について、平易な英語を書くことが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主語・There is 構文・動詞・文型など文法を項目別に正確に理解した上で、各自の予習をもとに、各項目の正確な理解に基づいた reading, writing 活動を行う。文法項目。語彙などの確認テストを適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、テキスト、辞書、参考書の紹介、試験などに関する説明, writing 活動
2	Overcoming	主語の種類についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
3	Going Digital	There is 構文についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
4	Judging Others	自動詞と他動詞についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
5	Ping-pong Hero	動詞の文型についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
6	Marry Me, Robot	知覚動詞についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
7	Remember Not to Forget!	動詞+動名詞/動詞+to 不定詞についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
8	Alienated on Earth	形容詞の文型についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
9	Daylight Savings	疑問文とその語順についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
10	Society Service	助動詞 can, may, must についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
11	The First Lady	助動詞 need, 助動詞の完了形についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
12	Homesick for Earth	進行形/状態動詞と動作動詞についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
13	'Anime' is English!	完了形についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
14	まとめ	春学期での学習事項の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習が前提である。そして、復習を必ず毎回実施し、文法事項の定着および reading, writing 活動で用いた語彙の定着も図ること。

【テキスト（教科書）】

奥田隆一、Anthony Allan『文法を活かす英文ライイティング入門』金星堂、2012
適宜プリント教材も用いる。

【参考書】

必ず英和辞典、電子辞書を授業に持参すること。スマートフォンの辞書アプリは授業での使用は認めない。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業参加度 30 %。演習活動に対する取組み状況、ノート確認。欠席・遅刻を避けること。欠席の際は事前に相談・連絡すること。
- ②定期試験・中間試験・小テスト 40 %。

③課題提出 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

要点をまとめて板書したり、プリントを配布するので、要点を必ずノートにまとめ、復習の際に必ず繰り返し学習すること。

【学生が準備すべき機器他】

辞書以外には無し。

【その他の重要事項】

授業に積極的に参加し、疑問点は必ず授業中に質問すること。

【Outline and objectives】

This course is designed to let students review their grammar knowledge and develop their basic communication skills of English (especially reading and writing skills).

LANe100IA

総合英語Ⅱ (b)

桑原 洋

サブタイトル： (1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／ 1 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学入学までに学習した英文法、語彙の学習・定着を通して、英語を正確に理解し、英語で発信できる基礎（reading, writing の力）を築く。

【到達目標】

- 1 学生は基本的な文法知識を持ち、平易な英語の理解、及び表現に活用できる。
- 2 学生は基本的な語彙を持ち、平易な英語の理解、及び表現に活用できる。
- 3 学生は多彩な話題の平易な英語を読み、要点を理解することができる。
- 4 学生は多彩な話題について、平易な英語を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主語・There is 構文・動詞・動詞の文型など文法を項目別に正確に理解した上で、各自の予習をもとに、各項目の正確な理解に基づいた reading, writing 活動を行う。さらに、reading, writing 活動で用いた語彙の定着を図る。文法項目・語彙などの確認テストを適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・試験などに関する説明、writing 活動
2	Money & Taxes	形容詞の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
3	Individual Appeal	副詞と副詞句の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
4	Exercise against Stress!	名詞の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
5	Socail Networking	前置詞の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
6	Bob and Annie	現在分詞と過去分詞の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
7	Paying with Plastic	限定詞の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
8	CCTV	受け身の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
9	Galapagos Syndrome	命令文の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
10	Finding and Finishing Employment	接続詞の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
11	Censorship	関係詞の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
12	Impatience!	比較の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
13	An Important Patient	仮定法の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
14	まとめ	秋学期の学習事項のふりかえりとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習が前提である。そして、復習も必ず毎回行い、文法事項の定着および reading, writing 活動で用いた語彙及び英文の定着も図ること。

【テキスト（教科書）】

奥田隆一、Anthony Allan『文法を活かす英文ライティング入門』金星堂、2012
適宜プリント教材も用いる。

【参考書】

必ず英和辞典、電子辞書を授業に持参すること。スマートフォンの辞書アプリは授業での使用は認めない。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業参加度 30 %。演習活動に対する取組み状況、ノート確認。欠席・遅刻も避けること。
- ②定期試験・中間試験・小テスト 40 %。
- ③課題提出 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

要点をまとめて板書したり、プリントを配布するので、内容を必ずノートにまとめ、復習の際に必ず繰り返し学習すること。

【学生が準備すべき機器他】

辞書以外には無し。

【その他の重要事項】

授業に積極的に参加し、疑問点は必ず授業中に質問すること。

【Outline and objectives】

This course is designed to let students review their grammar knowledge and develop their basic communication skills of English (especially reading and writing skills).

LANe100IA

総合英語Ⅱ 【2017 年度以前入学生対象】

桑原 洋

サブタイトル： (1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：1 年次／2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学入学までに学習してきた英文法、語彙の学習・定着を通して、英語を正確に理解し、英語で発信できる基礎（reading, writing の力）を築く。

【到達目標】

- 1 学生は基本的な文法知識を持ち、平易な英語の理解、及び表現に活用できる。
- 2 学生は基本的な語彙を持ち、平易な英語の理解、及び表現に活用できる。
- 3 学生は多彩な話題の平易な英語を読み、要点を理解することができる。
- 4 学生は多彩な話題について、平易な英語を書くことが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主語・There is 構文・動詞・文型など文法を項目別に正確に理解した上で、各自の予習をもとに、reading, writing 活動を行う。文法項目・語彙などの確認テストを適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、テキスト、辞書、参考書の紹介、試験などに関する説明、writing 活動
2	Overcoming	主語の種類についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
3	Going Digital	There is 構文についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
4	Judging Others	自動詞と他動詞についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
5	Ping-pong Hero	動詞の文型についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
6	Marry Me, Robot	知覚動詞についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
7	Remember Not to Forget!	動詞+動名詞/動詞+to 不定詞についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
8	Alienated on Earth	形容詞の文型についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
9	Daylight Savings	疑問文とその語順についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
10	Society Service	助動詞 can, may, must についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
11	The First Lady	助動詞 need, 助動詞の完了形についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
12	Homesick for Earth	進行形/状態動詞と動作動詞についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
13	'Anime' is English!	完了形についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
14	春学期のまとめ	春学期の学習事項の振り返りとまとめ
15	秋学期のオリエンテーション	授業の進め方・試験などに関する説明、writing 活動
16	Money & Taxes	形容詞の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
17	Individual Appeal	副詞と副詞句の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
18	Exercise against Stress!	名詞の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
19	Social Networking	前置詞の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
20	Bob and Annie	現在分詞と過去分詞の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
21	Paying with Plastic	限定詞の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
22	CCTV	受け身の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動

23	Galapagos Syndrome	命令文の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
24	Finding and Finishing Employment	接続詞の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
25	Censorship	関係詞の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
26	Impatience!	比較の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
27	An Important Patient	仮定法の用法についての理解、語彙の理解、reading, writing 活動
28	秋学期のまとめ	秋学期の学習事項の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習が前提である。そして、復習も必ず毎回行い、文法事項の定着および、reading, writing 活動で用いた語彙及び英文の定着も図ること。

【テキスト（教科書）】

奥田隆一、Anthony Allan『文法を活かす英文ライティング入門』金星堂、2012
適宜プリント教材も用いる。

【参考書】

必ず英和辞典、電子辞書を授業に持参すること。スマートフォンの辞書アプリは授業での使用は認めない。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業参加度 30 %。演習活動に対する取り組み状況、ノート確認。欠席・遅刻を避けること。
②定期試験・中間試験・小テスト 40 %。
③課題提出 30 %

【学生の意見等からの気づき】

文法の要点をまとめて板書したり、プリントを配布するので、内容を必ずノートにまとめ、復習の際に必ず繰り返し学習すること。

【学生が準備すべき機器他】

辞書以外には無し。

【その他の重要事項】

授業に積極的に参加し、疑問点は必ず授業中に質問すること。

【Outline and objectives】

This course is designed to let students review their grammar knowledge and develop their basic communication skills of English (especially reading and writing skills).

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）

村井 三千男

サブタイトル：（2）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の4技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指す。特にその中で listening 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。(presentation は oral, written の双方がある。)

【到達目標】

4つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる listening のスキルの上達をめざす。異文化の理解も含め、違い、共通点、誤解を招き易いコミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

様々な国々の世界遺産にスポットライトを当てた教材を用いて、listening 力・reading 力を高めていく。written teaching materials だけでなく DVD, CD も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course guideline
2	Unit 1 Carving the History of the Earth: Grand Canyon National Park(U.S.A.)	Introduction, Mini-quizzes, Previewing, DVD Viewing
3	Unit 1 Carving the History of the Earth: Grand Canyon National Park(U.S.A.)	Reading, Cross-cultural Activities,
4	Unit 1 Carving the History of the Earth: Grand Canyon National Park(U.S.A.)	Writing, etc.
5	Unit 2 The Lying Dragon: The Great Wall of China(China)	Mini-quizzes, Previewing, DVD Viewing,
6	Unit 2 The Lying Dragon: The Great Wall of China(China)	Reading, Cross-cultural Activities, Writing
7	Unit 2 The Lying Dragon: The Great Wall of China(China)	Writing, etc. Mini-quizzes, Previewing,
8	Unit 3 Monument to the Beloved: Taj Mahal(India)	DVD Viewing, Reading,
9	Unit 3 Monument to the Beloved: Taj Mahal(India)	速読教材使用 Cross-cultural Activities, Writing
10	Unit 4 Where Ancient Spirits Live: Uluru-Kata Tjuta National Park(Australia)	Mini-quizzes, Previewing, DVD Viewing,
11	Unit 4 Where Ancient Spirits Live: Uluru-Kata Tjuta National Park(Australia)	Reading Cross-cultural Activities, Writing
	Unit 5 Beautiful Paris, Forever: Paris and the Banks of the Seine(France)	Mini-quizzes, Previewing

12	Unit 5 Beautiful Paris, DVD Viewing, Reading Forever: Paris and the Banks of the Seine(France)	
13	定期テスト	Unit 1-Unit 5
14	総復習 言語活動	Unit 1-Unit 5

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習（vocabulary, listening, reading 等）・復習（理解度の低かった箇所の復習等）・宿題（レポート課題作成等）なお、次回に口頭発表が決定している学生はその準備をして授業に臨む必要がある。

【テキスト（教科書）】

Hisakazu Tsukano, Robert Van Benthuyssen, Kenichi Ohyama『Exploring World Heritage on DVD（DVD でめぐる世界遺産）』SEIBIDO（2,300円（税別））

（注：①必ず購入のこと。②似た教科書で『Exploring World Heritage II（DVD でめぐる世界遺産）II』SEIBIDO(2,400円（税別））というのがあるが、そちらと間違えないように注意して下さい。）

【参考書】

授業で必要となる資料はプリントにて随時配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 50%, 授業内課題（授業での課題、発表、貢献などを含む）25%, 授業外課題（課題提出等）25%

【学生の意見等からの気づき】

各学生のポジティブな取り組みが求められる。私語厳禁。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。（辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員の説明や学生の発言等注意して聴く必要があるため。）

【その他の重要事項】

授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力0に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。（常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。）

【Outline and objectives】

This class aims at improving the students' competence of the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with reading mostly emphasized. Also it aims at encouraging the students to convey their way of thinking or information acquired through reading and listening, either by speaking or writing. It motivates them to improve their accuracy and fluency in English ability.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）

村井 三千男

サブタイトル：（2）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／1 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の4技能(listening, speaking, reading, writing)すべての向上を目指す。特にその中で listening 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。(presentation は oral, written の双方がありうる。)

【到達目標】

4つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる listening のスキルの上達をめざす。異文化の理解も含め、違い、共通点、誤解を招き易いコミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

様々な国々の世界遺産にスポットライトを当てた教材を用いて、listening 力・reading 力を高めていく。written teaching materials だけでなく DVD, CD も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation Unit 6 Hidden City: Historic Site of Machu Picchu(Peru)	Course guideline Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
2	Unit 6 Hidden City: Historic Site of Machu Picchu(Peru)	Reading, Cross-cultural Activities,
3	Unit 6 Hidden City: Historic Site of Machu Picchu(Peru)	Writing, etc.
4	Unit 7 The Challenge to Find Longitude: Greenwich(United Kingdom)	Mini-quizzes, Previewing, DVD Viewing,
5	Unit 7 The Challenge to Find Longitude: Greenwich(United Kingdom)	Reading, Cross-cultural Activities,
6	Unit 7 The Challenge to Find Longitude: Greenwich(United Kingdom) Unit 8 The Maze City: Historic Site of Fez(Morocco)	Writing Mini-quizzes, Previewing, DVD Viewing,
7	Unit 8 The Maze City: Historic Site of Fez(Morocco)	Reading, Cross-cultural Activities
8	Unit 8 The Maze City: Historic Site of Fez(Morocco)	Writing,
9	Unit 9 A Tragic Masquerade: The Royal Palace of Drottningholm(Sweden)	Mini-quizzes, Previewing, DVD Viewing,
10	Unit 9 A Tragic Masquerade: The Royal Palace of Drottningholm(Sweden)	Reading, Cross-cultural Activities,

11	Unit 9 A Tragic Masquerade: The Royal Palace of Drottningholm(Sweden) Unit 10 Underground Towns: Goreme National Park and the Rock Sites of Cappadocia(Turkey)	Writing, Mini-quizzes, Previewing, DVD-Viewing
12	Unit 10 Underground Towns: Goreme National Park and the Rock Sites of Cappadocia(Turkey)	Reading,Cross-cultural Activities
13	定期テスト	Unit 6-Unit 10
14	総復習・試験用紙返却・解説	Unit 6-Unit 10

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習（vocabulary, listening, reading 等）・復習（理解度の低かった箇所の復習等）・宿題（レポート課題作成等）なお、次回に口頭発表が決定している学生はその準備をして授業に臨む必要がある。

【テキスト（教科書）】

Hisakazu Tsukano, Robert Van Benthuyssen, Kenichi Ohyama『Exploring World Heritage on DVD（DVD でめぐる世界遺産）』SEIBIDO（2,300 円（税別））
（注：①必ず購入のこと。②似た教科書で『Exploring World Heritage II（DVD でめぐる世界遺産 II）』SEIBIDO(2,400 円（税別））というのがあるが、そちらと間違えないように注意して下さい。）

【参考書】

授業で必要となる資料はプリントにて随時配布。もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 50%, 授業内課題（授業での課題、発表、貢献などを含む）25%, 授業外課題（課題提出等）25%

【学生の意見等からの気づき】

各学生のポジティブな取り組みが求められる。私語厳禁。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。（辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員の説明や学生の発言等注意して聴く必要があるため。）

【その他の重要事項】

授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。（常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。）

【Outline and objectives】

This class aims at improving the students' competence of the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with reading mostly emphasized. Also it aims at encouraging the students to convey their way of thinking or information acquired through reading and listening, either by speaking or writing. It motivates them to improve their accuracy and fluency in English ability.

LANe100IA

総合英語Ⅱ 【2017 年度以前入学生対象】

村井 三千男

サブタイトル：（2）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：1 年次／2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の 4 技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指す。特にその中で reading 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。（presentation は oral, written の双方がありうる。）また速読用教材も適宜用いること等により総合英語Ⅰ（a）(b) よりも速い速度でより正しく理解する能力を高める。

【到達目標】

春学期

4 つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる reading のスキルの上達を目指す。異文化の理解も含め、共通点・相違点、誤解を招き易いコミュニケーションなども学びながら、英語の能力を高めていく。総合英語Ⅰ（a）(b) よりも速い速度でより正しく理解する能力を高める。

秋学期

重要な情報を正確に聴き取る（その上に読み取る）訓練をするともに、重要な reading strategy を修得する。そして得られた知識・情報をもとに、自分の考え等を他者に正しく伝達できるようになることを目標とする。総合英語Ⅰ（a）(b) よりも速い速度でより正しく理解する能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期

様々な国々の世界遺産にスポットライトを当てた教材を用いて、listening 力・reading 力を高めていく。written teaching materials だけでなく DVD, CD 等も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。速読用教材を適宜用いることにより、速読力を高める。

秋学期

各課の Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing, Reading, Cross-cultural Activities, Writing などの作業を通じて 4 技能特に listening と presentation の力の向上を図る。（時間的理由等で省略する作業もありうる。）DVD, CD も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。速読用教材を適宜用いることにより、速読力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course Guideline
2	Unit 1 Carving the History of the Earth: Grand Canyon	Introduction, Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
3	Unit 1 Carving the History of the Earth: Grand Canyon	Reading, Cross-cultural Activities
4	Unit 1 Carving the History of the Earth: Grand Canyon	Writing, etc.
5	Unit 2 The Lying Dragon: The Great Wall of China(China)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
6	Unit 2 The Lying Dragon: The Great Wall of China(China)	Reading, Cross-cultural Activities
7	Unit 2 The Lying Dragon: The Great Wall of China(China)	Writing, etc. Mini-Quizzes, Previewing,
8	Unit 3 Monument to the Beloved: Taj Mahal(India)	DVD Viewing, Reading,

9	Unit 3 Monument to the Beloved: Taj Mahal(India)	Cross-cultural Activities, Writing
10	Unit 4 Where Ancient Spirits Live: Uluru-Kata Tjuta National Park(Australia)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
11	Unit 4 Where Ancient Spirits Live: Uluru-Kata Tjuta National Park(Australia) Unit 5 Beautiful Paris, Forever: Paris and the Banks of the Seine(France) Unit 5 The Hiroshima Peace Memorial(Japan)	Reading, Cross-cultural Activities, Writing Mini-Quizzes, Previewing,
12	Unit 5 Beautiful Paris, Forever: Paris and the Banks of the Seine(France)	DVD Viewing, Reading,
13	定期試験	Unit 1-Unit 5
14	総復習・試験用紙返却・解説	Unit 1-Unit 5
15	Orientation (ガイダンス) Unit 6 Hidden City: Historic Site of Machu Picchu(Peru)	授業の進め方・評価方法等についての説明 Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
16	Unit 6 Hidden City: Historic Site of Machu Picchu(Peru)	Reading, Cross-cultural Activities
17	Unit 6 Hidden City: Historic Site of Machu Picchu(Peru)	Writing
18	Unit 7 The Challenge to Find Longitude: Greenwich(United Kingdom)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
19	Unit 7 The Challenge to Find Longitude: Greenwich(United Kingdom)	Reading, Cross-cultural Activities
20	Unit 7 The Challenge to Find Longitude: Greenwich(United Kingdom) Unit 8 The Maze City: Historic Site of Fez(Morocco)	Writing Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
21	Unit 8 The Maze City: Historic Site of Fez(Morocco)	Reading, Cross-cultural Activities
22	Unit 8 The Maze City: Historic Site of Fez(Morocco)	Writing
23	Unit 9 A Tragic Masquerade: The Royal Palace of Drottningholm(Sweden)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
24	Unit 9 A Tragic Masquerade: The Royal Palace of Drottningholm(Sweden)	Reading, Cross-cultural Activities
25	Unit 9 A Tragic Masquerade: The Royal Palace of Drottningholm(Sweden) Unit 10 Underground Towns: Goreme National Park and the Rock Sites of Cappadocia(Turkey)	Writing Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
26	Unit 10 Underground Towns: Goreme National Park and the Rock Sites of Cappadocia(Turkey)	Reading, Cross-cultural Activities
27	定期試験	Unit 6-10
28	総復習・試験問題返却・解説	Unit 6-10

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期

教科書の予習（**vocabulary, listening, reading** 等）・復習（理解度の低かった箇所の復習等）・宿題（レポート課題作成等）なお、次回に口頭発表が予定されている学生はその準備をして授業に臨む必要がある。

秋学期

予習（授業内で扱う内容について十分調べてから授業に臨む。）

復習（前回の授業で扱った内容・語彙・文法等の復習を行なう。）

課題（課題が提示された場合には行ない、期日までに提出する。または **Presentation** の準備を行なう。）

【テキスト（教科書）】

Hisakazu Tsukano, Robert Van Benthuyssen, Kenichi Ohyama 『Exploring World Heritage on DVD (DVD でめぐる世界遺産)』 SEIBIDO (2,300 円 (税別))

(注：①必ず購入のこと。②似た教科書で『Exploring World Heritage II (DVD でめぐる世界遺産 II)』 SEIBIDO(2,400 円 (税別)) というのがあるが、そちらと間違えないように注意して下さい。)

【参考書】

必要となる資料は授業で随時配布もしくは提示する。(速読教材等)

【成績評価の方法と基準】

春学期

定期試験 50%, 授業内課題（授業での課題・発表・貢献等を含む） 25%, 授業外課題（課題提出等） 25%

秋学期

試験 50%、授業内課題 25%、授業外課題 25%（「授業内課題」とは授業中の指示に対応し、授業中に提示する課題などに積極的に取り組むことを意味する。授業内に小テストを実施する場合の成績もそれに含める。「授業外課題」とは **Oral Presentation** の準備や **Written Presentation** のレポートなどを含むものである。） 60 点以上取得の学生に対して単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

語源等、英語に関わる様々な側面の情報を適宜提示するなどして、英語に対する興味・関心を増すような授業を目指したいと考える次第である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。(辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは予習時・復習時であり、授業中の使用は原則的に禁止する。授業中は教員の説明や他の学生の発言等注意して聴くことが重要なため。) **writing** 作業等でそれらを用いてもよい際には教員が指示する。

【その他の重要事項】

春学期

授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。(常日頃から健康維持に十分留意することも必要である。)

「より速くより正確に読み取る」(**Read with fluency, read with accuracy**) という目的を達成する気力で取り組むことを望む次第である。

秋学期

十分な予習を行ない、できる限り多く授業に出席し、授業に積極的に取り組むことが望ましい。

「より速くより正確に読み取る」(**Read with fluency, read with accuracy**) という目的を達成する気力で取り組むことを望む次第である。

【Outline and objectives】

This class aims at improving the students' competence of the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with reading mostly emphasized. Also it aims at encouraging the students to convey their way of thinking or information acquired through reading and listening, either by speaking or writing. It motivates them to improve their accuracy and fluency in English ability.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）

川田 アマンディーン

サブタイトル：（3）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育において必要となる英語力をはじめ、本講義では特にスポーツに関連する英語を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけでなく、発信面にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】

- ・スポーツに関連する英語で書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようになる。
- ・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。
- ・英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。グループ学習やプレゼンテーションなどを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・ガイダンス	授業の進め方等について説明する。講義内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。
2	International Sports Politics (1) ・ The Olympic Games ・ The Football World Cup ・ The Commonwealth Games	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
3	International Sports Politics (2) ・ Drugs in Sports ・ Tackling Disability ・ Development and Peace	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
4	The Economics of Sports (1) ・ International Federations ・ Media ・ Sponsorship	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
5	The Economics of Sports (2) ・ Merchandising ・ Gambling ・ Sports Tourism	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
6	Sports (1) ・ American Football ・ Baseball ・ Basketball	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
7	Sports (2) ・ Cricket ・ Tennis ・ Rugby	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
8	Sports (3) ・ Cycling ・ Marathon ・ Track and Field	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう

9	Sports (4) ・ Sailing ・ Swimming and Diving ・ Skiing and Snowboarding	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
10	Sports (6) ・ Gymnastics and Exercise ・ Volleyball and Beach Volleyball ・ Multi-Sports	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
11	Country Profiles(1) ・ New Zealand ・ Australia ・ UK ・ Ireland	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
12	Country Profiles(2) ・ Indonesia ・ Thailand ・ South Korea ・ China ・ Malaysia	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
13	Country Profiles(3) ・ Russia ・ Austria ・ Spain ・ Germany ・ France	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
14	学期末まとめ	今までおこなわれたテーマの概要について振り返り、理解度の確認をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ学習やプレゼンテーションを用いるため、その予習・準備等を入念におこなうこと。また英文を多用する機会を増やしておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】

The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph (著)

【参考書】

The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph (著)

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】

必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to encourage and to help students to express themselves in English in sport related situations. That's why during the class we will give the priority to group discussion and speeches

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）**川田 アマンディーン**

サブタイトル：（3）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育において必要となる英語力をはじめ、本講義では特にスポーツに関連する英語を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけでなく、発信面・向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】

- ・スポーツに関連する英語で書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようになる。
- ・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。
- ・英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。グループ学習やプレゼンテーションなどを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・グループ分け	授業の進め方等について説明する。講義内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。
2	Sport(1) プレゼンテーション (Adventure Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
3	Sport(1) 確認テスト (Adventure Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
4	Sport(2) プレゼンテーション (Aquatic Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
5	Sport(2) 確認テスト (Aquatic Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
6	Sport(3) プレゼンテーション (Strenght and Agility Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
7	Sport(3) 確認テスト (Strenght and Agility Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
8	Sport(4) プレゼンテーション (Ball Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
9	Sport(4) 確認テスト (Ball Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
10	Sport(5) プレゼンテーション (Extreme Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
11	Sport(5) 確認テスト (Extreme Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
12	Sport(6) プレゼンテーション (Motorised Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
13	Sport(6) 確認テスト (Motorised Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
14	学期末まとめ	今までおこなわれたテーマの概要について振り返り、理解度の確認をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ学習やプレゼンテーションを用いるため、その予習・準備等を入念におこなうこと。また英文を多用する機会を増やしておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】

The World Atlas of Sport

Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【参考書】

The World Atlas of Sport

Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %

プレゼンテーション等 40 %

小テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】

必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to encourage and to help students to express themselves in English in sport related situations. That's why during the class we will give the priority to group discussion and speeches

LANe100IA

総合英語Ⅱ 【2017 年度以前入学生対象】

川田 アマンディーン

サブタイトル： (3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育において必要となる英語力をはじめ、本講義では特にスポーツに関連する英語を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】

- ・スポーツに関連する英語で書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようにになる。
- ・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。
- ・英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。グループ学習やプレゼンテーションなどを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・ガイダンス	授業の進め方等について説明する。講義内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。
2	International Sports Politics (1) ・ The Olympic Games ・ The Football World Cup ・ The Commonwealth Games	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
3	International Sports Politics (2) ・ Drugs in Sports ・ Tackling Disability ・ Development and Peace	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
4	The Economics of Sports (1) ・ International Federations ・ Media ・ Sponsorship	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
5	The Economics of Sports (2) ・ Merchandising ・ Gambling ・ Sports Tourism	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
6	Sports (1) ・ American Football ・ Baseball ・ Basketball	テキストや資料を読み、内容を把握する。次回の発表者はプレゼンテーションの準備をする。
7	Sports (2) ・ Cricket ・ Tennis ・ Rugby	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
8	Sports (3) ・ Cycling ・ Marathon ・ Track and Field	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
9	Sports (4) ・ Sailing ・ Swimming and Diving ・ Skiing and Snowboarding	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう

10	Sports (5) ・ Gymnastics and Exercise ・ Volleyball and Beach Volleyball ・ Multi-Sports	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
11	Country Profiles(1) ・ New Zealand ・ Australia ・ UK ・ Ireland	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
12	Country Profiles(2) ・ Indonesia ・ Thailand ・ South Korea ・ China ・ Malaysia	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
13	Country Profiles(3) ・ Russia ・ Austria ・ Spain ・ Germany ・ France	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
14	学期末まとめ	今までおこなわれたテーマの概要について振り返り、理解度の確認をおこなう。
15	ガイダンス・グループ分け	後半の授業の進め方等について説明する。講義内容を把握し、授業の全体像や進め方について確認する。
16	Sport(1) プレゼンテーション (Adventure Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
17	Sport(1) 確認テスト (Adventure Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
18	Sport(2) プレゼンテーション (Aquatic Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
19	Sport(2) 確認テスト (Aquatic Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
20	Sport(3) プレゼンテーション (Strenght and Agility Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
21	Sport(3) 確認テスト (Strenght and Agility Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
22	Sport(4) プレゼンテーション (Ball Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
23	Sport(4) 確認テスト (Ball Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
24	Sport(5) プレゼンテーション (Extreme Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
25	Sport(5) 確認テスト (Extreme Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
26	Sport(6) プレゼンテーション (Motorised Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
27	Sport(6) 確認テスト (Motorised Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
28	学期末まとめ	今までおこなわれたテーマの概要について振り返り、理解度の確認をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ学習やプレゼンテーションを用いるため、その予習・準備等を入念におこなうこと。また英文を多用する機会を増やしておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】

The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph (著)

【参考書】

The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph (著)

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】

必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to encourage and to help students to express themselves in English in sport related situations. That's why during the class we will give the priority to group discussion and speeches

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）

大塚 孝一

サブタイトル：（4）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育において必要となる英語力を身につけることを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面の向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的な事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、発信していくことを身につけることで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】

- 英語で書かれた様々なトピックが理解できるようになる。
- 英語の語彙力を広げ、それらを使うことができるようになる。
- 英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習。まず、教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業についての説明
2	Unit 1	What Country is the Fattest in the World?
3	Unit 1	What Country is the Fattest in the World?
4	Unit 2	What Do We Know about Sleep Talking?
5	Unit 2	What Do We Know about Sleep Talking?
6	Unit 3	Why Are Bug Bites Dangerous?
7	Unit 3	Why Are Bug Bites Dangerous?
8	Unit 4	What Kind of Bacteria Can Be Found in the Great Barrier Reef?
9	Unit 4	What Kind of Bacteria Can Be Found in the Great Barrier Reef?
10	Unit 5	How Much Caffeine Can We Take?
11	Unit 5	How Much Caffeine Can We Take?
12	Unit 6	How Does the Love Hormone Oxytocin Work to Improve Relationships?
13	Unit 6	How Does the Love Hormone Oxytocin Work to Improve Relationships?
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習を前提とし、基本的な学習姿勢を身につけてもらう。

【テキスト（教科書）】

『Good Health, Better Life』

金星堂

西原俊明 / 西原真弓 / Pino Cutrone 著

¥1,900 (税込 ¥2,052)

【参考書】

中級、上級の英和辞典と和英辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%

平常点 25%

小テスト 25%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典、和英辞典（紙・電子問わず）は必ず持参すること。

【その他の重要事項】

真剣、かつ積極的な学習態度で授業に臨むこと。居眠り、私語、スマートフォン等の使用は厳禁。

【Outline and objectives】

This course focuses on basic English skills needed in an academic setting. Not only receptive skills such as reading and listening but also productive skills such as writing and speaking are targeted. Students will have a good command of English by treating English texts analytically and considering cultural aspects.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）

大塚 孝一

サブタイトル：（4）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／ 1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育において必要となる英語力を身につけることを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面の向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、発信していくことを身につけることで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】

- 英語で書かれた様々なトピックが理解できるようになる。
- 英語の語彙力を広げ、それらを使うことができるようになる。
- 英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習。まず、教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Unit 7	春学期の振り返り What Can Happen If You're Too Clean?
2	Unit 7	What Can Happen If You're Too Clean?
3	Unit 8	Does Gender Affect Cancer Susceptibility?
4	Unit 8	Does Gender Affect Cancer Susceptibility?
5	Unit 9	Why Do Many of Us Develop Fear of Heights with Age?
6	Unit 9	Why Do Many of Us Develop Fear of Heights with Age?
7	Unit 10	What Are the Dangers of a Sweltering Summer?
8	Unit 10	What Are the Dangers of a Sweltering Summer?
9	Unit 11	Which Makes a Better Athlete, Being a Night Owl or an Early Bird?
10	Unit 11	Which Makes a Better Athlete, Being a Night Owl or an Early Bird?
11	Unit 12	How Better to Release Your Stress?
12	Unit 12	How Better to Release Your Stress?
13	Unit 13	What Are the Differences between Real and Robotic Pets?
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習を前提とし、基本的な学習姿勢を身につけてもらう。

【テキスト（教科書）】

『Good Health, Better Life』

金星堂

西原俊明 / 西原真弓 / Pino Cutrone 著

¥1,900（税込 ¥2,052）

【参考書】

中級、上級の英和辞典と和英辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%

平常点 25%

小テスト 25%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典、和英辞典（紙・電子問わず）は必ず持参すること。

【その他の重要事項】

真剣、かつ積極的な学習態度で授業に臨むこと。居眠り、私語、スマートフォン等の使用は厳禁。

【Outline and objectives】

This course focuses on basic English skills needed in an academic setting. Not only receptive skills such as reading and listening but also productive skills such as writing and speaking are targeted. Students will have a good command of English by treating English texts analytically and considering cultural aspects.

LANe100IA

総合英語Ⅱ 【2017 年度以前入学生対象】

大塚 孝一

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育において必要となる英語力を身につけることを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面の向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、発信していくことを身につけることで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】

- 英語で書かれた様々なトピックが理解できるようになる。
- 英語の語彙力を広げ、それらを使うことができるようになる。
- 英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習。まず、教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業についての説明
2	Unit 1	What Country is the Fattest in the World?
3	Unit 1	What Country is the Fattest in the World?
4	Unit 2	What Do We Know about Sleep Talking?
5	Unit 2	What Do We Know about Sleep Talking?
6	Unit 3	Why Are Bug Bites Dangerous?
7	Unit 3	Why Are Bug Bites Dangerous?
8	Unit 4	What Kind of Bacteria Can Be Found in the Great Barrier Reef?
9	Unit 4	What Kind of Bacteria Can Be Found in the Great Barrier Reef?
10	Unit 5	How Much Caffeine Can We Take?
11	Unit 5	How Much Caffeine Can We Take?
12	Unit 6	How Does the Love Hormone Oxytocin Work to Improve Relationships?
13	Unit 6	How Does the Love Hormone Oxytocin Work to Improve Relationships?
14	まとめ	期末試験
15	オリエンテーション	春学期の振り返り
16	Unit 7	What Can Happen If You're Too Clean?
17	Unit 7	What Can Happen If You're Too Clean?
18	Unit 8	Does Gender Affect Cancer Susceptibility?
19	Unit 8	Does Gender Affect Cancer Susceptibility?
20	Unit 9	Why Do Many of Us Develop Fear of Heights with Age?
21	Unit 9	Why Do Many of Us Develop Fear of Heights with Age?
22	Unit 10	What Are the Dangers of a Sweltering Summer?
23	Unit 10	What Are the Dangers of a Sweltering Summer?
24	Unit 11	Which Makes a Better Athlete, Being a Night Owl or an Early Bird?
25	Unit 11	Which Makes a Better Athlete, Being a Night Owl or an Early Bird?
26	Unit 12	How Better to Release Your Stress?
27	Unit 13	What Are the Differences between Real and Robotic Pets?
28	まとめ	期末試験

26	Unit 12	How Better to Release Your Stress?
27	Unit 13	What Are the Differences between Real and Robotic Pets?
28	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習を前提とし、基本的な学習姿勢を身につけてもらう。

【テキスト（教科書）】

『Good Health, Better Life』

金星堂

西原俊明 / 西原真弓 / Pino Cutrone 著

¥1,900 (税込 ¥2,052)

【参考書】

中級、上級の英和辞典と和英辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%

平常点 25%

小テスト 25%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典、和英辞典（紙・電子問わず）は必ず持参すること。

【その他の重要事項】

真剣、かつ積極的な学習態度で授業に臨むこと。居眠り、私語、スマートフォン等の使用は厳禁。

【Outline and objectives】

This course focuses on basic English skills needed in an academic setting. Not only receptive skills such as reading and listening but also productive skills such as writing and speaking are targeted. Students will have a good command of English by treating English texts analytically and considering cultural aspects.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）

松下 晴彦

サブタイトル：（5）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な話題を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、リスニングを養成することを目標とする。また、論理的な思考力を身につけ、幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】

学生は、英語特有の発音を慣れ、抵抗感なくリスニングできる。世界の中の日本について学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストで多様な英語を聞く練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を聞くという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	UNIT 1	Long-Established Businesses: Report
第 3 回	UNIT 1	Long-Established Businesses: Discussion
第 4 回	UNIT 2	Uniforms: Report
第 5 回	UNIT 2	Uniforms: Discussion
第 6 回	UNIT 3	Volunteer Work: Report
第 7 回	UNIT 3	Volunteer Work: Discussion
第 8 回	UNIT 4	High-Tech Living: Report
第 9 回	UNIT 4	High-Tech Living: Discussion
第 10 回	UNIT 5	Japanese Tableware: Report
第 11 回	UNIT 5	Japanese Tableware: Discussion
第 12 回	UNIT 6	Homemakers of Japan: Report
第 13 回	UNIT 6	Homemakers of Japan: Discussion
第 14 回	試験	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。

【テキスト（教科書）】

『Discovering Cool Japan』堀江洋文（成美堂:2019）¥ 2,500+税

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度：30 %

授業内小テスト：30 %

定期試験：40 %

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】

This course will focus on developing students' abilities to listen English.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）

松下 晴彦

サブタイトル：（5）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な話題を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、リスニングを養成することを目標とする。また、論理的な思考力を身につけ、幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】

学生は、英語特有の発音を慣れ、抵抗感なくリスニングできる。世界の中の日本について学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストで多様な英語を聞く練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を聞くという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	UNIT 7	Seafood: Report
第 3 回	UNIT 7	Seafood: Discussion
第 4 回	UNIT 8	Voice Actors: Report
第 5 回	UNIT 8	Voice Actors: Discussion
第 6 回	UNIT 9	Japanized Foreign Dishes: Report
第 7 回	UNIT 9	Japanized Foreign Dishes: Discussion
第 8 回	UNIT 10	Bags: Report
第 9 回	UNIT 10	Bags: Discussion
第 10 回	UNIT 11	Senior Citizens: Report
第 11 回	UNIT 11	Senior Citizens: Discussion
第 12 回	UNIT 12	Money: Report
第 13 回	UNIT 12	Money: Discussion
第 14 回	試験	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。

【テキスト（教科書）】

『Discovering Cool Japan』堀江洋文（成美堂:2019）¥ 2,500+税

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度：30 %

授業内小テスト：30 %

定期試験：40 %

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】

This course will focus on developing students' abilities to listen English.

LANe100IA

総合英語Ⅱ 【2017 年度以前入学生対象】**松下 晴彦**

サブタイトル： (5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な話題を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、リスニングを養成することを目標とする。また、論理的な思考力を身につけ、幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】

学生は、英語特有の発音を慣れ、抵抗感なくリスニングできる。世界の中の日本について学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストで多様な英語を聞く練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を聞くという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	UNIT 1	Long-Established Businesses: Report
第 3 回	UNIT 1	Long-Established Businesses: Discussion
第 4 回	UNIT 2	Uniforms: Report
第 5 回	UNIT 2	Uniforms: Discussion
第 6 回	UNIT 3	Volunteer Work: Report
第 7 回	UNIT 3	Volunteer Work: Discussion
第 8 回	UNIT 4	High-Tech Living: Report
第 9 回	UNIT 4	High-Tech Living: Discussion
第 10 回	UNIT 5	Japanese Tableware: Report
第 11 回	UNIT 5	Japanese Tableware: Discussion
第 12 回	UNIT 6	Homemakers of Japan: Report
第 13 回	UNIT 6	Homemakers of Japan: Discussion
第 14 回	試験	まとめ
第 15 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 16 回	UNIT 7	Seafood: Report
第 17 回	UNIT 7	Seafood: Discussion
第 18 回	UNIT 8	Voice Actors: Report
第 19 回	UNIT 8	Voice Actors: Discussion
第 20 回	UNIT 9	Japanized Foreign Dishes: Report
第 21 回	UNIT 9	Japanized Foreign Dishes: Discussion
第 22 回	UNIT 10	Bags: Report
第 23 回	UNIT 10	Bags: Discussion
第 24 回	UNIT 11	Senior Citizens: Report
第 25 回	UNIT 11	Senior Citizens: Discussion
第 26 回	UNIT 12	Money: Report
第 27 回	UNIT 12	Money: Discussion
第 28 回	試験	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。

【テキスト（教科書）】

『Discovering Cool Japan』堀江洋文 (成美堂:2019) ¥ 2,500+税

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度： 30 %

授業内小テスト： 30 %

定期試験： 40 %

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】

This course will focus on developing students' abilities to listen English.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）

衣川 清子

サブタイトル：（6）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにまつわるさまざまなエピソードを取り上げたテキストを読みながら英語の基礎（4技能）を復習し、主にライティング力を伸ばすためのトレーニングをします。

【到達目標】

・スポーツに関連した話題を扱った記事を読むことを中心に、さまざまなエクササイズに取り組むことで英語の4技能を伸ばすことができます。
・記事やエクササイズに登場する英語表現を応用して、言いたいことを簡潔に表現するパラグラフが書けるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに従い、1ユニットをだいたい2回で完了するテンポで進めます。場合に応じてペアワークやグループワークにも取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	教科書やダウンロード音声の使い方、予習復習、授業に臨む姿勢など
2	Unit 1 The Long Wait	前半 Warm-up questions ~ Reading
3	Unit 1 The Long Wait	後半 Reading ~ Write and Speak!
4	Unit 2 Olympic Volunteers	前半 Warm-up questions ~ Reading
5	Unit 2 Olympic Volunteers	後半 Reading ~ Write and Speak!
6	まとめ	まとめ
7	中間テスト	中間テスト
8	Unit 3 Male Sports? Female Sports?	前半 Warm-up questions ~ Reading
9	Unit 3 Male Sports? Female Sports?	後半 Reading ~ Write and Speak!
10	Unit 4 Competition	前半 Warm-up questions ~ Reading
11	Unit 4 Competition	後半 Reading ~ Write and Speak!
12	Unit 5 A Glamorous Life?	前半 Warm-up questions ~ Reading
13	Unit 5 A Glamorous Life?	後半 Reading ~ Write and Speak!
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語でもいいので、スポーツ関係のニュース、特に海外で活躍する日本人選手の記事をふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。

【テキスト（教科書）】

Spotlight on Sports

15 Sports Topics for Learning Basic English

スポーツ・トピックで学ぶ総合英語

Anthony Allan / 久保善宏 / 古川武史 / 林幸代 著 金星堂

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 30 % + 期末テスト 30 % + 平常点（作文課題含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】

力がついたことを実感できる授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで連絡したり、参考資料を提示したりすることがあります。課題は授業支援システムで提出してください。

【その他の重要事項】

なお、授業の進展状況によってテーマや内容・順序が変更される場合もあります。

【Outline and objectives】

We will read a textbook featuring various topics about sports and related information, review the basics of four skills of English, especially writing, and work on various types of training to improve writing skills.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）

衣川 清子

サブタイトル：（6）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにまつわるさまざまなエピソードを取り上げたテキストを読みながら英語の基礎（4技能）を復習し、主にライティング力を伸ばすためのトレーニングをします。

【到達目標】

- ・スポーツに関連した話題を扱った記事を読むことを中心に、さまざまなエクササイズに取り組むことで英語の4技能を伸ばすことができます。
- ・記事やエクササイズに登場する英語表現を応用して、言いたいことを簡潔に表現するパラグラフが書けるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに従い、1ユニットをだいたい2回で完了するテンポで進めます。場合に応じてペアワークやグループワークにも取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	教科書やダウンロード音声の使い方、予習復習、授業に臨む姿勢など
2	Unit 6 Energy Drinks	前半 Warm-up questions ~ Reading
3	Unit 6 Energy Drinks	後半 Reading ~ Write and Speak!
4	Unit 7 Helping Your Opponent	前半 Warm-up questions ~ Reading
5	Unit 7 Helping Your Opponent	後半 Reading ~ Write and Speak!
6	まとめ	まとめ
7	中間テスト	中間テスト
8	Unit 8 Ghost Goals	前半 Warm-up questions ~ Reading
9	Unit 8 Ghost Goals	後半 Reading ~ Write and Speak!
10	Unit 9 Rituals and Superstitions	前半 Warm-up questions ~ Reading
11	Unit 9 Rituals and Superstitions	後半 Reading ~ Write and Speak!
12	Unit 10 The Cutting Edge	前半 Warm-up questions ~ Reading
13	Unit 10 The Cutting Edge	後半 Reading ~ Write and Speak!
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語でもいいので、スポーツ関係のニュース、特に海外で活躍する日本人選手の記事をふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。

【テキスト（教科書）】

Spotlight on Sports

15 Sports Topics for Learning Basic English

スポーツ・トピックで学ぶ総合英語

Anthony Allan / 久保善宏 / 古川武史 / 林幸代 著 金星堂

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 30 % + 期末テスト 30 % + 平常点（作文課題含む） 40 %

【学生の意見等からの気づき】

力がついたことを実感できる授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで連絡したり、参考資料を提示したりすることがあります。課題は授業支援システムで提出してください。

【その他の重要事項】

なお、授業の進展状況によってテーマや内容・順序が変更される場合もあります。

【Outline and objectives】

We will read a textbook featuring various topics about sports and related information, review the basics of four skills of English, especially writing, and work on various types of training to improve writing skills.

LANe100IA

総合英語Ⅱ 【2017 年度以前入学生対象】

衣川 清子

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにまつわるさまざまなエピソードを取り上げたテキストを読みながら英語の基礎（4 技能）を復習し、主にライティング力を伸ばすためのトレーニングをします。

【到達目標】

- ・スポーツに関連した話題を扱った記事を読むことを中心に、さまざまなエクササイズに取り組むことで英語の 4 技能を伸ばすことができます。
- ・記事やエクササイズに登場する英語表現を応用して、言いたいことを簡潔に表現するパラグラフが書けるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに従い、1 ユニットをだいたい 2 回で完了するテンポで進めます。場合に応じてペアワークやグループワークにも取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	教科書やダウンロード音声の使い方、予習復習、授業に臨む姿勢など
2	Unit 1 The Long Wait	前半 Warm-up questions ~ Reading
3	Unit 1 The Long Wait	後半 Reading ~ Write and Speak!
4	Unit 2 Olympic Volunteers	前半 Warm-up questions ~ Reading
5	Unit 2 Olympic Volunteers	後半 Reading ~ Write and Speak!
6	まとめ	まとめ
7	中間テスト	中間テスト
8	Unit 3 Male Sports? Female Sports?	前半 Warm-up questions ~ Reading
9	Unit 3 Male Sports? Female Sports?	後半 Reading ~ Write and Speak!
10	Unit 4 Competition	前半 Warm-up questions ~ Reading
11	Unit 4 Competition	後半 Reading ~ Write and Speak!
12	Unit 5 A Glamorous Life?	前半 Warm-up questions ~ Reading
13	Unit 5 A Glamorous Life?	後半 Reading ~ Write and Speak!
14	期末テスト	期末テスト
15	Unit 6 Energy Drinks	前半 Warm-up questions ~ Reading
16	Unit 6 Energy Drinks	後半 Reading ~ Write and Speak!
17	Unit 7 Helping Your Opponent	前半 Warm-up questions ~ Reading
18	Unit 7 Helping Your Opponent	後半 Reading ~ Write and Speak!
19	Unit 8 Ghost Goals	前半 Warm-up questions ~ Reading
20	Unit 8 Ghost Goals	後半 Reading ~ Write and Speak!
21	中間テスト	中間テスト
22	Unit 9 Rituals and Superstitions	前半 Warm-up questions ~ Reading
23	Unit 9 Rituals and Superstitions	後半 Reading ~ Write and Speak!
24	Unit 10 The Cutting Edge	前半 Warm-up questions ~ Reading
25	Unit 10 The Cutting Edge	後半 Reading ~ Write and Speak!
26	Unit 11 Match-Fixing	前半 Warm-up questions ~ Reading
27	Unit 11 Match-Fixing	後半 Reading ~ Write and Speak!
28	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語でもいいので、スポーツ関係のニュース、特に海外で活躍する日本人選手の記事をふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。

【テキスト（教科書）】

Spotlight on Sports

15 Sports Topics for Learning Basic English

スポーツ・トピックで学ぶ総合英語

Anthony Allan / 久保善宏 / 古川武史 / 林幸代 著 金星堂

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 30 % + 期末テスト 30 % + 平常点（作文課題含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】

力がついたことを実感できる授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで連絡したり、参考資料を提示したりすることがあります。課題は授業支援システムで提出してください。

【その他の重要事項】

なお、授業の進展状況によってテーマや内容・順序が変更される場合もあります。

【Outline and objectives】

We will read a textbook featuring various topics about sports and related information, review the basics of four skills of English, especially writing, and work on various types of training to improve writing skills.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）**喜多 球美**

サブタイトル：（7）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今後の研究やキャリアに必要な英語力を養い、発展させます。プレゼンテーションやライティングなど、準備、発表・提出、そしてフィードバックを通して、トピックに対する理解を深めます。自分の意見を表現することを重視します。

【到達目標】

・興味関心のある社会・文化的問題を選び、「なぜ興味があるのか」、「なぜこの問題を考えることが重要なのか」など、自分の考えを表現できるようになること。
・プレゼンテーションやライティング課題の準備を通して、アカデミック英語の基礎を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

定期的に小テストを行います。会話、ディスカッション、プレゼンテーション、ライティングなど、パフォーマンスで評価しますが、未経験でも心配いりません。準備の段階から、発表、フィードバックまで、すべて授業で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についての説明。今までの英語学習状況についての聞き取り。
2	英語雑誌・英字新聞 1	ハンドアウト 1、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎（意見を述べる）。
3	英語雑誌・英字新聞 2	ハンドアウト 2、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎（意見を述べる）2。
4	英語雑誌・英字新聞 3	ハンドアウト 3、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎（意見を述べる）3。
5	ライティングのフィードバック	ハンドアウト 4、ライティング完成。到達度の確認。
6	英語雑誌・英字新聞 4	ハンドアウト 5、スピーチ準備。
7	英語雑誌・英字新聞 5	ハンドアウト 6、スピーチ実践。
8	英語雑誌・英字新聞 6	ハンドアウト 7、ライティング基礎（問題と解決策）。
9	英語雑誌・英字新聞 7	ハンドアウト 8、ライティング基礎（問題と解決策）2。
10	英語雑誌・英字新聞 8	ハンドアウト 9、ライティング基礎（問題と解決策）3。
11	ライティングのフィードバック	ハンドアウト 10、ライティング完成、到達度の確認。
12	プレゼンテーションについてガイダンス	ハンドアウト 11、プレゼンテーション準備
13	プレゼンテーション	ハンドアウト 12、プレゼンテーション
14	文化紹介	ハンドアウト 13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の理解度や目的に応じて自主学習が必要となります。定期的に小テストを行うので、復習してください。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

パフォーマンス（小テスト、ライティング課題、スピーチ、プレゼンテーション）60%
平常点（授業内活動）40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

This module is designed to prepare you for your future studies and career in English, whilst developing your English skills, focusing on academic reading, writing, speaking, and listening. The authentic materials from magazines and newspaper will cover a wide range of international and cultural issues. You will be required to submit a series of writing tasks and deliver presentations based on a theme covered during the semester.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）

喜多 球美

サブタイトル：（7）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／ 1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合英語Ⅱ（a）に続けて、研究およびキャリア発展のために必要な英語力を養います。プレゼンテーションやライティングなど、準備、発表・提出、そしてフィードバックを通して、トピックに対する理解を深めます。自分の意見を表現し、相手の意見を理解することを重視します。

【到達目標】

・興味関心のある社会・文化的問題を選び、問題提起し、クラスメイトからの意見を理解できるようになること。
・プレゼンテーションやライティング課題の準備を通して、アカデミック英語を身につけ、発展させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

定期的に小テストを行います。会話、ディスカッション、プレゼンテーション、ライティングなど、パフォーマンスで評価しますが、未経験でも心配不要です。準備の段階から、発表、フィードバックまで、すべて授業で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびレベルチェック	授業についての説明。今までの英語学習状況についての聞き取り。
2	英語雑誌・英字新聞 1	ハンドアウト 1、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎 (Email の書き方復習)。
3	英語雑誌・英字新聞 2	ハンドアウト 2、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎 (Email の書き方発展) 2。
4	英語雑誌・英字新聞 3	ハンドアウト 3、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎 (意見を述べる) 3。
5	Email ライティングのフィードバック	ハンドアウト 4、ライティング完成。到達度の確認。
6	プレゼンテーションについてガイダンス	ハンドアウト 5、グループプレゼンテーション準備。
7	英語雑誌・英字新聞 5	ハンドアウト 6、グループプレゼンテーション準備 2。
8	プレゼンテーション	ハンドアウト 7、グループプレゼンテーション発表。
9	プレゼンテーション	ハンドアウト 8、グループプレゼンテーション発表 2。
10	英語雑誌・英字新聞 6	ハンドアウト 9、ライティング Review。
11	英語雑誌・英字新聞 7	ハンドアウト 10、ライティング完成。
12	スピーチまたはディスカッション。	ハンドアウト 11。
13	パフォーマンス	到達度の確認。
14	文化紹介	ハンドアウト 12。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の理解度や目的に応じて自主学習が必要となります。定期的に小テストを行うので、復習してください。

【テキスト（教科書）】

ハンドアウト

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

パフォーマンス（小テスト、ライティング課題、スピーチ、プレゼンテーション） 60%

平常点（授業内活動） 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

Following to 総合英語Ⅱ（a）, this module is designed to prepare you for your future studies and career in English, whilst developing your English skills, focusing on academic reading, writing, speaking, and listening. The authentic materials from magazines and newspaper will cover a wide range of international and cultural issues. You will be required to submit a series of writing tasks and deliver presentations based on a theme covered during the semester.

LANe100IA

総合英語Ⅱ 【2017 年度以前入学生対象】

喜多 球美

サブタイトル： (7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【春学期】今後の研究やキャリアに必要な英語力を養い、発展させます。プレゼンテーションやライティングなど、準備、発表・提出、そしてフィードバックを通して、トピックに対する理解を深めます。自分の意見を表現することを重視します。

【秋学期】春学期に続けて、研究およびキャリア発展のために必要な英語力を養います。プレゼンテーションやライティングなど、準備、発表・提出、そしてフィードバックを通して、トピックに対する理解を深めます。自分の意見を表現し、相手の意見を理解することを重視します。

【到達目標】

【春学期】・興味関心のある社会・文化的問題を選び、「なぜ興味があるのか」、「なぜこの問題を考えることが重要なのか」など、自分の考えを表現できるようになること。

・プレゼンテーションやライティング課題の準備を通して、アカデミック英語の基礎を身につけること。

【秋学期】・興味関心のある社会・文化的問題を選び、問題提起し、クラスメイトからの意見を理解できるようになること。

・プレゼンテーションやライティング課題の準備を通して、アカデミック英語を身につけ、発展させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

定期的な小テストを行います。会話、ディスカッション、プレゼンテーション、ライティングなど、パフォーマンスで評価しますが、未経験でも心配不要です。準備の段階から、発表、フィードバックまで、すべて授業で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についての説明。今までの英語学習状況についての聞き取り。
2	英語雑誌・英字新聞 1	ハンドアウト 1、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎（意見を述べる）。
3	英語雑誌・英字新聞 2	ハンドアウト 2、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎（意見を述べる）2。
4	英語雑誌・英字新聞 3	ハンドアウト 3、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎（意見を述べる）3。
5	ライティングのフィードバック	ハンドアウト 4、ライティング完成。到達度の確認。
6	英語雑誌・英字新聞 4	ハンドアウト 5、スピーチ準備。
7	英語雑誌・英字新聞 5	ハンドアウト 6、スピーチ実践。
8	英語雑誌・英字新聞 6	ハンドアウト 7、ライティング基礎（問題と解決策）。
9	英語雑誌・英字新聞 7	ハンドアウト 8、ライティング基礎（問題と解決策）2。
10	英語雑誌・英字新聞 8	ハンドアウト 9、ライティング基礎（問題と解決策）3。
11	ライティングのフィードバック	ハンドアウト 10、ライティング完成、到達度の確認。
12	プレゼンテーションについてガイダンス	ハンドアウト 11、プレゼンテーション準備
13	プレゼンテーション	ハンドアウト 12、プレゼンテーション
14	文化紹介	ハンドアウト 13。
15	ガイダンスおよびレベルチェック	授業についての説明。今までの英語学習状況についての聞き取り。
16	英語雑誌・英字新聞 1	ハンドアウト 1、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎（Email の書き方復習）。
17	英語雑誌・英字新聞 2	ハンドアウト 2、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎（Email の書き方発展）2。
18	英語雑誌・英字新聞 3	ハンドアウト 3、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎（意見を述べる）3。

19	Email ライティングのフィードバック	ハンドアウト 4、ライティング完成。到達度の確認。
20	プレゼンテーションについてガイダンス	ハンドアウト 5、グループプレゼンテーション準備。
21	英語雑誌・英字新聞 5	ハンドアウト 6、グループプレゼンテーション準備2。
22	プレゼンテーション	ハンドアウト 7、グループプレゼンテーション発表。
23	プレゼンテーション	ハンドアウト 8、グループプレゼンテーション発表2。
24	英語雑誌・英字新聞 6	ハンドアウト 9、ライティング Review。
25	英語雑誌・英字新聞 7	ハンドアウト 10、ライティング完成。
26	スピーチまたはディスカッション。	ハンドアウト 11。
27	パフォーマンス	到達度の確認。
28	文化紹介	ハンドアウト 12。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の理解度や目的に応じて自主学習が必要となります。定期的な小テストを行うので、復習してください。

【テキスト（教科書）】

ハンドアウト

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

パフォーマンス（小テスト、ライティング課題、スピーチ、プレゼンテーション）60%

平常点（授業内活動）40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

This module is designed to prepare you for your future studies and career in English, whilst developing your English skills, focusing on academic reading, writing, speaking, and listening. The authentic materials from magazines and newspaper will cover a wide range of international and cultural issues. You will be required to submit a series of writing tasks and deliver presentations based on a theme covered during the semester.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）**小川 真也**

サブタイトル：（1）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、1 回の授業で 1 つの Unit を扱う。Unit の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。Unit が終わるごとに復習の小テストを実施する。また、記事に対する意見を英作文する時間も取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Unit 1: Smart Phones Deserve Smart Users	賢い電話と依存症の利用者
3	Unit 2: The Animals in Our Lives	動物のいる生活
4	Unit: 3 Reforming Japan's Education System	日本の教育はどこへ行く？
5	英作文	記事に関して各自の意見を英語でまとめる
6	Unit 4: A Hungry Future	未来が飢えている
7	Unit 5: No More Unwelcome Advertisements	押し売りお断り！
8	Unit 6: A Living Wage	賃金の効果的な払い方
9	英作文	記事に関する各自の意見を英語でまとめる
10	Unit 7: Keeping Mothers on the Payroll	働くママを応援！
11	Unit 8: Slow Life	心豊かな生活
12	Unit 9: Volunteering	広まるボランティア活動と深まる疑問
13	Unit 10: Longevity: a Mixed Blessing	ご長寿万歳！
14	期末テストと解説	期末テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、必ず予習をすること。
小テストを実施するので、予習時にわからなかった箇所を復習すること。

【テキスト（教科書）】

What's Going On in the World?
David Peaty 小林香保里 著、成美堂、2017 年、定価 1,900 円（税別）

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %

欠席回数が 3 回を超える場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）

小川 真也

サブタイトル：（1）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、1 回の授業で 1 つの Unit を扱う。Unit の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。Unit が終わるごとに復習の小テストを実施する。また、記事に対する意見を英作文する時間も取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方説明と英作文
2	Unit 11: The Importance of Biodiversity	生物の多様性が人類を救う
3	Unit 12: A Home for Endangered Storks	コウノトリに優しいまちづくり
4	Unit 13: Japan's Future Energy Supply	再生可能エネルギーの時代
5	英作文	記事に関して各自の意見を英語でまとめる
6	Unit 14: Green Transportation	持続可能な社会の乗り物
7	Unit 15: How Much Is Nature Worth?	あなたは自然にいくら払いますか
8	Unit 16: Business Can Be Green	環境に優しいビジネス
9	Unit 17: Storing Energy	エネルギーはためられない？
10	英作文	記事に関して各自の意見を英語でまとめる
11	Unit 18: A Dollar a Day	貧困を撲滅せよ
12	Unit 19: Beyond Fair Trade	フェアトレードと生産者の自立支援
13	Unit 20: Shrink the Economy, Not the Earth	経済発展は地球を減らす
14	期末テストと解説	期末テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、必ず予習をすること。
小テストを実施するので、予習時にわからなかった箇所を復習すること。

【テキスト（教科書）】

What's Going On in the World?

David Peaty 小林香保里 著、成美堂、2017 年、定価 1,900 円（税別）

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %

欠席回数が 3 回を超える場合は、原則として単位修得を認めない。

授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe200IA

総合英語Ⅲ 【2017 年度以前入学生対象】**小川 真也**

サブタイトル：（1）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、1 回の授業で 1 つの Unit を扱う。Unit の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。Unit が終わるごとに復習の小テストを実施する。また、記事に対する意見を英作文する時間も取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Unit 1: Smart Phones Deserve Smart Users	賢い電話と依存症の利用者
3	Unit 2: The Animals in Our Lives	動物のいる生活
4	Unit: 3 Reforming Japan's Education System	日本の教育はどこへ行く？
5	英作文	記事に関して各自の意見を英語でまとめる
6	Unit 4: A Hungry Future	未来が飢えている
7	Unit 5: No More Unwelcomed Advertisements	押し売りお断り！
8	Unit 6: A Living Wage	賃金の効果的な支払い方
9	英作文	記事に関する各自の意見を英語でまとめる
10	Unit 7: Keeping Mothers on the Payroll	働くママを応援！
11	Unit 8: Slow Life	心豊かな生活
12	Unit 9: Volunteering	広まるボランティア活動と深まる疑念
13	Unit 10: Longevity: a Mixed Blessing	ご長寿万歳！
14	期末テストと解説	期末テストと解説
15	イントロダクション	授業の進め方説明と英作文
16	Unit 11: The Importance of Biodiversity	生物の多様性が人類を救う
17	Unit 12: A Home for Endangered Storks	コウノトリに優しいまちづくり
18	Unit 13: Japan's Future Energy Supply	再生可能エネルギーの時代
19	英作文	記事に関して各自の意見を英語でまとめる
20	Unit 14: Green Transportation	持続可能な社会の乗り物

21	Unit 15 How Much Is Nature Worth?	あなたは自然にいくら払いますか
22	Unit 16: Business Can Be Green	環境に優しいビジネス
23	Unit 17: Storing Energy	エネルギーはためられない？
24	英作文	記事に関して各自の意見を英語でまとめる
25	Unit 18: A Dollar a Day	貧困を撲滅せよ
26	Unit 19: Beyond Fair Trade	フェアトレードと生産者の自立支援
27	Unit 20: Shrink the Economy, Not the Earth	経済発展は地球を減らす
28	期末テストと解説	期末テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、必ず予習をすること。

小テストを実施するので、予習時にわからなかった箇所を復習すること。

【テキスト（教科書）】

What's Going On in the World?

David Peaty 小林香保里 著、成美堂、2017 年、定価 1,900 円（税別）

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %

各学期、欠席回数が 3 回を超える場合は、原則として単位修得を認めない。授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）

石井 創

サブタイトル：（2）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現代社会におけるグローバル化と文化の関係をテーマとする英文を講読します。文章は比較的平易な英語で書かれており、1 文 1 文を丁寧に読みながら、これまで習得してきた文法や語彙の知識を復習していきます。最終的には、ある程度の複雑な構造をもった長い文の意味も把握できるようになること、そしてその文章全体の内容を端的にまとめられるようになることを目指します。

【到達目標】

1. 基礎的な英文法と語彙の知識を定着させる
2. 文構造を意識した英文の意味解釈ができるようになる
3. 文章全体をおおまかに要約し、それを日本語で他人に伝えることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業 2 回分で教科書の 1 つの chapter を終わらせるペースを予定しています。1 回目はその chapter の本文を通読します。本文の各パラグラフを履修者に割り当て、1 文 1 文について日本語訳を発表してもらい、同時に文中で使用されている文法・イディオムとそれらに基づく文構造を確認していきます。また、いわゆる「直訳」では意味が伝わりづらい文を取り上げ、同じ内容を述べる時の日英語の表現法の違いについて履修者に考えてもらいます。2 回目は演習問題の回答を履修者に発表してもらいながら、その chapter で用いられている文法や語彙の復習を行います。また、リスニング（時間が許せばライティングも）の演習も授業内で行います。さらに、授業の最後には小テストを実施し、文法・語彙の確認問題や本文全体のおおまかな内容を説明する問題に取り組んでももらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、自己紹介
第 2 回	Chapter 1 What Non-Japanese People Expect from Japan	本文通読
第 3 回	Chapter 1 What Non-Japanese People Expect from Japan	Exercises 1
第 4 回	Chapter 2 What Inbound Tourists Expect from Japanese People	本文通読
第 5 回	Chapter 2 What Inbound Tourists Expect from Japanese People	Exercises 2
第 6 回	Chapter 3 Productive Intercultural Interactions	本文通読
第 7 回	Chapter 3 Productive Intercultural Interactions	Exercises 3
第 8 回	Chapter 4 Utilizing Silence and Space in Japanese Culture	本文通読
第 9 回	Chapter 4 Utilizing Silence and Space in Japanese Culture	Exercises 4

第 10 回	Chapter 5 The Needs of Hotel Guests	本文通読
第 11 回	Chapter 5 The Needs of Hotel Guests	Exercises 5
第 12 回	Chapter 6 Clear Messages in a Lawsuit Society	本文通読
第 13 回	Chapter 6 Clear Messages in a Lawsuit Society	Exercises 6
第 14 回	学期末まとめ	学習内容の総復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための予習が必要となります。本文の通読を行う回であれば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら、本文全体をなるべく正確に日本語に訳してください。直訳でかまいませんが、そのうえで可能ならば、日本語として意味が通じるように訳を工夫してみてください。本文の内容に馴染みがなければ、web サイトなどでその分野に関する情報を得ておく、内容理解の助けとなるでしょう。演習問題の回であれば、本文の内容を復習しつつ、問題の回答を準備してきてください。

わからない語彙を調べることもせず、「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。

【テキスト（教科書）】

2 回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
小林純子・Brian Bond. (2019). 『総合英語：グローバル化への対処 Coping with Globalization』東京：三修社。（定価 1,836 円）

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験 60%、小テスト 20%、平常点（授業態度、予習状況、宿題など）20%
2. 特別の事情がない限り、欠席が 5 回に達すると単位取得が不可となります。
3. 10 分以上の遅刻を 3 回繰り返すと欠席 1 回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
4. 予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を持参するとよいでしょう。ただしそれは授業中に新たに出た課題のために使用するものであり、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するのは禁止とします。

【その他の重要事項】

履修者の理解度に応じて、教科書の chapter 1 つの消化にかかる時間を調節したり、別のプリント教材を用いて授業を進める等、授業計画は柔軟に変更していきます。

【Outline and objectives】

In this course, we will read passages on topics concerning globalization and individual cultures in the modern society. The passages are written in relatively clear English and we will review the basic grammar and vocabulary which you have acquired, comprehending each sentence in detail. By the end of the semester, hopefully you will be able to understand a long sentence with a complicated grammatical structure and make a summary review of the content of the passage.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）

石井 創

サブタイトル：（2）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現代社会におけるグローバル化と文化の関係をテーマとする英文を講読します。文章は比較的平易な英語で書かれており、1 文 1 文を丁寧に読みながら、これまで習得してきた文法や語彙の知識を復習していきます。最終的には、ある程度の複雑な構造をもった長い文の意味も把握できるようにすること、そしてその文章全体の内容を端的にまとめられるようになることを目指します。

【到達目標】

1. 基礎的な英文法と語彙の知識を定着させる
2. 文構造を意識した英文の意味解釈ができるようになる
3. 文章全体をおおまかに要約し、それを日本語で他人に伝えることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業 2 回分で教科書の 1 つの chapter を終わらせるペースを予定しています。1 回目はその chapter の本文を通読します。本文の各パラグラフを履修者に割り当て、1 文 1 文について日本語訳を発表してもらい、同時に文中で使用されている文法・イディオムとそれらに基づく文構造を確認していきます。また、いわゆる「直訳」では意味が伝わりづらい文を取り上げ、同じ内容を述べる時の日英語の表現法の違いについて履修者に考えてもらいます。2 回目は演習問題の回答を履修者に発表してもらいながら、その chapter で用いられている文法や語彙の復習を行います。また、リスニング（時間が許せばライティングも）の演習も授業内で行います。さらに、授業の最後には小テストを実施し、文法・語彙の確認問題や本文全体のおおまかな内容を説明する問題に取り組んでももらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、春学期の内容振り返り・期末試験の講評
第 2 回	Chapter 7 Information Wars	本文通読
第 3 回	Chapter 7 Information Wars	Exercises 7
第 4 回	Chapter 8 A Victor in Information Wars (1)	本文通読
第 5 回	Chapter 8 A Victor in Information Wars (1)	Exercises 8
第 6 回	Chapter 9 A Victor in Information Wars (2)	本文通読
第 7 回	Chapter 9 A Victor in Information Wars (2)	Exercises 9
第 8 回	Chapter 10 Falling Occupations and Rising Occupations	本文通読
第 9 回	Chapter 10 Falling Occupations and Rising Occupations	Exercises 10
第 10 回	Chapter 11 Fair Survey	本文通読
第 11 回	Chapter 11 Fair Survey	Exercises 11
第 12 回	Chapter 12 Diversifying Risks	本文通読
第 13 回	Chapter 12 Diversifying Risks	Exercises 12
第 14 回	学期末まとめ	学習内容の総復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための予習が必要となります。本文の通読を行う回であれば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら、本文全体をなるべく正確に日本語に訳してください。直訳でかまいませんが、そのうえで可能ならば、日本語として意味が通じるように訳を工夫してみてください。本文の内容に馴染みがなければ、web サイトなどでその分野に関する情報を得ておく、内容理解の助けとなるでしょう。演習問題の回であれば、本文の内容を復習しつつ、問題の回答を準備してきてください。わからない語彙を調べることもせず、「『何がわからないのか』 自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。

【テキスト（教科書）】

小林純子・Brian Bond. (2019). 『総合英語：グローバル化への対処 Coping with Globalization』東京：三修社. (定価 1,836 円)

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験 60%、小テスト 20%、平常点（授業態度、予習状況、宿題など）20%
2. 特別の事情がない限り、欠席が 5 回に達すると単位取得が不可となります。
3. 10 分以上の遅刻を 3 回繰り返すと欠席 1 回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
4. 予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を持参するといでしょう。ただしそれは授業中に新たに出た課題のために使用するものであり、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するのは禁止とします。

【その他の重要事項】

履修者の理解度に応じて、教科書の chapter 1 つの消化にかかる時間を調節したり、別のプリント教材を用いて授業を進める等、授業計画は柔軟に変更していきます。

【Outline and objectives】

In this course, we will read passages on topics concerning globalization and individual cultures in the modern society. The passages are written in relatively clear English and we will review the basic grammar and vocabulary which you have acquired, comprehending each sentence in detail. By the end of the semester, hopefully you will be able to understand a long sentence with a complicated grammatical structure and make a summary review of the content of the passage.

LANe200IA

総合英語Ⅲ 【2017 年度以前入学生対象】

石井 創

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現代社会におけるグローバル化と文化の関係をテーマとする英文を講読します。文章は比較的平易な英語で書かれており、1 文 1 文を丁寧に読みながら、これまで習得してきた文法や語彙の知識を復習していきます。最終的には、ある程度の複雑な構造をもった長い文の意味も把握できるようにすること、そしてその文章全体の内容を端的にまとめられるようになることを目指します。

【到達目標】

1. 基礎的な英文法と語彙の知識を定着させる
2. 文構造を意識した英文の意味解釈ができるようになる
3. 文章全体をおおまかに要約し、それを日本語で他人に伝えることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業 2 回分で教科書の 1 つの chapter を終わらせるペースを予定しています。1 回目はその chapter の本文を通読します。本文の各パラグラフを履修者に割り当て、1 文 1 文について日本語訳を発表してもらい、同時に文中で使用されている文法・イディオムとそれらに基づく文構造を確認していきます。また、いわゆる「直訳」では意味が伝わりづらい文を取り上げ、同じ内容を述べる時の日英語の表現法の違いについて履修者に考えてもらいます。2 回目は演習問題の回答を履修者に発表してもらいながら、その chapter で用いられている文法や語彙の復習を行います。また、リスニング（時間が許せばライティングも）の演習も授業内で行います。さらに、授業の最後には小テストを実施し、文法・語彙の確認問題や本文全体のおおまかな内容を説明する問題に取り組んでももらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、自己紹介 本文通読
第 2 回	Chapter 1 What Non-Japanese People Expect from Japan	本文通読
第 3 回	Chapter 1 What Non-Japanese People Expect from Japan	Exercises 1
第 4 回	Chapter 2 What Inbound Tourists Expect from Japanese People	本文通読
第 5 回	Chapter 2 What Inbound Tourists Expect from Japanese People	Exercises 2
第 6 回	Chapter 3 Productive Intercultural Interactions	本文通読
第 7 回	Chapter 3 Productive Intercultural Interactions	Exercises 3
第 8 回	Chapter 4 Utilizing Silence and Space in Japanese Culture	本文通読
第 9 回	Chapter 4 Utilizing Silence and Space in Japanese Culture	Exercises 4
第 10 回	Chapter 5 The Needs of Hotel Guests	本文通読

第 11 回	Chapter 5 The Needs of Hotel Guests	Exercises 5
第 12 回	Chapter 6 Clear Messages in a Lawsuit Society	本文通読
第 13 回	Chapter 6 Clear Messages in a Lawsuit Society	Exercises 6
第 14 回	春学期まとめ	学習内容の総復習、期末試験
第 15 回	秋学期ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、春学期の内容振り返り・期末試験の講評 本文通読
第 16 回	Chapter 7 Information Wars	本文通読
第 17 回	Chapter 7 Information Wars	Exercises 7
第 18 回	Chapter 8 A Victor in Information Wars (1)	本文通読
第 19 回	Chapter 8 A Victor in Information Wars (1)	Exercises 8
第 20 回	Chapter 9 A Victor in Information Wars (2)	本文通読
第 21 回	Chapter 9 A Victor in Information Wars (2)	Exercises 9
第 22 回	Chapter 10 Falling Occupations and Rising Occupations	本文通読
第 23 回	Chapter 10 Falling Occupations and Rising Occupations	Exercises 10
第 24 回	Chapter 11 Fair Survey	本文通読
第 25 回	Chapter 11 Fair Survey	Exercises 11
第 26 回	Chapter 12 Diversifying Risks	本文通読
第 27 回	Chapter 12 Diversifying Risks	Exercises 12
第 28 回	秋学期まとめ	学習内容の総復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための予習が必要となります。本文の通読を行う回であれば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら、本文全体をなるべく正確に日本語に訳してください。直訳でかまいませんが、そのうえで可能ならば、日本語として意味が通じるように訳を工夫してみてください。本文の内容に馴染みがなければ、web サイトなどでその分野に関する情報を得ておく、内容理解の助けとなるでしょう。演習問題の回であれば、本文の内容を復習しつつ、問題の回答を準備してきてください。わからない語彙を調べることもせず、「『何がわからないのか』 自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。

【テキスト（教科書）】

2 回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
小林純子・Brian Bond. (2019). 『総合英語：グローバル化への対処 Coping with Globalization』東京：三修社. (定価 1,836 円)

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験 60%、小テスト 20%、平常点（授業態度、予習状況、宿題など）20%
2. 特別の事情がない限り、通年で欠席が 10 回に達すると単位取得が不可となります。
3. 10 分以上の遅刻を 3 回繰り返すと欠席 1 回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
4. 予習をまったく行っていない場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を持参するといでしょう。ただしそれは授業中に新たに出た課題のために使用するものであり、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するのは禁止とします。

【その他の重要事項】

履修者の理解度に応じて、教科書の chapter 1 つの消化にかかる時間を調節したり、別のプリント教材を用いて授業を進める等、授業計画は柔軟に変更していきます。

【Outline and objectives】

In this course, we will read passages on topics concerning globalization and individual cultures in the modern society. The passages are written in relatively clear English and we will review the basic grammar and vocabulary which you have acquired, comprehending each sentence in detail. By the end of the school year, hopefully you will be able to understand a long sentence with a complicated grammatical structure and make a summary review of the content of the passage.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）

相馬 美明

サブタイトル：（3）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解問題を基軸とし、加えて日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】

テキストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、年間計画、諸注意など	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	American and Japanese Universities	Lesson 1, Film ①
3	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ①～②, Your Song, Questions
4	What Is a 'Good College'?	Lesson 2, Chimpanzee, Film ②
5	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ③
6	Mankind's Unique Sense of Humour	Lesson 3, Film ③～④, Top of the world, Questions
7	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ⑤
8	June Bride or Rainy Season Bride	Lesson 4, Film ⑤～⑥
9	Power Exercises + a, レポート内容説明、指示	Power Exercises, Film ⑥, レポート内容説明、指示
10	Japanese Civilization	Lesson 5, The sound of silence, Film ⑥～⑦
11	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ⑧
12	Culture in Our Lives	Lesson 6, Film ⑧～⑨
13	Power Exercises + a, まとめ、レポート提出	Power Exercises, Film ⑨～⑩, レポート提出
14	Film まとめ、リスニングの最終確認、	Film まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用する

【参考書】

必要に応じ、適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50％）、レポート（10％）、平常点（30％）、プレゼンテーション（10％）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。

レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

プレゼンテーション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their English proficiency through reading articles on current topics and also focuses on transferable literacy skills that will assist you in academic writing. Attendance is mandatory, your active participation will be needed.

LANe200IA

総合英語Ⅲ (b)

相馬 美明

サブタイトル： (3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解問題を基軸とし、加えて日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】

テキストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期予定確認	秋学期予定確認, リスニング問題, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
2	Earthquake	Lesson 7, Excellent power of memory, Film ①
3	Power Exercises + a	Exercise 10, Coin changer, Film ①
4	Human Creativity	Power Exercises, The Diplomacy, Film ①～②
5	Power Exercises + a, プレゼンテーション説明	Power Exercises, プレゼンテーションについて指示、説明
6	The Importance of the Medical Checkup	Lesson 9, Film ②, She's got a way.
7	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ②～③
8	Is Drinking Harmful?	Lesson 10, Film ③, The Story of O-TEL.
9	Power Exercises + a, レポート内容説明、指示	Power Exercises, Film ③～④, レポート内容説明、指示
10	プレゼンテーション準備	Exercise まとめ、力だめし
11	プレゼンテーション 1	プレゼンテーション 1
12	プレゼンテーション 2	プレゼンテーション 2
13	プレゼンテーション 3	プレゼンテーション 3
	レポート提出	レポート提出
14	Film まとめ、リスニングの最終確認、	Film まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用する。

【参考書】

必要に応じ、適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50 %）、レポート（10 %）、平常点（30 %）、プレゼンテーション（10 %）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。

レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

プレゼンテーション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their English proficiency through reading articles on current topics and also focuses on transferable literacy skills that will assist you in academic writing. Attendance is mandatory, your active participation will be needed.

LANe200IA

総合英語Ⅲ 【2017 年度以前入学生対象】

相馬 美明

サブタイトル： (3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解問題を基軸とし、加えて日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】

テキストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、年間計画、諸注意など	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	American and Japanese Universities	Lesson 1, Film ①
3	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ①～②, Your Song, Questions
4	What Is a 'Good College'?	Lesson 2, Chimpanzee, Film ②
5	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ③
6	Mankind's Unique Sense of Humour	Lesson 3, Film ③～④, Top of the world, Questions
7	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ⑤
8	June Bride or Rainy Season Bride	Lesson 4, Film ⑤～⑥
9	Power Exercises + a, レポート内容説明、指示	Power Exercises, Film ⑥, レポート内容説明、指示
10	Japanese Civilization	Lesson 5, The sound of silence, Film ⑥～⑦
11	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ⑧
12	Culture in Our Lives	Lesson 6, Film ⑧～⑨
13	Power Exercises + a, まとめ	Power Exercises, Film ⑨～⑩
14	Film まとめ、リスニングの最終確認、レポート提出	Film まとめ、リスニングの最終確認、レポート提出
15	秋学期予定確認	秋学期予定確認、リスニング問題、Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
16	Earthquake	Lesson 7, Excellent power of memory, Film ①
17	Power Exercises + a	Exercise 10, Coin changer, Film ①
18	Human Creativity	Power Exercises, The Diplomacy, Film ①～②
19	Power Exercises + a, プレゼンテーションについて指示、説明	Power Exercises, プレゼンテーションについて指示、説明
20	The Importance of the Medical Checkup	Lesson 9, Film ②, She's got a way.
21	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ②～③
22	Is Drinking Harmful?	Lesson 10, Film ③, The Story of O-TEL.
23	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ③～④
24	プレゼンテーション準備	Exercise まとめ、力だめし
25	プレゼンテーション 1	プレゼンテーション 1
26	プレゼンテーション 2	プレゼンテーション 2
27	プレゼンテーション 3	プレゼンテーション 3
28	学期末まとめ	学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけたい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用する

【参考書】

必要に応じ、適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50％）、レポート（10％）、平常点（30％）、プレゼンテーション（10％）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。

レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

プレゼンテーション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their English proficiency through reading articles on current topics and also focuses on transferable literacy skills that will assist you in academic writing. Attendance is mandatory, your active participation will be needed.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）

浦川 智子

サブタイトル：（4）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2年次／1単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスに関する Dialogue と Passage の 2 つの英文を扱うにあたり、次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。リスニングの演習を通して英語の発音などの特徴を理解する。

【到達目標】

辞書を使いながら、テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、日本とは異なる文化や社会に興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として 1 回の授業で Unit1 つ扱うので、その Unit の単語や構文、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。授業の進捗によって授業計画に若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 1	Arriving in London
3	Unit 2	London's museums and art galleries
4	Unit 3	Royal palaces and castles
5	Unit 4	Sports venues
6	Unit 5	Shopping in London
7	Unit 1～5	Unit 1～5 のまとめ
8	Unit 6	Canterbury
9	Unit 7	Cheddar, Wells and Glastonbury
10	Unit 8	Cheltenham and Broadway
11	Unit 9	Chester
12	Unit 6～9、プレゼンテーション (1)	Unit 6～9 のまとめ、グループ・プレゼンテーション
13	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション
14	試験とまとめ	学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。

【テキスト（教科書）】

相澤一美、伊藤典子、Richard Powell 著、『Touring Britain: Language and Travel Tips (英国探訪)』朝日出版、2012 年。

【参考書】

特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な姿勢、提出物等）：20%、プレゼンテーション：20%、期末試験：60%、合計 100%として評価する。60 %以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容だけでなく、リーディングやリスニングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】

The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the dialogue and the passage, and to improve pronunciation.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）**浦川 智子**

サブタイトル：（4）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスに関する Dialogue と Passage の 2 つの英文を扱うにあたり、次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。リスニングの演習を通して英語の発音などの特徴を理解する。

【到達目標】

辞書を使いながら、テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、日本とは異なる文化や社会に興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として 1 回の授業で Unit1 つ扱うので、その Unit の単語や構文、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。授業の進度によって授業計画に若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 10	The Yorkshire Dales
3	Unit 11	Newcastle-upon-Tyne
4	Unit 12	Swansea and Gower
5	Unit 13	Brecon Beacons
6	Unit 14	Conwy and Caernarfon
7	Unit 10～14	Unit 10～14 のまとめ
8	Unit 15	Edinburgh
9	Unit 16	Glasgow
10	Unit 17	The Isle of Skye
11	Unit 18	Belfast
12	Unit 15～18、プレゼンテーション (1)	Unit 15～18 のまとめ、グループ・プレゼンテーション
13	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション
14	試験とまとめ	学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。

【テキスト（教科書）】

相澤一美、伊藤典子、Richard Powell 著、『Touring Britain: Language and Travel Tips (英国探訪)』朝日出版、2012 年。

【参考書】

特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な姿勢、提出物等）：20%、プレゼンテーション：20%、期末試験：60%、合計 100%として評価する。60 %以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容だけでなく、リーディングやリスニングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】

The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the dialogue and the passage, and to improve pronunciation.

LANe200IA

総合英語Ⅲ 【2017 年度以前入学生対象】**浦川 智子**

サブタイトル：（4）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスに関する Dialogue と Passage の 2 つの英文を扱うにあたり、次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。リスニングの演習を通して英語の発音などの特徴を理解する。

【到達目標】

辞書を使いながら、テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、日本とは異なる文化や社会に興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として 1 回の授業で Unit1 つ扱うので、その Unit の単語や構文、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。授業の進度によって授業計画に若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 1	Arriving in London
3	Unit 2	London's museums and art galleries
4	Unit 3	Royal palaces and castles
5	Unit 4	Sports venues
6	Unit 5	Shopping in London
7	Unit 1～5	Unit 1～5 のまとめ
8	Unit 6	Canterbury
9	Unit 7	Cheddar, Wells and Glastonbury
10	Unit 8	Cheltenham and Broadway
11	Unit 9	Chester
12	Unit 6～9、プレゼンテーション (1)	Unit 6～9 のまとめ、グループ・プレゼンテーション
13	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション
14	試験とまとめ	春学期の学習到達度をはかる
15	イントロダクション	学期の授業計画等のガイダンス
16	Unit 10	The Yorkshire Dales
17	Unit 11	Newcastle-upon-Tyne
18	Unit 12	Swansea and Gower
19	Unit 13	Brecon Beacons
20	Unit 14	Conwy and Caernarfon
21	Unit 10～14	Unit 10～14
22	Unit 15	Edinburgh
23	Unit 16	Glasgow
24	Unit 17	The Isle of Skye
25	Unit 18	Belfast
26	Unit 15～18、プレゼンテーション (1)	Unit 15～18 のまとめ、グループ・プレゼンテーション
27	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション
28	試験とまとめ	秋学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。

【テキスト（教科書）】

相澤一美、伊藤典子、Richard Powell 著、『Touring Britain: Language and Travel Tips (英国探訪)』朝日出版、2012 年。

【参考書】

特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な姿勢、提出物等）：20%、プレゼンテーション：20%、期末試験：60%、合計 100%として評価する。60 %以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容だけでなく、リーディングやリスニングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】

The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the dialogue and the passage, and to improve pronunciation.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）

式町 眞紀子

サブタイトル：（5）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各国に取材した映像ニュースやドキュメンタリーで構成されるレッスンユニット毎に、リスニングとリーディングふたつのスキルで内容確認、エクササイズなどインプット活動を基本として行い、応用としてディスカッションの機会を持ち、意見をまとめたり学習した表現を使ったりなどのアウトプット活動も行い、手段としての英語を実感するために複合的に取り組みます。また、イギリス英語とアメリカ英語の差異の実際についても授業を通して学びます。

【到達目標】

リスニングを通して、他の英語の運用能力であるリーディング、ライティング、スピーキングをバランスよく伸ばします。
また、テキストがイギリスの放送局（一部海外局）による取材および編集ということから、他者の目を通して見る世界について、日本ではどうか、日本人としてはどう感じるのかを考え、日本を知り、世界を知り、自分なりに意見をもち発言できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

BBC(the British Broadcasting Corporation) 作成のドキュメンタリーを素材とした DVD を視聴し、"Science and Technology", "Society and Sports", "World Interests" の三つのジャンルに分類される各ユニットにおいて、基本的には（１）トピックに関する掘り起こし、（２）Video clips の内容理解、（３）サマリーの作成、そして（４）応用演習という流れで展開します。ひととおり耳から理解したうえで、今度はナレーションスクリプト（原稿）を用い、読解に取り組むことでトピックの内容をより深く理解します。また、ユニットを一つ仕上げる毎に、単語テストを行って語彙力増強を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、ガイダンス	クラスメンバーの自己紹介や授業の進め方などを中心に行います。
2	Unit1: Laughter	Unit1（前半）DVD 視聴につづいて演習を行います。
3	Unit1: Laughter	Unit1（後半）映像に関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
4	Unit2: Hats	Unit2（前半）DVD 視聴につづいて演習を行います。
5	Unit2: Hats	Unit2（後半）映像に関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
6	Unit3: Sphinx's Nose	Unit3（前半）DVD 視聴につづいて演習を行います。
7	Unit3: Sphinx's Nose	Unit3（後半）映像に関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
8	Midterm	レヴュー。これまでの振り返りを学期後半への指針として行います。
9	Unit4: Terracotta Warriors	Unit4（前半）DVD 視聴につづいて演習を行います。
10	Unit4: Terracotta Warriors	Unit4（後半）映像に関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
11	Unit5: Silver and Platinum	Unit5（前半）DVD 視聴につづいて演習を行います。
12	Unit5: Silver and Platinum	Unit5（後半）映像に関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
13	Term-end Review(1)	学期末レヴューその 1 プレゼンテーション
14	Term-end Review(2)	学期末レヴューその 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各ユニット共通の予習として、Vocabulary Matching/ Drag-and Drop を済ませて授業に臨むこと。ユニット全体には事前に目を通し、大まかな流れを把握し、不明な単語は調べておくこと。曖昧なまま授業に参加したことが明らかな場合は、授業参加態度から控除します。復習としては、授業で間違えた問題のやり直し、明確に聞き取れなかった語やフレーズを重点的にやり直すこと。授業で指摘した文法事項は覚えるまで復習すること。分かったつもりは厳禁です。予習・復習は、それぞれ授業時間数に相当するものとします。

【テキスト（教科書）】

Cuong Huynh, Tadayoshi Kaya, Reiko Takahasi『BBC World Profile on DVD』南雲堂 2013

【参考書】

英英辞典（各種）、マイケル・スワン著吉田正治訳『オックスフォード実例現代英語用法辞典第4版』研究社、オックスフォード大学出版局（2018）など。語彙力向上に役立つ辞書の活用の仕方を中心に、必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%（授業時の発表状況、練習問題に対する取り組みなど）、中間・期末試験 40%、小テスト 30%（単語テスト、ディクテーションなど）と配分し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

文法について細かく解説や、学生に対する問い掛けがあり理解が深まった。学生ひとりひとりに丁寧に対応してもらえたのが良かった。など、概ね好評であることを励上記授業計画を目安としますが、受講者の理解度に応じて適宜調整してより効果的な授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

授業については、受講者の理解度に応じて適宜授業内容を調整することもあります。

一般的なことについては、大学生になると様々な場面で自己管理が求められるようになることを、各自がしっかりと認識することを望みます。

【Outline and objectives】

To develop reading comprehension skills through visual materials and understanding of text organization.

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）

式町 眞紀子

サブタイトル：（5）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各国に取材した映像ニュースやドキュメンタリーで構成されるレッスンユニット毎に、リスニングとリーディングふたつのスキルで内容確認、エクササイズなどインプット活動を基本として行い、応用としてディスカッションの機会を持ち、意見をまとめたり学習した表現を使ったりなどのアウトプット活動も行い、手段としての英語を実感するために複合的に取り組みます。また、イギリス英語とアメリカ英語の差異の実際についても授業を通して体験します。

【到達目標】

春学期に引き続き、リスニングを通して、他の英語の運用能力であるリーディング、ライティング、スピーキングをバランスよく伸ばします。また、テキストがイギリスの放送局（一部海外局）による取材および編集ということから、他者の目を通して見る世界について、日本ではどうか、日本人としてはどう感じるのかを考え、日本を知り、世界を知り、自分なりに意見をもち発言できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

BBC(the British Broadcasting Corporation) 作成のドキュメンタリーを素材とした DVD を視聴し、"Science and Technology", "Society and Sports", "World Interests" の三つのジャンルに分類される各ユニットにおいて、基本的には（１）トピックに関する掘り起こし、（２）Video clips の内容理解、（３）サマリーの作成、そして（４）応用演習という流れで展開します。ひととおり耳から理解したうえで、今度はナレーションスクリプト（原稿）を用い、読解に取り組むことでトピックの内容をより深く理解します。また、ユニットを一つ仕上げる毎に、単語テストを行って語彙力増強を図ります。秋学期は、中間以降は１回につき１ユニットを仕上げられるようにスピードアップを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、ガイダンス	春学期の振り返りと今学期の方針や授業の進め方などについて
2	Unit6: Athens	DVD 視聴につづいて演習を行います。上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
3	Unit6: Athens	DVD 視聴につづいて演習を行います。上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
4	Unit7: Skydiving	DVD 視聴につづいて演習を行います。上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
5	Unit7: Skydiving	DVD 視聴につづいて演習を行います。上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
6	Unit8: Food and Society	DVD 視聴につづいて演習を行います。上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
7	Unit8: Food and Society	DVD 視聴につづいて演習を行います。上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
8	Midterm	レビュー。これまでの振り返りを学期後半への指針として行います。
9	Unit11: Car Recycling	DVD 視聴につづいて演習を行います。上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
10	Unit12: Hi-Tech Farming	DVD 視聴につづいて演習を行います。上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
11	Unit13: Honolulu	DVD 視聴につづいて演習を行います。上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
12	Unit14: Life on Volcanoes	DVD 視聴につづいて演習を行います。上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
13	Term-end Review(1)	学期末レビューその 1 プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各ユニット共通の予習として、Vocabulary Matching/ Drag-and Drop を済ませて授業に臨むこと。ユニット全体には事前に目を通し、大まかな流れを把握し、不明な単語は調べておくこと。曖昧なまま授業に参加したことが明らかな場合は、授業参加態度から控除します。復習としては、授業で間違えた問題のやり直し、明確に聞き取れなかった語やフレーズを重点的にやり直すこと。授業で指摘した文法事項は覚えるまで復習すること。分かったつもりは厳禁です。予習・復習は、それぞれ授業時間数に相当するものとします。

【テキスト（教科書）】

Cuong Huynh, Tadayoshi Kaya, Reiko Takahasi『BBC World Profile on DVD』南雲堂 2013

【参考書】

英英辞典（各種）、マイケル・スワン著吉田正治訳『オックスフォード実例現代英語用法辞典第4版』研究社、オックスフォード大学出版局（2018）など。語彙力向上に役立つ辞書の活用の仕方を中心に、必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%（授業時の発表状況、練習問題に対する取り組みなど）、中間・期末試験 40%、小テスト 30%（単語テスト、ディクテーションなど）と配分し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

文法について細かく解説や、学生に対する問い掛けがあり理解が深まった。学生ひとりひとりに丁寧に対応してもらえたのが良かった。など、概ね好評であることを励上記授業計画を目安としますが、受講者の理解度に応じて適宜調整してより効果的な授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

授業については、受講者の理解度に応じて適宜授業内容を調整することもあります。一般的なことについては、大学生になると様々な場面で自己管理が求められるようになることを、各自がしっかりと認識することを望みます。

【Outline and objectives】

To develop reading comprehension skills through visual materials and understanding of text organization.
Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

LANe200IA

総合英語Ⅲ 【2017 年度以前入学生対象】

式町 眞紀子

サブタイトル： (5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各国に取材した映像ニュースやドキュメンタリーで構成されるレッスンユニット毎に、リスニングとリーディングふたつのスキルで内容確認、エクササイズなどインプット活動を基本として行い、応用としてディスカッションの機会を持ち、意見をまとめたり学習した表現を使ったりなどのアウトプット活動も行い、手段としての英語を実感するために複合的に取り組みます。また、イギリス英語とアメリカ英語の差異の実際についても授業を通して学びます。

【到達目標】

リスニングを通して、他の英語の運用能力であるリーディング、ライティング、スピーキングをバランスよく伸ばします。また、テキストがイギリスの放送局（一部海外局）による取材および編集ということから、他者の目を通して見る世界について、日本ではどうか、日本人としてはどう感じるのかを考え、日本を知り、世界を知り、自分なりに意見をもち発言できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

BBC(the British Broadcasting Corporation) 作成のドキュメンタリーを素材とした DVD を視聴し、"Science and Technology", "Society and Sports", "World Interests" の三つのジャンルに分類される各ユニットにおいて、基本的には（１）トピックに関する掘り起こし、（２）Video clips の内容理解、（３）サマリーの作成、そして（４）応用演習という流れで展開します。ひととおり耳から理解したうえで、今度はナレーションスクリプト（原稿）を用い、読解に取り組むことでトピックの内容をより深く理解します。また、ユニットを一つ仕上げる毎に、単語テストを行って語彙力増強を図ります。秋学期は、中間以降は１回につき１ユニットを仕上げられるようにスピードアップを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、ガイダンス	クラスメンバーの自己紹介や授業の進め方などを中心に行います。
2	Unit1: Laughter	Unit1（前半）DVD 視聴につづいて演習を行います。
3	Unit1: Laughter	Unit1（後半）映像に関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
4	Unit2: Hats	Unit2（前半）DVD 視聴につづいて演習を行います。
5	Unit2: Hats	Unit2（後半）映像に関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
6	Unit3: Sphinx's Nose	Unit3（前半）DVD 視聴につづいて演習を行います。
7	Unit3: Sphinx's Nose	Unit3（後半）映像に関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
8	Midterm	レビュー。これまでの振り返りを学期後半への指針として行います。
9	Unit4: Terracotta Warriors	Unit4（前半）DVD 視聴につづいて演習を行います。
10	Unit4: Terracotta Warriors	Unit4（後半）映像に関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
11	Unit5: Silver and Platinum	Unit5（前半）DVD 視聴につづいて演習を行います。
12	Unit5: Silver and Platinum	Unit5（後半）映像に関連する英文の読解および練習問題、意見交換を行います。
13	Term-end Review(1)	学期末レビューその 1 プレゼンテーション
14	Term-end Review(2)	学期末レビューその 2
15	オリエンテーション、ガイダンス	春学期の振り返りと今学期の方針や授業の進め方などについて
16	Unit6: Athens	DVD 視聴につづいて演習を行います。 上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。

17	Unit6: Athens	DVD 視聴につづいて演習を行います。 上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
18	Unit7: Skydiving	DVD 視聴につづいて演習を行います。 上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
19	Unit7: Skydiving	DVD 視聴につづいて演習を行います。 上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
20	Unit8: Food and Society	DVD 視聴につづいて演習を行います。 上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
21	Unit8: Food and Society	DVD 視聴につづいて演習を行います。 上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
22	Midterm	レビュー。これまでの振り返りを学期後半への指針として行います。
23	Unit11: Car Recycling	DVD 視聴につづいて演習を行います。 上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
24	Unit12: Hi-Tech Farming	DVD 視聴につづいて演習を行います。 上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
25	Unit13: Honolulu	DVD 視聴につづいて演習を行います。 上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
26	Unit14: Life on Volcanoes	DVD 視聴につづいて演習を行います。 上掲「授業の進め方と方法」を参照のこと。
27	Term-end Review(1)	学期末レビューその 1 プレゼンテーション
28	Term-end Review(2)	学期末レビューその 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各ユニット共通の予習として、Vocabulary Matching/ Drag-and Drop を済ませて授業に臨むこと。ユニット全体には事前に目を通し、大まかな流れを把握し、不明な単語は調べておくこと。曖昧なまま授業に参加したことが明らかな場合は、授業参加態度から控除します。復習としては、授業で間違えた問題のやり直し、明確に聞き取れなかった語やフレーズを重点的にやり直すこと。授業で指摘した文法事項は覚えるまで復習すること。分かったつもりは厳禁です。予習・復習は、それぞれ授業時間数に相当するものとします。

【テキスト（教科書）】

Cuong Huynh, Tadayoshi Kaya, Reiko Takahasi『BBC World Profile on DVD』南雲堂 2013

【参考書】

英英辞典（各種）、マイケル・スワン著吉田正治訳『オックスフォード実例現代英語用法辞典第4版』研究社、オックスフォード大学出版局（2018）など。語彙力向上に役立つ辞書の活用の仕方を中心に、必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%（授業時の発表状況、練習問題に対する取り組みなど）、中間・期末試験 40%、小テスト 30%（単語テスト、ディクテーションなど）と配分し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

文法について細かく解説や、学生に対する問い掛けがあり理解が深まった。学生ひとりひとりに丁寧に対応してもらえたのが良かった。など、概ね好評であることを励上記授業計画を目安としますが、受講者の理解度に応じて適宜調整してより効果的な授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

授業については、受講者の理解度に応じて適宜授業内容を調整することもあります。一般的なことについては、大学生になると様々な場面で自己管理が求められるようになることを、各自がしっかりと認識することを望みます。

【Outline and objectives】

To develop reading comprehension skills through visual materials and understanding of text organization.
Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）

URBANOVA Jana

サブタイトル：（6）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication and understanding in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on reading abilities. You will practice and learn to understand the written text, as well as to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parrotting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Working life	Watching video (TED Talks); Speaking exercise: giving mini-presentation about your job/studies (pair work); Grammar: present simple, expressions of frequency
Week 3	Unit 1 Working life	Reading exercise: skills for the 21st century; Listening exercise: asking about jobs; Writing assignment: a formal letter inquiring about a job
Week 4	Unit 2 Trends	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Speaking exercise: critical thinking about leadership and following others; Presentation tips
Week 5	Unit 2 Trends	Grammar: present simple and present continuous; Reading exercise: identifying trends; Writing exercise: formal and informal emails; Speaking: meetings and introductions, group work
Week 6	Unit 3 Money	Explanation of presentation No. 1 (parrotting); Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Grammar: countable and uncountable nouns, expressions of quantity
Week 7	Unit 3 Money	Reading exercise: financial literacy; Vocabulary review; Speaking: critical thinking – talking about money, pair & group work
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parrotting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2

Week 9	Unit 4 Success	Watching video (TED Talks); Key words review; Grammar explanation and practice: past simple, past continuous, past perfect; Speaking: critical thinking – key factors for success in life
Week 10	Unit 4 Success	Reading exercise: topic about reward and motivation; Speaking: giving reasons for actions; Writing exercise: prepositions in messages
Week 11	Unit 5 Marketing	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Grammar: comparatives and superlatives; Speaking: critical thinking – companies giving control to customers
Week 12	Unit 5 Marketing	Reading with comprehension: effective marketing; Speaking exercise: comparison, pair work
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

Paul Dummett, Helen Stephenson & Lewis Lansford: Keynote Intermediate, Cengage Learning, 2016. Student's Book + Online Workbook Code ISBN: 978-1-305-88061-0

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test. Your work will be evaluated as follows:

- Class attendance and active participation: 20%

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Learning English for active communication and understanding in the international environment

LANe200IA

総合英語Ⅲ (b)

URBANOVA Jana

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication and understanding in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on reading abilities. You will practice and learn to understand the written text, as well as to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Communication	Watching video (TED Talks); Key words; Speaking exercise: giving mini-presentation about your interests/hobbies or area of study (pair work); Grammar: Verb patterns with infinitive and -ing
Week 3	Unit 6 Communication	Reading exercise: good communication; Listening and speaking exercise: small talk; Writing assignment: short emails
Week 4	Unit 7 Experience	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Speaking exercise: critical thinking about a speaker's authority and credibility; Presentation tips
Week 5	Unit 7 Experience	Grammar: present perfect simple; Reading exercise: encouraging diversity; Vocabulary; Speaking: life experiences
Week 6	Unit 8 Seeing the future	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Watching video (TED Talks); Key vocabulary; Grammar: future predictions (will/might)
Week 7	Unit 8 Seeing the future	Reading exercise: new gadgets; Speaking: phrases in telephoning, pair work; Writing assignment: reported speech
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Being effective	Watching video (TED Talks); Key words review; Grammar explanation and practice: zero and first conditional; Speaking: critical thinking – identifying the main idea of a speech

Week 10	Unit 9 Being effective	Reading exercise: small details matter; Speaking: giving instructions
Week 11	Unit 10 The environment	Watching video (TED Talks); Key words review; Grammar: comparatives and superlatives; Speaking: critical thinking – recognizing tone of a speaker
Week 12	Unit 10 The environment	Reading with comprehension: greenhouse gas emissions; Speaking exercise: ways to save the environment, pair & group work
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a poem

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

Paul Dummett, Helen Stephenson & Lewis Lansford: Keynote Intermediate, Cengage Learning, 2016. Student's Book + Online Workbook Code ISBN: 978-1-305-88061-0

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

Your work will be evaluated as follows:

- Class attendance and active participation: 20%

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Learning English for active communication and understanding in the international environment

LANe200IA

総合英語Ⅲ 【2017年度以前入学生対象】

URBANOVA Jana

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2年次／2単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication and understanding in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on reading abilities. You will practice and learn to understand the written text, as well as to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Working life	Watching video (TED Talks); Speaking exercise: giving mini-presentation about your job/studies (pair work); Grammar: present simple, expressions of frequency
Week 3	Unit 1 Working life	Reading exercise: skills for the 21st century; Listening exercise: asking about jobs; Writing assignment: a formal letter inquiring about a job
Week 4	Unit 2 Trends	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Speaking exercise: critical thinking about leadership and following others; Presentation tips
Week 5	Unit 2 Trends	Grammar: present simple and present continuous; Reading exercise: identifying trends; Writing exercise: formal and informal emails; Speaking: meetings and introductions, group work
Week 6	Unit 3 Money	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Grammar: countable and uncountable nouns, expressions of quantity
Week 7	Unit 3 Money	Reading exercise: financial literacy; Vocabulary review; Speaking: critical thinking – talking about money, pair & group work
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2

Week 9	Unit 4 Success	Watching video (TED Talks); Key words review; Grammar explanation and practice: past simple, past continuous, past perfect; Speaking: critical thinking – key factors for success in life	【参考書】 English to English dictionary: https://dictionary.cambridge.org/ Further references will be provided by the instructor during the class.
Week 10	Unit 4 Success	Reading exercise: topic about reward and motivation; Speaking: giving reasons for actions; Writing exercise: prepositions in messages	【成績評価の方法と基準】 Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test. Your work will be evaluated as follows: - Class attendance and active participation: 20% - Writing assignments and tests: 40% - Presentations: 40%
Week 11	Unit 5 Marketing	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Grammar: comparatives and superlatives; Speaking: critical thinking – companies giving control to customers	【学生の意見等からの気づき】 Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.
Week 12	Unit 5 Marketing	Reading with comprehension: effective marketing; Speaking exercise: comparison, pair work	The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic	【学生が準備すべき機器他】 Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a song	【Outline and objectives】 Learning English for active communication and understanding in the international environment
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester	
Week 2	Unit 6 Communication	Watching video (TED Talks); Key words; Speaking exercise: giving mini-presentation about your interests/hobbies or area of study (pair work); Grammar: Verb patterns with infinitive and -ing	
Week 3	Unit 6 Communication	Reading exercise: good communication; Listening and speaking exercise: small talk; Writing assignment: short emails	
Week 4	Unit 7 Experience	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Speaking exercise: critical thinking about a speaker's authority and credibility; Presentation tips	
Week 5	Unit 7 Experience	Grammar: present perfect simple; Reading exercise: encouraging diversity; Vocabulary; Speaking: life experiences	
Week 6	Unit 8 Seeing the future	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Watching video (TED Talks); Key vocabulary; Grammar: future predictions (will/might)	
Week 7	Unit 8 Seeing the future	Reading exercise: new gadgets; Speaking: phrases in telephoning, pair work; Writing assignment: reported speech	
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2	
Week 9	Unit 9 Being effective	Watching video (TED Talks); Key words review; Grammar explanation and practice: zero and first conditional; Speaking: critical thinking – identifying the main idea of a speech	
Week 10	Unit 9 Being effective	Reading exercise: small details matter; Speaking: giving instructions	
Week 11	Unit 10 The environment	Watching video (TED Talks); Key words review; Grammar: comparatives and superlatives; Speaking: critical thinking – recognizing tone of a speaker	
Week 12	Unit 10 The environment	Reading with comprehension: greenhouse gas emissions; Speaking exercise: ways to save the environment, pair & group work	
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic	
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a poem	
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.			
【テキスト（教科書）】 Paul Dummett, Helen Stephenson & Lewis Lansford: Keynote Intermediate, Cengage Learning, 2016. Student's Book + Online Workbook Code ISBN: 978-1-305-88061-0			

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）

蒔田 裕美

サブタイトル：（7）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス社会や文化に関する記事の精読を行うことにより、英語の読解力と語彙力を培うことを目的とする。

【到達目標】

学生が辞書を使いながら、内容を正確に把握できる英文の読解力を身につけることを目標とする。
英語の発音記号を理解し、正しい音読ができる。
テキストを精読することにより、イギリスの文化や歴史を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

学生は発音記号を学び、英語の音声聞き分け、正しく発音する訓練を行う。読解のためのスキルを説明した後、学生は語彙力を強化する問題、内容理解問題、リスニングの練習を各章ごとに行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方を確認し、予習の仕方などの確認を行う。
2	Unit1: Repairing Big Ben	Building vocabulary Reading
3	Unit1: Repairing Big Ben	Understanding Check Making a Summary
4	Unit2: Learning to Walk Again	Building vocabulary Reading
5	Unit2: Learning to Walk Again	Understanding Check Making a Summary
6	Unit3: A Secret Garden in London	Building vocabulary Reading
7	Unit3: A Secret Garden in London	Understanding Check Making a Summary
8	Unit4: Unpaid Internships	Building vocabulary Reading
9	Unit4: Unpaid Internships	Understanding Check Making a Summary
10	Unit5: The Wedding Gallery	Building vocabulary Reading
11	Unit5: The Wedding Gallery	Understanding Check Making a Summary
12	Unit6: A Modern Steam Train	Building vocabulary Reading
13	Unit6: A Modern Steam Train	Understanding Check Making a Summary
14	まとめ	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生が予習をしていることを前提に進めるので、毎回指定されたテキスト範囲で分からない単語の意味があれば、必ず辞書で調べて授業に臨む。

【テキスト（教科書）】

Timothy Knowles 他『British News Update』金星堂、2019年
授業には、手持ちの辞書を持参すること。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度30%、試験70%

授業回数三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

TOEIC に関する質問を多く受けるので、概要を説明する時間を設けたい。

【Outline and objectives】

The main purpose of this course is to improve students' reading skills in English. In this course students will learn English grammar points and vocabulary through reading essays on Britain. This class will also introduce British culture and history.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）

蒔田 裕美

サブタイトル：（7）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス社会や文化に関する記事の精読を行うことにより、英語の読解力と語彙力を培うことを目的とする。

【到達目標】

学生が辞書を使いながら、内容を正確に把握できる英文の読解力を身につけることを目標とする。
英語の発音記号を理解し、正しい音読ができる。
テキストの精読及び、プレゼンテーションとディスカッションを通して、イギリスの文化、歴史、時事問題について理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

学生は発音記号を学び、英語の音声聞き分け、正しく発音する訓練を行う。読解のためのスキルを説明した後、学生は語彙力を強化する問題、内容理解問題、リスニングの練習を各章ごとに行う。
イギリスに関するテーマを各自で設定し、プレゼンテーション及びディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit7: A T-shirt Exhibition Presentation	Building Vocabulary Reading Presentation
2	Unit7: A T-shirt Exhibition Presentation	Understanding Check Making a Summary Presentation
3	Unit8: Generation Z Presentation	Building Vocabulary Reading Presentation
4	Unit8: Generation Z Presentation	Understanding Check Making a Summary Presentation
5	Unit9: Veganuary Presentation	Building Vocabulary Reading Presentation
6	Unit9: Veganuary Presentation	Understanding Check Making a Summary Presentation
7	Unit10: Wind Power in Britain Presentation	Building Vocabulary Reading Presentation
8	Unit10: Wind Power in Britain Presentation	Understanding Check Making a Summary Presentation
9	Unit11: Preventing Transgender Bullying Presentation	Building Vocabulary Reading Presentation
10	Unit11: Preventing Transgender Bullying Presentation	Understanding Check Making a Summary Presentation
11	Unit12: A Plastic Tenner Presentation	Building Vocabulary Reading Presentation
12	Unit12: A Plastic Tenner Presentation	Understanding Check Making a Summary Presentation
13	Unit13: How to Delay Ageing まとめ	Building Vocabulary Reading 試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生が予習をしていることを前提に進めるので、毎回指定されたテキスト範囲で分からない単語の意味があれば、必ず辞書で調べて授業に臨む。

【テキスト（教科書）】

Timothy Knowles 他『British News Update』金星堂、2019年

【参考書】

授業時に適宜紹介する。
授業には、手持ちの辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 40%、試験 60%
授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

TOEIC に関する質問を多く受けるので、概要を説明する時間を設けたい。

【Outline and objectives】

The main purpose of this course is to improve students' reading skills in English. In this course students will learn English grammar points and vocabulary through reading essays on Britain. This class will also introduce British culture and history.

LANe200IA

総合英語Ⅲ 【2017 年度以前入学生対象】

蒔田 裕美

サブタイトル： (7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス社会や文化に関する記事の精読を行うことにより、英語の読解力と語彙力を培うことを目的とする。

【到達目標】

学生が辞書を使いながら、内容を正確に把握できる英文の読解力を身につけることを目標とする。
英語の発音記号を理解し、正しい音読ができる。
テキスト及びプレゼンテーション、ディスカッションを通して、イギリスの文化、歴史、時事問題についての理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

学生は発音記号を学び、英語の音声聞き分け、正しく発音する訓練を行う。読解のためのスキルを説明した後、学生は語彙力を強化する問題、内容理解問題、リスニングの練習を各章ごとに行う。
後半はイギリスに関するテーマを各自で設定し、プレゼンテーション及びディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方を説明し、予習の仕方などを確認する。
2	Unit1: Repairing Big Ben	Building Vocabulary
3	Unit1: Repairing Big Ben	Reading Understanding Check Making a Summary
4	Unit2: Learning to Walk Again	Building Vocabulary Reading
5	Unit2: Learning to Walk Again	Understanding Check Making a Summary
6	Unit3: A Secret Garden in London	Building Vocabulary Reading
7	Unit3: A Secret Garden in London	Understanding Check Making a Summary
8	Unit4: Unpaid Internships	Building Vocabulary Reading
9	Unit4: Unpaid Internships	Understanding Check Making a Summary
10	Unit5: The Wedding Gallery	Building Vocabulary Reading
11	Unit5: The Wedding Gallery	Understanding Check Making a Summary
12	Unit6: A Modern Steam Train	Building Vocabulary Reading
13	Unit6: A Modern Steam Train	Understanding Check Making a Summary
14	前半のまとめ	中間試験を実施する。
15	Unit7: A T-shirt Exhibition	Building Vocabulary Reading
16	Unit7: A T-shirt Exhibition	Presentation Understanding Check Making a Summary
17	Unit8: Generation Z	Presentation Building Vocabulary Reading
18	Unit8: Generation Z	Presentation Understanding Check Making a Summary
19	Unit9: Veganuary	Presentation Building Vocabulary Reading
20	Unit9: Veganuary	Presentation Understanding Check Making a Summary
21	Unit10: Wind Power in Britain	Presentation Building Vocabulary Reading
22	Unit10: Wind Power in Britain	Presentation Understanding Check Making a Summary

2 3	Unit11: Preventing Transgender Bullying Presentation	Building Vocabulary Reading
2 4	Unit11: Preventing Transgender Bullying Presentation	Understanding Check Making a Summary
2 5	Unit12: A Plastic Tenner Presentation	Building Vocabulary Reading
2 6	Unit12: A Plastic Tenner Presentation	Understanding Check Making a Summary
2 7	Unit13: How to Delay Ageing	Building Vocabulary Reading
2 8	後半のまとめ	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生が予習をしていることを前提に進めるので、毎回指定されたテキスト範囲で分からない単語の意味があれば、必ず辞書で調べて授業に臨む。

【テキスト（教科書）】

Timothy Knowles 他『British News Update』金星堂、2019年
授業には、手持ちの辞書を持参すること。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション40%、試験60%
通年で三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

TOEIC に関する質問を多く受けるので、概要を説明する時間を設けたい。

【Outline and objectives】

The main purpose of this course is to improve students' reading skills in English. In this course students will learn English grammar points and vocabulary through reading essays on Britain. This class will also introduce British culture and history.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）

川田 アマンディーン

サブタイトル：（1）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2年次／1単位

曜日・時限：月2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育において必要となる英語力をはじめ、本講義では特にスポーツに関連する英語を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】

- ・スポーツに関連する英語で書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようにになる。
- ・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。
- ・英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。グループ学習やプレゼンテーションなどを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・ガイダンス	授業の進め方等について説明する。講義内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。
2	International Sports Politics (1) ・ The Olympic Games ・ The Football World Cup ・ The Commonwealth Games	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
3	International Sports Politics (2) ・ Drugs in Sports ・ Tackling Disability ・ Development and Peace	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
4	The Economics of Sports (1) ・ International Federations ・ Media ・ Sponsorship	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
5	The Economics of Sports (2) ・ Merchandising ・ Gambling ・ Sports Tourism	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
6	Sports (1) ・ American Football ・ Baseball ・ Basketball	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
7	Sports (2) ・ Cricket ・ Tennis ・ Rugby	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
8	Sports (3) ・ Cycling ・ Marathon ・ Track and Field	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう

9	Sports (4) ・ Sailing ・ Swimming and Diving ・ Skiing and Snowboarding	テキストや資料を読み、内容を把握し プレゼンテーションをおこなう
10	Sports (5) ・ Gymnastics and Exercise ・ Volleyball and Beach Volleyball ・ Multi-Sports	テキストや資料を読み、内容を把握し プレゼンテーションをおこなう
11	Country Profiles(1) ・ New Zealand ・ Australia ・ UK ・ Ireland	テキストや資料を読み、内容を把握し プレゼンテーションをおこなう
12	Country Profiles(2) ・ Indonesia ・ Thailand ・ South Korea ・ China ・ Malaysia	テキストや資料を読み、内容を把握し プレゼンテーションをおこなう
13	Country Profiles(3) ・ Rusia ・ Austria ・ Spain ・ Germany ・ France	テキストや資料を読み、内容を把握し プレゼンテーションをおこなう
14	学期末まとめ	今までおこなわれたテーマの概要について振り返り、理解度の確認をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ学習やプレゼンテーションを用いるため、その予習・準備等を入念におこなうこと。また英文を多用する機会を増やしておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】

The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【参考書】

The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】

必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to encourage and to help students to express themselves in English in sport related situations. That's why during the class we will give the priority to group discussion and speeches

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）

川田 アマンディーン

サブタイトル：（1）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育において必要となる英語力をはじめ、本講義では特にスポーツに関連する英語を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面・向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】

- ・スポーツに関連する英語で書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようにになる。
- ・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。
- ・英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。グループ学習やプレゼンテーションなどを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・グループ分け	授業の進め方等について説明する。講義内容を把握し、授業の全体像や進め方について確認する。
2	Sport(1) プレゼンテーション (Adventure Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
3	Sport(1) 確認テスト (Adventure Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
4	Sport(2) プレゼンテーション (Aquatic Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
5	Sport(2) 確認テスト (Aquatic Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
6	Sport(3) プレゼンテーション (Strenght and Agility Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
7	Sport(3) 確認テスト (Strenght and Agility Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
8	Sport(4) プレゼンテーション (Ball Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
9	Sport(4) 確認テスト (Ball Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
10	Sport(5) プレゼンテーション (Extreme Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
11	Sport(5) 確認テスト (Extreme Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
12	Sport(6) プレゼンテーション (Motorised Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
13	Sport(6) 確認テスト (Motorised Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
14	学期末まとめ	今までおこなわれたテーマの概要について振り返り、理解度の確認をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ学習やプレゼンテーションを用いるため、その予習・準備等を入念におこなうこと。また英文を多用する機会を増やしておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】

The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【参考書】

The World Atlas of Sport

Professor Alan Tomlinson Ph (著)

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】

必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to encourage and to help students to express themselves in English in sport related situations. That's why during the class we will give the priority to group discussion and speeches

LANe200IA

総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】

川田 アマンディーン

サブタイトル： (1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育において必要となる英語力ははじめ、本講義では特にスポーツに関連する英語を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけでなく、発信面・向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】

- ・スポーツに関連する英語で書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようにになる。
- ・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。
- ・英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。グループ学習やプレゼンテーションなどを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・ガイダンス	授業の進め方等について説明する。講義内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。
2	International Sports Politics (1) ・ The Olympic Games ・ The Football World Cup ・ The Commonwealth Games	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
3	International Sports Politics (2) ・ Drugs in Sports ・ Tackling Disability ・ Development and Peace	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
4	The Economics of Sports (1) ・ International Federations ・ Media ・ Sponsorship	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
5	The Economics of Sports (2) ・ Merchandising ・ Gambling ・ Sports Tourism	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
6	Sports (1) ・ American Football ・ Baseball ・ Basketball	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
7	Sports (2) ・ Cricket ・ Tennis ・ Rugby	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
8	Sports (3) ・ Cycling ・ Marathon ・ Track and Field	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
9	Sports (4) ・ Sailing ・ Swimming and Diving ・ Skiing and Snowboarding	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう

10	Sports (5) ・ Gymnastics and Exercise ・ Volleyball and Beach Volleyball ・ Multi-Sports	テキストや資料を読み、内容を把握し プレゼンテーションをおこなう
11	Country Profiles(1) ・ New Zealand ・ Australia ・ UK ・ Ireland	テキストや資料を読み、内容を把握し プレゼンテーションをおこなう
12	Country Profiles(2) ・ Indonesia ・ Thailand ・ South Korea ・ China ・ Malaysia	テキストや資料を読み、内容を把握し プレゼンテーションをおこなう
13	Country Profiles(3) ・ Rusia ・ Austria ・ Spain ・ Germany ・ France	テキストや資料を読み、内容を把握し プレゼンテーションをおこなう
14	学期末まとめ	今までおこなわれたテーマの概要について振り返り、理解度の確認をおこなう。
15	ガイダンス・グループ分け	後半の授業の進め方等について説明する。講義内容を把握し、授業の全体像や進め方について確認する。
16	Sport(1) プレゼンテーション (Adventure Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握し プレゼンテーションをおこなう
17	Sport(1) 確認テスト (Adventure Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
18	Sport(2) プレゼンテーション (Aquatic Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握し プレゼンテーションをおこなう
19	Sport(2) 確認テスト (Aquatic Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
20	Sport(3) プレゼンテーション (Strenght and Agility Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握し プレゼンテーションをおこなう
21	Sport(3) 確認テスト (Strenght and Agility Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
22	Sport(4) プレゼンテーション (Ball Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握し プレゼンテーションをおこなう
23	Sport(4) 確認テスト (Ball Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
24	Sport(5) プレゼンテーション (Extreme Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握し プレゼンテーションをおこなう
25	Sport(5) 確認テスト (Extreme Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
26	Sport(6) プレゼンテーション (Motorised Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握し プレゼンテーションをおこなう
27	Sport(6) 確認テスト (Motorised Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
28	学期末まとめ	今までおこなわれたテーマの概要について振り返り、理解度の確認をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ学習やプレゼンテーションを用いるため、その予習・準備等を入念におこなうこと。また英文を多用する機会を増やしておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】

The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【参考書】

The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】

必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to encourage and to help students to express themselves in English in sport related situations. That's why during the class we will give the priority to group discussion and speeches

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）

大塚 孝一

サブタイトル：（2）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育において必要となる英語力を身につけることを目指す。受信面の向上だけでなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、発信していくことを身につけることで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】

- 英語で書かれた様々なトピックが理解できるようになる。
- 英語の語彙力を広げ、それらを使うことができるようになる。
- 英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習。まず、教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業についての説明
2	Unit 1	Let's Clean Up!
3	Unit 1	Let's Clean Up!
4	Unit 2	Human Society
5	Unit 2	Human Society
6	Unit 3	Express Yourself with Emoji!
7	Unit 3	Express Yourself with Emoji!
8	Unit 4	Good Sleep, Good Health
9	Unit 4	Good Sleep, Good Health
10	Unit 5	Job Interview Success
11	Unit 5	Job Interview Success
12	Unit 6	Dress Your Own Way
13	Unit 6	Dress Your Own Way
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習を前提とし、基本的な学習姿勢を身につけてもらう。

【テキスト（教科書）】

『TARGET! Intermediate』

金星堂

森田彰 / 飯尾牧子 / 橋本健広 / 佐竹幸信 / 角田麻里 / Taron Plaza 著
¥2,000 (税込 ¥2,160)

【参考書】

中級、あるいは上級の英和辞典と和英辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%
平常点 25%
小テスト 25%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典、和英辞典（紙・電子問わず）は必ず持参すること。

【その他の重要事項】

真剣、かつ積極的な学習態度で授業に臨むこと。居眠り、私語、スマートフォン等の使用は厳禁。

【Outline and objectives】

This course focuses on basic English skills needed in an academic setting. Not only receptive skills such as reading and listening but also productive skills such as writing and speaking are targeted. Students will have a good command of English by treating English texts analytically and considering cultural aspects.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）

大塚 孝一

サブタイトル：（2）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育において必要となる英語力を身につけることを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、発信していくことを身につけることで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】

- 英語で書かれた様々なトピックが理解できるようになる。
- 英語の語彙力を広げ、それらを使うことができるようになる。
- 英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習。まず、教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期の振り返り
	Unit 7	New Ways to Travel
2	Unit 7	New Ways to Travel
3	Unit 8	Sports Anytime, Anywhere
4	Unit 8	Sports Anytime, Anywhere
5	Unit 9	How Do You Enjoy Music?
6	Unit 9	How Do You Enjoy Music?
7	Unit 10	Choose What Color to Paint
8	Unit 10	Choose What Color to Paint
9	Unit 11	The Future of Food
10	Unit 11	The Future of Food
11	Unit 12	To Gain Experience in Business
12	Unit 12	To Gain Experience in Business
13	Unit 13	Science We Should Know
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習を前提とし、基本的な学習姿勢を身につけてもらう。

【テキスト（教科書）】

『TARGET! Intermediate』

金星堂

森田彰 / 飯尾牧子 / 橋本健広 / 佐竹幸信 / 角田麻里 / Taron Plaza 著
¥2,000 (税込 ¥2,160)

【参考書】

中級、あるいは上級の英和辞典と和英辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%

平常点 25%

小テスト 25%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典、和英辞典（紙・電子問わず）は必ず持参すること。

【その他の重要事項】

真剣、かつ積極的な学習態度で授業に臨むこと。居眠り、私語、スマートフォン等の使用は厳禁。

【Outline and objectives】

This course focuses on basic English skills needed in an academic setting. Not only receptive skills such as reading and listening but also productive skills such as writing and speaking are targeted. Students will have a good command of English by treating English texts analytically and considering cultural aspects.

LANe200IA

総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】

大塚 孝一

サブタイトル：（2）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育において必要となる英語力を身につけることを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、発信していくことを身につけることで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】

- 英語で書かれた様々なトピックが理解できるようになる。
- 英語の語彙力を広げ、それらを使うことができるようになる。
- 英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習。まず、教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み、間違えることを恐れずに最善を尽くすこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業についての説明
2	Unit 1	Let's Clean Up!
3	Unit 1	Let's Clean Up!
4	Unit 2	Human Society
5	Unit 2	Human Society
6	Unit 3	Express Yourself with Emoji!
7	Unit 3	Express Yourself with Emoji!
8	Unit 4	Good Sleep, Good Health
9	Unit 4	Good Sleep, Good Health
10	Unit 5	Job Interview Success
11	Unit 5	Job Interview Success
12	Unit 6	Dress Your Own Way
13	Unit 6	Dress Your Own Way
14	まとめ	期末試験
15	オリエンテーション	春学期の振り返り
	Unit 7	New Ways to Travel
16	Unit 7	New Ways to Travel
17	Unit 8	Sports Anytime, Anywhere
18	Unit 8	Sports Anytime, Anywhere
19	Unit 9	How Do You Enjoy Music?
20	Unit 9	How Do You Enjoy Music?
21	Unit 10	Choose What Color to Paint
22	Unit 10	Choose What Color to Paint
23	Unit 11	The Future of Food
24	Unit 11	The Future of Food
25	Unit 12	To Gain Experience in Business
26	Unit 12	To Gain Experience in Business
27	Unit 13	Science We Should Know
28	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習を前提とし、基本的な学習姿勢を身につけてもらう。

【テキスト（教科書）】

『TARGET! Intermediate』

金星堂

森田彰 / 飯尾牧子 / 橋本健広 / 佐竹幸信 / 角田麻里 / Taron Plaza 著
¥2,000 (税込 ¥2,160)

【参考書】

中級、あるいは上級の英和辞典と和英辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%

平常点 25%

小テスト 25%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典、和英辞典（紙・電子問わず）は必ず持参すること。

【その他の重要事項】

真剣、かつ積極的な学習態度で授業に臨むこと。居眠り、私語、スマートフォン等の使用は厳禁。

【Outline and objectives】

This course focuses on basic English skills needed in an academic setting. Not only receptive skills such as reading and listening but also productive skills such as writing and speaking are targeted. Students will have a good command of English by treating English texts analytically and considering cultural aspects.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）

桑原 洋

サブタイトル：（3）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語のコミュニケーション力、特に、reading、writing、speaking 力の育成および、様々な分野における語彙の習得も図る。

【到達目標】

- ・英語の論説文、記述文などのパラグラフの構成を正確に理解できる。
- ・読み取った内容に関する自分の考えを簡潔に英語で書ける。
- ・学習した語彙を用いて自分の考えを簡潔に英語で話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

予習を前提に進める。特に、Vocabulary Check, What Happened(Reading), What Followed (Reading) を学習し、意味のわからない語彙については、必ず辞書で意味を確認しておくこと。授業では What Happened, What Followed などの構造に注意して意味を確認する。さらに、読んだ内容に関する考えをまとめ、互いに意見交換する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明、自己紹介、writing
2	Steve Jobs, A Dismissed Founder	パラグラフ構成（コンクルーディングセンテンスのある構成）、listening & reading activities
3	Steve Jobs, A Dismissed Founder	パラグラフ構成（コンクルーディングセンテンスのある構成）、reading, writing & speaking activities
4	Saving the Hubble Space Telescope	パラグラフ構成（コンクルーディングセンテンスのない構成）、listening & reading activities
5	Saving the Hubble Space Telescope	パラグラフ構成（コンクルーディングセンテンスのない構成）、reading, writing & speaking activities
6	Invention of the Microwave Oven	パラグラフ展開（例示）、listening & reading activities
7	Invention of the Microwave Oven	パラグラフ展開（例示）、reading, writing & speaking activities
8	The Unbeatable Chess Computer	パラグラフ展開（統計情報）、listening & reading activities
9	The Unbeatable Chess Computer	パラグラフ展開（統計情報）、reading, writing & speaking activities
10	The Hillsborough Disaster	前方照応の代名詞、listening & reading activities
11	The Hillsborough Disaster	前方照応の代名詞、reading, writing & speaking activities
12	What Happened to JAL123?	後方照応の代名詞、listening & reading activities
13	What Happened to JAL123?	後方照応の代名詞、reading, writing & speaking activities
14	まとめ	パラグラフ構成、展開の復習、語彙の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習が前提である。授業で学習予定範囲の意味のわからない語彙を調べ、英文の概要と共にノートにまとめておくこと。復習では、調べた語彙の確認、授業で学習した内容（パラグラフの構成・展開など）を定着しておくこと。

【テキスト（教科書）】

寺内正典他、「失敗から学ぶ英知」センゲージラーニング、2015
適宜プリント教材も用いる。

【参考書】

英和辞典あるいは電子辞書を必ず持参すること。スマートフォンの辞書アプリは授業中の使用は認めない。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業参加度 30 %。演習活動に対する取組み状況、ノート確認。欠席・遅刻を避けること。
- ②定期試験・小テスト 40 %。

③課題提出 30 %

【学生の意見等からの気づき】

自分の考えを発信するには、授業で学習したことを活用することが重要である。要点をまとめて板書したり、プリントを配布するので、要点をノートにまとめ、復習の際に必ず繰り返し学習し、定着すること。

【学生が準備すべき機器他】

辞書以外にはなし。

【その他の重要事項】

授業に積極的に参加し、疑問点は必ず授業中に質問すること。

【Outline and objectives】

This course is designed to help students develop communication skills based on knowledge of paragraph structures and developments. They are encouraged to write and speak about their own ideas concerning what they have read. They will also increase vocabulary.

LANe200IA

総合英語Ⅳ (b)

桑原 洋

サブタイトル： (3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語のコミュニケーション力、特に、reading、writing、speaking 力の育成および、様々な分野における語彙の習得も図る。

【到達目標】

- ・英語の論説文、記述文などのパラグラフの構成を正確に理解できる。
- ・読み取った内容に関する自分の考えを簡潔に英語で書ける。
- ・学習した語彙を用いて自分の考えを簡潔に英語で話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

予習を前提に進める。特に、Vocabulary Check, What Happened(Reading), What Followed (Reading) を学習し、意味のわからない語彙については、必ず辞書で意味を確認しておくこと。授業では What Happened, What Followed などの構造に注意して意味を確認する。さらに、読んだ内容に関する考えをまとめ、互いに意見交換する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The Titanic Tragedy	ディスコース・マーカー（however, to make matters worse）、listening, reading & writing activities
2	The Titanic Tragedy	ディスコース・マーカー（however, to make matters worse）、reading, writing & speaking activities
3	Penicillin: It All Started with Mold	ディスコース・マーカー（although, actually など）、listening & reading activities
4	Penicillin: It All Started with Mold	ディスコース・マーカー（although, actually など）、reading, writing & speaking activities
5	The Apollo 13 Mission: A Successful Failure	強調構文、listening & reading activities
6	The Apollo 13 Mission: A Successful Failure	強調構文、reading, writing & speaking activities
7	The Sampoong Department Store Collapse	パラグラフ展開（比較/対比）、listening & reading activities
8	The Sampoong Department Store Collapse	パラグラフ展開（比較/対比）、reading, writing & speaking activities
9	The Hotel New Japan Fire	パラグラフ展開（原因-結果）、listening & reading activities
10	The Hotel New Japan Fire	パラグラフ展開（原因-結果）、reading, writing & speaking activities
11	Why Did the French Hate the Eiffel Tower?	パラグラフ展開（問題解決）、listening & reading activities
12	Why Did the French Hate the Eiffel Tower?	パラグラフ展開（問題解決）、reading, writing & speaking activities
13	The Myth of Nuclear Safety	未知語の推測、listening & reading activities
14	まとめ	パラグラフ構成・展開の復習、語彙の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習が前提である。授業で学習予定の範囲で、意味のわからない語彙を調べ、英文の概要と共にノートにまとめておくこと。復習では、調べた語彙の確認、授業で学習した内容（パラグラフの構成・展開など）を定着しておくこと。

【テキスト（教科書）】

寺内正典他、「失敗から学ぶ英知」センゲージラーニング、2015
適宜プリント教材も用いる。

【参考書】

英和辞典あるいは電子辞書を必ず持参すること。スマートフォンの辞書アプリは授業中の使用は認めない。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業参加度 30 %。演習活動に対する取組み状況、ノート確認。欠席・遅刻を避けること。
- ②定期試験・小テスト 40 %。
- ③課題提出 30 %

【学生の意見等からの気づき】

自分の考えを発信するには、授業で学習したことを活用することが重要である。要点をまとめて板書したり、プリントを配布するので、要点を必ずノートにまとめ、復習の際に必ず繰り返し学習し、定着すること。

【学生が準備すべき機器他】

辞書以外にはなし。

【その他の重要事項】

授業に積極的に参加し、疑問点は必ず授業中に質問すること。

【Outline and objectives】

This course is designed to help students develop communication skills based on knowledge of paragraph structures and developments.They are encouraged to write and speak about their own ideas concerning what they have read. They will also increase vocabulary.

LANe200IA

総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】

桑原 洋

サブタイトル： (3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語のコミュニケーション力、特に、reading、writing、speaking 力の育成および、様々な分野における語彙の習得も図る。

【到達目標】

- ・英語の論説文、記述文などのパラグラフの構成を正確に理解できる。
- ・読み取った内容に関する自分の考えを簡潔に英語で書ける。
- ・学習した語彙を用いて自分の考えを簡潔に英語で話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

予習を前提に進める。特に、Vocabulary Check, What Happened(Reading), What Followed (Reading) を学習し、意味のわからない語彙については、必ず辞書で意味を確認しておくこと。授業では What Happened, What Followed などの英文の構造に注意して意味を確認する。さらに、その概要をまとめ、読んだ内容に関する考えをまとめ、互いに意見交換する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明、自己紹介、 writing
2	Steve Jobs, A Dismissed Founder	パラグラフ構成 (コンクルーディング センテンスのある構成)、 listening & reading activities
3	Steve Jobs, A Dismissed Founder	パラグラフ構成 (コンクルーディング センテンスのある構成)、 reading, writing & speaking activities
4	Saving the Hubble Space Telescope	パラグラフ構成 (コンクルーディング センテンスのない構成)、 listening & reading activities
5	Saving the Hubble Space Telescope	パラグラフ構成 (コンクルーディング センテンスのない構成)、 reading, writing & speaking activities
6	Invention of the Microwave Oven	パラグラフ展開 (例示)、 listening & reading activities
7	Invention of the Microwave Oven	パラグラフ展開 (例示)、 reading, writing & speaking activities
8	The Unbeatable Chess Computer	パラグラフ展開 (統計情報)、 listening & reading activities
9	The Unbeatable Chess Computer	パラグラフ展開 (統計情報)、 reading, writing & speaking activities
10	The Hillsborough Disaster	前方照応の代名詞、 listening & reading activities
11	The Hillsborough Disaster	前方照応の代名詞、 reading, writing & speaking activities
12	What Happened to JAL123?	後方照応の代名詞、 listening & reading activities
13	What Happened to JAL123?	後方照応の代名詞、 reading, writing & speaking activities
14	春学期のまとめ	パラグラフ構成、展開の復習、語彙の確認
15	The Titanic Tragedy	ディスコース・マーカー (however, to make matter worse)、 listening, reading & writing activities
16	The Titanic Tragedy	ディスコース・マーカー (however, to make matter worse)、 reading, writing & speaking activities
17	Penicillin: It All Started with Mold	ディスコース・マーカー (although, actually など)、 listening & reading activities
18	Penicillin: It All Started with Mold	ディスコース・マーカー (although, actually など)、 reading, writing & speaking activities
19	The Apollo 13 Mission: A Successful Failure	強調構文、 listening & reading activities
20	The Apollo 13 Mission: A Successful Failure	強調構文、 reading, writing & speaking activities

21	The Sampoong Department Store Collapse	パラグラフ展開（比較/対比）、listening & reading activities
22	The Sampoong Department Store Collapse	パラグラフ展開（比較/対比）、reading, writing & speaking activities
23	The Hotel New Japan Fire	パラグラフ展開（原因-結果）、listening & reading activities
24	The Hotel New Japan Fire	パラグラフ展開（原因-結果）、reading, writing & speaking activities
25	Why Did the French Hate the Eiffel Tower?	パラグラフ展開（問題解決）、listening & reading activities
26	Why Did the French Hate the Eiffel Tower?	パラグラフ展開（問題解決）、reading, writing & speaking activities
27	The Myth of Nuclear Safety	未知語の推測、listening & reading activities
28	秋学期のまとめ	パラグラフ構成、展開の復習、語彙の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習が前提である。授業で学習予定範囲の意味のわからない語彙を調べ、英文の概要と共にノートにまとめておくこと。復習では、調べた語彙の確認、授業で学習した内容（パラグラフの構成・展開など）を定着しておくこと。

【テキスト（教科書）】

寺内正典他、「失敗から学ぶ英知」セーゲージラーニング、2015
適宜プリント教材も用いる。

【参考書】

英和辞典あるいは電子辞書を必ず持参すること。スマートフォンの辞書アプリは授業中の使用は認めない。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業参加度 30 %。演習活動に対する取組み状況、ノート確認。欠席・遅刻を避けること。欠席については事前に相談・連絡すること。
- ②定期試験・小テスト 40 %。
- ③課題提出 30 %

【学生の意見等からの気づき】

自分の考えを発信するには、授業で学習したことを活用することが重要である。要点をまとめて板書したり、プリントを配布するので、内容をノートにまとめ、復習の際に必ず繰り返し学習し、定着すること。

【学生が準備すべき機器他】

辞書以外にはなし。

【その他の重要事項】

授業に積極的に参加し、疑問点は必ず授業中に質問すること。

【Outline and objectives】

This course is designed to help students develop communication skills based on knowledge of paragraph structures and developments. They are encouraged to write and speak about their own ideas concerning what they have read. They will also increase vocabulary.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）

衣川 清子

サブタイトル：（4）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近、多くのスポーツ分野で海外で活躍する日本人選手が増えている。彼らの活躍を伝える英字新聞や英文ニュースやインタビュー記事を読み、海外の生活体験やスポーツ事情、外国人として経験する喜びや苦悩、彼らが後輩たちに伝えたいことなどを学ぶ。そうした記事の英語表現から英作文や表現活動に応用できるものをピックアップし、それらを使うトレーニングを行う。

【到達目標】

- ①比較的平易なスポーツ記事やインタビュー記事、辞書を使って正確に読みとり、内容を把握できるようになる。
- ②使用教材で使われているわかりやすい英語表現を自分の英作文や表現活動に生かせる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

比較的最近のスポーツ記事（英字新聞やインターネット上の配信記事）のプリント教材を使う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業には辞書とノートを持参すること（ノート PC も可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成（見出し、リード、本文）	記事①前半
3	見出しのルール	記事①後半
4	英語の文型とその活用	記事②前半
5	品詞の種類と使われ方	記事②後半
6	動詞の種類と使われ方	これまでのまとめ
7	中間テスト	中間テスト
8	中間テスト返却、講評：句と節の違い	記事③前半
9	前置詞の使い方	記事③後半
10	時制（現在・過去・未来）の意義	記事④前半
11	時制と進行形	記事④後半
12	時制と完了形	短い記事⑤
13	時制の一致・これまでのまとめ	まとめ
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語でもいいので、スポーツ関係のニュース、特に海外で活躍する日本人選手の記事をふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。

【テキスト（教科書）】

プリント使用。

【参考書】

授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 30 % + 期末テスト 30 % + 平常点（作文課題含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】

着実に力をつけられるような授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで連絡したり、参考資料を提示したりすることがあります。課題は授業支援システムで提出してください。

【その他の重要事項】

なお、授業の進展状況によってテーマや内容・順序が変更される場合もあります。

【Outline and objectives】

This class is focused on Japanese athletes who are active abroad. We will read newspaper/magazine articles and interviews from the Internet, and explore what they are showing us. Also, emphasis is on writing English paragraphs and expressing what you think about sports, health, and everyday life.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）

衣川 清子

サブタイトル：（4）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近、多くのスポーツ分野で海外で活躍する日本人選手が増えている。彼らの活躍を伝える英字新聞や英文ニュースやインタビュー記事を読み、海外の生活体験やスポーツ事情、外国人として経験する喜びや苦悩、彼らが後輩たちに伝えたいことなどを学ぶ。そうした記事の英語表現から英作文や表現活動に応用できるものをピックアップし、それらを使うトレーニングを行う。

【到達目標】

- ①比較的平易なスポーツ記事やインタビュー記事を、辞書を使って正確に読みとり、内容を把握できるようになる。
- ②使用教材で使われているわかりやすい英語表現を自分の英作文や表現活動に生かせる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

比較的近所のスポーツ記事（英字新聞やインターネット上の配信記事）のプリント教材を使う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業には辞書とノートを持参すること（ノート PC も可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	英語らしい表現とは	記事①前半
3	無生物主語が頻出すること	記事①後半
4	言い換え表現が多用されること	記事②前半
5	仮定法過去とは何か	記事②後半
6	仮定法過去完了とは何か	これまでのまとめ
7	中間テスト	中間テスト
8	中間テスト返却、講評	記事③前半
9	直接話法と間接話法	記事③後半
10	分詞構文はなぜ使われる	記事④前半
11	付帯状況とは何か	記事④後半
12	知覚動詞を使いこなす	短い記事⑤
13	感嘆文、付加疑問文：これまでのまとめ	まとめ
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語でもいいので、スポーツ関係のニュース、特に海外で活躍する日本人選手の記事をふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。

【テキスト（教科書）】

プリント使用。

【参考書】

授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 30 % + 期末テスト 30 % + 平常点（作文課題含む） 40 %

【学生の意見等からの気づき】

着実に力をつけられるような授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで連絡したり、参考資料を提示したりすることがあります。課題は授業支援システムで提出してください。

【その他の重要事項】

なお、授業の進展状況によってテーマや内容・順序が変更される場合もあります。

【Outline and objectives】

This class is focused on Japanese athletes who are active abroad. We will read newspaper/magazine articles and interviews from the Internet, and explore what they are showing us. Also, emphasis is on writing English paragraphs and expressing what you think about sports, health, and everyday life.

LANe200IA

総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】

衣川 清子

サブタイトル：（4）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近、多くのスポーツ分野で海外で活躍する日本人選手が増えている。彼らの活躍を伝える英字新聞や英文ニュースやインタビュー記事を読み、海外の生活体験やスポーツ事情、外国人として経験する喜びや苦悩、彼らが後輩たちに伝えたいことなどを学ぶ。そうした記事の英語表現から英作文や表現活動に応用できるものをピックアップし、それらを使うトレーニングを行う。

【到達目標】

- ①比較的平易なスポーツ記事やインタビュー記事を、辞書を使って正確に読みとり、内容を把握できるようになる。
- ②使用教材で使われているわかりやすい英語表現を自分の英作文や表現活動に生かせる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

比較的近所のスポーツ記事（英字新聞やインターネット上の配信記事）のプリント教材を使う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業には辞書とノートを持参すること（ノート PC も可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成（見出し、リード、本文）	記事①前半
3	見出しのルール	記事①後半
4	英語の文型とその活用	記事②前半
5	品詞の種類と使われ方	記事②後半
6	動詞の種類と使われ方	これまでのまとめ
7	中間テスト	中間テスト
8	中間テスト返却、講評：句と節の違い	記事③前半
9	前置詞の使い方	記事③後半
10	時制（現在・過去・未来）の意義	記事④前半
11	時制と進行形	記事④後半
12	時制と完了形	短い記事⑤
13	時制の一致・これまでのまとめ	まとめ
14	期末テスト	期末テスト
15	秋学期イントロダクション	春学期をふまえて、改めて授業に臨む心構え
16	英語らしい表現とは	記事⑥前半
17	無生物主語が頻出すること	記事⑥後半
18	言い換え表現が多用されること	記事⑦前半
19	仮定法過去とは何か	記事⑦後半
20	仮定法過去完了とは何か	まとめ
21	中間テスト	中間テスト
22	中間テスト返却、講評	記事⑧前半
23	直接話法と間接話法	記事⑧後半
24	分詞構文はなぜ使われる	記事⑨前半
25	付帯状況とは何か	記事⑨後半
26	知覚動詞を使いこなす	短い記事⑩
27	感嘆文、付加疑問文	まとめ
28	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語でもいいので、スポーツ関係のニュース、特に海外で活躍する日本人選手の記事をふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。

【テキスト（教科書）】

プリント使用。

【参考書】

授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 30 % + 期末テスト 30 % + 平常点（作文課題含む） 40 %

【学生の意見等からの気づき】

着実に力をつけられるような授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで連絡したり、参考資料を提示したりすることがあります。課題は授業支援システムで提出してください。

【その他の重要事項】

なお、授業の進展状況によってテーマや内容・順序が変更される場合もあります。

【Outline and objectives】

This class is focused on Japanese athletes who are active abroad. We will read newspaper/magazine articles and interviews from the Internet, and explore what they are showing us. Also, emphasis is on writing English paragraphs and expressing what you think about sports, health, and everyday life.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）

喜多 球美

サブタイトル：（5）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学んだ英語の集大成として、今後の研究やキャリアに必要な英語力を養い、発展させます。プレゼンテーションやライティングなど、準備、発表・提出、そしてフィードバックを通して、トピックに対する理解を深めます。自分の意見を表現することを重視します。

【到達目標】

- ・興味関心のある社会・文化的問題を選び、問題提起、考察できるようになること。
- ・プレゼンテーションやライティング課題を通して、大学で身に着けたアカデミック英語をアウトプットし、スキルを発展させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

定期的に小テストを行います。会話、ディスカッション、プレゼンテーション、ライティングなど、パフォーマンスでの評価が多くなります。準備の段階から、発表、フィードバックまで、すべて授業で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についての説明。今までの英語学習状況についての聞き取り。
2	英語雑誌・英字新聞 1	ハンドアウト 1、アウトプットアクティビティ、ライティング（意見を述べる）。
3	英語雑誌・英字新聞 2	ハンドアウト 2、アウトプットアクティビティ、ライティング（意見を述べる）2。
4	英語雑誌・英字新聞 3	ハンドアウト 3、アウトプットアクティビティ、ライティング（意見を述べる）3。
5	ライティングのフィードバック	ハンドアウト 4、ライティング完成。到達度の確認。
6	英語雑誌・英字新聞 4	ハンドアウト 5、スピーチ準備。
7	英語雑誌・英字新聞 5	ハンドアウト 6、スピーチ実践。
8	英語雑誌・英字新聞 6	ハンドアウト 7、ライティング（問題と解決策）。
9	英語雑誌・英字新聞 7	ハンドアウト 8、ライティング（問題と解決策）2。
10	英語雑誌・英字新聞 8	ハンドアウト 9、ライティング（問題と解決策）3。
11	ライティングのフィードバック	ハンドアウト 10、ライティング完成、到達度の確認。
12	プレゼンテーションについてガイダンス	ハンドアウト 11、プレゼンテーション準備
13	プレゼンテーション	ハンドアウト 12、プレゼンテーション
14	文化紹介	ハンドアウト 13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の理解度や目的に応じて自主学習が必要となります。定期的に小テストを行うので、復習してください。

【テキスト（教科書）】

ハンドアウト

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

パフォーマンス（小テスト、ライティング課題、スピーチ、プレゼンテーション） 60%

平常点（授業内活動） 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

This module is designed to prepare you for your future studies and career in English, whilst developing your English skills, focusing on academic reading, writing, speaking, and listening. The authentic materials from magazines and newspaper will cover a wide range of international and cultural issues. You will be required to submit a series of writing tasks and deliver presentations based on a theme covered during the semester.

LANe200IA

総合英語Ⅳ (b)

喜多 球美

サブタイトル： (5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合英語Ⅳ (a) に続けて、研究およびキャリア発展のために必要な英語力を養います。プレゼンテーションやライティングなど、準備、発表・提出、そしてフィードバックを通して、トピックに対する理解を深め、学部課程で身につけた知識、考え方を英語で表現することを目指します。

【到達目標】

- ・興味関心のある社会・文化的問題を選び、問題提起し、クラスメイトからの意見を理解できるようになること。
- ・プレゼンテーションやライティング課題を通して、学部課程修了後も、一人で英語発表を準備・実践・反省できるよう準備する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

定期的に小テストを行います。会話、ディスカッション、プレゼンテーション、ライティングなど、パフォーマンスでの評価が多くなります。準備の段階から、発表、フィードバックまで、すべて授業で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびレベルチェック	授業についての説明。今までの英語学習状況についての聞き取り。
2	英語雑誌・英字新聞 1	ハンドアウト 1、アウトプットアクティビティ、ライティング（Emailの書き方復習）。
3	英語雑誌・英字新聞 2	ハンドアウト 2、アウトプットアクティビティ、ライティング（Emailの書き方発展）2。
4	英語雑誌・英字新聞 3	ハンドアウト 3、アウトプットアクティビティ、ライティング（意見を述べる）3。
5	Email ライティングのフィードバック	ハンドアウト 4、ライティング完成。到達度の確認。
6	プレゼンテーションについてガイダンス	ハンドアウト 5、グループプレゼンテーション準備。
7	英語雑誌・英字新聞 5	ハンドアウト 6、グループプレゼンテーション準備2。
8	プレゼンテーション	ハンドアウト 7、グループプレゼンテーション発表。
9	プレゼンテーション	ハンドアウト 8、グループプレゼンテーション発表2。
10	英語雑誌・英字新聞 6	ハンドアウト 9、ライティング Review。
11	英語雑誌・英字新聞 7	ハンドアウト 10、ライティング完成。
12	スピーチまたはディスカッション。	ハンドアウト 11。
13	パフォーマンス	到達度の確認。
14	文化紹介	ハンドアウト 12。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の理解度や目的に応じて自主学習が必要となります。定期的に小テストを行うので、復習してください。

【テキスト（教科書）】

ハンドアウト

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

パフォーマンス（小テスト、ライティング課題、スピーチ、プレゼンテーション） 60%

平常点（授業内活動） 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

Following to 総合英語Ⅳ（a）, this module is designed to prepare you for your future studies and career in English, whilst developing your English skills, focusing on academic reading, writing, speaking, and listening. The authentic materials from magazines and newspaper will cover a wide range of international and cultural issues. You will be required to submit a series of writing tasks and deliver presentations based on a theme covered during the semester.

LANe200IA

総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】

喜多 球美

サブタイトル：（5）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【春学期】大学で学んだ英語の集大成として、今後の研究やキャリアに必要な英語力を養い、発展させます。プレゼンテーションやライティングなど、準備、発表・提出、そしてフィードバックを通して、トピックに対する理解を深めます。自分の意見を表現することを重視します。

【秋学期】春学期に続けて、研究およびキャリア発展のために必要な英語力を養います。プレゼンテーションやライティングなど、準備、発表・提出、そしてフィードバックを通して、トピックに対する理解を深め、学部課程で身につけた知識、考え方を英語で表現することを目指します。

【到達目標】

【春学期】・興味関心のある社会・文化的問題を選び、問題提起、考察できるようになること。

・プレゼンテーションやライティング課題を通して、大学で身につけたアカデミック英語をアウトプットし、スキルを発展させること。

【秋学期】・興味関心のある社会・文化的問題を選び、問題提起し、クラスメイトからの意見を理解できるようになること。

・プレゼンテーションやライティング課題を通して、学部課程修了後も、一人で英語発表を準備・実践・反省できるよう準備する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

定期的な小テストを行います。会話、ディスカッション、プレゼンテーション、ライティングなど、パフォーマンスで評価しますが、未経験でも心配不要です。準備の段階から、発表、フィードバックまで、すべて授業で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についての説明。今までの英語学習状況についての聞き取り
2	英語雑誌・英字新聞 1	ハンドアウト 1、アウトプットアクティビティ、ライティング（意見を述べる）。
3	英語雑誌・英字新聞 2	ハンドアウト 2、アウトプットアクティビティ、ライティング（意見を述べる） 2。
4	英語雑誌・英字新聞 3	ハンドアウト 3、アウトプットアクティビティ、ライティング（意見を述べる） 3。
5	ライティングのフィードバック	ハンドアウト 4、ライティング完成。到達度の確認。
6	英語雑誌・英字新聞 4	ハンドアウト 5、スピーチ準備。
7	英語雑誌・英字新聞 5	ハンドアウト 6、スピーチ実践。
8	英語雑誌・英字新聞 6	ハンドアウト 7、ライティング（問題と解決策）。
9	英語雑誌・英字新聞 7	ハンドアウト 8、ライティング（問題と解決策） 2。
10	英語雑誌・英字新聞 8	ハンドアウト 9、ライティング（問題と解決策） 3。
11	ライティングのフィードバック	ハンドアウト 10、ライティング完成、到達度の確認。
12	プレゼンテーションについてガイダンス	ハンドアウト 11、プレゼンテーション準備
13	プレゼンテーション	ハンドアウト 12、プレゼンテーション
14	文化紹介	ハンドアウト 13。
15	ガイダンスおよびレベルチェック	授業についての説明。今までの英語学習状況についての聞き取り。
16	英語雑誌・英字新聞 1	ハンドアウト 1、アウトプットアクティビティ、ライティング（Email の書き方復習）。
17	英語雑誌・英字新聞 2	ハンドアウト 2、アウトプットアクティビティ、ライティング（Email の書き方発展） 2。
18	英語雑誌・英字新聞 3	ハンドアウト 3、アウトプットアクティビティ、ライティング（意見を述べる） 3。
19	Email ライティングのフィードバック	ハンドアウト 4、ライティング完成。到達度の確認。

20	プレゼンテーションについてガイダンス	ハンドアウト 5、グループプレゼンテーション準備。
21	英語雑誌・英字新聞 5	ハンドアウト 6、グループプレゼンテーション準備 2
22	プレゼンテーション	ハンドアウト 7、グループプレゼンテーション発表。
23	プレゼンテーション	ハンドアウト 8、グループプレゼンテーション発表 2。
24	英語雑誌・英字新聞 6	ハンドアウト 9、ライティング Review。
25	英語雑誌・英字新聞 7	ハンドアウト 10、ライティング完成。
26	スピーチまたはディスカッション。	ハンドアウト 11。
27	パフォーマンス	到達度の確認。
28	文化紹介	ハンドアウト 12。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の理解度や目的に応じて自主学習が必要となります。定期的に小テストを行うので、復習してください。

【テキスト（教科書）】

ハンドアウト

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

パフォーマンス（小テスト、ライティング課題、スピーチ、プレゼンテーション） 60%
平常点（授業内活動） 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

This module is designed to prepare you for your future studies and career in English, whilst developing your English skills, focusing on academic reading, writing, speaking, and listening. The authentic materials from magazines and newspaper will cover a wide range of international and cultural issues. You will be required to submit a series of writing tasks and deliver presentations based on a theme covered during the semester.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）

松下 晴彦

サブタイトル：（6）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語Ⅰ・Ⅱで習得した英語力を充実・発展させる。文法を確認し、英作文を反復して、英語力の定着を目標とする。まとまった文章を書くことを自力で行うための土台づくりを行う。

【到達目標】

学生は、英語の基礎力を身につけ、辞書を使いながら、自分の力で英文を読むことができる。パラグラフ・ライティングを身につけ、まとまった文章を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストで多様な英語を聞く練習をしていく。ポキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を聞くという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	UNIT 1	Keep early hours
第 3 回	UNIT 1	問題演習
第 4 回	UNIT 2	Live alone
第 5 回	UNIT 2	問題演習
第 6 回	UNIT 3	Club activities
第 7 回	UNIT 3	問題演習
第 8 回	UNIT 4	Study abroad
第 9 回	UNIT 4	問題演習
第 10 回	UNIT 5	Study foreign languages
第 11 回	UNIT 5	問題演習
第 12 回	UNIT 6	Choose an occupation
第 13 回	UNIT 6	問題演習
第 14 回	試験	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答しておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。

【テキスト（教科書）】

『How Much Do You Agree?』小林敏彦（三修社：2019）本体 2,000 円＋税

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度： 30 %

授業内小テスト： 30 %

定期試験： 40 %

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】

This course will focus on developing students' abilities to write essays in plain English.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）**松下 晴彦**

サブタイトル：（6）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語 I・II で習得した英語力を充実・発展させる。文法を確認し、英作文を反復して、英語力の定着を目標とする。まとまった文章を書くことを自力で行うための土台づくりを行う。

【到達目標】

学生は、英語の基礎力を身につけ、辞書を使いながら、自分の力で英文を読むことができる。パラグラフ・ライティングを身につけ、まとまった文章を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストで多様な英語を聞く練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を聞くという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	UNIT 7	Online communication
第 3 回	UNIT 7	問題演習
第 4 回	UNIT 8	Main language of business
第 5 回	UNIT 8	問題演習
第 6 回	UNIT 9	Uniforms
第 7 回	UNIT 9	問題演習
第 8 回	UNIT 10	Private lodging
第 9 回	UNIT 10	問題演習
第 10 回	UNIT 11	Tourists from abroad
第 11 回	UNIT 11	問題演習
第 12 回	UNIT 12	Tobacco
第 13 回	UNIT 12	問題演習
第 14 回	試験	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。

毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。

【テキスト（教科書）】

『How Much Do You Agree?』小林敏彦（三修社：2019）本体 2,000 円＋税

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度：30 %

授業内小テスト：30 %

定期試験：40 %

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】

This course will focus on developing students' abilities to write essays in plain English.

LANe200IA

総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】**松下 晴彦**

サブタイトル：（6）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語 I・II で習得した英語力を充実・発展させる。文法を確認し、英作文を反復して、英語力の定着を目標とする。まとまった文章を書くことを自力で行うための土台づくりを行う。

【到達目標】

学生は、英語の基礎力を身につけ、辞書を使いながら、自分の力で英文を読むことができる。パラグラフ・ライティングを身につけ、まとまった文章を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストで多様な英語を聞く練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を聞くという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	UNIT 1	Keep early hours
第 3 回	UNIT 1	問題演習
第 4 回	UNIT 2	Live alone
第 5 回	UNIT 2	問題演習
第 6 回	UNIT 3	Club activities
第 7 回	UNIT 3	問題演習
第 8 回	UNIT 4	Study abroad
第 9 回	UNIT 4	問題演習
第 10 回	UNIT 5	Study foreign languages
第 11 回	UNIT 5	問題演習
第 12 回	UNIT 6	Choose an occupation
第 13 回	UNIT 6	問題演習
第 14 回	試験	まとめ
第 15 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 16 回	UNIT 7	Online communication
第 17 回	UNIT 7	問題演習
第 18 回	UNIT 8	Main language of business
第 19 回	UNIT 8	問題演習
第 20 回	UNIT 9	Uniforms
第 21 回	UNIT 9	問題演習
第 22 回	UNIT 10	Private lodging
第 23 回	UNIT 10	問題演習
第 24 回	UNIT 11	Tourists from abroad
第 25 回	UNIT 11	問題演習
第 26 回	UNIT 12	Tobacco
第 27 回	UNIT 12	問題演習
第 28 回	試験	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。

毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。

【テキスト（教科書）】

『How Much Do You Agree?』小林敏彦（三修社：2019）本体 2,000 円＋税

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度：30 %

授業内小テスト：30 %

定期試験：40 %

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】

This course will focus on developing students' abilities to write essays in plain English.

LANe200IA

総合英語Ⅳ (a)

村井 三千男

サブタイトル： (7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の4技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指す。特にその中で listening 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。(presentation は oral, written の双方がありうる。)

【到達目標】

4つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる listening のスキルの上達をめざす。異文化の理解も含め、違い、共通点、誤解を招き易いコミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

様々な国々の世界遺産にスポットライトを当てた教材を用いて、listening 力・reading 力を高めていく。written teaching materials だけでなく DVD, CD も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course guideline
2	Unit 1 Carving the History of the Earth: Grand Canyon National Park(U.S.A.)	Introduction, Mini-quizzes, Previewing, DVD Viewing 速読教材使用
3	Unit 1 Carving the History of the Earth: Grand Canyon National Park(U.S.A.)	Reading, Cross-cultural Activities,
4	Unit 1 Carving the History of the Earth: Grand Canyon National Park(U.S.A.)	Writing, etc. 速読教材使用
5	Unit 2 The Lying Dragon: The Great Wall of China(China)	Mini-quizzes, Previewing, DVD Viewing,
6	Unit 2 The Lying Dragon: The Great Wall of China(China)	Reading Reading, Cross-cultural Activities, Writing 速読教材使用
7	Unit 2 The Lying Dragon: The Great Wall of China(China)	Writing, etc. Mini-quizzes, Previewing,
8	Unit 3 Monument to the Beloved: Taj Mahal(India)	DVD Viewing, Reading, 速読教材使用
9	Unit 3 Monument to the Beloved: Taj Mahal(India)	Cross-cultural Activities, Writing
10	Unit 4 Where Ancient Spirits Live: Uluru-Kata Tjuta National Park(Australia)	Mini-quizzes, Previewing, DVD Viewing, 速読教材使用
11	Unit 4 Where Ancient Spirits Live: Uluru-Kata Tjuta National Park(Australia) Unit 5 Beautiful Paris, Forever: Paris and the Banks of the Seine(France)	Reading Cross-cultural Activities, Writing Mini-quizzes, Previewing

12	Unit 5 Beautiful Paris, Forever: Paris and the Banks of the Seine(France)	DVD Viewing, Reading 速読教材使用
13	定期テスト	Unit 1-Unit 5
14	総復習 言語活動	Unit 1-Unit 5

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習（vocabulary, listening, reading 等）・復習（理解度の低かった箇所の復習等）・宿題（レポート課題作成等）なお、次回に口頭発表が決定している学生はその準備をして授業に臨む必要がある。

【テキスト（教科書）】

Hisakazu Tsukano, Robert Van Benthuyssen, Kenichi Ohyama『Exploring World Heritage on DVD（DVD でめぐる世界遺産）』SEIBIDO（2,300 円（税別））

（注：①必ず購入のこと。②似た教科書で『Exploring World Heritage II（DVD でめぐる世界遺産 II）』SEIBIDO(2,400 円（税別））というのがあるが、そちらと間違えないように注意して下さい。）

【参考書】

授業で必要となる資料はプリントにて随時配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 50%, 授業内課題（授業での課題、発表、貢献などを含む）25%, 授業外課題（課題提出等）25%

【学生の意見等からの気づき】

各学生のポジティブな取り組みが求められる。私語厳禁。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。（辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員の説明や学生の発言等注意して聴く必要があるため。）

【その他の重要事項】

授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。（常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。）

【Outline and objectives】

This class aims at improving the students' competence of the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with reading mostly emphasized. Also it aims at encouraging the students to convey their way of thinking or information acquired through reading and listening, either by speaking or writing. It motivates them to improve their accuracy and fluency in English ability.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）

村井 三千男

サブタイトル：（7）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2 年次／1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の 4 技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指す。特にその中で listening 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。（presentation は oral, written の双方がありうる。）

【到達目標】

4 つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる listening のスキルの上達をめざす。異文化の理解も含め、違い、共通点、誤解を招き易いコミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

様々な国々の世界遺産にスポットライトを当てた教材を用いて、listening 力・reading 力を高めていく。written teaching materials だけでなく DVD, CD も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation Unit 6 Hidden City: Historic Site of Machu Picchu(Peru)	Course guideline Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
2	Unit 6 Hidden City: Historic Site of Machu Picchu(Peru)	Reading, Cross-cultural Activities, 速読用教材使用
3	Unit 6 Hidden City: Historic Site of Machu Picchu(Peru)	Writing, etc.
4	Unit 7 The Challenge to Find Longitude: Greenwich(United Kingdom)	Mini-quizzes, Previewing, DVD Viewing, 速読用教材使用
5	Unit 7 The Challenge to Find Longitude: Greenwich(United Kingdom)	Reading, Cross-cultural Activities,
6	Unit 7 The Challenge to Find Longitude: Greenwich(United Kingdom) Unit 8 The Maze City: Historic Site of Fez(Morocco)	Writing Mini-quizzes, Previewing, DVD Viewing, 速読用教材使用
7	Unit 8 The Maze City: Historic Site of Fez(Morocco)	Reading, Cross-cultural Activities
8	Unit 8 The Maze City: Historic Site of Fez(Morocco)	Writing, 速読用教材使用
9	Unit 9 A Tragic Masquerade: The Royal Palace of Drottningholm(Sweden)	Mini-quizzes, Previewing, DVD Viewing,
10	Unit 9 A Tragic Masquerade: The Royal Palace of Drottningholm(Sweden)	Reading, Cross-cultural Activities, 速読用教材使用

11	Unit 9 A Tragic Masquerade: The Royal Palace of Drottningholm(Sweden) Unit 10 Underground Towns: Goreme National Park and the Rock Sites of Cappadocia(Turkey)	Writing, Mini-quizzes, Previewing, DVD-Viewing
12	Unit 10 Underground Towns: Goreme National Park and the Rock Sites of Cappadocia(Turkey)	Reading,Cross-cultural Activities 速読用教材使用
13	定期テスト	Unit 6-Unit 10
14	総復習・試験用紙返却・解説	Unit 6-Unit 10

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習（vocabulary, listening, reading 等）・復習（理解度の低かった箇所の復習等）・宿題（レポート課題作成等）なお、次回に口頭発表が決定している学生はその準備をして授業に臨む必要がある。

【テキスト（教科書）】

Hisakazu Tsukano, Robert Van Benthuyssen, Kenichi Ohyama『Exploring World Heritage on DVD（DVD でめぐる世界遺産）』SEIBIDO（2,300 円（税別））
（注：①必ず購入のこと。②似た教科書で『Exploring World Heritage II（DVD でめぐる世界遺産 II）』SEIBIDO(2,400 円（税別））というのがあるが、そちらと間違えないように注意して下さい。）

【参考書】

授業で必要となる資料はプリントにて随時配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 50%, 授業内課題（授業での課題、発表、貢献などを含む）25%, 授業外課題（課題提出等）25%

【学生の意見等からの気づき】

各学生のポジティブな取り組みが求められる。私語厳禁。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。（辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員の説明や学生の発言等注意して聴く必要があるため。）

【その他の重要事項】

授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。（常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。）

【Outline and objectives】

This class aims at improving the students' competence of the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with reading mostly emphasized. Also it aims at encouraging the students to convey their way of thinking or information acquired through reading and listening, either by speaking or writing. It motivates them to improve their accuracy and fluency in English ability.

LANe200IA

総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】

村井 三千男

サブタイトル：（7）

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の 4 技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指す。特にその中で reading 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。（presentation は oral, written の双方がありうる。）また速読用教材も適宜用いること等により総合英語Ⅰ（a）(b) よりも速い速度でより正しく理解する能力を高める。

【到達目標】

春学期

4 つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる reading のスキルの上達を目指す。異文化の理解も含め、共通点・相違点、誤解を招き易いコミュニケーションなども学びながら、英語の能力を高めていく。総合英語Ⅰ（a）(b) よりも速い速度でより正しく理解する能力を高める。

秋学期

重要な情報を正確に聴き取る（その上に読み取る）訓練をするともに、重要な reading strategy を修得する。そして得られた知識・情報をもとに、自分の考え等を他者に正しく伝達できるようになることを目標とする。総合英語Ⅰ（a）(b) よりも速い速度でより正しく理解する能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期

様々な国々の世界遺産にスポットライトを当てた教材を用いて、listening 力・reading 力を高めていく。written teaching materials だけでなく DVD, CD 等も随時使用し、written English のみならず、oral English をも重視する。presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。速読用教材を適宜用いることにより、速読力を高める。

秋学期

各課の Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing, Reading, Cross-cultural Activities, Writing などの作業を通じて 4 技能特に listening と presentation の力の向上を図る。（時間的理由等で省略する作業もありうる。）DVD, CD も随時使用し、written English のみならず、oral English をも重視する。presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。速読用教材を適宜用いることにより、速読力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course Guideline
2	Unit 1 Carving the History of the Earth: Grand Canyon	Introduction, Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing 速読教材使用
3	Unit 1 Carving the History of the Earth: Grand Canyon	Reading, Cross-cultural Activities
4	Unit 1 Carving the History of the Earth: Grand Canyon	Writing, etc. 速読教材使用
5	Unit 2 The Lying Dragon: The Great Wall of China(China)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
6	Unit 2 The Lying Dragon: The Great Wall of China(China)	Reading, Cross-cultural Activities 速読教材使用
7	Unit 2 The Lying Dragon: The Great Wall of China(China)	Writing, etc. Mini-Quizzes, Previewing,
8	Unit 3 Monument to the Beloved: Taj Mahal(India)	DVD Viewing, Reading, 速読教材使用

9	Unit 3 Monument to the Beloved: Taj Mahal(India)	Cross-cultural Activities, Writing
10	Unit 4 Where Ancient Spirits Live: Uluru-Kata Tjuta National Park(Australia)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing 速読教材使用
11	Unit 4 Where Ancient Spirits Live: Uluru-Kata Tjuta National Park(Australia) Unit 5 Beautiful Paris, Forever: Paris and the Banks of the Seine(France)	Reading, Cross-cultural Activities, Writing Mini-Quizzes, Previewing,
12	Unit 5 Beautiful Paris, Forever: Paris and the Banks of the Seine(France)	DVD Viewing, Reading, 速読教材使用
13	定期試験	Unit 1-Unit 5
14	総復習・試験用紙返却・解説	Unit 1-Unit 5
15	Orientation (ガイド ンス) Unit 6 Hidden City: Historic Site of Machu Picchu(Peru)	授業の進め方・評価方法等についての説明 Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
16	Unit 6 Hidden City: Historic Site of Machu Picchu(Peru)	Reading, Cross-cultural Activities 速読用教材使用
17	Unit 6 Hidden City: Historic Site of Machu Picchu(Peru)	Writing, etc.
18	Unit 7 The Challenge to Find Longitude: Greenwich(United Kingdom)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing 速読用教材使用
19	Unit 7 The Challenge to Find Longitude: Greenwich(United Kingdom)	Reading, Cross-cultural Activities
20	Unit 7 The Challenge to Find Longitude: Greenwich(United Kingdom) Unit 8 The Maze City: Historic Site of Fez(Morocco)	Writing Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing 速読用教材使用
21	Unit 8 The Maze City: Historic Site of Fez(Morocco)	Reading, Cross-cultural Activities
22	Unit 8 The Maze City: Historic Site of Fez(Morocco)	Writing 速読用教材使用
23	Unit 9 A Tragic Masquerade: The Royal Palace of Drottningholm(Sweden)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
24	Unit 9 A Tragic Masquerade: The Royal Palace of Drottningholm(Sweden)	Reading, Cross-cultural Activities 速読用教材使用
25	Unit 9 A Tragic Masquerade: The Royal Palace of Drottningholm(Sweden) Unit 10 Underground Towns: Goreme National Park and the Rock Sites of Cappadocia(Turkey)	Writing Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
26	Unit 10 Underground Towns: Goreme National Park and the Rock Sites of Cappadocia(Turkey)	Reading, Cross-cultural Activities 速読用教材使用
27	定期試験	Unit 6-10
28	総復習・試験問題返却・解説	Unit 6-10

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期

教科書の予習（vocabulary, listening, reading 等）・復習（理解度の低かった箇所の復習等）・宿題（レポート課題作成等）なお、次回に口頭発表が予定されている学生はその準備をして授業に臨む必要がある。

秋学期

予習（授業内で扱う内容について十分調べてから授業に臨むこと。）

復習（前回の授業で扱った内容・語彙・文法等の復習を行なう。）

課題（課題が提示された場合には行ない、期日までに提出する。または Presentation の準備を行なう。）

【テキスト（教科書）】

Hisakazu Tsukano, Robert Van Benthuyssen, Kenichi Ohyama『Exploring World Heritage on DVD (DVD でめぐる世界遺産)』SEIBIDO (2,300 円 (税別))

(注：①必ず購入のこと。②似た教科書で『Exploring World Heritage II (DVD でめぐる世界遺産) II』』SEIBIDO(2,400 円 (税別)) といがあるが、そちらと間違えないように注意して下さい。)

【参考書】

必要となる資料は授業で随時配布もしくは提示する。(速読教材等)

【成績評価の方法と基準】

春学期

定期試験 50%, 授業内課題（授業での課題・発表・貢献等を含む）25%, 授業外課題（課題提出等）25%

秋学期

試験 50%、授業内課題 25%、授業外課題 25%（「授業内課題」とは授業中の指示に対応し、授業中に提示する課題などに積極的に取り組むことを意味する。授業内に小テストを実施する場合の成績もそれに含める。「授業外課題」とは Oral Presentation の準備や Written Presentation のレポートなどを含むものである。合計して 100 点換算した際に 60 点以上取得の学生に対して単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

語源等、英語に関わる様々な側面の情報を適宜提示するなどして、英語に対する興味・関心を増すような授業を目指したいと考える次第である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。(辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは予習時・復習時であり、授業中の使用は原則的に禁止する。授業中は教員の説明や他の学生の発言等注意して聴くことが重要なため。) writing 作業等でそれらを用いてもよい際には教員が指示する。

【その他の重要事項】

春学期

授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。(常日頃から健康維持に十分留意することも必要である。)

「より速くより正確に読み取る」(Read with fluency, read with accuracy) という目的を達成する気力で取り組むことを望む次第である。

秋学期

十分な予習を行ない、できる限り多く授業に出席し、授業に積極的に取り組むことが望ましい。

「より速くより正確に読み取る」(Read with fluency, read with accuracy) という目的を達成する気力で取り組むことを望む次第である。

【Outline and objectives】

This class aims at improving the students' competence of the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with reading mostly emphasized. Also it aims at encouraging the students to convey their way of thinking or information acquired through reading and listening, either by speaking or writing. It motivates them to improve their accuracy and fluency in English ability.

LANj100IA

日本語 1- I

酒井 知子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、論理的な思考を養いながら大学における論述文の書き方を基礎から学習し、日本語表現力の向上も目指す。
また文章作成の基礎的なスキルも学び、課題作文・レポートを書く。

【到達目標】

- 1 表記・表現・文法など間違いが少ない文章を書くことができる。
- 2 わかりやすく、論理的な文を書くことができる。
- 3 調べたことについてわかりやすくまとめ、説明できる。
- 4 書き言葉と話し言葉（発表）の差異を意識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

予習はしてあるものとして進めていく。
テキストの問題などを解きながら、教師の補足説明を聞く。
あたえられたテーマについて、グループで話しあったり、調べたりする。
その後課題作文を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 文体 句読点の打ち方 記号の使い方	書き言葉らしさとは 句読点や記号の使い方は練習問題をしながら確認
2	L2 (1) 文の基本 自動詞や受け身	使い方の確認 自動詞や受け身を使用した作文を書く
3	L2 (2) 「は」と「が」	作文の FB 「は」「が」の使い方の練習
4	L2 (3) 文の名詞化 (4) 首尾一貫した文	練習問題を解きながら、練習
5	L2 (4) 首尾一貫した文	呼応の練習
6	L5 引用のしかた 小テスト	第 1 回～ 5 回の復習確認テスト レポート作成における引用の重要性
7	L5 引用	引用を用いたレポート作成
8	第 2 部 L1 段落	レポート FB 段落の構成の仕方 段落の相互関係について
9	L1 段落 L2 仕組みの説明	読み手の立場に立った分かりやすい説明とはどんな文か考える。
10	L2 仕組みの説明 発表について	L2 の内容に沿った作文 13 回目に行う発表について
11	L3 歴史的な経過の説明	歴史的経過を述べる文章の書き方 作文 FB 発表原稿作成
12	L3 歴史的な経過の説明	発表原稿 FB
13	発表	発表原稿をもとに発表
14	期末試験	期末課題作文を書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 予習先行型の学習
- 2 学生は授業計画の進捗を確認し、練習問題の答えを書いてくる。
- 3 授業後に間違った部分は要復習。
- 4 原則的に授業内で作文を書く。書き終わらない場合は次回提出。

【テキスト（教科書）】

『留学生のための論理的な文章の書き方』
二通信子ほか（スリーエーネットワーク）
補助教材プリントは配布する
プリント類はファイルしておくこと

【参考書】

『留学生のためのここが大切文章表現のルール』石黒圭・筒井千絵（スリーエーネットワーク）
『日本語の表現技術 読解と作文』倉八順子（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

- ・課題作文（30%）
- ・期末試験（30%）
- ・発表（30%）
- ・平常点（小テストも含む）（10%）

※課題の未提出が多い場合、単位を出さない。

※ 4 回以上欠席した場合は単位を出さない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は学期途中で一部変更することがある。

【Outline and objectives】

We are learning about how to write in Japanese logically and correctly.

LANj100IA

日本語 1- I

酒井 知子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、論理的な思考を養いながら大学における論述文の書き方を基礎から学習し、日本語表現力の向上も目指す。
また文章作成の基礎的なスキルも学び、課題作文・レポートを書く。

【到達目標】

- 1 表記・表現・文法など間違いが少ない文章を書くことができる。
- 2 わかりやすく、論理的な文を書くことができる。
- 3 調べたことについてわかりやすくまとめ、説明できる。
- 4 書き言葉と話し言葉（発表）の差異を意識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

予習はしてあるものとして進めていく。
テキストの問題などを解きながら、教師の補足説明を聞く。
あたえられたテーマについて、グループで話しあったり、調べたりする。
その後課題作文を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 文体 句読点の打ち方 記号の使い方	書き言葉らしさとは 句読点や記号の使い方は練習問題をしながら確認
②	L2 (1) 文の基本 自動詞や受け身	使い方の確認 自動詞や受け身を使用した作文を書く
③	L2 (2) 「は」と「が」	作文の FB 「は」「が」の使い方の練習
④	L2 (3) 文の名詞化 (4) 首尾一貫した文	練習問題を解きながら、練習
⑤	L2 (4) 首尾一貫した文	呼応の練習
⑥	L5 引用のしかた 小テスト	第 1 回～ 5 回の復習確認テスト レポート作成における引用の重要性
⑦	L5 引用	引用を用いたレポート作成
⑧	第 2 部 L1 段落	レポート FB 段落の構成の仕方 段落の相互関係について
⑨	L1 段落 L2 仕組みの説明	読み手の立場に立った分かりやすい説明とはどんな文か考える。
⑩	L2 仕組みの説明 発表について	L2 の内容に沿った作文 13 回目に行う発表について
⑪	L3 歴史的な経過の説明	歴史的経過を述べる文章の書き方 作文 FB 発表原稿作成
⑫	L3 歴史的な経過の説明	発表原稿 FB
⑬	発表	発表原稿をもとに発表
⑭	期末試験	期末課題作文を書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 予習先行型の学習
- 2 学生は授業計画の進捗を確認し、練習問題の答えを書いてくる。
- 3 授業後は間違った部分は要復習。
- 4 原則的に授業内で作文を書く。書き終わらない場合は次回提出。

【テキスト（教科書）】

『留学生のための論理的な文章の書き方』
二通信子ほか（スリーエーネットワーク）
補助教材プリントは配布する
プリント類はファイルしておくこと

【参考書】

『留学生のためのここが大切文章表現のルール』石黒圭・筒井千絵（スリーエーネットワーク）
『日本語の表現技術 読解と作文』倉八順子（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

- ・課題作文（30%）
- ・期末試験（30%）
- ・発表（30%）
- ・平常点（小テストも含む）（10%）

※課題の未提出が多い場合、単位を出さない。

※ 4 回以上欠席した場合は単位を出さない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は学期途中で一部変更することがある。

【Outline and objectives】

We are learning about how to write in Japanese logically and correctly.

LANj100IA

日本語 1- I

酒井 知子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、論理的な思考を養いながら大学における論述文の書き方を基礎から学習し、日本語表現力の向上も目指す。
また文章作成の基礎的なスキルも学び、課題作文・レポートを書く。

【到達目標】

- 1 表記・表現・文法など間違いが少ない文章を書くことができる。
- 2 わかりやすく、論理的な文を書くことができる。
- 3 調べたことについてわかりやすくまとめ、説明できる。
- 4 書き言葉と話し言葉（発表）の差異を意識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

予習はしてあるものとして進めていく。
テキストの問題などを解きながら、教師の補足説明を聞く。
あたえられたテーマについて、グループで話しあったり、調べたりする。
その後課題作文を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 文体 句読点の打ち方 記号の使い方	書き言葉らしさとは 句読点や記号の使い方は練習問題をしながら確認
②	L2 (1) 文の基本 自動詞や受け身	使い方の確認 自動詞や受け身を使用した作文を書く
③	L2 (2) 「は」と「が」	作文の FB 「は」「が」の使い方の練習
④	L2 (3) 文の名詞化 (4) 首尾一貫した文	練習問題を解きながら、練習
⑤	L2 (4) 首尾一貫した文	呼応の練習
⑥	L5 引用のしかた 小テスト	第 1 回～ 5 回の復習確認テスト レポート作成における引用の重要性
⑦	L5 引用	引用を用いたレポート作成
⑧	第 2 部 L1 段落	レポート FB 段落の構成の仕方 段落の相互関係について
⑨	L1 段落 L2 仕組みの説明	読み手の立場に立った分かりやすい説明とはどんな文か考える。
⑩	L2 仕組みの説明 発表について	L2 の内容に沿った作文 13 回目に行う発表について
⑪	L3 歴史的な経過の説明	歴史的経過を述べる文章の書き方 作文 FB 発表原稿作成
⑫	L3 歴史的な経過の説明	発表原稿 FB
⑬	発表	発表原稿をもとに発表
⑭	期末試験	期末課題作文を書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 予習先行型の学習
- 2 学生は授業計画の進捗を確認し、練習問題の答えを書いてくる。
- 3 授業後は間違った部分は要復習。
- 4 原則的に授業内で作文を書く。書き終わらない場合は次回提出。

【テキスト（教科書）】

『留学生のための論理的な文章の書き方』
二通信子ほか（スリーエーネットワーク）
補助教材プリントは配布する
プリント類はファイルしておくこと

【参考書】

『留学生のためのここが大切文章表現のルール』石黒圭・筒井千絵（スリーエーネットワーク）
『日本語の表現技術 読解と作文』倉八順子（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

- ・課題作文（30%）
- ・期末試験（30%）
- ・発表（30%）
- ・平常点（小テストも含む）（10%）

※課題の未提出が多い場合、単位を出さない。

※ 4 回以上欠席した場合は単位を出さない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は学期途中で一部変更することがある。

【Outline and objectives】

We are learning about how to write in Japanese logically and correctly.

LANj100IA

日本語 1-Ⅱ

酒井 知子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、論理的な思考を養いながら大学における論述文の書き方を基礎から学習し、日本語表現力の向上も目指す。
また前期に学習した文章作成の基礎的なスキルをふまえ、課題作文・レポートを書く。

【到達目標】

- 1 表記・表現・文法など間違いが少ない文章を書くことができる。
- 2 わかりやすく、論理的な展開でレポート・小論文を書くことができる。
- 3 調べたことについてわかりやすく要約し、説明・発表ができる。
- 4 あるテーマについて、資料・文献を調べ、問題点などを論じ、自分の考察を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

予習はしてあるものとして進めていく。
テキストの問題などを解きながら、教師の補足説明を聞く。
あたえられたテーマについて、グループで話しあったり、調べたりする。
その後課題作文・レポートを書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	L4 分類	分類に使われる文型・表現 接続詞
2	L4 分類	用語の説明の仕方を学ぶ
3	L5 定義	
4	L6 要約	課題を解く 文章の主題に焦点を当てた要約の仕方を学ぶ テキストの練習問題
5	L6 要約	作文 作文 FB 要約の練習（補助プリント）
6	L6 要約	課題作文 要約し、意見文を書く
7	L7 比較・対照	教科書の問題を解く 作文 FB
8	L7 比較・対照	10 回の発表について グラフを用いた発表原稿作成
9	L8 因果関係	L10 を参照 発表原稿 FB 因果関係の述べ方の練習
10	発表	発表原稿をもとに発表
11	L8 因果関係	課題作文
	L9 論説文	教科書の構成・内容を確認 レポートについて
12	L9 論説文	教科書の構成・内容を確認 課題作文 FB レポート作成
13	L10 レポート作成	レポート作成 助言を与えながら作成
14	レポート FB	総まとめ 今期授業の総まとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 予習先行型の学習
- 2 学生は授業計画の進捗を確認し、練習問題の答えを書いてくる。
- 3 授業後に間違った部分は要復習。
- 4 原則的に授業内で作文を書く。書き終わらない場合は次回提出。

【テキスト（教科書）】

『留学生のための論理的な文章の書き方』
二通信子ほか（スリーエーネットワーク）
補助教材プリントは配布する
プリント類はファイルしておくこと

【参考書】

『日本語の表現技術 読解と作文』倉八順子（古今書院）
『論文・レポートの基本』石黒圭（日本実業出版社）

【成績評価の方法と基準】

- ・課題作文（30%）
 - ・期末レポート（30%）
 - ・発表（30%）
 - ・平常点（小テストも含む）（10%）
- ※課題の未提出が多い場合、単位を出さない。
※4 回以上欠席した場合は単位を出さない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

作文、レポート作成の際にパソコンなどを持ってくるのが望ましい

【その他の重要事項】

授業計画は学期途中で一部変更することがある。

【Outline and objectives】

We are learning about how to write in Japanese logically and correctly.

LANj100IA

日本語 1-Ⅱ

酒井 知子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、論理的な思考を養いながら大学における論述文の書き方を基礎から学習し、日本語表現力の向上も目指す。
また前期に学習した文章作成の基礎的なスキルをふまえ、課題作文・レポートを書く。

【到達目標】

- 1 表記・表現・文法など間違いが少ない文章を書くことができる。
- 2 わかりやすく、論理的な展開でレポート・小論文を書くことができる。
- 3 調べたことについてわかりやすく要約し、説明・発表ができる。
- 4 あるテーマについて、資料・文献を調べ、問題点などを論じ、自分の考察を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

予習はしてあるものとして進めていく。
テキストの問題などを解きながら、教師の補足説明を聞く。
あたえられたテーマについて、グループで話しあったり、調べたりする。
その後課題作文・レポートを書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	L4 分類	分類に使われる文型・表現 接続詞
2	L4 分類	用語の説明の仕方を学ぶ
3	L5 定義	
4	L6 要約	課題を解く 文章の主題に焦点を当てた要約の仕方を学ぶ テキストの練習問題
5	L6 要約	作文 作文 FB 要約の練習（補助プリント）
6	L6 要約	課題作文 要約し、意見文を書く
7	L7 比較・対照	教科書の問題を解く 作文 FB
8	L7 比較・対照	10 回の発表について グラフを用いた発表原稿作成
9	L8 因果関係	L10 を参照 発表原稿 FB 因果関係の述べ方の練習
10	発表	発表原稿をもとに発表
11	L8 因果関係	課題作文
	L9 論説文	教科書の構成・内容を確認 レポートについて
12	L9 論説文	教科書の構成・内容を確認 課題作文 FB レポート作成
13	L10 レポート作成	レポート作成 助言を与えながら作成
14	レポート FB	総まとめ 今期授業の総まとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 予習先行型の学習
- 2 学生は授業計画の進捗を確認し、練習問題の答えを書いてくる。
- 3 授業後に間違った部分は要復習。
- 4 原則的に授業内で作文を書く。書き終わらない場合は次回提出。

【テキスト（教科書）】

『留学生のための論理的な文章の書き方』
二通信子ほか（スリーエーネットワーク）
補助教材プリントは配布する
プリント類はファイルしておくこと

【参考書】

『日本語の表現技術 読解と作文』倉八順子（古今書院）
『論文・レポートの基本』石黒圭（日本実業出版社）

【成績評価の方法と基準】

- ・課題作文（30%）
 - ・期末レポート（30%）
 - ・発表（30%）
 - ・平常点（小テストも含む）（10%）
- ※課題の未提出が多い場合、単位を出さない。
※4 回以上欠席した場合は単位を出さない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

作文、レポート作成の際にパソコンなどを持ってくるのが望ましい

【その他の重要事項】

授業計画は学期途中で一部変更することがある。

【Outline and objectives】

We are learning about how to write in Japanese logically and correctly.

LANj100IA

日本語 1-Ⅱ

酒井 知子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、論理的な思考を養いながら大学における論述文の書き方を基礎から学習し、日本語表現力の向上も目指す。
また前期に学習した文章作成の基礎的なスキルをふまえ、課題作文・レポートを書く。

【到達目標】

- 1 表記・表現・文法など間違いが少ない文章を書くことができる。
- 2 わかりやすく、論理的な展開でレポート・小論文を書くことができる。
- 3 調べたことについてわかりやすく要約し、説明・発表ができる。
- 4 あるテーマについて、資料・文献を調べ、問題点などを論じ、自分の考察を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

予習はしてあるものとして進めていく。
テキストの問題などを解きながら、教師の補足説明を聞く。
あたえられたテーマについて、グループで話しあったり、調べたりする。
その後課題作文・レポートを書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	L4 分類	分類に使われる文型・表現 接続詞
2	L4 分類	用語の説明の仕方
	L5 定義	
3	L5 定義	課題を解く
4	L6 要約	文章の主題に焦点を当てた要約の仕方 を学ぶ テキストの練習問題
		作文
5	L6 要約	作文 FB 要約の練習（補助プリント）
6	L6 要約	課題作文 要約し、意見文を書く
7	L7 比較・対照	教科書の問題を解く 作文 FB
		10 回の発表について
8	L7 比較・対照	グラフを用いた発表原稿作成 L10 を参照
9	L8 因果関係	発表原稿 FB 因果関係の述べ方の練習
10	発表	発表原稿をもとに発表
11	L8 因果関係	課題作文
	L9 論説文	教科書の構成・内容を確認 レポートについて
12	L9 論説文	教科書の構成・内容を確認 課題作文 FB
		レポート作成
13	L10 レポート作成	レポート作成 助言を与えながら作成
14	レポート FB	総まとめ 総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 予習先行型の学習
- 2 学生は授業計画の進捗を確認し、練習問題の答えを書いてくる。
- 3 授業後に間違った部分は要復習。
- 4 原則的に授業内で作文を書く。書き終わらない場合は次回提出。

【テキスト（教科書）】

『留学生のための論理的な文章の書き方』
二通信子ほか（スリーエーネットワーク）
補助教材プリントは配布する
プリント類はファイルしておくこと

【参考書】

『日本語の表現技術 読解と作文』倉八順子（古今書院）
『論文・レポートの基本』石黒圭（日本実業出版社）

【成績評価の方法と基準】

- ・課題作文（30%）
 - ・期末レポート（30%）
 - ・発表（30%）
 - ・平常点（小テストも含む）（10%）
- ※課題の未提出が多い場合、単位を出さない。
※4 回以上欠席した場合は単位を出さない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

作文・レポート作成の際にパソコンを持ってくるのが望ましい。

【その他の重要事項】

授業計画は学期途中で一部変更することがある。

【Outline and objectives】

We are learning about how to write in Japanese logically and correctly.

LANj100IA

日本語 2- I

乾 浩

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本のトピックについて書かれたテキストを読解したり、それに関する発表や討論を通し、大学における学習、研究のための日本語力を養成するとともに、現代日本社会に対する理解を深める。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②内容をパワーポイントにまとめ、発表することができる。
- ③口頭で意見を表明することができる。
- ④討論を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①担当者は担当部分のパワーポイントを作成し、口頭で発表を行う。
- ②質疑応答を行う。
- ③ことばについてのQ & Aを行う。
- ④グループ討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や発表や課題への取り組み方について説明します。
2	発表の準備	発表の基本的な技術を確認します。
3	トピック①	読解、発表、討論を行います。
4	トピック②	読解、発表、討論を行います。
5	トピック③	読解、発表、討論を行います。
6	トピック④	読解、発表、討論を行います。
7	トピック⑤	読解、発表、討論を行います。
8	中間試験	テストを行います。
9	トピック⑥	読解、発表、討論を行います。
10	トピック⑦	読解、発表、討論を行います。
11	トピック⑧	読解、発表、討論を行います。
12	トピック⑨	読解、発表、討論を行います。
13	トピック⑩	読解、発表、討論を行います。
14	期末テスト/まとめ	1. テストを行います。2. まとめのフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
- ・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくる。感想や質問を書くこと。

【テキスト（教科書）】

始めの授業のときに言います。

【参考書】

始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 (25%)、宿題 (25%)、発表 (25%)、定期試験 (25%) をもとにして、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】

パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。

【Outline and objectives】

This course guides students through high-level Japanese reading comprehension and presentation.

LANj100IA

日本語 2- I

乾 浩

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本のトピックについて書かれたテキストを読解したり、それに関する発表や討論を通し、大学における学習、研究のための日本語力を養成するとともに、現代日本社会に対する理解を深める。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②内容をパワーポイントにまとめ、発表することができる。
- ③口頭で意見を表明することができる。
- ④討論を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①担当者は担当部分のパワーポイントを作成し、口頭で発表を行う。
- ②質疑応答を行う。
- ③ことばについてのQ & Aを行う。
- ④グループ討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や発表や課題への取り組み方について説明します。
2	発表の準備	発表の基本的な技術を確認します。
3	トピック①	読解、発表、討論を行います。
4	トピック②	読解、発表、討論を行います。
5	トピック③	読解、発表、討論を行います。
6	トピック④	読解、発表、討論を行います。
7	トピック⑤	読解、発表、討論を行います。
8	中間試験	テストを行います。
9	トピック⑥	読解、発表、討論を行います。
10	トピック⑦	読解、発表、討論を行います。
11	トピック⑧	読解、発表、討論を行います。
12	トピック⑨	読解、発表、討論を行います。
13	トピック⑩	読解、発表、討論を行います。
14	期末テスト/まとめ	1. テストを行います。2. まとめのフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
- ・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくる。感想や質問を書くこと。

【テキスト（教科書）】

始めの授業のときに言います。

【参考書】

始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 (25%)、宿題 (25%)、発表 (25%)、定期試験 (25%) をもとにして、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】

パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。

【Outline and objectives】

This course guides students through high-level Japanese reading comprehension and presentation.

LANj100IA

日本語 2- I

乾 浩

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本のトピックについて書かれたテキストを読解したり、それに関する発表や討論を通し、大学における学習、研究のための日本語力を養成するとともに、現代日本社会に対する理解を深める。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②内容をパワーポイントにまとめ、発表することができる。
- ③口頭で意見を表明することができる。
- ④討論を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①担当者は担当部分のパワーポイントを作成し、口頭で発表を行う。
- ②質疑応答を行う。
- ③ことばについてのQ & Aを行う。
- ④グループ討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や発表や課題への取り組み方について説明します。
2	発表の準備	発表の基本的な技術を確認します。
3	トピック①	読解、発表、討論を行います。
4	トピック②	読解、発表、討論を行います。
5	トピック③	読解、発表、討論を行います。
6	トピック④	読解、発表、討論を行います。
7	トピック⑤	読解、発表、討論を行います。
8	中間試験	テストを行います。
9	トピック⑥	読解、発表、討論を行います。
10	トピック⑦	読解、発表、討論を行います。
11	トピック⑧	読解、発表、討論を行います。
12	トピック⑨	読解、発表、討論を行います。
13	トピック⑩	読解、発表、討論を行います。
14	期末テスト/まとめ	1. テストを行います。2. まとめのフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
- ・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくる。感想や質問を書くこと。

【テキスト（教科書）】

始めの授業のときに言います。

【参考書】

始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 (25%)、宿題 (25%)、発表 (25%)、定期試験 (25%) をもとにして、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】

パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。

【Outline and objectives】

This course guides students through high-level Japanese reading comprehension and presentation.

LANj100IA

日本語 2- II

乾 浩

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本のトピックについて書かれたテキストを読解したり、それに関する発表や討論を通し、大学における学習、研究のための日本語力を養成するとともに、現代日本社会に対する理解を深める。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②内容をパワーポイントにまとめ、発表することができる。
- ③口頭で意見を表明することができる。
- ④討論を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①担当者は担当部分のパワーポイントを作成し、口頭で発表を行う。
- ②質疑応答を行う。
- ③ことばについてのQ & Aを行う。
- ④グループ討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や発表や課題への取り組み方について説明します。
2	発表の準備	発表の基本的な技術を確認します。
3	トピック⑪	読解、発表、討論を行います。
4	トピック⑫	読解、発表、討論を行います。
5	トピック⑬	読解、発表、討論を行います。
6	トピック⑭	読解、発表、討論を行います。
7	トピック⑮	読解、発表、討論を行います。
8	中間試験	テストを行います。
9	トピック⑯	読解、発表、討論を行います。
10	トピック⑰	読解、発表、討論を行います。
11	トピック⑱	読解、発表、討論を行います。
12	トピック⑲	読解、発表、討論を行います。
13	トピック⑳	読解、発表、討論を行います。
14	期末テスト/まとめ	1. テストを行います。2. まとめのフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
- ・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくる。感想や質問を書くこと。

【テキスト（教科書）】

始めの授業のときに言います。

【参考書】

始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 (25%)、宿題 (25%)、発表 (25%)、定期試験 (25%) をもとにして、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】

パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。

【Outline and objectives】

This course guides students through high-level Japanese reading comprehension and presentation.

LANj100IA

日本語 2-Ⅱ

乾 浩

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本のトピックについて書かれたテキストを読解したり、それに関する発表や討論を通し、大学における学習、研究のための日本語力を養成するとともに、現代日本社会に対する理解を深める。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②内容をパワーポイントにまとめ、発表することができる。
- ③口頭で意見を表明することができる。
- ④討論を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①担当者は担当部分のパワーポイントを作成し、口頭で発表を行う。
- ②質疑応答を行う。
- ③ことばについてのQ & Aを行う。
- ④グループ討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や発表や課題への取り組み方について説明します。
2	発表の準備	発表の基本的な技術を確認します。
3	トピック⑪	読解、発表、討論を行います。
4	トピック⑫	読解、発表、討論を行います。
5	トピック⑬	読解、発表、討論を行います。
6	トピック⑭	読解、発表、討論を行います。
7	トピック⑮	読解、発表、討論を行います。
8	中間試験	テストを行います。
9	トピック⑯	読解、発表、討論を行います。
10	トピック⑰	読解、発表、討論を行います。
11	トピック⑱	読解、発表、討論を行います。
12	トピック⑲	読解、発表、討論を行います。
13	トピック⑳	読解、発表、討論を行います。
14	期末テスト/まとめ	1. テストを行います。2. まとめのフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
- ・（宿題）教科書の指定されたページを予習しておくこと。感想や質問を書くこと。

【テキスト（教科書）】

始めの授業のときに言います。

【参考書】

始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 (25%)、宿題 (25%)、発表 (25%)、定期試験 (25%) をもとにして、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】

パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。

【Outline and objectives】

This course guides students through high-level Japanese reading comprehension and presentation.

LANj100IA

日本語 2-Ⅱ

乾 浩

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本のトピックについて書かれたテキストを読解したり、それに関する発表や討論を通し、大学における学習、研究のための日本語力を養成するとともに、現代日本社会に対する理解を深める。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②内容をパワーポイントにまとめ、発表することができる。
- ③口頭で意見を表明することができる。
- ④討論を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①担当者は担当部分のパワーポイントを作成し、口頭で発表を行う。
- ②質疑応答を行う。
- ③ことばについてのQ & Aを行う。
- ④グループ討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や発表や課題への取り組み方について説明します。
2	発表の準備	発表の基本的な技術を確認します。
3	トピック⑪	読解、発表、討論を行います。
4	トピック⑫	読解、発表、討論を行います。
5	トピック⑬	読解、発表、討論を行います。
6	トピック⑭	読解、発表、討論を行います。
7	トピック⑮	読解、発表、討論を行います。
8	中間試験	テストを行います。
9	トピック⑯	読解、発表、討論を行います。
10	トピック⑰	読解、発表、討論を行います。
11	トピック⑱	読解、発表、討論を行います。
12	トピック⑲	読解、発表、討論を行います。
13	トピック⑳	読解、発表、討論を行います。
14	期末テスト/まとめ	1. テストを行います。2. まとめのフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
- ・（宿題）教科書の指定されたページを予習しておくこと。感想や質問を書くこと。

【テキスト（教科書）】

始めの授業のときに言います。

【参考書】

始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 (25%)、宿題 (25%)、発表 (25%)、定期試験 (25%) をもとにして、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】

パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。

【Outline and objectives】

This course guides students through high-level Japanese reading comprehension and presentation.

LANj200IA

日本語 3- I

宮本 典以子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな日本語の文章を読む技術、自然なスピードの日本語を聴く技術について学ぶ。また読んだり聴いたりした内容についての問題に答えたり、それらについて自分の意見を発信できるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ・さまざまな日本語の文章が速く正確に理解できる。
- ・1 文をしっかり理解できる。
- ・文章の展開まで理解できる。
- ・紛らわしい日本語の音や複合語のアクセントが正しく聞き分けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の始めに毎回 5 分程度の基本的な聴解トレーニングを行う。
ピア学習によるさまざまな読解、聴解トレーニングを通して、日本語の文章を理解するためのストラテジーについて学ぶ。
毎回教材の理解を問うクイズ等に答え、教材の内容に関してグループで意見を交換する。状況によって授業の進度、内容を若干変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 1 (授業アンケート等)	5分トレーニング①グループワーク準備、授業アンケート、レベルチェック
第 2 回	オリエンテーション 2 (アンケート結果による微調整)	クイズ①、宿題（個人目標を考える） 5分トレーニング②グループで目標について話し合う、自己評価シートの記入（個人目標を立てる）
第 3 回	1 文を理解するためのストラテジー①	5分トレーニング③、タスクリーディング：1 文の内容言い換え等①、ミニクイズ、自己評価
第 4 回	1 文を理解するためのストラテジー②	5分トレーニング④、タスクリーディング：1 文の内容言い換え等②、ミニクイズ、自己評価
第 5 回	日本文化①小説 1	5分トレーニング⑤、グループワーク（表現・語彙）。ディスカッション、ミニクイズ
第 6 回	日本文化②映画 フィールドワーク準備 2 (グループ作り)	5分トレーニング⑥ 語彙証言学習、ミニクイズ、自己評価、グループワーク（グループのビルドアップ）
第 7 回	フィールドワーク準備 3 (グループのテーマを決める)	5分トレーニング⑦、タスクリーディング：ミニクイズ、自己評価、グループワーク（フィールドワークのグループテーマを決める）
第 8 回	日本文化③漫画、アニメ フィールドワーク実施 (聖地巡礼または映画館 or ジブリ美術館体験のどれか 1 つ選択)	フィールドワーク、グループおよび自分のテーマについて学ぶ、自己評価 & ピア評価
第 9 回	フィールドワークふりかえり (グループワーク → レポート提出)	5分トレーニング⑧、グループワーク、ミニクイズ&自己評価
第 10 回	背景知識を利用して理解するストラテジー①	5分トレーニング⑨、グループワーク、ミニクイズ&自己評価
第 11 回	日本文化④詩、短歌、俳句など	5分トレーニング⑩、グループでディスカッション、自己評価&ピア評価
第 12 回	日本文化⑤小説 2、	5分トレーニング⑪、グループで速読、読解クイズ、ミニクイズ&自己評価
第 13 回	日本文化⑥アニメ	5分トレーニング⑫、グループで語彙表現学習、ミニクイズ&自己評価、宿題（語彙予習）
第 14 回	日本文化⑦ドラマ	グループワーク（語彙・表現）ドラマアンケート&ミニクイズ、期末アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも積極的に日本語の文章・ドラマ等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。語彙・表現の予習・復習等を宿題とする。

【テキスト（教科書）】

15 分できる にほんご音の聞きわけトレーニング』(スリーエーネットワーク)

その他は教師がコピーし配布する。

【参考書】

『留学生のための読解トレーニング』(凡人社)『日本語再入門 ①知識編』(日栄社)

【成績評価の方法と基準】

ミニクイズ等毎回の提出物 80 %、平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

音の聞きわけは役に立つので春も秋も続けてほしい、との声が多かったのであるべく毎回実施する。フィールドワークで日本の映画館やジブリ美術館に行きたいとの声が多かったので希望を聞いた上で実施する予定。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて P C 等使用。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Learn techniques to read various Japanese sentences and techniques to listen to Japanese with natural speed. It also aims to answer questions about contents that you read or listen to, and to be able to communicate your opinion about them.

LANj200IA

日本語 3- I

宮本 典以子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな日本語の文章を読む技術、自然なスピードの日本語を聴く技術について学ぶ。また読んだり聴いたりした内容についての問題に答えたり、それらについて自分の意見を発信できるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ・さまざまな日本語の文章が速く正確に理解できる。
- ・1 文をしっかり理解できる。
- ・文章の展開まで理解できる。
- ・紛らわしい日本語の音や複合語のアクセントが正しく聞き分けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の始めに毎回 5 分程度の基本的な聴解トレーニングを行う。
ピア学習によるさまざまな読解、聴解トレーニングを通して、日本語の文章を理解するためのストラテジーについて学ぶ。
毎回教材の理解を問うクイズ等に答え、教材の内容に関してグループで意見を交換する。状況によって授業の進度、内容を若干変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 1 (授業アンケート等)	5分トレーニング①グループワーク準備、授業アンケート、レベルチェック
第 2 回	オリエンテーション 2 (アンケート結果による微調整)	クイズ①、宿題（個人目標を考える） 5分トレーニング②グループで目標について話し合う、自己評価シートの記入（個人目標を立てる）
第 3 回	1 文を理解するためのストラテジー①	5分トレーニング③、タスクリーディング：1 文の内容言い換え等①、ミニクイズ、自己評価
第 4 回	1 文を理解するためのストラテジー②	5分トレーニング④、タスクリーディング：1 文の内容言い換え等②、ミニクイズ、自己評価
第 5 回	日本文化①小説 1	5分トレーニング⑤、グループワーク（表現・語彙）。ディスカッション、ミニクイズ
第 6 回	日本文化②映画 フィールドワーク準備 2 (グループ作り)	5分トレーニング⑥ 語彙証言学習、ミニクイズ、自己評価、グループワーク（グループのビルドアップ）
第 7 回	フィールドワーク準備 3 (グループのテーマを決める)	5分トレーニング⑦、タスクリーディング：ミニクイズ、自己評価、グループワーク（フィールドワークのグループテーマを決める）
第 8 回	日本文化③漫画、アニメ フィールドワーク実施 (聖地巡礼または映画館 or ジブリ美術館体験のどれか 1 つ選択)	フィールドワーク、グループおよび自分のテーマについて学ぶ、自己評価 & ピア評価
第 9 回	フィールドワークふりかえり (グループワーク → レポート提出)	5分トレーニング⑧、グループワーク、ミニクイズ&自己評価
第 10 回	背景知識を利用して理解するストラテジー①	5分トレーニング⑨、グループワーク、ミニクイズ&自己評価
第 11 回	日本文化④詩、短歌、俳句など	5分トレーニング⑩、グループでディスカッション、自己評価&ピア評価
第 12 回	日本文化⑤小説 2、	5分トレーニング⑪、グループで速読、読解クイズ、ミニクイズ&自己評価
第 13 回	日本文化⑥アニメ	5分トレーニング⑫、グループで語彙表現学習、ミニクイズ&自己評価、宿題（語彙予習）
第 14 回	日本文化⑦ドラマ	グループワーク（語彙・表現）ドラマアンケート&ミニクイズ、期末アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも積極的に日本語の文章・ドラマ等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。語彙・表現の予習・復習等を宿題とする。

【テキスト（教科書）】

15 分できる にほんご音の聞きわけトレーニング』(スリーエーネットワーク)

その他は教師がコピーし配布する。

【参考書】

『留学生のための読解トレーニング』(凡人社)『日本語再入門 ①知識編』(日栄社)

【成績評価の方法と基準】

ミニクイズ等毎回の提出物 80 %、平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

音の聞きわけは役に立つので春も秋も続けてほしい、との声が多かったのであるべく毎回実施する。フィールドワークで日本の映画館やジブリ美術館に行きたいとの声が多かったので希望を聞いた上で実施する予定。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて P C 等使用。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Learn techniques to read various Japanese sentences and techniques to listen to Japanese with natural speed. It also aims to answer questions about contents that you read or listen to, and to be able to communicate your opinion about them.

LANj200IA

日本語 3- I

宮本 典以子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな日本語の文章を読む技術、自然なスピードの日本語を聴く技術について学ぶ。また読んだり聴いたりした内容についての問題に答えたり、それらについて自分の意見を発信できるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ・さまざまな日本語の文章が速く正確に理解できる。
- ・1 文をしっかり理解できる。
- ・文章の展開まで理解できる。
- ・紛らわしい日本語の音や複合語のアクセントが正しく聞き分けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の始めに毎回 5 分程度の基本的な聴解トレーニングを行う。
ピア学習によるさまざまな読解、聴解トレーニングを通して、日本語の文章を理解するためのストラテジーについて学ぶ。
毎回教材の理解を問うクイズ等に答え、教材の内容に関してグループで意見を交換する。状況によって授業の進度、内容を若干変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 1 (授業アンケート等)	5分トレーニング①グループワーク準備、授業アンケート、レベルチェック
第 2 回	オリエンテーション 2 (アンケート結果による微調整)	クイズ①、宿題（個人目標を考える） 5分トレーニング②グループで目標について話し合う、自己評価シートの記入（個人目標を立てる）
第 3 回	1 文を理解するためのストラテジー①	5分トレーニング③、タスクリーディング：1 文の内容言い換え等①、ミニクイズ、自己評価
第 4 回	1 文を理解するためのストラテジー②	5分トレーニング④、タスクリーディング：1 文の内容言い換え等②、ミニクイズ、自己評価
第 5 回	日本文化①小説 1	5分トレーニング⑤、グループワーク（表現・語彙）。ディスカッション、ミニクイズ
第 6 回	日本文化②映画 フィールドワーク準備 2 (グループ作り)	5分トレーニング⑥ 語彙証言学習、ミニクイズ、自己評価、グループワーク（グループのビルドアップ）
第 7 回	フィールドワーク準備 3 (グループのテーマを決める)	5分トレーニング⑦、タスクリーディング：ミニクイズ、自己評価、グループワーク（フィールドワークのグループテーマを決める）
第 8 回	日本文化③漫画、アニメ フィールドワーク実施 (聖地巡礼または映画館 or ジブリ美術館体験のどれか 1 つ選択)	フィールドワーク、グループおよび自分のテーマについて学ぶ、自己評価 & ピア評価
第 9 回	フィールドワークふりかえり (グループワーク → レポート提出)	5分トレーニング⑧、グループワーク、ミニクイズ&自己評価
第 10 回	背景知識を利用して理解するストラテジー①	5分トレーニング⑨、グループワーク、ミニクイズ&自己評価
第 11 回	日本文化④詩、短歌、俳句など	5分トレーニング⑩、グループでディスカッション、自己評価&ピア評価
第 12 回	日本文化⑤小説 2、	5分トレーニング⑪、グループで速読、読解クイズ、ミニクイズ&自己評価
第 13 回	日本文化⑥アニメ	5分トレーニング⑫、グループで語彙表現学習、ミニクイズ&自己評価、宿題（語彙予習）
第 14 回	日本文化⑦ドラマ	グループワーク（語彙・表現）ドラマアンケート&ミニクイズ、期末アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも積極的に日本語の文章・ドラマ等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。語彙・表現の予習・復習等を宿題とする。

【テキスト（教科書）】

15 分できる にほんご音の聞きわけトレーニング』(スリーエーネットワーク)

その他は教師がコピーし配布する。

【参考書】

『留学生のための読解トレーニング』(凡人社)『日本語再入門 ①知識編』(日栄社)

【成績評価の方法と基準】

ミニクイズ等毎回の提出物 80 %、平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

音の聞きわけは役に立つので春も秋も続けてほしい、との声が多かったのであるべく毎回実施する。フィールドワークで日本の映画館やジブリ美術館に行きたいとの声が多かったので希望を聞いた上で実施する予定。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて P C 等使用。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Learn techniques to read various Japanese sentences and techniques to listen to Japanese with natural speed. It also aims to answer questions about contents that you read or listen to, and to be able to communicate your opinion about them.

LANj200IA

日本語 3-Ⅱ

宮本 典以子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済、社会、福祉、文化などの専門分野についての資料（映像等）の内容を理解し、他者とのやりとりを通じて自分の意見を簡潔にまとめ、他者と意見交換することができる。

【到達目標】

- ・専門分野についての資料（映像・マンガ等）を理解する力が向上する。
- ・日常のさまざまな場面での自然な日本語を理解し、適切に使用できるようになる。
- ・資料のテーマについて自分の意見を簡潔に表現でき、意見交換する力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主体的に対話的なピア学習を通して映像等の資料の理解を深め、自分の意見の要点を簡潔にまとめる。
グループで意見交換し、自己評価を行う。状況によって内容を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	映像資料で学ぶ日本語① ドラマ映画 1	アンケート、資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 2 回	読解 & 聴解「映像について」	タスクリーディング & タスクリスニング、グループワーク、ミニクイズ、宿題（意見）
第 3 回	映像資料で学ぶ日本語② ドラマ映画 2	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 4 回	映像資料で学ぶ日本語③ アニメ 1 フィールドワーク準備 1	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 5 回	フィールドワーク準備 2 映像資料で学ぶ日本語④ アニメ 2	資料解説、漫画読解、アニメ聴解、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 6 回	映像資料で学ぶ日本語⑤ ドラマ映画 3	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 7 回	映像資料で学ぶ日本語⑥ ドラマ映画 4	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 8 回	映像資料で学ぶ日本語⑦ ドラマ映画 5	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 9 回	映像資料で学ぶ日本語⑧ 漫画・アニメ 3	資料解説、漫画読解、アニメ聴解、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 10 回	映像資料で学ぶ日本語⑨ ドラマ映画 6	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 11 回	映像資料で学ぶ日本語⑩ ドラマ映画 7	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ
第 12 回	映像資料で学ぶ日本語⑪ アニメ 4	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 13 回	映像資料で学ぶ日本語⑫ TV 番組聴解 総合、国際、福祉等	タスクリスニング、グループワーク、ミニクイズ、宿題（意見）
第 14 回	映像資料で学ぶ日本語⑬ ドラマ映画 8	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、最終アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・語彙・表現はグループワークとするが、予習や復習も随時行うこと。
- ・授業時間以外で努力した点についてもアンケートに記入すること。

【テキスト（教科書）】

必要な資料等はコピーを配布する。

【参考書】

特に指定しない。参考資料や参考URLは必要に応じて授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】

ミニクイズなど毎回の提出物 80 %、平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

映像による授業が役に立つ、特にドラマは勉強になった、授業方法は今のままでよい、1 アニメも扱ってほしい、聖地巡礼にも行きたいとの意見が多かったので試験的にフィールドワークを実施する予定。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてPC等使用する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

You can understand the contents of materials (video etc.) about specialized fields such as economics, society, welfare, culture, etc., and concisely summarize their opinions through exchanges with others and exchange opinions with others.

LANj200IA

日本語 3-Ⅱ

宮本 典以子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済、社会、福祉、文化などの専門分野についての資料（映像等）の内容を理解し、他者とのやりとりを通じて自分の意見を簡潔にまとめ、他者と意見交換することができる。

【到達目標】

- ・専門分野についての資料（映像・マンガ等）を理解する力が向上する。
- ・日常のさまざまな場面での自然な日本語を理解し、適切に使用できるようになる。
- ・資料のテーマについて自分の意見を簡潔に表現でき、意見交換する力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主体的に対話的なピア学習を通して映像等の資料の理解を深め、自分の意見の要点を簡潔にまとめる。
グループで意見交換し、自己評価を行う。状況によって内容を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	映像資料で学ぶ日本語① ドラマ映画 1	アンケート、資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 2 回	読解 & 聴解「映像について」	タスクリーディング & タスクリスニング、グループワーク、ミニクイズ、宿題（意見）
第 3 回	映像資料で学ぶ日本語② ドラマ映画 2	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 4 回	映像資料で学ぶ日本語③ アニメ 1 フィールドワーク準備 1	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 5 回	フィールドワーク準備 2 映像資料で学ぶ日本語④ アニメ 2	資料解説、漫画読解、アニメ聴解、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 6 回	映像資料で学ぶ日本語⑤ ドラマ映画 3	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 7 回	映像資料で学ぶ日本語⑥ ドラマ映画 4	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 8 回	映像資料で学ぶ日本語⑦ ドラマ映画 5	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 9 回	映像資料で学ぶ日本語⑧ 漫画・アニメ 3	資料解説、漫画読解、アニメ聴解、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 10 回	映像資料で学ぶ日本語⑨ ドラマ映画 6	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 11 回	映像資料で学ぶ日本語⑩ ドラマ映画 7	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ
第 12 回	映像資料で学ぶ日本語⑪ アニメ 4	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 13 回	映像資料で学ぶ日本語⑫ TV 番組聴解 総合、国際、福祉等	タスクリスニング、グループワーク、ミニクイズ、宿題（意見）
第 14 回	映像資料で学ぶ日本語⑬ ドラマ映画 8	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、最終アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・語彙・表現はグループワークとするが、予習や復習も随時行うこと。
- ・授業時間以外で努力した点についてもアンケートに記入すること。

【テキスト（教科書）】

必要な資料等はコピーを配布する。

【参考書】

特に指定しない。参考資料や参考 URL は必要に応じて授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】

ミニクイズなど毎回の提出物 80 %、平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

映像による授業が役に立つ、特にドラマは勉強になった、授業方法は今のままでよい、1 アニメも扱ってほしい、聖地巡礼にも行きたいとの意見が多かったので試験的にフィールドワークを実施する予定。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて PC 等使用する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

You can understand the contents of materials (video etc.) about specialized fields such as economics, society, welfare, culture, etc., and concisely summarize their opinions through exchanges with others and exchange opinions with others.

LANj200IA

日本語 3-Ⅱ

宮本 典以子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済、社会、福祉、文化などの専門分野についての資料（映像等）の内容を理解し、他者とのやりとりを通じて自分の意見を簡潔にまとめ、他者と意見交換することができる。

【到達目標】

- ・専門分野についての資料（映像・マンガ等）を理解する力が向上する。
- ・日常のさまざまな場面での自然な日本語を理解し、適切に使用できるようになる。
- ・資料のテーマについて自分の意見を簡潔に表現でき、意見交換する力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主体的に対話的なピア学習を通して映像等の資料の理解を深め、自分の意見の要点を簡潔にまとめる。
グループで意見交換し、自己評価を行う。状況によって内容を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	映像資料で学ぶ日本語① ドラマ映画 1	アンケート、資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 2 回	読解 & 聴解「映像について」	タスクリーディング & タスクリスニング、グループワーク、ミニクイズ、宿題（意見）
第 3 回	映像資料で学ぶ日本語② ドラマ映画 2	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 4 回	映像資料で学ぶ日本語③ アニメ 1 フィールドワーク準備 1	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 5 回	フィールドワーク準備 2 映像資料で学ぶ日本語④ アニメ 2	資料解説、漫画読解、アニメ聴解、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 6 回	映像資料で学ぶ日本語⑤ ドラマ映画 3	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 7 回	映像資料で学ぶ日本語⑥ ドラマ映画 4	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 8 回	映像資料で学ぶ日本語⑦ ドラマ映画 5	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 9 回	映像資料で学ぶ日本語⑧ 漫画・アニメ 3	資料解説、漫画読解、アニメ聴解、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 10 回	映像資料で学ぶ日本語⑨ ドラマ映画 6	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 11 回	映像資料で学ぶ日本語⑩ ドラマ映画 7	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ
第 12 回	映像資料で学ぶ日本語⑪ アニメ 4	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、宿題（語彙）
第 13 回	映像資料で学ぶ日本語⑫ TV 番組聴解 総合、国際、福祉等	タスクリスニング、グループワーク、ミニクイズ、宿題（意見）
第 14 回	映像資料で学ぶ日本語⑬ ドラマ映画 8	資料解説、グループワーク（語彙・表現）意見交換、ミニクイズ、最終アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・語彙・表現はグループワークとするが、予習や復習も随時行うこと。
- ・授業時間以外で努力した点についてもアンケートに記入すること。

【テキスト（教科書）】

必要な資料等はコピーを配布する。

【参考書】

特に指定しない。参考資料や参考URLは必要に応じて授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】

ミニクイズなど毎回の提出物 80 %、平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

映像による授業が役に立つ、特にドラマは勉強になった、授業方法は今のままでよい、1 アニメも扱ってほしい、聖地巡礼にも行きたいとの意見が多かったので試験的にフィールドワークを実施する予定。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてPC等使用する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

You can understand the contents of materials (video etc.) about specialized fields such as economics, society, welfare, culture, etc., and concisely summarize their opinions through exchanges with others and exchange opinions with others.

LANe100IA

英語コミュニケーション I (a)

URBANOVA Jana

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

【到達目標】

This course's aim is to further develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) that you acquired in previous courses. The course will expand on these abilities by placing special emphasis on active communication and discussion on a variety of topics related to current issues. You will be encouraged to develop critical thinking and to share your opinions and knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. You will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering presentations and practicing parroting. You will be given the opportunity to converse on topics related to current issues and to present your own ideas. There will also be regular listening and reading exercises, as well as writing assignments based on the topics discussed in each unit.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Working life	Watching video (TED Talks); Speaking exercise: giving mini-presentation about your job/studies (pair work); Grammar: present simple, expressions of frequency
Week 3	Unit 1 Working life	Reading exercise: skills for the 21st century; Listening exercise: asking about jobs; Writing assignment: a formal letter inquiring about a job
Week 4	Unit 2 Trends	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Speaking exercise: critical thinking about leadership and following others; Presentation tips
Week 5	Unit 2 Trends	Speaking: meetings and introductions, group work; Listening and speaking exercise: Business model for an enterprise
Week 6	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentations No. 2 and No. 3
Week 7	Unit 3 Money	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Grammar: countable and uncountable nouns, expressions of quantity; Watching model presentation
Week 8	Unit 3 Money	Speaking: critical thinking – talking about money, pair & group work; Listening and speaking exercise: everyday conversations for money related situations
Week 9	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic

Week 10 Unit 4 Success

Watching video (TED Talks); Key words review; Grammar explanation and practice: past simple, past continuous, past perfect

Week 11 Unit 4 Success

Speaking: giving reasons for actions; Writing exercise: prepositions in messages

Week 12 Unit 5 Marketing

Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Grammar: comparatives and superlatives; Speaking exercise: comparison, pair work

Week 13 Presentation No. 3

Students' presentations No. 3 on the chosen topic

Week 14 Course wrap up

Final test; Students' feedback; Let's enjoy a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

Paul Dummett, Helen Stephenson & Lewis Lansford: Keynote Intermediate, Cengage Learning, 2016. Student's Book + Online Workbook Code ISBN: 978-1-305-88061-0

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

Your work will be evaluated as follows:

- Class attendance and active participation: 20%
- Writing assignments and tests: 20%
- Presentations: 60%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

LANe100IA

英語コミュニケーション I

URBANOVA Jana

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

【到達目標】

This course's aim is to further develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) that you acquired in previous courses. The course will expand on these abilities by placing special emphasis on active communication and discussion on a variety of topics related to current issues. You will be encouraged to develop critical thinking and to share your opinions and knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. You will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering presentations and practicing parroting. You will be given the opportunity to converse on topics related to current issues and to present your own ideas. There will also be regular listening and reading exercises, as well as writing assignments based on the topics discussed in each unit.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Working life	Watching video (TED Talks); Speaking exercise: giving mini-presentation about your job/studies (pair work); Grammar: present simple, expressions of frequency
Week 3	Unit 1 Working life	Reading exercise: skills for the 21st century; Listening exercise: asking about jobs; Writing assignment: a formal letter inquiring about a job
Week 4	Unit 2 Trends	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Speaking exercise: critical thinking about leadership and following others; Presentation tips
Week 5	Unit 2 Trends	Speaking: meetings and introductions, group work; Listening and speaking exercise: Business model for an enterprise
Week 6	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentations No. 2 and No. 3
Week 7	Unit 3 Money	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Grammar: countable and uncountable nouns, expressions of quantity; Watching model presentation
Week 8	Unit 3 Money	Speaking: critical thinking – talking about money, pair & group work; Listening and speaking exercise: everyday conversations for money related situations
Week 9	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic

Week 10	Unit 4 Success	Watching video (TED Talks); Key words review; Grammar explanation and practice: past simple, past continuous, past perfect
Week 11	Unit 4 Success	Speaking: giving reasons for actions; Writing exercise: prepositions in messages
Week 12	Unit 5 Marketing	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Grammar: comparatives and superlatives; Speaking exercise: comparison, pair work
Week 13	Presentation No. 3	Students' presentations No. 3 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a song
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Communication	Watching video (TED Talks); Key words; Speaking exercise: giving mini-presentation about your interests/hobbies or area of study (pair work); Grammar: Verb patterns with infinitive and -ing
Week 3	Unit 6 Communication	Reading exercise: good communication; Listening and speaking exercise: small talk; Explanation of presentation No. 1 (parroting); Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Speaking exercise: critical thinking about a speaker's authority and credibility; Presentation tips
Week 5	Unit 7 Experience	Grammar: present perfect simple; Reading exercise: encouraging diversity; Vocabulary; Speaking: life experiences
Week 6	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentations No. 2 and No. 3
Week 7	Unit 8 Seeing the future	Watching video (TED Talks); Key vocabulary; Grammar: future predictions (will/might)
Week 8	Unit 8 Seeing the future	Speaking: phrases in telephoning, pair work; Writing and conversation assignment: reported speech
Week 9	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 10	Unit 9 Being effective	Watching video (TED Talks); Key words review; Speaking: critical thinking – identifying the main idea of a speech
Week 11	Unit 9 Being effective	Listening and speaking exercise: giving instructions and directions (pair work); Grammar explanation and practice: zero and first conditional
Week 12	Unit 10 The environment	Watching video (TED Talks); Key words review; Grammar: comparatives and superlatives; Speaking exercise: ways to save the environment, pair & group work
Week 13	Presentation No. 3	Students' presentations No. 3 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a poem

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

Paul Dummett, Helen Stephenson & Lewis Lansford: Keynote Intermediate, Cengage Learning, 2016. Student's Book + Online Workbook Code ISBN: 978-1-305-88061-0

【参考書】

English to English dictionary: <https://dictionary.cambridge.org/>
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

Your work will be evaluated as follows:

- Class attendance and active participation: 20%
- Writing assignments and tests: 20%
- Presentations: 60%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

LANe100IA

英語コミュニケーション I (b)

URBANOVA Jana

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

【到達目標】

This course's aim is to further develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) that you acquired in previous courses. The course will expand on these abilities by placing special emphasis on active communication and discussion on a variety of topics related to current issues. You will be encouraged to develop critical thinking and to share your opinions and knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. You will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering presentations and practicing parrotting. You will be given the opportunity to converse on topics related to current issues and to present your own ideas. There will also be regular listening and reading exercises, as well as writing assignments based on the topics discussed in each unit.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Communication	Watching video (TED Talks); Key words; Speaking exercise: giving mini-presentation about your interests/hobbies or area of study (pair work); Grammar: Verb patterns with infinitive and -ing
Week 3	Unit 6 Communication	Reading exercise: good communication; Listening and speaking exercise: small talk;
Week 4	Unit 7 Experience	Explanation of presentation No. 1 (parrotting); Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Speaking exercise: critical thinking about a speaker's authority and credibility; Presentation tips
Week 5	Unit 7 Experience	Grammar: present perfect simple; Reading exercise: encouraging diversity; Vocabulary; Speaking: life experiences
Week 6	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parrotting; Explaining requirements and introducing topics for presentations No. 2 and No. 3
Week 7	Unit 7 Seeing the future	Watching video (TED Talks); Key vocabulary; Grammar: future predictions (will/might)
Week 8	Unit 7 Seeing the future	Speaking: phrases in telephoning, pair work; Writing and conversation assignment: reported speech
Week 9	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 10	Unit 9 Being effective	Watching video (TED Talks); Key words review; Speaking: critical thinking - identifying the main idea of a speech

Week 11	Unit 9 Being effective	Listening and speaking exercise: giving instructions and directions (pair work); Grammar explanation and practice: zero and first conditional
Week 12	Unit 10 The environment	Watching video (TED Talks); Key words review; Grammar: comparatives and superlatives; Speaking exercise: ways to save the environment, pair & group work
Week 13	Presentation No. 3	Students' presentations No. 3 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a poem

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

Paul Dummett, Helen Stephenson & Lewis Lansford: Keynote Intermediate, Cengage Learning, 2016. Student's Book + Online Workbook Code ISBN: 978-1-305-88061-0

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

Your work will be evaluated as follows:

- Class attendance and active participation: 20%

- Writing assignments and tests: 20%

- Presentations: 60%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

LANe200IA

英語コミュニケーションⅡ (a)

Nemes Roland

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport-related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches, and on-site exercises.

【到達目標】

The goal is that students leave this class feeling more confident in their ability to speak English and learn a basic sport related vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The class will primarily consist of group work that is followed by role-plays or speeches in front of the class. Prior to the work, I will give small lessons on the necessary vocabulary and grammar for the topic. During the sports topics and interest topic sections of the class, students will learn the vocabulary that is necessary for sports coaching, management, and basic science. Students will also choose and present a sports-related theme, in which they are interested.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introductions and class outline
2	Asking Questions	We will focus on how to ask a question about something you don't understand so you can be prepared for this class.
3	Self-introductions	Vocabulary, grammar, reading/listening activity, Formal situation practice
4	Self-introductions	Reading/listening activity, Informal situation practice, Informal situation practice, class self-introduction
5	Speeches	First class speech
6	Describing people, places, and things	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
7	Describing people, places, and things	Group practice, class presentation
8	Recalling Past Experiences	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
9	Recalling Past Experiences	Group practice, class presentation
10	Making Plans	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
11	Making Plans	Group practice, class presentation
12	Job Interview	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
13	Job Interview	Group practice, class presentation
14	Speeches	Second class speech

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. The homework will often be designed to help with preparing for speeches, reviewing past classes, or preparing for the next class.

【テキスト（教科書）】

No textbook will be used for this class.

【参考書】

Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 40%, Homework: 20%, Speeches: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Students opinion and comments will be integrated during the course.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese- English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

【Outline and objectives】

The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport-related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches, and on-site exercises.

LANe200IA

英語コミュニケーションⅡ (b)

Nemes Roland

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport-related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches, and on-site exercises.

【到達目標】

The goal is that students leave this class feeling more confident in their ability to speak English and learn a basic sport related vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The class will primarily consist of group work that is followed by role-plays or speeches in front of the class. Prior to the work, I will give small lessons on the necessary vocabulary and gram- mar for the topic. During the sports topics and interest topic sections of the class, students will learn the vocabulary that is necessary for sports coaching, management, and basic science. Students will also choose and present a sports-related theme, in which they are interested.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Sports Topics	About sports in general Vocabulary and discussion
2	Sports Topics	Basic anatomy and physiology of the human body Vocabulary and discussion
3	Sports Topics	Nutrition, health, fitness and injuries.Vocabulary and discussion
4	Sports Topics	International sports organizations, and tournament systems Vocabulary and discussion
5	Speeches, presentations	Third class speech
6	Sports Topics	Sports training Vocabulary and discussion
7	Sports Topics	Individual sports Vocabulary and discussion
8	Sports Topics	Ball sports Vocabulary and discussion
9	Sports Topics	Water sports Vocabulary and discussion
10	Sports Topics	Winter sports Vocabulary and discussion
11	Speeches, presentations	Fourth class speech
12	Student Interest Topic	Group presentations followed by class discussion
13	Student Interest Topic	Group presentations followed by class discussion
14	Student Interest Topic	Group presentations followed by class discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. The homework will often be designed to help with preparing for speeches, reviewing past classes, or preparing for the next class.

【テキスト（教科書）】

No textbook will be used for this class.

【参考書】

Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 40%, Homework: 20%, Speeches: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Students opinion and comments will be integrated during the course.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese-English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

【Outline and objectives】

The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport-related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches, and on-site exercises.

LANe200IA

英語コミュニケーションⅡ

Nemes Roland

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches and on site exercises.

【到達目標】

The goal is that students leave this class feeling more confident in their ability to speak English and learn a basic sport related vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The class will primarily consist of group work that is followed by role-plays or speeches in front of the class. Prior to the work, I will give small lessons on the necessary vocabulary and grammar for the topic. During the sports topics and interest topic sections of the class, students will learn the vocabulary that is necessary for sports coaching, management, and basic science. Students will also choose and present a sports related theme, in which they are interested.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introductions and class outline
2	Asking Questions	We will focus on how to ask a question about something you don't understand so you can be prepared for this class.
3	Self-introductions	Vocabulary, grammar, reading/listening activity, Formal situation practice
4	Self-introductions	Reading/listening activity, Informal situation practice, Informal situation practice, class self-introduction
5	Speeches	First class speech
6	Describing people, places, and things	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
7	Describing people, places, and things	Group practice, class presentation
8	Recalling Past Experiences	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
9	Recalling Past Experiences	Group practice, class presentation
10	Making Plans	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
11	Making Plans	Group practice, class presentation
12	Job Interview	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
13	Job Interview	Group practice, class presentation
14	Speeches	Second class speech
15	Sports Topics	About sports in general
16	Sports Topics	Vocabulary and discussion Basic anatomy and physiology of the human body
17	Sports Topics	Vocabulary and discussion Nutrition, health, fitness and injuries Vocabulary and discussion

18	Sports Topics	International sports organizations, and tournament systems Vocabulary and discussion
19	Speeches, presentations	Third class speech
20	Sports Topics	Sports training Vocabulary and discussion
21	Sports Topics	Individual sports Vocabulary and discussion
22	Sports Topics	Ball sports Vocabulary and discussion
23	Sports Topics	Water sports Vocabulary and discussion
24	Sports Topics	Winter sports Vocabulary and discussion
25	Speeches, presentations	Fourth class speech
26	Student Interest Topic	Group presentations followed by class discussion
27	Student Interest Topic	Group presentations followed by class discussion
28	Student Interest Topic	Group presentations followed by class discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. The homework will often be designed to help with preparing for speeches, reviewing past classes, or preparing for the next class.

【テキスト（教科書）】

No textbook will be used for this class.

【参考書】

Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 40%, Homework: 20%, Speeches: 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese-English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

【Outline and objectives】

The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport-related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches, and on-site exercises.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

平野 裕一

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ペースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手に入れるようにする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのペース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けず、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。学年全体での講習とクラス毎の講習を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定の方法 フィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	人に話を聞く（クラス毎講習）	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか関する知識を獲得する
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

全体講習は平常点（5点 × 8回 = 40点）とし、クラス毎講習は、平常点ではあるが、クラス毎の課題に応じて積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなどで60点とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

平野 裕一

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ペースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手に入れるようにする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのペース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けず、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。学年全体での講習とクラス毎の講習を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定 フィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	人に話を聞く（クラス毎講習）	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか関する知識を獲得する
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

全体講習は平常点（5 点 × 8 回 = 40 点）とし、クラス毎講習は、平常点ではあるが、クラス毎の課題に応じて積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなどで 60 点とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

平野 裕一

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ベースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手に入れるようにする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのベース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けず、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。学年全体での講習とクラス毎の講習を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定 フィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	人に話を聞く（クラス毎講習）	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか関する知識を獲得する
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

全体講習は平常点（5 点 × 8 回 = 40 点）とし、クラス毎講習は、平常点ではあるが、クラス毎の課題に応じて積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなどで 60 点とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

平野 裕一

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ベースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手にする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのベース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けず、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。学年全体での講習とクラス毎の講習を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定 フィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	人に話を聞く（クラス毎講習）	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか関する知識を獲得する
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

全体講習は平常点（5 点 × 8 回 = 40 点）とし、クラス毎講習は、平常点ではあるが、クラス毎の課題に応じて積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなどで 60 点とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

平野 裕一

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ペースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手に入れるようにする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのペース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けず、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。学年全体での講習とクラス毎の講習を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定の方法 フィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	人に話を聞く（クラス毎講習）	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか関する知識を獲得する
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

全体講習は平常点（5 点 × 8 回 = 40 点）とし、クラス毎講習は、平常点ではあるが、クラス毎の課題に応じて積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなどで 60 点とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

平野 裕一

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ペースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手に入れるようにする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのペース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けず、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。学年全体での講習とクラス毎の講習を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定 フィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	人に話を聞く（クラス毎講習）	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか関する知識を獲得する
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

全体講習は平常点（5 点 × 8 回 = 40 点）とし、クラス毎講習は、平常点ではあるが、クラス毎の課題に応じて積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなどで 60 点とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

平野 裕一

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ペースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手に入れるようにする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのペース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けず、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。学年全体での講習とクラス毎の講習を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定の方法 フィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	人に話を聞く（クラス毎講習）	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか関する知識を獲得する
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

全体講習は平常点（5 点 × 8 回 = 40 点）とし、クラス毎講習は、平常点ではあるが、クラス毎の課題に応じて積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなどで 60 点とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

平野 裕一

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ペースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手に入れるようにする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのペース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けず、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。学年全体での講習とクラス毎の講習を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定 フィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	人に話を聞く（クラス毎講習）	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか関する知識を獲得する
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

全体講習は平常点（5 点 × 8 回 = 40 点）とし、クラス毎講習は、平常点ではあるが、クラス毎の課題に応じて積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなどで 60 点とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

CAR100IA

スポーツとキャリア形成

伊藤 真紀

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わる職業について理解を深め、受講者が自身のキャリア形成というテーマのもと、大学での学び、そして学んだことをいかに仕事につなげていくか、その手掛かりとなるキャリアプランを立てる。キャリア形成において重要な、21 世紀型スキルに代表される現代のグローバル社会を生き抜くために全ての人に必要とされる基本的能力（ジェネリックスキル）をアクティブラーニング形式の授業を通して、実践的に学ぶ。

【到達目標】

日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わるキャリアについて知る。講義を通じて、キャリア形成に関する基礎知識を学習する。グループワーク、ペアワークを通じて自分のキャリアをイメージし、基本的なスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

1 4 回の授業を通して、スポーツ界の現状を理解し、スポーツ関わるキャリアについて探求する。授業の講義、課題を通して自身のキャリア形成プランを行い、キャリア形成に必要なスキルとは何か、スキルを高めるにはどうしたらよいかをアクティブラーニング形式（グループワーク、ペアワーク、発表）で学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 授業ガイダンス	自己紹介 授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	日本のスポーツ界の現状を理解する 1	日本のスポーツの歴史を振り返る
3	日本のスポーツ界の現状を理解する 2	日本のスポーツ産業の現状を知るとともに諸外国のスポーツ事情、政策をみていく
4	日本のスポーツ界の現状を理解する 3	国際的メガイイベント、ワールドカップ、オリンピックを中心としてスポーツの発展をスポーツビジネス的観点からみていく
5	キャリアプランニング 自分を知ろう 1	キャリア形成プランをたてるために、まずは自分について考える ・仕事観と人生観 ・マインドマッピング
6	キャリアプランニング 自分を知ろう 2	キャリア形成プランをたてるために、まずは自分について考える ・ライフラインの作成 ・キャリアアンカー
7	キャリアスキル 1	コミュニケーションスキルについて PDCA サイクルの説明 表現力 未来予想プレゼンテーションを文章化する（1500 字）
8	キャリアスキル 2	仮説の設定と課題発見力（未来分析） ・ブレインストーミングで拡散思考の練習 ・マップ化で収束思考の練習
9	キャリアスキル 3	創造性とコラボレーション ・自分の調べた未来の産業や技術とグループメンバーが調べた未来を掛け合わせて、将来必要となる新しいサービスを提案する。
10	キャリアスキル 4	構想力（広い観点から解決策を考え、現実味のある解決策を考える） ・他人コンサル（ペアワーク） 未来にやりたいことを叶えるために、ペアで話し合いながら相手のマトリックス・ロジックツリー・行動計画表を作成する。

11	スポーツのキャリア形成 1	スポーツに関わる職業とは各自、興味のある職業について考える
12	スポーツのキャリア形成 2	スポーツに関わるキャリアをグループプレゼンテーションする準備をする。
13	スポーツのキャリア形成 3	スポーツに関わるキャリアをグループプレゼンテーションする。
14	総括	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後には講義内容並びに課題を十分復習し、次の授業に生かすこと。

【テキスト（教科書）】

講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】

特になし。資料はその都度配布する。

【成績評価の方法と基準】

評価項目は以下の 5 項目からなる。

- ①出席（ワークシートの提出）10%
- ②提出課題 20%
- ③グループ・ワーク 10%
- ④個人プレゼンテーション 30%
- ⑤最終レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

ワークシートを作成し、これからの自己分析や今後のキャリアについて考える機会を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業を通して、個人・ペア・グループでワークに積極的に取り組むことで、自ら発言し、自己表現の場を多くつくることで、社会生活において必要なコミュニケーション能力を高める。

【Outline and objectives】

Understanding the current state of sports environment and system in Japan, deepening your understanding of occupations involved in sports, and making a career plan that will serve as a clue to connect what students learn under the theme of their own career development. Practically learn the basic skills (generic skills) which is important in career formation and is required for everyone in order to survive through the modern global society through classes based on active learning form.

The lectures will let you imagine your career through group work and pair work, and will help acquire basic skills.

MAN100IA

経営学

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学をはじめて学ぶ学生に経営学の基本的知識を身につけてもらうことを目標としています。経営学の研究対象である企業がどのような活動しているのかなど自分の生活と結びつけながら企業の活動を理解してもらいます。今後、学生諸君が就職などにより企業において活動することを見据え、企業の活動が経営学の理論とどのように結びつくのか考えてもらいます。

「経営戦略論」および「経営組織論」を中心にしながら経営学とは何か、企業の活動とは何かということを理解してもらいながら学習を進めていきますが、経営学を理解してもらうために「経営戦略論」や「経営組織論」だけではなく企業や経営に関する様々な領域や基礎的な部分に関する事例を取り入れながら説明していきます。経営学を身近な学問として感じ、自分自身で考える能力を身につけてもらうために、多くの事例を講義の中で紹介することは、学生諸君にとって有益なものになると考えます。また経営学における基本的用語についても学習してもらいます。これら用語に関する知識を身に付けることは、大学を卒業した後も非常に役立つものと考えます。

講義においてはテキストを中心にしながら進めていきますが、企業の動きは常にめまぐるしく変化し大きなトピックが現れます。そのような企業の動きを実感しながら経営学が非常に身近な学問ということを理解してもらいたいと考えています。

メディアなど身のまわりにおいて経営学に関係する事例が多く見つりますので、講義に以外にも常に意識してみてください。

【到達目標】

経営学は企業活動という特定の領域を対象とした学問です。しかし私たちは企業が提供するモノやサービスを日々使用しており、その動きは非常に身近な学問です。学生にはこのような経営学を実際に身近に感じてもらうながら、その基本的知識を理解してもらうことが講義の目標です。

今後、学生が就職などにより企業において実際にモノやサービスを提供する機会が生まれる可能性があります。そのような場面において経営学の知識を有益に活用できるように学生自身で考える能力を養うことも目標としています。

学生には基本理論を習得することで基本的知識を身につけ、さらに企業の事例などを経営学の理論と結びつけ理解する能力を養ってもらいます。

また学生には経営学や企業活動に関する基本的用語についても学習し、大学以外での生活において活用ができる知識を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形態にて実施します。講義中には学生の意見を求める質問を投げかけながら、講義内容を理解してもらうことができるように勧めます。

各講義終了時に「感想・意見」の提出をしてもらい、個々の意見を簡潔に考えてまとめてもらい提出してもらいます。

各講義の資料を必ず用意しますので、講義前までに用意した資料を精読して参加してください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。

経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べて提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進め方を説明。
2	経営学・企業経営とは	これから学ぶ経営学はどのような学問か、また企業とは何かということを考える。
3	企業の概要	企業とはどのようなものかその仕組み、法的制度について。
4	企業と従業員の関係	企業における従業員との関係について雇用制度を中心にしながら説明。
5	企業を取り巻く環境	企業を取り巻く環境、ステイクホルダーなどとの関係について。
6	経営戦略(1)：経営戦略とは	企業が環境に対応するために戦略をたてる必要性について。
7	経営戦略(2)：競争戦略の基本	戦略にはいくつかのタイプが存在する。その主要な戦略の概念について。
8	経営戦略(3)：多角化戦略	企業が成長のために選択する多角化戦略の論理と方法について。

9	経営戦略(4)：国際化戦略	国境を越えて企業が活動する理由、そしてそのマネジメントについて。
10	経営組織論(1)：組織とは何か	組織とは何か。組織構造とそれが企業に与える影響について。
11	経営組織論(2)：インセンティブシステム	組織を管理するうえで動機付けの重要性およびその論理と手法を紹介。
12	経営組織論(3)：リーダーシップ	リーダーシップの在り方について。
13	経営学の展開	経営学の企業以外への適用、今後の企業活動について。
14	講義のまとめ	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義前までに、用意した資料を読んでください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。

経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べてもらいます。

講義の進行にあわせてレポートの作成をしてもらいます。

【テキスト（教科書）】

講義ごとのテキストおよび資料を事前に用意して配布します。講義を受講する前にこれらの資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】

加護野忠雄・吉村典久編『1からの経営学 第2版』硯学舎、2012年4月。
伊丹敬之・加護野忠雄『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社、2003年2月。

その他参考書については講義において紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加 (40 %)、(2) 課題の提出 (30 %)、(3) 期末レポート (30 %)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。講義毎に経営学に関する用語を調べてもらい提出してもらいます。講義終了時に講義内容への「感想・意見」として各人の意見を提出してもらいます。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義の進行にあわせて 3 回のレポート作成を課題として出します。レポート作成を行い期限までに提出すること。また講義内容をふまえてレポートが作成されているかを評価の対象とします。

(3) 講義内で学んだことを応用してレポートを作成します。

【学生の意見等からの気づき】

経営学の主体となる企業の活動を自分たちの生活と密接に関わっていると意識してもらえるように、講義内では企業活動の実例をさらに多く紹介して、学生が経営学また企業の活動が生活に関係しているという認識を高めてもらい、経営学に興味をもってもらい工夫をさらにに行います。

講義を受講する学生が主体的に考え、意見を述べてもらう機会をさらに増やしていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

・企業において株主総会を中心とした IR 業務に従事しながら、全社的に横断する業務を担当する。これにより企業の経営全般に関する事項を学生に伝えるていきます。

・現在、自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を行っており、それらから得た知識や経験から実際の経営活動を学生に紹介していきます。

【Outline and objectives】

It aims to have students who learn business science for the first time understand basic knowledge of business administration. Have understand their activities while linking them with their own lives. Have them learn about the relationship between management theory and corporate activity.

In the lecture, we will learn business management with a focus on management strategy and organization theory. And explain various cases to understand what kind of company and management are like. We will nurture the student's own thinking ability as to how the activities of the company connect with the theory of business science so that students can benefit when they work in enterprises etc through job hunting.

LAW100IA

法学（日本国憲法）

森 浩寿

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、教職課程の必修科目である。

日本国憲法の特徴について、特に基本的人権に関するテーマを中心に取り上げる。また、教育現場に必要な法知識の習得を目指し、加えて、日常生活に係る法律問題として、人の生死、契約、罪と罰などについても対象とする。

【到達目標】

まずは、法律に関する意識を高めることを目標とし、法に関する一般的知識を習得するとともに、人権の理解と人権尊重に基づく行動の実践ならびに教育現場で必要な法意識に基づいた行動の実践を可能にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

実際に発生している身近な事例を題材に、どのような法律が整備されているのか、なぜその規定が必要なのか、何が問題なのかなどについて学習する。なお、積極的に議論を行い、自分の考えを言語化することおよび他者との考えを知ることを取り入れていく（ディスカッション・小レポート）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 法令の基礎知識	授業の進め方、テキスト、評価について
2	近代憲法の誕生と発展	憲法、法律、条例、規則、条理について
3	日本国憲法について	憲法とは、立憲の意味の憲法の特質 日本憲法史と立憲主義、明治憲法、日本国憲法、憲法改正
4	基本的人権・1	人権宣言の歴史、人権の内容、法の下 の平等
5	基本的人権・2	精神的自由、経済的自由、人身の自由
6	基本的人権・3	生存権、教育を受ける権利、労働基本 権
7	教育と法・1	教育関連法規、学校教育法、教科書裁 判
8	教育と法・2	子どもの権利、いじめ問題、体罰問 題、教師の権利
9	ライフステージと法	出生、結婚、認知、離婚、死
10	契約	契約の種類、性格
11	労働問題	就職、退職、転職、労働災害補償
12	罪と罰・1	犯罪の種類、成立
13	罪と罰・2	罰則の種類、適用
14	紛争解決手段	裁判と裁判外紛争解決、裁判制度、仲 裁と調停

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：シラバスの理解

第 2～3 回：日頃から新聞を読む

第 4～9 回：社会の出来事から、人権問題をさがす

第 10～14 回：日頃からニュースに接し、社会の出来事に関心を持つ

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点としての小レポート（30 %）及び試験（70 %）で評価し、合計 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、意見交換等の双方向の授業を目指す。

【Outline and objectives】

It is one of the required course for the teacher training project.

The goals of this course are to

(1) raise the interest about the Law

(2) obtain some basic knowledge (human rights) about the Constitution

(3) be able to take the action based on the respect for human rights

SOC100IA

コミュニケーション論

山本 浩

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のいたる所でコミュニケーションの重要性が叫ばれている。いったいなぜなのか。問題提起から悩みのたどり着くまでがこの講義のテーマである。

生物はそれぞれがそれなりのコミュニケーション手段を有してきた。中でも人類は絵やことばそれに文字、さらには映像という手段を駆使して情報や意志の交換を高いレベルで図ってきた歴史を有している。それがいま「言語能力の低下」「コミュニケーション能力不全」と指摘され、多くの人が「力量アップ」を求めて努力を重ねようとしている。私たちの社会の期待されるコミュニケーションとはいったい何か。あるときは実践を経由しながら、コミュニケーションの実相を把握する。

【到達目標】

受容、分析、理解、選択、表現。私たちの行う一つ一つの、それでいて連続したアクションには、コミュニケーションの鎖を構成する重要な役割が負わされている。その理解のためには、自らを取り巻く世界の認識と相手の状況把握が欠かせない。コミュニケーションについてその概要を理解したあとは「読む・聞く・見る」力の醸成と「書く・話す・伝える」力の開発だ。全体から部分に至るまで「コミュニケーション論」を受講するうちに情報のやりとりの基本原則を身につけ「受け取り」“発信する”能力の向上を自觉できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生には、理論を確かめたあとと演壇に立つてもらう機会を用意する。自ら話すアクティブなコミュニケーション行動の実践だ。一方で多様なコミュニケーション形態に意識的に関わってもらう時間も準備する。文章、会話、映像、芸術。人間活動の周りにあるさまざまなコミュニケーション活動をどう読み、それにどう反応するのか。コミュニケーションの具体的な力を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションを考える	物を見て、人類の遺産を目にして、道具を手にして。コミュニケーションがさまざまな手段を介して交わされてきたのを確認する。
2	コミュニケーションの歴史①	個人から個人へ、個人から特定多数へ、個人から不特定多数へ。コミュニケーションは広がるだけではなく、その性質も変化を遂げてきた。活字の時代を迎えるまでを説く。
3	コミュニケーションの歴史②	コミュニケーションの重要なポイントは、双方向性にある。双方向性が時間の縛りと戦うようになったのが現代のコミュニケーションの特徴のひとつだ。社会の中のコミュニケーションの変化を見る。
4	「伝える」～情報の把握とエネルギー～	自分だけの持つ情報や意志を人に伝える。当たり前のことのようで、なぜかうまくいかない自分がいる。情報の伝達を“ことば”に託す際のありようを考える。
5	仕草とことばのコミュニケーション	私たちの伝えようとするメッセージの守備範囲は単純なものから極めて複雑なものまで、広範囲に及んでいる。シンプルなる情報を伝えるところから始まって、ことばの重さを改めて実感してみる。
6	文字のコミュニケーション	活字メディアが厳しい時代に入って、これからは音声に映像主体のコミュニケーション環境を迎えるのかと思いきやそうでもない。スマホにもタブレットにも今でも活字は踊っているからだ。文字のコミュニケーションを振り返る。

7	わかりやすく話す	何気なく情報のやりとりをしている友達との会話。あいさつを求められたサークルの送別会。大きな違いがあるようで底流に流れる原則は変わらない。話しの基本をおさらいする。
8	放送のコミュニケーション～ラジオ～	手書きから活字へ。文字のコミュニケーション全盛の時代に電気が分け入ってくる。速報性を武器としたラジオは時代の大コミュニケーションを独り占めし始める。
9	放送のコミュニケーション～テレビ～	情報の密度、その現実との近さにおいてテレビはラジオを凌駕することになった。テレビの中に蔓延するコミュニケーションを分析する。
10	CMに見るコミュニケーション	画面からでてるCMこそは、短時間で強い印象を残すことを求められる最も濃い形のコミュニケーション形態だ。専門的な視点からその構造を分析する。
11	情報選択とコミュニケーション～SNS 時代の波～	コミュニケーションの第一歩は「とる」に始まる。「聴きとる」「読み取る」「見て取る」。情報収集の原則を改めて振り返り、SNS の反乱の中の「とる」を考える。
12	人前に立つ	大きな式典の壇上に上がるのはもとより、親族の会で指名されて話しをするのでさえドギマギしてしまう。人前でメッセージを発するのはやっかいなことだ。なぜそうなるのか。道理と筋立てを眺め渡し、あるべきスピーチの道を探る。
13	人前で話す	前週で確認したスピーチの構造を実際に転用して、教壇に立って話しをしてみよう。
14	コミュニケーション論総括	講義内期末論文試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまなコミュニケーションのうち、この講義では「伝える」ことに重心を置いた内容が多くなる。ただし、その前提としての情報収集には万全の体制で臨むことが求められる。そのためには普段から「何を伝えるか」「どう伝えるか」を意識した生活を送ること。ことに「公式」の場や「多数を相手にした」場などで活用できる力を備えることを求めたい。部活やサークル、インターシップの場面で積極的に発言する姿勢を養い、これから先につながるコミュニケーションに重点を置いて講義を組んでいく。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

- ・『マン・ウォッチング』デズモンド・モリス（1980）小学館
- ・『メディア社会～現代を読み解く視点』佐藤卓巳（2006）岩波書店
- ・『ニホン語日記』井上ひさし（1993）文藝春秋

【成績評価の方法と基準】

講義中に毎回課すりアクションペーパーがある。10 分間を使つての筆記だが1 回につき最大 3 点が付与される。最終講義内試験を除く 13 回に満点を取り続ければ計 39 点。最終講義に課する期末論文試験（単語/フレーズ問題 20 点、小論文 50 点）には必ず出席のこと。すべてパーフェクトであれば、109 点が獲得できる計算になる。単位認定の重要な要素、期末試験は試験期間中ではなく最終講義日に設定されるので欠席のないように。

【学生の意見等からの気づき】

スライドの切り替え時間の配慮をしたい

【その他の重要事項】

放送局のアナウンサー経験者である教員が、ことばによるコミュニケーション技法と理念をベースに講義を行う。コミュニケーションの講義では、方法論に力点を置くように感じるだろうが実のところ重要なポイントは、局面に出くわしたときにそこにある内実をどう判断し自分自身の選択をどうするかというところから始まる。いわば「判断力」「選択肢抽出能力」の勝負にかかわるフェイズと対峙しなければならないのだ。コミュニケーションスキルは大切なものだが、同時に「判断」「決断」もかけがえのない重要なファクターであることを知っておかなければならない。

【Outline and objectives】

The communication knowledge and skills are essential items for the people who live in this society. The reason why we urge it? In bringing up some problems about our communicational situation we could grasp a tip of the theme in this lecture.

Each creature has its own way of communicating. Human beings have tried exchanging information and intention by making use of means such as pictures, words, letters, even images. It is now pointed out that "language ability is declining" and "communication skills are insufficient", and many people are trying to make efforts to seek for ways of improvement. What is the desirable communication in our society? You could find out the actual state of communication through some verbal practices.

HSS100IA

保健体育概論

永木 耕介

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保健体育（主に体育）とはどのようなものかについて、スポーツ／教材の歴史、教科の目標論、内容論等から解説し、これからの保健体育のあり方についての思考力を培う。

【到達目標】
保健体育科の教員を目指す受講生が、保健体育とはどのようなものかについて、教科の目標を踏まえた内容論について理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
保健体育とはどのようなものかについて以下の観点から解説し、受講生が今後のあり方について考察できるように導く。①現代に至るまでのスポーツ／教材（主に西洋スポーツと日本武道）の歴史を概観し、さらに現代スポーツの特徴と課題について指摘する。②教科の目標論を踏まえ、各内容領域の実際を確認することで今日の教科の状況を把握する。なおその際、一部に受講生参加型の演習を採り入れる。また、毎授業においてリアクションペーパーの提出を求め、次授業で振り返りを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明
2	スポーツ／教材の歴史的理解①	西洋スポーツを中心に
3	スポーツ／教材の歴史的理解②	日本武道を中心に
4	現代スポーツの特徴と課題	オリンピック、グローバリゼーション、ニューススポーツ
5	保健体育科の目標論	学習指導要領の変遷、内容領域の解説
6	「体づくり運動」の内容と特性	「体づくり運動」の実際の内容と特性について、運動、態度、知識（＋思考・判断・表現）の観点から理解を深める
7	「器械運動」の内容と特性	「器械運動」の実際の内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断・表現）の観点から理解を深める
8	「陸上競技」の内容と特性	「陸上競技」の実際の内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断・表現）の観点から理解を深める
9	「水泳」＋「野外活動」の内容と特性	「水泳」＋「野外活動」の実際の内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断・表現）の観点から理解を深める
10	「球技」の内容と特性	「球技」の実際の内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断・表現）の観点から理解を深める
11	「武道」の内容と特性	「武道」の実際の内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断・表現）の観点から理解を深める
12	「ダンス」の内容と特性	「ダンス」の実際の内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断・表現）の観点から理解を深める
13	「体育理論」の内容と特性	「体育理論」の内容と特性について理解を深める
14	まとめとテスト	授業のまとめとテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎授業後に感想やコメント（リアクションペーパー）の作成を求める。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成 20 年版＋平成 29 年版（東山書房）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編 （東山書房）
最新高等保健体育（大修館書店）

【参考書】
保健体育科教育法 （大修館書店）
新版・体育科教育学入門 （大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度、リアクションペーパーによる平常点（60％）、テスト点（40％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度もリアクションペーパーによる振り返りを授業内で行い、各学生の参加感をあげる。

【学生が準備すべき機器他】
部分的に参加型演習を行う場合があるので、運動可能な服装等を準備しておくこと。

【その他の重要事項】
教職（保健体育科）の志望者は履修することが望ましい。授業計画は授業展開によって若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】
This class is for students requiring the study of Physical Education teaching materials and their purpose in schools, with a particular focus on sports history and recent trends in teaching as well as thoughts into how Physical Education should be in the future.

PRI100IA

情報リテラシー I

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。

コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。講義の前半では現代において不可欠なものとなっているコンピュータおよびネットワークの基本知識を理解してもらい、コンピュータリテラシーを身につけてもらいます。

さらにそれらを理解したうえでインターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービス、WEB による検索や電子メールの送受信など基本的操作を学習します。また日本語ワープロソフトによる文章作成の能力、プレゼンテーションソフトによる情報・意見の表現ができるようにその基本的操作を学習し、あわせてメディアリテラシーを身につけてもらいます。

【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。

コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。

大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。

ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。

今後その利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウェアの歴史、ハードウェア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウェアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。近年のインターネット上に提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。

10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	パワーポイントの基本操作（1）文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	パワーポイントの基本操作（2）文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	パワーポイントの基本操作（3）オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。

講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加（50 %）、(2) 課題の提出（50 %）

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。

講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

また講義外の時間を利用して学習した内容の確認のための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用についても触れていきます。

【その他の重要事項】

・自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を展開していることや、自治体などからの IT 講習運営受託、ネットワーク構築や運用などの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】

We will learn knowledge about information processing such as computers and networks. It aims to make it possible to master the operation of computers and networks that are indispensable in modern times.

It is an introduction to computer literacy and is a lecture to have you understand the basic contents of information processing technology.

It also aims to acquire knowledge and skills that can express their own opinions using diverse media and can be utilized in future life.

Learn and acquire the ability to learn and utilize information processing of personal computer, data transmission and reception method on information network, search method using internet and database.

PRI100IA

情報リテラシー I

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。

コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。講義の前半では現代において不可欠なものとなっているコンピュータおよびネットワークの基本知識を理解してもらい、コンピュータリテラシーを身につけてもらいます。

さらにそれらを理解したうえでインターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービス、WEB による検索や電子メールの送受信など基本的操作を学習します。また日本語ワープロソフトによる文章作成の能力、プレゼンテーションソフトによる情報・意見の表現ができるようにその基本的操作を学習し、あわせてメディアリテラシーを身につけてもらいます。

【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。

コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。

大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。

ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。

今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウェアの歴史、ハードウェア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウェアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。近年のインターネット上に提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。

10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	パワーポイントの基本操作（1）文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	パワーポイントの基本操作（2）文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	パワーポイントの基本操作（3）オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。

講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加（50 %）、(2) 課題の提出（50 %）

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。

講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

また講義外の時間を利用して学習した内容の確認のための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用についても触れていきます。

【その他の重要事項】

・自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を展開していることや、自治体などからの IT 講習運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】

We will learn knowledge about information processing such as computers and networks. It aims to make it possible to master the operation of computers and networks that are indispensable in modern times.

It is an introduction to computer literacy and is a lecture to have you understand the basic contents of information processing technology.

It also aims to acquire knowledge and skills that can express their own opinions using diverse media and can be utilized in future life.

Learn and acquire the ability to learn and utilize information processing of personal computer, data transmission and reception method on information network, search method using internet and database.

PRI100IA

情報リテラシー I

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。

コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。講義の前半では現代において不可欠なものとなっているコンピュータおよびネットワークの基本知識を理解してもらい、コンピュータリテラシーを身につけてもらいます。

さらにそれらを理解したうえでインターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービス、WEB による検索や電子メールの送受信など基本的操作を学習します。また日本語ワープロソフトによる文章作成の能力、プレゼンテーションソフトによる情報・意見の表現ができるようにその基本的操作を学習し、あわせてメディアリテラシーを身につけてもらいます。

【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。

コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。

大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。

ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。

今後その利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウェアの歴史、ハードウェア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウェアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。近年のインターネット上に提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。

10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	パワーポイントの基本操作（1）文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	パワーポイントの基本操作（2）文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	パワーポイントの基本操作（3）オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。

講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加（50 %）、(2) 課題の提出（50 %）

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。

講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

また講義外の時間を利用して学習した内容の確認のための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用についても触れていきます。

【その他の重要事項】

・自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を展開していることや、自治体などからの IT 講習運営受託、ネットワーク構築や運用などの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】

We will learn knowledge about information processing such as computers and networks. It aims to make it possible to master the operation of computers and networks that are indispensable in modern times.

It is an introduction to computer literacy and is a lecture to have you understand the basic contents of information processing technology.

It also aims to acquire knowledge and skills that can express their own opinions using diverse media and can be utilized in future life.

Learn and acquire the ability to learn and utilize information processing of personal computer, data transmission and reception method on information network, search method using internet and database.

ECN1001A

統計学 I

笹井 浩行

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

旧うか科目名：統計学 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学は、データの特徴や規則性を数量的に見出し、要約や解釈をするための根拠を提供する実践的な学問である。その応用範囲は多岐にわたり、スポーツ健康科学においても運動生理学、スポーツ心理学、スポーツ社会学等の実証的研究では、結論を導く根拠を客観的に示すために統計学を活用している。そこで本授業では、卒業論文や就職後の仕事で役立つよう、統計的分析手法の初歩的な実践的技術の修得を目指す。

【到達目標】

図表や数値によってデータの特徴や傾向を把握する方法を習得し、初級レベルの統計的分析手法を習得することを目標とする。統計学の数学的理解ではなく、実践的技術の習得に主眼を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を交互に繰り返しながら学習を進める。配分は、講義 3 割、演習 7 割程度であり、演習を重視する。演習では Excel および統計ソフト SPSS を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・統計学の概要	授業の進め方と成績評価について説明する。統計学の概要を解説する。
2	記述統計（1）	平均値や中央値、最頻値、分散、標準偏差、四分位点などデータの特徴を表す指標の意味や算出法を学ぶ。
3	記述統計（2）	度数分布表やヒストグラム、箱ひげ図等でデータの特徴を表現する方法やその読み方を学ぶ。
4	推測統計・仮説検定	母集団と標本、平均と偏差、正規分布、大数の法則と中心極限定理等、推測統計の基礎について学ぶ。尺度水準、仮説検定の手順や、帰無仮説と対立仮説、有意水準、第 1 種の過誤と第 2 種の過誤等について学ぶ。
5・6	小テスト 1・対応のない t 検定	1～4 回目までの内容に関して小テストをおこなう。対応がない独立した 2 群間に、統計学的に意味のある差があるか否か、間隔・比率尺度による検定方法について学ぶ。
7・8	対応のある t 検定	対応がある 2 群間に統計的に意味のある差があるか否か、間隔・比率尺度による検定方法について学ぶ。
9・10	散布図・相関係数	間隔・比率尺度を用いて、2 つの変数の関係を図や指標で表現する方法や、指標の解釈について学ぶ。また、第 3 の指標の影響をとり除いた 2 つの変数間の関連の分析（偏相関分析）について学ぶ。
11・12	小テスト 2・単回帰分析	5～10 回目までの内容に関して小テストをおこなう。一方の変数から他方の変数を予測する分析手法を学ぶ。
13	カイ二乗検定	2×2 分割表による比率の差の検討について学ぶ。
14	総括・期末テスト	1～14 回目までの内容について、実践的技術の修得状況を判定するテストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・情報実習室の PC にインストールされている SPSS を使い、しっかり復習すること。

・宿題は、授業中に指示する。

【テキスト（教科書）】

・健康・スポーツ科学のための SPSS による統計解析入門、出村慎一監修、佐藤進・山次俊介・長澤吉則編著、杏林書院、2007。（価格：2500 円）

※本書はスポーツ健康学部の図書室に所蔵があるが、ほぼ常に貸出し中であるため、購入を強く勧める。本書は統計学 II でも教科書として使用する上に、卒業論文に取り組む際にも役立つと思われる。

【参考書】

・統計学がわかる：ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学、向後千春・富永敦子著、技術評論社、2007。
 ・統計学がわかる：アイスクリームで味わう関係の統計学、向後千春・富永敦子著、技術評論社、2009。
 ・Bellcurve 社 統計 WEB | 統計学の時間 <https://bellcurve.jp/statistics/course/>
 ・その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（40%：20%×2 回）・期末テスト（60%）とする。出席は取らないが、授業内容の理解と実践を十分積まないと及第点が得られないテスト内容・難易度となっている。しっかりと復習・準備して臨むこと。2017 年度の実績では、受講生の大半がテストの難易度を高いと報告している。主にサンプルデータセットを用いた統計解析を通じて、実践的技術の修得状況を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見、理解度に応じて講義内容や順番を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

・情報実習室にて演習をおこなう。

【その他の重要事項】

・教科書が受講生全員の手元にあることを前提に授業を進める。
 ・資料は配布しないため、ノートやメモを適宜取ること。
 ・PC やオフィスソフトの基本的な操作は修得済みであること。エクセルやワードの使い方、メールソフトの使い方などは本授業の範囲外であり、原則としてそれらを指導する機会を設けない。
 ・本授業の履修が、入ゼミの要件となっている場合があるので、各自で希望ゼミの教員に確認すること。

【Outline and objectives】

Statistics is a fundamental and practical discipline that is used to summarize massive amount of data and to interpret its output correctly. Statistics is widely used in almost all sports science-related fields including exercise physiology, sports psychology, and sports sociology. This course provides students with beginner-level analytic skills that would be helpful when tackling with bachelor's thesis or work after college graduation.

SOC100IA

障害者福祉論

山岸 倫子

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：土 1/Sat.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、障害者の定義や生活実態、法制度、歴史を学ぶことにより、「障害者」とされる人々が現代社会において生活していくことについて、様々な視点から学ぶ。学生は、障害者についての一般的なイメージを離れ、学術的な視点から障害／障害者について考えることを通して、自らが生活する社会が障害者や健常者にとってどのような社会であるを学ぶ。

【到達目標】

- ・障害者についての歴史的な知識を獲得できる。
- ・障害者の生活実態について知ることができる。
- ・障害についての理論と実体験を関連させて障害についてとらえることができる。
- ・障害についての理論を元に、財の分配の方法について体験的に学ぶことができる。
- ・障害者の生活を支える法制度についての知識を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式をとるが学生との対話的なコミュニケーションをとりながら講義を進めていく。また、随時ワークを取り入れ、思考の掘り下げを促していく形式をとる。ワークについては参加人数に応じてペアワーク、グループワークのいずれかを取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	障害者・障害の概念と理論	障害・障害者について各々が持つイメージを明らかにしたうえで、理論を学ぶ。
2	障害者福祉を支える理念とその展開	障害者福祉を支える基本的な理念について学び、障害者福祉の理念がどのように変容してきたのかを学ぶ。
3	障害者の生活実態	我が国の障害者の生活実態について、統計および事例から学ぶ。
4	障害者福祉の歴史	障害者福祉の歴史について学ぶ。また、1～3 回までのフィードバックとしてグループワークを予定している。
5	障害者運動	障害者運動の歴史と意義について学び、制度との関連性について学ぶ。
6	グループワーク	財の分配に関するグループワークを行い、マクロな視点から障害者福祉を考えると同時に、分配を支える理論について学ぶ。
7	障害者の生活に関する法制度	障害者に関連する法制度について学ぶ。
8	障害者総合支援法	現在障害者の生活を直接的に支えている法律について学ぶ。
9	障害児教育	障害児の教育について、その変遷も含めて学ぶ。
10	障害者の就労	障害者の雇用の状況及び、雇用を促進する法律、制度等について学ぶ。
11	障害者の所得保障	障害者の経済状況及び所得保障の在り方について学ぶ。
12	障害者福祉の国際動向	国連障害者権利条約の内容について学ぶ。
13	事例検討	差別事例について検討を行う。
14	近年の障害者福祉の動向	障害者福祉の変遷を含め、近年の障害者福祉がどのようなになっているのか、また、どのような課題が残されているのかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、各回に提示する課題について、情報を収集し、自ら考えておくこと。また講義中に紹介した文献の講読、参加者同士の積極的な議論及び、社会的現象への応用。自らの生活における実体験と理論との関連を意識する。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

講義中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加 30 %：平常点及び授業態度で評価する。授業態度については、積極的な発言（思考のアウトプット）を重視する。出席回数が 3 分の 2 以下のものは不可とする。

課題の提出 30 %：課題提出の有無及び内容で評価する。グループワーク後に、小レポートを 3 回予定している。ウェブサイトからの購入レポートは不可。

期末試験 40 %：授業の内容を踏まえて評価する。評価のポイントとなるのは、①授業内で学んだ知識に基づき、②自らの考えを展開していること。ウェブサイトからの購入レポートは不可。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が少人数であること、かつ部活の公式戦や介護実習等により欠席者が多くなる傾向がある。少人数であることを活かし、対話形式を取り入れつつ、学生の知識習得に尽力するとともに、欠席者への対応も心掛けたい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として、市役所、社会福祉法人にて、現場、運営管理の経験がある。生活保護及び、社会福祉全般についての総合的な支援活動を通して、学生が、障害者福祉並びに福祉全般への問題意識を持てるような講義を展開する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help acquire an understanding of the "disability" and "disability people". This course deals with definition of disability, legal system and history from the viewpoint of sociology.

ART100IA

音楽文化論

関野 直樹

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位
曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会において”音楽”が形成した文化をあらゆる角度から考察するとともに、スポーツにおける音楽、さらにはリズムとはいかに機能してゆくのかを体験する。
現役ピアニストであるからこそ体感してきた音楽を表現すること、そしてそれらを実現する際の具体的な身体的な訓練、音楽、演奏を多角的な視点から考える。

【到達目標】

音楽がもたらした社会における役割や時代背景を理解した上で、いろいろな分野に应用可能とされる、演奏家の身体の使い方、リズム感の訓練、さらにはセルフマネジメントまでの幅広い領域の専門的知識を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

音楽という分野であるからこそ、映像録音資料を多用しながら講義を進める。必要に応じては、実際の演奏なども取り入れながら、ライブでの音を体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	現代社会における西洋（クラシック）音楽とは何かを各々意識した上で、今後の展望を確認する。
2	音楽の歴史	音楽の起源、そして映像資料とともに時代の流れの中で大きく変化した音楽の足跡を追う。
3	西洋音楽	主に 19 世紀の音楽が”文化”として確立された背景と、当時の音楽がもたらした影響を考える。
4	スポーツと音楽	スポーツ界においても音楽、更には表現ということとはかかせない要素の一つである。具体例を挙げ、スポーツにおける音楽の役割を認識する。
5	演奏家の超絶技巧	ピアニストの体の使い方と、そこから見える表現手段について、身体の使い方の重要性を議論する。
6	リズム論	音楽的なリズムとは何か、スポーツにおけるリズムとは何か、その重要性を感じた上で実際に体験する。
7	リズム演習	音楽のリズムだけではなく、スポーツ界でも重要とされるリズムについて、エクササイズとともに学ぶ。
8	リズムアンサンブル①	アンサンブルを通して個人のリズムだけでなく、周囲とのリズムの調和を感じ取る。
9	様々なジャンルの音楽	クラシックだけではなく、古代音楽からポップスまで、それぞれの音楽の魅力を考察する。
10	コンサートとライブ	音楽の中の様々なジャンルのコンサートスタイルを理解し、実際のクラシックコンサートを体感する。
11	ミュージカル①	現代における音楽を主とした総合芸術であるミュージカルから現代の音楽のあり方を考える。
12	ミュージカル②	実際に映像資料とともに、ミュージカルの持つ力、演奏家と音楽の持つ力を体感する。
13	リズムアンサンブル②	今までより高度なリズムで、周囲との調和を感じ取りながら、アンサンブルを楽しむことを目標とする。
14	講義総括	今後の音楽の展望を考え、自身にとって音楽とは何かを思い描く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のために準備が必要な際はその都度指示する。
実際にライブで演奏を聴く機会を紹介するので、積極的に参加していただきたい。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配布。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

学年末レポート:50%
授業内での小レポート:50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to provide students with an understanding the culture formed by "music". Also we will experiment how music will play in sports. Particularly, we will play rhythm ensemble as a exercise.

CAR100EA

キャリアデザイン論

加藤 寛之

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～年次／2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザインというテーマのもと、どのように自分らしさを磨き、どのように大学で学び、どのように大学で学んだことを仕事につなげるか、どのように仕事を選ぶか、どのように就職活動に臨むか、その手がかりを探る。

【到達目標】

- ①グループワークを通じて、自分のキャリアを具体的にイメージする。
②講義を通じて、キャリアデザインに関する基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は本学の教職員と外部講師によるオムニバス形式で行われる。主な内容は①大学で学ぶための指針の提供②大学で学んだことを仕事につなげるための情報の提供③働き方の視野を広げる情報の提供。講義に加え、適宜グループワークやディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	キャリアデザインと大学時代1（加藤）	イントロダクション・大学時代の過ごし方、グローバルに生きる
2	キャリアデザインと大学時代2（斎藤）	自分をつかむ 1 可能性を広げるために
3	職場で求められる力とは1（青田）	企業で求められる力（新旧比較）
4	職場で求められる力とは2（高澤）	雇用のための法律知識と労働者の権利、ブラック企業
5	職場で求められる力とは3（斎藤）	自分をつかむ 2 関わり合いの中で
6	企業を知る1（坂本）	「大切にしたい会社」とは
7	企業を知る2（竹口）	企業情報を読み解く
8	職場社会で積極的に生きるために1（山本）	これから先につながるコミュニケーション
9	職場社会で積極的に生きるために2（斎藤）	就活と採用を知る 新卒採用と就職基礎知識
10	職場社会で積極的に生きるために3（長山）	職場のコミュニケーション
11	職場社会で積極的に生きるために4（眞保）	ライフワークバランス、ダイバーシティ
12	キャリアデザインの視野を広げる1（地域）	多摩地域の企業を知る
13	キャリアデザインの視野を広げる2（北原）	農業への新規就農
14	キャリアデザインの視野を広げる3（OB・OG）	先輩のキャリアから学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則なし（ある場合は、適宜指示する）。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

講義の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験により評価する（100 %）（試験内容は講義に沿ったものとする）。

【学生の意見等からの気づき】

資料の配布方法を改善する。またグループワークの回数を増やしたい。

【その他の重要事項】

毎回、出席をとる。遅刻・早退は2回で、1回の欠席と見なす。

【受講上の注意】

1・3限ともに同じ授業を行うので、いずれかの時限を選択して履修すること。

【Outline and objectives】

The theme is to make your own carrier design,to blush up yourself.

CAR100EA

キャリアデザイン論

加藤 寛之

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～年次／2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザインというテーマのもと、どのように自分らしさを磨き、どのように大学で学び、どのように大学で学んだことを仕事につなげるか、どのように仕事を選ぶか、どのように就職活動に臨むか、その手がかりを探る。

【到達目標】

- ①グループワークを通じて、自分のキャリアを具体的にイメージする。
②講義を通じて、キャリアデザインに関する基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は本学の教職員と外部講師によるオムニバス形式で行われる。主な内容は①大学で学ぶための指針の提供②大学で学んだことを仕事につなげるための情報の提供③働き方の視野を広げる情報の提供。講義に加え、適宜グループワークやディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	キャリアデザインと大学時代1（加藤）	イントロダクション・大学時代の過ごし方、グローバルに生きる
2	キャリアデザインと大学時代2（斎藤）	自分をつかむ 1 可能性を広げるために
3	職場で求められる力とは1（青田）	企業で求められる力（新旧比較）
4	職場で求められる力とは2（高澤）	雇用のための法律知識と労働者の権利、ブラック企業
5	職場で求められる力とは3（斎藤）	自分をつかむ 2 関わり合いの中で
6	企業を知る1（坂本）	「大切にしたい会社」とは
7	企業を知る2（竹口）	企業情報を読み解く
8	職場社会で積極的に生きるために1（山本）	これから先につながるコミュニケーション
9	職場社会で積極的に生きるために2（斎藤）	就活と採用を知る 新卒採用と就職基礎知識
10	職場社会で積極的に生きるために3（長山）	職場のコミュニケーション
11	職場社会で積極的に生きるために4（眞保）	ライフワークバランス、ダイバーシティ
12	キャリアデザインの視野を広げる1（地域）	多摩地域の企業を知る
13	キャリアデザインの視野を広げる2（北原）	農業への新規就農
14	キャリアデザインの視野を広げる3（OB・OG）	先輩のキャリアから学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則なし（ある場合は、適宜指示する）。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

講義の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験により評価する（100 %）（試験内容は講義に沿ったものとする）。

【学生の意見等からの気づき】

資料の配布方法を改善する。またグループワークの回数を増やしたい。

【その他の重要事項】

毎回、出席をとる。遅刻・早退は2回で、1回の欠席と見なす。

【受講上の注意】

1・3限ともに同じ授業を行うので、いずれかの時限を選択して履修すること。

【Outline and objectives】

The theme is to make your own carrier design,to blush up yourself.

HSS145LB

オリンピック・パラリンピックを考える

鈴木 良則

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・通常授業

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際オリンピック委員会はオリンピック競技大会を開催し、国際パラリンピック委員会はパラリンピック競技大会を開催しています。2020 年 7 月 24 日～8 月 9 日、東京で第 32 回オリンピック競技大会が開催されます。つづいて、2020 年 8 月 25 日～9 月 6 日に東京 2020 パラリンピック競技大会も開催されます。以下、2 つの大会をまとめて「東京 2020 大会」と呼びます。本学は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下、組織委員会）と協定を締結し、連携してゆく方針を定めています。そこで、科学と文化としてのスポーツの理解を目指す SSI では、本科目を開講し、東京 2020 大会のビジョンと概要を学びます。そして、大会にどのように参画し（アクション）、大会をきっかけにしたアクションの成果をどうやって未来に継承するか（レガシー）について考えます。アクション&レガシーの 5 本の柱とは、「スポーツ・健康」、「街づくり・持続可能性」、「文化・教育」、「経済・テクノロジー」、「復興・オールジャパン・世界への発信」です。なお本科目は、公開科目（履修できる学年は所属学部によって異なる）にもなっています。そして、本学の 3 つの付属高生の聴講も認めています。

【到達目標】

1. 東京 2020 大会のビジョンを説明することができる。
2. 東京 2020 大会のアクション&レガシーについて理解し、説明することができる。
3. 東京 2020 大会と自らのキャリアとの関連について考え、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本学教員をはじめとして、各回のテーマに最適な講師（ゲストスピーカー）が、授業を担当します。毎回の講師は、自身の専門とするテーマについて、東京 2020 大会と関連させながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の全体像や進め方を理解し、説明できるようになる。
第 2 回	東京 2020 大会の概要	東京 2020 大会の概要を理解して、説明できるようになる。
第 3 回	「スポーツ・健康」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 4 回	「文化・教育」(1)：オリンピックの平和運動	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 5 回	「文化・教育」(2)：オリンピックの文化プログラム	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 6 回	オリンピック・パラリンピックの歴史	オリンピック・パラリンピックの歴史を理解して、説明できるようになる。
第 7 回	「街づくり・持続可能性」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 8 回	「街づくり・持続可能性」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 9 回	「スポーツ・健康」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 10 回	「経済・テクノロジー」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 11 回	「経済・テクノロジー」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 12 回	「復興・オールジャパン・世界への発信」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。

第 13 回 「復興・オールジャパン・世界への発信」(2) 講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。

第 14 回 まとめ 到達目標に到達したことを認識することができる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマについて事前に調べて、論点を考えた上で出席してください。各回の授業で学んだことについて、自分で調べることで、学びを深めてください。

東京 2020 大会に関連するイベントが学内外で開催される場合は、授業内で随時告知しますので、積極的に参加してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定しません。必要に応じて、資料配付・文献紹介を行います。

【参考書】

授業時間内に、各回の講師から紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2/3 の出席を成績評価の条件とした上で、「毎回の授業レポート 50%」「期末レポート 50%」で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

開講初年度のため、ありません。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカーの都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。教室の収容人数の関係で、SSI 生以外の学生の履修は制限される場合があります。受講者の選抜を行う可能性がありますので、初回の授業には、必ず出席してください。この授業で学んだことと、学部での学びとの関連を模索することで、あなたにしかできない東京 2020 大会への関わり方を探して欲しいと思います。そのことが、「スポーツの文化的価値を発信できる人材の育成を目指す」という SSI のポリシーを体現することになると考えています。

【Outline and objectives】

Know the current situation of the Olympic and Paralympic
Learn what to do for the 2020 tournament.
Also, I would like you to think about sports culture widely.

PRI100IA

情報リテラシーⅡ

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的な使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】

情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおけるデータ操作の基本を確認。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおけるデータ操作の基本を確認。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	分析ツールの利用。散布図、相関。
10	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	分析ツールの利用。重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（定性的データの解析）	分析ツールの利用。重回帰分析。

13 表計算ソフトの応用操作 マクロの記録などの操作。

(マクロ作成)

14 最終課題の作成 これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。
きたみあき『Excel はじめてのデータ分析』技術評論社、2011 年 1 月。
涌井良幸、涌井貞美 著『初歩からしっかり学ぶシリーズ 実習 多変量解析入門』技術評論社、2011 年 1 1 月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加 (50 %)、(2) 課題の提出 (50 %)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【その他の重要事項】

・自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】

This is a lecture to be applied to Information Literacy I. Based on what you learned in Information Literacy I, you will learn how to process data necessary for publications and reports, statistical analysis on computers.

The theme is to have you learn the method to transmit analysis results. We will develop skills that can be utilized even outside the university. Learning mainly about the operation of spreadsheet software, we will make basic operations possible. Learn to use analytical functions such as regression analysis. I will also learn the basics of programming.

PRI100IA

情報リテラシーⅡ

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】

情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおけるデータ操作の基本を確認。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおけるデータ操作の基本を確認。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	分析ツールの利用。散布図、相関。
10	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	分析ツールの利用。重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（定性的データの解析）	分析ツールの利用。重回帰分析。

- 13 表計算ソフトの応用操作 マクロの記録などの操作。
(マクロ作成)
- 14 最終課題の作成 これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。
きたみあき『Excel はじめてのデータ分析』技術評論社、2011 年 1 月。
涌井良幸、涌井貞美 著『初歩からしっかり学ぶシリーズ 実習 多変量解析入門』技術評論社、2011 年 1 1 月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 講義への参加 (50 %)、(2) 課題の提出 (50 %)
- (1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
- (2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【その他の重要事項】

・自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】

This is a lecture to be applied to Information Literacy I. Based on what you learned in Information Literacy I, you will learn how to process data necessary for publications and reports, statistical analysis on computers.

The theme is to have you learn the method to transmit analysis results. We will develop skills that can be utilized even outside the university. Learning mainly about the operation of spreadsheet software, we will make basic operations possible. Learn to use analytical functions such as regression analysis. I will also learn the basics of programming.

PRI100IA

情報リテラシーⅡ

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的な使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】

情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおけるデータ操作の基本を確認。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおけるデータ操作の基本を確認。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	分析ツールの利用。散布図、相関。
10	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	分析ツールの利用。重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（定性的データの解析）	分析ツールの利用。重回帰分析。

13 表計算ソフトの応用操作 マクロの記録などの操作。

(マクロ作成)

14 最終課題の作成 これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

講義で確認した操作の理解度を確保するための宿題を課します。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。
きたみあき『Excel はじめてのデータ分析』技術評論社、2011 年 1 月。
涌井良幸、涌井貞美 著『初歩からしっかり学ぶシリーズ 実習 多変量解析入門』技術評論社、2011 年 1 1 月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加 (50 %)、(2) 課題の提出 (50 %)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【その他の重要事項】

・自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】

This is a lecture to be applied to Information Literacy I. Based on what you learned in Information Literacy I, you will learn how to process data necessary for publications and reports, statistical analysis on computers.

The theme is to have you learn the method to transmit analysis results. We will develop skills that can be utilized even outside the university. Learning mainly about the operation of spreadsheet software, we will make basic operations possible. Learn to use analytical functions such as regression analysis. I will also learn the basics of programming.

HSS100IA

人間とスポーツ

成田 道彦

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツに関わる諸問題について幅広く講義する。スポーツに関する幅広い知識を身につけ問題の背景と現状を把握し、現代社会が求めるスポーツの役割、指導者の資質について考える。

【到達目標】

現代スポーツの現状と問題点を理解したうえで、これからのスポーツの役割と指導者に求められる資質と役割について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツの諸問題について最新のニュースや新聞記事などを教材として使用する。実際にトレーニング現場を体験した経験から、指導者の資質と役割について講義する。また、スポーツの進歩の歴史からスポーツの将来も考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	到達目標・テーマ・概要・授業方法について説明する。
2	スポーツの起源と発展	スポーツの起源と日本の近代スポーツの歴史を学ぶ。
3	部活	現在の部活の現状を理解し、現場での様々な問題点と解決策について各自の経験から学ぶ。
4	大学スポーツ	日米大学スポーツの現状を様々な視点から分析・比較し、これからの大学スポーツの方向性について学ぶ。
5	スポーツと体罰	スポーツ現場における体罰とその背景を理解し、体罰根絶のための予防策を学ぶ。
6	ゲスト講師／e スポーツ1	e スポーツの歴史と現状と問題点を学ぶ。
7	ゲスト講師／e スポーツ2	ワークショップ（e スポーツの現状から未来の運動会について考える）
8	オリンピックとアスリートの国籍移動	オリンピックの歴史とアスリートの国籍移動など近代オリンピックが抱える問題点と解決策を学ぶ。
9	ドーピング	ドーピングの歴史・背景・現状の問題点について学ぶ。
10	アニマルセラピー	アニマルセラピーが心理面・生理面に及ぼす影響を理解し、方法と期待される効果を学ぶ。
11	指導者とトレーニング	指導者の資質と役割とは何か、指導者がアスリートに与える影響について学ぶ。
12	生涯スポーツ	現代スポーツの役割や現代スポーツが置かれている環境等を理解し、これからの生涯スポーツの在り方を学ぶ。
13	法政大学と箱根駅伝	法政大学の箱根駅伝への取り組みから、箱根駅伝の歴史・現状と学生スポーツとしての問題点を学ぶ。
14	スポーツとは	全体を総括する。スポーツの未来を考える。課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツに関するニュースや新聞記事を教材として使用するため、各回に関する情報収集に心がける。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業中に資料を配布します。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業態度（50%）

課題レポート（30%）

授業内レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

資料等をもう少し工夫し、講義内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

※講義の進行状況により、内容を適宜変更する場合がある。

【Outline and objectives】

This is a lecture course on a variety of matters associated with sports. Students acquire a wide knowledge of sports, and explore and understand various issues about sports, the role sports play in society and the essential qualities for athletic trainers.

SOC100IA

スポーツレクリエーション論

谷本 都栄

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レクリエーションは単なる余暇活動ではなく、一人ひとりの生活の質を向上させ、生活の様々な場面で人々を結びつけ、豊かな社会を構築するために不可欠なものである。本講義では、現代社会におけるレクリエーションの意義と役割について理解を深め、レクリエーション事業を企画・実践するために必要な知識・技術を習得する。

【到達目標】

・現代の日本における様々な地域の課題を認識し、スポーツ・レクリエーションがどのように貢献できるかを考える。
・レクリエーションの事業運営に必要な知識・技術を習得し、将来家庭・職場・地域等において実践できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

・各種資料、ケーススタディから具体的に内容を把握できるようにする。
・レクリエーション事業計画では、地域の調査及び企画書の作成を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	レクリエーションの意義と役割	レクリエーションに関わる諸理論、レクリエーションの意義と役割について学ぶ。
第 3 回	レクリエーション運動の歴史①	欧米から始まるレクリエーション運動について、歴史的背景を踏まえて学ぶ。
第 4 回	レクリエーション運動の歴史②	戦後の日本におけるレクリエーション運動について、時代背景を踏まえて学ぶ。
第 5 回	ライフスタイルとレクリエーション①	各ライフステージにおける発達課題と人生課題について学ぶ。
第 6 回	ライフスタイルとレクリエーション②	障害者、女性、ジェンダー・マイノリティに関わる課題について学ぶ。
第 7 回	家族とレクリエーション	子育て・子育て支援におけるスポーツ・レクリエーションの取り組み事例から学ぶ。
第 8 回	高齢者とレクリエーション	高齢者の介護予防支援におけるスポーツ・レクリエーションの取り組み事例から学ぶ。
第 9 回	障害者とレクリエーション	障害者の自立支援におけるスポーツ・レクリエーションの取り組み事例から学ぶ。
第 10 回	レクリエーション事業計画①	レクリエーション事業の展開方法、プログラムの組み立て方について学ぶ。
第 11 回	レクリエーション事業計画②	個人及び集団を対象としたプログラム計画の実践について学ぶ。
第 12 回	レクリエーション事業計画③	グループ運営の方法、アイスブレイキングやコミュニケーションワークについて学ぶ。
第 13 回	レクリエーション事業計画④	多様なスポーツ・レクリエーションの実践事例から学ぶ。
第 14 回	レクリエーション事業計画⑤	事業運営における安全管理、対象に合わせたリスクマネジメントについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業中に紹介した文献や資料を読んで理解を深める。
・各課題は、授業中に示した手順を参考に各自で準備を進める。

【テキスト（教科書）】

・毎回テーマに応じたプリントや参考資料を配布する。

【参考書】

・適宜テーマに関する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・ワークシート及びリアクションペーパー 40 %
・課題Ⅰ 20 %
・課題Ⅱ 40 %

総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

・学生が授業内容を理解しているかを随時確認しながら、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline and objectives】

Recreation, leisure and sports activities play an important role in communities. Participation in recreation and sports activities can have many benefits for both the individual and community, that include improving health and well-being, contributing to the empowerment of people by bringing together, and promoting social integration and the development of inclusive communities.

The program has the following objectives.

1. Provide students the foundational knowledge and skills required for recreation and sport play
2. Encourage students to organize recreation or sport programs in their life

ECN1001A

統計学Ⅱ**笹井 浩行**

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学は、データの特徴や規則性を数量的に見出し、要約や解釈をするための根拠を提供する実践的な学問である。その応用範囲は多岐にわたり、スポーツ健康科学においても運動生理学、スポーツ心理学、スポーツ社会学等の実証的研究では、結論を導く根拠を客観的に示すために統計学を活用している。そこで本授業では、卒業論文や就職後の仕事で役立つよう、中級レベルの統計的分析手法の実践的技術の修得を目指す。

【到達目標】

多変量解析を含む中級レベルの統計的分析手法を習得することを目標とする。本授業では、統計学の数学的理解ではなく、実践的技術の習得に主眼を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を交互に繰り返しながら学習を進める。配分は、講義 2 割、演習 8 割程度であり、演習を重視する。演習では統計ソフト SPSS を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・統計学Ⅰの復習	授業の進め方と成績評価について説明する。統計学Ⅰで扱った分析手法について復習する。
2	統計学Ⅰの復習	統計学Ⅰで扱った分析手法について復習する。
3・4	一元配置分散分析	間隔・比率尺度を用いて、1つの要因により、3つ以上の群間に統計学的に意味のある（有意な）差があるか否かを検定する手法および多重比較検定を学ぶ。
5・6・7	二元配置分散分析	間隔・比率尺度を用いて、2つの要因により、3つ以上の群間に有意な差があるか否かを検定する手法を学ぶ。
8	中間テスト	1～7 回目の内容について、実践的技術の修得状況を確認する中間テストをおこなう。
9・10・11	重回帰分析	間隔・比率尺度である 1つの変数を、複数の変数から予測する、または各変数の影響度を定量する分析手法について学ぶ。また、変数選択手法の概要について学ぶ。ダミー変数の作成法について学ぶ。
11・12	ロジスティック回帰分析	二値変数を、複数の変数から予測する、または各変数の影響度を定量する分析手法について学ぶ。
13	統計解析プレゼンテーション	サンプルデータセットを用いて、受講生の自由な発想に基づく統計解析と発表の機会を設ける。（進捗次第で割愛することもある）
14	総括・期末テスト	1～13 回目までの内容について、実践的技術の修得状況を判定するテストをおこなう。ただし、統計学Ⅰでの学習内容もテストに含まれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・情報実習室の PC にインストールされている SPSS を使い、しっかり復習すること。
・宿題は、授業中に指示する。

【テキスト（教科書）】

・健康・スポーツ科学のための SPSS による統計解析入門、山村慎一監修、佐藤進・山次俊介・長澤吉則編著、杏林書院、2007。（価格：2500 円）
※一部、本書に含まれていない内容を取り扱うが、その際はプリントを配布する。

【参考書】

・統計学がわかる：ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学、向後千春・富永敦子著、技術評論社、2007。
・統計学がわかる：アイスクリームで味わう関係の統計学、向後千春・富永敦子著、技術評論社、2009。

・Bellcurve 社 統計 WEB | 統計学の時間 <https://bellcurve.jp/statistics/course/>

・その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（40%）・期末テスト（60%）とする。出席は取らないが、授業内容の理解と実践を十分積まないと及第点が得られないテスト内容・難易度となっている。テストでは主に、サンプルデータセットを用いた統計解析を通じた実践的技術の修得状況を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見、理解度に応じて講義内容や順番を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

演習は情報実習室にて行う。

【その他の重要事項】

・統計学Ⅰを未履修であっても受講可であるが、統計学Ⅰを履修済みであることを前提として授業を進める。小テストや期末テストで、統計学Ⅰの内容が含まれることに留意すること。
・PC やオフィスソフトの基本的な操作は修得済みであること。それらの基本操作を指導する時間はない。
・統計学ⅠおよびⅡの履修が、入ゼミの要件となっている場合があるので、各自で希望ゼミの教員に確認すること。
・ノートやメモを適宜取ること。

【Outline and objectives】

Statistics is a fundamental and practical discipline that is used to summarize massive amount of data and to interpret its output correctly. Statistics is widely used in almost all sports science-related fields including exercise physiology, sports psychology, and sports sociology. This course provides students with medium-level analytic skills that would be helpful when tackling with bachelor's thesis or work after college graduation.

GDR1001A

女性とスポーツ

伊藤 真紀

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史的、社会的背景を紐解きながら、女性とスポーツについて学習する。女性の五輪への出場、活躍がもはや「当たり前」となった今日に至るまでの歴史を知るとともに、「ジェンダー（社会・文化的側面）」「セクシャリティー」（生理学的・解剖学的側面）、メディア、プロモーション、様々な角度から女性とスポーツに関わる基礎知識を学び、その概要をつかむ。さらに、日本ならびに諸外国の女性とスポーツに関連した事例を通して、今後の女性とスポーツの可能性について考える。

【到達目標】

様々な角度から女性とスポーツについて学び、今後の女性とスポーツの可能性について自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心としながらも、グループに分かれ、ディスカッションをする時間も設けます。また視覚教材（ビデオ等）も活用しながら授業テーマの理解を深めていきます。毎授業の終わりに、その日の授業内容に関するリアクションペーパーを記入してもらいます。最終講義時には、全日程を通じて学んだことをレポートしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介を交え、授業の概要を説明する。
2	女性スポーツの歴史 I	日本における女性とスポーツの歴史を学ぶ。
3	女性スポーツの歴史 II	欧米を中心に女性とスポーツの歴史を学ぶ。
4	女性スポーツの歴史 III	アメリカにおける女性とスポーツの歴史において、大きな意味を持ち、影響を与えた「タイトル IX」について学ぶ。
5	女性スポーツの現状 I	ブライトンプラスヘルシンキ宣言についてなど、現在の女性とスポーツの世界的な動きについて学ぶ。
6	女性スポーツの現状 II	諸外国並びに日本のスポーツ界における女性指導者の現状について学ぶ。
7	女性の体とスポーツ	女性アスリートのからだについて女性アスリートの3主徴 “Female Athlete Triad” について学ぶ。
8	スポーツ界における多様性について I	ジェンダー、セクシャリティー、ジェンダー、セクシャリティーという側面から、スポーツにおける「男性らしさ」「女性らしさ」について考える。
9	スポーツ界における多様性について II	ケーススタディーとして、ジェンダー、セクシャリティーに関するアメリカのスポーツ界の事例を紹介し、ディスカッションを行う。
10	女性スポーツとメディア	メディアにおけるこれまでの女性アスリートの取り上げられ方をみていく。また、近年めざましい活躍する女性アスリートのプロモーションについてもみていく。
11	女性スポーツの現状	女性のスポーツ実施率について学ぶ。
12	Sport England “This girl can”	スポーツイングランドが実施した女性の運動促進キャンペーン「This Girl Can」について紹介する。
13	スポーツビジネスにおける女性戦略 I	女性とスポーツをテーマとしたスポーツ界におけるマーケティング戦略について学び、スポーツにおける女性戦略の意味を考える。
14	女性スポーツに関するテーマを選びグループ発表を行う。	女性スポーツの現状を各グループごとに調査し、発表を行う。

14 期末レポートの発表

期末レポート課題について説明を行う。
授業の振り返り、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。

【テキスト（教科書）】

講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】

授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業への積極的な参加態度（20 %）、リアクションペーパーの内容（30 %）、レポートの内容（50 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループプレゼンテーションを行い、内容についてクラス全体で質疑応答やディスカッションを行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

We will learn about women and sports while studying the historical and social background. Additionally, we will understand the history of women's participation in the Olympic Games and their active activities until today, and learn the basic knowledge of women and sports from various angles such as "gender (social and cultural aspects), "sexuality" (physiological and anatomical aspects), media, promotion, etc in order to grasp the outline. Furthermore, we will think about the potentiality of women and sports in the future through the actual cases related to sports and women in both Japan and in foreign countries.

PHL100IA

生命倫理

尾崎 恭一

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学の基礎基本を踏まえた、生命倫理の主な論点と基本的な考え方。

【到達目標】

まず、倫理に関して、第一に、規範と事実の区別を説明できる。第二に、価値観の多様性志向と倫理の普遍性志向の区別を説明できる。第三に、行為の善悪を判断する対象が行為したいか行為の結果かという対立について説明できる。第四に、人権倫理をその他の倫理的立場から区別し、その根拠となる倫理原則について説明できる。

次に、生命倫理に関して、その主な諸分野の対立する立場について、上記の倫理上の区別や対立に関連付けて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体にするが、倫理及び生命倫理の諸問題について、動機づけと理解促進のために、グループ・ディスカッションを行う。それを基にした小レポートの提出を数回求める。また、希望者の校外研修も一部取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	生命倫理とは何か（1）	①倫理とは何か。行為規範と倫理原則、状況倫理。 ②公正手続きか最大幸福か。 ③慣習・規則・良心。
2	生命倫理とは何か（2）	①生命倫理学の成立史。 ②生命倫理原則と主な生命倫理関連の宣言。
3	生殖技術	生殖補助医療の発展。生殖への第三者介入、減胎手術、代理母利用、子どもの諸権利。
4	人工妊娠中絶	胎児の「生命権」と女性の権利。中絶の法的許容範囲。胎児の倫理的地位。
5	人間とは何か	「人間の本質」観の歴史。パーソン論と胎児・植物状態・動物。人命の価値と尊厳。
6	インフォームド・コンセント（1）	患者・医療者間倫理の歴史。医的侵襲と暴行・傷害罪、診療・研究における裁量・自由と同意・拒否権。
7	インフォームド・コンセント（2）	自己決定権と「生活の質」判断。インフォームド・コンセントの内容。弱者保護と代理判断・病院倫理委員会。
8	移植医療（1）	脳死は人の死か。臓器摘出の基準。臓器分配の基準。臓器移植法。
9	移植医療（2）	生体からの臓器提供。移植ツアー。臓器売買。生存くじ。
10	遺伝子技術	再生医療と受精卵・胚の地位。遺伝子改変の限度。遺伝子診断と中絶。優生学。
11	ターミナルケア	ガン治療等と緩和医療。全人的苦痛とターミナルケア。死の受容と死生観。
12	安楽死・尊厳死	安楽死分類。裁判と判決理由。世界の安楽死事情。
13	健康・病気・医療	健康・病気の定義と診断。予防・治療。近代医療の機械論的人体観。
14	今後の医療と生命倫理学	医療・福祉政策と公正基準。環境倫理における人権と公共利益。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書及び授業配布資料に基づいて前回授業を復習し、教科書掲載の設問について考える。次回授業テーマの予習として、最低限、教科書の該当箇所を読んでおく。

【テキスト（教科書）】

今井道夫『生命倫理学（第3版）』産業図書、2400円＋税
教科書として常時、使用するので、必ず用意すること。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（75％）、グループ・ディスカッションとそれを基にした小レポート提出（25％）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを生かし、自ら考え議論する場にしたい。また、受講生多数の場合、意識的に対話的な講義にするよう努めたい。

【Outline and objectives】

Firstly students study the difference between norm and fact to distinguish various ethical judgments from any mere descriptions about facts and desires.

Secondly they study the main problems in bioethics and make their own opinions about the problems.

MAT100IA

数学

坂本 寛

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の日常生活において、数学は様々な局面で用いられている。特に現代社会においては、いわゆる「理系・文系」などの分野を問わず、広く統計学の知見が求められている。スポーツ健康学部においてもその例外ではない。本講義の目的は、統計的分析などで数学が実際に必要とされる場面を想定して、論理的な問題解決能力を身につける。数学を一から勉強しようとする学生を講義の対象とします。

【到達目標】

統計学の学習で必要になる数学の各分野について基礎から学びます。微分・積分などについて、基本的な計算問題を解答できるようになる。また、集合や確率は、統計学の学習で必要になるため、基礎問題だけでなく応用問題に対応できる能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講師からの一方的な講義にならぬよう、授業内にも実習時間を設けます。数学の問題を解決するために、Maxima 等のソフトウェアを活用します。毎回、授業支援システムを通して課題の出题・提出していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/計算の有効桁数	授業の進め方と成績評価について説明をします。 統計学で必要になる計算結果の有効桁の概念を学びます。
2	Maxima 入門	数学学習を支援するソフトウェアとして Maxima の基本操作法を学びます。
3	集合と関数	確率を理解する前提となる集合の考え方を学び、更に集合と関数の関係を学びます。
4	三角関数	統計で良く用いられる基本的な関数として三角関数を学習します。
5	指数関数と対数関数	統計で良く用いられる基本的な関数として指数関数と対数関数を学習します。
6	微分	確率・統計を理解する上での必須の知識である微分の基本を学習します。
7	関数の極大・極小と微分	統計解析で欠かせない最大・最小値問題を学びます。
8	積分	確率・統計を理解する上での必須の知識である積分の基本を学習します。
9	ベクトル	統計解析で扱う多種類のデータはベクトルとして考えることが出来ます。そのベクトルの基本を学びます。
10	行列	統計学で必須となる行列の基本演算を学びます。
11	逆行列	行列の基本演算として特に逆行列を扱います。
12	順列・組み合わせ	確率を計算する上で必要となる順列・組み合わせの計算を学びます。
13	確率	基礎的問題に取り組むことで、確率への理解を深めます。
14	まとめと期末試験	授業のまとめを行い、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容について十分に復習した上で、課題に対して自力で解答することが求められます。コンピュータ実習を伴う課題については情報実習室や貸出 PC を使用出来る。

【テキスト（教科書）】

統計学のための数学教室 / 永野裕之著
ISBN:9784478028247

【参考書】

統計学を学ぶための数学入門 上 算数から数学へ / 岡本安晴著
ISBN:9784563010041
統計学を学ぶための数学入門 下 データ分析に活かす / 岡本安晴著

ISBN:9784563010058
統計学のための数学入門 30 講 / 永田靖著
ISBN:9784254116335
その他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 (50%)
毎回、授業支援システムにて課題を提出してもらいます。
期末試験 (50%)
この科目で学習した基本事項を問う筆記試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

各々の弱点を把握するための自己評価テストも取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にてコンピュータを使用し、数学教育用のソフトウェアを活用します。

【その他の重要事項】

統計学 I・II の履修を考えている学生には本科目を事前に履修することを強く勧めます。

【Outline and objectives】

Mathematics is used in various aspects in daily life. Especially in contemporary society, statistical knowledge is widely demanded. It is no exception to the sports health department without distinguishing between science and liberal arts. The purpose of this lecture is to develop logical problem solving skills assuming scenes where mathematics is actually needed in statistical analysis and so on. Students trying to study mathematics from scratch will be subject to lecture.

HSS100IA

基礎科学**瀬戸 宏明**

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ医学、スポーツ科学を学ぶために必要な科学的知識および思考方法を習得することを本科目のテーマとする。自然科学分野の科目を履修するための基盤となる。

【到達目標】

科学の基礎となる学習科目は高校の履修課程での理科と数学である。スポーツ健康学部のカリキュラムに含まれる自然科学分野の科目（実習を含む）に必要な内容を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

生理学、生化学、解剖学等の理解に必要な、細胞に関する基本的概念や、代謝について元素、分子のレベルで理解できるように解説する。計測実験や調査などのデータ整理、統計解析に必要な、ごく基本的な数値処理について解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	自然科学分野の科目の紹介	①科学的知識と考察が必要な科目について ②理科と数学の基本的知識の再確認
2	生体を構成する物質（1）	元素、原子、分子などの基本的概念の復習と応用。
3	生体を構成する物質（2）	細胞構築などの微小構造の概念の紹介する。
4	生体を構成する物質（3）	生理学、生化学、解剖学などを理解するために必要な分子細胞学の基礎。
5	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（1）	科学研究で頻繁に用いる表、グラフの理解；スポーツ科学研究の例示。
6	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（2）	基本的な統計手法の紹介；平均、分散など記述統計に必要な用語の解説する。
7	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（3）	データの表現；直線への当てはめとしての最小二乗法、三角関数の延長としての周波数解析の紹介など。
8	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（4）	筋電図、パワー計測、エネルギー代謝計測に应用されている数値処理の紹介
9	生化学、生理学分野に必要な基礎科学（1）	糖、アミノ酸、タンパク質の基礎。
10	生化学、生理学分野に必要な基礎科学（2）	生体内の化学反応、イオンの概念
11	生化学、生理学分野に必要な基礎科学（3）	呼吸生理の基礎となる、気体の圧力と体積の関係について
12	バイオメカニクス分野に必要な基礎科学	生体と関連する物理学（の基礎；物質の重量、速度、加速度や力学法則、単位系の考え方）
13	基本的な統計処理に活用するソフトウェアについて	エクセルを活用した基礎的な手法やグラフ作成や統計処理が可能なソフトウェアの紹介
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書の予習と復習

【テキスト（教科書）】

イラスト 基礎からわかる生化学：構造・酵素・代謝（裳華房）

【参考書】

シンプル生化学（南江堂）

【成績評価の方法と基準】

単位認定試験（原則 100%）

その他適時小テストを行う予定

【学生の意見等からの気づき】

適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンの持参、情報実習室の使用については授業内に適宜連絡する。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、スポーツ科学を学ぶために必要な科学的知識・思考方法を講義する。

【Outline and objectives】

We give a lecture about basic science that study scientific knowledge and consideration methods necessary to learn sports medicine and science.

PHL100IA

哲学

尾崎 恭一

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本問題とそれに答える考え方とその枠組

【到達目標】

第一に存在論では、唯物論と唯心論との、内在論と超越論との、一元論と多元論との対立関係を説明することができ、その克服のための諸論点を挙げることができる。

第二に認識論では、対応説と整合説との、先天説と後天説との対立関係を理解し、その克服のための諸論点を説明することができ、その克服のための諸論点を挙げることができる。

第三に価値論では、客観主義と主観主義との、理性主義と感性主義との対立関係を説明することができ、その克服のための諸論点を挙げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体にするが、テーマごとにディスカッションし、それを踏まえた小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	(1) 哲学とは何か①	哲学の定義、および学問としての特徴
2	(1) 哲学とは何か②	科学、宗教、芸術との関係
3	(2) 存在論・形而上学①	真に在るとは：超越論と内在論
4	(2) 存在論・形而上学②	何が存在の本体か：唯心論と唯物論
5	(2) 存在論・形而上学③	どう存在しどう変化するか：有機体論と機械論
6	(3) 知識論・認識論①	知るとは：整合説と模写説
7	(3) 知識論・認識論②	どんな能力でどんな知識がえられるのか：合理論・経験論
8	(3) 知識論・認識論③	認識の主観的構成と客観的産出：構成主義と再構成
9	(3) 知識論・認識論	自然学と人文学：再現可能性と価値関係性
10	(4) 価値論・実践論①	価値とは：価値と存在
11	(4) 価値論・実践論②	価値の根拠とは：自然主義と理想主義
12	(4) 価値論・実践論③	倫理とは：行為規範と事実
13	(5) 世界観の枠組み①	倫理の根拠：義務と幸福
14	(5) 世界観の枠組み②	倫理の3領域：習律・法規・良心
		古代哲学と自然性
		中世哲学と超越性
		近代哲学と主観性
		現代哲学と間主観性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習は必須です。その際、配布する資料に必ず目を通す。できれば、講義で紹介する哲学の本を、とくに古典や法政大学関係者の著作を一冊でも読んでみる。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小レポートの提出 (25 %)、期末試験 (75 %)

【学生の意見等からの気づき】

対話的な講義にし、昨年度始めたグループ・ディスカッションについては、講義の動機づけと思索の出発点となる問題を設定し、グループ間の意見交流を計るよう取り組みたい。

【Outline and objectives】

Students study basic problems in the three fields of philosophy, namely ontology, epistemology and axiology. And they learn the key concepts to resolve the problems.

IDN100EA

多摩地域形成論

池田 寛二

サブタイトル：

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：年次／ 2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多摩キャンパスを取り巻く地域社会の歴史・文化・政治・経済・社会環境やそこで生きる人々から学び、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について探求する。

【到達目標】

近隣地域社会が抱える課題や可能性から学ぶことを通して、法政大学多摩キャンパスの学生としての自分が立っている「場所」への理解と認識を深め、その後の主体的学習・活動への手がかりとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、2013 年度に開設した「法政大学多摩地域交流センター」が、多摩4 学部の教員と協力して実施する、4 学部共通の授業である。多様な専門領域の教員によるリレー形式で、近隣地域からのゲスト講師を多く招き、実践的かつ理論的に学ぶ。受け身な態度でなく、自らも当事者とともに地域の課題に向き合い、その解決に共に関わろうとする受講生を期待している。なお、ゲスト講師の都合や授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	この科目をなぜ、どのように学ぶのか
第2回	多摩キャンパス版「法政学」	法政大学の歴史・建学の精神と多摩キャンパスの歴史
第3回	多摩キャンパスと近隣地域 (1)	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ
第4回	多摩キャンパスと近隣地域 (2)	多摩キャンパスで学び近隣地域で働く卒業生の視点から学ぶ
第5回	多摩キャンパスと近隣地域 (3)	多摩地域のエリアマネジメントを学ぶ
第6回	多摩地域の現代史 (1)	多摩地域の住民運動の歴史
第7回	多摩地域の現代史 (2)	団地開発とベッドタウンとしての多摩地域の形成
第8回	多摩地域の現代史 (3)	多摩の平和運動・子育て・自治体づくり
第9回	中間まとめ	ふりかえりのワークショップ
第10回	これからの多摩地域の形成 (1)	超高齢化によるコミュニティの持続可能性の危機
第11回	これからの多摩地域の形成 (2)	新たなつながりを創り出すコミュニティビジネス
第12回	これからの多摩地域の形成 (3)	地域の資源をエネルギーに
第13回	これからの多摩地域の形成 (4)	コミュニティ文化とスポーツ
第14回	これからの多摩地域の形成 (5)	支え合いの地域社会と居場所づくり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて次の授業内容の関連資料を紹介し、事前学習を課すことがある。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %程度) とレポート (70 %程度) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内でのアンケートから、「多摩地域を身近に感じられるようになった」「地域での活動への関心が高まった」といった感想が寄せられており、今年度も更なる内容の充実を図っていく。

【学生が準備すべき機器他】

・授業支援システムを利用する。
・本授業の内容は、内部での記録作成のためビデオ録画を行う予定である。

【その他の重要事項】

○講義の目的・運営上の必要から 700 人までに受講を制限する科目とする。
春学期の受講登録手続きより前にウェブ抽選を行い、当選したものが受講登録を行うことができる。

○本授業は先述のように、「多摩地域交流センター」と関連した科目であり、学生による自主活動に向けたきっかけづくり＝媒介的な学習の場となることを目指している。授業内容に刺激、触発を受けた受講生は、積極的に同センター（総合棟 2 階）を訪ね、フィールドワークや自主活動のきっかけづくりに結び付けて欲しい。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to make students learn about the history, culture, politics, economy, social environment and people's life in the area surrounding the Tama Campus, and explore the peculiar significance of living as university students and their social role in this region.

HSS218LB

アスリートキャリア論

成田 道彦

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・通常授業

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリート及び社会人としてのキャリア意識について

【到達目標】

アスリートとしてのキャリア形成及び、「社会人になる為のキャリア意識」を持つこと。大学入学後早い時期に「キャリア意識」を真剣に考え、ワークショップ等をも経験し、又社会人経験者の話も良く聞き、確信あるキャリア意識を確立する事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

「キャリア意識」醸成、方向、向上のために、実際に現在企業人として、アスリートとして、又アスリートを育成している指導者として、経営者等として活躍されている法政 OB・OG の方々を中心に特別講師としてお招きし、講演、担当教員によるインタビュー等により

①在学中、何時頃人生における自分の生きる道、職業等を考えたか

②自分の道、職業を決定づけたものは何か

③学生時代に身につけた教養、専門知識、スポーツで培った人間性等を企業や社会でどう活かせるか

④社会人として仕事をしていて先輩として学生のキャリア形成に一番アドバイスしたいこと、言いたいこと等を聞きながら授業を進める。

⑤アスリートのキャリア育成についてアドバイスを頂く。又学生からの質問を受け付け、講師との質疑応答の時間も取りたい。第 2 回～13 回は講師の事情によりテーマ、内容、順番等を変更せざるを得ない場合もあります。ご了承下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	到達目標、テーマ、概要、授業方法について説明する。
第 2 回	特別講師/法政大学のスポーツの現状	法政大学のスポーツに対する考え方・環境・取り組みについて
第 3 回	特別講師/世界を目指すには	オリンピック選手を育成した指導者から学生へのアドバイス
第 4 回	特別講師/オリンピックを経験して	オリンピック出場経験者から学生へのアドバイス
第 5 回	特別講師/世界を目指すには	元ラグビー日本代表コーチから世界を目指すためのアドバイス
第 6 回	指導者とは	指導者の役割と指導法について講義
第 7 回	特別講師/大学スポーツ指導者から 1	組織人としての生き方と役割について講義
第 8 回	特別講師/大学スポーツ指導者から 2	アスリートに必要な資質について講義
第 9 回	特別講師/企業が求めるアスリート	企業でアスリートを採用している立場から学生へのアドバイス
第 10 回	特別講師/企業が求めるアスリートキャリア	アスリートの経験をどのように仕事に活かすか
第 11 回	特別講師/スポーツクラブの必要性	地域スポーツクラブの現状と役割、スポーツ振興について講義
第 12 回	特別講師/心と体の栄養学	分子栄養医学管理士の立場から心と体のバランスについて講義
第 13 回	特別講師/日本スポーツ界の現状	日本体育協会の役割、国体の現状と今後の課題、指導者の役割について講義
第 14 回	まとめ	授業を総括する。自身のこれまでの振り返り将来を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講師につき受講する前に予め書物、インターネット等を活用し授業にのぞむ事が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは決めません。

【参考書】

随時必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業参画状況・授業態度 60%
- 2) 各回のレポート 30%
- 3) 課題レポート 10%

この配分とし、総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実際に学生が活用できる情報を提供していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・ 各回の授業順序、テーマ、特別講師については講師の特別な事情により変更する場合もある。

・ 授業における遅刻はないように。

・ 忌引き、競技に於ける試合の為の欠席等については配慮する。

HSS100IA

スポーツ健康学特講

HANS-JOERG STIEHLER

サブタイトル：Media Events

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：年次／単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Case studies by the students to compare tv's staging of WC Final in different countries (e.g. Japan, Germany, Suisse, USA, Mexiko) - with special attention to pre-/post-game coverage

- Understanding the importance of global (media) sport events

- Knowledge of the relationship between sports and the media

- Understanding the basic rules resp. opportunities and limitations of social science research

【到達目標】

- Experiencing and practicing elementary research and analysis techniques

- Practicing searches of relevant information (desk research)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- Lecture/s by the professor

- Seminar discussions

- Reading of scientific and popular texts

- Presentation of (online and offline) search results

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the topics of seminar (lecture)	Seminar's goals and methods, expectations of the students and the prof.
2	FIFA World Cup	History, Organization, Teams (desk research by students)
3	Japan, USA, Germany	Media systems, soccer leagues, national organizations (desk research by students)
4	Media Events	Concept and typologies (reading texts)
5	Television and World Cup	A research example (Horky 2011)
6	Introduction to content analysis	Lecture
7	Codebook and analysis	Group action
8	Codebook and analysis	Group action
9	Codebook and analysis	Group action
10	Codebook and analysis	Group action
11	Introduction to elementary methods of data analysis	Lecture
12	Data processing	Demonstration by lecturer
13	Preparation of research results	Tables, graphics - demonstration by lecturer
14	Presenting first analysis' results	Summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading oft texts; short written summary of texts.

Searching of relevant information about WC 2018, media systems, research methods

【テキスト（教科書）】

Stay, Shane: The WorldCup 2018 Book: everything you need to know about the Soccer World Cup. Garsington: Meyer & Meyer Sport 2018
Dayan, Daniel; Katz, Elihu: Media Events. The Live Broadcasting of History. Cambridge, Mass./London: Harc'vard University Press. 1994
Neuendorf, Kimberly A.: The content analysis guidebook. Los Angeles: Sage 2017

【参考書】

Horky, T.: Examining the Structures of Major Football Tournaments on Television: An Analysis of the Quality of World Cup and European Cup Broadcasts. International Journal of Sport Communication Vol. 4/2011, pp. 217-232

Horne, J.; Manzenreiter, W. (eds.): Sport mega-events: social scientific analysis of a global phenomenon. Sociological Review 2006; Suppl. 2

【成績評価の方法と基準】

Short essays : 25%

Contribution to the codebook : 25%

Research paper (at the end of semester) : 50%

【学生の意見等からの気づき】

The new lecture couldn't have any comments.

【Outline and objectives】

Case studies by the students to compare tv's staging of WC Final in different countries (e.g. Japan, Germany, Suisse, USA, Mexiko) - with special attention to pre-/post-game coverage

- Understanding the importance of global (media) sport events
- Knowledge of the relationship between sports and the media
- Understanding the basic rules resp. opportunities and limitations of social science research

HSS2001A

スポーツ健康学海外演習

泉 重樹、平野 裕一

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・演習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～年次／2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

米国アイダホ州ボイシにある、Boise State University における 2 週間の活動を通して、現地の人々とのコミュニケーションを通して、主体的に学ぶ姿勢を涵養する。

【到達目標】

本演習では主に下記 3 点を到達目標とする。1. 米国アイダホ州ボイシにある、Boise State University における 2 週間の活動を通して、英語にじかに触れ、英語で生活すること。2. 米国のカレッジスポーツに直接触れることで日米のスポーツビジネス及び文化の違いを感じるとともにスポーツ健康学での学びを深めること。3. 現地の人々とのコミュニケーションを通して、自ら積極的に英語でやりとりをすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

米国アイダホ州ボイシにある Boise State University (BSU) において 2 週間の演習を行う。主に午前中は英語のクラス、午後はスポーツ健康学領域の様々なワークショップやアクティビティである。出発前には事前の演習（1 時間）もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	事前準備	米国アイダホ州ボイシおよびボイシ州立大学についてグループディスカッションを行う。
2～8	現地のネイティブスピーカーによる英語の授業	英語でのコミュニケーションに特化した授業が展開される。現地の英会話学校の学生たちとともに、様々な国々出身の英語を学んでいる人々との交流もある。
9～14	スポーツ健康学領域のワークショップやアクティビティ	BSU 学内施設を使ったスポーツアクティビティや施設見学、ボイシ市内見学、スポーツ観戦、スポーツ施設見学等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習では間違いを恐れずに英語で会話する姿勢が最も重要である。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

電子辞書等。

【成績評価の方法と基準】

本演習（事前授業含む）への参加 70%

レポート提出 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

The primary purpose of this practice is to live in English through a two week program at Boise State University in Boise, Idaho, USA. Secondly, learning differences in sports business between Japan and the US by directly experiencing college sports in the United States.

SOM1001A

生理学 A

江川 賢一

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生理学は、ヒトのからだの機能がどのように発現し、維持され、調節されているかを明らかにする学問である。本科目では、正常なからだの機能を分類したうえで理解し、また体系付けられた相互の関連性を理論的に説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ・ヒトのからだの構造と機能について具体的に述べることができる。
- ・生理機能とその仕組みについて系統立てることができる。
- ・生命現象について考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行う。生理学の幅広い学問領域の中でも、特に運動生理学を学ぶために理解しておくべき、からだの機能と仕組みを中心に学習する。生理学で扱う授業内容は、スポーツ健康学部に入學したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておいてもらいたい、ヒトのからだの形態と機能および重要な反応・適応である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、細胞膜の生理学	生理学を定義し、ホメオスタシスのメカニズムを理解し、細胞の主要な部分の名称とその役割、人体を構成する組織の特徴を学習する。
2	ニューロン、シナプス	神経系の各要素とはたらきを理解し、神経伝達の仕組みを学習する。
3	体性感覚、視覚	体性感覚の受容器の仕組みを理解し、体性感覚の伝達経路を学習する。眼球の構造と視覚の経路を理解し、視覚情報の処理の仕組みを学習する。
4	聴覚、平衡感覚、味覚・嗅覚	聴覚器の構造を理解し、聴覚情報の処理仕組みを学習する。前庭系の末梢機構、中枢機構を理解し、平衡感覚の制御について学習する。味覚器と嗅覚器の構造を理解し味覚と嗅覚のメカニズムを学習する。
5	自律神経系	交感神経系と副交感神経系の構造について理解し、その機能を学習する。
6	脳の高次機能、記憶、情動	大脳皮質の機能局在を理解し、感覚の統合と記憶・情動とが行動を起こしていくことを学習する。
7	血液と体液	血液と体液について、その役割と機能について学習する。
8	消化	消化管の構造を理解し、消化管の運動、吸収、分泌について学習する。
9	栄養と代謝	生命・生活活動維持に必要な栄養素について理解し、栄養素の代謝メカニズムについて学習する。
10	腎機能と尿生成	ネフロン形態と機能理解し、腎臓内の浸透圧勾配と尿濃縮について学習する。
11	体温調節	体温調節機構と熱中症について学習する。
12	内分泌	主なホルモンとその作用メカニズムについて学習する。
13	睡眠	睡眠の種類を理解し、睡眠覚醒の調節、体内時計について学習する。
14	生殖	男女の生殖機能について理解し、その働きについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
- ・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

各回ごとに用意された配布資料を各自があらかじめ授業支援システムよりダウンロードし、印刷して持参する。

【参考書】

「はじめの一步のイラスト生理学 改訂第 2 版」(照井直人編, 羊土社, 2012 年)
「トートラ人体解剖生理学 原書 9 版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之 編訳, 丸善出版, 2014 年)

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (95%) : 講義で扱った内容を範囲とする筆記試験 (マークシート (2 点 × 30 問) と論述 (10 点 × 4 問))。
提出物 (5%) : 期限内に提出された課題等の評価。
欠席を理由に減点することはない。

【学生の意見等からの気づき】

知識だけでなく興味・関心が高まるような具体的な内容を取り扱う。予習・復習時間や基本的な知識レベルの差異を考慮して、理解度を高める工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

担当講師は民間研究機関での生理学研究の実務経験を活かして、ヒトの体の仕組みと働きをわかりやすく教授する。各自の関心領域の授業外学習を通じて基礎知識を習得することと、講義での主体的な学びを通じてスポーツ健康学の基盤を固めてほしい。学習進度に応じてスケジュールを変更する場合もある。

【Outline and objectives】

Physiology is fundamental dicipline that how human body works.

This course is an introduction to human physiology from an integrative perspective. Students learn the structure and function of the tissues, the skeletal system, the nervous system, the endocrine system, and muscle function from the level of the cell to the level of the organism.

SOM1001A

生理学

江川 賢一

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生理学は、ヒトのからだの機能がどのように発現し、維持され、調節されているかを明らかにする学問である。本科目では、正常なからだの機能を分類したうえで理解し、また体系付けられた相互の関連性を理論的に説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
・ヒトのからだの構造と機能について具体的に述べるができる。
・生理機能とその仕組みについて系統立てることができる。
・生命現象について考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行う。生理学の幅広い学問領域の中でも、特に運動生理学を学ぶために理解しておくべき、からだの機能と仕組みを中心に学習する。生理学で扱う授業内容は、スポーツ健康学部に入學したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておいてもらいたい、ヒトのからだの形態と機能および重要な反応・適応である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション、細胞膜の生理学	生理学を定義し、ホメオスタシスのメカニズムを理解し、細胞の主要な部分の名称とその役割、人体を構成する組織の特徴を学習する。
2	ニューロン、シナプス	神経系の各要素とはたらきを理解し、神経伝達の仕組みを学習する。
3	体性感覚、視覚	体性感覚の受容器の仕組みを理解し、体性感覚の伝達経路を学習する。眼球の構造と視覚の経路を理解し、視覚情報の処理の仕組みを学習する。
4	聴覚、平衡感覚、味覚・嗅覚	聴覚器の構造を理解し、聴覚情報の処理仕組みを学習する。前庭系の末梢機構、中枢機構を理解し、平衡感覚の制御について学習する。味覚器と嗅覚器の構造を理解し味覚と嗅覚のメカニズムを学習する。
5	自律神経系	交感神経系と副交感神経系の構造について理解し、その機能を学習する。
6	脳の高次機能、記憶、情動	大脳皮質の機能局在を理解し、感覚の統合と記憶・情動とが行動を起こしていくことを学習する。
7	血液と体液	血液と体液について、その役割と機能について学習する。
8	消化	消化管の構造を理解し、消化管の運動、吸収、分泌について学習する。
9	栄養と代謝	生命・生活活動維持に必要な栄養素について理解し、栄養素の代謝メカニズムについて学習する。
10	腎機能と尿生成	ネフロン形態と機能理解し、腎臓内の浸透圧勾配と尿濃縮について学習する。
11	体温調節	体温調節機構と熱中症について学習する。
12	内分泌	主なホルモンとその作用メカニズムについて学習する。
13	睡眠	睡眠の種類を理解し、睡眠覚醒の調節、体内時計について学習する。
14	生殖	男女の生殖機能について理解し、その働きについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

各回ごとに用意された配布資料を各自があらかじめ授業支援システムよりダウンロードし、印刷して持参する。

【参考書】
「はじめの一步のイラスト生理学 改訂第 2 版」(照井直人編, 羊土社, 2012 年)
「トートラ人体解剖生理学 原書 9 版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之 編訳, 丸善出版, 2014 年)

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (95%)：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験 (マークシート (2 点 ×30 問) と論述 (10 点 ×4 問))。
提出物 (5%)：期限内に提出された課題等の評価。
欠席を理由に減点することはない。

【学生の意見等からの気づき】
知識だけでなく興味・関心が高まるような具体的な内容を取り扱う。予習・復習時間や基本的な知識レベルの差異を考慮して、理解度を高める工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
担当講師は民間研究機関での生理学研究の実務経験を活かして、ヒトの体の仕組みと働きをわかりやすく教授する。
各自の関心領域の授業外学習を通じて基礎知識を習得することと、講義での主体的な学びを通じてスポーツ健康学の基盤を固めてほしい。
学習進度に応じてスケジュールを変更する場合もある。

【Outline and objectives】
Physiology is fundamental dicipline that how human body works.
This course is an introduction to human physiology from an integrative perspective. Students learn the structure and function of the tissues, the skeletal system, the nervous system, the endocrine system, and muscle function from the level of the cell to the level of the organism.

SOM1001A

機能解剖学

泉 重樹

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機能解剖学では進化の過程で人類だけが獲得した直立2足歩行を可能にする人体構造を主に筋骨格系から理解し、その目的と運動と諸機能を最大限に発揮するための諸条件を学ぶ。そしてその成果から自らのパフォーマンスの向上の可能性を発見することを具体的な目標とする。

【到達目標】

人体の骨格と関節運動の仕組みを3次元および3面（矢状面・前額面・水平面）で理解する。重力に抗して立つ（下肢）人の直立2足歩行運動および体重を支える役目から解放された上肢の運動をそれぞれ構造面から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

人の動作の運動学的評価、スポーツ傷害の評価・原因の同定、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションなどに最低限必要な人体の構造および機能について、直立2足歩行の観点から理解することを目標とする。そのために運動器の骨、筋、靱帯、関節、神経支配などと身体運動および機能を関連づけて学習することを目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、骨格、関節（可動域）、アライメント、運動面、運動方向
2	体幹部（頸部）	脊柱、頸椎、筋、靱帯、運動
3	体幹部（胸部）	胸椎、胸郭、筋、関節、運動
4	体幹部（腰部・骨盤部）	腰椎、仙椎、骨盤、関節、筋、運動
5	骨・関節・靱帯・筋・腱の構造	解剖学総論、骨・関節・靱帯・筋・腱の構造、骨格筋の神経支配1
6	下肢（股関節）	股関節、筋、運動
7	下肢（膝関節）	膝関節、筋、運動
8	下肢（足関節）	足関節、筋、運動
9	下肢（全体）	足部、アライメント、二関節筋、運動、神経
10	上肢（肩関節）	肩甲帯、自由上肢、肩関節、肩甲上腕関節、運動、筋、血管
11	上肢（肘関節）	肘関節、運動、筋、神経、血管
12	上肢（手関節）	手関節、筋、運動、神経、血管
13	上肢（全体）	アライメント、運動、関節構造、主働筋、協働筋、トルク
14	運動器の解剖と機能概論	全体のまとめ、運動器の構造、骨格筋の神経支配

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回 特になし。

第2～14回 前回授業の課題への取り組みと復習。

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト2 運動器の解剖と機能

授業資料は授業支援システムを使用する。

【参考書】

中村千秋（翻訳）、竹内真希：身体運動の機能解剖。医道の日本社（2002/5）

工藤慎太郎：運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学。医学書院（2012/5）

坂井建雄：プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系。医学書院（2016/12）

F.H.Netter(著)、相磯貞和（翻訳）：ネッター解剖学アトラス原書第6版。南江堂（2016/8）

松村譲児：イラスト解剖学。中外医学社（2014/3）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加・小テスト（50％）、試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

新しい用語、かつ漢字で覚えるもの多く、新しい知識を整理するのに苦労したようである。復習に力を入れ、定期的に行う小テストをバロメーターにして学習を進めてほしい。

【Outline and objectives】

In the functional anatomy lecture, students mainly understand the human body structure from the musculoskeletal system and learn about the basic movement of the human body.

SOM1001A

機能解剖学 A

泉 重樹

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機能解剖学では進化の過程で人類だけが獲得した直立2足歩行を可能にする人体構造を主に筋骨格系から理解し、その目的と運動と諸機能を最大限に発揮するための諸条件を学ぶ。そしてその成果から自らのパフォーマンスの向上の可能性を発見することを具体的な目標とする。

【到達目標】

人体の骨格と関節運動の仕組みを3次元および3面（矢状面・前額面・水平面）で理解する。重力に抗して立つ（下肢）人の直立2足歩行運動および体重を支える役目から解放された上肢の運動をそれぞれ構造面から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

人の動作の運動学的評価、スポーツ傷害の評価・原因の同定、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションなどに最低限必要な人体の構造および機能について、直立2足歩行の観点から理解することを目標とする。そのために運動器の骨、筋、靱帯、関節、神経支配などと身体運動および機能を関連づけて学習することを目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、骨格、関節（可動域）、アライメント、運動面、運動方向
2	体幹部（頸部）	脊柱、頸椎、筋、靱帯、運動
3	体幹部（胸部）	胸椎、胸郭、筋、関節、運動
4	体幹部（腰部・骨盤部）	腰椎、仙椎、骨盤、関節、筋、運動
5	骨・関節・靱帯・筋・腱の構造	解剖学総論、骨・関節・靱帯・筋・腱の構造、骨格筋の神経支配1
6	下肢（股関節）	股関節、筋、運動
7	下肢（膝関節）	膝関節、筋、運動
8	下肢（足関節）	足関節、筋、運動
9	下肢（全体）	足部、アライメント、二関節筋、運動、神経
10	上肢（肩関節）	肩甲帯、自由上肢、肩関節、肩甲上腕関節、運動、筋、血管
11	上肢（肘関節）	肘関節、運動、筋、神経、血管
12	上肢（手関節）	手関節、筋、運動、神経、血管
13	上肢（全体）	アライメント、運動、関節構造、主働筋、協働筋、トルク
14	運動器の解剖と機能概論	全体のまとめ、運動器の構造、骨格筋の神経支配

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回 特になし。

第2～14回 前回授業の課題への取り組みと復習。

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト2 運動器の解剖と機能

授業資料は授業支援システムを使用する。

【参考書】

中村千秋（翻訳）、竹内真希：身体運動の機能解剖。医道の日本社（2002/5）

工藤慎太郎：運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学。医学書院（2012/5）

坂井建雄：プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系。医学書院（2016/12）

F.H.Netter(著)、相磯貞和（翻訳）：ネッター解剖学アトラス原書第6版。南江堂（2016/8）

松村謙児：イラスト解剖学。中外医学社（2014/3）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加・小テスト（50 %）、試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

新しい用語、かつ漢字で覚えるもの多く、新しい知識を整理するのに苦労したようである。復習に力を入れ、定期的に行う小テストをバロメーターにして学習を進めてほしい。

【Outline and objectives】

In the functional anatomy lecture, students mainly understand the human body structure from the musculoskeletal system and learn about the basic movement of the human body.

PHL100IA

スポーツ哲学

早瀬 健介

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育とは何かスポーツとは何であるかを考える上で必要な原理・原則について知識を深め、スポーツそのものが持つ価値や社会において果たすことのできる役割等について、自らの言葉で語ることでできる力を養うことを目標とする。なぜ人はスポーツに惹きつけられるのか、スポーツの魅力とはいったい何なのか、「スポーツ文化」という言葉が使われるようになり久しいが、スポーツは本当に文化となり得ているであろうか。今後スポーツに少なからず携わろうと考えている者は、自らの言葉でスポーツを語る必要に迫られることより、スポーツとは何なのか、さらに自身にとってスポーツとはどのようなものであるのか、その目的に応じて多様な関わり方が可能なスポーツについてより深く考えることがスポーツ専門職にとって重要となってくる。

【到達目標】

スポーツとは何であるかを考えるうえで必要な原理・原則についての知識を深めるとともに、スポーツが社会生活に及ぼす影響等について考察を加える。プレイとは何か、指導者とコーチの違い、フェアプレイとは何か、スポーツとドーピング、オリンピックとオリンピズムなどスポーツを取りまく諸課題に関し自身の言葉で語ることでできるスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

体育・スポーツの概念を明らかにするとともに、身体活動をとおして行われる教育としての体育に焦点を当てることはもとより、我が国における体育・スポーツへの取組みやスポーツが社会に及ぼす影響など、社会生活との関わりの中でスポーツ活動を考えることでできる力を養う。テキスト及び必要に応じて配付する資料等をもとに、P.P.を使用したスクール形式の一斉授業を行う。本授業では体育とスポーツの違いをはじめ、これまで気にとめることの少なかったスポーツに関する様々なことにも焦点を当て、スポーツとはどのようなものであり、どのような価値を内包しているのか等を明らかにする。そしてそれらを今後のスポーツ振興に少しでも役立てることを目指す。スポーツの素晴らしさを自らの言葉で説明するために各々の学生にスポーツ観を身に付けてもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	授業概要説明及び、体育・スポーツの抱える今日的課題	授業の内容、進め方、成績評価方法、留意事項の授業ガイダンス及び、体育・スポーツが抱える今日的課題について考える
2	体育とは、スポーツとは	スポーツとは何か、体育とは何か
3	スポーツ哲学とは	なぜ体育系学部・学科の学生が、スポーツ哲学を学ぶ必要があるのか考える
4	体育からスポーツへ	体育とスポーツの関係の移り変わりを理解する
5	学校体育の変遷と学習指導要領①	明治から現在に至る体育で取り扱ってきた内容の変遷について学習指導要領等をもとに学ぶ
6	学校体育の変遷と学習指導要領②	現行の学習指導要領及び新学習指導要領について理解する
7	「プレイ（遊び）」と体育・スポーツの関係①	プレイとは何か、ホイジンガのプレイ論を通してスポーツの価値について考える
8	「プレイ（遊び）」と体育・スポーツの関係②	カイヨワのプレイ論及び、日本におけるプレイ論について考える
9	体育教師とコーチ	教師とは何をする指導者か、コーチには何が求められているのか、コーチング回路等を参考に考える
10	スポーツとフェアプレイ	スポーツマンシップとはどのようなことを指すのか、フェアプレイとは具体的にどのような行動のことをことをいうのか考える
11	アンチ・ドーピング	ドーピングの歴史、スポーツにおけるアンチ・ドーピング活動の必要性等、今現在のスポーツ界を取りまく問題を踏まえ考える

12	オリンピックとオリンピズム①	近代オリンピックの概要（なぜクーベルタンはオリンピックを復興したのか、その歴史と移り変わりについて考える）
13	オリンピックとオリンピズム②	オリンピックの真の目的は何か（近代オリンピックが目指すものは何か、オリンピックの現状と課題を踏まえて考える）
14	まとめ（半期を通しての振り返り）	まとめ（半期を通しての振り返り）及びテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 2 回：体育という言葉のイメージを考える
第 3 回：スポーツ哲学という言葉から想像される内容を考える
第 4 回：体育とスポーツ、どちらが広い概念なのか考える
第 5 回：明治、大正、昭和と日本はどのような歴史を歩んだのか復習してくる
第 6 回：自らが学んできた保健体育の内容をよく思い出してくる
第 7 回：遊びにより培われたものは何か考える
第 8 回：遊びの本質は何か考える
第 9 回：どのような指導者になりたいか、指導されたいのか各自が考える
第 10 回：アンフェアに見えてもフェアなプレイ、またその逆は何か考える
第 11 回：なぜドーピングがいけないのか考えをまとめて授業に望む
第 12 回：クーベルタンについて調べる
第 13 回：これからのオリンピックはどうあるべきか考える
第 14 回：授業内試験及び、半期を通しての振り返り

【テキスト（教科書）】

「教養としての体育原理 新版 -現代の体育・スポーツを考えるために-」友添秀則・岡出美則編 大修館書店 新版第 1 刷 (2016 年 7 月) また、必要に応じて資料を配付する予定。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

授業内における学生自身の意志に基づく意見（発言）は、授業への積極的参画として評価に加味する。授業におけるレポート等 (30%) に加え、定期試験の成績 (70%) による総合評価を行う。授業出席回数が授業実施の 2/3 未満の学生については、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業外において行う学習活動（主に予習・授業準備）に関するコメントを、必要に応じて授業開始時に問う。各自準備をしておくこと。また、従前の授業内容に関して授業終了時に問うことより、各授業内容のポイントを押さえておくこと。

【その他の重要事項】

中高一貫の私学で 1 年間保健体育教員を経験、また、文部省体育局・文科省スポーツ・青少年局で 9 年間専門職として勤務、競技スポーツ・生涯スポーツを中心に幅広い分野の業務に携わる。

【Outline and objectives】

The student learns it about a principle necessary to think about sports by this lecture. By this lecture, the student learns a meaning and the value of sports. The student deepens understanding about the need of the physical education, the need of sports by this lecture. The student can get right knowledge about the problems(doping, physical punishment, qualification as the leader) to have of sports by this lecture. The student learns it about the role of sports through a lecture. In addition, the student will get the knowledge that can teach the value of sports in the next generation.

SOC100IA

スポーツ社会学

海老島 均

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学は、我々が実際に暮らしている社会を考えるにあたって、自分の経験だけでは獲得できないような様々な視点を提供してくれる。そうしたツールを利用して、スポーツの光と影、様々な局面を多角的に検討していく。受講生がスポーツに対してより深い造詣を持てるようになることを、本授業は目的としている。

【到達目標】

- 1) スポーツに関連した具体的事例を通して、社会学的理論に対する知識を深めていくことができる。
- 2) 国内外のスポーツに関連する事象に関しての知識を深め、グローバルな視点からスポーツを論じることができるようになる。
- 3) 社会学的な視点から、スポーツ関連の現象を多角的に見ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献資料およびDVDやスライド映像資料を用いて講義形式を中心に進める。グループワーク等を用いたインタラクティブな内容も取り入れる。受講生とのコミュニケーションにアクションペーパーも活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	スポーツとは、スポーツ社会学とは
2	グローバル社会の中でのスポーツ	高度化、ビジネス化等のキーワードからグローバル社会でのスポーツの変容を探る。
3	現代スポーツの臨界点	ドーピングに代表されるような現代スポーツの問題点を考える。
4	オリンピック・スタディーズ	オリンピックの発展、変遷に関して社会学的に探る。
5	スポーツと自然環境	オリンピックに代表されるメガイイベント開催やスポーツに関連する開発と自然環境の問題を考える。
6	スポーツとジェンダー	スポーツにおけるジェンダーバイアスの生成に関して、国内外の事例から考える。
7	スポーツと人種・階級	スポーツによる人種や階級の分断、または融合に関して考える。
8	スポーツと政治・権力	スポーツと政治の関わり合いに関して、歴史社会学的な研究経緯を示した上で、現代の問題に関して考える。
9	スポーツと逸脱の社会学	スポーツにおける暴力、ドーピング等の逸脱行為を社会学的に考える。
10	スポーツと教育	スポーツと体育の関係性、学校の課外活動におけるスポーツのあり方等を国内外の事例から考える。
11	スポーツと地域社会	地域におけるスポーツのあり方を、社会学的観点から考える。
12	スポーツ政策とスポーツ振興	我が国のスポーツ政策とスポーツ振興に関する問題を、諸外国の事例と比較して検討する。
13	日本社会とスポーツ	日本社会におけるスポーツ文化の発展形態や、その特色について考える。
14	スポーツ社会学研究の国際比較	スポーツ社会学研究の国際的な傾向や方法論について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う内容に関連する文献を授業前に熟読し、授業時に発言、またはリアクションペーパーへの記述に反映できるようにする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜、資料を配布する。

【参考書】

菊幸一他編著『現代スポーツのバースペクティブ』（大修館書店）、菊幸一他編著『よく分かるスポーツ文化論』（ミネルヴァ書房）他、授業時に、それぞれの単元に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（リアクションペーパー、発言等）：40 %
定期試験（ミニレポート含む）：60 %

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・ペーパーに書かれた質問、コメントをより有効に活かして授業を展開していく。

【Outline and objectives】

Sociology will give us various perspectives to reflect on our society.

These perspectives cannot be easily obtained only through our experiences in our daily life. Using this wonderful tools, this lecture focuses on positive and negative aspects of sport which influence our society. A main objective for this lecture is designed for the students to be more insightful on what sport is.

HSS100IA

健康科学

安藤 正志、林田 はるみ

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

旧うか科目名：健康科学概論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術の進展と連動するように疾病予備軍が増加している。偏った食生活や運動不足は生活習慣病を助長する。健康に対する知識不足や誤った生活習慣について理解する。

【到達目標】

健康に対する基本的知識を獲得し正しい生活習慣を送れる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でそれぞれのテーマに沿った問題を解説し、その現状と取組の最前線を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ヘルスデザイン 総論	ヘルスデザインの定義・各論の紹介
2	食事と健康	健康的な食事とそうでない食事について講義する
3	水と健康	水分補給の重要性について講義する
4	飲酒と健康	飲酒の善し悪しについて講義する
5	喫煙と健康	喫煙の問題点と害について講義する
6	運動と健康	運動が健康に及ぼす影響について講義する
7	歯と健康	歯と口腔内の病気その予防法について講義する
8	風邪症候群	風邪症候群とインフルエンザについて講義する
9	日焼けと健康	日焼けの善し悪しについて講義する
10	目の健康	目の構造と働き、近視、乱視、不同視などを引き起こす原因を理解し、これらを予防する生活習慣を学ぶ。
11	心の問題と健康	主に若者に特有な心の問題を講義する
12	トレーニングと健康	障害者及び女性の体力・運動能力の特徴を講義する
13	免疫機能と健康	我々の身体に備わっている免疫機能を知る。また免疫機能の異常を知る。
14	ヘルスデザイン・まとめと試験	ヘルスデザインの知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を予習、復習する

【テキスト（教科書）】

資料を毎回授業支援システムにて提供する。

【参考書】

特に定めず、講義中に適宜支持する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）：毎回の授業へ取り組み姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する

知識確認テスト（40 %）：学期の中間に行う

期末試験（40 %）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】

双方向性の授業方式の取り入れ

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを毎回講義前日までに目を通し必要な資料を各自印刷する。

【Outline and objectives】

In recent years, the number of disease reserve troops has been increasing as to link with the progress of science and technology. Biased eating habits and lack of exercise encourage lifestyle diseases. In this lesson, you will understand about the knowledge of health and the erroneous lifestyle.

HSS100IA

ヘルスデザイン論

安藤 正志、林田 はるみ

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術の進展と連動するように疾病予備軍が増加している。偏った食生活や運動不足は生活習慣病を助長する。健康に対する知識不足や誤った生活習慣について理解する。

【到達目標】

健康に対する基本的知識を獲得し正しい生活習慣を送れる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でそれぞれのテーマに沿った問題を解説し、その現状と取組の最前線を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ヘルスデザイン総論	ヘルスデザインの定義・各論の紹介
2	食事と健康	健康的な食事とそうでない食事について講義する
3	水と健康	水分補給の重要性について講義する
4	飲酒と健康	飲酒の善し悪しについて講義する
5	喫煙と健康	喫煙の問題点と害について講義する
6	運動と健康	運動が健康に及ぼす影響について講義する
7	歯と健康	歯と口腔内の病気その予防法について講義する
8	風邪症候群	風邪症候群とインフルエンザについて講義する
9	日焼けと健康	日焼けの善し悪しについて講義する
10	目の健康	目の構造と働き、近視、乱視、不同視などを引き起こす原因を理解し、これらを予防する生活習慣を学ぶ。
11	心の問題と健康	主に若者に特有な心の問題を講義する
12	トレーナビリティと健康	障害者及び女性の体力・運動能力の特徴を講義する
13	免疫機能と健康	我々の身体に備わっている免疫機能を知る。また免疫機能の異常を知る。
14	ヘルスデザイン・まとめと試験	ヘルスデザインの知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を予習、復習する

【テキスト（教科書）】

資料を毎回授業支援システムにて提供する。

【参考書】

特に定めず、講義中に適宜支持する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）：毎回の授業へ取り組み姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する

知識確認テスト（40 %）：学期の中間に行う

期末試験（40 %）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】

双方向性の授業方式の取り入れ

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを毎回講義前日までに目を通し必要な資料を各自印刷する。

【Outline and objectives】

In recent years, the number of disease reserve troops has been increasing as to link with the progress of science and technology. Biased eating habits and lack of exercise encourage lifestyle diseases. In this lesson, you will understand about the knowledge of health and the erroneous lifestyle.

HSS100IA

スポーツ運動学 I

工藤 裕仁

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

旧うか科目名：スポーツ運動学 I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヒトの動き」および「運動の構造」の成り立ちを理解し、運動および動きの評価の基礎を学習することによって、実践的運動理論を体育教育の実践・指導へ応用することを学ぶ。

運動に用いられる運動器のしくみとその働き（機能解剖）を理解し、そこから運動（動き）の一連および局面的構造をバイオメカニクスの観点での検討・学習をする。またこれは、種々の競技動作について検討・学習する

【到達目標】

運動の質的評価の方法について、その流れ、手続き、注意点の概要を理解し、学生各自が関わるそれぞれの競技においてこれを応用し、動きの観察から考察までを行う基礎知識を習得する。学生それぞれが関与する競技における「動き」を観察し、その特徴を身体構造、あるいはバイオメカニクスの観点から、具体的に抽出できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身体運動を構成する要素について概説し、身体構造と発達、身体構造と機能、動きのとらえ方（主観と客観）を理解し、その評価方法とストラテジーを学ぶ。運動指導のための評価として、モルフォロジーとバイオメカニクスという異なる立場（観点）からの方法が存在することを知り、その概要を学ぶ。またこれらに基づいた運動指導について学ぶ（運動方法学を含む）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	授業の構成と流れを概説	授業の構成と流れを概説
2	運動の概念	運動の概念
3	運動・動きの構造	運動の形態、種類、原理、局面構造の理解
4	運動発達	発達段階における動きの特徴の理解
5	運動における主観と客観	主観的運動感覚と客観的とらえ方
6	量的評価と質的評価	定量化と定性化
7	運動の評価	モルフォロジーとバイオメカニクスによる評価を知る
8	評価から運動技術指導へ	モルフォロジー、バイオメカニクスの評価に基づく運動指導 走運動、投運動における運動評価と運動指導
9	歩行の運動学	歩行動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた走動作の運動学的観察
10	走動作の運動学	走動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた走動作の運動学的観察
11	跳動作の運動学	跳動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた跳動作の運動学的観察
12	打動作・衝突動作の運動学	打動作の運動学的基礎を学ぶ
13	泳動作の運動学	泳動作の運動学的基礎を学ぶ
14	スポーツ外傷・障害発生の運動学	スポーツ競技動作と外傷・障害の関係を知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配付。他、必要に応じ授業中に適宜指示する。

【参考書】

「スポーツバイオメカニクス」深代千之他編著 朝倉書店

「バイオメカニクス」金子公有編 杏林書院

「コーチングの科学」福永哲夫著 朝倉出版

【成績評価の方法と基準】

試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

具体例の提示を出来るだけ多くとり、理解を助ける。

web 情報・動画も用いた視覚的モダリティを用いる。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって若干の変更があり得る

【Outline and objectives】

To learning the basics of evaluation for sports movement and exercise.
To understand the structure and mechanism of physical movement (functional anatomy). To learning from a biomechanical point of view the structure of the physical movement, the actions of the sports movement.

PSY100IA

スポーツ心理学A

立谷 泰久

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／2 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにおける「こころ」の重要性について学ぶ。「競技スポーツ」を行う場合、「健康スポーツ」を行う場合、そして「指導者」という立場になった場合など、様々なスポーツ場面における「こころ」のあり方やその理論、そして心理的諸問題の予防法・対処法について学習する。つまり、スポーツ心理学とは、実践的に役に立つ学問であるということを理解する。本講義で学んだことは、現役のアスリートとして、指導者として、またスポーツ科学・健康科学を活かした職業に従事する者として、さらには一人の人間として役に立つものである。

【到達目標】

本講義を終了した時点で、スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ関連の従事者となった時に、専門的知見から基礎的説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行うが、簡単な心理検査や実技等も行い、様々なものを学習・体験する。また、学生の意見や質問にも耳を傾け、「一方通行」の講義にならないように配慮する（リアクションペーパー等の活用）。これらを通して、スポーツ心理学の知識を得るだけでなく、「考える」ということについても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（ガイダンス含む）	「スポーツ心理学とは？－その意義と役割－」、スポーツ心理学の歴史（体育心理学を含む）等を学ぶ。
2	メンタルトレーニングの基礎	「メンタルトレーニングとは何か」等、メンタルトレーニングの基本的なことを理解し、競技場面で起こる心理的な問題・課題を、自らの経験から理解していく。
3	メンタルトレーニングの応用	具体的なメンタルトレーニング技法（「目標設定」「リラクセス法」「イメージトレーニング」等）をどのように使うのかを学ぶ。競技現場で役に立つ様々な気持ちの切り替え法について実技を行いながら学ぶ。またトップアスリートへの実践例なども紹介し、理解を深める。自らの競技生活に応用し、さらに指導できるようになることを目指す。
4	スポーツと性格	性格の形成について理解し、スポーツと性格特性との関係について学ぶ。スポーツと性格特性の関係、そして動機づけについて解説する。また、心理検査を用いて自分自身の心理的特性を知る。
5	競技心理の諸問題	競技場面で起こる心理的問題や課題とパフォーマンスとの関係について理解する。競技場面で起こる心理的問題や課題とパフォーマンスとの関係、あがりやスランプ、プラトーなどについても解説する。
6	スポーツ技能の心理的基礎	認知、運動・技術学習の理論的基礎を、スポーツ場面に即して理解する。認知、運動・技術学習の理論的基礎をスポーツ場面に応用して教示し、指導場面で役に立つものを学ぶ。
7	スポーツチームの心理	チームの構造と機能、集団、リーダーシップなどについて学ぶ。チームの構造と機能、集団、リーダーシップ、フォロワーシップなどがチームや集団に及ぼす影響などを解説する。

8	対人魅力の心理-人間関係と指導効果-	魅力とは？ 対人魅力とは？ それに関わる心理とは？ など学ぶ。それに伴う人間関係と指導効果の関係や理想の指導者像などについて解説する。
9	健康スポーツ心理学	健康スポーツ場面における心理学の応用、そして運動が心に及ぼす影響・効果について学ぶ。健康スポーツ心理学とは？ 運動が心理面に及ぼす影響の実験データ、実践例を見ながら解説する。
10	ストレスマネジメントの理論と実技	「ストレスやストレスマネジメントとは何か？」とその対処法や予防法を学ぶ。それらをどのように教育現場、指導現場で行うのかを学び、ストレスへの対処法と予防法を指導できるようになることを目指す。また「ライフスキル教育」についても解説する。
11	コミュニケーションについて	コミュニケーションとは何か？ 人間関係に及ぼす影響を学ぶ。コミュニケーションの重要性、そして「伝える技術」と「聴く技術」を学び、それが日常の人間関係やスポーツ場面に及ぼす影響を学ぶ。
12	スポーツカウンセリングについて	「スポーツカウンセリングとは何か？」、カウンセリングの効果などを理解する。スポーツに関わる人達が抱える問題や課題、悩みなどを解決する手助けとしての有効なカウンセリングに関わる方法・手法を広く学んでいく。
13	スポーツ・運動行動変容の理論と実際	スポーツや運動を継続的に行うことにより、アスリートや一般の人たちが、どのように行動が変わり、そして自らの目標達成に近づいていくのかを理解していく。アスリートや一般の人たちの具体的な例を示しながら、行動変容の基本的な理論を理解し、その実際について学ぶ。
14	講義内容の総まとめ	これまでの総復習をし、スポーツ心理学の理解を深め、役に立つ学問ということを再認識する。授業で行ったことを復習し、ディスカッション形式でいろいろな意見の交換を行い、そして「考える」ということを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配ったプリントを主として復習する。また参考書等を用いて、更に知識を得る。

【テキスト（教科書）】

各回、プリントを配布する。

【参考書】

・『はじめて学ぶスポーツ心理学 12 講』（福村出版）、編著：楠本恭久）
・『現場で生きるスポーツ心理学』（杏林書院、編：石井源信／楠本恭久／阿江美恵子）
・『よくわかるスポーツ心理学』（ミネルヴァ書房、中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著）

【成績評価の方法と基準】

（1）配分

出席点： 40 % とする。また、出席カード（表）には毎回の講義の感想や意見を書き、その理解度も評価に入れる。

期末試験： 50 % とする。

その他：（10 %）として、授業態度なども考慮に入れ、総合的に評価する。

（2）評価基準

（1）配分を元に、総合的に判断・判定する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等から得た、学生からの意見から気づいたことを次年度に活かすようにしている。

【その他の重要事項】

授業の展開によっては、若干の変更があり得る。また、スポーツ心理学に関する近年の研究やトピックについても随時提示する。

【Outline and objectives】

This lecture is “Sport Psychology A”.

You learn the importance of “mind” in sport. In the “competitive sports”, “health sport” and “coaches” position, the prevention of “mind” in various sports scenes, its theory, prevention and psychological problems learn about preventing and coping method.

In other words, the understanding of “Sport psychology” is a practical and useful academic discipline for attendees.

What you learned in this lecture is useful as an active athlete, a leader and a human engaged in a professional making use of sport sciences and health sciences, and even as a human.

SOC100IA

スポーツ史

山本 浩

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞のテレビ番組案内にスポーツの多さが目立つ時代になった。2020 年大会が近づいていることもあるが、先を見越した強化に手をつけたスポーツ界が早めのスパートをかけたからと見えなくもない。そのせいか若い選手がスマホやタブレットでも毎日のように主役を張っている。しかし、少しばかり古い資料に目を転じてみれば、今から 90 年近く前にも日本の水泳選手が 15 歳になる前にオリンピック金メダルを取った記録が残されているのを知る。50 年前には石炭炭のトラックを走る人がいたし 100 年前には川をプールに見立てて世界一を競っていた。スポーツは、いったいどこからやってきたのか。その起源から今日までをたどることでスポーツの変容を知り、スポーツ史を概観することで私たち自身と社会の変化を見つめ直すのを目的とする。

【到達目標】

スポーツの起源を暦の中に指し示すことは不可能に近い。私たちにできるのはせいぜい、スポーツの持つ要素を見いだせるアクションや痕跡が、古くはどこまでたどれるかを指摘することだ。今に連なるのは、勝負の基本原則。強い者が勝ち、速い者が栄冠を授け、優れた戦術を身につけた集団が褒めそやされる。数千年の歴史の中で何が大切にされ続け、何が変わらずにいらなかったのか。スポーツの歴史を追えば、節目節目で影響を与えてきたさまざまな要件に目をとめずにはいられない。地理、気象、宗教、戦争、産業構造、金、メディア。社会の変化がスポーツを育て、そこにかかわる人や組織がスポーツを加速させてきた歴史を自分のものとできるかどうか。2020 年の向こう側につながるスポーツ世界観をスポーツ史の受講で身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

「スポーツ史」は、編年体の講義ベースで進める。受動的な時間にばかりしないため、受講生の積極的な発言の機会を設定する。その上で毎回、当日の講義に関連づけた設問をリアクションペーパーに示す小論文の形で課する。自らの持つ世界観、歴史観を、スポーツ史の中につける習慣を付けてもらいたい。世界の歴史や日々の出来事にも深い関心を持つことがスポーツ史の理解を促進してくれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	[全体ガイダンス]	講義の進め方を伝え、受講のために求められる姿勢や世界観を提示する。この段階では、様々な研究者の示したスポーツの定義に始まって遊びや祭りとスポーツの違いを認識してもらう。
2	[スポーツの萌芽と古代オリンピック]	文明の発生した地域での古代スポーツから古代オリンピックまで。スポーツ史の輝かしい幕開けは、古代オリンピックに集約される。
3	[戦いの世界と中世のスポーツ]	古代オリンピックが途絶えてから、欧州は宗教と戦争の時代に入ります。その中で、王家や貴族に支えられたスポーツの流れ。やがて裕福な市民にまで及ぶ中世の状況をたどる。
4	[近世のスポーツ]	ルネッサンスを超えて産業革命の時代へ。この流れがスポーツに与えた影響には計り知れないものがある。人口増加、交通手段の発達、大量の情報伝達。さまざまな社会の変化が、スポーツを急激なスピードで広めていく力になった。
5	[フットボールの歴史]	歴史的には、「フットボール」イコール「サッカー」ではない。ボールを蹴るスポーツの中で 19 世紀にいち早くルールを統一したのがサッカー。そうした動きに対して、ラグビーは新たな動きを始める。
6	[近代オリンピック（1）～戦前編～]	第 1 回近代オリンピックはギリシャで開催された。理想に燃えたクーベルタンと、現実の大会運営にはしばしギャップがあったとされる。世界がオリンピックをいかに受け入れていったかを見る。

7	[近代オリンピック（2）～戦中から戦後へ～]	第二次世界大戦後のオリンピックは、世界のスポーツ界をリードする形で回を重ねてきた。中でも 64 年の東京大会が私たちに残した遺産は大きい。東京を中心に、オリンピック隆盛の時代を丹念に振り返る。
8	[現代のオリンピック]	現代のオリンピックは、その変化の始まりを 84 年のロサンゼルスに見る人が少なくない。商業化といわれた大会から今日まで、オリンピックの変わり様を縦覧する。競技力向上策、その過程で生まれたドーピングにも目を向ける。
9	[陸上/水泳競技の歴史]	身体を動かし始めたときに最初に競うアクションは、何をしておいてもまず走るところにある。水泳の国民たる私たちに水泳もまた身近な行動であった。陸上競技と水泳競技に個人スポーツの歴史をたどる。
10	[野球の歴史]	アメリカから学んだ野球は、近代日本のスポーツシーンを支える重要な競技として受け継がれてきた。学生からプロ、そしてメジャーリーグ。学校を舞台にした野球の歴史は、スポーツ教育史とも重なっている。
11	[相撲・武道の歴史]	日本書紀の時代に起源を見る相撲は、今に残る文化遺産のひとつだ。日本起源のスポーツには武道もある。学校体育の中にも取り入れられた武道の歴史と合わせて考える。
12	[学校体育の歴史]	限られた者たちのスポーツから国民の体育へ。20 世紀が近づくにつれ、私たちの身体作りは大きな変化を迎えた。戦争の時代を経ながら体育史は大きなうねりを見せる。
13	[障がい者スポーツの歴史]	障害者スポーツの最大の祭典は今、4 年に一度のパラリンピックに集約される。その最初の一步は、イギリスのストーク・マンデビル病院にある。第二次世界大戦で脊髄を損傷した患者を集めて行ったスポーツ大会にある。紆余曲折を経ながら次第に存在感を増す障害者スポーツの流れを追う。
14	総括および論文（講義内試験）	スポーツ史観を総括し、講義内のテスト/論文で答える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツの歴史だけではなく、その背景を彩る社会の歴史にも興味を持つこと。現代は、政治家が盛んにスポーツを論じる時代でもある。とりもなおさず、投票権を持つ人たちがスポーツに関心を持つ社会であるからだ。現代的なスポーツ史は、政治史、経済史、社会史を総合している。理解を深めるためには、スポーツの周りの世界に広く視野を取ってみよう。自分で打ち込むスポーツがある者は、VAR をはじめとする映像ベースの判定行動がスポーツの歴史に何をもたらすか想像を巡らすのも面白いはずだ。

【テキスト（教科書）】

なし（必要があれば資料は別途用意する）。

【参考書】

「21 世紀スポーツ大事典」中村敏雄編集主幹 大修館書店
「スポーツ史講義」稲垣正浩著 大修館書店
「体育・スポーツ史概論」木村吉次著 市村出版
スポーツ史、世界史、日本史などとともに、歴史に関わる地図を参考書として用意しておくとう理解の促進を助けてくれる。

【成績評価の方法と基準】

配分：講義中に、指定する時間内で小論文を書いてもらう。毎回の小論文は成績評価の対象。1 回最高点 3 点。13 回のすべて満点を取れば、39 点。最終講義の時間内に行う試験 70 点。すべてフルに獲得すれば 109 点となり、明らかに最高レベルの評価で単位を取得できる。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・広い史観、具体事例をもっているかどうかなど。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使うスライドを授業支援システムにアップする。講義中のスライド変換を少し時間をかけるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

講義では、パワーポイント、DVD、映像資料などを使う。基本的に学生が準備する機器はない。

【その他の重要事項】

放送局でスポーツに関わる解説委員をしていた教員が、長年の取材を通じて獲得した近現代史の現実を講義する。最終講義日の授業内試験には必ず出席すること。学校を代表しての行事参加、病欠、忌引きに対しては、講義内小論文に代わる追加のレポート課題を期末に与える（規定の書類/体育会書類、会葬礼状、医療機関の日付の入った領収書コピーなどを提出のこと）。自分の都合での欠席は、レポート課題の対象にならない。

【Outline and objectives】

We find conspicuous amount of disciplines these days in a TV program information. Under ordinary circumstances, we often recognize young athletes playing a leading role on smartphone and tablet. It could owe to the early strengthen program for the young talents, that entire sporting associations adopted earlier. Once you search for some articles in 1932, you might easily find out, that a Japanese 15-year-old swimmer got also an olympic gold medal. Around 50 years ago, an athlete ran on a truck with the coal shells, 100 years ago a swimmer crawled in a river instead of a pool. Where did sports come from? We would aim to reconsider about sports and by tracing from its origin up to today, the sports history could appear above our horizon.

ECN100IA

スポーツビジネス論 I

井上 尊寛

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】

本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツ産業の発展とスポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、文化の産業化
2	スポーツマーケティングの考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケットセグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーションシップマーケティング
4	マーケティング戦略の考え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産業のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満足
6	スポーツ・イベントのマネジメント 1	J リーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントのマネジメント 2	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントのマネジメント 3	ブランディング
9	スポーツ・イベントのマネジメント 4	フランチャイズ、リーグマネジメント、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題 1	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題 2	スポーツブランドのコーポレートブランドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題 3	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成 (1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤真・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017 年

【参考書】

特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%) および授業内レポートの評価 (40%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the fundamental elements of the sport management. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices of the sport management.

HSS100IA

スポーツコーチング論 A

平野 裕一

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」であることを常に意識して行われるものである。これを実践するためには、まずコーチングを形づくる中心にある自分自身の考え方と、コーチング対象者や社会との良好な関係を築くために必要な人間としての態度や行動が求められる。これら考え方と態度や行動を学ぶ。その上にコーチングを実践する上で必要となるスポーツ科学の知識や技能はある。

【到達目標】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングを実践していくために、
・コーチングに対する考え方
・自分やコーチング対象者に対する態度や行動がどうあるべきかを理解する。
一方、コーチング実践を通して理解した内容を実践に活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半の時間にはグループでコーチングを実践する。そこではコーチ役を決め、そのコーチがスキル学習課題と習得のための3回分のドリルを考案し、屋外でコーチングをする。3回実践したらコーチ役をローテーションする。後半の時間にはコーチング実践を振り返った後、その日のテーマについて講義形式で学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義のガイダンスと実習の進め方	モデルコアカリキュラムとの関連性 実習におけるコーチ役の使命と職務
2	コーチの学び	学びの生じるプロセス コーチングにおける省察 学びの場
3	スポーツの意義と価値	文化的特性、スポーツ精神、基本法と基本計画
4	コーチの役割と使命	国際的なコーチの職務とコンピテンス
5	コーチの倫理観・規範意識	プレーヤーズファースト、アンチドーピング
6	コーチに求められる資質能力	プレーヤーとともに学び続ける
7	コーチングとは？	効果的な学び、実践力を身につける方法
8	コーチに求められる多様な思考法	論理的、分析的、創造的、批判的な思考
9	コーチのセルフコントロール	メンタル、アンガー、タイムマネージメント
10	コーチのキャリア・デザイン	目標設定、自分の生活、ワークライフバランス
11	コミュニケーション	観察、傾聴、承認、質問、プレゼン、ファシリテーション
12	人的環境の構築	チームビルディング、協力・協調・協働、アントラージュ
13	プレーヤーのキャリア・デザイン	目標設定、デュアルキャリア
14	総括	コーチングの今後に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コーチング実践におけるスキル課題とそれを習得するための3回分のドリルを考案する。

【テキスト（教科書）】

コーチングの心得（仮題）培風館（近日常）

【参考書】

「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、G a k k e n「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】

・コーチング実践における自身の振り返りと受講者からの評価（3点 × 12回 = 36点）
・講義に関する期末テスト（64点）
で総合100点とする。

【学生の意見等からの気づき】

ローテーションするグループ分けが明確に伝わるようにする。
コーチングに用いる用具を十分に手配する。
雨天時の対応を明確にする。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料を使うことがある。
運動ができる服装
コーチング実践で使う用具

【Outline and objectives】

The purposes of this class are to learn the philosophy, attitude and action on the sport coaching, and to practice coaching skill on the court. The contents of classroom lecture are referred to 'the model core curriculum' created by JSPO in 2016. In practice, sport skill drills designed by the student coach are implemented to the student athletes.

HSS200IA

運動生理学概論

江川 賢一

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

旧うか科目名：運動生理学概論

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動生理学は、競技者のトレーニング、あるいは健康運動の指導などの現場において、欠かすことのできない重要な基礎学問である。本講義では、ヒトのからだの構造や働きについて学んだ機能解剖学と生理学をふまえた上で、運動している時、運動をした後、あるいは運動を継続した時に、からだにどのような影響や効果がもたらされるかを知り、からだの一時的あるいは適応的变化のメカニズムを理解することを目的とする。

【到達目標】

- ・運動による身体の機能変化について理解する。
- ・運動・トレーニングによる生理学的な機能や効果、その意義について系統立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義。

授業支援システムに、授業で使用する配布資料と予習シートがアップロードされているので、遅くとも前日までに、これらをダウンロードして予習シートに解答を記入し、配布資料とともに授業へ持参して受講する。授業の最後に当日の内容を復習する内容の課題を出題するのでリアクションペーパーに記述して提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	体力の概念 神経系	体力を定義し、その測定方法を学習する。
2	エネルギー産生	中枢神経と身体運動の関係を確認する。
3	筋の構造と分類	筋のエネルギー供給機構を分類し、運動への関与を結びつけて学習する。
4	筋収縮と運動	骨格筋の構造を確認し、筋のエネルギー供給機構を分類する。
5	呼吸器と運動	骨格筋の収縮と弛緩の仕組みを学習し、筋の収縮様式を分類する。
6	心臓と運動	呼吸運動の仕組みを理解し、呼吸運動の調節を学習する。
7	循環器系と運動	心臓の構造と心筋の収縮を理解し、心拍数の調節や血液の酸素運搬について学習する。
8	環境と運動	循環の原理を心臓、血管の働きから理解しし、循環調節について学習する。
9	体の大きさ	環境が運動に与える影響を学習し、高所トレーニングや水中運動について理解する。
10	体力の測定	体型・体型指数、身体組成について理解し、形態計測の手順を学習する。
11	トレーニングとは	筋力測定、パワー測定、敏捷性の測定の方法と手順を学習する。基礎および安静時代謝に基準を置く強度、最大下水準に基準を置く強度、最大水準に基準を置く強度について学習する。
12	トレーニング(筋力・筋量)	トレーニングの三つの原理と五つの原則について理解し、運動方法（様式）、強度、時間、頻度、期間によって記述できること、運動方法（様式）と効果の特異性について学習する。
13	トレーニング(筋パワー・筋持久力)	筋肥大にかかわるメカニカルストレスや代謝的ストレスについて理解し、筋活動様式の違いによるレジスタンストレーニングの分類について学習する。

14 トレーニング(全身持久力) 有酸素性運動の効果にかかわる生理学的メカニズムについて学習し、有酸素運動の負荷条件と生理的效果について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。

・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。

【テキスト（教科書）】

「運動とスポーツの生理学 改訂第 3 版」（北川薫著，市村出版，2014 年）

【参考書】

「運動生理学 エネルギー・栄養・ヒューマンパフォーマンス」（田口貞善他訳，杏林書院，1992 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (95%)：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験（マークシート（2 点 ×30 問）と論述（10 点 ×4 問））。

提出物 (5%)：期限内に提出された課題等の評価。

【学生の意見等からの気づき】

一方的に説明を続けるだけの授業にならないように注意する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本講義で扱う内容は、スポーツ健康学部に入學したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておくべき内容である。

本講義は、機能解剖学と生理学を学習していることを前提として授業を進める。分かりにくいことがあれば、解剖学や生理学のテキストを見直してほしい。各自の関心領域の授業外学習を通じて基礎知識を習得することと、講義での主体的な学びを通じてスポーツ健康学の基盤を固めてほしい。

担当講師は研究機関で運動生理学研究に従事した経験を活かして、体力増進、介護予防や健康づくりについて教授する。

学習進度に応じてスケジュールを変更する場合もある。

【Outline and objectives】

Exercise physiology is fundamental discipline that evaluate acute responses and chronic adaptations of the body to exercise. This introductory course requires the student to have prior competency in human biology. This course focuses on how the human body and its systems responds to the differing types, intensities, duration, and frequency of exercise.

HSS200IA

スポーツリスクマネジメント

木下 訓光

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じる身体の変異や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】

学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しう事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破滅的外傷、熱中症、感染症などの予防対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
- ③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
- ④ 各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ⑤ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
- ⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	「なぜ事故が起きるのか」 ースポーツ現場における ヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
2	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
3	スポーツと突然死（1）： 若年アスリート編	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。
4	スポーツと突然死（2）： 中高年編	中高年者の運動中の突然死について講義する。
5	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastrophic injury）、すなわち致命的頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。
6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。

8	「なぜスポーツしてはいけないのか？」ー競技スポーツ参加の可否判断	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。また寒冷、落雷などにともなう対策について学ぶ。
9	環境とスポーツ	
10	BLS (basic life support; 一次救命処置) & AED (自動体外式除細動器)	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外の人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	スポーツにおける感染症管理	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。
14	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 各回のテーマに沿った課題を授業内、あるいは授業支援システムを利用して適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
- ④ 下記【参考書】 蘭に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

- 第 1 回：『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）、（特に第 1 章～第 6 章）
小笠原正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）
※資料室収蔵
- 第 2 回：『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵
- 第 3 回および第 4 回：『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009 年 26 巻 11 号、（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
- 第 5 回：『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013 年改訂版）
『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015 年第 4 版）
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。
『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）※資料室収蔵
- 第 6 回：『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）
※資料室収蔵
『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）※資料室収蔵
『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか、スポーツ頭部外傷：“頭部外傷 10 か条の提言”から考える』（2016 年 33 巻 7 号）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
- 第 7 回：『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェッカー心臓突然死を未然に防ぐためにー
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェッカーその有用性と限界ー、p153-162.）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
- 第 8 回：木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題。1999 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.
(http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/99kiyo-kinoshita.pdf)
- 第 9 回：『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）

『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）

※以上、すべて資料室収蔵

『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本体育協会）

『夏のトレーニングガイドブック』（日本体育協会）

（いずれも <http://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid/776/Default.aspx#guide01> より閲覧可能）

『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会）

『雷対応マニュアル』（Jリーグ）

第10回：高木 修、『人を助ける心』（1998年、サイエンス社）、（特に第1章、第2章、第4章）

木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号（特に「BLSとAED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第11回：木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－、（1998年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/98kiyo-kinoshita.pdf）

木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害、臨床スポーツ医学、2014;31(9):858-867.

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第12回：『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学、<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html>）

『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省、2013）（http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm）

『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』

（<https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947>）

第13回：該当資料無し

第14回：日本アンチ・ドーピング機構 website (<http://www.playtruejapan.org/>)、ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。

その他に下記の書籍などを追加的に参考にしてもよい。

・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies"(Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵

・小笠原正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）※資料室収蔵

・入澤 充、『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は検討できるだけの十分な回答数が得られていない。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise and sports.

HSS2001A

スポーツマネジメント論

川崎 登志喜

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2年次／2単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメントの基礎理論を理解する。さらに、様々な領域で実践されているスポーツマネジメントの事例から課題を見つけ、課題解決のためにどのようなマネジメントが必要なのか指摘できる力を養うことを目標とする。

【到達目標】

①マネジメントは様々な場面で活用できる技術であることを理解できる。

②受講生が所属している様々な組織においてマネジメント能力を発揮できるための基礎的知識を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

豊かなスポーツ環境や健康スポーツライフの実現を目指すスポーツに関わる人々にとって「スポーツ」という商品をどのようにマネジメントすればよいのか？重要な課題である。まさに「マネジメント」は現在、様々な領域（学校・地域・職場・民間・プロスポーツなど）や事業現場で注目されている。本講義では、スポーツマネジメントの基礎理論を学ぶとともに、様々な事例を通して課題を研究しながら実学としてのスポーツマネジメントを学習していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	スポーツマネジメントとは	概念と目的について
2	スポーツマネジメントの構造	しくみと構造の把握
3	マネジメントサイクル	経営過程と経営機能について
4	スポーツマーケティング	マーケティングの基礎とスポーツマーケティングの事例
5	学校体育経営	学校体育のマネジメント
6	総合型地域スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブのマネジメント（広域スポーツセンターの機能と役割）
7	スポーツ集団	様々なスポーツ集団のマネジメント（メンバーの活動意欲をどう高めるか）
8	プロスポーツ（海外）	アメリカを中心に海外のプロスポーツビジネスについて
9	プロスポーツ（日本）	プロ野球・Jリーグをはじめとする我が国のプロスポーツビジネスについて
10	NCAA と UNIVAS	NCAA と UNIVAS のマネジメントについて
11	スポーツイベント	スポーツイベントのマネジメント
12	民間スポーツ・フィットネスクラブ	民間スポーツクラブ・フィットネスクラブのマネジメント
13	国と地方のスポーツ行政	国と地域におけるスポーツ行政（我が国のスポーツ振興施策とビジョン）
14	試験とまとめ	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回 特になし。

第2～13回 前回授業の課題への取り組みと復習。

【テキスト（教科書）】

毎時間、資料を配付する。

【参考書】

柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編著「よくわかるスポーツマネジメント」ミネルヴァ書房

柳沢和雄・木村和彦・清水紀宏編著「テキスト体育・スポーツマネジメント」大修館書店

【成績評価の方法と基準】

試験 60% 授業参加姿勢 20%

（但し、総授業数の 2/3 以上に出席しなければ単位は認定されない。）

レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

スポーツニュースの課題は好評につき今年度も実施します。

発行日：2019/5/1

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to understand the basic theory of sports management.

We find management tasks from various sports management cases.

We will cultivate the ability to point out what kind of management is necessary to solve this management task.

HSS100IA

スポーツ実習入門

永木 耕介

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店

文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）

文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS100IA

スポーツ実習入門

永木 耕介

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店

文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）

文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS100IA

スポーツ実習入門

永木 耕介

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店

文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）

文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS100IA

スポーツ実習入門

永木 耕介

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店

文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）

文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS100IA

スポーツ実習入門

永木 耕介

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店

文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）

文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS100IA

スポーツ実習入門

永木 耕介

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店

文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）

文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS100IA

スポーツ実習入門

永木 耕介

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店

文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）

文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS100IA

スポーツ実習入門

永木 耕介

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店

文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）

文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS200IA

陸上競技実習

苅部 俊二

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。

長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーバーテストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
第 2 回	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
第 3 回	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
第 4 回	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、遠くに跳躍するための技術を習得する。
第 5 回	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
第 6 回	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、遠くに投てきするための技術を習得する。
第 7 回	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
第 8 回	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
第 9 回	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
第 10 回	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
第 11 回	12 分間走（クーバーテスト）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーバーテスト（12 分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
第 12 回	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
第 13 回	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
第 14 回	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に指定しない。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

陸上競技指導教本アンダー 16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編 財）日本陸上競技連盟編 大修館書店
 陸上競技指導教本アンダー 16・19 レベルアップの陸上競技 上級編 財）日本陸上競技連盟編 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】

These practice sessions introduce the elementary techniques of track-and-field and students will master coaching methods.

HSS200IA

ラケットスポーツ実習

升 佑二郎

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

旧うか科目名：総合スポーツ実習 A [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してこれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術論を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、ノック技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる技術能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	基本技術	グリップと技術習得
2	基本技術	ラケットテクニックの技術習得
3	基本ストローク	ドライブ
4	基本ストローク	ハイクリア&ヘアピン
5	基本ストローク	ドロップ&ロビング
6	基本ストローク	プッシュ&レシーブ
7	基本ストローク	スマッシュ&レシーブ
8	基本技術 応用編	オールロング
9	基本技術 応用編	オールショート
10	シングルス	フットワーク
11	シングルス	ゲーム組立
12	ダブルス	フォーメーション
13	ダブルス	組立
14	実技試験とまとめ	試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業の復習

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017 年

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40%）、授業への参加度（20%）、技術習得および指導法の実技試験（40%）により評価する

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

【その他の重要事項】

秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会上級バドミントンコーチの資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】

Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton, and become able to teach this sport.

HSS200IA

ラケットスポーツ実習

植村 直己

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

旧うか科目名：総合スポーツ実習 A [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、履修者が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。

また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】

履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。

- ① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
- ② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
- ③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サーブの基本動作を学び、応用技術として各ショットの連続プレーを練習する。
- ② 段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
- ③ 応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。
- ④ 将来、初心者、初級者を指導するための、テニスの楽しさを伝えられる様な指導法を自分なりに構築できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本 6 ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク（両手打ち・片手打ち）	グリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グラウンドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	スマッシュ、サーブの指導法	スマッシュ、サーブ段階的指導法の実践
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	ダブルス指導法	試合の進め方、スコアの数え方、試合形式
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。

実技の前日は体調を整えるように心がける。

毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。

テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界について学習する。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】

「新版テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「テニスクラシック」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】

本授業は講義、実技併用型の授業であるため、授業への参画姿勢等の平常点（70 %）ならびに授業内容の理解度、実技の上達度（30 %）を対象として総合的に評価する。

この評価は原則的なものであり、健康状態等による見学者については個別に対応、評価する。

なお、遅刻 3 回は 1 回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが臨ましい。

【Outline and objectives】

In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for beginners.

In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes, etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS300IA

スイミング実習

八塚 明憲

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかねばならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるようになる泳法指導を学ぶ。
試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で 50m 完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足（呼吸付き）/コンビ（呼吸付き）スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック（背泳ぎ足）/コンビ（手を回す・呼吸付）スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック（平泳ぎ）/ビート板使用（平泳ぎ足）を学ぶ。
9	実技・平泳ぎ②	壁キック（平泳ぎ）/ビート板使用（平泳ぎ足）/ビート板不使用（平泳ぎ足）/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック（バタフライ）/ビート板使用（バタフライ足）を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用（バタフライ足）/片手バタフライ/ビート板不使用バタフライコンビ（無呼吸）
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ 2 種目で（25m+25m）50m 完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方
20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行う。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

【Outline and objectives】

Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing. Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches. Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS300IA

スイミング実習

金田 和也

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3 年次／1 単
位
曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかねばならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるようになる泳法指導を学ぶ。
試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で 50m 完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足（呼吸付き）/コンビ（呼吸付き）スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック（背泳ぎ足）/コンビ（手を回す・呼吸付）スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック（平泳ぎ）/ビート板使用（平泳ぎ足）を学ぶ。
9	実技・平泳ぎ②	壁キック（平泳ぎ）/ビート板使用（平泳ぎ足）/ビート板不使用（平泳ぎ足）/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック（バタフライ）/ビート板使用（バタフライ足）を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用（バタフライ足）/片手バタフライ/ビート板不使用バタフライコンビ（無呼吸）
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ 2 種目で（25m+25m）50m 完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方
20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行う。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

【Outline and objectives】

Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing. Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches. Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS300IA

スイミング実習

八塚 明憲

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3 年次／1 単
位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかねばならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるようになる泳法指導を学ぶ。
試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で 50m 完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足（呼吸付き）/コンビ（呼吸付き）スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック（背泳ぎ足）/コンビ（手を回す・呼吸付）スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック（平泳ぎ）/ビート板使用（平泳ぎ足）を学ぶ。
9	実技・平泳ぎ②	壁キック（平泳ぎ）/ビート板使用（平泳ぎ足）/ビート板不使用（平泳ぎ足）/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック（バタフライ）/ビート板使用（バタフライ足）を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用（バタフライ足）/片手バタフライ/ビート板不使用バタフライコンビ（無呼吸）
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ 2 種目で（25m+25m）50m 完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方
20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行う。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

【Outline and objectives】

Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing. Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches. Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS300IA

スイミング実習

金田 和也

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3 年次／1 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかねばならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるようになる泳法指導を学ぶ。
試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で 50m 完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足（呼吸付き）/コンビ（呼吸付き）スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック（背泳ぎ足）/コンビ（手を回す・呼吸付）スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック（平泳ぎ）/ビート板使用（平泳ぎ足）を学ぶ。
9	実技・平泳ぎ②	壁キック（平泳ぎ）/ビート板使用（平泳ぎ足）/ビート板不使用（平泳ぎ足）/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック（バタフライ）/ビート板使用（バタフライ足）を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用（バタフライ足）/片手バタフライ/ビート板不使用バタフライコンビ（無呼吸）
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ 2 種目で（25m+25m）50m 完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方
20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行う。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

【Outline and objectives】

Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing. Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches. Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS300IA

スイミング実習

八塚 明憲

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3 年次／ 1 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかねばならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるようになる泳法指導を学ぶ。
試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で 50m 完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足 (呼吸付き)/コンビ (呼吸付き) スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック (背泳ぎ足)/コンビ (手を回す・呼吸付) スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック (平泳ぎ)/ビート板使用 (平泳ぎ足) を学ぶ。
9	実技・平泳ぎ②	壁キック (平泳ぎ)/ビート板使用 (平泳ぎ足)/ビート板不使用 (平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック (バタフライ)/ビート板使用 (バタフライ足) を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用 (バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ (無呼吸)
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ 2 種目で (25m+25m)50m 完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方
20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には充分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行う。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

【Outline and objectives】

Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing. Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches. Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS300IA

スイミング実習

金田 和也

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3 年次／ 1 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかねばならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるようになる泳法指導を学ぶ。
試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で 50m 完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足 (呼吸付き)/コンビ (呼吸付き) スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック (背泳ぎ足)/コンビ (手を回す・呼吸付) スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック (平泳ぎ)/ビート板使用 (平泳ぎ足) を学ぶ。
9	実技・平泳ぎ②	壁キック (平泳ぎ)/ビート板使用 (平泳ぎ足)/ビート板不使用 (平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック (バタフライ)/ビート板使用 (バタフライ足) を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用 (バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ (無呼吸)
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ 2 種目で (25m+25m)50m 完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方
20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には充分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行う。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

【Outline and objectives】

Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing. Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches. Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS300IA

スイミング実習

八塚 明憲

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3 年次／ 1 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかねばならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるようになる泳法指導を学ぶ。
試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で 50m 完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足 (呼吸付き)/コンビ (呼吸付き) スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック (背泳ぎ足)/コンビ (手を回す・呼吸付) スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック (平泳ぎ)/ビート板使用 (平泳ぎ足) を学ぶ。
9	実技・平泳ぎ②	壁キック (平泳ぎ)/ビート板使用 (平泳ぎ足)/ビート板不使用 (平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック (バタフライ)/ビート板使用 (バタフライ足) を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用 (バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ (無呼吸)
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ 2 種目で (25m+25m)50m 完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方
20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には充分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行う。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

【Outline and objectives】

Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing. Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches. Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS300IA

スイミング実習

金田 和也

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3 年次／ 1 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかねばならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるようになる泳法指導を学ぶ。
試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で 50m 完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足 (呼吸付き)/コンビ (呼吸付き) スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック (背泳ぎ足)/コンビ (手を回す・呼吸付) スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック (平泳ぎ)/ビート板使用 (平泳ぎ足) を学ぶ。
9	実技・平泳ぎ②	壁キック (平泳ぎ)/ビート板使用 (平泳ぎ足)/ビート板不使用 (平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック (バタフライ)/ビート板使用 (バタフライ足) を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用 (バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ (無呼吸)
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ 2 種目で (25m+25m)50m 完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方
20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には充分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行う。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

【Outline and objectives】

Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing. Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches. Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS300IA

ボールスポーツ実習

川田 尚弘

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

旧うか科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

チームスポーツの特性を生かしながら他者とのコミュニケーションを図り、技術・戦術を取得してゲームの進め方を理解出来るよう、実習及び講義で実践する。

【到達目標】

- ①サッカーのルールを理解し、正しい技術を身に着ける。
- ②チームスポーツの特性を生かし、他者とのコミュニケーションや協調性を図る。
- ③基本戦術を習得をし、ベースになる技術（キック・トラップ・ドリブル・ヘディング）を用いたフルコートのゲーム出来るようにする。
- ④コミュニケーション能力に磨きをかけ、仲間との一体感を醸成する能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

サッカーは相手とのコンタクトプレーが頻繁に起こる競技で、ダイナミックな面とボールを的確にコントロールするための技術や身体のリズムが求められるスポーツである。また、個人がボールを保持している時間が短く、見方をサポートするタイミングを求められ、コミュニケーションのスポーツでもある。そのための基本技術はもちろん基本戦術でもあるコーチング能力を高め、目的であるゴールを奪う喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習においては基本技術（キック・トラップ・ドリブル・ヘディング）を用いた試合が出来るようにスモールフィールドのゲームからフルコートのゲームを体験する。

同時にルールや試合の組み立て方などの理解を深めていく。
失敗を恐れず積極的にチャレンジする学生の参加を望む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	ガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、態度とルールについて（講義）	サッカーのルールとプレーヤーとしての態度について資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パス&トラップの技術習得（実習&講義）	パスとトラップの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・ドリブルの技術習得（実習&講義）	ドリブルの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・ヘディングの技術習得（実習&講義）	ヘディングの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	スモールゲームで取得した基本技術を用いて、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習&講義）	ハーフコートで位置取りや実際の動き方などのポジションについて理解する。
第 8 回	各ポジションの役割（実習&講義）	4 分の 3 コートで各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	スモールサイドゲームで攻守の切り替えを身に着ける（実習&講義）	6 分の 1 コートで 2 v 2, 3 v 3 のゲーム形式の実習を行う。
第 10 回	ハーフコートゲーム（実習&講義）	ハーフコートで 5 v 5、7 v 7 のゲーム形式の実習を行う。各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。（ゲームフリーズで修正する）
第 11 回	ゲーム①（実習&講義）	フルコートで 11 v 11 のゲームを行う。（チームごとに戦略を立てる） ☆キャプテンを経験させる。
第 12 回	ゲーム②（実習&講義）	チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆キャプテンが自チームのポジションを決める。（フルコート）
第 13 回	ゲーム③（実習&講義）	チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆ 1 点リードしている時の戦い方を理解する。 ☆ 1 点ビハインドの時の戦い方を理解する。（フルコート）

第 14 回 ゲーム④（実習&講義） 総括（ゲーム 20min×3 試合）フルコート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 友人や仲間と休み時間や大学の休みを利用して少人数でのスモールゲームを行う。
- 2) レベルの高いゲームを観戦してイメージを高める（J リーグ・海外の試合等）

【テキスト（教科書）】

資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

- 1) 日本サッカー協会発行 サッカー指導教本・DVD 2016
- 2) JFA(日本サッカー協会) 指導指針 (U - 10~U18)2017
- 3) サッカーのコーディネーショントレーニング (大修館書店)

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業態度 40 %
- 2) 習熟度 30 %
- 3) 課題・レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 悪天候の場合は必要に応じてビデオ機器を使用する。

【Outline and objectives】

Take advantage of the features of Team sports and while attempting to communicate with others to get the techolgy tactics.
To understanding how to proceed in the game Though practice in training and lecturs

HSS300IA

ボールスポーツ実習

山口 良博

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

旧うか科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バスケットボール競技の特性やルールへの理解を深め、基礎技術、グループ戦術を習得するとともに、それらを用いたゲームの展開方法を学ぶ。また、ゲームをとおして協調性やリーダーシップ等を養うことも目的とする。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自らの技能を高めるために主体的に取り組む姿勢を身につける。さらに、チームスポーツに必要な協調性やリーダーシップの向上を図る。(関心・意欲・態度)
2. シュートの基本フォームを習得し、基礎技術やグループ戦術をゲームにおいて発揮できる。(技能)
3. ルールについて説明することができる。(知識・理解)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに沿った課題練習を行い、その技術や戦術等をゲームにおいて発揮できるよう授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の注意事項及びルールについての説明
2	ボールコントロールに関する技術の習得	ボールハンドリング
3	ボールコントロールに関する技術の習得	ドリブル
4	ボールコントロールに関する技術の習得	パス
5	ボールコントロールに関する技術の習得	セットシュート
6	ボールコントロールに関する技術の習得	レイアップシュート
7	個人戦術の習得	1on1 でのオフェンス局面
8	個人戦術の習得	1on1 でのディフェンス局面
9	グループ戦術の習得	2on2 でのパス・アンド・ラン
10	チーム戦術の習得	5on5 の攻防
11	チーム戦術の習得	攻守の移行局面の攻防
12	技能確認	シュートの基本フォーム習得度確認
13	技能確認	グループ戦術の習得度確認
14	知識確認	ルールの理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

書籍や映像を用いて、各回のテーマにそった準備学習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

バスケットボール指導教本、バスケットボール競技規則

【成績評価の方法と基準】

到達目標 1 の「関心・意欲・態度」については、授業態度と出席状況により評価する (70%)。

到達目標 2 の「技能」に関しては、ゲーム観察及び技能練習中に評価する (20%)。

到達目標 3 の「知識・理解」については、ルールに関するレポートもしくは小テストにより評価する (10%)。

【学生の意見等からの気づき】

ゲーム等をとおしてバスケットボール競技の楽しさは実感してくれているようなので、さらにルールや技能など競技への理解を深められるように取り組んでいきたい。

【Outline and objectives】

In this class, you will deepen your understanding of basketball characteristics and rules, and aim to master basic skills and group tactics. It also aims to acquire cooperativeness and leadership etc. through games.

HSS300IA

ボールスポーツ実習**川田 尚弘**

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

旧うか科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

チームスポーツの特性を生かしながら他者とのコミュニケーションを図り、技術・戦術を取得してゲームの進め方を理解出来るよう、実習及び講義で実践する。

【到達目標】

- ①サッカーのルールを理解し、正しい技術を身に着ける。
- ②チームスポーツの特性を生かし、他者とのコミュニケーションや協調性を図る。
- ③基本戦術を習得をし、ベースになる技術（キック・トラップ・ドリブル・ヘディング）を用いたフルコートのゲーム出来るようにする。
- ④コミュニケーション能力に磨きをかけ、仲間との一体感を醸成する能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

サッカーは相手とのコンタクトプレーが頻繁に起こる競技で、ダイナミックな面とボールを的確にコントロールするための技術や身体のリズムが求められるスポーツである。また、個人がボールを保持している時間が短く、見方をサポートするタイミングを求められ、コミュニケーションのスポーツでもある。そのための基本技術はもちろん基本戦術でもあるコーチング能力を高め、目的であるゴールを奪う喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習においては基本技術（キック・トラップ・ドリブル・ヘディング）を用いた試合が出来るようにスモールフィールドのゲームからフルコートのゲームを体験する。

同時にルールや試合の組み立て方などの理解を深めていく。
失敗を恐れず積極的にチャレンジする学生の参加を望む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	ガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、態度とルールについて（講義）	サッカーのルールとプレーヤーとしての態度について資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パス&トラップの技術習得（実習&講義）	パスとトラップの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・ドリブルの技術習得（実習&講義）	ドリブルの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・ヘディングの技術習得（実習&講義）	ヘディングの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	スモールゲームで取得した基本技術を用いて、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習&講義）	ハーフコートで位置取りや実際の動き方などのポジションについて理解する。
第 8 回	各ポジションの役割（実習&講義）	4 分の 3 コートで各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	スモールサイドゲームで攻守の切り替えを身に着ける（実習&講義）	6 分の 1 コートで 2 v 2, 3 v 3 のゲーム形式の実習を行う。
第 10 回	ハーフコートゲーム（実習&講義）	ハーフコートで 5 v 5、7 v 7 のゲーム形式の実習を行う。各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。（ゲームフリーズで修正する）
第 11 回	ゲーム①（実習&講義）	フルコートで 11 v 11 のゲームを行う。（チームごとに戦略を立てる） ☆キャプテンを経験させる。
第 12 回	ゲーム②（実習&講義）	チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆キャプテンが自チームのポジションを決める。（フルコート）
第 13 回	ゲーム③（実習&講義）	チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆ 1 点リードしている時の戦い方を理解する。 ☆ 1 点ビハインドの時の戦い方を理解する。（フルコート）

第 14 回 ゲーム④（実習&講義） 総括（ゲーム 20min×3 試合）フルコート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 友人や仲間と休み時間や大学の休みを利用して少人数でのスモールゲームを行う。
- 2) レベルの高いゲームを観戦してイメージを高める（J リーグ・海外の試合等）

【テキスト（教科書）】

資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

- 1) 日本サッカー協会発行 サッカー指導教本・DVD 2016
- 2) JFA(日本サッカー協会) 指導指針 (U - 10~U18)2017
- 3) サッカーのコーディネーショントレーニング (大修館書店)

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業態度 40 %
- 2) 習熟度 30 %
- 3) 課題・レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 悪天候の場合は必要に応じてビデオ機器を使用する。

【Outline and objectives】

Take advantage of the features of Team sports and while attempting to communicate with others to get the techolgy tactics.
To understanding how to proceed in the game Though practice in training and lecturs

HSS300IA

ボールスポーツ実習

山口 良博

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

旧うか科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バスケットボール競技の特性やルールへの理解を深め、基礎技術、グループ戦術を習得するとともに、それらを用いたゲームの展開方法を学ぶ。また、ゲームをとおして協調性やリーダーシップ等を養うことも目的とする。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自らの技能を高めるために主体的に取り組む姿勢を身につける。さらに、チームスポーツに必要な協調性やリーダーシップの向上を図る。(関心・意欲・態度)
2. シュートの基本フォームを習得し、基礎技術やグループ戦術をゲームにおいて発揮できる。(技能)
3. ルールについて説明することができる。(知識・理解)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに沿った課題練習を行い、その技術や戦術等をゲームにおいて発揮できるよう授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の注意事項及びルールについての説明
2	ボールコントロールに関する技術の習得	ボールハンドリング
3	ボールコントロールに関する技術の習得	ドリブル
4	ボールコントロールに関する技術の習得	パス
5	ボールコントロールに関する技術の習得	セットシュート
6	ボールコントロールに関する技術の習得	レイアップシュート
7	個人戦術の習得	1on1 でのオフェンス局面
8	個人戦術の習得	1on1 でのディフェンス局面
9	グループ戦術の習得	2on2 でのパス・アンド・ラン
10	チーム戦術の習得	5on5 の攻防
11	チーム戦術の習得	攻守の移行局面の攻防
12	技能確認	シュートの基本フォーム習得度確認
13	技能確認	グループ戦術の習得度確認
14	知識確認	ルールの理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

書籍や映像を用いて、各回のテーマにそった準備学習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

バスケットボール指導教本、バスケットボール競技規則

【成績評価の方法と基準】

到達目標 1 の「関心・意欲・態度」については、授業態度と出席状況により評価する (70%)。

到達目標 2 の「技能」に関しては、ゲーム観察及び技能練習中に評価する (20%)。

到達目標 3 の「知識・理解」については、ルールに関するレポートもしくは小テストにより評価する (10%)。

【学生の意見等からの気づき】

ゲーム等をとおしてバスケットボール競技の楽しさは実感してくれているようなので、さらにルールや技能など競技への理解を深められるように取り組んでいきたい。

【Outline and objectives】

In this class, you will deepen your understanding of basketball characteristics and rules, and aim to master basic skills and group tactics. It also aims to acquire cooperativeness and leadership etc. through games.

HSS300IA

ボールスポーツ実習

清雲 栄純

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3 年次／ 1 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

旧うか科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

チームスポーツの特性を生かしながら他者とのコミュニケーションを図り、技術・戦術を取得してゲームの進め方を理解出来るよう、実習及び講義で実践する。

【到達目標】

- ①サッカーのルールを理解し、正しい技術を身に着ける。
- ②チームスポーツの特性を生かし、他者とのコミュニケーションや協調性を図る。
- ③基本戦術を習得をし、ベースになる技術（キック・トラップ・ドリブル・ヘディング）を用いたフルコートのゲーム出来るようにする。
- ④コミュニケーション能力に磨きをかけ、仲間との一体感を醸成する能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

サッカーは相手とのコンタクトプレーが頻繁に起こる競技で、ダイナミックな面とボールを的確にコントロールするための技術や身体のリズムが求められるスポーツである。また、個人がボールを保持している時間が短く、見方をサポートするタイミングを求められ、コミュニケーションのスポーツでもある。そのための基本技術はもちろん基本戦術でもあるコーチング能力を高め、目的であるゴールを奪う喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習においては基本技術（キック・トラップ・ドリブル・ヘディング）を用いた試合が出来るようにスモールフィールドのゲームからフルコートのゲームを体験する。

同時にルールや試合の組み立て方などの理解を深めていく。
失敗を恐れず積極的にチャレンジする学生の参加を望む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	ガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、態度とルールについて（講義）	サッカーのルールとプレーヤーとしての態度について資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パス&トラップの技術習得（実習&講義）	パスとトラップの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・ドリブルの技術習得（実習&講義）	ドリブルの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・ヘディングの技術習得（実習&講義）	ヘディングの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	スモールゲームで取得した基本技術を用いて、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習&講義）	ハーフコートで位置取りや実際の動き方などのポジションについて理解する。
第 8 回	各ポジションの役割（実習&講義）	4 分の 3 コートで各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	スモールサイドゲームで攻守の切り替えを身に着ける（実習&講義）	6 分の 1 コートで 2 v 2、3 v 3 のゲーム形式の実習を行う。
第 10 回	ハーフコートゲーム（実習&講義）	ハーフコートで 5 v 5、7 v 7 のゲーム形式の実習を行う。各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。（ゲームフリーズで修正する）
第 11 回	ゲーム①（実習&講義）	フルコートで 11 v 11 のゲームを行う。（チームごとに戦略を立てる） ☆キャプテンを経験させる。
第 12 回	ゲーム②（実習&講義）	チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆キャプテンが自チームのポジションを決める。（フルコート）
第 13 回	ゲーム③（実習&講義）	チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆ 1 点リードしている時の戦い方を理解する。 ☆ 1 点ビハインドの時の戦い方を理解する。（フルコート）
第 14 回	ゲーム④（実習&講義）	総括（ゲーム 20min×3 試合） フルコート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 友人や仲間と休み時間や大学の休みを利用して少人数でのスモールゲームを行う。
- 2) レベルの高いゲームを観戦してイメージを高める（日本代表・J リーグ・海外の試合 ets）

【テキスト（教科書）】

資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

- 1) 日本サッカー協会発行 サッカー指導教本・DVD 2016
- 2) JFA(日本サッカー協会) 指導指針 (U - 10~U18)2017
- 3) サッカーのコーディネーショントレーニング (大修館書店)

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業態度 40 %
- 2) 習熟度 30 %
- 3) 課題・レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 悪天候の場合は必要に応じてビデオ機器を使用する。

【Outline and objectives】

Take advantage of the features of Team sports and while attempting to communicate with others to get the techolgy tactics.

To understanding how to proceed in the game Though practice in training and lecturs

HSS300IA

ボールスポーツ実習

山口 良博

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3 年次／ 1 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

旧うか科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バスケットボール競技の特性やルールへの理解を深め、基礎技術、グループ戦術を習得するとともに、それらを用いたゲームの展開方法を学ぶ。また、ゲームをとおして協調性やリーダーシップ等を養うことも目的とする。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心を持ち、自らの技能を高めるために主体的に取り組む姿勢を身につける。さらに、チームスポーツに必要な協調性やリーダーシップの向上を図る。(関心・意欲・態度)
2. シュートの基本フォームを習得し、基礎技術やグループ戦術をゲームにおいて発揮できる。(技能)
3. ルールについて説明することができる。(知識・理解)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに沿った課題練習を行い、その技術や戦術等をゲームにおいて発揮できるよう授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の注意事項及びルールについての説明
2	ボールコントロールに関する技術の習得	ボールハンドリング
3	ボールコントロールに関する技術の習得	ドリブル
4	ボールコントロールに関する技術の習得	パス
5	ボールコントロールに関する技術の習得	セットシュート
6	ボールコントロールに関する技術の習得	レイアップシュート
7	個人戦術の習得	1on1 でのオフェンス局面
8	個人戦術の習得	1on1 でのディフェンス局面
9	グループ戦術の習得	2on2 でのパス・アンド・ラン
10	チーム戦術の習得	5on5 の攻防
11	チーム戦術の習得	攻守の移行局面の攻防
12	技能確認	シュートの基本フォーム習得度確認
13	技能確認	グループ戦術の習得度確認
14	知識確認	ルールの理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

書籍や映像を用いて、各回のテーマにそった準備学習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特不使用しない。

【参考書】

バスケットボール指導教本、バスケットボール競技規則

【成績評価の方法と基準】

到達目標 1 の「関心・意欲・態度」については、授業態度と出席状況により評価する (70%)。

到達目標 2 の「技能」に関しては、ゲーム観察及び技能練習中に評価する (20%)。

到達目標 3 の「知識・理解」については、ルールに関するレポートもしくは小テストにより評価する (10%)。

【学生の意見等からの気づき】

ゲーム等をとおしてバスケットボール競技の楽しさは実感してくれているようなので、さらにルールや技能など競技への理解を深められるように取り組んでいきたい。

【Outline and objectives】

In this class, you will deepen your understanding of basketball characteristics and rules, and aim to master basic skills and group tactics. It also aims to acquire cooperativeness and leadership etc. through games.

HSS300IA

ボールスポーツ実習

清雲 栄純

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3 年次／ 1 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

旧うか科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

チームスポーツの特性を生かしながら他者とのコミュニケーションを図り、技術・戦術を取得してゲームの進め方を理解出来るよう、実習及び講義で実践する。

【到達目標】

- ①サッカーのルールを理解し、正しい技術を身に着ける。
- ②チームスポーツの特性を生かし、他者とのコミュニケーションや協調性を図る。
- ③基本戦術を習得をし、ベースになる技術（キック・トラップ・ドリブル・ヘディング）を用いたフルコートのゲーム出来るようにする。
- ④コミュニケーション能力に磨きをかけ、仲間との一体感を醸成する能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

サッカーは相手とのコンタクトプレーが頻繁に起こる競技で、ダイナミックな面とボールを的確にコントロールするための技術や身体のリズムが求められるスポーツである。また、個人がボールを保持している時間が短く、見方をサポートするタイミングを求められ、コミュニケーションのスポーツでもある。そのための基本技術はもちろん基本戦術でもあるコーチング能力を高め、目的であるゴールを奪う喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習においては基本技術（キック・トラップ・ドリブル・ヘディング）を用いた試合が出来るようにスモールフィールドのゲームからフルコートのゲームを体験する。

同時にルールや試合の組み立て方などの理解を深めていく。

失敗を恐れず積極的にチャレンジする学生の参加を望む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	ガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、態度とルールについて（講義）	サッカーのルールとプレーヤーとしての態度について資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パス&トラップの技術習得（実習&講義）	パスとトラップの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・ドリブルの技術習得（実習&講義）	ドリブルの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・ヘディングの技術習得（実習&講義）	ヘディングの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	スモールゲームで取得した基本技術を用いて、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習&講義）	ハーフコートで位置取りや実際の動き方などのポジションについて理解する。
第 8 回	各ポジションの役割（実習&講義）	4 分の 3 コートで各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	スモールサイドゲームで攻守の切り替えを身に着ける（実習&講義）	6 分の 1 コートで 2 v 2、3 v 3 のゲーム形式の実習を行う。
第 10 回	ハーフコートゲーム（実習&講義）	ハーフコートで 5 v 5、7 v 7 のゲーム形式の実習を行う。各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。（ゲームフリーズで修正する）
第 11 回	ゲーム①（実習&講義）	フルコートで 11 v 11 のゲームを行う。（チームごとに戦略を立てる）
第 12 回	ゲーム②（実習&講義）	☆キャプテンを経験させる。 チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆キャプテンが自チームのポジションを決める。（フルコート）
第 13 回	ゲーム③（実習&講義）	チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆ 1 点リードしている時の戦い方を理解する。 ☆ 1 点ビハインドの時の戦い方を理解する。（フルコート）
第 14 回	ゲーム④（実習&講義）	総括（ゲーム 20min×3 試合） フルコート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 友人や仲間と休み時間や大学の休みを利用して少人数でのスモールゲームを行う。
- 2) レベルの高いゲームを観戦してイメージを高める（日本代表・J リーグ・海外の試合 ets）

【テキスト（教科書）】

資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

- 1) 日本サッカー協会発行 サッカー指導教本・DVD 2016
- 2) JFA(日本サッカー協会) 指導指針 (U - 10~U18)2017
- 3) サッカーのコーディネーショントレーニング (大修館書店)

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業態度 40 %
- 2) 習熟度 30 %
- 3) 課題・レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 悪天候の場合は必要に応じてビデオ機器を使用する。

【Outline and objectives】

Take advantage of the features of Team sports and while attempting to communicate with others to get the techolgy tactics.

To understanding how to proceed in the game Though practice in training and lecturs

HSS300IA

ボールスポーツ実習

山口 良博

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3 年次／ 1 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

旧うか科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バスケットボール競技の特性やルールへの理解を深め、基礎技術、グループ戦術を習得するとともに、それらを用いたゲームの展開方法を学ぶ。また、ゲームをとおして協調性やリーダーシップ等を養うことも目的とする。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自らの技能を高めるために主体的に取り組む姿勢を身につける。さらに、チームスポーツに必要な協調性やリーダーシップの向上を図る。(関心・意欲・態度)
2. シュートの基本フォームを習得し、基礎技術やグループ戦術をゲームにおいて発揮できる。(技能)
3. ルールについて説明することができる。(知識・理解)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに沿った課題練習を行い、その技術や戦術等をゲームにおいて発揮できるよう授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の注意事項及びルールについての説明
2	ボールコントロールに関する技術の習得	ボールハンドリング
3	ボールコントロールに関する技術の習得	ドリブル
4	ボールコントロールに関する技術の習得	パス
5	ボールコントロールに関する技術の習得	セットシュート
6	ボールコントロールに関する技術の習得	レイアップシュート
7	個人戦術の習得	1on1 でのオフェンス局面
8	個人戦術の習得	1on1 でのディフェンス局面
9	グループ戦術の習得	2on2 でのパス・アンド・ラン
10	チーム戦術の習得	5on5 の攻防
11	チーム戦術の習得	攻守の移行局面の攻防
12	技能確認	シュートの基本フォーム習得度確認
13	技能確認	グループ戦術の習得度確認
14	知識確認	ルールの理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

書籍や映像を用いて、各回のテーマにそった準備学習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

バスケットボール指導教本、バスケットボール競技規則

【成績評価の方法と基準】

到達目標 1 の「関心・意欲・態度」については、授業態度と出席状況により評価する (70%)。

到達目標 2 の「技能」に関しては、ゲーム観察及び技能練習中に評価する (20%)。

到達目標 3 の「知識・理解」については、ルールに関するレポートもしくは小テストにより評価する (10%)。

【学生の意見等からの気づき】

ゲーム等をとおしてバスケットボール競技の楽しさは実感してくれているようなので、さらにルールや技能など競技への理解を深められるように取り組んでいきたい。

【Outline and objectives】

In this class, you will deepen your understanding of basketball characteristics and rules, and aim to master basic skills and group tactics.It also aims to acquire cooperativeness and leadership etc. through games.

HSS100IA

スポーツトレーニング論 I

平野 裕一

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／

2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トレーニングを実施する手順、体力、技術のトレーニング内容・方法を理解する。

【到達目標】

- ・トレーニングを実施するための手順として、そのスポーツ・運動の構造を理解し、それに基づく目標、手段、方法、計画、実践、改善の各理論を理解する。
- ・体力、技術のトレーニング内容・方法（運動様式、運動強度、時間、頻度、期間といったトレーニング変数）を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めるが、理解すべき図の検討などアクティブ・ラーニングを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	全体のガイダンス ・スポーツ・運動の構造論	内容 ・スポーツ・運動の構造を理解する。 ・遺伝とトレーニングの関係を理解する。
2	・トレーニングの目標論 ・体力と技術のトレーニング	・トレーニングを実施する際の目標の立て方を理解する。 ・体力トレーニングと技術トレーニングの相違を理解する。
3	・トレーニングの手段論 ・暑熱順化トレーニング	・トレーニングを実施する際の手段の選び方を理解する。 ・暑熱順化トレーニングの変数を理解する。
4	・トレーニングの方法論 ・全身持久力トレーニング	・トレーニングを実施する際の方法を理解する ・全身持久力トレーニングの変数を理解する。
5	・トレーニングの計画論 ・筋持久力トレーニング	・トレーニングを実施する際の計画、特に時間資源に対する考え方を理解する。 ・筋持久力トレーニングの変数を理解する。
6	・トレーニング実践論 ・筋力トレーニング	・トレーニングを実施する際の実施における留意点を理解する。 ・筋力トレーニングの変数を理解する。
7	・トレーニング改善論 ・パワートレーニング	・トレーニングを実施後、改善するための方法を理解する。 ・パワートレーニングの変数を理解する。
8	・高強度間欠的運動によるトレーニング	・高強度間欠的運動によるトレーニングの原理、方法、効果について理解する。
9	・高地トレーニング	・高地トレーニングの原理、方法、効果について理解する。
10	・スピードトレーニング	・スピードに対する考え方、スピードトレーニングの変数を理解する
11	・バランストレーニング	・バランスに対する考え方、バランストレーニングの変数を理解する。
12	・柔軟性トレーニング ・ウォームアップとクールダウン	・柔軟性の功罪と柔軟性を高めるトレーニングについて理解する。 ・トレーニング前後のウォーミングアップとクールダウンの意義、方法を理解する。
13	・技術トレーニングの考え方、基本原則①	・技術トレーニングの原理、効果を高めるための基本原則を理解する。
14	・技術トレーニングの基本原則②	・技術トレーニングの効果を高めるための基本原則を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここでの理論をあてはめる作業を望む。

【テキスト（教科書）】

なし（資料を作成して提示する）

【参考書】

「トレーニング科学」北川 薫編、文光堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、各時間のリアクションペーパーの内容40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではあるが、アクティブ・ラーニングになるように工夫して進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある。

【Outline and objectives】

This class deals with the physical and skill trainings on sport. In addition to the training PDCA cycle, training variables; training intensity, volume, frequency, period, are introduced on the health and motion-related physical fitness. On the skill training, changes in the physical functions and principles of training are introduced and compared to those of physical training.

HSS1001A

スポーツコーチング論 I

平野 裕一

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」であることを常に意識して行われるものである。これを実践するためには、まずコーチングを形づくる中心にある自分自身の考え方と、コーチング対象者や社会との良好な関係を築くために必要な人間としての態度や行動が求められる。これら考え方と態度や行動を学ぶ。その上にコーチングを実践する上で必要となるスポーツ科学の知識や技能はある。

【到達目標】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングを実践していくために、

・コーチングに対する考え方

・自分やコーチング対象者に対する態度や行動がどうあるべきかを理解する。

一方、コーチング実践を通して理解した内容を実践に活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半の時間にはグループでコーチングを実践する。そこではコーチ役を決め、そのコーチがスキル学習課題と習得のための3回分のドリルを考案し、屋外でコーチングをする。3回実践したらコーチ役をローテーションする。後半の時間にはコーチング実践を振り返った後、その日のテーマについて講義形式で学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義のガイダンスと実習の進め方	モデルコアカリキュラムとの関連性 実習におけるコーチ役の使命と職務
2	コーチの学び	学びの生じるプロセス コーチングにおける省察 学びの場
3	スポーツの意義と価値	文化的特性、スポーツ精神、基本法と基本計画
4	コーチの役割と使命	国際的なコーチの職務とコンピテン
5	コーチの倫理観・規範意識	プレーヤーズファースト、アンチドーピング
6	コーチに求められる資質能力	プレーヤーとともに学び続ける
7	コーチングとは？	効果的な学び、実践力を身につける方法
8	コーチに求められる多様な思考法	論理的、分析的、創造的、批判的な思考
9	コーチのセルフコントロール	メンタル、アンガー、タイムマネージメント
10	コーチのキャリア・デザイン	目標設定、自分の生活、ワークライフバランス
11	コミュニケーション	観察、傾聴、承認、質問、プレゼン、ファシリテーション
12	人的環境の構築	チームビルディング、協力・協調・協働、アントラージュ
13	プレーヤーのキャリア・デザイン	目標設定、デュアルキャリア
14	総括	コーチングの今後に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コーチング実践におけるスキル課題とそれを習得するための3回分のドリルを考案する。

【テキスト（教科書）】

コーチングの心得（仮題）培風館（近日常）

【参考書】

「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、Gakken
「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】

・コーチング実践における自身の振り返りと受講者からの評価（3点 × 12回 = 36点）
・講義に関する期末テスト（64点）
で総合100点とする。

【学生の意見等からの気づき】

ローテーションするグループ分けが明確に伝わるようにする。
コーチングに用いる用具を十分に手配する。
雨天時の対応を明確にする。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料を使うことがある。
運動ができる服装
コーチング実践で使う用具

【Outline and objectives】

The purposes of this class are to learn the philosophy, attitude and action on the sport coaching, and to practice coaching skill on the court. The contents of classroom lecture are referred to 'the model core curriculum' created by JSPO in 2016. In practice, sport skill drills designed by the student coach are implemented to the student athletes.

ECN100IA

スポーツビジネス論 I

井上 尊寛

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

旧うか科目名：スポーツビジネス論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】

本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツ産業の発展とス ポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、文 化の産業化
2	スポーツマーケティング の考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケット セグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーション シップマーケティング
4	マーケティング戦略の考 え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産業 のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満足
6	スポーツ・イベントのマ ネジメント 1	J リーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントのマ ネジメント 2	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントのマ ネジメント 3	ブランディング
9	スポーツ・イベントのマ ネジメント 4	フランチイズ、リーグマネジメン ト、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産業 の一般的経営課題 1	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産業 の一般的経営課題 2	スポーツブランドのコーポレートブラ ンドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産業 の一般的経営課題 3	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成 (1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤眞・吉田政幸 編著、ミネルヴァ
書房、2017 年

【参考書】

特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%) および授業内レポートの評価 (40%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the fundamental elements of the sport management. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices of the sport management.

SOM100IA

衛生学

鬼頭 英明

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2

単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、生命をまもり、生涯を通じて健康に過ごすために必要な衛生に関する基礎的・基本的な知識の理解を深めることである。

衛生学の基本的な考え方、食品衛生、水や大気などの環境衛生、身の回りの化学物質と健康影響について学ぶ。授業では、実際に起きた事例を挙げて、ディスカッションにより問題点を抽出し、改善のための手立てを考えるようにすることを目指す。この領域のアプローチは、サイエンティフィックな要素、社会学的な要素など幅広い視点が必要とすることに留意してほしい。関口は広く、奥行きは広いが、実生活に活かすことができることを最終目標とする。

【到達目標】

個々人の健康の保持増進のため、身の回りの環境の整備や化学物質の管理が重要であることについて理解し、社会人として責任ある実践に結びつけられるようにするとともに、次世代に繋げられるようにすることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて授業を進める。パワーポイントの配付資料は準備するが、適宜記入欄を設けているので、書き込むこと。
適宜、双方向の授業進行を行うので、自分の考え方を述べられるよう心がけてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論	衛生学について全体を見渡す。
2	衛生の考え方	衛生学の考え方や衛生学の成り立ちについて歴史的経緯をふまえ概説する。
3	健康情報の見方・考え方	健康情報の危うさについて概説する。
4	食品衛生・細菌性食中毒	食中毒の概要及び細菌性食中毒について取り扱う
5	食品衛生・自然毒食中毒	自然毒食中毒について概説する
6	食品衛生・食品添加物	食品添加物について概説する
7	食品の安全性	食品の衛生管理と安全性について概説する
8	水の衛生	水の衛生管理の重要性について考える
9	飲料水の安全性	水道水など飲用に供する水の安全性について詳述する。
10	水質汚濁	水質汚濁による過去の公害について映像等に触れることにより課題を考える。
11	居住環境の安全管理	室内環境などの衛生管理の必要性とかだいについて概説する。
12	大気汚染	大気汚染物質及び健康影響について概説する。
13	化学物質の健康影響	化学物質による健康影響及び化学物質に対する考え方について詳述する。
14	環境管理の重要性	環境管理の重要性についてミクロ及びマクロの視点から考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に、学習内容についてレポート提出を求める。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 % ・ レポート 20 % ・ 平常点 10 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を取り入れるようにする。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is for students to gain the essential knowledge on hygiene, especially food and environmental hygiene.

LAW100IA

スポーツ法学 I

森 浩寿

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

旧うか科目名：スポーツ法学 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の第一のテーマは、スポーツに関する法的問題を知ることである。スポーツと法律、スポーツと法的問題を結びつけて考えることは、近年とくに注目されている。社会の規範として法律があるように、スポーツにもルールという規範が存在する。本講義の第二のテーマは、さまざまなスポーツ・ルール（特に規約類）について考えることである。それにより、選手や指導者の活動環境が良くなることが期待される。

【到達目標】

さまざまなスポーツレベルに存在する法的問題を知り、解決策を述べることができる。

スポーツ紛争の解決手段を分類し、違いを説明することができる。

スポーツ指導者の負う法的責任について正しい知識を身に付け、果たすべき注意義務について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ界の規約・ルールと関係する法規（条約・法律・憲章ほか）との関係について検討し、ルールのあり方について議論する。

スポーツビジネスをめぐる法的問題を理解する。

スポーツ活動中の事故をめぐる指導者の法的責任について正しい知識を習得し、指導者に求められている注意義務を理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、テキスト、評価について
2	スポーツ法とスポーツ法学	スポーツ関係法規、スポーツ法学の対象
3	スポーツ団体の性格	団体の法人格、規約策定、部分社会論
4	スポーツ・ルールの機能	規約・ルールの意義、内容、処分
5	スポーツにおける機会均等	スポーツにおける男女平等、障害者スポーツおよび国籍をめぐる法的諸問題
6	ドーピング問題	アンチ・ドーピング対策の歴史と現在（条約、規程）、違反と処分
7	企業スポーツの法的諸問題	企業スポーツの誕生・発展・衰退・選手の身分保障、移籍規定
8	プロスポーツの選手契約 (1)	プロ野球の選手契約（入団・移籍・引退）、野球協約、プロサッカー選手契約規定
9	プロスポーツの選手契約 (2)	サッカー J リーグの選手契約（入団・移籍・引退）、野球協約、プロサッカー選手契約規定
10	プロスポーツの選手契約 (3)	大相撲、バスケット bj リーグ、野球独立リーグなどの選手契約
11	スポーツビジネス	契約、各種権利、スポンサーシップ、放送権、命名権ほか
12	スポーツ事故の法的責任	指導者の法的責任（民事・刑事）
13	指導者の注意義務	安全配慮義務の構造、具体的注意義務
14	スポーツ紛争の解決手段	裁判、裁判外紛争解決（仲裁・調停）、スポーツ仲裁

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から、各種メディアを通じて、スポーツ関連ニュースに関心を持つ。

第 1 回：シラバスの理解

第 2 回：前回の復習

第 3 回：前回の復習

第 4 回：前回の復習

第 5 回：前回の復習

第 6 回：前回の復習

第 7 回：前回の復習

第 8 回：前回の復習

第 9 回：前回の復習

第 10 回：前回の復習

第 11 回：前回の復習

第 12 回：前回の復習

第 13 回：前回の復習

第 14 回：前回の復習

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加（20 %）…授業実時数の 2 / 3 以上の出席が成績評価の対象条件です。数回の実施を予定している小レポートの内容を評価に加えます（最大 20 %）。

試験・レポート（80 %）…与えられた質問に対して、決められた時間でまとめることが、評価の対象です（最大 80 %）。日本語力、文章作成力も問われます。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、意見交換等の双方向の授業を目指す。

【Outline and objectives】

There are many legal issues in sports. For example, it is the issue of human rights, a professional player's contract dispute, the tort liability in case of the sports accident. Doping in sports is one of the biggest issue in world sports, and dispute resolution in sports is the big subject of concern too.

The goals of this course are to

(1) obtain the knowledge about sports and law

(2) be able to understand about the dispute resolution in sports

(3) obtain the knowledge about the legal responsibility in sports coaching

We examine the relationship of sports rule and the social norm.

SOM1001A

機能解剖学 B

加藤 基

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機能解剖学 B では、動脈・静脈・リンパ管といった脈管系と脳・脊髄・末梢神経といった神経系について学ぶ。これらの器官はスポーツ領域で学習する機能解剖学においては応用的な分野と考えられることがあるが、スポーツ傷害や運動制御や運動学習について正確に理解するためには、十分に学習しておくことが必要である。本授業では、スポーツ傷害の理解および運動制御、運動学習に関わる脈管系、神経系を学び、傷害評価の新たな視点と運動習得の可能性を見出すことを目標とする。

【到達目標】

- ・主要な血管の名称と走行を理解する
- ・リンパ系の構造と機能とを理解する
- ・脳の構造と機能局在を理解する
- ・末梢神経系の名称と走行、機能を理解する。
- ・運動制御に関わる神経系の構造と機能を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

主要な構造について授業内で概説し、作画・工作や触察によって体感を持ちながら学習をする。

より詳細な部分については宿題・レポート課題などへの取り組みによって獲得することを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方 脈管系の全体像、神経系の全体像
2	脈管系（心臓・頸部・頭部、その他体幹）	心臓の構造と心臓を起点とする脈管の走行、頸部・頭部の脈管の走行と機能、その他体幹における脈管
3	脈管系（上肢）	肩・上腕・肘の血管系、前腕・手の血管系
4	脈管系（下肢）	股関節・大腿・膝の血管系、下腿・足の血管系
5	リンパ系	リンパ系の機能と走行
6	神経系（脳）	脳の機能と機能局在
7	神経系（末梢神経）	脳神経、自律神経、体性神経
8	神経系（自律神経）	走行と機能
9	神経系（上肢）	上肢の末梢神経の走行と機能
10	神経系（下肢）	下肢の末梢神経の走行と機能
11	神経系（反射）	腱反射、筋緊張の制御
12	神経系（運動制御）	小脳、錐体路系、錐体外路系
13	神経系（前庭）	前庭による運動の調整
14	脈管系と神経系	全体のまとめ、関連するスポーツ傷害、運動習得への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で復習用のプリントを配布する

【テキスト（教科書）】

授業資料は授業支援システムを使用して提示する。

【参考書】

町田 志樹：解剖学 (PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎)。羊土社

【成績評価の方法と基準】

授業への参加・小テスト (20 %)、試験 (80 %)

【学生の意見等からの気づき】

各回の復習プリント配布及び事前告知をしようとして小テストを実施することによって、定期テストのときだけの勉強ならず勉強がしやすいという意見を得た。各回の復習プリントを工夫し、学習内容の定着に役立てたい。基本的には講義式であるものの、触診実技をしたり、ゲーム形式の学習をしたりすることで参加型の授業を行うことで取り組みやすかったという意見を得た。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

触察実技のために他者に触れる、触れられることがある。支障がある場合は教員に申し出てほしい。

【Outline and objectives】

This course focuses on the structures and functions of artery, vein and nerve system. Studying these organs is important to understand sports injuries, human movement.

HSS200IA

スポーツ栄養学

長谷川 祐子

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、指導者になったときに食事・栄養について科学的根拠に基づいたアドバイスが出来るようになることを目的に、スポーツ栄養学の基礎を学び、簡単な栄養アセスメントを体験します。

【到達目標】

《栄養学基礎》 主要な栄養素の名前と特性、栄養素／食品／料理の関係性、望ましい食事の基本構成、栄養アセスメントの方法等について説明できる。
《栄養ケアマネジメント》 1年間の期分け、1日の練習、試合前後といった、スケジュールやタイミングを考慮した食事法について説明できる。また栄養アセスメント結果に基づいた食事のアドバイスが行える。
《頻発する課題対策》 水分補給、減量、増量、貧血、女性アスリートの3主徴など、頻発する栄養管理上の課題とその対応策について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業は講義形式で行い、テーマによって適宜演習を挟みます。
- ・開始時に前回講義に関する 10 問程度の小テストを行います。
- ・講義はパワーポイント主体で進めます。図表は教科書を参照します。
- ・演習時に計算が必要になる場合があります。電卓は毎回持参してください。
- ・終了前に質問の時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

前期

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと前提知識 《栄養は車にたとえられる》	・授業の進め方について理解する。 ・栄養素の分類と名前を知る。 ・各栄養素の主な供給源の食品を知る。 ・食事の基本構成を知る。 【課題】 行動記録の記入 → 次回使用 エネルギー消費量とその内訳、エネルギー供給機構と競技分類について理解する。
2	エネルギー 基礎 《ガソリンの必要量、エンジンの種類と車種》	【演習・課題】 生活時間調査法によるエネルギー消費量推定 → ◆提出 エネルギー消費量とその内訳、エネルギー供給機構と競技分類について理解する。
3	エネルギー 応用（女性アスリートの3主徴） 《ガス欠》	・女性アスリートの3主徴（FAT）と、男女問わず問題となる RED-S について理解する。 ・食事のエネルギーの調べ方を知る。 【演習】 EAT - 26、FAT チェックシート
4	たんぱく質 基礎 《車体の維持》	・たんぱく質の働き、摂取法について理解する。 ・たんぱく質の消化と吸収について理解し、多く含まれている食品・料理を知る。 【演習】 たんぱく質目標摂取量の推定 ・競技に適した体格について知る。 ・減量・増量の方法について理解する。 【演習】 減量計画の作成
5	たんぱく質 応用（増量／減量） 《車体の改造》	・炭水化物の種類、働き、摂取法について理解する。 ・炭水化物の消化と吸収について理解し、多く含まれる食品・料理を知る。 ・グリコーゲンローディングと再貯蔵について理解する。 【演習】 炭水化物目標摂取量の推定 【課題】 現在摂っている運動直後の補食の種類・量 → ◆提出
6	炭水化物 基礎 《高性能ガソリン》	・試合前後の食事について、実践例から理解する。 ・合宿、遠征時の食事について、実践例から理解する。 (ゲストスピーカー依頼予定)
7	炭水化物 応用（試合前後の食事とその実践） 《レース前後の整備》	

8	ディスカッション 脂質 基礎・応用（脂肪酸の機能性） 《レギュラーガソリン》	・受講者の「運動直後の補食」データに基づき、ディスカッションを行う。 ・脂質の種類、働きについて理解する。 ・脂質の消化と吸収について理解し、多く含まれる食品・料理を知る。 ・脂肪酸の機能性について理解する。 【演習】 脂質目標摂取量の推定 【課題】 運動直後の補食の摂り方について、現状の問題点と今後の改善目標 → ◆提出
9	ミネラル 基礎・応用（鉄と貧血） 《車体の維持と修理》	・ミネラルとは ・鉄の働きと摂取法について理解する。 ・スポーツ貧血について理解する。
10	ミネラル 基礎・応用（カルシウムと骨代謝） 《車体の維持と修理》	・カルシウム、マグネシウムの働きと摂取法について理解する。 ・骨代謝について理解する。 ・ナトリウム、カリウム、その他のミネラルの働きについて知る。 【演習】 カルシウム自己チェック表 体内における水の働きと、効果的な水分補給法について図解する。
11	水分補給 《車体を冷やすラジエータ》	
12	ビタミンと食物繊維 《エンジンオイル、ワックス、グリース》	・ビタミンとは ・エネルギー代謝、骨代謝、造血、免疫と関わるの深いビタミンと食物繊維について理解する。 【演習】 ①簡易ビタミン K 摂取調査表 ②食品摂取の多様性スコア（DVS）
13	サプリメント 《チューニング》	・サプリメントへの向き合い方を考える。 ・スポーツ現場でよく用いられる機能性成分について知る。 ・各種の食育ツールから、アスリートの食生活について考える。 【演習】 食習慣・コンディショニング質問紙
14	アスリートの食生活 《メンテナンス計画》	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】教科書の関連部分読了 【復習】教科書、参考書による復習、小テストの再実施

【提出課題】

・第1回、第6回・・・次の授業のための準備課題があります。
・第2回、第8回・・・提出課題があります。

【テキスト（教科書）】

・「体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学」（市村出版）¥2,700

【参考書】

・「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ」（日本体育協会）
・「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅲ」（日本体育協会）
・「スポーツと栄養（公認アスレチックトレーナー 専門科目テキスト第9巻）」（日本体育協会）
・「市民からアスリートまでのスポーツ栄養学 第2版」（八千代出版）
・「新版 コンディショニングのスポーツ栄養学」（市村出版）
・「アスリートのための栄養・食事ガイド」（第一出版）
・「アスリートの栄養アセスメント」（第一出版）
・「日本人の食事摂取基準 2015 年度版」{<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000041824.html>}
・「日本食品標準成分表 2015」{http://www.mext.go.jp/a_menu/syokuhinseibun/1365420.htm}
・「食品成分データベース」{<http://fooddb.mext.go.jp/>}
・「改訂版『身体活動のメッツ（MET s）表』」{<http://www0.nih.go.jp/eiken/programs/2011mets.pdf>}
・「健康食品の安全性・有効性情報」{<https://hfnet.nibiohn.go.jp/>}

【成績評価の方法と基準】

評価配分： 授業への積極性（小テスト提出、受講態度等）（10 %）、課題（30%）、筆記試験（60%）
小テスト未提出が 6 回以上あった者は出席不足とみなし、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

・声が聞き取りにくいようなので、マイクの使い方を工夫します。
・小テスト（開始時）とリアクションペーパー（終了時）を分けて実施します。

【学生が準備すべき機器他】

・授業中の小テストに授業支援システムを利用するので、スマートフォン等のモバイル通信機器を持参してください。

【その他の重要事項】

・授業の展開によって、若干の変更があり得ます。
・パワーポイント資料は、環境保護の観点から紙媒体では配布しません。代わりに授業支援システムにて PDF 形式で同等のものを提供します。
・小テストは 5 回まで繰り返し提出できるので、復習に活用してください。
・授業中は他の学生の受講の妨げになるような私語は慎んでください。目に余る場合は席の移動または退出を命じます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of sports nutrition and practice simple nutritional assessments, so that they will be able to give advice about foods and nutrition based on scientific evidence when they will have become sports instructors.

HSS2001A

スポーツバイオメカニクス

工藤 裕仁

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ中の運動を筋力や身体内部で作用する内力と、重力や地面反力などの外力との相互作用であることを理解する。そしてその手法としてのキネマティクスとキネティクスにおける基礎を学習する。

【到達目標】

スポーツ動作の解析に用いる力学的基礎を理解し、簡単な関節モーメントの算出が可能になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

バイオメカニクスで用いる基礎的な力学について学び、キネマティクスおよびキネティクスにおける解析について概説する。また、キネマティクスおよびキネティクス以外のバイオメカニクスの手法についてもその概要と分析方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、授業の流れを概説	ガイダンス、授業の流れを概説
2	力学の基礎	力とスカラー量・ベクトル量
3	力学の基礎	力と運動
4	力学の基礎	変位・速度・加速度
5	力学の基礎	並進運動の力学
6	力学の基礎	回転運動の力学
7	キネマティクスの分析	分析方法の基礎
8	キネマティクスの分析	分析方法の応用としての事例検討
9	キネティクスの分析	分析方法の基礎
10	キネティクスの分析	分析方法の応用としての事例検討
11	筋電図	分析方法の基礎
12	筋電図	分析方法の応用としての事例検討
13	バイオメカニクスの研究例	研究デザインからみた事例検討
14	バイオメカニクスの研究例	研究の実践としての事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じ授業中に適宜指示する。

【参考書】

「スポーツバイオメカニクス」深代千之他編著 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

力学の基礎においては、文系出身者にでもわかるよう比較的簡単な具体例も用いる。

【その他の重要事項】

ただし、授業の展開によって若干の変更があり得る

【Outline and objectives】

To learn that sports motion is an interaction between articulation and external forces such as gravity and ground reactive force.

To learn basics of the Newton mechanics in sports

HSS200IA

体力測定・評価論

佐藤 祐輔、泉 重樹

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

旧うか科目名：体力測定・評価 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツや健康運動の指導者、またアスレティックトレーナーに必要な広義の体力評価について、その意義と考え方を学んだ上で、評価に必要な検査内容や方法、さらに動作の観察・分析の目的と意義を理解し、習得することを目的とする。講義全体を通して、各評価項目から総合的な問題点の抽出までのプロセスを学ぶ。

【到達目標】

- ・各種測定の目的、方法の意義や理解、測定に基づいた評価方法について理解する。
- ・各年代、体力レベルなど対象者に適した測定・評価方法の選択や考案方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、体力とは何かを理解し、健康運動指導の際に必要なフィールドテストを様々な年代に対して実践できるようになるための知識や技術を理解する。そして後半は、アスレティックトレーナーにとって必要な評価や検査・測定方法を講義する。基本的には傷害のないスポーツ選手の動作を見る際に基本となる形態および静的・動的な評価の意義と方法の理解が講義の中心となる。
なお、本授業は講義科目であるが、実際に測定方法を自身の手で行う（体験する）こともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	体力と運動能力の測定法（1）	体力測定の活用法を理解し、標準得点を用いた評価方法を習得して、健康づくりに生かせる結果の返却の手順について講義する。
2	体力と運動能力の測定法（2）	適正な体力測定の条件を理解し、加齢に伴う変化および性差を説明する。また、全身持久力、柔軟性、敏捷性、平衡性の測定および評価の方法について講義する。
3	フィールドテスト	フィールドテストの正しい方法、安全性への配慮、評価のあり方について理解し、性・年齢別に 5 段階または 10 段階に評価できる方法について講義する。
4	高齢者の体力測定	老化（加齢）に伴う全身持久力の低下の原因、低下パターン、低下を抑制する運動トレーニングの意義を解説し、最大酸素摂取量の測定（直接法と間接法）における測定補助と測定値の評価の方法について講義する。
5	介護予防に関する体力測定とその評価	介護予防に向けた体力や生活機能の保持の重要性に関して解説するとともに、一般の健康高齢者、要支援や軽度の要介護高齢者（二次予防対象者：従来の呼称は特定高齢者）を正しく把握する手法について講義する。
6	身体組成の測定	筋肉、骨、脂肪組織といった身体組成の概念、それらの測定方法と限界、測定方法の違いによる結果の差異、測定結果の解釈（データ分析の方法）について講義する。
7	身体活動量の定量	エネルギー代謝、エネルギー必要量、エネルギー消費量とその測定法と、それらの違いについて理解するとともに、身体活動量について講義する。
8	情報の聴取、姿勢・アライメントの評価	HOPS、SOAP ノートの作成、姿勢・アライメント計測の目的と意義および具体的な方法について講義する。

9	筋萎縮・関節弛緩性の評価	筋萎縮および関節弛緩性の計測の目的と意義および計測方法について講義する。
10	関節可動域測定	関節可動域測定の目的と意義を講義により理解する。
11	筋タイトネス評価	筋タイトネス評価の目的と意義を講義により、さらに筋タイトネス評価の方法について実技を交えつつ、講義する。
12	徒手筋力検査	徒手筋力検査の目的と意義を理解し、具体的な方法については実技を交えながら、講義する。
13	整形外科的理学検査 1	手・肘・肩関節、頸部のスペシャルテストについて講義する。
14	整形外科的理学検査 2	腰部・股・膝・足関節のスペシャルテストについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

機能解剖学および生理学・運動生理学の知識が必須となるため、復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

授業で必要となる資料は、授業支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】

健康運動指導士養成講習会テキスト（上巻）（財）健康・体力づくり事業財団
健康運動指導士養成講習会テキスト（下巻）（財）健康・体力づくり事業財団
日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価
山本利春、測定と評価、ブックハウス HD
C Starkey, J Ryan 著、中里伸也 監訳、スポーツ外傷・傷害評価ハンドブック、NAP
宮永豊他、アスレティックトレーナーのためのスポーツ医学、文光堂
J. Gross, J. Fetto, E. Rosen 著 石川斉、嶋田智明 監訳、筋骨格系検査法 [第 2 版]、医歯薬出版株式会社、2005
STANLEY HOPPENFELD : 図解 四肢と脊柱の診かた、医歯薬出版株式会社、2003
他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に実施する期末試験（80%）：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験。
提出物（20%）：期限内に提出された課題等の評価。

【学生の意見等からの気づき】

実際に測定方法を自身の手で行う（体験する）ことにより、理解が進むようである。本年度もこの部分にはできる限り取り組んでいきたい。
履修者が多いために、体験（実習）場面では時間がかかる場面がみられていた。学生の主体的な取り組みを期待したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

【Outline and objectives】

The purpose of this lesson is to learn the significance and point of view about the physical fitness in the broad sense required in sports and health exercise leaders and athletic trainers, and then to understand and acquire the examination contents and methods necessary for evaluation and the purpose and significance of observation and analysis of movements.

SOM2001A

学校保健

鬼頭 英明

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、学校における児童生徒及び学生等の健康課題について理解を深めることである。

学校保健とは何か、具体的な領域構造を学ぶ。その上で、どのように学校環境を維持すべきか、またどのような指導を行う必要があるかを理解できるようにする。学校保健の主体とは誰なのかを認識し、そのためにどのような取組が必要なのかを自ら考えられるようにすることが最終目標である。

【到達目標】

学校保健の構造について理解し、学校保健がどのような法律によって裏付けされているのかを理解できるようにする。また、学校保健を支える関係者の存在について認識し、役割が理解できるようにする。保健管理の柱となる健康診断や健康観察の重要性、心の健康問題の背景を理解することで、心身の健康課題の解決に繋げられるようにする。一方の学習環境については、学習能率の向上や情操の陶冶にとっても重要であることが理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用し、双方向で理解の程度に合わせて進めることとする。必要に応じ、課題解決のためのディスカッションを行う。学校環境衛生については内容に応じ、実習を行う場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論	学校保健を見渡す。
2	学校保健の構造	保健管理、保健教育、組織活動について概説する。
3	法律と行政	学校保健安全法、学校保健行政について概説する。
4	学校保健関係職員	学校保健に関わる職種について概説する。
5	学校三師	学校三師について個別に詳述する。
6	健康観察と保健指導	健康観察の意義について概説する。
7	健康診断	健康診断の重要性について概説する。
8	学校における感染症	学校で対応すべき感染症について詳述する。
9	組織活動の意義	学校保健委員会等、組織活動の重要性について詳述する。
10	学校環境衛生基準	学校環境衛生活動について詳述する。
11	保健教育・健康教育	学校における保健教育の構造について概説する。
12	喫煙、飲酒防止教育	喫煙、飲酒防止教育の重要性について詳述する。
13	薬物乱用防止教育	薬物乱用防止教育の重要性について詳述する。
14	性教育	性教育の進め方について詳述する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に課すレポート課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

学校保健マニュアル（南山堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、レポート課題 20 %、平常点 10 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を積極的に取り入れるようにする。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is for students to understand school health and gain find the solution to a challenge for health problems.

ECN2001A

スポーツ産業論

吉田 政幸

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ産業には、スポーツ用品産業、スポーツサービス産業、スポーツ施設産業、およびそれらの複合領域であるスポーツ関連流通業と施設・空間マネジメント業が含まれる。本講義ではこれらの産業領域の代表的な事例を取り上げながら各領域の市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学ぶ。

【到達目標】

スポーツ産業で事業に携わる者は社会情勢やトレンドを踏まえながら、スポーツという文化的活動を産業化させていかなければならない。受講後、履修者は以下の点について説明することができるようになる：

- (1) スポーツ産業の構造および現状
- (2) スポーツ用品産業、施設産業、サービス産業、メディア産業の市場規模および特徴
- (3) 米国大学スポーツの歴史の変遷、概要、産業規模
- (4) スポーツ産業のサービス産業化の中で成長を遂げるスポーツイベント業、スポンサーシップ、スポーツツーリズムなどの概念、仕組み、特徴

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業はテキスト（スポーツ産業論、第 6 版）を用いてスポーツ産業について総合的に学習する。授業は講義形式であり、受講者は事前に指定された章を読んで授業に参加する。毎回の講義の最初に発表される学習課題について深く考えながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツ産業の構造と現状	20 世紀後半に急速な発展を遂げたスポーツ産業の歴史の変遷、構造、現状について学習する。
第 2 回	スポーツ用品産業	スポーツ用品産業の市場規模と流通構造について学習するとともに、近年「製造業、卸売業、小売業」の三層構造に生じた業態変化について理解を深める。
第 3 回	スポーツ施設産業	日本を代表するスタジアムやアリーナを例に、スポーツ施設産業の現状、施設整備の方法、現在抱える問題について学習する。
第 4 回	スポーツサービス産業	スポーツプロダクトのサービス特性を理解するとともに、スポーツサービス産業の中でも特にフィットネス産業に着目し、市場規模および事業の特徴について学習する。
第 5 回	スポーツとメディア産業	スポーツに関連するメディア産業の体系と経済規模を踏まえた上で、人々がメディアを通じてスポーツとの関わりを深める現状について学習する。
第 6 回	日本のプロスポーツビジネス	日本のプロスポーツを代表するプロ野球と J リーグを例に、プロスポーツビジネスの収入構造、支出構造、プロダクト特性について学習する。
第 7 回	米国のプロスポーツビジネス	米国には 4 大メジャーリーグと呼ばれるプロスポーツがある。本授業ではその概要や集客力に加え、独自の戦力均衡策や地域との関係について学習する。
第 8 回	米国のカレッジフットボールビジネス	米国の大学スポーツは一大産業であり、その中でも特に成功を収めているのがカレッジフットボールである。その統括団体である NCAA の役割と構造に加え、カレッジフットボールの成長の背景について学ぶ。

第 9 回	米国のカレッジバスケットボールビジネス	米国のカレッジバスケットボールは日本の甲子園に似ていると言われる。毎年 3 月になると全米中を熱狂させる大学バスケットの歴史の変遷、概要、産業規模について理解を深める。
第 10 回	サービス業としてのスポーツサービス	成熟社会では経済活動の中心がモノ（有形財）からサービス・経験（無形財）へと移行する。本授業ではスポーツビジネスにおけるサービスの役割を理解するとともに、スポーツプロダクト、ブランド、関係性の提供を通じた価値の創造について学習する。
第 11 回	参加型スポーツ産業	わが国において、毎週スポーツを実施している人の割合は約 4 割である。本授業ではスポーツの実施状況に加え、こうした「するスポーツ」の事業化がスポーツ振興とどのように関わっているか学習する。
第 12 回	スポーツツーリズム	スポーツイベントの開催では、開催都市に大勢の参加者や観戦者が集まることから観光業としての役割がある。ここではスポーツツーリズムの概念、仕組み、そしてスポーツツーリストの特徴について学ぶ。
第 13 回	スポーツスポンサーシップ	世界のスポンサーシップ市場の約 7 割をスポーツが占める。企業がスポーツへの協賛を通じて商業活動を行うスポンサーシップについて、市場規模、協賛の仕組み、スポンサー獲得のプロセスについて学ぶ。
第 14 回	スポーツと社会的責任	多くのスポーツチームや選手たちが東日本大震災の被災地復興支援に取り組んでいる。スポーツ界だからこそ果たすことのできる社会的役割があり、これはスポーツ組織の社会的責任と深く関係している。今回はその概念規定、種類、特徴について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者はテキスト（スポーツ産業論、第 6 版）の指定された章を読み、内容について予習するとともに、予め疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

原田宗彦（編）（2015）スポーツ産業論（第 6 版）。杏林書院：東京。

【参考書】

仲澤眞・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング。ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

学期前半の内容に関する小テスト：40 点

期末試験：50 点

米国の大学スポーツに関するレポート：10 点

合計：100 点

【レポートの評価基準】

10 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。

8 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。

6 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。

4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いつながら書いている。

2 点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】

履修者がリアクションペーパーに記入した疑問や質問について、授業内で議論したいと思います。

【その他の重要事項】

テキストに沿って授業を行います。2 週目以降は事前に指定された章を読んできてください。

【Outline and objectives】

The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry.

ECN2001A

スポーツビジネス論Ⅱ

伊藤 真紀

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメントの基礎となる理論「スポーツをサービスとしてとらえ、スポーツ組織がスポーツサービスを効率的に生産し（プロダクション）、交換する（マーケティング）ために、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）および周辺環境をコーディネート（調整）すること」を総合的に学ぶ。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. 「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグラウンドを踏まえた上で、説明できる
3. マネジメントの知識の有無がスポーツにおいて何を变えるのかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面から理解するため、経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論、コミュニケーション理論の基礎を、事例を交えながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	マネジメントとは	マネジメント（基本と原則）を学ぶ
3	スポーツマネジメントの基礎	スポーツマネジメントの定義 スポーツマネジメントの歴史的発展
4	いかにヒトを動かすか 1 Human resource management (人材マネジメント) とは	人材マネジメントの諸機能、戦略的的人的資源管理 (SHRM) 職務満足について理解する。
5	いかにヒトを動かすか 2 リーダーシップ理論	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
6	いかにヒトを動かすか 3 モチベーション理論	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
7	スポーツにおけるモノ、カネ 1	パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュスポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。
8	スポーツにおけるモノ、カネ 2	スポーツリーグ運営について スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。
9	スポーツにおけるモノ、カネ 3	スポーツチーム運営について スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。
10	スポーツにおける情報 1	諸外国のスポーツリーグ・チーム運営について スポーツ組織とメディアリレーション 【スポーツ組織におけるメディア展開】
		スポーツ組織におけるメディア戦略 【スポーツメディア戦略とは？ 戦略の立て方】
11	スポーツにおける情報 2	メディアにおけるブランド・イメージ戦略【戦略的なブランドコミュニケーション開発、広告 PR、メディア選択】
12	スポーツにおける情報 3	メディアにおける危機管理対応【危機管理マネジメント戦略】
13	スポーツにおける情報 4	企業の社会的責任とスポーツ【スポーツを使った Corporate social responsibility (CSR) 事例研究】
14	まとめ	これまでの授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。

【テキスト（教科書）】

講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】

授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業への積極的な参加態度（20 %）、リアクションペーパーの内容（30 %）、レポートの内容（50 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

海外におけるスポーツビジネスに関する事例を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

We will comprehensively learn the theory that forms the basis of sports management "To capture sports as a service, and coordinate the management resources (human resource, goods, capital, information) and the surrounding environment in order for the sports organizations to efficiently produce sports services (production) and exchange (marketing).

SOM2001A

予防医学概論

瀬戸 宏明

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

旧うか科目名：スポーツ医学概論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体に関する基礎的学問分野の成果を包括的に活用し、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマをの基礎を学ぶ。身体機能に関する基礎的事項を理解したうえで身体活動・運動が健康に及ぼす影響を理解することを目標とする。

【到達目標】

スポーツ医学が扱う広範な分野を把握し、関連する定義、疫学、病態生理を理解する。健康管理や身体トレーニングの実践において必須となる、身体活動、運動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。基本的なスポーツ外傷・障害や救急処置を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

予防医学、健康科学の基礎的事項に加え、本講義は、内科、整形外科を中心とした臨床分野に応用され、幼児から高齢者、健康者から疾病保有者を幅広く対象とするスポーツ医学の概観を理解することを目的とする。その導入としては身体活動・運動と健康との関わりを理解することから始まる。基本的な身体機能の理解と、様々なスポーツ障害やその予防について学習する。疫学に代表される社会医学分野の事項も扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	スポーツ医学について説明し、健康管理、スポーツ活動などに関連するスポーツ医学分野のトピックスを紹介する。
2	スポーツと健康	運動習慣、スポーツ活動が健康増進に果たす役割を学習し、健康管理有用な運動処方、運動の種類、強度などの指標を理解する。
3	運動基準・運動指針	身体活動・運動および体力と健康との関係についての概念を確立し、「健康づくりのための身体活動基準 2013」などの内容を紹介する。
4	生活習慣病と運動疫学	生活習慣病の概念を理解し、予防施策における疫学研究の意義、運動疫学の意義および手法について。
5	健康の概念、医事法規	健康とは何かについて、世界保健機構の宣言、オタワ憲章の概念を参照して理解する。健康管理に関連して医療関係法規を学習する。
6	生活習慣病概論	生活習慣病とは何か、生活習慣病に含まれる疾病を概念的にとらえ、運動習慣等による予防、治療について包括的に学習する。
7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給	呼吸器官、心脈管系の構造と機能について理解し、一過性運動時の換気応答、脈管系の応答について学習する。また、その背景となる運動時の筋活動に対するエネルギー供給機構の基礎を学ぶ。
8	内科的メディカルチェック	スポーツを実践する人の健康管理を理解し、内科的メディカルチェックの項目（問診、理学所見、血液検査、心電図、運動負荷試験など）を学習する。
9	整形外科的メディカルチェック	スポーツ活動時の運動機能の評価とスポーツ障害の管理を目的とした整形外科的メディカルチェックについて学習する。
10	内科的障害と予防	スポーツによる内科的な急性・慢性の障害について学ぶ。突然死、熱中症、貧血、オーバートレーニング症候群などを取り上げ、予防、治療について紹介する。

11	運動器退行性疾患	加齢に伴う運動器疾患の病態を理解して適切な身体活動による進行防止や運動指導の意義を理解する。
12	外科的障害 上肢	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる上肢の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
13	外科的障害 下肢（膝を含む）	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる下肢の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
14	外科的障害 脊椎	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる脊椎の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回テーマにおけるキーワードについて予備知識をあらかじめ学習すること。例えば、生活習慣病とは何か？ など。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

スポーツ医学研修ハンドブック（日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会監修、文光堂、2004年）

【成績評価の方法と基準】

単位認定試験（原則 100 %）

理解度確認のためにレポート作成を適宜実施することがある。

【学生の意見等からの気づき】

適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマの基礎を講義する。

【Outline and objectives】

A purpose of this lecture is to learn the following things

- 1: study basic knowledge about preventive medicine and sports injuries
- 2: learn the influence that physical activity and exercise give to health

SOM2001A

公衆衛生学

鬼頭 英明

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、健康問題を集団として取り扱い、科学的根拠に基づいて、その背景や課題解決の方策について理解を深めることである。

授業は、地域や国などの単位で統計的に健康問題を捉えるとともに、年齢、性や職業などの視点でも理解を深め、集団が抱える課題を追求していく。また、疾病や健康の要因について、どのように絞っていくかを、科学的な根拠に基づいて明らかにすることの重要性について理解できるようにする。様々な健康情報が飛び交う中で、適切な意思決定や行動選択がどのようになされるべきかを学ぶ。社会人として、生涯を通じた健康の保持増進のためにどう考え、実践すべきかを学ぶことである。

【到達目標】

疾病予防のためにどのような方策が重要であるか、行政など社会が果たす役割とは何かについて理解できるようにする。さらに、生涯を通じての健康的なライフスタイル形成のためにできることは何かについて、自分自身ばかりでなく社会に対しても働きかけることができることを目指す。また、保健体育科教員として学校現場で効果的な「保健」の授業ができる基盤となる知識が獲得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使用して進める。双方向の授業進行となることに留意。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論	公衆衛生学の全体を見渡す
2	保健統計／その意義	保健統計が示す国民の姿から、その意義を捉える。
3	保健統計／人口統計	人口静態統計及び人口動態統計について詳述する。
4	保健統計／死因統計	死因別死亡率や悪性新生物による死亡率について概説する。
5	生命表の意義	生命表、平均寿命及び平均余命について概説する。
6	疫学概論	疫学とはどのような学問なのかについて概説する。
7	疫学の歴史	疫学的なアプローチについて過去の事例を紹介し、その意義を詳述する。
8	コホート研究	コホート研究について詳述する。
9	症例対照研究	症例対照研究の意義について詳述する。
10	健康と疾病の概念	健康及び疾病の概念、および一次予防の重要性について概説する。
11	感染症と対策	感染症の今日的課題について概説する。
12	母子保健	母子保健の重要性と課題、思春期の性に関する健康課題について概説する。
13	高齢者保健	高齢者の健康課題について概説する。
14	労働衛生	労働衛生の意義、及び題について概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に出すレポート課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

なし（授業時にパワーポイント資料等を配付する）

【参考書】

国民衛生の動向 2015 / 2016（厚生労働統計協会）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、レポート課題 20 %、平常点 10 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を積極的に取り入れる。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is for students to understand the public health based on the evidence.

HSS100IA

運動療法総論

安藤 正志、林田 はるみ

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動を行うことによりどのような生体反応が得られるのかを理解し、運動療法の理論的背景と実施方法について学ぶ。

【到達目標】

運動療法の基礎的知識と基本的技術を獲得する。特に筋骨格系の障害に対する測定法と対処法を中心にその概念を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

運動療法の基本的原理と適応について学ぶ。運動療法の効果について学ぶ。運動療法のリスクについて学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	運動療法とは	資料を通して運動療法の歴史・定義と目的・運動療法の対象などを解説する
2	運動が生体に及ぼす影響	運動が筋骨格系に及ぼす影響を解説する
3	運動が生体に及ぼす影響	運動が循環器系に及ぼす影響を解説する
4	運動療法の効果判定の仕方（筋力）	筋力の変化を測定する方法を解説し実際に行う
5	運動療法の効果判定の仕方（筋力持久力）	筋持久力の変化を測定する方法を解説し実際に行う
6	運動療法の効果判定の仕方（柔軟性）	柔軟性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
7	運動療法の効果判定の仕方（協調性）	協調性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
8	運動療法の効果判定の仕方（全身持久性）	全身持久性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
9	筋力強化のための運動療法	筋力強化のための運動方法を解説し実際に体験する
10	筋持久力強化のための運動療法	筋持久力強化のための運動方法を解説し実際に体験する
11	柔軟性のための運動療法	柔軟性を増加させるための運動方法を解説し実際に体験する
12	協調性のための運動療法	協調性を増加させるための運動方法を解説し実際に体験する
13	全身持久性強化のための運動療法	全身持久性を強化するための運動方法を解説し実際に体験する
14	運動療法総論のまとめと試験	知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を予習、復習する

【テキスト（教科書）】

特に定めず、資料を配付する

【参考書】

日本スポーツリハビリテーション学会 JSSR 認定トレーナーテキスト/JSSR 認定トレーナーテキスト編集委員会

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）：毎回の授業へ取り組む姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する

知識確認テスト（40 %）：学期の中間に行う

期末試験（40 %）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】

実例を示し、実技を適宜取り入れて理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

講義の途中に実技を行うことがあるため運動ができる服装で受講すること。また角度計、メジャーなどの使用が必要となる時には事前に指示する。

【その他の重要事項】

履修に際しての条件：機能解剖学が履修済みであること。運動療法は、解剖学、運動学、機能解剖学を理解していないと修得が困難である。授業ではこれらの科目で取り扱われた骨名、筋肉名、関節名、運動方向など基礎的知識が備わっているものとして運動療法学の概論を学ぶ。

【Outline and objectives】

This lesson, for understand what kind of biological response is obtained by exercise. In addition, for learn about the theoretical background and practice of exercise therapy.

HSS100IA

スポーツコンディショニング論Ⅰ

春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツに関連したコンディショニングおよびスポーツ医学の基本的事項について学ぶ。傷害予防、疲労回復を目的としたコンディショニング方法について、解剖学や運動学を理解し、テーピング、ストレッチ等の具体的なコンディショニングの手法を交え、知識を習得することを目的とする。また、スポーツ活動での実践が可能となるように、スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的な病気に理解した上で、アスリートの健康管理や傷害対策について考える講義内容である。

【到達目標】

1. コンディショニングおよびコンディショニングという言葉の意味とその内容について理解すること。
2. スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的疾患およびその救急処置について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとにリアクションペーパーを提出する。また、座学のみでなく実習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（コンディショニング科学総論）	本講義全体のガイダンスとして今後の予定を含め、コンディショニング（科学）についての総論に関する講義を行う。
2	アスリートの健康管理	日本におけるアスリートの健康管理体制およびメディカルチェックについての講義を行う。
3	アスリートの外傷・障害と対策（1）	アスリートの外傷・障害と対策として、外傷・障害の基礎知識を整理したうえで、下肢の外傷・障害についての講義を行う。
4	アスリートの外傷・障害と対策（2）	アスリートの外傷・障害と対策として、体幹の外傷・障害についての講義を行う。
5	アスリートの外傷・障害と対策（3）	アスリートの外傷・障害と対策として、頭頸部・上肢の外傷・障害についての講義を行う。
6	アスリートの内科的障害と対策	アスリートの内科的障害と対策を急性障害（突然死・意識障害・運動誘発性喘息など）、慢性障害（貧血・オーバートレーニングなど）、その他の障害（血尿・無月経など）に分け、講義を行う。
7	コンディショニングの手法（1）	コンディショニングの手法として、ストレッチングの背景・現状・実際の方法についての講義を実習を交えながら行う。
8	コンディショニングの手法（2）	コンディショニングの手法として、テーピングの背景と実際の方法についての講義を実習を交えながら行う。
9	コンディショニングの手法（3）	コンディショニングの手法として、テーピングおよびアイシングの理論と方法についての講義を実習を交えながら行う。
10	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画	アスレティックリハビリテーションとは何かから講義を始め、実際のリハビリテーション（トレーニング）の考え方についての講義を行う。
11	特殊環境下での対応	特殊環境下での対応として、暑熱対策・寒冷対策・高地対策・時差対策等の講義を行う。
12	スポーツと栄養	コンディショニングに必要なスポーツと栄養についての基本的事項を概説する。

- 13 アンチドーピング アンチドーピングの基礎として、歴史的背景から世界および日本のアンチドーピング機構とその対応について概説する。
- 14 試験 筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし
第2～14回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に使用しないが、講義資料は授業支援システムから各自がダウンロードすることとする。

【参考書】

1. 日本体育協会編、公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ
2. 日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング
3. 日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション
4. 初山日出樹総監修、臨床スポーツ医学、医学映像教育センター

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点（授業内レポート） 40%
(2) 期末試験 60%
で評価を行う。

なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

「コンディショニング」というと漠然としたイメージしか持たれていないようである。実際の現場での体験や具体的な方法を紹介しながら、コンディショニングの重要性を理解し身近なものとして捉えられるよう、授業内容を模索したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand the basic concepts of sports medicine. By applying the knowledge of human anatomy and kinesiology, students will be able to learn the methods of strength and conditioning that will minimize the risk of injury and optimize recovery time for athletes. This course will also discuss the common injuries and diseases that occur during training so that students will be able to apply their knowledge into actual practice.

HSS100IA

アスレティックトレーナー概論

泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスレティックトレーナーの役割とその業務を理解することが第一の目的である。日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を理解する。AT の組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなど様々な分野の専門家といかに連携をとって選手をサポートしていくかなど AT が現場で活動する上で必要な知識を養う。さらに一社会人として活動していくうえで、社会的秩序や倫理観を身につける。

【到達目標】

「アスレティックトレーナー」という仕事・役割を、欧米・アジアと日本、各競技、各種資格や各種スポーツ現場における役割などによる違いを通して理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式が中心となるが、パワーポイントや VTR 等の画像資料を用いた実際の事例を用いながら、個々の意見発表の場をできる限り設けていきたい。講義の後半部分では、外部講師による特別講演も 2 回予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	AT の歴史と現状	日本における AT の歴史および現状、諸外国における AT に相当する制度の現状について講義する。
2	AT の任務と役割	AT の任務と役割について、日本における歴史と現状を踏まえて講義する。
3	AT の業務	AT の具体的な業務について、できるだけ多くの事例を示しながら紹介していく。
4	AT の活動 1	AT の実際の活動の具体例として合宿・遠征を取り上げ、各競技種目による業務の違いなども明らかにしていく。
5	AT の活動 2	AT の実際の活動として競技別に取り上げる。特に個人競技における AT の具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
6	AT の活動 3	AT の実際の活動として競技別に取り上げる。特に球技における AT の具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
7	AT の活動 4（外部講師の招聘）	AT の実際の活動として競技別に取り上げる。特にサッカー競技における AT の具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
8	医科学スタッフの構成と役割 1	医科学スタッフの構成と役割として、スポーツに関わる医科学スタッフとその役割について概説する。
9	医科学スタッフの構成と役割 2	医科学スタッフの構成と役割として、スポーツドクターとの連携・協力について、スポーツドクターの役割を示しながら概説する。
10	医科学スタッフの構成と役割 3	医科学スタッフの構成と役割として、コーチングスタッフとの連携・協力について、具体的な事例から役割の違い等を明らかにしながら概説する。
11	AT の組織と運営 1（外部講師の招聘）	AT の組織と運営について、トレーナーチームとその業務、活動現場の運営計画、安全対策などを講義する。
12	AT の組織と運営 2	AT の組織と運営について、競技者のコンディショニングに関するデータの管理方法およびその実際について概説する。
13	AT と倫理 1	AT と倫理として、AT の社会的な立場、AT を取り巻く環境について考える。

14 AT と倫理 2

AT と倫理として、米国アスレティックトレーナー協会の倫理要綱等を参考にしながら、医療関係法規、法的諸問題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

・日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 1 アスレティックトレーナーの役割
・各回の授業内容は、授業支援システムから各自ダウンロードすることとする。

【参考書】

1. 平井千貴，八田倫子，鈴木岳訳，アスレティックトレーニング，ブックハウス HD
2. トレーニングジャーナル（月刊誌），ブックハウス HD
3. コーチングクリニック（月刊誌），ベースボールマガジン社
4. スポーツメディスン（月刊誌），ブックハウス HD
5. 臨床スポーツ医学（月刊誌），文光堂
6. 日本スポーツ医学検定機構，スポーツ医学検定公式テキスト 1 級，東洋館出版社，2019

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）および授業内レポート（50%）により総合的に評価する。
平常点：各回の出席と授業における発言や授業支援システムへの解答を考慮する。
授業内レポート：授業内に与えたレポート課題を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、「アスレティックトレーナー」という仕事に対する漠然とした理解から、具体的な「仕事」として理解できる機会として機能しているようである。
アスレティックトレーナーを目指す目指さないに関わらず、スポーツに関わる必須の役割であるこの仕事を理解するためのきっかけの一つとして機能するような授業を心掛けたい。アスレティックトレーナーを目指しているものはもちろんであるが、スポーツを仕事にしたいと考えてはいるものの、アスレティックトレーナー以外の役割を目指したいと考えている人にもこそ、受講してもらいたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

【Outline and objectives】

The primary objective is to understand the role of athletic trainers(AT) and their work. Students learn the historical background of the birth of Japan's AT and the background of the establishment. Students also touch on the activities of AT and learn about the positioning and administration at the sports scene.

HSS100IA

Health and Exercise Sciences

笹井 浩行

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

College students face a number of health hazards such as unhealthy dietary pattern, lack of physical activity, poor sleep quality, excessive alcohol consumption, cigarette smoking, and inappropriate sexual behaviors. This course discusses basic knowledge, understanding, attitudes and skills for adopting healthy behaviors. In addition, student will learn how to choose reliable health-related information provided from mass media, and interpret them properly.

【到達目標】

The students will be expected to:

1. Understand the concept/definition of health.
2. Learn college-age determinants of health.
3. Gain lifelong foundations of skills and attitudes for maintaining/enhancing health.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Lectures, homework assignments, and the final presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Fall semester

回	テーマ	内容
1	Orientation and definition of health	Overview of this course, grading policy, and definition of health by the WHO.
2	Health hazards in college life	Overview of college-age health hazards
3	Healthy eating	Dietary reference intake, macro- and micro nutrients, PFC balance, and the balance guide
4	Exercise and physical activity	Definitions of exercise and physical activity, total energy expenditure and its components, and metabolic equivalent
5	Sedentary behavior	Definition of sedentary behavior, detrimental association of sedentary behavior with health, and sedentary-reducing interventions
6	Weight management	Health risks of overweight and obesity, energy restriction, weight loss and maintenance programs
7	Sleep	Optimal sleep duration, measurements of sleep patterns, sleep quality and health, and tips for good sleep
8	Mental health	Mental disorders, suicide prevention, and stress management
9	Sexual and maternal health	Sex-transmitted diseases/infections, and contraceptives, Stages of pregnancy, pregnancy complications, gestational weight gain, abnormal labor, and postpartum issues
10	Alcohol intake	Alcohol intake and health, optimal amount of alcohol intake, and chugging avoidance
11	Tobacco smoking	Smoking and health, types of smoking, secondhand smoking, and smoking policy
12	Drug abuse	Types of illegal drugs, risky drugs, abuse, and dependence
13	Health literacy	Interpretation of health-related information, and web search tips

14 Final student presentation

Students will have a presentation session regarding an original research article related to human health.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assignments will be provided a few times per semester.

【テキスト（教科書）】

None. Handouts will be distributed to students as needed.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

20% attendance, 40% homework assignment, and 40% final presentation.

【学生の意見等からの気づき】

Class contents can be modified according to student's comments and level of understanding.

【学生が準備すべき機器他】

None.

【その他の重要事項】

An active contribution to the class is greatly encouraged.

【Outline and objectives】

College students face a number of health hazards such as unhealthy dietary pattern, lack of physical activity, poor sleep quality, excessive alcohol consumption, cigarette smoking, and inappropriate sexual behaviors. This course discusses basic knowledge, understanding, attitudes and skills for adopting healthy behaviors. In addition, student will learn how to choose reliable health-related information provided from mass media, and interpret them properly.

HSS200IA

リハビリテーション概論

昇 寛

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リハビリテーションとは何か、リハビリテーションの分野や提供する技術者を理解する。また障害者の日常生活動作や障害者の道具を実際に体験することで理解を深める。

【到達目標】

リハビリテーションの基本的知識と技術を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

特に医学的リハビリテーションについての理解を深めるために実技を踏まえながら講義を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	リハビリテーション定義、分野、職種	リハビリテーション定義、分野、職種
2	リハビリテーションの適応となる病気と障害構造	リハビリテーションの適応となる病気と障害構造
3	障害者体験	関節拘縮、筋力低下、視力障害、聴力障害体験
4	車いす杖など使用体験	車いす、松葉杖、盲人用杖体験
5	介助テクニック	車いす介助法、トランスファーテクニック、歩行介助
6	医学的リハビリテーション	理学療法、作業療法、言語聴覚療法
7	物理療法の実習と体験	赤外線・ホットパック
8	物理療法の実習と体験	寒冷療法
9	物理療法の実習と体験	マイクロウェーブ・低周波治療・超音波療法
10	整形外科疾患のリハビリテーション1	整形外科疾患（主に上肢の障害）のリハビリテーション
11	整形外科疾患のリハビリテーション2	整形外科疾患（主に下肢の障害）のリハビリテーション
12	内部障害のリハビリテーション	内部障害のリハビリテーション
13	循環器疾患のリハビリテーション	循環器疾患のリハビリテーション
14	スポーツ障害のリハビリテーション	スポーツ障害のリハビリテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

P T ・ O T ・ S T ・ ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論

要点整理と用語解説 改訂第3版

編著 椿原彰夫

【参考書】

特に定めず

【成績評価の方法と基準】

平常点と定期試験との合計点で評価（6割以上が合格）。出席日数が不足*している場合には定期試験を受けても採点対象になりません。*原則として全講義に出席してください。やむを得ない理由で休まなければならない場合には事前あるいは事後必ず相談してください。その理由により別課題を課すことで、全講義の1/3回まで認めることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

実技をより多く取り入れ理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

履修に際しての注意：運動療法総論を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】

It aims to understand what rehabilitation is. Understand the field of rehabilitation and technicians to provide. We also experience the daily living behavior of disabled people and the tools of persons with disabilities.

HSS200IA

健康と疾患

安藤 正志

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

旧うか科目名：健康科学Ⅱ [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体の仕組みと病気について理解する。病気と健康について理解する。

【到達目標】

代表的疾患を理解し健康の指標となる簡便な測定法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

代表的な病気や外傷について講義を行う。また視聴覚教材を通して理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	健康と疾患のすすめかた	健康と疾患の授業の概要
3	病気と外傷	病気と外傷（病気とは？ 外傷とは？ 障害とは？）
4	脳血管障害	脳血管障害（脳梗塞とは？ 脳出血とは？）
5	癌	癌（胃癌、大腸癌、肺癌）
6	心疾患	心疾患（心筋梗塞とは？ 心虚血性疾患とは？）
7	内部障害	内部障害（糖尿病とは？ 高脂血症とは？ 動脈硬化とは？）
8	神経筋疾患	神経筋疾患（パーキンソン病とは？ 脊髄小脳変性症とは？）
9	リウマチ	リウマチ（慢性関節リウマチとは？）
10	骨折	骨折（上肢の骨折、下肢の骨折、脊椎の骨折）
11	変形性関節症	変形性関節症（変形性膝関節症とは？ 変形性股関節症とは？）
12	腰痛症	腰痛症（急性・慢性腰痛症とは？ 筋膜性腰痛症とは？ 脊椎分離滑り症とは？）
13	肩関節周囲炎	肩関節周囲炎（好発する部位は？ その治療法は？）
14	スポーツ障害	スポーツ障害（筋や腱の障害、捻挫、靱帯損傷）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

P T・O T・S T・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論

要点整理と用語解説 改訂第 2 版

編著 椿原彰夫

【参考書】

特に定めず

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %・定期試験 60 % * 6 割以上で合格

定期試験を受けるには 10 回以上授業に出席してください。

欠席が多い場合は採点対象になりません。

【学生の意見等からの気づき】

専門的科目なので健康に対する基本的知識を習得したものが履修対象となる。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

履修に際しての条件：ヘルスデザイン論を履修済みであること。

【Outline and objectives】

Understand the structure and illness of the body.

Understand about diseases and health.

HSS200IA

スポーツコンディショニング論Ⅱ

春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義において「コンディショニング」および「コンディショニング」を理解することが目的である。コンディショニングの目的・要素・評価方法を学習する。競技力向上・傷害予防のためのコンディショニングにおけるアプローチ方法を理解し、現場に即したコンディショニングプログラムの立案ができる能力を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. 「コンディショニング」という用語のもつ多様な内容を理解すること。
2. 特に競技力向上のためのコンディショニング、傷害予防のためのコンディショニングでは、具体的な方法について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとにリアクションペーパーを提出する。また、座学のみでなく実習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・コンディショニング総論	ガイダンス、コンディショニングとは何かを学習する。
2	コンディショニングの要素（1）	コンディショニングの要素のうち、身体的因子について学習する。
3	コンディショニングの要素（2）	コンディショニングの要素のうち、環境的因子について学習する。
4	コンディショニングの要素（3）	コンディショニングの要素のうち、心理的因子について学習する。
5	コンディショニングの評価	コンディショニングの評価方法について学習する。
6	トレーニング計画とコンディショニング	トレーニング計画について学習する。
7	障がい者スポーツのコンディショニング	障がい者スポーツのコンディショニングについて学習する。
8	疲労回復を目的としたコンディショニング（スポーツマッサージ）	疲労回復を目的としたコンディショニング方法として、マッサージの歴史、現状を学習するとともに、具体的な方法を体験する。
9	傷害予防を目的としたコンディショニング（テーピング）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、テーピングの具体的な方法を、体験、習得する。
10	傷害予防を目的としたコンディショニング（ストレッチ1）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、下肢のストレッチの具体的な方法を、体験、習得する。
11	傷害予防を目的としたコンディショニング（ストレッチ2）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、体幹、上肢のストレッチの具体的な方法を、体験、習得する。
12	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング（筋力トレーニング）	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング方法として、筋力トレーニングの具体的な方法を体験、習得する。
13	ウォーミングアップとクーリングダウン	ウォーミングアップとクーリングダウンについて学習する。
14	テスト	筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング、日本体育協会

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点（授業内レポート） 40%

(2) 期末試験 60%

で評価を行う。

なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

講義科目ではあるが、授業の中で「コンディショニング」を体験する機会を設けているので、その部分が好評であった。このような体験を通して、「コンディショニング」を身近なこととして捉え、自身のスポーツ活動にも生かせるよう、授業内容を模索したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

「スポーツコンディショニング論Ⅰ」を履修してから本科目を履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to understand the theory of strength and conditioning. Students will learn the purposes of conditioning an athlete and the ways to grade their athletic performance. Students will learn the practices of creating a conditioning program that will enhance the performance of an athlete while preventing injuries. Students will be able to apply these concepts and give proper instructions to athletes at their respective sport.

HSS200IA

スポーツリスクマネジメント

木下 訓光

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じる身体の変異や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】

学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しう事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破滅的外傷、熱中症、感染症などの予防対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
- ③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
- ④ 各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ⑤ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
- ⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	「なぜ事故が起きるのか」 ースポーツ現場における ヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
2	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
3	スポーツと突然死（1）： 若年アスリート編	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。
4	スポーツと突然死（2）： 中高年編	中高年者の運動中の突然死について講義する。
5	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastrophic injury）、すなわち致命的頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。
6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。

8	「なぜスポーツしてはいけないのか？」ー競技スポーツ参加の可否判断	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。また寒冷、落雷などにともなう対策について学ぶ。
9	環境とスポーツ	
10	BLS (basic life support; 一次救命処置) & AED (自動体外式除細動器)	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外の人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	スポーツにおける感染症管理	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。
14	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 各回のテーマに沿った課題を授業内、あるいは授業支援システムを利用して適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
- ④ 下記【参考書】 蘭に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

- 第 1 回：『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）、（特に第 1 章～第 6 章）
小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）
※資料室収蔵
第 2 回：『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵
第 3 回および第 4 回：『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009 年 26 巻 11 号、（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 5 回：『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013 年改訂版）
『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015 年第 4 版）
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。
『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）※資料室収蔵
第 6 回：『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）
※資料室収蔵
『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）※資料室収蔵
『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか、スポーツ頭部外傷：“頭部外傷 10 か条の提言”から考える』（2016 年 33 巻 7 号）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 7 回：『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェッカー心臓突然死を未然に防ぐためにー
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェッカーその有用性と限界ー、p153-162.）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 8 回：木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題。1999 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.
(http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/99kiyo-kinoshita.pdf)
第 9 回：『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）

『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）

※以上、すべて資料室収蔵

『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本体育協会）

『夏のトレーニングガイドブック』（日本体育協会）

（いずれも <http://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid/776/Default.aspx#guide01> より閲覧可能）

『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会）

『雷対応マニュアル』（Jリーグ）

第10回：高木 修、『人を助ける心』（1998年、サイエンス社）。（特に第1章、第2章、第4章）

木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号（特に「BLSとAED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第11回：木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－。（1998年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/98kiyo-kinoshita.pdf）

木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害。臨床スポーツ医学。2014;31(9):858-867.

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第12回：『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学. <http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html>）

『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省, 2013）(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)

『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』

(<https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947>)

第13回：該当資料無し

第14回：日本アンチ・ドーピング機構 website (<http://www.playtruejapan.org/>). ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。

その他に下記の書籍などを追加的に参考にしてもよい。

・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies" (Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵

・小笠原正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）

※資料室収蔵

・入澤 充、『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011） ※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は検討できるだけの十分な回答数が得られていない。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise and sports.

HSS200IA

テーピング・コンディショニング指導論 I

春日井 有輝

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／3 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】

スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テーピング、ストレッチングの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本指導論に対するオリエンテーションを行う
2	テーピング総論	テーピングの目的・効果・有効性・種類と特性・名称について
3	テーピング各論 1 足部のテーピング	アーチのテーピング、母趾のテーピング、踵部のテーピング
4	テーピング各論 2 足関節のテーピング 1	足関節捻挫に対する基本のテーピング
5	テーピング各論 3 足関節のテーピング 2	足関節捻挫に対するテーピング（オープン・バスケットウィーブ、伸縮テープを併用した方法）
6	テーピング各論 4 足関節のテーピング 3	足関節の底屈制限、背屈制限のテーピング
7	テーピング各論 5 下腿のテーピング	アキレス腱のテーピング、下腿筋肉離れに対するテーピング、シンスプリントのテーピング
8	テーピング各論 6 膝関節のテーピング 1	膝関節前十字靭帯損傷に対するテーピング
9	テーピング各論 7 膝関節のテーピング 2	膝関節内側（外側）側副靭帯損傷に対するテーピング
10	テーピング各論 8 大腿部・股関節のテーピング	大腿部の肉離れ、股関節のテーピング
11	実技試験	実技試験（足関節捻挫に対する基本テーピング）
12	ストレッチング総論	ストレッチングの目的・基礎知識・種類と特徴・使い分けについて
13	ストレッチング各論 1（足部、下腿）	足部、下腿のストレッチング
14	ストレッチング各論 2（大腿）	大腿のストレッチング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストに目を通しておくこと。

授業で行った実技の復習をすること。

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング、日本体育協会、2007

【参考書】

日本トレーニング指導者協会編、トレーニング指導者テキスト実技編、大修館書店、2011

坂井建男・松村譲児監訳、プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系、医学書院、2007

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点 80%

(2) 実技試験 20%

で評価を行う。

なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

テーピングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に着けることができるよう、授業内容を模索したい。

【その他の重要事項】

・スポーツコンディショニング I を履修済みであることが望ましい。

・秋学期に開講されるテーピング・コンディショニング指導論 II も続けて履修することが望ましい。

・運動器解剖やスポーツ傷害の基礎的な知識が身につけていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to recognize and practice the proper methods of conditioning that aim to prevent trauma and disability, which is necessary for an athletic trainer and a sports instructor. Students will be able to design and instruct their own conditioning programs to the athletes.

HSS200IA

テーピング・コンディショニング指導論Ⅱ

春日井 有輝

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・実技

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 3 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】

スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング、アイシング等を利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テーピング、ストレッチング、アイシング、ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・アイシング	本指導論に対するオリエンテーション アイシングの概論と実践
2	テーピング各論 1 腰部のテーピング	腰部のテーピング
3	テーピング各論 2 体幹部に対するテーピング	腸骨稜打撲、肋軟関節分離に対するテーピング
4	テーピング各論 3 肩関節のテーピング 1	肩鎖関節捻挫、肩関節反復性前方脱臼に対するテーピング
5	テーピング各論 4 肩関節のテーピング 2	投球肩障害に対するテーピング
6	テーピング各論 5 肘関節のテーピング	肘関節内側（外側）側副靱帯損傷、肘関節過伸屈損傷に対するテーピング
7	テーピング各論 6 手関節・手部に対するテーピング	手関節捻挫、前腕部回内（回外）制限、母指、四指に対するテーピング
8	ストレッチング各論 1（股関節周囲）	股関節周囲のストレッチング
9	ストレッチング各論 2（腰部）	腰部のストレッチング
10	ストレッチング各論 3（頸肩部）	頸肩部のストレッチング
11	ストレッチング各論 4（上肢）	上肢のストレッチング
12	実技試験	実技試験（股関節周囲のストレッチング）
13	ウォーミングアップ・クーリングダウン	ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論的背景と実際
14	東洋医学とコンディショニング	東洋医学の概要と、コンディショニングへの活用について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストに目を通しておくこと

授業で行った実技の復習をすること

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング、日本体育協会、2007

【参考書】

日本トレーニング指導者協会編、トレーニング指導者テキスト実技編、大修館書店、2011

坂井建男・松村譲児監訳、プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系、医学書院、2007

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点 80%

(2) 実技試験 20%

で評価を行う。

なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

テーピングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に付けることができるよう、授業内容を模索したい。

【その他の重要事項】

・スポーツコンディショニング論Ⅰを履修済みであることが望ましい。

・春学期に開講されるテーピング・コンディショニング指導論Ⅱから続けて履修することが望ましい。

・運動器解剖やスポーツ傷害の基礎的な知識が身につけていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to recognize and practice the proper methods of conditioning that aim to prevent trauma and disability, which is necessary for an athletic trainer and a sports instructor. Students will be able to design and instruct their own conditioning programs to the athletes.

HSS200IA

テーピング・コンディショニング指導論

春日井 有輝

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・実技

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2～4 年次／ 3 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

旧うか科目名：テーピング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】

スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング、アイシング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期

テーピング、ストレッチングの方法と実際について実習を通して学ぶ。

秋学期

テーピング、ストレッチング、アイシング、ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本指導論に対するオリエンテーションを行う
2	テーピング総論	テーピングの目的・効果・有効性・種類と特性・名称について
3	テーピング各論 1 足部のテーピング	アーチのテーピング、母趾のテーピング、踵部のテーピング
4	テーピング各論 2 足関節のテーピング 1	足関節捻挫に対する基本のテーピング
5	テーピング各論 3 足関節のテーピング 2	足関節捻挫に対するテーピング（オーブン・バスケットウィーブ、伸縮テープを併用した方法）
6	テーピング各論 4 足関節のテーピング 3	足関節の底屈制限、背屈制限のテーピング
7	テーピング各論 5 下腿のテーピング	アキレス腱のテーピング、下腿部肉離れに対するテーピング、シンスプリントのテーピング
8	テーピング各論 6 膝関節のテーピング 1	膝関節前十字靭帯損傷に対するテーピング
9	テーピング各論 7 膝関節のテーピング 2	膝関節内側（外側）側副靭帯損傷に対するテーピング
10	テーピング各論 8 大腿部・股関節のテーピング	大腿部の肉離れ、股関節のテーピング
11	実技試験	実技試験（足関節捻挫に対する基本テーピング）
12	ストレッチング総論	ストレッチングの目的・基礎知識・種類と特徴・使い分けについて
13	ストレッチング各論 1（足部、下腿）	足部、下腿のストレッチング
14	ストレッチング各論 2（大腿）	大腿のストレッチング
15	オリエンテーション・アイシング	本指導論に対するオリエンテーション アイシングの概論と実践
16	テーピング各論 1 腰部のテーピング	腰部のテーピング
17	テーピング各論 2 体幹部に対するテーピング	腸骨稜打撲、肋軟関節分離に対するテーピング
18	テーピング各論 3 肩関節のテーピング 1	肩鎖関節捻挫、肩関節反復性前方脱臼に対するテーピング
19	テーピング各論 4 肩関節のテーピング 2	投球肩障害に対するテーピング
20	テーピング各論 5 肘関節のテーピング	肘関節内側（外側）側副靭帯損傷、肘関節過伸屈損傷に対するテーピング
21	テーピング各論 6 手関節・手部的なテーピング	手関節捻挫、前腕部回内（回外）制限、母指、四指に対するテーピング

22	ストレッチング各論 1（股関節周囲）	股関節周囲のストレッチング
23	ストレッチング各論 2（腰背部）	腰背部のストレッチング
24	ストレッチング各論 3（頸肩部）	頸肩部のストレッチング
25	ストレッチング各論 4（上肢）	上肢のストレッチング
26	実技試験	実技試験（股関節周囲のストレッチング）
27	ウォーミングアップ・クーリングダウン	ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論的背景と実際
28	東洋医学とコンディショニング	東洋医学の概要と、コンディショニングへの活用について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストに目を通しておくこと

授業で行った実技の復習をすること

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング，日本体育協会，2007

【参考書】

日本トレーニング指導者協会編，トレーニング指導者テキスト実技編，大修館書店，2011

坂井建男・松村譲児監訳，プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系，医学書院，2007

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点 80%

(2) 実技試験 20%

で評価を行う。

なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

テーピングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身につけることができるよう、授業内容を模索したい。

【学生が準備すべき機器他】

・運動器解剖やスポーツ傷害の基礎的な知識が身についていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to recognize and practice the proper methods of conditioning that aim to prevent trauma and disability, which is necessary for an athletic trainer and a sports instructor. Students will be able to design and instruct their own conditioning programs to the athletes.

HSS300IA

運動処方・負荷テスト

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動負荷テストの原理・方法と、有患者に対する運動処方の方法論。

【到達目標】

- ① 運動負荷テストの目的、適応、禁忌、合併症について理解する。
- ② 各種負荷方法および装置の特性など秋学期の実習に必要な実践的な知識を習得する。
- ③ 運動負荷心電図や心肺運動負荷試験の基本となる理論を理解する。
- ④ 目的・対象に応じた各種運動処方を行えることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② 前半は運動負荷テスト・運動処方の原理・方法論などの基礎を学習する。後半は各種疾患における運動負荷テスト・運動処方の実際について、病態生理、治療や運動のガイドラインに基づいて学習する事で、前半で習得した理論的基礎を応用的に習得する。
- ③ 後半では実際の症例に対する運動処方をレポートの課題として課す。
- ④ 講義はすべて医学的内容であるが、健康運動指導士が実践の場で扱う疾患とその理解を念頭に置いて構成され、必要最低限の基礎的理解を知識で習得できるよう配慮される。学習効果を上げるためには『運動生理学』や『スポーツ医学』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて受講する事が必須であると理解してほしい。
- ⑤ 『統計学』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの基礎	運動負荷テストの歴史、目的、方法、適応、設備などについて。
2	運動処方に必要な心電図の基礎	体表面心電図の電気生理学の基礎、12誘導およびモニター心電図の基礎について。
3	運動負荷心電図と判定	運動負荷心電図の原理・方法論、ST変化と不整脈、陽性、陰性、偽陽性、偽陰性、予後判定など。
4	運動負荷テストの適応と禁忌	リスクの層別化の考え方、メディカルチェックとスクリーニング、運動負荷テストの中止基準、インフォームドコンセント、安全対策、など運動負荷テストのリスクマネジメントについての医学的理解。
5	運動負荷テストのプロトコール	最適・最大の心肺応答を得るために必要な運動負荷プロトコールについての理論および代表的運動負荷プロトコールについて。
6	各種運動様式に対する心肺血管系の応答	動的・静的運動、定常・漸増負荷、全身・下肢運動などにおける心拍、血圧などの心肺血管系の応答について。
7	心肺運動負荷試験	心肺運動負荷試験の方法論、測定結果の評価法、最大酸素摂取量、いわゆるVT。
8	運動処方の原理と方法	用語、頻度、強度、期間設定、METS、など運動処方の原理・構造・方法を理解する。自覚的運動強度、心拍数、心肺運動負荷試験に基づく運動処方。
9	運動処方・負荷テスト各論（1）：心疾患	心臓病・肺疾患の病態生理、治療。心臓病・肺疾患患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
10	運動処方・負荷テスト各論（2）：高血圧	高血圧の病態生理、治療。高血圧患者の運動負荷テスト・処方における留意点。

11	運動処方・負荷テスト各論（3）：糖尿病	糖尿病の病態生理、治療。糖尿病患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
12	運動処方・負荷テスト各論（4）：肥満・メタボリックシンドローム	肥満・メタボリックシンドロームの病態生理、治療。肥満・メタボリックシンドローム患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
13	運動処方・負荷テスト各論（5）：ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症	ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症の病態生理、治療。ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症患者の運動負荷テスト・処方における留意点。特にレジスタンストレーニングの処方原理と具体について講義する。
14	運動処方症例検討	各疾患の実際の処方例について、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、**keyword, take-home message, summary** など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

・アメリカスポーツ医学会『運動処方の指針—運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）※資料室収蔵
 ・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。
 『A Practical guide to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』（Oxford University Press）※資料室収蔵

【参考書】

・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみるACSM ガイドライン』（ナッパ）※資料室収蔵
 ・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵
 ・Arthur C. Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）※資料室収蔵
 ・Gerard J. Tortora. 『トトラ人体の構造と機能』（丸善出版）※資料室収蔵
 ・小澤壽司 他. 『標準生理学』（医学書院）※資料室収蔵
 ・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）※資料室収蔵
 ・山地啓司. 『ここからからだを知る心拍数』（杏林書院）※資料室収蔵
 ・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）※資料室収蔵
 ・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみるACSM ガイドライン』（ナッパ）※資料室収蔵
 ・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵
 ・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院※資料室収蔵
 ・上嶋健治『運動負荷試験 Q&A119』（南江堂）※資料室収蔵
 ・安達仁『CPX - 運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド 改訂 3 版』（中外医学社）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。ただし授業中に提出を課したレポートを追加的に評価する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら運動負荷テストおよび有患者に対する運動処方の原理・方法について授業を行う。

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 『運動生理学』、『スポーツ医学 A』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて履修する事を強く勧奨する。
- ⑤ 『統計学 I』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic knowledge of exercise test and related cardiovascular physiology.

CIM300IA

スポーツ医学（内科系）

瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

旧うか科目名：スポーツ医学 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

内科系医学分と関連する様々なスポーツ障害とその病態生理、発症機序、予防、治療について講義する。各テーマと関連する基礎医学の内容も含む。

【到達目標】

スポーツ障害の定義、概念を、科学的エビデンスに基づいて正確に理解することができる。スポーツ障害の病態生理、発症機序、予防、治療方法などの臨床的知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。スポーツ医学は、解剖学、生化学、運動生理学など複数の分野の成果を包括的に活用して、スポーツ活動に伴う様々な医学的課題を扱う学問である。したがって、これまで習得してきた基礎医学・健康科学の知識を活用して内科系スポーツ障害の病態生理を理解していく。例として、突然死や貧血、熱中症、スポーツ心臓、女性のスポーツ医学、心臓リハビリテーション、メディカルチェック、などの発症機序や予防・治療法について、科学的エビデンスに基づき、より専門的・先端的に学ぶ。その他、内分泌学、免疫学の分野に含まれるテーマについても解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	突然死とメディカルチェック、運動適性、参加可否 (1)	運動による突然死の原因疾患の疫学、病態生理、臨床知識の理解と、対策としてメディカルチェックの実践について習得。
2	突然死とメディカルチェック、運動適性、参加可否 (2)	競技参加・運営と関連するメディカルチェックの実践・事例を紹介する。
3	心臓のスポーツ医学	スポーツ心臓、スポーツによる心臓への潜在的負担 (cardiovascular drift、心房細動)、心臓リハビリテーション
4	運動と免疫 (1)	運動・身体活動と関連する基本的な免疫学について学習する。
5	運動と免疫 (2)	運動による免疫力の低下および増強。運動と活性酸素。運動と感染症、癌。
6	熱中症と脱水	熱中症の定義・病態生理・臨床、脱水症、低ナトリウム血症、運動中の水分補給について学習。
7	疾患とスポーツ (1)	スポーツに関連した内科的障害について解説する。
8	疾患とスポーツ (2)	肝臓、腎臓、代謝疾患、神経疾患などを有する患者の運動の可否について学習する。
9	骨粗鬆症、sarcopenia とスポーツ	骨粗鬆症、sarcopenia についての医学的知識（病態生理・予防・治療）の習得。その予防におけるスポーツの役割、老化、アンチエイジングについて解説する。
10	女性のスポーツ医学	女性の運動、スポーツにおける固有の問題、すなわち女子アスリートの三徴、妊娠・月経とスポーツ、乳癌、更年期障害、乳房とパフォーマンスなどについて解説する。
11	リハビリテーションとスポーツ医学	一般的な運動療法、競技復帰前のアスレチックリハビリテーション、障害者スポーツについて学習。スポーツ医学分野に必要なリハビリテーション医学の実践を紹介する。

12	コンディショニングとスポーツ医学	コンディショニングにおいて重要なテーマであるオーバートレーニング症候群 (Unexplained Under Performance Syndrome) を例に挙げ、その医学的根拠について解説する。
13	小児のスポーツ医学	発育・発達期の特徴と発生メカニズム、疫学について学習。小児期に注意すべきスポーツ外傷や発育・発達を背景としたスポーツ障害について解説する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会『スポーツ医学研修ハンドブック 基本科目・応用科目』（文光堂、2005）

目崎 登『スポーツ医学入門』（文光堂、2009）

宮永 豊、他『アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学』（文光堂、1998）

【成績評価の方法と基準】

単位認定試験（原則 100%）

その他適時小テストを行う予定

【学生の意見等からの気づき】

提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、内科系医学と関連する様々なスポーツ障害について講義する。

【Outline and objectives】

Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.

A purpose of Sports Medicine A is to learn about pathophysiology, onset mechanism, the prevention and treatment about various sports dyskinesia related with internal medicine.

HSS300IA

生活習慣病と身体活動

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活習慣病に関する知識（定義、病態、疫学など）と、生活習慣としての運動・身体活動が疾病の発症と予防にいかに関わるのか、その機序と疫学的エビデンス。

【到達目標】

- ① 生活習慣病とは何か、その概念・定義を説明できるようにする。
- ② 生活習慣病の疫学、病態生理を理解する。
- ③ 生活習慣病を構成する疾患について定義・発症機序を理解する。
- ④ 身体活動・運動と生活習慣病の発症の関連について理論的背景と疫学的エビデンスを理解する。
- ⑤ 身体活動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。
- ⑥ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。したがって学修のためには継続的な出席が必須である。
- ② 各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ③ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
- ④ 疫学的エビデンスを理解するために、『統計学』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	なぜ身体活動を研究するのか？	身体活動量研究の歴史、概念・用語の定義、身体活動による健康増進・疾病予防の機序、生活習慣病とは。
2	身体活動量研究の方法論	身体活動量研究の基礎としての疫学的方法を歴史的背景も踏まえて解説、身体活動量の評価方法を学習する。
3	老化、寿命、QOL と身体活動	身体活動量と死亡率、寿命、QOL との関連について学習する。 キーワード：総死亡率、身体活動のリスク、compression of morbidity、dose-response、身体不活動
4	身体活動、フィットネスと心血管疾患	生活習慣病としての心血管疾患の医学、身体活動との関連について学習する。 キーワード：虚血性心疾患、脳血管障害、閉塞性動脈硬化症、冠危険因子、Framingham Heart Study
5	身体活動、フィットネスと高血圧	生活習慣病としての高血圧の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：『高血圧治療ガイドライン』（日本高血圧学会）、chronic kidney disease、白衣高血圧
6	身体活動、フィットネスと糖尿病	生活習慣病としての糖尿病の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：II 型糖尿病、インスリン抵抗性、糖質代謝
7	身体活動、フィットネスと脂血症・高尿酸血症	生活習慣病としての高脂血症・高尿酸血症の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：LDL コレステロール、HDL コレステロール、痛風、『動脈硬化性疾患予防ガイドライン』（日本動脈硬化学会）

8	身体活動、フィットネスと肥満・メタボリックシンドローム	生活習慣病としての肥満、メタボリックシンドロームの病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：内臓脂肪、過体重、BMI、肥満症
9	身体活動、フィットネスと筋骨格系の健康	生活習慣病としての筋骨格系疾患・障害の医学、身体活動との関連について学習する。 キーワード：骨粗しょう症、変形性関節症、locomotive syndrom
10	喫煙と生活習慣病	生活習慣病の原因としての喫煙とその弊害について学習する。 キーワード：慢性閉塞性肺炎疾患、喘息、受動喫煙、『禁煙支援マニュアル』（厚労省）
11	身体活動、フィットネスと免疫・癌	生活習慣病としてエビデンスレベルの高い癌を中心に、病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：乳癌、大腸癌、前立腺癌
12	身体活動、フィットネスとメンタルヘルス	不安障害・抑鬱に関する医学的理解、および身体活動との関連について学習する。 キーワード：うつ状態、うつ病、不安障害
13	こどもの体力低下と身体活動	こどもの生活習慣病の実態、身体活動の重要性について学習する。 キーワード：『体力・運動能力調査』（文部科学省）、エビジェネティクス
14	身体活動介入と行動変容	身体活動・運動継続のための行動科学的アプローチの理論的な基礎を学習する。 キーワード：行動変容モデル（transtheoretical model、プロチャスカ、1979）、運動のアドヒアランス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 各回の内容に記載したキーワードについて事前に学んで予備知識をつけておくと、講義の理解を深める助けになる。
- ② 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ③ 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ④ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

各授業回に関連するテーマについてより深く学ぶために必要な参考書・文献は各授業回で提示する。以下その他の参考文献
・『健康づくりのための身体活動基準 2013』（厚労省）
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら疾患の病態生理、発症機序、症状、治療、運動療法、予後などについて講義し、学生が生活習慣病の基礎的・臨床的知識を習得することができるようにする。
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 『統計学 I』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic knowledge of chronic diseases and clinical epidemiology.

HSS300IA

運動生理学

瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動に対する生体の反応および機能的・構造的適応について扱う学問である運動生理学について講義する。

【到達目標】

運動生理学は生理学を基盤とし、理解のためには生化学や解剖学の内容も補足的活用する必要がある。体育学や最先端のスポーツ科学、スポーツ栄養学などを理解・活用する上で重要な科目の一つである。健康増進を目的とした身体活動や、スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニングを、科学的エビデンスに基づいて実践するために必要な知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。生体における運動時の反応や運動に対する適応の機序は、生体の機能的・構造的特徴に基づき呼吸・循環器、神経、血液・免疫、内分泌、エネルギー代謝等の多くの分野に細分化されて研究されている。各テーマに沿って、身体活動およびスポーツ活動時に対する生体の反応や生理的適応の機序を系統的に学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	神経系の役割と運動制御	運動機能を担う神経系の解剖・生理学的特徴の概論。神経筋接合部（運動単位）と高次中枢としての脳の運動制御に関する概論。
2	運動中の神経活動の実際：その1 末梢系	神経受容体における神経伝達物質による化学調節の基礎。運動時の心拍量の変化に応じて血圧を制御する arterial baroreflex について。
3	運動中の神経活動の実際：その2 中枢系	筋活動時の中枢神経系を介した神経活動について理解する。運動時に末梢から中枢（exercise pressor reflex）、中枢から末梢（central command）へと伝播される神経伝達について。
4	骨格筋の役割と運動時の活動	筋活動時の中枢神経系を介した神経活動について理解する。運動時に末梢から中枢（exercise pressor reflex）、中枢から末梢（central command）へと伝播される神経伝達について。
5	トレーニングに対する骨格筋の適応	各種トレーニングに対する骨格筋の構造、生理機能の変化を学習する。有酸素トレーニングやレジスタンストレーニングが筋繊維レベルでのタンパク発現に及ぼす影響について。
6	内分泌系の役割と運動への応答	視床下部、下垂体から各臓器へ情報を伝達する内分泌系の役割と運動負荷時の変化を学習する。レジスタン運動が内分泌系（インスリン、副腎皮質ホルモン、下垂体ホルモンなど）に及ぼす影響を紹介する。
7	トレーニングに対する内分泌系の適応	トレーニングの継続による、筋骨格筋や自律神経系の変化の背景にある内分泌系の意義を学習する。筋肥大のメカニズムや持久的トレーニングに伴う自律神経系の変化に伴う内分泌系の変化を紹介する。
8	生体エネルギー論 I	生体エネルギーとしての ATP の産生と利用のメカニズムについて理解する。エネルギーとは、エネルギー基質、解糖系、クレアチン燐酸などについて。
9	生体エネルギー論 II	エネルギー産生機構における酸素の役割。有酸素・無酸素エネルギー、酸素摂取量、酸素動態（定常・漸増負荷）。最大酸素摂取量の概念とその研究の歴史、測定方法（呼吸ガス分析）。
10	酸素摂取量といわゆる AT	Mechanical efficiency.（いわゆる）AT について学習する。

11	心臓・肺・ミトコンドリア	ガス交換、換気応答、心拍応答、心拍量、動静脈酸素分圧較差など、運動における心肺循環器系の役割とその適応について学習する。
12	血液と循環	運動と体液、血液循環、末梢血管とその適応。Frank-Starling の法則、スポーツ心臓など、運動における血液・循環の役割とその適応について学習する。
13	生体エネルギー論 III	運動のエネルギー基質（macronutrient）、基礎代謝、酸素摂取量と消費エネルギー計算など、生体エネルギーの基質とその利用メカニズムについて学習する。
14	特殊環境における運動	特殊環境における運動において、生体のホメオスタシスがいかに維持され、また破綻するのか、理解する。すなわち、高所生理学、高山病、潜水生理学、潜水障害、低温障害、大気汚染、微小重力などについての学習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特に定めず

第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

・宮村実春 『ニュー運動生理学 I、II』（真興貿易、2015）
 ・石河利寛 『健康・体力のための運動生理学』（杏林書院、2000）
 ・Powers S, et al. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 10th ed. (2017)
 ・Kenney WL, et al. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics Publishers; 6th ed. (2015)
 ・McArdle WD, et al. "Exercise Physiology: Energy, Nutrition, and Human Performance" Lippincott Williams & Wilkins; 8th ed (2014)

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）

講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
 教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、運動生理学について講義する。

【Outline and objectives】

We give a lecture about exercise physiology, the study of the acute responses and chronic adaptations to exercise such as specific changes in muscular, cardiovascular, and neural systems.

HSS300IA

アスレティックリハビリテーション

泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目標は以下の 3 点である。第 1 にスポーツ活動に必要な運動器の機能的要因・体力的要因を理解すること。第 2 にレベル低下の主要因としてのスポーツ外傷・障害を学ぶこと。第 3 にスポーツ活動に必要な身体構造と機能・体力の回復レベルの学習とそのトレーニング方法を習得すること、以上である。

【到達目標】

身体各部位の外傷・障害の理解およびその評価方法の理解、その上で、アスレティックリハビリテーションの具体的な方法について理解することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アスレティックリハビリテーションとは何かということとその実際について本講義では学習する。運動器の解剖と機能、スポーツ外傷・障害、検査・測定と評価の知識は必須であり、講義の中でも確認を行う。具体的な内容としてはアスレティックリハビリテーションの基礎的事項、外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング方法等を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／外傷・障害総論	本講義のガイダンスとともにアスレティックリハビリテーションとは何かについて、外傷・障害の総論について学習する。
2	運動療法の基礎知識 1	運動療法（エクササイズ）の目的、方法について学習する。
3	運動療法の基礎知識 2	各種エクササイズの目的、方法について学習する。
4	物理療法・補装具の基礎知識	物理療法・補装具の目的、方法について学習する。
5	頸部のアスレティックリハビリテーション	頸部の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
6	背腰部のアスレティックリハビリテーション	背腰部の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
7	体幹のアスレティックリハビリテーション	種目特性に基づいた体幹部のアスレティックリハビリテーションについて学習する。
8	肩関節のアスレティックリハビリテーション	肩関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
9	肘関節・前腕部のアスレティックリハビリテーション	肘関節から手関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
10	上肢のアスレティックリハビリテーション	種目特性に基づいた上肢のアスレティックリハビリテーションについて学習する。
11	股関節・骨盤のアスレティックリハビリテーション	股関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
12	膝関節のアスレティックリハビリテーション	膝関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
13	足関節・下腿のアスレティックリハビリテーション	足関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。

14 下肢のアスレティックリハビリテーション 種目特性に基づいた上肢のアスレティックリハビリテーションについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション、日本体育協会
授業資料は授業支援システムからダウンロードすることとする。

【参考書】

日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング、日本体育協会
日本スポーツ医学検定機構、スポーツ医学検定公式テキスト 1 級、東洋館出版社、2019
他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（試験期間中に行う）90 %、小レポート（2 回実施予定）10 %

【学生の意見等からの気づき】

外傷・障害の理解が不十分なため、評価からリハビリへの流れが難しく感じられるようである。そのため身体各部位の外傷・障害からできるだけ具体的な事例に基づいて講義を進めていく。学生は都度、機能解剖学の復習が必須である。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。
パワーポイント・プロジェクターを使用する。

【Outline and objectives】

The objectives of the lecture are as follows. 1. To understand the normal structure of the exerciser necessary for sports activities. 2. Learning sports injuries as a main factor in lowering physical fitness level. 3. To acquire the recovery level of physical fitness necessary for sports activities and training methods

CLS300IA

スポーツ医学（外科系）**瀬戸 宏明**

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

旧うか科目名：運動器疾患と身体活動 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【到達目標】

運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害について部位別に年齢・性別・競技特性などによる相違を学ぶ。これらの外傷・障害について科学的に分析する能力を養い、外傷・障害発症と関節弛緩性・関節可動域・関節アライメント・関節不安定性・筋タイトネス等の身体特性との関連性について学ぶ。損傷した組織が修復していく過程を把握し、アスレティックリハビリテーションのメニュー作成のための基礎的な知識を身に付け、安全なスポーツ現場の整備についても習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、などを説明する。 骨・筋肉の名称、作用に関する試験を行う。
2	外傷・障害の修復	骨・軟骨や筋・腱・靱帯の修復機転について学習する
3	頭頸部と上肢の外傷・障害（1）	主に頭頸部の外傷・障害について学習する
4	頭頸部と上肢の外傷・障害（2）	主に上肢の外傷・障害について学習する
5	上肢のアスレティックリハビリテーション	上肢のアスリハについて要点を学習する
6	体幹と骨盤・股関節（1）	体幹の外傷・障害とバイオメカニクス
7	体幹と骨盤・股関節（2）	骨盤・股関節の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
8	体幹のアスレティックリハビリテーション	体幹のアスリハについて要点を学習する
9	大腿の外傷・障害	大腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
10	膝の外傷・障害	膝の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
11	膝・下腿の外傷・障害	膝・下腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
12	足関節・足部の外傷・障害	足関節・足部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
13	下肢のアスレティックリハビリテーション	下肢のアスリハについて要点を学習する
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要があれば講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自資料をダウンロードのうえ指定参考書などを用いて事前学習を行う。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

- 1) アスレティックトレーナー専科テキスト1～9 日本体育協会
- 2) スポーツ指導者のためのスポーツ医学改訂第2版 編集：小出清一/福林徹/河野一郎
- 3) スポーツ科学・医学大事典 スポーツ医学 プライマリケアー理論と実践 西村書店

【成績評価の方法と基準】

単位認定試験（原則 100%）

その他適時小テストを行う予定

【学生の意見等からの気づき】

図や動画を用いてわかりやすく解説していく。

後方の席は使用しない。

常に受講者の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、スポーツの外傷・障害の予防プログラムを構築できるよう講義する。

【Outline and objectives】

Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.

A purpose of Sports Medicine B is to learn the following things

1: understanding of the structure of physical devices

2: understanding outbreak mechanism of injuries

3: how to make a prevention program of injuries

HSS200IA

ジョギング・ウォーキング実習

成田 道彦

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジョギング・ウォーキングは健康保持・増進のための代表的なスポーツである。その運動効果を理解した上で指導者として必要な各年齢層にあった指導法を学ぶ。

【到達目標】

ジョギング・ウォーキングの有酸素性運動の特性・健康効果を学ぶ。また、ジョギング・ウォーキングの正確なフォームを身につける。実際にジョギング・ウォーキングを行い、各自の適正な運動強度を知り健康づくりに合った運動強度を指導できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実習は校内のグラウンド・クロカンコースなどを利用して行う。基本動作・ウォーミングアップや関連知識を学習した上で実技中心に行う。前半はウォーキングを主に、正しいフォームを身につけるとともに歩幅の測定、脈拍の測定などを行う。後半はジョギングで同様の測定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	到達目標・概要・授業計画について
2	歩幅と適切なウォーキング強度の測定①	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
3	歩幅と適切なウォーキング強度の測定②	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
4	歩幅と適切なウォーキング強度の測定③	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
5	ウォーキング実習①	グラウンドで正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
6	ウォーキング実習②	校内で正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
7	ウォーキング実習③	クロカンコースを使い正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
8	適切なジョギングの強度を測定する①	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
9	適切なジョギングの強度を測定する②	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
10	適切なジョギングの強度を測定する③	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
11	ジョギング実習①	グラウンドで正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
12	ジョギング実習②	校内で正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
13	ジョギング実習③	クロカンコース正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
14	校外実習	校外でジョギング又はウォーキングを行う。安全なコース設定をするための視点を身につける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）、授業態度・積極性（20%）

実技実習を基本とするので授業への積極的な取り組みを最重要とする。平常点・積極性等を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の目的を明確にし、きめ細かく授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

※授業の展開により若干の変更があり得る。実習を優先し雨天時は講義を行う。春・秋に同じ授業を開講するが、どちらかに受講者が偏った場合は調整を行う。

【Outline and objectives】

Jogging and walking are both excellent ways for the maintenance and promotion of health. In this course students acquire the knowledge of the physical effects and learn instructional techniques of walking and jogging to train different generations which are necessary for instructors.

HSS200IA

ジョギング・ウォーキング実習

成田 道彦

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジョギング・ウォーキングは健康保持・増進のための代表的なスポーツである。その運動効果を理解した上で指導者として必要な各年齢層にあった指導法を学ぶ。

【到達目標】

ジョギング・ウォーキングの有酸素性運動の特性・健康効果を学ぶ。また、ジョギング・ウォーキングの正確なフォームを身につける。実際にジョギング・ウォーキングを行い、各自の適正な運動強度を知り健康づくりに合った運動強度を指導できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実習は校内のグラウンド・クロカンコースなどを利用して行う。基本動作・ウォーミングアップや関連知識を学習した上で実技中心に行う。前半はウォーキングを主に、正しいフォームを身につけるとともに歩幅の測定、脈拍の測定などを行う。後半はジョギングで同様の測定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	到達目標・概要・授業計画について
2	歩幅と適切なウォーキング強度の測定①	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
3	歩幅と適切なウォーキング強度の測定②	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
4	歩幅と適切なウォーキング強度の測定③	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
5	ウォーキング実習①	グラウンドで正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
6	ウォーキング実習②	校内で正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
7	ウォーキング実習③	クロカンコースを使い正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
8	適切なジョギングの強度を測定する①	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
9	適切なジョギングの強度を測定する②	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
10	適切なジョギングの強度を測定する③	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
11	ジョギング実習①	グラウンドで正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
12	ジョギング実習②	校内で正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
13	ジョギング実習③	クロカンコース正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
14	校外実習	校外でジョギング又はウォーキングを行う。安全なコース設定をするための視点を身につける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）、授業態度・積極性（20%）

実技実習を基本とするので授業への積極的な取り組みを最重要とする。平常点・積極性等を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の目的を明確にし、きめ細かく授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

※授業の展開により若干の変更があり得る。実習を優先し雨天時は講義を行う。春・秋に同じ授業を開講するが、どちらかに受講者が偏った場合は調整を行う。

【Outline and objectives】

Jogging and walking are both excellent ways for the maintenance and promotion of health. In this course students acquire the knowledge of the physical effects and learn instructional techniques of walking and jogging to train different generations which are necessary for instructors.

HSS200IA

フィットネス・トレーニング実習

伊藤 良彦、春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツや健康運動の指導者として必要な各種トレーニングの実践方法およびフィットネスチェック、またフィールドテストについて、実習を通して身につけるとともに、指導の際の注意点や安全管理の方法等を修得する。

【到達目標】

- ・各種トレーニングの実技を自らが実際に実践することができるようになること。
- ・各種トレーニングを実際に指導する際のチェックポイントを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各種トレーニングの中でもストレングストレーニング、スタビリティトレーニング、ファンクショナルトレーニング、コーディネーショントレーニング、アジリティトレーニング、プライオメトリクストレーニング、サーキットトレーニング、有酸素トレーニングについての実習を行い、各種トレーニングの具体的な方法やトレーニングマシン・器具等の正しい使い方、補助の仕方など安全管理の方法について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	トレーニングプログラム	トレーニングプログラム作成の方法を理解する。
2	心肺系トレーニング	自転車エルゴメータを用いて、目的に応じたトレーニング内容を組み立てる方法を理解する。
3	フィットネスダンス	耳なじみのある曲に合わせて体を動かすエクササイズである「フィットネスダンス」を理解し実践できるようになる。
4	道具を使わない筋力トレーニング	自重による筋力トレーニングを用いた健康づくりのための筋力トレーニングの方法を理解する。
5	アジリティ・コーディネーショントレーニング	目的に応じたアジリティ・コーディネーション能力向上のためのトレーニング方法を理解する。
6	ランニング・スプリントトレーニング	目的に応じたランニングトレーニングの組み立てや、適切なランニングフォームを理解する。
7	サーキットトレーニング	健康づくりのためのサーキットトレーニングの方法を作成し理解する。
8	ストレングストレーニング 1	基礎種目であるバックスクワット、上肢のプッシュ動作、プル動作を中心に習熟し、必要となる補助種目を実践的に学習する。
9	ストレングストレーニング 2	主要種目のうち、フロントスクワット、オーバーヘッドスクワットに続き、引き続き上肢のプッシュ動作、プル動作を中心に習熟し、必要となる補助種目を実践的に学習する。
10	ストレングストレーニング 3	主要種目のうち、デッドリフトの方法を理解・修得する。また、パワーリーン、ハンゲクリーンの導入練習となるハイプル動作を学習する。
11	オリンピックリフティング	オリンピックリフティングのうち、スナッチ、クリーンを中心に学習し、その実践方法を習得する。
12	プライオメトリクストレーニング	プライオメトリクスに必要な筋腱複合体について学んだ上で、トレーニング方法を理解する。
13	ファンクショナルトレーニング	TRX、メディシンボール、ViPRを用いて行う各種トレーニングを実践する。
14	フィットネスチェック	トレーニングの評価方法となる基礎体力チェック（筋持久力評価、筋力評価、筋パワー評価）の方法を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・関連する内容を、運動生理学概論のテキストで予習復習をする。
- ・第 2 回目に配布するトレーニング記録を用いて、心肺系トレーニングを実践する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング（2007）
 石井 直方，長谷川 裕，岡田 純一：ストレングストレーニング&コンディショニング NSCA 決定版，第 2 版。ブックハウス・エイチディ（2002）
 日本トレーニング指導者協会編：トレーニング指導者テキスト理論編。大修館書店（2009）
 日本トレーニング指導者協会編：トレーニング指導者テキスト実践編。大修館書店（2009）
 日本トレーニング指導者協会編：トレーニング指導者テキスト実践編。大修館書店（2011）

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %），各回の実習レポート（30 %）
 3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to teach the concepts of strength training that is required for an athletic trainer or a sports instructor. By the end of this course, students will obtain the skills to properly train an athlete through variety of training methods, while giving proper instructions to minimize the risk of injury.

HSS200IA

フィットネス・トレーニング実習

伊藤 良彦、春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツや健康運動の指導者として必要な各種トレーニングの実践方法およびフィットネスチェック、またフィールドテストについて、実習を通して身につけるとともに、指導の際の注意点や安全管理の方法等を修得する。

【到達目標】

- ・各種トレーニングの実技を自らが実際に実践することができるようになること。
- ・各種トレーニングを実際に指導する際のチェックポイントを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各種トレーニングの中でもストレングストレーニング、スタビリティトレーニング、ファンクショナルトレーニング、コーディネーショントレーニング、アジリティトレーニング、プライオメトリクストレーニング、サーキットトレーニング、有酸素トレーニングについての実習を行い、各種トレーニングの具体的な方法やトレーニングマシン・器具等の正しい使い方、補助の仕方など安全管理の方法について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	トレーニングプログラム	トレーニングプログラム作成の方法を理解する。
2	心肺系トレーニング	自転車エルゴメータを用いて、目的に応じたトレーニング内容を組み立てる方法を理解する。
3	フィットネスダンス	耳なじみのある曲に合わせて体を動かすエクササイズである「フィットネスダンス」を理解し実践できるようになる。
4	道具を使わない筋力トレーニング	自重による筋力トレーニングを用いた健康づくりのための筋力トレーニングの方法を理解する。
5	アジリティ・コーディネーショントレーニング	目的に応じたアジリティ・コーディネーション能力向上のためのトレーニング方法を理解する。
6	ランニング・スプリントトレーニング	目的に応じたランニングトレーニングの組み立てや、適切なランニングフォームを理解する。
7	サーキットトレーニング	健康づくりのためのサーキットトレーニングの方法を作成し理解する。
8	ストレングストレーニング 1	基礎種目であるバックスクワット、上肢のプッシュ動作、プル動作を中心に習熟し、必要となる補助種目を実践的に学習する。
9	ストレングストレーニング 2	主要種目のうち、フロントスクワット、オーバーヘッドスクワットに続き、引き続き上肢のプッシュ動作、プル動作を中心に習熟し、必要となる補助種目を実践的に学習する。
10	ストレングストレーニング 3	主要種目のうち、デッドリフトの方法を理解・修得する。また、パワーリーン、ハンゲクリーンの導入練習となるハイプル動作を学習する。
11	オリンピックリフティング	オリンピックリフティングのうち、スナッチ、クリーンを中心に学習し、その実践方法を習得する。
12	プライオメトリクストレーニング	プライオメトリクスに必要な筋腱複合体について学んだ上で、トレーニング方法を理解する。
13	ファンクショナルトレーニング	TRX、メディシンボール、ViPRを用いて行う各種トレーニングを実践する。
14	フィットネスチェック	トレーニングの評価方法となる基礎体力チェック（筋持久力評価、筋力評価、筋パワー評価）の方法を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・関連する内容を、運動生理学概論のテキストで予習復習をする。
- ・第 2 回目に配布するトレーニング記録を用いて、心肺系トレーニングを実践する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

日本体育協会編:公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング (2007)
 石井 直方, 長谷川 裕, 岡田 純一:ストレングストレーニング&コンディショニング NSCA 決定版, 第 2 版. ブックハウス・エイチディ (2002)
 日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト理論編. 大修館書店 (2009)
 日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2009)
 日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2011)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70 %), 各回の実習レポート (30 %)
 3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to teach the concepts of strength training that is required for an athletic trainer or a sports instructor. By the end of this course, students will obtain the skills to properly train an athlete through variety of training methods, while giving proper instructions to minimize the risk of injury.

HSS200IA

エアロビック運動実習

林田 はるみ

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エアロビックは、運動処方理論「エアロビクス」を起源として生まれたエアロビックダンスが技術的に体系化されて、「スポーツ」に発展したものである。エアロビックは、音楽のビートによって「いつでも」「どこでも」「誰にでも」できる身近な健康スポーツであり、その一方で、近年では表現スポーツや生涯スポーツにも位置づけられている。参加者が安全で効果的なプログラムを楽しく行うためには、指導者が基礎知識と技能を身に付けていることが必要である。本実習では、エアロビック指導者に必要な技能を習得することを目的に授業を展開する。

【到達目標】

- ・初級段階のエアロビックの示範ができる。
- ・グループで行うエアロビックルーティンを作成できる。
- ・音楽を用いたエアロビックの集団指導ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

エアロビック運動の実技とその指導法について、実習中心に授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	エアロビック運動とは	エアロビックの概要を理解し、音楽に合わせた集団運動を行う
2	基本段階の実技練習	基本段階の動きを中心とした、基本技術を練習する
3	初級段階の実技練習	初級段階の動きを中心とした、初級技術を練習する
4	チームエアロビックの創作	チームを生かしたパフォーマンスを作成する
5	チームエアロビックの実際	チームを生かしたパフォーマンスを発表する
6	実技のまとめ	初級段階のエアロビック実技試験
7	基本段階の指導練習	基本段階の初歩的な指導練習
8	初級段階の指導練習	初級段階の基礎的な指導練習
9	目的別指導法	対象者の目的に合わせた指導法を習得する
10	対象別指導法①	対象者の年齢や性別に合わせた指導法を習得する
11	対象別指導法②	設定した対象者に合わせたプログラムを作成する
12	指導の準備と整理	ウォーミングアップ、クールダウン、ストレッチの指導練習
13	段階別指導法	運動学習の方法に則ったレッスン構成を習得する
14	集団の指導の実際	集団指導を行う・エアロビック指導試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

技術を習得するために、個人練習と発表の準備を行う

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

- ・健康運動実践指導者養成用テキスト
- ・エアロビック指導教本

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）：指導者養成の科目であるため、毎回の授業へ取り組み姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する

エアロビック実技試験（40 %）：学期の中間に行う

エアロビック指導実習試験（40 %）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度や習熟度を確認しながら、次の段階に進めます。

【その他の重要事項】

教場に相応しいシューズ、運動に適したウェアやジャージを着用すること。授業の習得度によって進度を若干変更する場合がある。

【Outline and objectives】

"Aerobic" dance is a familiar health sports that can be "anytime", "anywhere", "anyone" based on the beat of music, on the other hand, "Aerobic" is also positioned in expressive sports and lifelong sports in recent years. In this classes, acquiring skills necessary for aerobic leaders will be developed, in order for participants to enjoy safe and effective programs.

HSS200IA

体力測定・評価実習

泉 重樹、佐藤 祐輔

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

旧うか科目名：身体機能測定実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体の基本的な形態の理解から、筋力、筋持久力、全身持久力といった身体機能の測定および評価までを実践を通して習得する。

【到達目標】

- ・様々な体力をもつ対象者の体力要素測定方法と理論を習得する。
- ・測定後の基本的統計処理方法を習得する。
- ・得られた測定結果を基に考察し、文章にすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、実際のスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、各回ごとに、その日実施する測定について理解し、受講者自身が験者または被験者となって、測定評価の方法だけでなく、測定される側の立場についても理解する。また、レポート作成を通じて得られた結果の分析、考察ができるようになる。

後半は、身体各部位の評価をできる能力を習得する。さらに、それぞれの動作のメカニズムから考えられる異常動作の具体例を挙げ、その動作について考察し、正しい動作を指導できるようつなげていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	体の大きさ（身長・体重・体型指数・身体組成） 【担当：佐藤】	精度の高い形態計測を実施し、体型指数を算出し評価する。 身体がどのような組織によって構成されているかを理解し、身体組成の測定と評価を実践する。
2	全身パワー 【担当：佐藤】	パワーについて理解し、測定と評価を実践する。
3	身体活動量の定量法とその実際（エネルギー消費量）【担当：佐藤】	日常あるいはスポーツ活動中の身体活動量について理解し、測定と評価を実践する。
4	敏捷性（反応時間・急速反復動作）【担当：佐藤】	全身反応時間を測定し、敏捷性を神経系と筋系の2つの要素から検討する。
5	有酸素性作業能力 【担当：佐藤】	全身持久力について理解し、その測定と評価を実践する。
6	フィールド（子供、中高年者）における体力測定とその評価 【担当：佐藤】	文部科学省による体力テストについて理解し、新体力テストの測定と評価を実践する。
7	フィールドテスト（高齢者、介護予防）における体力測定とその評価 【担当：佐藤】	高齢者体力テスト、介護予防に関する体力測定と評価を実践する。
8	手部・手関節・肘関節の評価 【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
9	肩関節の評価 【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
10	足関節・下腿の評価 【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
11	膝関節の評価 【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
12	骨盤・股関節の評価 【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
13	頸部・胸郭出口の評価 【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
14	腰部の評価 【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習

【テキスト（教科書）】

授業で必要となる資料は、授業支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】

- ・健康運動指導士養成講習会テキスト（上巻）（財）健康・体力づくり事業財団
- ・健康運動指導士養成講習会テキスト（下巻）（財）健康・体力づくり事業財団

・日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価

・山本利春、測定と評価、ブックハウス HD

・日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 %）、各回の実習レポート（40 %）

3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

【Outline and objectives】

The purpose of this lesson is to acquire from the understanding of the basic morphology of the body to measurement and evaluation of physical functions such as muscular strength, muscular endurance, whole-body endurance in a practical manner.

HSS200IA

体力測定・評価実習

泉 重樹、佐藤 祐輔

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2
旧うか科目名：身体機能測定実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体の基本的な形態の理解から、筋力、筋持久力、全身持久力といった身体機能の測定および評価までを実践を通して習得する。

【到達目標】

- ・様々な体力をもつ対象者の体力要素測定方法と理論を習得する。
- ・測定後の基本的統計処理方法を習得する。
- ・得られた測定結果を基に考察し、文章にすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、実際のスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、各回ごとに、その日実施する測定について理解し、受講者自身が験者または被験者となって、測定評価の方法だけでなく、測定される側の立場についても理解する。また、レポート作成を通じて得られた結果の分析、考察ができるようになる。

後半は、身体各部位の評価をできる能力を習得する。さらに、それぞれの動作のメカニズムから考えられる異常動作の具体例を挙げ、その動作について考察し、正しい動作を指導できるようつなげていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	体の大きさ（身長・体重・体型指数・身体組成） 【担当：佐藤】	精度の高い形態計測を実施し、体型指数を算出し評価する。 身体がどのような組織によって構成されているかを理解し、身体組成の測定と評価を実践する。
2	全身パワー 【担当：佐藤】	パワーについて理解し、測定と評価を実践する。
3	身体活動量の定量法とその実際（エネルギー消費量） 【担当：佐藤】	日常あるいはスポーツ活動中の身体活動量について理解し、測定と評価を実践する。
4	敏捷性（反応時間・急速反復動作） 【担当：佐藤】	全身反応時間を測定し、敏捷性を神経系と筋系の2つの要素から検討する。
5	有酸素性作業能力 【担当：佐藤】	全身持久力について理解し、その測定と評価を実践する。
6	フィールド（子供、中高年者）における体力測定とその評価 【担当：佐藤】	文部科学省による体力テストについて理解し、新体力テストの測定と評価を実践する。
7	フィールドテスト（高齢者、介護予防）における体力測定とその評価 【担当：佐藤】	高齢者体力テスト、介護予防に関する体力測定と評価を実践する。
8	手首・手関節・肘関節の評価 【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスベシャルテストを中心に実践する
9	肩関節の評価 【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスベシャルテストを中心に実践する
10	足関節・下腿の評価 【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスベシャルテストを中心に実践する
11	膝関節の評価 【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスベシャルテストを中心に実践する
12	骨盤・股関節の評価 【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスベシャルテストを中心に実践する
13	頸部・胸郭出口の評価 【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスベシャルテストを中心に実践する
14	腰部の評価 【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスベシャルテストを中心に実践する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習

【テキスト（教科書）】

授業で必要となる資料は、授業支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】

- ・健康運動指導士養成講習会テキスト（上巻）（財）健康・体力づくり事業財団
- ・健康運動指導士養成講習会テキスト（下巻）（財）健康・体力づくり事業財団

- ・日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価
- ・山本利春、測定と評価、ブックハウス HD
- ・日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 %）、各回の実習レポート（40 %）
3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

【Outline and objectives】

The purpose of this lesson is to acquire from the understanding of the basic morphology of the body to measurement and evaluation of physical functions such as muscular strength, muscular endurance, whole-body endurance in a practical manner.

HSS300IA

健康増進施設実習

泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
旧うか科目名：国内研修ワークショップ [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康増進施設などの実習施設において、受講者に対する実際の運動指導現場を通じて実務を体験することを目的とする。その準備としての接遇に関するセミナーや、健康運動指導士の役割を理解することを目的とした事前および事後の講義を受講する。

【到達目標】

健康運動を指導するための専門的な知識や技術を実際の現場で学習し、さまざまなケースに対応できる実践指導能力を習得する。また対象者に対する実際の運動指導現場にふれることで、個別ケースへの対応法について学び、健康運動指導（介護予防を含む）の理解に役立てる。また、実務能力を身につけることにより、健康運動指導士としての活動現場における役割等を体験し、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として回ごとに完結するテーマを設定して講義と現場学習およびその報告を織り交ぜて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	事前のセミナー受講や現場実習に関する説明とスケジュール調整。受講・実習のグループ分け。健康運動指導士の資格取得に必要なプロセスを理解する。
2	これからの健康増進施設	健康増進施設のあるべき姿についてについて考える。
3	健康運動指導士の役割	健康運動指導士の役割について理解する。
4	現場実習の意義について	健康増進施設での実習の意義について理解する。
5	健康状態の把握と体力測定	健康状態の把握と体力測定について理解する。
6	運動プログラムの作成と提供	運動プログラムの作成と提供について理解する。
7	運動の記録と情報管理	運動の記録と情報管理について理解する。
8	接遇セミナー	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じて体験学習を計画する。
9	現場実習での課題の確認	個々の学生がテーマとする内容についてグループ毎に討議する。
10	健康増進施設での現場実習	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じて体験学習を計画する。
11	健康増進施設での現場実習	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じて体験学習を計画する。
12	健康増進施設での現場実習	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じて体験学習を計画する。
13	健康増進施設での現場実習	個々の学生がテーマとする内容についてグループ毎に討議する。
14	健康増進施設での現場実習	個々の学生がテーマとする内容についてグループ毎に討議する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	健康増進施設での現場実習	講義とセミナー内容の総括
16	健康増進施設での現場実習	個別運動プログラムを作成する。
17	健康増進施設での現場実習	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。

18	健康増進施設での現場実習	基本的な施設管理業務の実践を通じて理解し、各部署ごとの安全管理が効率よく確実にできるよう工夫・提案する。
19	健康増進施設での現場実習	来所者の健康管理項目について理解し、運動実践の可否について自己判断を促す。
20	健康増進施設での現場実習	対象者の年齢、性、疾病や障害に応じた体力測定の実施方法や留意点を理解する。
21	健康増進施設での現場実習	個別ケースに応じたプログラム作成を行い、実習者同士でカウンセリングし、ケースごとに集団で論議する。
22	健康増進施設での現場実習	個人情報管理について理解し、守秘義務の遵守の重要性を理解する。
23	健康増進施設での現場実習	運動の記録の仕方について学び、運動継続効果としての健康状態や体力の変化について把握し、対象者の自己効力感を高める方法について理解する。
24	健康増進施設での現場実習	個人のニーズや障害に応じた運動プログラムの作成・提供、グループ指導の方法や留意点について体験的に学習する。
25	健康増進施設での現場実習	フィットネス、スタジオ、プールなどでの機器やプログラムについて体験的に学び、運動様式の違いや特徴について理解する。
26	健康増進施設での現場実習	施設や施設外で行っている実際のフィットネスプログラムや介護予防運動指導、特定保健指導の実際を観察し、実践方法を理解する。
27	健康増進施設での現場実習の振り返り	レポートの作成
28	総括	健康産業等現場実習のフィードバック、他の研究機関と合同の研究発表会など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 10～26 回：実習日誌の記録

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

・健康運動指導士養成講習会テキスト (上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
・健康運動指導士養成講習会テキスト (下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
・健康運動指導士試験 要点整理と実践問題 文光堂

【成績評価の方法と基準】

実習記録と実習後に提出するレポート (50%)
「指導者としての資質」、「実習への取組み」について実習担当者による評価 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

実習現場や他施設との共同演習について、春学期授業の初回ガイダンスと初期の授業で時間をかけて詳細に説明する。

【Outline and objectives】

The purpose of the practical training is to experience practical experience at the sports facilities such as health promotion facilities through actual exercise teaching sites for clients.

HSS300IA

スポーツ現場実習 A

泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次/単位：3～4 年次 / 4 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、実践することで習得する。

【到達目標】

アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理、救急処置、評価、各種エクササイズの実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

これまで各科目ごとに系統的に学んできた知識・技術を総動員し、スポーツ現場およびトレーニングルームという臨床場面において、プロのアスレティックトレーナーの指導を受けながら、アスレティックトレーナー業務を実践する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の進め方、アスレティックトレーニングルームの使い方、HOPS、SOAP ノートの記載方法
2	緊急時対応	BSL (CPR・AED) の復習、救急処置法の確認
3	物理療法機器の使い方	各種物理療法機器の使用目的、使用方法、適応・禁忌
4	手・手首・肘関節の評価	手・手首・肘関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
5	肩関節の評価	肩関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
6	頸部の評価	頸部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）、神経学的所見
7	腰部の評価	腰部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）、神経学的所見
8	骨盤部・股関節の評価	骨盤部・股関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
9	股関節・大腿部の評価	股関節・大腿部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
10	膝関節の評価	膝関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
11	下腿・足関節の評価	下腿・足関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
12	足関節・足部の評価	足関節・足部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
13	頭部・顔面部の評価	脳震盪・頭部／顔面外傷に対する対応
14	スポーツ現場での対応 1	現場の安全確保、水分補給、練習・試合前の個別 W-up の指導・実践
15	スポーツ現場での対応 2	現場の安全確保、急性／慢性外傷時の対応
16	スポーツ現場での対応 3	特殊環境下（暑熱・寒冷）での対応
17	スポーツ現場での対応 4	現場の安全確保、練習後の対応（ストレッチング、各種物理療法）
18	スポーツ現場での対応 5	性別、障害および各種対象年代の違いによる注意点の違い
19	部位別アスレティックリハビリテーション 1	上肢のアスレティックリハビリテーション
20	部位別アスレティックリハビリテーション 2	体幹のアスレティックリハビリテーション
21	部位別アスレティックリハビリテーション 3	下肢のアスレティックリハビリテーション
22	競技別アスレティックリハビリテーション 1	球技競技のアスレティックリハビリテーション
23	競技別アスレティックリハビリテーション 2	記録競技のアスレティックリハビリテーション
24	競技別アスレティックリハビリテーション 3	採点競技のアスレティックリハビリテーション
25	競技別アスレティックリハビリテーション 4	格闘技競技のアスレティックリハビリテーション

26	総合実習 1	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 1
27	総合実習 2	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 2
28	総合実習 3	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびアスレティックリハビリテーションの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、測定・評価、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが前提となる。

【テキスト（教科書）】

日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 3 スポーツ外傷・障害の基礎知識
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4 健康管理とスポーツ医学
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 8 救急処置

【参考書】

1. STANLEY HOPPENFELD：図解 四肢と脊柱の診かた。医歯薬出版株式会社、2003
 2. 臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド第 2 版。文光堂、2015
 3. 坂井建雄、松村譲児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系。医学書院、2011
 4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編。大修館書店、2011
 5. 小林直行、成田崇矢、泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング。医歯薬出版、2013
 6. 日本スポーツ医学検定機構、スポーツ医学検定公式テキスト 1 級。東洋館出版社、2019

【成績評価の方法と基準】

※日体協公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。
 評価は実習への取り組み（60 %）および現場実習報告書（レポート）（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

旧カリキュラムでは単位化されていなかった実習が新たに単位化されたものである。学生にとっては 1 年を通して最も大変な実習であったという感想がほぼすべてであるが、同時に得られるものも大きかったという感想を得ているのも事実である。しかしながら、残念なことではあるが途中で脱落するものもみられている。そのため受講の際には事前に面接を行うことがある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

※（再掲）日体協公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。

【Outline and objectives】

In the sports field practice, students learn by practicing techniques for athletes necessary for activities as athletic trainers through activities at sports scenes and athletic training rooms.

HSS300IA

スポーツ現場実習 B

春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次/単位：3～4 年次 / 4 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、習得する。

【到達目標】

アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理、救急処置、評価、各種エクササイズの実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

これまで各科目ごとに系統的に学んできた知識・技術を総動員し、スポーツ現場およびトレーニングルームという臨床場面において、プロのアスレティックトレーナーの指導を受けながら、アスレティックトレーナー業務を実践する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の進め方、アスレティックトレーニングルームの使い方、HOPS、SOAP ノートの記載方法
2	緊急時対応	BSL (CPR・AED) の復習、救急処置法の確認
3	物理療法機器の使い方	各種物理療法機器の使用目的、使用方法、適応・禁忌
4	手部・手首・肘関節の評価	手部・手首・肘関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
5	肩関節の評価	肩関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
6	頭部の評価	頭部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）、神経学的所見
7	腰部の評価	腰部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）、神経学的所見
8	骨盤部・股関節の評価	骨盤部・股関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
9	股関節・大腿部の評価	股関節・大腿部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
10	膝関節の評価	膝関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
11	下腿・足関節の評価	下腿・足関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
12	足関節・足部の評価	足関節・足部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
13	頭部・顔面部の評価	脳震盪・頭部／顔面外傷に対する対応
14	スポーツ現場での対応 1	現場の安全確保、水分補給、練習・試合前の個別 W-up の指導・実践
15	スポーツ現場での対応 2	現場の安全確保、急性／慢性外傷時の対応
16	スポーツ現場での対応 3	特殊環境下（暑熱・寒冷）での対応
17	スポーツ現場での対応 4	現場の安全確保、練習後の対応（ストレッチング、各種物理療法）
18	スポーツ現場での対応 5	性別、障害および各種対象年代の違いによる注意点の違い
19	部位別アスレックリハビリテーション 1	上肢のアスレックリハビリテーション
20	部位別アスレックリハビリテーション 2	体幹のアスレックリハビリテーション
21	部位別アスレックリハビリテーション 3	下肢のアスレックリハビリテーション
22	競技別アスレックリハビリテーション 1	球技競技のアスレックリハビリテーション
23	競技別アスレックリハビリテーション 2	記録競技のアスレックリハビリテーション
24	競技別アスレックリハビリテーション 3	採点競技のアスレックリハビリテーション
25	競技別アスレックリハビリテーション 4	格闘技競技のアスレックリハビリテーション

26	総合実習 1	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 1
27	総合実習 2	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 2
28	総合実習 3	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびアスレックリハビリテーションの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでにアスレックリトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、測定・評価、コンディショニング、アスレックリハビリテーションの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが必須となる。

【テキスト（教科書）】

日体協公認アスレックリトレーナー専門科目テキスト 3 スポーツ外傷・障害の基礎知識

日体協公認アスレックリトレーナー専門科目テキスト 4 健康管理とスポーツ医学

日体協公認アスレックリトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価

日体協公認アスレックリトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング

日体協公認アスレックリトレーナー専門科目テキスト 7 アスレックリハビリテーション

日体協公認アスレックリトレーナー専門科目テキスト 8 救急処置

【参考書】

STANLEY HOPPENFELD：図解四肢と脊柱の診かた。医歯薬出版株式会社。2003

臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド。文光堂。2003

坂井建雄、松村譲児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系。医学書院。2011

日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト実技編。大修館書店。2011

小林直行、成田崇矢、泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング。医歯薬出版。2013

【成績評価の方法と基準】

※日体協公認アスレックリトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。

評価は実習への取り組み（60 %）および現場実習報告書（レポート）（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

旧カリキュラムでは単位化されていなかった実習が新たに単位化されたものである。学生にとっては 1 年を通して最も大変な実習であったという感想がほぼすべてであるが、同時に得られるものも大きかった、という感想を得ている。しかしながら、途中で脱落するものもみられるため、受講の際には選抜や面接を行うことがある。

【その他の重要事項】

※（再掲）日体協公認アスレックリトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。

【Outline and objectives】

In the sports field practice, students learn by practicing techniques for athletes necessary for activities as athletic trainers through activities at sports scenes and athletic training rooms.

HSS300IA

スポーツリハビリテーション実習

安藤 正志

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4 年次／1 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ傷害の概要について学び、その発生原因、特徴を概説する。更に、医学的治療方法、復帰までのリハビリテーションを理解し実施できる。

【到達目標】

スポーツ傷害に対する基本的知識を学びスポーツ傷害を予防するにはどのようなことに注意すればよいか。あるいはどのような処置をすればよいのかなどの知識と技術を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

特に筋骨格系のスポーツ傷害について理解し、そのリハビリテーション方法を実習する。講義と実技を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツ傷害	資料を通してスポーツ傷害のリハビリについて解説する
2	足部障害とリハビリテーション1	捻挫、足部骨折などの概要
3	足部障害とリハビリテーション2	捻挫、足部骨折などの対処方法
4	膝障害とリハビリテーション1	オスグッド病・鵞足炎、靭帯損傷、ランニング膝などの概要
5	膝障害とリハビリテーション2	オスグッド病・鵞足炎、靭帯損傷、ランニング膝などの対処法
6	股関節障害とリハビリテーション1	グロウインペイン症候群、恥骨炎などの概要
7	股関節障害とリハビリテーション2	グロウインペイン症候群、恥骨炎などの対処法
8	骨盤障害とリハビリテーション1	仙腸関節痛、腸要筋炎などの概要
9	骨盤障害とリハビリテーション2	仙腸関節痛、腸要筋炎などの対処法
10	腰部障害とリハビリテーション1	腰痛を引き起こす障害の概要
11	腰部障害とリハビリテーション2	腰痛を引き起こす障害の対処方法
12	手の障害とリハビリテーション	突き指、腱鞘炎、前腕骨折の概要と対処方法
13	肘の障害とリハビリテーション	野球肘、テニス肘の概要と対処方法
14	肩の障害とリハビリテーション	肩関節炎、腱板損傷などの概要と対処方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1～14回：資料を授業支援システムから印刷し目を通す

【テキスト（教科書）】

特に定めず、資料を配付する

【参考書】

特に定めず

【成績評価の方法と基準】

平常点：実習の取り組み、実際に実技を習得しているか（40%）、定期試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

実技中心の講義形式を行い技術を獲得しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】

特に定めず

【その他の重要事項】

履修に際しての注意：機能解剖学、リハビリテーション概論および運動療法総論の教科を履修済みであること。基本的な解剖学、運動学の知識を修得されたものが対象の科目です。

【Outline and objectives】

Learn about dysfunction, treatment and rehabilitation of each joint site.

HSS300IA

運動負荷テスト実習

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各種運動負荷テストの実践と結果の評価。

【到達目標】

- ① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方が行えるようにする。
- ② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
- ③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4～5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。
- ④ 授業の始めに各回のレポートのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。
2	バイタルサインの計測（1）	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測（2）	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準 12 誘導心電図	標準 12 誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト（1）サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
10	運動負荷テスト（2）サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
11	運動負荷テスト（3）：トレッドミルによる多段階負荷	12 誘導心電図を装着し、Bruce 法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
12	心肺運動負荷試験（1）：サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式心肺運動負荷試験を行う。VT を求める。
13	心肺運動負荷試験（2）：トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

14	ホルター心電図および携帯型心電記録装置	ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① レポートの作成・提出（原則毎回）。
- ② 各回の最後に次の授業に行く実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
- ③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

・アメリカスポーツ医学会『運動処方の指針—運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）※資料室収蔵

【参考書】

・Arthur C.Guyton.『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）※資料室収蔵
 ・Gerard J. Tortora.『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）※資料室収蔵
 ・小澤壽司 他.『標準生理学』（医学書院）※資料室収蔵
 ・岡田隆夫.『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）※資料室収蔵
 ・山地啓司.『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）※資料室収蔵
 ・池田隆徳.『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）※資料室収蔵
 ・David P. Swain, Brian C. Leutholtz.『運動処方—ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナッパ）※資料室収蔵
 ・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵
 ・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院※資料室収蔵
 ・上嶋健治『運動負荷試験 Q&A119』（南江堂）※資料室収蔵
 ・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド 改訂 3 版』（中外医学社）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %：毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポートの提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、病院で医療行為として行われている安静時 12 誘導心電図、運動負荷心電図、呼吸ガス分析、モニター心電図、ホルター心電図などの具体的手法と診断方法について、医師の指導のもと学生自らが経験して習得できるようにする。
 ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
 ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
 ③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
 ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、2) 『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
 ⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学（内科系）/スポーツ医学 A』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide practical knowledge of exercise test and prescription and related cardiovascular physiology. The lecture provide skill how to conduct cardiopulmonary exercise test (CPX). The students should be given opportunities to practice exercise test by themselves.

HSS300IA

運動負荷テスト実習

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各種運動負荷テストの実践と結果の評価。

【到達目標】

- ① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方が行えるようにする。
- ② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
- ③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4～5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。
- ④ 授業の始めに各回のレポートのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。
2	バイタルサインの計測（1）	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測（2）	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準 12 誘導心電図	標準 12 誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト（1）サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
10	運動負荷テスト（2）サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
11	運動負荷テスト（3）：トレッドミルによる多段階負荷	12 誘導心電図を装着し、Bruce 法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
12	心肺運動負荷試験（1）：サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式心肺運動負荷試験を行う。VT を求める。
13	心肺運動負荷試験（2）：トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

14	ホルター心電図および携帯型心電記録装置	ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① レポートの作成・提出（原則毎回）。
- ② 各回の最後に次の授業に行く実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
- ③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

・アメリカスポーツ医学会『運動処方の指針—運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）※資料室収蔵

【参考書】

・Arthur C. Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）※資料室収蔵
 ・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）※資料室収蔵
 ・小澤壽司 他. 『標準生理学』（医学書院）※資料室収蔵
 ・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）※資料室収蔵
 ・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）※資料室収蔵
 ・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）※資料室収蔵
 ・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナッパ）※資料室収蔵
 ・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵
 ・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院※資料室収蔵
 ・上嶋健治『運動負荷試験 Q&A119』（南江堂）※資料室収蔵
 ・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド 改訂 3 版』（中外医学社）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %：毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポートの提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、病院で医療行為として行われている安静時 12 誘導心電図、運動負荷心電図、呼吸ガス分析、モニター心電図、ホルター心電図などの具体的手法と診断方法について、医師の指導のもと学生自らが経験して習得できるようにする。
 ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
 ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
 ③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
 ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、2) 『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
 ⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学（内科系）/スポーツ医学 A』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide practical knowledge of exercise test and prescription and related cardiovascular physiology. The lecture provide skill how to conduct cardiopulmonary exercise test (CPX). The students should be given opportunities to practice exercise test by themselves.

HSS300IA

運動学実習

安藤 正志

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

旧うか科目名：運動学ケーススタディ [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体へ種々の運動や動作を行わせ、あるいは種々の環境下に生体を曝露したときの生体反応を種々の測定機器を使用し運動学、運動生理学、運動解剖学、運動力学的変化を体験する。これにより運動を分析し、処方する基礎づくりとする。

【到達目標】

それぞれの課題を小グループで実施し得られたデーターを処理し報告するまでの課程を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

小グループで各課題を実際に体験し得られたデーターを処理し報告する。課題説明の後実技を行い毎回各課題のまとめをレポートにして報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	得られたデーターの処理法、報告書の書き方を説明する
2	歩行	歩幅、歩行率、速度を求める
3	走行	ピッチ、速度、ストライドを求める
4	歩行と心拍数	歩行速度と心拍数を求める
5	移動効率	移動効率を求める
6	姿勢	立位アライメントの測定
7	人の重心	重心点を求める 重心動揺計を使用してみる
8	運動感覚	運動覚、位置覚に関する実習を行う
9	筋力	筋力、筋疲労を測定する
10	体表感覚	痛覚、2点式別覚を測定する
11	運動残効	運動残効を体験する
12	足部の形態	足部形態を測定する
13	平衡感覚	重心動揺を測定する
14	筋活動	筋電図をもちいて動作時の筋活動を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1～14 回：資料に目を通す

【テキスト（教科書）】

特に定めず、資料を配付する

【参考書】

運動学実習マニュアル（アイベック）

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席時の実習取り組み状況）（10%）、レポート課題点（毎回のテーマのレポートを提出します）（90%）

【学生の意見等からの気づき】

課題報告後のフィードバックを詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装で受講すること。また必要に応じて電卓、メジャーなどを準備すること（事前に指示します）。

【その他の重要事項】

履修に際しての注意：スポーツリハビリテーション実習を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】

Learn about bad posture and good posture

Learn about flexibility

Learn about muscle strength

Learn about walking and running

Learn about balance

CIM300IA

スポーツ医科学実習

木下 訓光、瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

旧うか科目名：スポーツ医学実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践において必要な知識・技術。

【到達目標】

スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、アスリートや患者の必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

① 実習の性質から少人数制で行い、4～5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。

② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。

③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR について実習を行う。

④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、筋電図などの測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。

⑤ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション【担当：木下】	グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。
2	運動と体温、熱中症【担当：木下】	WBGT の測定、熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling について実習する。 【参考資料】木下訓光：熱中症－海外における最近のトピックス－。臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717.（メディカルオンラインより全文閲覧可能）
3	身体組成および骨密度（1）【担当：木下】	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。骨粗鬆症の診断について学ぶ。体組成・骨密度を左右する栄養摂取状況について調査を行いスポーツ栄養の実践について学ぶ。 【参考資料】①『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』（資料室収蔵） ②『ライフステージ栄養学実習書』（資料室収蔵）
4	身体組成および骨密度（2）【担当：木下】	前回のデータを利用して体組成評価をアスリートの医学的サポートにどのように生かしていくか検討し、グループごとに発表する。

5	スポーツ現場における BLS と AED の活用【担当：木下】	BLS と AED の使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に実習する。Hands-only CPR について実習する。 【参考資料】① American Heart Association 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート 2015 ハイライト（ https://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf ） ②ハンズオンリー CPR よくある質問（ http://www.aha-tts.com/article/13690287.html ）
6	運動と血液【担当：木下】	血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血糖値、CK など）を行い、スポーツ選手における貧血の診断などについて学ぶ。
7	アスリートの臨床的サポートの実際【担当：木下】	骨密度、体組成、血液データなどを用いて、特に思春期を中心とした若年アスリートの医科学的サポートの実際について症例を踏まえながら学習する。 【参考資料】木下訓光：やせと体組成、月経障害。臨床スポーツ医学 2014;31(9):858-867.（メディカルオンラインより全文閲覧可能）
8	脳振盪・脊椎損傷への対応【担当：瀬戸】	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック（1）【担当：瀬戸】	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック（2）【担当：瀬戸】	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	スポーツ障害の特色（1）【担当：瀬戸】	代表的な動作（ランニング、投球などの）の機能解剖学を参考し、動作に固有なスポーツ障害について学ぶ。
12	スポーツ障害の特色（2）【担当：瀬戸】	腰痛症について、その発生メカニズムを理解する。動作と関連する腰背部の筋群について学習する。
13	レジスタンストレーニングの筋活動モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニングを実施する時の筋群の活動を筋電図を用いて観察し、トレーニング効果の理解を深める。
14	レジスタンストレーニング時の呼吸、循環系モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニング中の呼吸、循環応答を観察し、生体応答を理解する。医学的問題点への対処、アクシデントの予防についても検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート作成

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

“Exercise Physiology (Eighth Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2012

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %：毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポート提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【その他の重要事項】

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。【どのよう実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、医師の指導のもと学生が医療行為を含めた実習を経験し、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生に対する医学的支援の実践において必要な知識・技術を習得できるようにする。

① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。

② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。

③ 春学期科目「スポーツ医学（内科系）/スポーツ医学 A」の単位を修得していることが履修の絶対条件である。

④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1）日本スポーツ協会アスレチックトレーナー資格試験受験の準備状況、2）「統計学Ⅰ」、「数学」の履修・単位取得状況を考慮する。

発行日：2019/5/1

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide practical knowledge of sports medicine related to physical activity, exercise, and sports. The lecture provide skills how to deal and prevent sports injuries in children and adults.

CIM300IA

スポーツ医科学実習

木下 訓光、瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

旧うか科目名：スポーツ医学実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践において必要な知識・技術。

【到達目標】

スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、アスリートや患者の必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4～5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR について実習を行う。
- ④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、筋電図などの測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
- ⑤ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション【担当：木下】	グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。
2	運動と体温、熱中症【担当：木下】	WBGT の測定、熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling について実習する。 【参考資料】木下訓光：熱中症－海外における最近のトピックス－。臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717.（メディカルオンラインより全文閲覧可能）
3	身体組成および骨密度（1）【担当：木下】	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。骨粗鬆症の診断について学ぶ。体組成・骨密度を左右する栄養摂取状況について調査を行いスポーツ栄養の実践について学ぶ。 【参考資料】①『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』（資料室収蔵） ②『ライフステージ栄養学実習書』（資料室収蔵）
4	身体組成および骨密度（2）【担当：木下】	前回のデータを利用して体組成評価をアスリートの医学的サポートにどのように生かしていくか検討し、グループごとに発表する。

5	スポーツ現場における BLS と AED の活用【担当：木下】	BLS と AED の使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に実習する。Hands-only CPR について実習する。 【参考資料】① American Heart Association 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート 2015 ハイライト（ https://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf ） ②ハンズオンリー CPR よくある質問（ http://www.aha-tts.com/article/13690287.html ）
6	運動と血液【担当：木下】	血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血糖値、CK など）を行い、スポーツ選手における貧血の診断などについて学ぶ。
7	アスリートの臨床的サポートの実際【担当：木下】	骨密度、体組成、血液データなどを用いて、特に思春期を中心とした若年アスリートの医科学的サポートの実際について症例を踏まえながら学習する。 【参考資料】木下訓光：やせと体組成、月経障害。臨床スポーツ医学 2014;31(9):858-867.（メディカルオンラインより全文閲覧可能）
8	脳振盪・脊椎損傷への対応【担当：瀬戸】	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック（1）【担当：瀬戸】	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック（2）【担当：瀬戸】	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	スポーツ障害の特色（1）【担当：瀬戸】	代表的な動作（ランニング、投球などの）の機能解剖学を参考し、動作に固有なスポーツ障害について学ぶ。
12	スポーツ障害の特色（2）【担当：瀬戸】	腰痛症について、その発生メカニズムを理解する。動作と関連する腰背部の筋群について学習する。
13	レジスタンストレーニングの筋活動モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニングを実施する時の筋群の活動を筋電図を用いて観察し、トレーニング効果の理解を深める。
14	レジスタンストレーニング時の呼吸、循環系モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニング中の呼吸、循環応答を観察し、生体応答を理解する。医学的問題点への対処、アクシデントの予防についても検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート作成

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

“Exercise Physiology (Eighth Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2012

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %：毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポート提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【その他の重要事項】

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。【どのよう実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、医師の指導のもと学生が医療行為を含めた実習を経験し、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生に対する医学的支援の実践において必要な知識・技術を習得できるようにする。

① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。

② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。

③ 春学期科目「スポーツ医学（内科系）/スポーツ医学 A」の単位を修得していることが履修の絶対条件である。

④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1）日本スポーツ協会アスレチックトレーナー資格試験受験の準備状況、2）「統計学Ⅰ」、「数学」の履修・単位取得状況を考慮する。

発行日：2019/5/1

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide practical knowledge of sports medicine related to physical activity, exercise, and sports. The lecture provide skills how to deal and prevent sports injuries in children and adults.

SOC100IA

レジャー論

谷本 都栄

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、レジャーの概念、レジャーの大衆化と多様化の歴史、現代社会におけるレジャーの意義と役割について学ぶ。また、スポーツ、観光、教育、文化、健康、福祉、環境などの多様な領域とレジャーの関係について理解を深め、将来のレジャーの方向性についても考察する。

【到達目標】

- ・レジャーの形成過程について、歴史的な背景を含めて理解を深める。
- ・レジャーの多様性、現代社会におけるレジャーの意義と役割について理解を深める。
- ・日本におけるレジャーの課題や今後のあり方について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・オリジナルテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
- ・ワークシートやリアクションペーパーを活用し、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	レジャーの概念①	古代ギリシャから現代に至るレジャーの概念について、歴史的背景を踏まえて学ぶ。
第 3 回	レジャーの概念②	「遊び」の諸理論、人間と遊び、遊びを源とする文化の発展について学ぶ。
第 4 回	レジャーの形成過程①	近代以降レジャーが大衆化、多様化した経緯とその要因について学ぶ。
第 5 回	レジャーの形成過程②	現代レジャーの分類とそれぞれの特徴について学ぶ。
第 6 回	日本におけるレジャー動向①	戦後の日本におけるレジャーの展開について、時代背景を踏まえて学ぶ。
第 7 回	日本におけるレジャー動向②	日本の社会構造やライフモデルの変化とレジャーの動向について学ぶ。
第 8 回	中間レポート	第 7 回までの授業内容に関わるテーマについてまとめる。
第 9 回	ライフスタイルとレジャー行動①	各種統計データから、日本人のレジャー行動の特性について学ぶ。
第 10 回	ライフスタイルとレジャー行動②	世代やライフステージで異なる価値観や志向性とレジャー行動の関係について学ぶ。
第 11 回	レジャー環境①	日本の余暇関連行政、レジャー環境に関わる課題について学ぶ。
第 12 回	レジャー環境②	余暇教育、生涯学習の視点から、今後のレジャーのあり方について考える。
第 13 回	レジャー環境③	スポーツとまちづくりの視点から、今後のレジャーのあり方について考える。
第 14 回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業中に紹介した文献や資料を読んで理解を深める。
- ・各レポートは、授業中に示した手順を参考に各自で準備を進める。

【テキスト（教科書）】

- ・毎回テーマに応じたプリントや参考資料を配布する。

【参考書】

- ・適宜テーマに関する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・ワークシート及びリアクションペーパー 40 %
 - ・中間レポート 20 %
 - ・学期末レポート 40 %
- 総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生が授業内容を理解しているかを随時確認しながら、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline and objectives】

Leisure is an essential, unchanging part of human nature above utility or usefulness. Leisure is associated with behaviours outside of work such as play, sport, recreation, cultural pursuits, social activities and education. This course focus on the role of leisure and recreation in society emphasizing historical processes of development and change, recent phenomena, and leisure behaviours.

The program has the following objectives.

1. Introduce students to the field of Leisure Studies
2. Provide a basic understanding of the theory and specific issues of leisure
3. Encourage students to engage in a wide variety of leisure organizations and events

SOC100IA

スポーツ文化論

早瀬 健介

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは私たち人間の“こころ”と“からだ”の健全な発達を促すとともに、明るく豊かで活力に満ちた、生きがいのある社会の形成に寄与する人類共通のすばらしい文化の一つといわれている。
なぜ人はスポーツに惹きつけられるのか、スポーツの魅力とはいったい何なのか、「スポーツ文化」という言葉が使われるようになり久しいが、私たちのスポーツの価値をどのように認識しているのだろうか。
本授業ではスポーツを様々な視点から見ることにより、スポーツが現代社会に生きるすべての人々にとって欠くことのできない文化であることを再確認する。
我々の身近にあるスポーツがどのような変遷を経て現在に至っているのか、毎年世界各地で開催をされるオリンピックをはじめとする様々な国際スポーツ大会の在り方から身近なスポーツ環境まで、スポーツは我々の生活に深く根ざしている。
本授業ではこれらを元にスポーツが内包する魅力について知見を深めるとともに、それらを踏まえ自らがスポーツについて語る力を養いたい。

【到達目標】

様々なスポーツ関連事象を通して、現代社会を見ることのできる知識を身につける。
2017 年 4 月に策定された第 2 期スポーツ基本計画をはじめ、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、今後展開される様々な施策に関し、自らの言葉で語ることのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

国際大会を含め様々なスポーツイベントやアスリートを取りまく環境が変わりつつある今日、それらをめぐる様々な事象からスポーツについて考えるとともに、我が国における体育・スポーツへの取組やスポーツが社会に及ぼす影響など、スポーツに関する身近な題材を参考に、自らの生活との関わりの中でスポーツの価値について考える。
必要に応じて配付する資料等とともに、P.P.を使用したスクール形式の一斉授業を行う。本授業では、普段私たちが何気なく目や耳にしてきたスポーツとはどのようなものであり、どのような価値を内包しているのか等を明らかにするとともに、今後の各自のスポーツ振興に役立てることを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	授業概要説明及びスポーツの成立過程を概観	授業の内容、進め方、成績評価方法、留意事項。また、スポーツはどのような歴史をたどり現在に至っているのか概観を学習
2	スポーツ基本権	スポーツに関する国民の権利を保障する法的根拠を理解
3	スポーツ振興法及び「体育の日」について	当時の逐条解説等をもとに、昭和 36 年のスポーツ振興法を学習。加えて「体育の日」について理解を深める
4	我が国のスポーツ活動の現状と課題	「スポーツの実施状況等に関する世論調査（スポーツ庁）」データをもとに我が国のスポーツ活動の現状について理解する
5	我が国の体育スポーツ施設	「体育・スポーツ施設現況調査（文部科学省）」及びスポーツ庁のデータ等をもとにスポーツ環境を考える
6	2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組	「2020 東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査（内閣府）」データ等をもとに東京大会でのおもてなし等について考える
7	スポーツ立国戦略とスポーツ基本法	平成 22 年に策定されたスポーツ立国戦略について、その背景を理解するとともに、スポーツ基本法前文について学習
8	スポーツ基本法	平成 23 年に約半世紀ぶりに改正された「スポーツ基本法」の内容について理解

9	スポーツ基本計画	平成 24 年に策定された「スポーツ基本計画」の概要について学ぶとともに、平成 27 年 4 月に策定された「第 2 期スポーツ基本計画」について理解を深める
10	子どものスポーツ環境	体力低下のデータ等をもとに子どものスポーツ環境について考える
11	地域スポーツクラブ	豊かなスポーツ環境の創造に向け「新しい公共」として期待される地域スポーツクラブについて理解を深める
12	オリンピックについて考える①	オリンピックを支えている基本的な考え方を学ぶとともに、祭典競技に対する考え方と競技内容等について理解を深める
13	オリンピックについて考える②	オリンピックにまつわる雑学を知る
14	2020 年東京オリンピック・パラリンピックについて考える	2020 年東京オリンピック・パラリンピックに関する諸課題について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：スポーツの始まりは何であったのか考えてくる
第 2 回：日本国憲法第 3 章に目を通してくる
第 3 回：スポーツ振興法 第 1 条～第 4 条（総則）及び「体育の日」の歴史について調べてくる。
第 4 回：現在の成人が行うスポーツ活動にはどのような傾向があるのか考える
第 5 回：日本にはどのようなスポーツ施設が多いのか考えてくる
第 6 回：2020 年東京大会にどのような形で関わるのが可能なか考える。
第 7 回：スポーツ立国戦略の作られた背景について調べてくる。
第 8 回：スポーツ振興法とスポーツ基本法の違いは何か考えてくる
第 9 回：スポーツ基本計画のポイントは何なのか考えてくる
第 10 回：子どもの体力低下の原因について考えてくる
第 11 回：総合型地域スポーツクラブ創設による効果は何なのか考える
第 12 回：競技別の世界選手権とオリンピックは何が異なるのか考えてくる
第 13 回：オリンピックに関する雑学を各自が一つは調べてくる
第 14 回：東京オリンピック・パラリンピック開催によりどのような変化が期待されるのか考える

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリント等を配布

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート・小テスト（30%）及び、定期試験（70%）による総合評価を行う。授業欠席回数が授業実施の 1/3 を越える学生については、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業外において行う学習活動（主に予習・授業準備）に関するコメントを、必要に応じて授業開始時に問う。各自準備をしておくこと。

【その他の重要事項】

中高一貫の私学で 1 年間保健体育教員を経験、また、文部省体育局・文科省スポーツ・青少年局で 9 年間専門職として勤務、競技スポーツ・生涯スポーツを中心に幅広い分野の業務に携わる。

【Outline and objectives】

It is the human common culture who the sports contribute to our "mind" and healthy development of "the body", and has an influence on the social formation with a rich definite aim brightly. The word "sports culture" is used well, but it is thought that we have not yet understood "sports culture". The student observes sports from various viewpoints by this lecture. And the student reconfirms that sports are essential culture for all people living in the modern society.

MAN100IA

地域スポーツ経営論

川田 尚弘

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2
旧うか科目名：コミュニティスポーツ論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国のスポーツ行政のねらいとしくみを学び、地域におけるスポーツ組織の経営・運営の基本を習得する。

【到達目標】

地域におけるスポーツクラブの機能と役割について調査したうえで、マネジメントの方法について学習する。特にプログラムサービス事業とクラブサービス事業について、その基本的な進め方を理解するとともにスポーツ事業の計画・運営・評価ポイントの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ振興方策の基本を理解し、Jリーグクラブや総合型地域スポーツクラブの構造や地域における役割について調査する。また、我が国のスポーツ環境とヨーロッパや南米における地域スポーツクラブの現状を比較し、スポーツ事業の計画を立案する。（グループトークとグループ発表を授業内で実施する）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	我が国のスポーツ振興方策と行政のかかわり（スポーツ基本法、スポーツ立国戦略の概要を理解する）
2	地域におけるスポーツ振興方策と行政の関わり	我が国のスポーツ振興方策の具体例を示し、地域の行政がどのように関わっているのかを理解する。
3	地域スポーツクラブの機能と役割	住民が自主的に運営する地域スポーツクラブの例を示し、その機能と役割について自身の考えを示す。
4	地域スポーツクラブの立ち上げと運営	我が国の NPO 法人で運営している総合型地域クラブを事前に調査し、自身がどのように関わり事が出来るのか、授業内で発表する。
5	地域におけるスポーツ組織の運営	スポーツボランティアの必要性を理解し、モチベーションの確保についてグループディスカッション・グループ発表を行う。
6	総合型地域スポーツクラブとは	我が国のモデルとなるスポーツクラブを映像でチェックした後、自身の考えをレポートにまとめる。
7	総合型地域スポーツクラブのシュミュレーション	前回の授業を復習し、総合型地域スポーツクラブの運営計画を作成する。
8	地域スポーツクラブの育成	総合型地域スポーツクラブの育成と運営について、自身の考えを整理する。（レポート提出）
9	スポーツ組織の運営と事業①	スポーツ組織の多様性と役割を学び、地域スポーツの構造を知る。
10	スポーツ組織の運営と事業②	ヨーロッパにおける地域スポーツの実情を事前に調査し、我が国との違いについてまとめる。
11	海外における地域スポーツクラブの実情	ドイツとブラジルの総合型地域スポーツクラブの実例を示し、我が国の地域スポーツクラブ育成の課題について、ディベートを行う。
12	J リーグは百年構想	J リーグの理念を事前に調査し、スポーツの意義や地域スポーツの振興について自身の考えをまとめる。
13	スポーツ事業の計画・運営・評価	スポーツ事業の種類や基本的な進め方を学んだ後に、プログラムサービス・クラブサービス事業の計画・運営・評価を行う。
14	地域におけるスポーツ経営の総括	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① スポーツ基本法を理解する。
② J リーグの理念を調べる。

- ③ 我が国におけるスポーツ振興の実態を調査する。
④ 海外の総合型地域スポーツクラブを調査する。

【テキスト（教科書）】

毎授業でレジュメを使用する。

【参考書】

- (1) 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ、Ⅱ：（公）日本体育協会
(2) J リーグ百年構想 J リーグ出版
(3) 総合型地域スポーツクラブ：大修館書店
(4) クラブづくりの 4 つのドア：文部科学省
(5) スポーツ基本法・スポーツ立国戦略の概要、スポーツ庁について、文部科学 省ホームページ
(6) 海外の事例（ビデオ、資料など）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度等） 30%、レポート 30%、期末試験 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業環境を適切に保つよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The objective of this class is to know about the organization and the goals of the sports administration in Japan.

ARSI100IA

スポーツとまちづくり

伊藤 真紀

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間」と「組織」をマネジメントする際の基礎的な知識を学ぶ。スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。
3. 組織論、モチベーション理論、リーダーシップ理論の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	マネジメントとは1	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
3	マネジメントとは2	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
4	マネジメントの方法	トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
5	マネジメントの戦略	組織論の目的、組織とは何か、組織の分類、組織の境界線、スポーツ組織とはについて学習する。
6	組織を動かす基本設計	組織は何のために作れるのか、組織における分業の基本構造、組織における調整について学習する。
7	組織を動かすメカニズム	組織活動をきちんと動かすメカニズムについて学習する。
8	効率的に目標を達成する —組織構造—	部門化のあり方、権限と責任、基本の組織設計、新しい組織について学習する。
9	スポーツ組織における リーダーシップ	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
10	個人の理解（パーソナリティと対人認知）	パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める。
11	スポーツ組織におけるモチベーション	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
12	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。
13	ケーススタディー 1	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例についての資料を事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、授業でグループディスカッション、グループプレゼンテーションを行う。
14	授業内レポート	レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

「マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則」（P.F. ドラッカー著）ダイヤモンド社
Managing Organizations for Sport and Physical Activity" Third Edition. Chelladurai, P. Holcomb Hathaway, Publishers
「経営組織論」 鈴木竜太著 東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）＋ケーススタディーレポート（40%）＋期末レポート（40%）＝100%という配分で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

We will learn the basic knowledge necessary in managing "human resource" and "organization". You will study the various organizational theory in sports from different perspectives (management organization theory, human resource management theory, management theory, management strategy theory, leadership theory, motivation theory, etc.), and understand the basic knowledge to effectively manage sports organizations.

ARSI1001A

スポーツ組織論

伊藤 真紀

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「人間」と「組織」をマネジメントする際の基礎的な知識を学ぶ。スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。

【到達目標】
1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。
3. 組織論、モチベーション理論、リーダーシップ理論の基礎知識を理解する。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	マネジメントとは1	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
3	マネジメントとは2	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
4	マネジメントの方法	トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
5	マネジメントの戦略	組織論の目的、組織とは何か、組織の分類、組織の境界線、スポーツ組織とはについて学習する。
6	組織を動かす基本設計	組織は何のために作れるのか、組織における分業の基本構造、組織における調整について学習する。
7	組織を動かすメカニズム	組織活動をきちんと動かすメカニズムについて学習する。
8	効率的に目標を達成するー組織構造ー	部門化のあり方、権限と責任、基本の組織設計、新しい組織について学習する。
9	スポーツ組織におけるリーダーシップ	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
10	個人の理解（パーソナリティと対人認知）	パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める。
11	スポーツ組織におけるモチベーション	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
12	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。
13	ケーススタディー 1	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例についての資料を事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、授業でグループディスカッション、グループプレゼンテーションを行う。
14	授業内レポート	レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
「マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則」（P.F. ドラッカー著）ダイヤモンド社
Managing Organizations for Sport and Physical Activity" Third Edition. Chelladurai, P. Holcomb Hathaway, Publishers
「経営組織論」 鈴木竜太著 東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）＋ケーススタディーレポート（40%）＋期末レポート（40%）＝100%という配分で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
We will learn the basic knowledge necessary in managing "human resource" and "organization". You will study the various organizational theory in sports from different perspectives (management organization theory, human resource management theory, management theory, management strategy theory, leadership theory, motivation theory, etc.), and understand the basic knowledge to effectively manage sports organizations.

ECN1001A

スポーツ経済論

宮下 量久

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定やスポーツ庁の設置など、わが国のスポーツを取り巻く環境は大きく注目されています。本講義の目的は、経済学の考え方を基にして、スポーツ活動の役割や可能性を考えていくことにあります。経済学は「選択の学問」と呼ばれることもあり、スポーツの諸課題を解決するうえで重要な示唆を与えてくれるでしょう。また本講義では、スポーツ活動の根幹をなす「資金」について、公・民の両面から把握し、スポーツにまつわる経済活動についての知識も深めていきます。

【到達目標】

現実のスポーツに関する課題を経済学的視点から分析し、その解決策を含めて自分自身で論理的に説明できることを目指します。そのために、経済学における基本的な考え方・理論を習得してもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

冒頭の 10～15 分では授業内容に関連する時事的テーマについて平易に解説します。授業は Power Point を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについて自分なりの考えをまとめて、次の授業までに小レポートを提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	各講義の内容、進め方、評価方法などを説明します。また、どのようなスポーツの問題に関心があるのか、アンケート調査も行います。
2	オリンピックと経済学	オリンピックの事例や資金の流れを踏まえて、GDP（国内総生産）などの考え方、経済効果と経済成長の違いなどを学びます。
3	ワールドカップと経済学	サッカー・ラグビーのワールドカップなどのメガスポーツイベントの事例や資金の流れを踏まえて、需要曲線や供給曲線の特性などについて学びます。
4	スタンドプレーかチームプレーか	団体競技におけるスタンドプレーやチームプレーの事例を踏まえて、経済学における合理的選択などを学びます。
5	プロ野球選手の年俸はなぜ高いのか	国内外のプロスポーツ選手の年俸を事例に挙げながら、プロ野球の資金の流れやプロスポーツの労働供給市場について学びます。
6	プロチームは利潤最大化企業か	J リーグを取り巻く資金や企業を事例にして、企業の利潤最大化行動、生産者余剰の考え方などについて学びます。
7	チケット転売と経済学	スポーツイベントのチケット転売問題などを事例に、消費者余剰と生産者余剰を用いて、総余剰の意味、参入規制の余剰分析などを行います。
8	スポーツの競技団体における資金の実態	各種スポーツ競技団体の資金などを事例にして、補助金などによる政府の市場介入について説明します。
9	スポーツにおける国の役割	スポーツ庁などの政策・予算を事例に、市場の有効性、「市場の失敗」の是正、「政府の失敗」の是正などの概要を学びます。
10	スポーツと地域振興	都道府県や市町村のスポーツ政策・予算などを事例に、地域振興におけるスポーツの役割や地方分権の意義について学びます。
11	プロスポーツの資金の実態	野球・サッカー以外のスポーツの資金などを事例にし、需要の価格弾力性、供給の価格弾力性の定義やグラフでの求め方について学びます。
12	望ましいゲームのルールとはなにか	ドーピング問題や八百長問題を踏まえて、ゲーム理論に基づき、公正・公平なルールについて考えます。

13	グローバル経済とスポーツ	スポーツの国際化の流れを踏まえて、国際経済の基本的な考え方を学びます。
14	期末試験・授業のまとめ	授業の内容に基づき、試験・総括を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習については、授業前に資料を授業支援システムにアップしますので、一読しておいてください。
・復習については、小レポート課題を次の授業までに提出することで行っていきます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講師の作成資料に基づいて、授業を進めていきます。

【参考書】

笹川スポーツ財団（2017）『スポーツ白書 2017』
八田達夫（2008）『ミクロ経済学Ⅰ』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

・成績評価の方法：経済学の考え方を踏まえて、授業の内容を的確に把握し、スポーツにまつわる各課題について自らの意見を述べるができるか、で評価します。
・成績評価の基準：毎回の講義で課す小レポート（配分：20 % 程度）、期末試験（配分：80 % 程度）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の希望等を踏まえて、講義の順番や内容などを一部変更することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

シンクタンク在職時、スポーツ予算の実態やスポーツ庁の組織形態について調査研究した経験を踏まえ、スポーツ行政における課題を明確にし、その解決策を検討していきます。

【Outline and objectives】

This course provides an overview of sports-based microeconomics. You can learn how economics is a useful tool for resolving problems in society through this lecture. We will examine a compelling value proposition for the sports industry and an interesting policy concerning sports in the national government.

SOC100IA

スポーツメディア論

山本 浩

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既存の新聞、放送と、近年隆盛著しいインターネット・タブレット等、幅広いメディアがスポーツを捉える理念、行動の実態に精通すること。そのためには、メディアの発生から成長の軌跡と現状を理解しながら、今後著しい変化が予想されるメディア世界を読み解ける能力を磨き、知識を身につける。競技スポーツの中には「メディアスポーツ」と称されるものがある。いったいスポーツ自体がなぜメディアなのか。全編の講義を通じてそれは明らかになる。

【到達目標】

オリ・パラという大きなスポーツイベントに向かって、早くもカウントダウンが始まったように感じられてならない。活字・電波・写真だけでなくモバイルから伝えられる情報は、本番さながらに溢れかえろうとしている。「文字」「映像」「音楽」「コメント」を武器にメディアはスポーツを、また周辺の変容をどんな視点で捉え伝えるのか。メディアの動向、情報を見聞きするにつけ、そこに社会の投影されるのを知り世の人々の世界観を感得する。ストーリーミング、OTT、SNS。さまざまなルートを通してスポーツがそれ自身メディアとして膨張しているのも確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツメディアの実に入るために、マスメディアのスタートの基礎となった歴史上の出来事を追いながら、活字・音声・映像メディアの登場を PPT を使ってつぶさに見る。スポーツメディアの成り立ちと構造を三角形で表せば、その底辺から始めることになる。伝える形が変わったのは媒体技術面のイノベーションによるところが大きい。それが共振してやがてスポーツ自体にも変化を及ぼすようになる。講義では、ニュース記事、テレビ番組を随時取り上げ、理解の促進材料とする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ることがすなわち、ある部分で自分をどう伝え、主張するかのノウハウにもつながる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの現状	新聞、放送はいまだメディアの中心に近い。その組織と活動から、全体的なニュース報道の中のスポーツの占める位置を窺う。
2	スポーツメディアの歴史	活字の報道は、始まるとはほぼ時を同じくして“スポーツ”に関心を示してきた。それは洋の東西を問わず同じ感性に貫かれている。新聞から雑誌までの展開を追う。
3	活字メディアの仕組み	スポーツメディアは、メディアの一つのジャンルである。そこをのぞき見るには、活字メディアの世界の常識と理念を知っておかなければならない。後に放送メディアも大きな影響を受けた取材から報道までのありようを見る。
4	電波メディアの仕組み	誕生当初の電波メディアは、新聞の知恵を借りることが多かった。それが違った道をたどるようになるのは、映像という武器を手にするようになってからだ。それでも底流を流れるスポーツに対する理念は変わらない。
5	活字メディアにスポーツメディアの核を見る	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げて来た。一般紙とスポーツ紙、それぞれの個性、報道スタンスの違いを見ながらスポーツメディアの特徴を知る。スポーツメディアがスポーツをイベントとして取り上げるようになったのは、世界のスポーツ界に商業化路線が押し寄せたからではない。購買数・視聴率という経営に関わる指標は、昔からスポーツイベントを必要としてきたのだ。
6	事業を興すスポーツメディア	

7	スポーツ中継（1）	タブレット端末でのスポーツ観戦が当たり前になった今でも、画面の中に見る手法はテレビ中継が培ってきたものに他ならない。スポーツ中継の見えない部分を音声実況の歴史から初めて含めて細部まで開示する。
8	スポーツ中継（2）	ラジオとテレビ。それはメディアの構造の違いだけでなく方法論の違いにもつながっている。音中心のメディアと映像主体のメディアを比べ、重ね合わせることでスポーツ報道のある部分が見えてくる。
9	スポーツニュース	時代と共に、スポーツ記事の量は増え、その重要性は高まってきた。テレビニュースにおけるスポーツも同じような変化を遂げている。スポーツニュースの現代的価値を問う。
10	スポーツスタジオ番組	スポーツスタジオ番組の制作は多面的な素材を要求する点でスポーツメディアの総合製品に近い。多彩な試みで視聴者の関心を誘うスポーツスタジオ番組の全貌を知る。
11	ドキュメンタリー	日本のスポーツドキュメンタリーには、一つの定形がある。この定形をどうとらえるか。それを超える新しいスポーツドキュメンタリーは可能なのか。それは、私たちがスポーツのどこに価値を見いだしているのかに底通する。
12	スポーツメディアの伝える社会問題	暴力的指導、八百長問題、ドーピング、人種差別、規則を超えた商業主義。メディアは必ずしもスポーツを全面的にはたたえない。そこに潜む、スポーツを傷つけかねない出来事にメディアはどう取り組んでいるのか。
13	スポーツメディア世界の今	メディアを巡る環境は激変。放送と通信の融合、新聞離れ、有料チャンネルの増加。ストーリーミングによるスポーツ観戦の時代をどうとらえるか。これに対応するスポーツ界にも目を凝らしたい。
14	総括と授業内試験	ここまでの 13 回にわたる講義の中で取り上げてきた用語を確認。さらに、テーマの一貫性を大切にしながらジャーナルな課題を選択しての小論文による試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心をもち続ける。肝心なのは、個々の報道をすべてを鵜呑みにしないことだ。自らの体験、他人の意見を冷静に見比べながら、常に自分の世界観に照らし合わせた読解力を持つ。そこでひらめいた読後感はさまざまなシーンで有用だ。いつ・どこで・何が・どのように起こったのか。どう取り上げられたのか、自分のメモに書き留めておこう。

【テキスト（教科書）】

特に使用せず。

【参考書】

「21世紀スポーツ大事典」中村敏雄ほか編集主幹 大修館書店
「スポーツは誰のためのものか」杉山茂著 慶応大学出版会
「メディアスポーツへの招待」黒田勇編著 ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

配分：
講義中に、指定する時間内で小論文を要求する。毎回の小論文は成績評価の対象となり。1回最高点3点。13回のすべて満点を取れば、39点。最終講義内に行う試験70点。
すべてフルに獲得すれば109点となり、明らかに最高レベルの評価で単位を取得できる。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・広い世界観、具体事例を示せるかどうかなど。

【学生の意見等からの気づき】

「これまで知らなかったことが明らかになった」といった声は喜ばしいが、「自分の知っていたことと違っていた」あるいは「違う見方があったのを知った」という意見がもっと増えてくれればそれに越したことはない。
スライド枚数を多くした分、スライドの切り替えが早いという声があった。留意しておきたい。

【その他の重要事項】

スポーツジャーナリストとしての40年にわたる内外での取材活動を元に、電波・活字・インターネットメディアの構造を講義する。
スポーツメディアの期待は、伝える内容のどれもが誰にとっても「重要関心事」だと感じてもらいたがっている。そこでなぜこれが伝えられるのか。ここになぜこれが書かれているのか。メディアの期待を斟酌することで、社会が見えてくることがある。

【Outline and objectives】

To be familiar with the sports philosophies of existing media such as existing newspapers, broadcasting, Internet and tablets that are prominent in recent years. For that purpose, while understanding the trajectory and current situation of growth from the occurrence of media, you will acquire knowledge by refining the ability to understand the media world where remarkable changes are anticipated.

POL200IA

スポーツと政治

赤堀 宏幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オリンピック開催など、世界的な競技会、イベントに見られるように、世界各国でスポーツと政治の関係は、多面的に切っても切り離せないようになっている。スポーツと政治は、国際的にも各国の事情でも、政治とのつながりがなく進んできた例は非常に少なく、利権などに絡んだことや、「大会不参加」など、政治に利用されていたことが歴史にも刻まれている。過去のオリンピックや競技会などのイベント、政策などを通じ、スポーツと政治はどうあるべきかを考察し、視野を広げていく。

【到達目標】

スポーツと政策、スポーツと法律、スポーツと外交など、多くの国際的な関係事例を見ながら、日本のスポーツの今後にかかわる政治との関係に関心を持てるようにする。そのうえで、多岐にわたる情報収集力、分析など、対処法や方向性も含めて多種多様な考え方を学習し、実際のスポーツイベント実施や運営に必要な事項を知識にできるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、レポート提出。元オリンピック選手、スポーツを含めた文部科学政策に関わった政治家、日本オリンピック委員会や日本体育協会加盟団体でオリンピックを推進してきた関係者の話、取材した経験を通じ、オリンピックや国内大会などへの定言的な企画など多角的な考察を行い、原稿作成など記述する時間を多くして、学習していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツと政治・序章	講師紹介と授業概要説明、授業計画の説明。 及び一般的なスポーツと政治に関する一般論
2	国交のない国とのスポーツ交流	国交のない国でのスポーツ大会に参加したアスリートの考えていたこと。その後、国交正常化への道
3	オリンピックにおける政治との関係1	オリンピックにおける政治学、近代オリンピックによる世界支配化との関係
4	オリンピックにおける政治との関係2	政治、国交回復への道、平昌オリンピックで、韓国と北朝鮮の統一チームが出場へ
5	オリンピックにおける政治との関係3	オリンピックの大会開催誘致、参加への政治介入。 各競技の世界選手権、アジア選手権などの開催と政治介入
6	オリンピックにおける政治との関係4	オリンピック開催、オリンピック選手育成・強化は体制維持から始まったのか
7	オリンピックにおける政治との関係5	モスクワオリンピックの米国などのボイコット（日本も不参加）と今日まで
8	オリンピックにおける政治との関係6	ロサンゼルスオリンピックのロシアなどのソ連のボイコット（日本は参加）と今日まで
9	政治と国民のスポーツ活動1	ドイツ分断時、東ドイツにおける国民のスポーツ活動の目的と状況
10	政治と国民のスポーツ活動2	スポーツとアパルトヘイトとの関係・変遷、オリンピックでの状況
11	政治と国民のスポーツ活動3	幻の東京オリンピック、第二次世界大戦後のスポーツ復活
12	スポーツ政策1 国民体育大会	国民体育大会開催発案とその後のスポーツ政策、体育協会と政治家の関係。スポーツ基本法のなりたち
13	スポーツ政策2 スポーツ六法	21世紀になってからの現実。スポーツ基本法をはじめとするスポーツ六法と今日まで
14	スポーツ政策3 世界のスポーツ禁止令などの政策	スコットランドで発布されたゴルフ禁止令など、各国のスポーツ奨励と禁止令。スポーツとレジャーの区分、区別とスポーツ振興策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞（ニュース記事、解説、社説、コラムを中心）に目を通し、必要なキーワードをまとめたおく。雑誌、テレビなどを通じてオリンピックやスポーツ政策に関するキーワードを記録しておく

【テキスト（教科書）】

新聞（スポーツ紙を含む）、雑誌、書籍

【参考書】

各種新聞記事、雑誌記事を中心とする

【成績評価の方法と基準】

・授業内に実施する小レポート 40 %
・全授業終了後に実施するレポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Expand the field of view to learn the relationship between sport and politics. Olympic and politics are inseparable. Political use of the sporting event was in the past. Moscow Olympic games there is non-participation for political reasons.

ECN2001A

スポーツ産業論

吉田 政幸

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ産業には、スポーツ用品産業、スポーツサービス産業、スポーツ施設産業、およびそれらの複合領域であるスポーツ関連流通業と施設・空間マネジメント業が含まれる。本講義ではこれらの産業領域の代表的な事例を取り上げながら各領域の市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学ぶ。

【到達目標】

スポーツ産業で事業に携わる者は社会情勢やトレンドを踏まえながら、スポーツという文化的活動を産業化させていかなければならない。受講後、履修者は以下の点について説明することができるようになる：

- (1) スポーツ産業の構造および現状
- (2) スポーツ用品産業、施設産業、サービス産業、メディア産業の市場規模および特徴
- (3) 米国大学スポーツの歴史の変遷、概要、産業規模
- (4) スポーツ産業のサービス産業化の中で成長を遂げるスポーツイベント業、スポンサーシップ、スポーツツーリズムなどの概念、仕組み、特徴

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業はテキスト（スポーツ産業論、第 6 版）を用いてスポーツ産業について総合的に学習する。授業は講義形式であり、受講者は事前に指定された章を読んで授業に参加する。毎回の講義の最初に発表される学習課題について深く考えながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツ産業の構造と現状	20 世紀後半に急速な発展を遂げたスポーツ産業の歴史の変遷、構造、現状について学習する。
第 2 回	スポーツ用品産業	スポーツ用品産業の市場規模と流通構造について学習するとともに、近年「製造業、卸売業、小売業」の三層構造に生じた業態変化について理解を深める。
第 3 回	スポーツ施設産業	日本を代表するスタジアムやアリーナを例に、スポーツ施設産業の現状、施設整備の方法、現在抱える問題について学習する。
第 4 回	スポーツサービス産業	スポーツプロダクトのサービス特性を理解するとともに、スポーツサービス産業の中でも特にフィットネス産業に着目し、市場規模および事業の特徴について学習する。
第 5 回	スポーツとメディア産業	スポーツに関連するメディア産業の体系と経済規模を踏まえた上で、人々がメディアを通じてスポーツとの関わりを深める現状について学習する。
第 6 回	日本のプロスポーツビジネス	日本のプロスポーツを代表するプロ野球と J リーグを例に、プロスポーツビジネスの収入構造、支出構造、プロダクト特性について学習する。
第 7 回	米国のプロスポーツビジネス	米国には 4 大メジャーリーグと呼ばれるプロスポーツがある。本授業ではその概要や集客力に加え、独自の戦力均衡策や地域との関係について学習する。
第 8 回	米国のカレッジフットボールビジネス	米国の大学スポーツは一大産業であり、その中でも特に成功を収めているのがカレッジフットボールである。その統括団体である NCAA の役割と構造に加え、カレッジフットボールの成長の背景について学ぶ。

第 9 回	米国のカレッジバスケットボールビジネス	米国のカレッジバスケットボールは日本の甲子園に似ていると言われる。毎年 3 月になると全米中を熱狂させる大学バスケットの歴史の変遷、概要、産業規模について理解を深める。
第 10 回	サービス業としてのスポーツサービス	成熟社会では経済活動の中心がモノ（有形財）からサービス・経験（無形財）へと移行する。本授業ではスポーツビジネスにおけるサービスの役割を理解するとともに、スポーツプロダクト、ブランド、関係性の提供を通じた価値の創造について学習する。
第 11 回	参加型スポーツ産業	わが国において、毎週スポーツを実施している人の割合は約 4 割である。本授業ではスポーツの実施状況に加え、こうした「するスポーツ」の事業化がスポーツ振興とどのように関わっているか学習する。
第 12 回	スポーツツーリズム	スポーツイベントの開催では、開催都市に大勢の参加者や観戦者が集まることから観光業としての役割がある。ここではスポーツツーリズムの概念、仕組み、そしてスポーツツーリストの特徴について学ぶ。
第 13 回	スポーツスポンサーシップ	世界のスポンサーシップ市場の約 7 割をスポーツが占める。企業がスポーツへの協賛を通じて商業活動を行うスポンサーシップについて、市場規模、協賛の仕組み、スポンサー獲得のプロセスについて学ぶ。
第 14 回	スポーツと社会的責任	多くのスポーツチームや選手たちが東日本大震災の被災地復興支援に取り組んでいる。スポーツ界だからこそ果たすことのできる社会的役割があり、これはスポーツ組織の社会的責任と深く関係している。今回はその概念規定、種類、特徴について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者はテキスト（スポーツ産業論、第 6 版）の指定された章を読み、内容について予習するとともに、予め疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

原田宗彦（編）（2015）スポーツ産業論（第 6 版）。杏林書院：東京。

【参考書】

仲澤眞・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング。ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

学期前半の内容に関する小テスト：40 点

期末試験：50 点

米国の大学スポーツに関するレポート：10 点

合計：100 点

【レポートの評価基準】

10 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。

8 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。

6 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。

4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いつながら書いている。

2 点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】

履修者がリアクションペーパーに記入した疑問や質問について、授業内で議論したいと思います。

【その他の重要事項】

テキストに沿って授業を行います。2 週目以降は事前に指定された章を読んできてください。

【Outline and objectives】

The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry.

ECN2001A

スポーツビジネス論Ⅱ

伊藤 真紀

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

旧うか科目名：スポーツクラブ運営論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメントの基礎となる理論「スポーツをサービスとしてとらえ、スポーツ組織がスポーツサービスを効率的に生産し（プロダクション）、交換する（マーケティング）ために、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）および周辺環境をコーディネート（調整）すること」を総合的に学ぶ。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. 「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグラウンドを踏まえた上で、説明できる
3. マネジメントの知識の有無がスポーツにおいて何を変えるのかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面から理解するため、経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論、コミュニケーション理論の基礎を、事例を交えながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	マネジメントとは	マネジメント（基本と原則）を学ぶ
3	スポーツマネジメントの基礎	スポーツマネジメントの定義 スポーツマネジメントの歴史的発展
4	いかにヒトを動かすか 1 Human resource management (人材マネジメント) とは	人材マネジメントの諸機能、戦略的的人的資源管理 (SHRM) 職務満足について理解する。
5	いかにヒトを動かすか 2 リーダーシップ理論	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
6	いかにヒトを動かすか 3 モチベーション理論	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
7	スポーツにおけるモノ、カネ 1	パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションとビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。
8	スポーツにおけるモノ、カネ 2	スポーツリーグ運営について スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。
9	スポーツにおけるモノ、カネ 3	スポーツチーム運営について スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。
10	スポーツにおける情報 1	諸外国のスポーツリーグ・チーム運営について スポーツ組織とメディアリレーション 【スポーツ組織におけるメディア展開】
11	スポーツにおける情報 2	スポーツ組織におけるメディア戦略 【スポーツメディア戦略とは？ 戦略の立て方】
12	スポーツにおける情報 3	メディアにおけるブランド・イメージ戦略 【戦略的なブランドコミュニケーション開発、広告 PR、メディア選択】
13	スポーツにおける情報 4	メディアにおける危機管理対応 【危機管理マネジメント戦略】 企業の社会的責任とスポーツ 【スポーツを使った Corporate social responsibility (CSR) 事例研究】

14 まとめ

これまでの授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。

【テキスト（教科書）】

講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】

授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業への積極的な参加態度（20 %）、リアクションペーパーの内容（30 %）、レポートの内容（50 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

海外におけるスポーツビジネスに関する事例を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

We will comprehensively learn the theory that forms the basis of sports management "To capture sports as a service, and coordinate the management resources (human resource, goods, capital, information) and the surrounding environment in order for the sports organizations to efficiently produce sports services (production) and exchange (marketing).

ECN2001A

スポーツマーケティング論

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、スポーツマーケティングに関する理解を深め、重要な概念や関連する理論についても学習することを目的とする。

【到達目標】

スポーツに関連する組織において、顧客の維持・拡大は重要な課題であり、マーケティング的な視点は必須である。しかしながら、スポーツ消費者は余暇時間の価値を高めるためにスポーツを消費するため、消費者の理解や市場を捉えることがとても困難であると言える。

本講義では、スポーツマーケティングの基本的な考え方やスポーツサービスの特徴などの理解を深めるだけでなく、組織や市場に適したマーケティング戦略について検討しうる能力を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、パワーポイントを用いた講義部分と、個人もしくはグループ単位でマーケティング戦略を検討し、発表するプレゼンテーションで構成されるため、講義外での作業や準備が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要について解説し、スポーツが社会に果たす役割や機能について解説する
2	スポーツマーケティングとは	スポーツをビジネスの視点でとらえ、その存在意義や社会における役割について解説する
3	スポーツビジネスの考え方	マーケティング志向、交換、商品特性
4	消費者構造とマーケティングセグメンテーション	市場の細分化、マーケティングの変遷
5	スポーツメーカーの業務	スポーツクラブの組織の在り方について理解を深め、具体的な業務内容について解説する
6	スポーツマーケティングの特性	スポーツサービスの特異性について理解を深める
7	スポーツ市場の理解	スポーツビジネスの市場規模と我が国の特徴について理解する
8	リスクマネジメント	スポーツクラブ運営に関するリスクの存在について説明する
9	ブランドについて	スポーツクラブにおけるブランドについて説明する
10	CSR	スポーツクラブの社会的責任とガバナンスについて説明する
11	コミュニケーション戦略	ステークホルダーとの良好な関係構築のためのコミュニケーション戦略について解説する
12	スポーツマーケティングの実際①	国内外のスポーツマーケティングに関する研究からスポーツビジネスの実施について説明する
13	スポーツマーケティングの実際②	国内外のスポーツマーケティングに関する研究からスポーツビジネスの実施について説明する
14	総括	本講義のまとめおよびプレゼンをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤真・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017 年

【参考書】

特に設けない

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60%）および授業内レポート（40%）の評価から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

専門性の高さを維持しながら、他のコースを選択している学生にも理解しやすいような内容にしていくとともに、参考となる配布資料の改善もおこなう

【Outline and objectives】

This course is advanced to learn of sport marketing. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply important constructs and theories related to sport marketing.

ECN2001A

スポーツ行政論

川崎 登志喜

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 国・都道府県・市区町村の 3 つのレベルにおけるスポーツ行政の仕組みや政策について説明ができる。
2. 身近なスポーツに関する問題やスポーツ事業についてスポーツ行政の立場から考えることができる。

【到達目標】

1. スポーツ行政の概念と仕組みを説明できる。
2. 地方公共団体のスポーツ施策を説明できる。
3. 諸外国のスポーツ行政の比較から我が国のスポーツ行政の特徴を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

生涯スポーツの振興を担う指導者が活動を行う拠点となる市区町村では、行政が広くスポーツを振興するために様々な施策を行っている。体育・スポーツを学ぶものとして、その行政の行っている振興施策や仕組みを理解しておくことは重要なことと思われる。そこで本講義では、国レベルから市区町村レベルのスポーツ行政について、さらには諸外国のスポーツ行政についても触れながらスポーツ行政の基礎を学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	スポーツ行政の概念と目的	行政やスポーツ行政の目的について理解できる
2	スポーツ行政の仕組み	スポーツ行政の組織と役割について理解できる
3	スポーツ行政の主な施策	スポーツ行政組織と役割について理解する
4	スポーツ振興法とスポーツ振興基本計画	スポーツ振興法の役割と課題について理解する。 スポーツ振興基本計画の役割と課題について理解する。
5	スポーツ立国戦略	スポーツ立国戦略についてその役割とその評価について理解する。
6	スポーツ基本法とスポーツ基本計画	スポーツ基本法について理解する。 スポーツ基本計画について理解する。
7	都道府県のスポーツ振興施策と課題	都道府県のスポーツ行政組織についてグループ発表
8	都道府県のスポーツ振興施策と課題②	都道府県のスポーツ行政組織についてグループ発表
9	市区町村のスポーツ振興施策と課題	市区町村のスポーツ振興施策についてグループ発表
10	市区町村のスポーツ振興施策と課題②	市区町村のスポーツ振興施策についてグループ発表
11	スポーツ予算と財源	スポーツ振興の財源について理解する
12	競技力向上の施策と課題	競技力向上のためにどのような施策がなされているか理解する
13	諸外国のスポーツ行政	欧米のスポーツ行政を中心に、諸外国からみた我が国のスポーツ行政の特徴を理解する
14	まとめ	これまでの講義をふまえて、今後のスポーツ行政はどうあるべきか意見交換できる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々なトピックについてグループワークをおこなう予定である。

【テキスト（教科書）】

テキスト参考資料・参考図書は授業時に配布または紹介する。

【参考書】

小笠原正ほか「スポーツ六法」2011

日本スポーツ法学会編「詳解 スポーツ基本法」成文堂

【成績評価の方法と基準】

- (1) 出席確認：毎時間確認する
- (2) 試験方法：レポート 2 編 80%
- (3) 評価基準：平常点（発表・学習態度を含む）20%

(2 / 3 以上の出席が必要)

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントによる発表は好評につき今年度も実施します。

【Outline and objectives】

This class purpose is

1. It can explain the mechanism and policies of sports administration at three levels, national, prefecture, municipality.
2. It is possible to think about the problem and sports business on sports from the perspective of sports administration.

LAW2001A

スポーツ法学Ⅱ

飯田 研吾

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、日本のスポーツ界への国内外の注目度が高まるとともに、スポーツの社会的価値がより重要性を増している。他方で、日本のスポーツ界では、スポーツ事故、代表選考、スポーツ選手の契約問題、アンチ・ドーピングの問題、暴力・ハラスメント等、様々な問題が生じている。そこで本授業では、現実にスポーツ界で起きている様々な事例を題材としながら、背後にある法律知識や法律問題を理解し、将来スポーツに携わっていく者として必要な法的思考力・マネジメント力の習得を目標とする。

【到達目標】

現実にスポーツ界で起きている様々な事例について、背後にある法律知識や法律問題を理解することができる。
スポーツ界で起きている問題について、法的観点をふまえた解決策や予防策を提示することができる。
特徴的なスポーツ紛争（裁判例や仲裁事例等）を学ぶことで、将来スポーツに携わっていく者として必要な法的思考力・マネジメント力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本としながら、質疑応答を行いながら教員と受講生との間で双方向型の授業を実施し、受講者に考える機会を与えられるよう心掛ける。できる限り、各テーマに関係する具体的な事例を紹介しながら解説を行う予定である。
また、毎回の授業において、前回授業以降に起きたスポーツ界の話題について、法的問題や解決策、検討事項などを発表してもらうことを予定している（詳細は授業で説明する）。
なお、時事情報や問題発生によって講義の内容変更や順序変動があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の位置付けや意義、授業の進め方、参考テキスト、評価方法についての説明
2	スポーツ法の体系	スポーツに適用される法律、スポーツ基本法、スポーツ固有法
3	スポーツ紛争と解決手段	スポーツ紛争の特徴、裁判、スポーツ仲裁、近時の事例紹介
4	スポーツ事故と責任	スポーツ指導者・選手の注意義務・安全配慮義務、スポーツ事故やスポーツ障害の予防と対策
5	代表選考を巡る問題	代表選考を巡る法的問題の所在、紛争事例の検討
6	スポーツ団体のガバナンス	国内競技団体のガバナンスの意義・重要性、不祥事事件の対応例の検討
7	アスリートの法的地位	プロスポーツ選手の法的地位、アマチュアスポーツ選手の法的地位、選手会の意義
8	スポーツと契約	アスリートに関する契約、スポーツ会員契約とトラブル、スポーツ観戦契約
9	スポーツと知的財産権	肖像権、パブリシティ権、アンブッシュ・マーケティング、放映権
10	スポーツのインテグリティ①（アンチ・ドーピング、八百長問題等）	アンチ・ドーピング規に関するルールとその課題、紛争事例の紹介と争い方、八百長の問題点、無気力試合
11	スポーツのインテグリティ②（暴力、ハラスメント等）	暴力・ハラスメントに関する法令の解説、責任の所在、根絶のための取組
12	スポーツにおける子どもの権利	子どもの権利に関する法令、最近の議論の状況、海外での取組例
13	スポーツイベントと法律実務	スポーツイベントを開催する際の法的問題点、サステナブルな大会の実現に向けた取組、東京オリパラの現状

1 4 授業内テスト及び総括 すべての配布資料を持込み可として、講義テーマの重要点の理解度を確認する記述式テストを実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習

授業日までの1週間に起きたスポーツに関する報道等を確認し、法的な観点から検討しておく。これについては、毎回、発表してもらうことを予定している。文献を事前に読む必要がある場合には、予め指示する。

復習

必要に応じて課題を課すことがある。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料（印刷物）を配布する。

【参考書】

「詳解：スポーツ基本法」日本スポーツ法学会監修（成文堂出版）
「標準テキスト：スポーツ法学（第2版）」日本スポーツ法学会監修（エデル研究所）
「スポーツの法律相談」青林書院
「スポーツ法への招待」道垣内正人 他（ミネルヴァ書房）
「導入対話によるスポーツ法学」小笠原正 他（不磨書房）
その他、随時、参考になるものを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配布した資料をすべて持込み可として、講義テーマの重要点の理解度を確認するために記述式の授業内テストを実施する。
成績評価の方法は、授業内テスト50%、授業への取組み50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にはパワーポイントや配布資料を用いて講義を進行する予定である。

【その他の重要事項】

本科目は、新しい法改正や制度改正、事件・事故等の発生によって、講義内容や順序を変更することがある。また、一部の講義で、特定の分野に高い専門性を有するゲストスピーカーを呼ぶことも検討している。

【Outline and objectives】

Japan will host the 2020 Tokyo Olympic and Paralympic Games, attracting attention both in Japan and abroad, and the social value of sports is getting more important. On the other hand, there are several problems and disputes in the fields of sports, such as sports accident, selection, contract issue of athletes, anti-doping problem, violence / harassment, etc.

In this class, from the various cases in the fields of sports, to understand the legal knowledge and the legal problems, and to learn the ability of legal thinking and management which is necessary as a person who will engage in the fields of sports in the future.

SOC200IA

スポーツ取材論

増島 みどり

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ新聞の記者からフリーランスのスポーツライターとして、夏季・冬季五輪、またサッカーW杯などで現地取材行ってきた経験から、「取材」とは何かを講義し、スポーツジャーナリズムを支える「取材力」を考察する。取材における「5 K」とは何か考える。

【到達目標】

授業が終了したとき、取材とはジャーナリストのものではなく、実は身近な習慣、行動であること、また「読む側」「受け取る側」としても新たな知識を身につけ記事や報道を捉えられるようにしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

氷山の一角としての、大会での華々しいパフォーマンスだけではなく、日常のトレーニング、故障やスランプなど、パフォーマンスの水面下に潜む努力や困難をいかに掘り下げるかを紐解く「取材力」を学ぶ。新聞、映像を使いリアルタイムでスポーツ界のニュースを考察するほか、アスリートを授業に呼んで、実際に質問するなどの機会も作りたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	スポーツ取材とは？	スポーツを観る（観戦）と見る（観察）の違い、聞くと訊く、感受性など、「5感」が必要とされる現場取材について。初回は、気になるスポーツ時事を扱う新聞記事、話題などをサンプルに概要を説明し、「自分が」話しを聞いてみたい選手など、アンケートをしてみる。
2	スポーツメディアの現状	アンケートをベースにして、新聞、スポーツ新聞、専門誌、雑誌の仕組み、さらにテレビのスポーツ報道、スポーツの分野において著しく台頭したインターネット、また、媒体を超えた、選手独自の発信（公式 HP、ブログ等）時代の流れの中でメディアとスポーツはどう関わってきたか。
3	スポーツライティングへのアプローチ	「人間ドラマ」主流のスポーツ報道に問題はないか。客観性と主観性を支える取材の重要性について。
4	観察、取材、出稿	どのような材料を得るかがポイントになる。現場での取材、出原稿の流れから、実際に、読者が読む記事はどのように紙面に掲載されるのかを、プロセスから分かりやすく説明する。日常生活でも、観察、取材、メモ作成などは役に立つはず。
5	ミックスゾーン	「現場での取材」は、スポーツライティングを支える柱となる。試合後、選手の話しを聞くために設置される「ミックスゾーン」という不思議な空間について。その誕生、発展、実際の様子をビデオなどでこの現場を見せる。
6	インタビュー術	スポーツに限らないが、もっとも重要なインタビューをどう行うか。どんな話をどう選手から引き出すのか。聞くと訊く、の違いなどを実感するため、実際にインタビューをする体験時間を設けたい。
7	選手との信頼関係をどう構築するか	選手、関係者が発する「一言」の重み。独特の感覚の世界を文字に変えるまでの信頼関係やリスペクト、遠すぎても、近過ぎてもうまうまいかないう理想の距離感について。

8	新しい取材分野としてのサッカー	93年、サッカー J リーグの発展とともにスタートした比較的新しいスポーツメディアとなるサッカーには、今や日本代表戦ともなると300人以上が取材に来る。野球、ゴルフ、相撲、モータースポーツといった従来のプロスポーツとの違いや、「日本代表」という看板の作られ方。日本サッカー協会の仕組みなど、サッカーの現場について。
9	ワールドカップ、世界選手権、オリンピックの取材	AD カードの取得から、ホテル、交通手段、何より重要になる送信環境の確保、千人以上が集まる大会での取材現場の現状。
10	スポーツ取材の楽しみとは	トップアスリートの取材と同時に、彼らを支える関係者、家族、指導者らの取材を通して得る知識が記事を豊かにする。また、裏方と呼ばれる人々のプロフェッショナルな姿勢から学ぶもの。
11	独自の視点を持つ、磨く	スポーツ記事を書くことに特化しなくとも、「取材」という行為によって独自の視点、考え方を持つことが社会生活にも重要となる点を、新聞や雑誌を元にして学生に知ってもらう。
12	スポーツ取材の国際化	プロ野球はメジャーの現場に、サッカーはヨーロッパ、南米と舞台が広がる。語学だけではなく、文化、習慣などを理解したうえでの取材が求められる新しい時代の取材。
13	スポーツ現場取材への準備	好きな選手、興味のある選手にどんな質問をして、何を明らかにしたいか、などを自分で検討したものを発表してもらう。テレビや報道の中の選手像でも構わないし法大の選手、といった身近なテーマでも構わない。
14	スポーツの取材とレポート作成	できれば、現場での取材を行い、実際に「記事」を書いてみる。好きなテーマでもいい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～14回：新聞を主に、必ずニュースをチェックし、自分の視点を持って授業に臨む。

【テキスト（教科書）】

教材は、身近にある題材について、新聞、雑誌など「媒体」から取り上げたい。映像などは随時選択、ゲストスピーカーも呼びたい。

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業での意欲、レポートの3点での総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

未実施のため、特になし。

【その他の重要事項】

※過去のゲストスピーカー

09年＝パラリンピック女子走り幅跳び・佐藤真海選手

10年＝サッカー元日本代表副主将・山口素弘氏

11年＝サッカーなでしこジャパン W 杯優勝メンバー・GK 山郷のぞみ選手

12年＝陸上女子ハンマー投げ、円盤投げ日本記録保持者・室伏由佳氏

13年＝サッカー「なでしこリーグ」INAC神戸専属トレーナー&澤穂希

コンディショニングトレーナー・山田晃広氏

14年＝サッカー「なでしこジャパン」狭山 A S G K・山郷のぞみ選手

15年＝陸上女子ハンマー・円盤日本記録保持者、現解説者・室伏由佳氏

16年＝リオデジャネイロ五輪競泳銅メダリスト・星奈津美氏

17年＝リオデジャネイロ五輪 400 Mリレー・銅メダリスト 飯塚翔太氏

18年＝リオデジャネイロ五輪 400 Mリレー・銅メダリスト 飯塚翔太氏

【Outline and objectives】

We learn the coverage method of sports to be formed on a new custom of the everyday life.

Using a moving image and the interview of sports, We acquire the power of bservation.

SOC300IA

スポーツジャーナリズム論（新聞）

荻田 則夫

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアによって伝えられるスポーツ情報は多種多様だ。スポーツに関わる人間なら、情報の真偽、情報伝達の過程、伝えられたファクトの背景にまで思いを寄せることが重要だ。長年、五輪を中心としたスポーツ報道に携わってきた講師とともに、新聞を中心としたスポーツ報道全体を考察する。

【到達目標】

新聞以外にも雑誌、放送、ネットにはん濫するスポーツ情報の現状を把握し、メディアの特質を理解する。スポーツに関わる人間として情報を取捨選択し、スポーツの本質を正しく分析する能力を備える。スポーツ記事の書き方を例に、日常生活でも分かりやすく物事を伝えられる文章構成力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

メディアのスポーツ報道を五輪、野球、相撲などのメジャー競技、あるいはマイナー競技などの項目別に点検。国際情勢や社会現象との関連にも注意を払いながら、スポーツジャーナリズムの現状と課題を探索。スポーツを文章で伝える基礎的技術にも触れる。講義の順番、内容は変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツジャーナリズム論序章	授業概要の説明。「スポーツ」を学ぶ学生として、スポーツ情報を取り入れる際の基本姿勢を考える。
2	スポーツ報道の特性	新聞、雑誌、放送、デジタルメディアにおけるスポーツ報道の特性を分析する。
3	新聞におけるスポーツ報道	スポーツ報道の「王道」であった新聞報道の変遷。スポーツ新聞の成長と衰退。
4	スポーツ報道と通信社	世界のスポーツ情報の多くは通信社によって拡散してきた。スポーツ報道における通信社の役割と記録報道の重要性。
5	新聞におけるスポーツ報道の各種パターン	ストレートニュース、雑感記事、囲み記事、解説、コラムなどの新聞のスポーツ記事の定型を知り、優れたスポーツ報道を探索する。
6	報道の視点	スポーツの何を伝えるか。ジャーナリストに求められるスポーツの見方、伝え方を考える。
7	取材方法論	優れた報道の基礎は取材にある。スポーツの本質への理解と競技場外での取材の蓄積が重要だ。制約の多いスポーツ取材の仕組みも知る。
8	インタビュー論	報道に厚みを増すインタビュー。競技場内外での会見、インタビューの現状を知ったうえで、本音を引き出すインタビュー手法を探索する。
9	オリンピック報道	スポーツ界最高峰のイベントは、報道の面でも高いレベルで速報、情報量、情報の質を競い合う。五輪報道を考察する。
10	野球報道とサッカー報道	日本のスポーツ報道の原点は野球にある。欧州では五輪以上の関心を集めるサッカー報道。新聞の拡販とも関係する人気競技の報道を検討する。
11	報道におけるマイナーとメジャー	注目されないマイナー競技をめぐる報道の論理。伝えるべきニュース素材とは何か。
12	スポーツ報道実践研究	最近のスポーツ記事を教材に、報道のあり方を検証する。
13	記事作成のノウハウ	基本的な記事作成のノウハウを検討。日常生活にも活用できるわかりやすい文章作成法を学ぶ。

14 試験＝授業内レポート作成 前回学んだ記事スタイルに従い、与えられたテーマに沿って文章を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディアのスポーツニュース、特に新聞報道を日常的に注意深く見る、読む。新聞を読む習慣をつける。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じレジュメを配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

講座内で作成するレポートの内容（60％）、普段の受講時の意見表明などの受講姿勢（40％）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメをより効果的に活用する。学生との意見交換を図る。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Sports news reported by news media is varied in its form and style. If you are involved in sports, no matter a sports fan, an athlete or a reporter for a news media, it is very important to be aware of the authenticity of the report, how the information has been transmitted and the background information of the fact. This course will be conducted by a sport journalist, who has been working in the world of sport journalism especially covering Olympic Games for more than 40 years. Students will examine about the entire sport journalism with a focus on newspaper coverage throughout the course.

SOC300IA

スポーツジャーナリズム論（放送）

佐塚 元章

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 2

単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

報道、歴史観、社会正義、批評性、啓蒙性などをジャーナリズムの本質とするならば 日本のスポーツジャーナリズムはそれらを追求する存在として発達してきたのか。とりわけ放送メディアがスポーツジャーナリズムとして歴史的にどう評価されるのか、現代社会に如何に貢献し、影響力をもっているのかを考える。2020東京オリンピック・パラリンピックの報道については常にジャーナルな視点から関心を持たせる。

【到達目標】

スポーツジャーナリズムというテーマを軸に 様々なメディアから情報を収集し、その情報の普遍化、客観化の能力を身につける。さらに判断する力 自己の考えを確立する。それらを言語化し、仲間発表・表現に至ってゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基本講義に加えて、ビビッドな今日のニュースを随時教材として取り上げ、常に学生に問いかけ、発表させながら授業をすすめていく。収集している映像、音声資料をふんだんに使用する。自ら現役として現在制作・オンエアしている多様な番組の生の現場体験を伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ジャーナリズムへの誘い	自己紹介、授業のオリエンテーション。成績評価の考え方を説明する。ジャーナリズムとは何か、SNS時代におけるマスメディアの現状を認識する。学生諸君のメディア接触傾向のアンケート調査をおこなう。
2	マスメディアの歴史と特質そして今後は	新聞・ラジオ・テレビの発達の歴史、社会の役割を学ぶ。ネット時代における新聞・ラジオ・テレビはどのような存在となるのかを展望し、メディアアクセスの在り方を考える。
3	日本と世界の放送体制の比較研究	日本はNHK・民放の並立体制、アメリカは商業放送など様々である。放送の公共性とは何か、放送法の基本理念とはなにか、放送界の基礎知識を学ぶとともに現行制度の課題を解説する。
4	マスメディアのスポーツ報道の歴史	新聞・ラジオ・テレビのスポーツ報道の歴史をたどりながら、戦争・戦後復興・災害復興など社会史とスポーツのかかわりを学ぶ。
5	スポーツ放送の現場とは	スポーツ放送の3本柱である中継、ニュース、番組はどのような歴史を歩んできたのか。それぞれのスポーツ放送を作る仕組み、取材方法、制作体制、番組提案、実況アナウンサー、スポーツキャスターとは何かなど放送現場の実際を解説する。 教材 NHK「スポーツ実況80年」ほか

6	スポーツを見るジャーナルな視点とは	スポーツジャーナリストにとって大切なことはいかなる視点をもってスポーツを見るかである。それにはスポーツとは何かという根源的な問いかけがまず必要である。そして正しい歴史観に基づく価値判断が生まれる。2回にわたってスポーツを見る視点とは何かを考える。またそのための取材・事前準備のあり方も解説する。 (その1) ゲームを読み解く(試合前取材、分析、予想、試合の分岐点、勝因敗因、技術・戦略采配を批評する) (その2) 大会を読み解く(オリンピック、夏の甲子園大会、ラグビー大学選手権など大会全体を講評する。かつシーズン全体を講評する)。スポーツ興隆は放送によってもたらされ、また放送通信技術はスポーツ放送が契機となって発展してきた。放送はスポーツに何をもたらしてきたのかを考える。また多額の放送権料などが逆にスポーツの本質をゆがめていないか、放送とスポーツの関係の問題点にせまる。 教材「NHK特集 テレビはオリンピックをどう変えた」の視聴など
7	放送とスポーツの関係	スポーツドキュメンタリーを視聴する。名作と言われる作品を視聴し番組の視点を探しながら深く読み解く感性を身につける。 (その1) ラジオドキュメンタリーを視聴する 例 NHKラジオ「聖火は再び」などを聴く (その2)「江夏の21球」「スポーツイノベーション・データ革命」など国内のドキュメンタリーの秀作を視聴する (その3) BBC制作「ラオス少年無心にボールを追って」など「海外スポーツドキュメンタリーの秀作」を視聴する
8	スポーツドキュメンタリーを読み解く(1)	学生諸君がスポーツのあり方についてジャーナルな視点からテーマを決めて授業で発表する。 (発表例) 大学陸上部における箱根駅伝の存在 地域型スポーツクラブ経営に参加して東京六大学野球の現状と課題 (教材) 2020東京五輪招致IOC総会プレゼンテーション 内容の指導はもちろん現役アナウンサーとしてプレゼンテーションの基本・取材・構成・演出など人に「伝える」方法を指導します。
9	スポーツドキュメンタリーを読み解く(2)	ますます多様となるメディア環境の中で中継・ニュース・番組を3本柱とするスポーツ放送はいかにあるべきかスポーツジャーナリズム全体はいかにスポーツの振興、社会に貢献すべきか考える。
10	スポーツドキュメンタリーを読み解く(3)	学生諸君が講義を通じてジャーナルな勉強をした上で実際に放送局のディレクターになったつもりで自分の関心のあるスポーツの出来事、興味あるスポーツ人へのインタビューなどの番組を企画してみよう。提案票の書き方の方法論もいっしょに勉強します。
11	君がスポーツについてプレゼンテーションしてみよう	講義からの出題 レポート形式・提案票の提出
12	スポーツジャーナリズムは社会にいかに関与すべきかを考える	
13	放送番組企画提案を作ってみよう	
14	試験とまとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし

【テキスト（教科書）】

映像、音声などの素材を随時使用します。毎週講義の進め方・参考資料などのプリントを準備します。

【参考書】

スポーツ好きは甲子園とオリンピックから始まった：2018 甲子園 100 回大会 2020 東京オリンピック・パラリンピックに向かって（文芸社 佐塚元章）
放送業界の動向とカラクリがよくわかる本（秀和システム 中野明著）
放送の20世紀（NHK放送文化研究所編）

発行日：2019/5/1

NHKのそこが知りたい（NHK広報局編）
IT全史（祥伝社 中野明著）
メディアスポーツへの招待（ミネルヴァ書房）
放送制度概論（商事法務 鈴木秀美・山田健太）
日本スポーツ放送史（大修館書店 橋本一夫著）
スポーツ映画大全集（洋泉社）
JOAオリンピック小辞典（日本オリンピックアカデミー編著）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業最後に提出を求める感想レポートから講義の理解度を確かめます（50％）。
最終週にレポート形式の試験をおこないます（50％）。以上の内容を総合的に判断し評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎週の全14回の授業が論理的に流れていないかもしれません。これは「放送」という極めて社会の動きと直接かかわっていることを授業テーマにしているからです。ビッグニュースが発生すれば 予定講義を変更してその問題を急遽 生きた教材として優先することがあるからです。（例 大相撲巡業不祥事・ドーピング違反薬物混入事件・野球界にとって星野仙一を失った意味など）

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント・DVD・VHS・カセットプレーヤーなど

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

In this course, students will first think about what journalism is. Second, students will consider what sport journalism is. Through this approach, students need to examine the role of broadcasting journalism. Furthermore, along with the history of journalism, students will deeply think about whether sport journalism exists in the contemporary complex media environment and how sport journalism contributes to the development of sport.

ECN3001A

スポーツ政策論

森岡 裕策

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 2

単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国のスポーツ政策の動向と、諸外国のスポーツ政策を学んだうえで、平成 23(2011) 年制定の「スポーツ基本法」に基づき、平成 24(2012) 年に策定された「第 1 期スポーツ基本計画」及び平成 28(2016) 年に改定された「第 2 期スポーツ基本計画」における具体的施策について習得する。加えて、文部科学省及び地方公共団体のスポーツ施策・事業への反映状況やスポーツ団体の動向等について学ぶ。また、平成 27(2015) 年のスポーツ庁創設に伴い、文部科学省、厚生労働省、国土交通省、経済産業省、外務省等などのスポーツ関連政策の総合的な推進等に関する行政方針について学ぶ。さらに、2020 年東京オリンピック・パラリンピック（以下、東京オリパラ）やワールドマスターズゲームズ 2021 関西などのメガイベント開催に向けた準備状況を観察しながら、成功に向けた政策課題について学ぶ。

【到達目標】

国及び地方公共団体のスポーツ振興施策が、これまでどのような経緯をたどり、現状に至っているかを学ぶことにより、行政が推進するスポーツ施策の課題を把握する。特に、スポーツの社会的装置である「ひと」「もの」「かね」にどのように反映され、今後、どのような政策に重点を置くべきかを習得する。「ひと」は、スポーツ指導者、組織運営者、政策立案及び執行者等、「もの」は、スポーツ施設、設備等の在り方、「かね」は、事業を執行するための予算、スポーツ施設の管理・運営の手法などを学ぶ。また、東京オリパラの開催に向けた取組を通じて、大会後のレガシー実現を目指すスポーツ政策の在り方を考える。今後、受講生が、教育職や行政職をはじめとする、スポーツ関連の職域において活躍することができる基礎的知識を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ政策に関する経緯、法令や制度等の基本的知識を踏まえつつ、発信される国や地方公共団体の調査結果（意識調査、需要調査、測定調査等）や政策方針（審議会答申、通達・通知、予算要求等）を適時とらえて解説する。さらに、日本スポーツ振興センター（JSC）、日本スポーツ協会（JSPO）、日本オリンピック委員会（JOC）、日本障がい者スポーツ協会（JPSA）、各競技団体（NFs）等のスポーツ統括団体やスポーツ団体から発出されるスポーツ推進方策や時事問題（インテグリティ、不祥事等）を解説するとともに、社会的な貢献事例（教育支援、災害復興、地域貢献、国際評価等）に関連する報道等を活用して授業を進める。なお、時事的な情報や問題発生により講義内容の変更や順序の変動があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の位置付けや意義、重要性の解説及び授業進行や評価方法等に関する説明
2	我が国のスポーツ政策の変遷と国及び地方公共団体のスポーツに関する振興計画等	我が国のスポーツ政策の経緯と諸外国のスポーツ政策（ユネスコのスポーツ憲章、ドイツのゴールデンプラン等）
3	「スポーツ基本法」と「スポーツ基本計画（第 1 期・第 2 期）」にみる主要提言と政策課題	文部科学省の政策（審議会答申、立国戦略、基本計画等）、地方公共団体の政策（審議会答申、地方スポーツ推進計画等）
4	公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）の設立経緯と事業構造	我が国におけるスポーツ界の構造とスポーツ統括団体としての役割・任務、展開する事業を解説
5	総合型地域スポーツクラブの育成と社会的効果	我が国における地域スポーツクラブ政策の流れ、総合型クラブの登録・認証制度の意義、クラブに対する中間支援組織の現状
6	国際オリンピック委員会（IOC）オリンピック憲章に基づく 2020 東京オリパラの準備と検討課題	オリンピズムの根本原則に基づくオリパラ開催の意義、東京 2020 組織委員会の主な活動内容、大会後のレガシー創出の課題

7	スポーツイベント、スポーツツーリズムによる地域活性化、経済効果	国民体育大会の価値、各種競技大会や市民マラソン大会の開催、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西開催の意義、国際競技大会の誘致、スポーツツーリズムの活用
8	障がい者スポーツ政策とパラリンピック開催に関する現状と課題	障がい者スポーツの動向、障がい者スポーツ指導者・団体の現状と課題、パラリンピックの政策課題
9	新しい時代にふさわしいコーチング・コーチの確立、公認スポーツ指導者養成制度の改定	スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議（タスクフォース）を踏まえたコーチング環境の改善・充実に向けた取組、モデル・コア・カリキュラムの内容
10	運動部活動の現状と課題、部活動指導員の制度化、運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン	部活動指導員と活動日数、活動時間の制度化が及ぼす効果と取組好事例の考察
11	一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）の設立と検討課題	UNIVAS（日本版 NCAA）創設に係る検討の経緯、設立理念・社会的意義、その役割と将来像
12	子供のスポーツ機会の確保	子供の体力・運動能力の現状と課題、スポーツ機会の確保における問題点
13	スポーツ・インテグリティの確保	スポーツ団体におけるガバナンス・コンプライアンスの強化、「スポーツ団体ガバナンス・コード」に基づくスポーツ・インテグリティの確保に向けた取組内容
14	授業内テストの実施	すべての資料を持込み可とし、講義テーマの重要点の理解度を確認する記述式テストを実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ政策は、国（文科省をはじめ厚労省、国土交通省、外務省、経産省、農水省等）や地方公共団体（都道府県、市区町村）及びスポーツ関係団体（JSPO、JOC、JSC、各 NF 等）から発信される政策、施策、答申、提言、通達・通知、調査結果、研究等に関する情報等を、報道や組織の HP 等で常にチェックしていること。2019 年度は、特に、東京オリパラ関連の情報を常時確認すること。

【テキスト（教科書）】

授業時に、資料（印刷物等）を配布し、講義を進行する。適時、スポーツ政策、スポーツ行政に関する報道記事を配布し、解説する。

【参考書】

文部科学省、スポーツ庁の HP（法改正、審議会答申、有識者会議、通達・通知、年度予算等）、都道府県のスポーツ所管課（教育委員会・知事部局）の HP（条例、審議会答申、長期計画、ガイドライン、年度予算等）「よくわかるスポーツマネジメント」柳沢和雄他 編集（ミネルヴァ書房）公益財団法人日本スポーツ協会の HP（主要事業）「スポーツ白書」「スポーツライフデータ」笹川スポーツ財団発行 笹川スポーツ財団の HP（研究調査、政策提言、研究レポート）

【成績評価の方法と基準】

授業中に配布した資料をすべて持込み可として、講義テーマの重要点の理解度を確認するために記述式の授業内テストを実施する。成績評価の方法は、毎回の講義に対する集中度や理解度を問い、その平常点に 30%、最終講義日に設定する授業内テストに 70% を評点化し、その評点の合計点が 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内テストの結果やプレゼンテーション、ディベートなどを踏まえて、講義内容が学生の理解水準に合っているかを確認し、逐次改善していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

授業時に、パワーポイントや DVD を使用する場合がある。

【その他の重要事項】

本科目は、社会学の分野であり、例えば、行政・政策の変動や社会的な問題の発生、東京オリパラの最新の動向など、重要な時事問題等の発生により、講義の順序や内容の変更があり得る。

【Outline and objectives】

Student will acquire concrete measures of “The 1st Sport Basic Plan” established in 2012 and “The 2nd Sport Basic Plan” revised in 2016 based on “The Basic Act on Sport” enacted in 2011 after learning the trend of the sports policy of our country and foreign countries. Focuses on the reflection status of MEXT and local governments on sports politics and projects, trends of sports organizations, and the administrative policy on comprehensive promotion, etc. of each relevant ministries and agencies’ sport related policies along with the establishment of the Sport Agency in 2015. Topics include the policy challenges for success while observing the preliminary conditions for hosting the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games and the World Master Games 2021 Kansai.

ECN3001A

スポーツビジネス論Ⅲ

吉田 政幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツビジネス論Ⅲでは企業がスポーツに協賛するスポンサーシップについて学ぶ。受講者はスポーツとスポンサーシップの密接な関係性の分析およびスポンサーシップの戦略的販売方法の学習をとおして、スポーツ組織がスポンサーを獲得する仕組みについて理解を深める。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下のとおりである：

- (1) スポーツスポンサーシップの定義を説明できる。
- (2) スポーツスポンサーシップにおいて協賛企業が期待できる効果を説明できる。
- (3) スポーツスポンサーシップにおいてスポーツ組織が期待できる効果を説明できる。
- (4) スポンサー企業と協賛対象の間の整合性の重要性について説明できる。
- (5) スポーツ組織と協賛企業の双方にとって有益かつ持続可能なスポンサーシップ契約の企画書を作成し、発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式であり、受講者は配布資料の空欄に入るキーワードを埋めながらスポーツスポンサーシップについて理解を深めていく。また、受講者はグループに分かれてスポンサーシップの企画書を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツスポンサーシップの基礎的理解	スポーツスポンサーシップの定義、誕生および発展の背景、現在の市場規模について学習する。
第 2 回	スポンサーシップの種類	企業がスポーツに協賛する代表的なものとして、チーム、リーグ、選手、試合、施設を取り上げ、それらのスポンサーシップの事例および特徴について学ぶ。
第 3 回	スポンサーシップを通じたマーケティング活動	スポーツスポンサーシップを通じたマーケティング活動について、スポーツ組織と協賛企業の両方の視点から理解する。
第 4 回	スポンサーシップにおける消費者の意思決定過程	スポーツイベントの参加者や観戦者が協賛企業を認知し、興味を抱き、実際に製品やサービスを購入するまでにはいくつかの段階がある。ここでは消費者の意思決定過程に着目し、スポンサーシップの効果について考える。
第 5 回	「スポンサーシップ」対「広告」	スポンサーシップにおける企業の宣伝活動は間接的かつ支援的であるのに対し、広告における企業の宣伝活動は直接的かつ説得的である。こうした違いを学ぶとともに、スポンサーシップが発展してきた背景についても広告との違いから理解する。
第 6 回	アスリート・エンドースメント	プロスポーツや国際試合で活躍する選手は使用しているスポーツ用品の推奨者としての役割を持つ。彼らは試合以外の場面でも、車、腕時計、嗜好品などを推奨している。今回はアスリートが製品を推奨するエンドースメントについて学ぶ。
第 7 回	スポンサーシップにおける整合性	企業のイメージが協賛するスポーツ関連の対象のイメージと一致している度合いのことを整合性と呼ぶ。本授業では整合性の種類、役割、高め方などについて学習する。
第 8 回	スポンサーシップのアクティベーション	スポンサーシップを活性化させ、効果を高める工夫のことをアクティベーションと呼ぶ。今回の授業ではアクティベーションの概念、種類、特徴を、スポンサーの種類と併せて理解する。

第 9 回	スポンサーシップにおけるプラットフォーム	スポンサー企業が同業種の競合相手から差別化を図り、マーケティング目標を達成するためには、どのようなプラットフォームを選ぶべきかという問題について理解を深める。
第 10 回	スポンサーシップの企画書	スポーツ組織が企業に協賛を提案する際に作成する企画書の構成、内容、注意点について学び、実際にグループに分かれて企画書の作成に取り掛かる。
第 11 回	価格設定	企業がスポーツ組織に支払うスポンサー権利は露出方法、アクティベーションの度合い、契約年数などによって異なる。ここではスポンサー権利の価格設定について学ぶ。
第 12 回	スポンサーシップの評価：メディア露出と認知度	スポンサーシップは寄付ではない。企業は支払ったスポンサー権利に対してマーケティング目標の達成を期待する。本授業ではこの費用対効果を説明する評価方法について、特にメディア露出と認知度の形成の観点から学ぶ。
第 13 回	スポンサーシップの評価（イメージ、購買への影響）およびソーシャルスポンサーシップ	スポンサーシップの評価について、イメージの向上と購買行動の観点から学習する。授業の後半ではスポーツへの協賛活動を通じて社会問題の解決するソーシャルスポンサーシップについて理解を深める。
第 14 回	アンブッシュマーケティングへの対応	スポンサーシップ契約を正式に結んでいない企業が、特定のイベントに関連づけて商業活動を行うことを「アンブッシュマーケティング」と呼ぶ。ここではスポンサーシップの倫理的問題と対応策について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の課題として、企画書の作成を行います。同じ班のメンバーと協力して企画書を作成してください。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

仲澤眞・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング。ミネルヴァ書房。
Howard, D. R., & Crompton, J. L. (2004) Financing sport (2nd ed.). Morgantown, WV, Fitness Information Technology, Inc.
Mullin, B.J., Hardy, S., & Sutton, W.A. (2007). Sport marketing (3rd ed.). Champaign, IL: Human Kinetics.

【成績評価の方法と基準】

学期前半の内容に関する小テスト： 30 点

期末テスト： 40 点

スポンサーシップの企画書の作成： 30 点

合計： 100 点

【企画書の評価基準】

スポーツ組織の紹介、スポンサー権のリスト、スポンサーのマーケティング目標などを含む 10 項目の観点のそれぞれについて、以下の 5 段階で評価し（5 点 × 10 項目 = 50 点）、30 点満点への換算する：

- 1 点：授業の内容を踏まえている
- 2 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら説明している
- 3 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分たちの独自の視点が加えられている
- 4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分たちの独自の視点が加えられており、課題に対して合理的な説明が展開されている
- 5 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分たちの独自の視点が加えられており、さらに課題に対して合理的な説明を行い、論旨を明確に伝えることができています

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論を基に履修者が深く考えるように進めていきます。企画書の作成では余裕をもって準備できるように計画的に支援します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

配布資料に沿って授業を行います。2 週目以降は事前に指定された読み物を読んでください。

【Outline and objectives】

This course provides a detailed examination of sport sponsorship. Students will learn (1) the strategic relationships between events, teams, athletes, fans, and corporate sponsors and (2) professional techniques used to sell sponsorship packages. Upon successful completion of this course, students will be able to understand the theoretical rationale for sponsorship and strategic communications through sponsorship.

HSS200IA

スポーツビジネス海外演習

吉田 政幸、伊藤 真紀

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・演習
 開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～年次／2
 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

米国のスポーツビジネスを現地で実際に視察することにより、(1) 世界最高峰のスポーツビジネスの基礎を理論と実践から理解するとともに、(2) 米国特有の多様な文化、民族に触れることで国際感覚を養うことを目的とする。

【到達目標】

履修者は事前研修および現地視察を通じて、以下の目標を達成する：
 (1) 米国四大プロスポーツビジネスの特徴と成功の背景を理解し、説明できる。
 (2) 米国大学バスケットボールの仕組みと社会的位置づけを理解し、説明できる。
 (3) 英語でのスポーツビジネスの講義やスタジアム・ツアーに参加し、その内容を理解することができる。
 (4) 多民族、異文化が融合する米国社会の特徴とそこで暮らす人々の心理的・行動的特性を理解し、説明できる。
 (5) 自己主張と自己責任が問われる米国社会で、目標に向かって活躍する日本人の生き方を学ぶとともに、その考え方を自分のキャリア形成の参考にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業の内容は(1) 大学での講義と(2) 現地での実習によって構成される。大学での講義は、米国四大プロスポーツと大学スポーツのビジネスとしての特徴について学習するとともに、現地での実習に向けたガイダンス（視察の目的、概要、スケジュール、注意事項）を実施し、渡航の準備を行う。現地での実習は、実務担当者による講演、スタジアム視察、試合観戦、参加者同士の共有会を主な内容とし、参加者はスポーツビジネスの基礎を理論と実践の両面から学習するとともに、英語によるコミュニケーション能力と国際人としての意識の向上を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	演習の目的と意義を理解するとともに、主な学習内容と現地視察の注意点を理解する。併せて、渡航に向けた準備（パスポートの取得、観光ビザの申請）に関する説明を受ける。パスポート未取得者は夏休み期間に取得する。
2 回	現地視察に関する講義	現地の視察内容と場所について説明を受け、文化的、社会的、地理的特徴を理解する。
3 回	目標設定	演習に参加した理由と現地で学習したい内容を書き出し、他の参加者と情報を共有することで互いに意識を高め合う。
4 回	英語によるコミュニケーション	現地での講義や講演、スタジアム視察、試合観戦などで事前に身に付けておく便利な英語表現を学ぶ。併せて、米国社会におけるマナーやタブーなどについても理解する。
5 回	出発前オリエンテーション	観光ビザの登録を済ませるとともに、出発前の説明（出発当日の行動予定、空港での出国手続き、機内での過ごし方、現地での入国審査の注意点、現地での過ごし方）を受ける。
6～9 回	現地視察（前半）	・現地ガイダンス ・スポーツマーケティングに関する講義（実務担当者による講演） ・プロバスケットボール・アーリーナの視察 ・アメリカンフットボール・スタジアムの視察 ・大学スポーツ観戦 ・スポーツマネジメントに関する講義（実務担当者による講演） ・中間共有会

10～13 回 現地視察（後半）
回

・ランニング・クリニックへの参加
・プロスポーツ観戦（四大プロのいずれか）
・スポーツツーリズムに関する講義（米国人大学教員による講演）
・現地で活躍する日本人による特別講演
・プロスポーツ観戦（最初の観戦と異なる種目）
・最終共有会

14 回 総括

事前に受講した講義と現地での視察を通して得た発見、知識、語学力、意識変化などについて自らまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

注意事項の多い海外演習ですので、課される準備学習を着実に行うとともに、事前の講義にはすべて出席してください。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

実習前の課題レポート（目標設定）：10%

現地での英語による視察内容の理解度テスト：10%

実習後の課題レポート（大学スポーツやプロスポーツに関する内容）：80%

【学生の意見等からの気づき】

授業では米国スポーツビジネスの理論と実践を基に参加者が深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

現地視察ではランニング・クリニックに参加するプログラムがあります。運動できる格好を準備してください。

【その他の重要事項】

現地は日本と全く異なる法律、社会規範、民族性によって秩序づけられていますので、教員と現地スタッフの指示に従ってください。

【Outline and objectives】

This course is an international sport business seminar in the United States. Students will learn (1) the theoretical and practical bases of professional and collegiate sport businesses and (2) cultural, ethnic, and racial diversity in the American society. Upon successful completion of this course, students will be able to synthesize and apply theories, concepts, and practices related to American sport businesses and develop ideas that are useful, appropriate, and novel in Japan.

SOC300IA

スポーツイベント論

吉田 政幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではスポーツイベントに参加するスポーツ消費者について学ぶ。受講者はスポーツ消費者の心理的、行動的特性に関する重要概念や理論を学習することで、スポーツ組織がスポーツ消費者との関係性を強めながら経営目標を達成する方法について理解を深める。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下のとおりである：

- (1) スポーツ消費者の定義を説明できる。
- (2) 参加型スポーツの消費者の特性を説明できる。
- (3) 観戦型スポーツの消費者の特性を説明できる。
- (4) スポーツ消費者の満足度、顧客ロイヤリティ、顧客価値を説明できる。
- (5) スポーツ消費者によるコミュニティ形成と社会支援を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式であり、受講者は配布資料の空欄に入るキーワードを埋めながらスポーツ消費者行動について理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツ消費者とは	スポーツ消費者の定義と類型について学習する。
2	スポーツ消費者行動モデル	スポーツ消費者の特性および意思決定過程について学ぶ。
3	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの消費者の心理的、行動的特性について、スポーツ関与やエスカレーターモデルなどの視点から理解を深める。
4	観戦型スポーツの消費者：心理的連続モデル	観戦型スポーツ消費者の類型について学習するとともに、彼らの意思決定過程を説明する代表的な考え方の一つである心理的連続モデルについて学ぶ。
5	観戦型スポーツの消費者：観戦動機	人がスポーツを観戦することで充足するニーズについて、いくつかの動機理論とともに理解を深める。
6	観戦型スポーツの消費者：社会的アイデンティティ	スポーツ観戦者が好みのチーム、種目、選手などとの心理的つながりを通じて形成する社会的アイデンティティについて学ぶ。
7	スポーツ消費者の顧客満足	スポーツは試合において誰が勝者になるか明確に予測できない。このような特性を帯びたスポーツという製品と顧客満足の関係性について学習する。
8	スポーツ消費者の顧客ロイヤリティ	スポーツ消費者の顧客ロイヤリティは態度的側面と行動的側面の二つから成る。ここでは顧客ロイヤリティの概念的構造、役割、スポーツビジネスへの応用について考える。
9	スポーツにおける顧客価値の創造	顧客価値の考え方の背景にある顧客中心の論理を学ぶとともに、顧客に価値を提供する際に欠かすことのできない製品の価値とブランドの価値の内容について理解を深める。
10	スポーツマーケティングと経験価値	スポーツイベントがスポーツ消費者に提供する「経験の価値」の考え方、構造、役割について学ぶ。
11	スポーツ消費者と関係性マーケティング	関係性パラダイムの中でスポーツ消費者行動を捉え、関係性マーケティング、顧客関係管理、ロイヤリティプログラムなどについて学習する。
12	スポーツ消費者とインターネット	インターネット上のスポーツ消費者行動に関して理解を深めるため、ソーシャルメディアや e クチコミなどの視点からスポーツ消費者行動を学ぶ。

13	スポーツ消費者の社会的役割	スポーツ消費者が形成するコミュニティについて理解を深めるとともに、同じコミュニティのメンバーを支援する向社会的行動について考える。
14	スポーツ消費者行動のまとめ：現状と今後の展望	現代社会におけるスポーツ消費者行動の重要性を考察した結果を振り返り、その位置づけと今後の展望について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者はテキスト（よくわかるスポーツマーケティング、ミネルヴァ書房）の指定された章を読み、内容について予習するとともに、予め疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

仲澤真・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング。ミネルヴァ書房。

【参考書】

原田宗彦（編）（2015）スポーツ産業論（第 6 版）。杏林書院：東京。

【成績評価の方法と基準】

学期前半の内容に関する小テスト： 40 点

期末試験： 50 点

スポーツ消費者の社会的アイデンティティに関するレポート： 10 点

合計： 100 点

【レポートの評価基準】

10 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。

8 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。

6 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。

4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら書いている。

2 点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論を基に履修者が深く考えるように進めていきます。

【その他の重要事項】

テキストに沿って授業を行います。2 週目以降は事前に指定された章を読んでください。

【Outline and objectives】

This course provides a detailed examination of sport consumers at sporting events. Students will learn important concepts and theories related to the psychological and behavioral characteristics of sport consumers. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how sport organizations achieve organizational goals by fostering strong relationships with sport consumers.

MAN300IA

マーケティングリサーチ実習

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次/単位：3~4 年次 / 3

単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際に調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
- ・課題に対して、仮説をたてることできる
- ・仮説を調査票にすることできる
- ・回答しやすい調査票作成ができる
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる
- ・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、実際の調査をおこなうことによって理論的・技術的な理解を深める。具体的な内容としては、マーケティング・リサーチの実際の把握（日本におけるプロスポーツサーベイの実態から）、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。調査は、プロスポーツの観戦者などを対象とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点とは何か、調査をする上での心構えを学ぶ
2	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ
3	調査課題の立て方①	調査課題とは何かを複数の例に基づき考える
4	調査課題の立て方②	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる
5	調査課題の立て方③	第 4 回でまとめて調査課題について発表し、ブラッシュアップを行う
6	調査の種類①	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ①
7	調査の種類②	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ②
8	定量調査①	定量調査とは何かを学ぶ
9	定量調査②	第 5 回でまとめて調査課題について、簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップをはかる
10	定性調査①	定性調査とは何かを学ぶ
11	定性調査②	第 5 回、第 9 回の結果を踏まえ、定性調査の企画書を作成する
12	定量調査の実践	第 9 回の調査票について、実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する
13	定性調査の実戦①	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作る
14	定性調査の実戦②	インタビュー調査の実施

秋学期

回	テーマ	内容
15	まとめ	調査結果まとめをグループで発表する
16	スポーツに関する調査の概観①	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる
17	スポーツに関する調査の概観②	スポーツに関する調査について検索し、現在のテーマとその背景を考える
18	調査課題の設定①	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する
19	調査課題の設定②	第 18 回の結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する

20	事前調査の実施①	第 19 回の結果をもとに、プレ調査を実施し、課題の妥当性、仮説の方向性をまとめる
21	事前調査の実施②	第 20 回について、発表し、ブラッシュアップをはかる
22	定量調査の設計①	課題解決、仮説検証のための調査票設計を行う
23	定量調査の設計②	第 22 回で行った調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる
24	定量調査の実施①	第 22 回で行った調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる
25	定量調査の実施②	フィールドで調査を実施する
26	調査の集計、分析①	フィールド調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ
27	調査の分析②	エクセルなどにより調査の分析を実施し、仮説を検証する
28	調査の分析③	エクセルなどにより調査の分析を実施し、仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 2~15 回：フィールドでの調査については、別日程で開催する可能性があります。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します

【参考書】

授業内で必要があれば指定します

【成績評価の方法と基準】

調査計画・実査への参加 (60%)・分析・レポート (40%) などを総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。専門用語での説明について理解しやすくする。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research.

SOC100IA

トップアスリート論

増島 みどり

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プロサッカー、野球、オリンピックの金メダリストや世界記録保持者といったトップアスリートたちが生み出す高度なパフォーマンスを支える「心・技・体」、さらに必要となる要素を自分たちで検証していく。

【到達目標】

トップアスリートの競技への姿勢、哲学を学ぶことで、彼らをより身近に感じ、一方敬意を持ち、自分の生活、生き方へのヒントとして何かを得ること。18 年は、サッカーW杯ロシア大会等が行われる。選手をメディアからの情報だけでなく多角的に観られるようにするのも目標

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

一流を超えた「超」一流選手たちの思考、技術、肉体へのこだわりなど内面を、これまで実際に取材した各競技のトップアスリートたちを教材に、時には彼らをゲストと呼んで授業を行ってもらい、「トップアスリート」の生き方を自分のものとして感じられるように学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツとは？	スポーツに関時勢の話題、総論に触れる
2	トップアスリート考察	アンケートをベースに、授業出席者の自己紹介、「トップアスリート論」についての考察などをディスカッションする。それぞれが思うトップアスリートを発表してもらう。
3	トップアスリートの「心・技・体」	世界選手権、オリンピックでのメダリスト、世界記録保持者などをあげながら、女子柔道・谷亮子選手はそこから進んだ新時代のトップアスリートを定義している。ここではトレーニングの独自性も考える。
4	トップアスリートの生い立ち	メダリストや世界記録保持者となる選手たちの誕生と、家庭環境、親の熱心さや、指導者との出会いなど。
5	2代に渡るトップアスリート	特に、男性に多い、父の競技を選択する選手たちのパフォーマンス。ここでは室伏重信、広治親子など、2代競技者を考える。
6	女性アスリートの台頭と活躍	日本における女性選手の誕生や活躍、その歴史を、人見絹枝さんを主題にして考察。女子マラソン、女子柔道の五輪正式競技加入で一気に進化を遂げた1980年代から、女子選手が男子を上回るメダルを獲得する2000年後半までの歴史と進歩の詳細について。2016年W杯で連覇を狙うでしこジャパン躍進の歴史と背景、現状なども。
7	オンリーワン思考と技術	日本のスポーツ世界における、技術レベルの高さ。特許庁に文化財産としてのスポーツ選手の技術を登録するとしたら？ 学生に提案してもらう。
8	怪我とリハビリ、復帰への道程	一度トップに立った選手が選手生命にかかわる怪我をし、その後復帰し、さらに活躍するまでに至る、医学的サポートや選手のメンタル、フィジカル。
9	オリンピックムーブメント	IOC（国際オリンピック委員会）、JOC（日本オリンピック委員会）の構造や、スポーツにおける政治的バランスや、2020 年招致決定へのプロセス、開催までの準備期間など、スポーツの舞台裏を学ぶ。

10	トップアスリートを支える環境	不況による影響を受けながらも、個人差はあるものの、どういった環境下で、資金や人員をどう確保、提供を受けながらトレーニングを続けるか。支援の背景を具体的に。
11	トップアスリートのメンタルトレーニング	大舞台になればなるほど力を発揮するという精神的構造の分析。
12	薬物問題とパフォーマンス	過去の事件と最近の事例などから、必ずしも幸福な結果だけでは終わらない、アスリートの欲望や間違ったコーチの存在など、薬物問題そのものも知識として得てもらう。
13	トップアスリート長寿の理由	近年、30代、40代の選手が増えている。背景と彼らの生活、こだわりと、社会への影響力を考える。
14	グループでの討論、発表など	グループでの討論、発表など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～14回：新聞を読む。ニュースの中でもトップアスリートについて情報を持って授業に臨む。

【テキスト（教科書）】

教材は、トップアスリート自身で、記事、映像などは随時選択、ゲストスピーカーも呼び新たな発見の機会を作りたい。

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業での意欲、レポートの3点での総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

未実施のため、特になし

【その他の重要事項】

※過去のゲストスピーカー

09年＝サッカー元日本代表・名波浩氏

10年＝バルセロナ五輪女子マラソン銀メダリスト・有森裕子氏

11年＝大阪世界陸上女子マラソン銀メダリスト・土佐礼子選手

12年＝陸上男子四百m障害世界陸上メダリスト・為末大選手

13年＝パラリンピック女子義足走り幅跳び日本記録保持者・佐藤真海選手

13年＝プロサッカーリーグ「Jリーグ」メディアプロモーション・勝澤健氏

14年＝競泳女子ロンドン五輪銅メダリスト・寺川綾選手

15年＝成立学園コーチ・山郷のぞみ氏

16年＝リオデジャネイロパラリンピック男子走り高跳び4位・鈴木徹選手

17年＝世界パラ陸上競技選手権大会銅メダリスト・鈴木徹選手

18年＝W杯取材のため、なし。

【Outline and objectives】

We learn the physical of top athletes, technique, strength of mental. In addition, We consider it what kind of factor they have other than these.

HSS100IA

保健体育概論

永木 耕介

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保健体育（主に体育）とはどのようなものかについて、スポーツ／教材の歴史、教科の目標論、内容論等から解説し、これからの保健体育のあり方についての思考力を培う。

【到達目標】
保健体育科の教員を目指す受講生が、保健体育とはどのようなものかについて、教科の目標を踏まえた内容論について理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
保健体育とはどのようなものかについて以下の観点から解説し、受講生が今後のあり方について考察できるように導く。①現代に至るまでのスポーツ／教材（主に西洋スポーツと日本武道）の歴史を概観し、さらに現代スポーツの特徴と課題について指摘する。②教科の目標論を踏まえ、各内容領域の実際を確認することで今日の教科の状況を把握する。なおその際、一部に受講生参加型の演習を採り入れる。また、毎授業においてリアクションペーパーの提出を求め、次授業で振り返りを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明
2	スポーツ／教材の歴史的 理解①	西洋スポーツを中心に
3	スポーツ／教材の歴史的 理解②	日本武道を中心に
4	現代スポーツの特徴と課題	オリンピック、グローバリゼーション、ニュースポーツ
5	保健体育科の目標論	学習指導要領の変遷、内容領域の解説
6	「体づくり運動」の内容と特性	「体づくり運動」の実際的内容と特性について、運動、態度、知識（＋思考・判断・表現）の観点から理解を深める
7	「器械運動」の内容と特性	「器械運動」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断・表現）の観点から理解を深める
8	「陸上競技」の内容と特性	「陸上競技」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断・表現）の観点から理解を深める
9	「水泳」＋「野外活動」の内容と特性	「水泳」＋「野外活動」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断・表現）の観点から理解を深める
10	「球技」の内容と特性	「球技」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断・表現）の観点から理解を深める
11	「武道」の内容と特性	「武道」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断・表現）の観点から理解を深める
12	「ダンス」の内容と特性	「ダンス」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断・表現）の観点から理解を深める
13	「体育理論」の内容と特性	「体育理論」の内容と特性について理解を深める
14	まとめとテスト	授業のまとめとテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎授業後に感想やコメント（リアクションペーパー）の作成を求める。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成 20 年版＋平成 29 年版（東山書房）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編 （東山書房）
最新高等保健体育（大修館書店）

【参考書】
保健体育科教育法 （大修館書店）
新版・体育科教育学入門 （大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度、リアクションペーパーによる平常点（60％）、テスト点（40％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度もリアクションペーパーによる振り返りを授業内で行い、各学生の参加感をあげる。

【学生が準備すべき機器他】
部分的に参加型演習を行う場合があるので、運動可能な服装等を準備しておくこと。

【その他の重要事項】
教職（保健体育科）の志望者は履修することが望ましい。授業計画は授業展開によって若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】
This class is for students requiring the study of Physical Education teaching materials and their purpose in schools, with a particular focus on sports history and recent trends in teaching as well as thoughts into how Physical Education should be in the future.

HSS100IA

スポーツトレーニング論Ⅱ

平野 裕一

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツトレーニング論Ⅰではスポーツトレーニングの理論、フィジカルおよびスキル要素のトレーニング内容・方法を学んだ。そこでスポーツトレーニングⅡでは、幼児から中年までのライフステージごとのトレーニング実施者、および女性や競技者といった成人男性とは異なるトレーニング実施者のトレーニング内容・方法を紹介し考察する。一方で自分の身体についてトレーニング内容・方法、その効果の測定方法を計画し、8 週間のトレーニングを実践する。

【到達目標】

・トレーニング実施者ごとの特徴を理解すること
・自分の身体についてのデータを 8 週間継続的に取得・分析することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

幼児～思春期前児童、思春期、女性、中高年者、ジュニア競技者、シニア競技者とトレーニング実施者ごとの心身の特徴およびトレーニング内容・方法を紹介し検討する。一方で自身の身体についてのトレーニングとその効果を測定する方法を計画し、8 週間にわたって各自実施してレポートを学期末に提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業で扱うトレーニング実施者の紹介 トレーニング計画、測定法の提示
2	幼児～思春期前の児童のトレーニング①	形態の変化 スキルトレーニング トレーニング計画、測定法の考案
3	幼児～思春期前の児童のトレーニング②	子どもの筋力トレーニング トレーニング計画、測定法の考案
4	思春期のトレーニング	思春期の特徴 全身持久力および筋持久力トレーニング
5	女性のトレーニング①	骨格、身体組成の性差 女性の有酸素性、無酸素性能力のトレーニング
6	女性のトレーニング②	女性ならではの特徴を考えたトレーニング
7	中高年者のトレーニング①	加齢にともなう身体能力の変化 中高年者の有酸素性、無酸素性のトレーニング
8	中高年者のトレーニング②	中高年者の” ころ” が運動に及ぼす影響 運動が” ころ” に及ぼす影響
9	ジュニア競技者のトレーニング①	競技者育成プログラム ジュニアトップ選手の追跡調査（陸上競技）
10	ジュニア競技者のトレーニング②	ジュニアトップ選手の追跡調査（テニス、ウエイトリフティング） トレーニングと栄養
11	ジュニア競技者のトレーニング③	ジュニアトップ選手の追跡調査（スピードスケート、体操） サッカートップ選手の体力測定とトレーニング
12	シニア競技選手のトレーニング①	マラソン選手のトレーニングの変遷 高強度間欠的運動トレーニングの効果
13	シニア競技者のトレーニング②	スキージャンプ選手のトレーニング 反動動作の特徴 腿のトレーニング
14	シニア競技者のトレーニング③	サッカー選手のトレーニング 血中乳酸濃度を活用したトレーニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間以外の時間に計画したトレーニングを 8 週間実践し、測定する。考察を含めたレポートを作成する

【テキスト（教科書）】

なし（資料を作成して提示する）

【参考書】

トレーニング対象に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

トレーニング実践のレポート 4 0 %、期末試験 6 0 %

【学生の意見等からの気づき】

各自のトレーニングを動機づけられるようなデータ、出来事を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

エクセル、パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある。
トレーニング実践や測定で使う用具、機器など。

【Outline and objectives】

This class deals with the physical training on the female, the subjects from infant to middle and old age, and the junior and senior athletes. Training variables on each subject are compared from those on the healthy male subject. In parallel, 8 weeks physical training program is planned and implemented individually during the semester.

PSY200IA

スポーツ心理学B

立谷 泰久

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、スポーツ心理学 A で学んだことをベースとして、主としてアスリートの競技力向上や一般の人たちのパフォーマンス（学業や仕事等）の向上に重要な心理学や行動変容に関わることを学ぶ。
アスリートの心理的な問題・課題は多種多様である。その課題は、「一人の人間として」というものに根差していることを理解しながら、競技スポーツの中で行われているメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング、ストレスマネジメントその他の心理学の分野について、心理検査や実技等を行いながら学んでいく。そして最終的には、人生の生き方に関することまで大きく捉えたものを学び、日常生活や今後の人生に役に立つものを習得していく。

【到達目標】

本講義を終了した時点で、アスリートの競技力向上や一般の人たちのパフォーマンス（学業や仕事等）の向上に関する基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解できる。また、本講義で学んだことを、自分自身が日常生活で応用することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

競技スポーツの「心理サポート」の中で行われているメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング、ストレスマネジメント等を学び、一人の人間として役立つ様々な心理技法等を習得していく。また、「ものの見方、考え方、そして人生の生き方の姿勢」という重要なテーマにも取り組み、優秀な競技者、指導者、社会人になるための人間的成長をも目指す。基本的には講義形式で行うが、応用的な心理検査や実技なども行い、様々なものを学習・体験する。また、学生の意見や質問にも耳を傾け、コミュニケーションを行いながらの講義を展開する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	「心理サポートとは？－その意義と役割－」（ガイダンス含）	授業の進め方についての説明と心理サポートとは何かとその基礎について学ぶ（スポーツ心理学Aの復習含む）。
2	パフォーマンスの自己分析、目標設定	パフォーマンスの自己分析の行い方、そして目標設定について学ぶ。用紙や付箋紙を用いて、パフォーマンスの自己分析の方法について学ぶ。また、効果的な目標の立て方についても解説する。
3	競技パフォーマンスと日常生活との関係	競技のパフォーマンスと日常生活には様々なものが関係する。一見すると関係のないものと思われるものが、関係する場合がある。このようなことを一流の指導者の「言葉」から学ぶ。
4	暗示、リラクセス法、イメージトレーニング	暗示、リラクセス法（漸進性筋弛緩法や呼吸法など）とイメージトレーニングの方法を解説し、体験する。そして、日常生活への応用について学ぶ。
5	競技現場で役に立つ気持ちの切り替え法	様々な気持ちの切り替え法を実技を通して学ぶ。気持ちの切り替え法は多数あるが、それらを紹介し、その中から自分に合う方法を見つけ、日常的に行えるようになることを目指す。
6	ルーティンとゲームプラン－試合でやることを決めておこう－	ルーティンとゲームプランについて解説する。ルーティン、ゲームプランの事例を通して、自らのルーティンとゲームプランを作成する。
7	自律訓練法について	自律訓練法（リラクセーション法）とは何か？ その効果について学ぶ。自律訓練法を体験し、その効果を実感する。また、スポーツ場面や日常生活にどのように有効なのかを学ぶ。
8	言葉による行動変容について－言葉がこころや行動に及ぼす影響について－	言葉がこころに及ぼす影響、そしてそれに伴う行動変容について、研究データや新聞記事を用いて学ぶ。セルフトークや暗示、言葉の影響について、データや事例に基づいて解説する。

9	「森田療法」の考え方を競技に応用する	「森田療法とは？」そして、その考え方を理解する。森田療法の考え方がどのように競技現場や人生に活きるのかということ、事例を通して解説する。
10	けがとこころの関係について	けがというのは、当然ながら、身体を傷つけるものである。また、同時にこころも傷つけていることも理解する。また、けがが多い選手の中には、特徴的な心性を持っているケースがあり、けがとこころには様々な関係があることを理解する。
11	ストレスマネジメントについて	「ストレスマネジメントとは？」、そしてそれをどのように実践するのか、ということ、それを学ぶ（スポーツ心理学 A で行った講義の応用編）。ビデオを用いて、その実践例を学ぶ。また、その詳細について解説する。
12	スポーツカウンセリングとは？ ブラインドウォーク－感受性訓練の方法－	スポーツカウンセリングとは何か？ カウンセリングの効果などを理解する。また、ブラインドウォークについても、実技を通して理解する。スポーツに関わる人達が抱える問題や課題、悩みなどを解決する手助けとしての有効なカウンセリングに関わる方法・手法を広く学んでいく。また、ブラインドウォークについても、実技を通して解説する。
13	競技や人生に役に立つ「ものの見方、考え方、人生の生き方の姿勢」について学ぶ	競技場面で最高のパフォーマンスを発揮するためには、競技場面でどのような『考え方』で競技に臨むのが重要である。その『考え方』を一流の指導者や選手から学ぶ。また、勝つため・最高のパフォーマンスを得るために必要な「哲学」を学ぶ。「勝つために必要な哲学とは？」「トップアスリートになるために必要なこととは？」「各界の一流者のメンタリティー」などを学ぶ。これまでの総復習をし、競技場面の心理面やその他の臨床心理学に関わる分野についても理解を深める。そして、一人の人間として役立つものを広く学んでいく。授業で行ったことを復習し、ディスカッション形式でいろいろな意見の交換を行い、そして「考える」ということを学ぶ。
14	講義内容の総まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

なし。プリントを配る予定である。

【テキスト（教科書）】

・『はじめて学ぶスポーツ心理学 12 講』（福村出版、編著：楠本恭久）
・『現場で活きるスポーツ心理学』（杏林書院、編：石井源信／楠本恭久／阿江美恵子）
・『よくわかるスポーツ心理学』（ミネルヴァ書房、中込四郎・伊藤彦彦・山本裕二編著）

【参考書】

平常点： 40 % とする。出席カード（表）には講義の感想や意見を書き、その理解度も評価に入れる。
試験： 50 % とする。
その他： 10 % として、授業態度なども考慮に入れ、総合的に評価する。

【成績評価の方法と基準】

（1）配分
出席点：出席カード（表）には講義の感想や意見を書き、その理解度も評価に入れる。出席と合わせて、40 % とする。
試験： 50 % とする。
その他： 10 % として、授業態度なども考慮に入れ、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートやリアクションペーパー等の反応から、随時改善を行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。また、スポーツ心理学に関する近年の研究やトピックについても随時提示する。

【Outline and objectives】

This lecture is “Sport Psychology B”.
In this lecture, based on what you learned in “Sports psychology A”, you learn to be involved in psychology and behavioral change, which is important mainly for improving athletes’ competitiveness and a performance of general people (academic work, work etc.).
Psychological problems and tasks of athletes are diverse.
Understanding that the challenges are rooted in what is called “one human being”, psychological examinations and psychological skills training are conducted on mental training, sport counseling, stress management and other psychology fields being conducted in competitive sports.
You learn while performing practical skills. In the end of this lecture, you learn something greatly concerned about how to live life, and learn something useful for daily life and future life.

HSS200IA

スポーツ運動学Ⅱ

工藤 裕仁

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動に用いられる運動器のしくみとその働き（機能解剖）を理解し、そこから運動（動き）の一連および局面の構造をバイオメカニクスの観点での検討・学習をする。またこれは、種々の競技動作について検討・学習する

【到達目標】

学生それぞれが関与する競技における「動き」を観察し、その特徴を身体構造、あるいはバイオメカニクスの観点から、具体的に抽出できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、適宜動画資料も用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	授業の流れを概説	授業の流れを概説
2	動きの解剖学	筋と骨格の構造を知る
3	運動学の基礎知識 1	機能解剖と力学的基礎を知る
4	運動学の基礎知識 2	機能解剖学的・身体力学的観点と他の運動生理学的視点との接点を学ぶ
5	歩行の運動学	歩行動作の運動学的基礎を学ぶ
6	走動作の運動学 1	走動作の運動学的基礎を学ぶ
7	走動作の運動学 2	映像を用いた走動作の運動学的観察
8	投動作の運動学	投動作の運動学的基礎を学ぶ
9	跳動作の運動学 1	跳動作の運動学的基礎を学ぶ
10	跳動作の運動学 2	映像を用いた跳動作の運動学的観察
11	打動作の運動学	打動作の運動学的基礎を学ぶ
12	泳動作の運動学	泳動作の運動学的基礎を学ぶ
13	スポーツ外傷・障害発生の運動学	スポーツ競技動作と外傷・障害の関係を知る
14	種々のスポーツ動作の運動学	バイオメカニクスの解析に基づく検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をもとにした復習

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配付。他、必要に応じ授業中に適宜指示する。

【参考書】

「コーチングの科学」福永哲夫著 朝倉出版

「バイオメカニクス」金子公有編 杏林書院 他

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

web 情報・動画も用いた視覚的モダリティを用いる。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって若干の変更があり得る

【Outline and objectives】

To understand the structure and mechanism of physical movement (functional anatomy). To learning from a biomechanical point of view the structure of the physical movement, the actions of the sports movement.

HSS200IA

スポーツ戦略・戦術論

熊川 大介

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ科学的知識や手法を活用した競技力向上のための戦略・戦術について、国や地方団体の取り組みやその実状について理解する。また、各競技種目の特性を理解するとともに、基本的な戦術構造について触れ、自身の専門競技について、競技力向上のための戦術、行動を理解する。さらに、コーチの資質や指導法について論じ、試合までの取り組み方やトレーニング方法について理解する。

【到達目標】

国や地方団体がスポーツの競技力向上を目的として実施している長期的な政策について理解し、自身が貢献できることは何かを明確にする。また、各競技種目の特性を理解したうえで、スポーツ科学的知識や手法を活用した競技力向上のための戦略・戦術について理解する。さらに、コーチ・指導者としての基礎知識を習得し、スポーツ現場において起こりうる諸問題を段階的に解決できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とする。主にスライドを用い、必要に応じて配布資料を基に講義を展開していく。講義の最後には、まとめやテーマに対する自身の考えを整理するといった小レポートを数回実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業計画についての説明を行う。
2	・国や地方団体のスポーツ戦略の取り組み ・競技力と戦術・戦略の関わり	あらゆるスポーツの戦略・戦術について紹介し、競技力向上とのかかわりについて考える。
3	チーム種目の特性	チームスポーツの種目特性（球技系スポーツの基本的な戦術構造）について理解する。について理解する。
4	記録系種目の特性、戦術・戦略	記録系スポーツの種目特性について理解し、基本的な戦術構造について理解する。
5	冬季種目の特性、戦術・戦略	冬季スポーツの種目特性について理解し、基本的な戦術構造について理解する。
6	スポーツ競技力の構造と測定評価方法	スポーツ競技力を構造的に理解し、各階層における項目の測定評価方法を理解する
7	競技力向上のための医科学サポート	スポーツ科学の知見を基にした医科学サポートの実際について理解する。
8	トレーニング戦略	年間トレーニング計画とピーキングについての基本構造を理解する。
9	アスリート育成戦略	各国のアスリート育成戦略について発育発達観点から理解する。
10	戦術行動に必要な体力及び技術	戦術行動に必要とされる体力及び技術について、発育発達観点から理解する。
11	試合に向けての戦術プランとコンディショニング	試合に向けた戦術プランとコンディショニング法について理解する。
12	スポーツ科学研究とコーチング	スポーツ科学研究とコーチングとの関わりについて理解する。
13	戦術・戦略とスポーツ科学研究	戦術・戦略にスポーツ科学研究の成果をどのように活用するのかについて考える。
14	総括及びレポート	専門的に実施している競技（実施していた競技）について、個人の技術力及びチーム力アップのための戦術、行動についてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし、第2～14回：前回授業の復習として、重要なキーワードを抽出しその意味について簡潔に整理する。事前の準備学習として、スポーツの戦術・戦略に関する文献や情報を収集する。

【テキスト（教科書）】

授業は、作成したスライドを用いて実施する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）、授業終了後に実施するまとめ及び課題に対する自身の考えをまとめさせる小レポート（30 %）、また、最終レポート（40 %）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業は事前に作成したスライドを用いて展開していく。授業のスライドおよびグループディスカッションにおける配布資料を作成していく。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る

【Outline and objectives】

The objective of this lecture is to understand the strategies and tactics for improving athletic performances by utilizing knowledge of sports science and measurement evaluation method.

HSS100IA

スポーツ運動学

工藤 裕仁

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

旧うか科目名：スポーツ運動学 I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヒトの動き」および「運動の構造」の成り立ちを理解し、運動および動きの評価の基礎を学習することによって、実践的運動理論を体育教育の実践・指導へ応用することを学ぶ。

運動に用いられる運動器のしくみとその働き（機能解剖）を理解し、そこから運動（動き）の一連および局面の構造をバイオメカニクスの観点での検討・学習をする。またこれは、種々の競技動作について検討・学習する

【到達目標】

運動の質的評価の方法について、その流れ、手続き、注意点の概要を理解し、学生各自が関わるそれぞれの競技においてこれを応用し、動きの観察から考察までを行う基礎知識を習得する。学生それぞれが関与する競技における「動き」を観察し、その特徴を身体構造、あるいはバイオメカニクスの観点から、具体的に抽出できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身体運動を構成する要素について概説し、身体構造と発達、身体構造と機能、動きのとらえ方（主観と客観）を理解し、その評価方法とストラテジーを学ぶ。運動指導のための評価として、モルフォロジーとバイオメカニクスという異なる立場（観点）からの方法が存在することを知り、その概要を学ぶ。またこれらに基づいた運動指導について学ぶ（運動方法学を含む）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	授業の構成と流れを概説	授業の構成と流れを概説
2	運動の概念	運動の概念
3	運動・動きの構造	運動の形態、種類、原理、局面構造の理解
4	運動発達	発達段階における動きの特徴の理解
5	運動における主観と客観	主観的運動感覚と客観的とらえ方
6	量的評価と質的評価	定量化と定性化
7	運動の評価	モルフォロジーとバイオメカニクスによる評価を知る
8	評価から運動技術指導へ	モルフォロジー、バイオメカニクスの評価に基づく運動指導 走運動、投運動における運動評価と運動指導
9	歩行の運動学	歩行動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた走動作の運動学的観察
10	走動作の運動学	走動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた走動作の運動学的観察
11	跳動作の運動学	跳動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた跳動作の運動学的観察
12	打動作・衝突動作の運動学	打動作の運動学的基礎を学ぶ
13	泳動作の運動学	泳動作の運動学的基礎を学ぶ
14	スポーツ外傷・障害発生 の運動学	スポーツ競技動作と外傷・障害の関係を 知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配付。他、必要に応じ授業中に適宜指示する。

【参考書】

「スポーツバイオメカニクス」 深代千之他編著 朝倉書店

「バイオメカニクス」 金子公有編 杏林書院

「コーチングの科学」 福永哲夫著 朝倉出版

【成績評価の方法と基準】

試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

具体例の提示を出来るだけ多くとり、理解を助ける。

web 情報・動画も用いた視覚的モダリティを用いる。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって若干の変更があり得る

【Outline and objectives】

To learning the basics of evaluation for sports movement and exercise.
To understand the structure and mechanism of physical movement (functional anatomy). To learning from a biomechanical point of view the structure of the physical movement, the actions of the sports movement.

HSS200IA

スポーツコーチング論Ⅱ

Nemes Roland

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーチングを実践する上で必要となるスポーツ科学の知識や技能の活用方法に加え、様々なコーチング現場や年齢・性・競技レベルに応じたコーチングについて学ぶ。

【到達目標】

年齢・性・競技レベルに応じたコーチングとその中のスポーツ医・科学の活用を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とグループによるディスカッション形式を交互に取り入れて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	授業の進め方
2	様々なコーチング現場①	スポーツとの出会い 家庭・地域で行う コーチング国内、海外
3	様々なコーチング現場②	学校スポーツのコーチング、コーチングとティーチング
4	コーチング現場での医・科学の活用①	スポーツコーチングに必要な様々な科学
5	様々なコーチング現場③	LTAD（長期的アスリート開発）
6	コーチング現場での医・科学の活用②	ジュニアアスリートのコーチングにおける医科学の活用
7	様々なコーチング現場④	競技種目に応じたコーチング
8	コーチング現場での医・科学の活用③	発育の性差と種目特性を考慮したコーチングと医・科学の活用
9	様々なコーチング現場⑤	トップアスリートにおけるコーチング
10	コーチング現場での医・科学の活用④	トップアスリートのコーチングにおける医・科学の活用
11	コーチ育成の取組み ①	コーチ育成のための海外の取組み
12	コーチ育成の取組み ②	コーチ育成のための国内の取組み
13	まとめ ①	年齢・性・競技レベルに応じたコーチングのまとめ
14	まとめ ②	コーチングにおける医・科学の活用のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々なコーチング現場における現状の準備学習が求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし（講義形式の回には資料を作成して提示する）

【参考書】

コーチング現場に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

宿題と 2 回レポート（25 % ×2 回）を提出し、1 回プレゼン（50 %）をしてもらう。その総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

準備学習にもとづく、積極的なディスカッションを期待する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料を使うことがある。

【Outline and objectives】

Students will learn about various aspects of coaching and coach characteristics. The course starts with the psychological elements, then coaching methodology, followed by basic knowledge of training physiology.

HSS200IA

スポーツコーチング論 B

Nemes Roland

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーチングを実践する上で必要となるスポーツ科学の知識や技能の活用方法に加え、様々なコーチング現場や年齢・性・競技レベルに応じたコーチングについて学ぶ。

【到達目標】

年齢・性・競技レベルに応じたコーチングとその中でのスポーツ医・科学の活用を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とグループによるディスカッション形式を交互に取り入れて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	授業の進め方
2	様々なコーチング現場①	スポーツとの出会い 家庭・地域で行う コーチング国内、海外
3	様々なコーチング現場②	学校スポーツのコーチング、コーチングとティーチング
4	コーチング現場での医・科学の活用①	スポーツコーチングに必要な様々な科学
5	様々なコーチング現場③	LTAD（長期的アスリート開発）
6	コーチング現場での医・科学の活用②	ジュニアアスリートのコーチングにおける医科学の活用
7	様々なコーチング現場④	競技種目に応じたコーチング
8	コーチング現場での医・科学の活用③	発育の性差と種目特性を考慮したコーチングと医・科学の活用
9	様々なコーチング現場⑤	トップアスリートにおけるコーチング
10	コーチング現場での医・科学の活用④	トップアスリートのコーチングにおける医・科学の活用
11	コーチ育成の取組み ①	コーチ育成のための海外の取組み
12	コーチ育成の取組み ②	コーチ育成のための国内の取組み
13	まとめ ①	年齢・性・競技レベルに応じたコーチングのまとめ
14	まとめ ②	コーチングにおける医・科学の活用のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々なコーチング現場における現状の準備学習が求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし（講義形式の回には資料を作成して提示する）

【参考書】

コーチング現場に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

宿題と 2 回レポート（25 % × 2 回）を提出し、1 回プレゼン（50 %）をしてもらう。その総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

準備学習にもとづく、積極的なディスカッションを期待する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料を使うことがある。

【Outline and objectives】

Students will learn about various aspects of coaching and coach characteristics. The course starts with the psychological elements, then coaching methodology, followed by basic knowledge of training physiology.

HSS200IA

スポーツ戦術論（サッカー）

川田 尚弘

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～年次／ 2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サッカー競技力向上を目指した実践現場・指導現場において、自身が戦術を科学的に理解・実践できる競技者になるため、また、戦術を科学的に観察・分析でき合理的に指導できる指導者になるための基礎知識を身につける

【到達目標】

サッカーにおける様々な戦術を多角的に理解し、さらに競技者・指導者としてもいかなる指導方法も習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

サッカーに関する戦術を講義・発表・実習形式を通し多角的に理解していく。また、国内外のサッカー戦術の現状や年齢・レベルの相違に関係するサッカー戦術についても学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（授業の進め方など）	講義の進め方・聴講に際して留意すべき点・評価の方法を確認する
第 2 回	戦術とは何か	戦術の語源・サッカー戦術に関する用語等の理解
第 3 回	サッカーにおける個人戦術（攻撃）	サッカーにおける個人戦術（攻撃）について理解する
第 4 回	サッカーにおける個人戦術（守備）	サッカーにおける個人戦術（守備）について理解する
第 5 回	サッカーにおけるグループ戦術（攻撃）	サッカーにおけるグループ戦術（攻撃）について理解する
第 6 回	サッカーにおけるグループ戦術（守備）	サッカーにおけるグループ戦術（守備）について理解する
第 7 回	サッカーにおけるチーム戦術（攻撃）	サッカーにおけるチーム戦術（攻撃）について理解する
第 8 回	サッカーにおけるチーム戦術（守備）	サッカーにおけるチーム戦術（守備）について理解する
第 9 回	近代サッカー戦術の傾向①	近代サッカー戦術の傾向（国内）を理解する
第 10 回	近代サッカー戦術の傾向②	近代サッカー戦術の傾向（国外）を理解する
第 11 回	近代サッカー戦術の傾向③	近代サッカーの戦術の傾向（国内指導者・選手の影響）
第 12 回	近代サッカー戦術の傾向④	近代サッカーの戦術の傾向（海外指導者・選手の影響）
第 13 回	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（コーチング方法）を学ぶ
第 14 回	まとめ	本講義に関する総括・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サッカー戦術に関し、異なるレベルや年齢や性別、国内外のサッカー事情を含め情報を収集しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない、必要であればその際に資料等を配布する。

【参考書】

特定の参考書は使用しない、必要であればその際に資料等を配布する

【成績評価の方法と基準】

毎回のレポート 60 %、平常点 40 % で評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The objective of this class is to know about the practice and theory and to improve the performance in football.

HSS200IA

スポーツ戦術論（ハンドボール）

Nemes Roland

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～年次／2

単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハンドボール競技の歴史から始め、現代のハンドボール全体的な発展を学ぶ。また、ハンドボールの様々な局面について具体的に理解する。

【到達目標】

ハンドボールの歴史や戦術を理科しながら、他球技の考え方、又はルール変更の影響も理解する。戦術を理解した上で、ゲーム分析を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進めていく。また、グループワークによる協働的な演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ハンドボール競技の歴史	映像を利用して、ハンドボールの歴史を紹介する
2	コーチングフィロソフィー	様々なコーチング哲学の紹介
3	ゲームの局面構造	球技の試合における学習
4	オフェンスにおける技術と戦術の構造	オフェンスにおける個人、グループ、チーム基本考え方を学習する
5	ディフェンスにおける技術と戦術の構造	ディフェンスにおける個人、グループ、チーム基本考え方を学習する
6	技術・戦術の発達	技術と戦術の関係性を学習する
7	ルールの変更と技術・戦術の発達との関係	ルール変更の影響について分析し、理解する
8	個人戦術力（技術力と戦術的思考力）の構造	個人に求められているオフェンスとディフェンス技術と戦術
9	グループ戦術とチーム戦術の構造	2～3人の協力によるグループプレー
10	セットオフェンスにおける技術力と戦術力の養成	セットオフェンスにのける典型的なオフェンスを紹介する
11	セットディフェンスにおける技術力と戦術力の養成	ディフェンスにのける典型的なオフェンスを紹介する
12	速攻における技術力と戦術力の養成	速攻にのける典型的なオフェンスを紹介する
13	ゲームパフォーマンスの分析と評価	ゲーム分析における基本考え方を紹介する
14	まとめ	ハンドボールの試合を視察しながら戦術におけるディスカッションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

未定

【テキスト（教科書）】

未定

【参考書】

日本ハンドボール協会 編 『ハンドボール指導教本』 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業内のテスト 2 回 80 %, レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます

【Outline and objectives】

The course will introduce handball's development through history, and the tactical elements in detail. Theoretical and practical lessons are planned.

HSS100IA

ダンス実習

町田 樹

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／1

単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習では「音と戯れる身体」をテーマに、舞踊（ダンス）を「する」、「みる」、「つくる」、「つたえる」といった多角的な観点から総合的に愉しむことができる享受能力を養っていく。

【到達目標】

- 1）クラシック・バレエの基礎を理解し、実践することができる。
- 2）自己の感情や意思、想像を身体動作に込めて表現することができる。
- 3）音楽やコンセプトを理解した上で、ダンスを創作することができる。
- 4）他者の踊りや舞踊作品を観て、自分の言葉で評釈することができる。
- 5）ダンスを多角的に楽しむことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

「するダンス」＝舞踊の基本とされるクラシック・バレエの基礎を実践しながら、自身の身体やバレエ・スキルに関する理解を深めていく。
「みるダンス」＝ダンスの鑑賞術を学び、舞踊作品の楽しみ方を身に付ける。
「つくるダンス」＝担当教員が提示する音楽に合わせて動作を構成する。具体的には担当教員が創作した振付の一部にアレンジを加えたり、自身の表現を取り入れたりすることに挑戦する。最終的に出来上がった振付を発表し、お互いのダンスを評釈し合う。
「つたえるダンス」＝授業で得た気付きや舞踊作品の良さをディスカッションやレポート等を通じて、自分の言葉で表現できるように訓練する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的や内容を説明するとともに、ストレッチや初歩的なバーレッスンを通して、踊るための身体を準備する。
2	クラシック・バレエの基礎 1 —ストレッチとバーレッスン	身体の仕組みを理解しながら、基本的なバレエのバーレッスンを体験する。
3	クラシック・バレエの基礎 2 —バー～センターレッスン	バーレッスンとセンターレッスンの基本動作を反復し、身体に覚え込ませていく。
4	舞踊作品の鑑賞術 1 —グランド・バレエ他	クラシック・バレエの作品を観ながら舞踊の鑑賞術を学び、作品の優れた点や表現の解釈を自分の言葉で説明する。
5	クラシック・バレエの基礎 3 —バー～センターレッスン	バーレッスンとセンターレッスンの基本動作に自己の感情や意思、想像力を込めて、身体表現へと洗練させていく。
6	クラシック・バレエの基礎 4 —初歩的なヴァリエーション	バーレッスンとセンターレッスンの基本動作を組み合わせた簡単なヴァリエーションを実践し、自身の動作に感情をより一層込められるように練習する。
7	舞踊作品の鑑賞術 2 —モダン・コンテンポラリー他	モダンダンスやコンテンポラリーダンスをはじめ様々なジャンルの作品を鑑賞しながら舞踊の鑑賞術を学び、作品の優れた点や表現の解釈を自分の言葉で説明する。
8	コンタクト・インプロヴィゼーション	言葉ではなく、ダンスや身体運動を用いた他者とのコミュニケーションを体験する。即興で動きを構成したり、相手の動作に応じながら自身の身体をコントロールすることに挑戦していく。
9	クラシック・バレエの基礎 5 —総集編	これまで実践してきたクラシック・バレエの基礎を復習しながら、音楽から想起される感情やイメージを動きで表現することを目指す。

発行日：2019/5/1

10	ダンスの振付とその実践 1 —音楽とコンセプトの理 解	バレエの基本的なクラスレッスンを実 施後、担当教員が準備する振付を習得 する。また振付のコンセプトや音楽を 理解しながら、「振付」という創作活 動について深く考えてみる。
11	ダンスの振付とその実践 2 —動作の構成	バレエの基本的なクラスレッスンを実 施後、担当教員が準備する振付を習得 する。また振付の一部に自身のアレン ジや表現を取り入れる創作活動を行う。
12	ダンスの振付とその実践 3 —作品の創作と練習	バレエの基本的なクラスレッスンを実 施後、前回の授業で構成した振付を練 習し仕上げていく。
13	The Exhibition —作品の上演	「ダンスの振付とその実践1～3」を 通して創作した振付を一人ずつ発表す る。参加者はそれぞれの踊りを見て評 価し合う。
14	まとめ	本実習のまとめを行い、ダンスを「す る」、「みる」、「つくる」、「つたえる」 ことの重要性についてディスカッショ ン形式で考察していきたい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に要求しないが、必要に応じてレポートの作成を指示する場合がある。

【テキスト（教科書）】

特に定めないが、必要に応じて担当教員がテキストを配布する。

【参考書】

- ・ヴァレリー・グリーグ『インサイド・バレエテクニック——正しいレッスンと
テクニックの向上』上野房
子訳, 大修館書店, 1997.
- ・尼ヶ崎彬『ダンス・クリティーク——舞踊の現在 / 舞踊の身体』勁草書房,
2004.
- ・鈴木晶『バレエとダンスの歴史——欧米劇場舞踊史』平凡社, 2012.

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（40%）：授業に取り組む姿勢を総合的に評価する。
- ・レポートおよびリアクションペーパー（30%）：定期的に提出するリアク
ションペーパーやレポートの内容を評価する。
- ・実技（30%）：自身の身体や舞踊文化、音楽に対する理解を深めながら踊る
ことができているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

基本的にダンス（バレエ）を実践する授業ですので、動きやすく踊ることに適
した服装で受講してください。また受講するに際してバレエシューズを準備
することが望ましいですが、難しければ厚手の靴下を用意してください（な
お靴下は汚れたり破れたりして痛んでしまいますが、ご了承ください）。バレ
エシューズに関しては、ダンス用品店や通販サイトで 1,000 ～ 3,000 円程度
の値段で購入することができます。ただし数回ほど座学形式の授業を実施し
ますが、その際の服装は自由です。授業全 14 回を通して毎回必ず筆記用具を
持参してください。その他の注意事項については初回の授業にて説明します。

【その他の重要事項】

バレエやダンス経験の無い方、自分を表現することに対して苦手意識を持っ
ている方、誰でも大歓迎です。参加者全員でコミュニケーションをとりなが
ら、楽しくダンスを学びましょう。
なお本実習は定員が決まっていますので、受講希望者が多い場合は抽選とな
ります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire comprehensive
abilities needed to enjoy dances.

HSS100IA

ダンス指導論演習

小川 洋子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

旧うか科目名：舞踊論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校教育における『ダンスの授業』とは、ただ踊って楽しむ場ではなく、自己表現力や、他者とのコミュニケーション能力を育てる場となるべきである。故に、教える教員側の「ダンス表現」に対する理解や、「表現力」が重要となってくる。この授業では、様々な創作活動（クリエイティブ・ムーブメント・ダンス）を体験し、履修者の表現力や、コミュニケーション能力を高めることを目指し、中学、高校における『表現活動』について指導できる力を養成したい。また、「ダンス表現の楽しさ」を生徒に伝えられる教員となれるよう、模擬授業を通して、さらに理解を深めていく。

【到達目標】

①体育教員として、ダンスの「表現活動分野」を指導できるようになる。
ダンス表現に必要な身体の使い方や知識を学び、自己表現に対する前向きな姿勢を身につけ、表現活動を指導できるようになる。
②コミュニケーション能力を伸ばす。
毎時間、グループワーク（作品を創る体験）を重ねることで、『自己の意見を伝えつつ、他者の意見も受け入れる』という態度を身につけ、教員としての資質を伸ばすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

始めに表現活動分野についての概要と基礎を学ぶ。基礎を基に、履修者が主体的に学べる場として模擬授業を行なう。生徒、教師双方の体験をすることで、指導法、授業の進め方について知識を深める。

最後に、グループワークとして、創作作品を仕上げ、発表する。作品を客観的に見ることで、より、評価方法についても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	なぜ学校教育の中にダンスがあるのか？	授業の概要を説明。学習指導要領『ダンス』の内容や、創作ダンスについて学ぶ。
2	ダンス表現としての身体の動き	自己の姿勢や関節の可動域を広げ、スポーツとは違う身体の使い方を知る。
3	表現活動における振り付け方法	日常的な動作（動詞など）から振り付けを考え、ダンスへと発展する。
4	日常の動作を使って表現活動における振り付け方法	スピードの変化や止まることで、動きに変化を付ける。見え方がどのように変わるかを作品の鑑賞から知る。
5	表現活動における振り付け方法	イメージから生まれた身体の動きを、振り付けに発展させる。移動も加え、より大きくダイナミックな動きへと発展。
6	表現活動における振り付け方法	集団の動き。他者とのイメージの共有や、相互関係・空間の使い方について知る。個人では表現できない動き、「集団による表現方法」について学ぶ。
7	学習指導案の作成	2～3名のグループに分かれ、指導案を作成。作成する為に必要なことを話し合い、学年・時間数に適したテーマを選び、導入・展開・発展の流れを考える。
8	中学 1 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学 1 年生対象の模擬授業を実施。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、態度知識を深めるための改善点を話し合う。
9	中学 2 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学 2 年生対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や生徒の技能、態度、知識を深めるための改善点について話し合う。

10	中学 3 年生、または高校 1 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学 3 年生または高校 1 年生対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、知識、態度を深めるための改善点について話し合う。
11	高校 1 年。または 2 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に高校 1・2 年生対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、知識、態度を深めるための改善点について話し合う。
12	作品の作り方	創作をする手順を学び、数人のグループで提示されたテーマを基に、構成、ステージングを決定。役割りを分担し振り付けを行なう。
13	振り付け	引き続き、細かい振り付けを考え、お互いに教えあい、最後まで通せるようにする。
14	発表、評価 授業のまとめ	創作作品の発表。作品を撮影し、ビデオ鑑賞から客観的に作品を見て、評価について考える。 授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：学習指導要領 体育領域「ダンス」を読んでおく。

第 2 回目以降は、毎回の授業内容を復習し、レポートを書く。次回授業で使用する言葉について調べるなど。毎時間レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】

特に無し。必要に応じて、担当者からプリントを配布。

【参考書】

『表現運動系及びダンス指導の手引き』 文部科学省 東洋館出版

【成績評価の方法と基準】

ダンス表現の基礎力を身につけ理解を深めることと、実技の向上を目標としているので、下記のように評価します。

・平常点（参加態度・出席回数を含む）50 %

・レポート（授業の理解度）30 %

・技術点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ健康学部学習校舎での授業を希望する学生が多いので、引き続き 107 教室を使用する予定です。教室の広さや、模擬授業の実施が可能な人数として、定員は 24 名に制限をします。
提出されたレポートの内容から、授業内容への理解が個人により差が大きいと感じた為、内容説明をさらに分かりやすく行うことにします。

【学生が準備すべき機器他】

特に必要はありませんが、最後の創作活動において、必要があれば録音・録画を行いグループワークに役立てることもあります。（個人の機器を使用）

【その他の重要事項】

教員免許取得のために必修の授業です。教員免許取得希望者が履修できるよう、免許を取得しない学生の履修は遠慮してください。定員が決まっているので、多い場合は抽選となります。
主に表現活動を行うので、ダンス経験は必要ありませんが、積極的に体を動かそうという意欲を持って参加してください。
※授業の展開によって必要があれば、内容を若干変更する場合があります。

【Outline and objectives】

In this class,the students will learn to express feelings and images through dance,improve the ability of self expression and communication skills, as well as deepen their understanding of self representation ,in dancs. Also,they will acquire leadenship through mock teaching demonstrations.

HSS100IA

ダンス指導論演習

小川 洋子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3
旧うか科目名：舞踊論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校教育における『ダンスの授業』とは、ただ踊って楽しむ場ではなく、自己表現力や、他者とのコミュニケーション能力を育てる場となるべきである。故に、教える教員側の「ダンス表現」に対する理解や、「表現力」が重要となってくる。この授業では、様々な創作活動（クリエイティブ・ムーブメント・ダンス）を体験し、履修者の表現力や、コミュニケーション能力を高めることを目指し、中学、高校における『表現活動』について指導できる力を養成したい。また、「ダンス表現の楽しさ」を生徒に伝えられる教員になれるよう、模擬授業を通して、さらに理解を深めていく。

【到達目標】

①体育教員として、ダンスの「表現活動分野」を指導できるようになる。
ダンス表現に必要な身体の使い方や知識を学び、自己表現に対する前向きな姿勢を身につけ、表現活動を指導できるようになる。
②コミュニケーション能力を伸ばす。
毎時間、グループワーク（作品を創る体験）を重ねることで、『自己の意見を伝えつつ、他者の意見も受け入れる』という態度を身につけ、教員としての資質を伸ばすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

始めに表現活動分野についての概要と基礎を学ぶ。基礎を基に、履修者が主体的に学べる場として模擬授業を行なう。生徒、教師双方の体験をすることで、指導法、授業の進め方について知識を深める。

最後に、グループワークとして、創作作品を仕上げ、発表する。作品を客観的に見ることで、より、評価方法についても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	なぜ学校教育の中にダンスがあるのか？	授業の概要を説明。学習指導要領『ダンス』の内容や、創作ダンスについて学ぶ。
2	ダンス表現としての身体の動き	自己の姿勢や関節の可動域を広げ、スポーツとは違う身体の使い方を知る。
3	表現活動における振り付け方法	日常的な動作（動詞など）から振り付けを考え、ダンスへと発展する。
4	日常の動作を使って表現活動における振り付け方法	スピードの変化や止まることで、動きに変化を付ける。見え方がどのように変わるかを作品の鑑賞から知る。
5	表現活動における振り付け方法	イメージから生まれた身体の動きを、振り付けに発展させる。移動も加え、より大きくダイナミックな動きへと発展。
6	表現活動における振り付け方法	集団の動き。他者とのイメージの共有や、相互関係・空間の使い方について知る。個人では表現できない動き、「集団による表現方法」について学ぶ。
7	学習指導案の作成	2～3名のグループに分かれ、指導案を作成。作成する為に必要なことを話し合い、学年・時間数に適したテーマを選び、導入・展開・発展の流れを考える。
8	中学1年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学1年生対象の模擬授業を実施。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、態度知識を深めるための改善点を話し合う。
9	中学2年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学2年生対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や生徒の技能、態度、知識を深めるための改善点について話し合う。

10	中学3年生、または高校1年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学3年生または高校1年生対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、知識、態度を深めるための改善点について話し合う。
11	高校1年。または2年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に高校1・2年生対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、知識、態度を深めるための改善点について話し合う。
12	作品の作り方	創作をする手順を学び、数人のグループで提示されたテーマを基に、構成、ステージングを決定。役割りを分担し振り付けを行なう。
13	振り付け	引き続き、細かい振り付けを考え、お互いに教えあい、最後まで通せるようにする。
14	発表、評価 授業のまとめ	創作作品の発表。作品を撮影し、ビデオ鑑賞から客観的に作品を見て、評価について考える。 授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：学習指導要領 体育領域「ダンス」を読んでおく。
第2回目以降は、毎回の授業内容を復習し、レポートを書く。次回授業で使用する言葉について調べるなど。毎時間レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】

特に無し。必要に応じて、担当者からプリントを配布。

【参考書】

『表現運動系及びダンス指導の手引き』 文部科学省 東洋館出版

【成績評価の方法と基準】

ダンス表現の基礎力を身につけ理解を深めることと、実技の向上を目標としているので、下記のように評価します。
・平常点（参加態度・出席回数を含む）50 %
・レポート（授業の理解度）30 %
・技術点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ健康学部学習校舎での授業を希望する学生が多いので、引き続き107教室を使用する予定です。教室の広さや、模擬授業の実施が可能な人数として、定員は24名に制限をします。
提出されたレポートの内容から、授業内容への理解が個人により差が大きいと感じた為、内容説明をさらに分かりやすく行うことにします。

【学生が準備すべき機器他】

特に必要はありませんが、最後の創作活動において、必要があれば録音・録画を行いグループワークに役立てることもあります。（個人の機器を使用）

【その他の重要事項】

教員免許取得のために必修の授業です。教員免許取得希望者が履修できるよう、免許を取得しない学生の履修は遠慮してください。定員が決まっているので、多い場合は抽選となります。
主に表現活動を行うので、ダンス経験は必要ありませんが、積極的に体を動かそうという意欲を持って参加してください。
※授業の展開によって必要があれば、内容を若干変更する場合があります。

【Outline and objectives】

In this class,the students will learn to express feelings and images through dance,improve the ability of self expression and communication skills, as well as deepen their understanding of self representation ,in dancs. Also,they will acquire leadenship through mock teaching demonstrations.

HSS100IA

柔道実習

佐藤 伸一郎

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／1 単位

曜日・時限：土 1/Sat.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】

学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。

・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順	体落とし
5	練習法の理解とその実際	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

・授業への積極的な参加姿勢 40 %
・受け身テスト 20 %
・技能テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

秋学期の武道指導論演習も履修することが望ましい。
履修者が30名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】

Learn the basic movements of Judo, throwing techniques and ground techniques.

HSS100IA

柔道実習

佐藤 伸一郎

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／1 単位

曜日・時限：土 2/Sat.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】

学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。

・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順	体落とし
5	練習法の理解とその実際	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

・授業への積極的な参加姿勢 40 %
・受け身テスト 20 %
・技能テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

秋学期の武道指導論演習も履修することが望ましい。
履修者が30名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】

Learn the basic movements of Judo, throwing techniques and ground techniques.

HSS100IA

柔道指導論実習

佐藤 伸一郎

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／1 単位

曜日・時限：土 1/Sat.1

旧うか科目名：総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】

学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
- ・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順	体落とし
5	練習法の理解とその実際	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

- ・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
- ・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への積極的な参加姿勢 40 %
- ・受け身テスト 20 %
- ・技能テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

秋学期の武道指導論演習も履修することが望ましい。
履修者が 30 名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】

Learn the basic movements of Judo, throwing techniques and ground techniques.

HSS100IA

柔道指導論実習

佐藤 伸一郎

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／1 単位

曜日・時限：土 2/Sat.2

旧うか科目名：総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※
通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】

学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
- ・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順	体落とし
5	練習法の理解とその実際	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

- ・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
- ・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への積極的な参加姿勢 40 %
- ・受け身テスト 20 %
- ・技能テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

秋学期の武道指導論演習も履修することが望ましい。
履修者が 30 名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】

Learn the basic movements of Judo, throwing techniques and ground techniques.

HSS100IA

柔道指導論演習

佐藤 伸一郎

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：土 1/Sat.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】

- ・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
- ・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
- ・作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
- ・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

- ・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
- ・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

- ・模擬授業試験 50 %
- ・平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期の柔道実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が30名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】

Practice on making martial arts lessons in health and physical education classes at junior and senior high schools.

HSS100IA

柔道指導論演習

佐藤 伸一郎

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：土 2/Sat.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】

- ・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
- ・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
- ・作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
- ・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

- ・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

- ・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
- ・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

- ・模擬授業試験 50 %
- ・平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期の柔道実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が30名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】

Practice on making martial arts lessons in health and physical education classes at junior and senior high schools.

HSS100IA

武道指導論演習

佐藤 伸一郎

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：土 1/Sat.1

旧うか科目名：総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】

- ・ 武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
- ・ 技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・ 武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
- ・ 作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
- ・ 武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

- ・ 中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

- ・ 柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
- ・ 柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

- ・ 模擬授業試験 50 %
- ・ 平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期の柔道実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が30名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】

Practice on making martial arts lessons in health and physical education classes at junior and senior high schools.

HSS100IA

武道指導論演習

佐藤 伸一郎

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：土 2/Sat.2

旧うか科目名：総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】

- ・ 武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
- ・ 技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・ 武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
- ・ 作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
- ・ 武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

- ・ 中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

- ・ 柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
- ・ 柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

- ・ 模擬授業試験 50 %
- ・ 平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期の柔道実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が 30 名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】

Practice on making martial arts lessons in health and physical education classes at junior and senior high schools.

HSS100IA

剣道実習

山崎 廣道

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／1 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「武道」の1 領域である剣道を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。「剣道実習」なので、前半で実技演習、後半4 時間で模擬授業を受講者に順に課し、その都度、受講者同士の講評、指導者による指導、助言を行い、実践的指導力を培う。

【到達目標】
①剣道を指導する上での、指導法の研究、研鑽を行う。
②授業での指導法・評価方法等について習得する。
③教員採用試験（実技試験）合格に繋がる、最低限の技能の習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
①授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。そのために後半 模擬授業を順に受講者に課し実践的な指導力を培う。
②相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 春学期		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化について ・授業のすすめ方について ・模擬授業について ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構えについて
2	基本指導法①	・防具の着け方、片づけ方 ・小手、胴、垂れを着用 ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り、左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本指導法②	・基本指導法①の反復 ・素振り 一挙動・踞跳躍素振り（烏跳び） ・対人動作での素振り、打ち込み練習
4	基本指導法③（仕掛け技指導法①）	・基本指導法①②の反復 ・面の着用 ・仕掛け技（面、小手、胴、小手 → 面、小手 → 面 → 胴） ・引き技
5	基本指導法④（仕掛け技指導法②）	・基本指導法①②③の反復 ・切り返し
6	基本指導法⑤（仕掛け技指導法③）	・基本指導法①②③④の反復 ・切り返し2
7	基本指導法⑥	・基本指導法①②③④⑤の反復 ・打ちこみ稽古 ・掛かり稽古 ・互角稽古
8	基本指導法⑦（応じ技①）	・基本稽古①②③④⑤⑥の反復 ・返し技① ・すり上げ技① ・抜き技① ・出端技① ・互角稽古

9	基本指導法⑧（応じ技②）	・基本稽古①②③④⑤⑥⑦の反復 ・返し技② ・すり上げ技② ・抜き技② ・出端技② ・互角稽古
10	基本指導法⑨（応じ技③）	・模擬授業1 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 ・返し技③ ・すり上げ技③ ・返し技③ ・出端技③ ・互角稽古
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	・模擬授業2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 ・総合演習1（切り返し → 仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 互角稽古 → 切り返し） ・模擬授業3
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	・総合演習1 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 ・試合、審判法① ・模擬授業4
13	基本指導法⑫（総合演習指導法③）	・総合演習2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 ・試合審判法② ・模擬授業5
14	基本指導法⑬（評価・評定指導法、試験・まとめ）	・評価・評定の解説 ・スキルテストについて ・総合解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論演習」の学習内容・方法を詳細に記したレジュメを配布する。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
①授業への参加態度
②模擬授業評価
③授業への貢献度（役割分担等）
①から③を総合的に判断して評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・剣道の特性から、継続して学ぶことが重要です。教職に就いた時に実技指導ができるために、参加態度を特に重視します。
・竹刀、竹刀袋、鐙（つば）、鐙止めは1 時間目に業者が販売に来ます。必ず、各自で購入して下さい。竹刀は、他人から借用せず、自分の竹刀を使用して授業に臨んで下さい。
・小手下（小手を使用する際の手袋）、手ぬぐい（面の下につける）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）は学校からの支給となります。

【Outline and objectives】
The goal my class
1. To reskill knowledges and skills for physical education class through Kendo(japanese fencing) ,a field of japanese traditonal military arts.
2. To develope one's educational ability through trial lessons of Kendo practice to evaluate each other with my instruction and mentoring.

HSS100IA

剣道実習

山崎 廣道

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「武道」の1 領域である剣道を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。「剣道実習」なので、前半で実技演習、後半4 時間で模擬授業を受講者に順に課し、その都度、受講者同士の講評、指導者による指導、助言を行い、実践的な指導力を培う。

【到達目標】

- ①剣道を指導する上での、指導法の研究、研鑽を行う。
- ②授業での指導法・評価方法等について習得する。
- ③教員採用試験（実技試験）合格に繋がる、最低限の技能の習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。そのために後半 模擬授業を順に受講者に課し実践的な指導力を培う。
- ②相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化について ・授業のすすめ方について ・模擬授業について ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構えについて
2	基本指導法①	・防具の着け方、片づけ方 ・小手、胴、垂れを着用 ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り、左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本指導法②	・基本指導法①の反復 ・素振り 一挙動・蹲踞跳躍素振り（烏跳び） ・対人動作での素振り、打ち込み練習
4	基本指導法③（仕掛け技指導法①）	・基本指導法①②の反復 ・面の着用 ・仕掛け技（面、小手、胴、 ・小手 → 面、 ・小手 → 面 → 胴） ・引き技
5	基本指導法④（仕掛け技指導法②）	・基本指導法①②③の反復 ・切り返し
6	基本指導法⑤（仕掛け技指導法③）	・基本指導法①②③④の反復 ・切り返し2
7	基本指導法⑥	・基本指導法①②③④⑤の反復 ・打ちこみ稽古 ・掛かり稽古 ・互角稽古
8	基本指導法⑦（応じ技①）	・基本稽古①②③④⑤⑥の反復 ・返し技① ・すり上げ技① ・抜き技① ・出端技① ・互角稽古

9	基本指導法⑧（応じ技②）	・基本稽古①②③④⑤⑥⑦の反復 ・返し技② ・すり上げ技② ・抜き技② ・出端技② ・互角稽古
10	基本指導法⑨（応じ技③）	・模擬授業1 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 ・返し技③ ・すり上げ技③ ・返し技③ ・出端技③ ・互角稽古
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	・模擬授業2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 ・総合演習1（切り返し → 仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 互角稽古 → 切り返し） ・模擬授業3
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	・総合演習1 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 ・試合、審判法① ・模擬授業4
13	基本指導法⑫（総合演習指導法③）	・総合演習2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 ・試合審判法② ・模擬授業5
14	基本指導法⑬（評価・評定指導法、試験・まとめ）	・評価・評定の解説 ・スキルテストについて ・総合解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論演習」の学習内容・方法を詳細に記したレジュメを配布する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

- ①授業への参加態度
 - ②模擬授業評価
 - ③授業への貢献度（役割分担等）
- ①から③を総合的に判断して評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・剣道の特性から、継続して学ぶことが重要です。教職に就いた時に実技指導ができるために、参加態度を特に重視します。
- ・竹刀、竹刀袋、鐙（つば）、鐙止めは1 時間目に業者が販売に来ます。必ず、各自で購入して下さい。竹刀は、他人から借用せず、自分の竹刀を使用して授業に臨んで下さい。
- ・小手下（小手を使用する際の手袋）、手ぬぐい（面の下につける）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）は学校からの支給となります。

【Outline and objectives】

The goal my class

1. To reskill knowledges and skills for physical education class through Kendo(japanese fencing) ,a field of japanese traditonal military arts.
2. To develope one's educational ability through trial lessons of Kendo practice to evaluate each other with my instruction and mentoring.

HSS100IA

剣道指導論実習

山崎 廣道

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「武道」の1 領域である剣道を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。「剣道実習」なので、前半で実技演習、後半4 時間で模擬授業を受講者に順に課し、その都度、受講者同士の講評、指導者による指導、助言を行い、実践的指導力を培う。

【到達目標】

- ①剣道を指導する上での、指導法の研究、研鑽を行う。
- ②授業での指導法・評価方法等について習得する。
- ③教員採用試験（実技試験）合格に繋がる、最低限の技能の習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。そのために後半 模擬授業を順に受講者に課し実践的な指導力を培う。
- ②相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化について ・授業のすすめ方について ・模擬授業について ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構えについて
2	基本指導法①	・防具の着け方、片づけ方 ・小手、胴、垂れを着用 ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り、左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本指導法②	・基本指導法①の反復 ・素振り 一挙動・踞跳躍素振り（烏跳び） ・対人動作での素振り、打ち込み練習
4	基本指導法③（仕掛け技指導法①）	・基本指導法①②の反復 ・面の着用 ・仕掛け技（面、小手、胴、 ・小手 → 面、 ・小手 → 面 → 胴） ・引き技
5	基本指導法④（仕掛け技指導法②）	・基本指導法①②③の反復 ・切り返し
6	基本指導法⑤（仕掛け技指導法③）	・基本指導法①②③④の反復 ・切り返し2
7	基本指導法⑥	・基本指導法①②③④⑤の反復 ・打ちこみ稽古 ・掛かり稽古 ・互角稽古
8	基本指導法⑦（応じ技①）	・基本稽古①②③④⑤⑥の反復 ・返し技① ・すり上げ技① ・抜き技① ・出端技① ・互角稽古

9	基本指導法⑧（応じ技②）	・基本稽古①②③④⑤⑥⑦の反復 ・返し技② ・すり上げ技② ・抜き技② ・出端技② ・互角稽古
10	基本指導法⑨（応じ技③）	・模擬授業1 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 ・返し技③ ・すり上げ技③ ・返し技③ ・出端技③ ・互角稽古
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	・模擬授業2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 ・総合演習1（切り返し → 仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 互角稽古 → 切り返し） ・模擬授業3
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	・総合演習1 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 ・試合、審判法① ・模擬授業4
13	基本指導法⑫（総合演習指導法③）	・総合演習2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 ・試合審判法② ・評価・評定の解説
14	基本指導法⑬（評価・評定指導法、試験・まとめ）	・スキルテストについて ・総合解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論演習」の学習内容・方法を詳細に記したレジュメを配布する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

- ①授業への参加態度
 - ②模擬授業評価
 - ③授業への貢献度（役割分担等）
- ①から③を総合的に判断して評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・剣道の特性から、継続して学ぶことが重要です。教職に就いた時に実技指導ができるために、参加態度を特に重視します。
- ・竹刀、竹刀袋、鐙（つば）、鐙止めは1 時間目に業者が販売に来ます。必ず、各自で購入して下さい。竹刀は、他人から借用せず、自分の竹刀を使用して授業に臨んで下さい。
- ・小手下（小手を使用する際の手袋）、手ぬぐい（面の下につける）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）は学校からの支給となります。

【Outline and objectives】

The goal my class

1. To reskill knowledges and skills for physical education class through Kendo(japanese fencing) ,a field of japanese traditonal military arts.
2. To develope one's educational ability through trial lessons of Kendo practice to evaluate each other with my instruction and mentoring.

HSS100IA

剣道指導論実習

山崎 廣道

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「武道」の1領域である剣道を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。「剣道実習」なので、前半で実技演習、後半4時間では模擬授業を受講者に順に課し、その都度、受講者同士の講評、指導者による指導、助言を行い、実践的な指導力を培う。

【到達目標】

- ①剣道を指導する上での、指導法の研究、研鑽を行う。
- ②授業での指導法・評価方法等について習得する。
- ③教員採用試験（実技試験）合格に繋がる、最低限の技能の習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。そのために後半 模擬授業を順に受講者に課し実践的な指導力を培う。
- ②相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化について ・授業のすすめ方について ・模擬授業について ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構えについて
2	基本指導法①	・防具の着け方、片づけ方 ・小手、胴、垂れを着用 ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り、左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本指導法②	・基本指導法①の反復 ・素振り 一挙動・蹲踞跳躍素振り（烏跳び） ・対人動作での素振り、打ち込み練習
4	基本指導法③（仕掛け技指導法①）	・基本指導法①②の反復 ・面の着用 ・仕掛け技（面、小手、胴、小手 → 面、小手 → 面 → 胴） ・引き技
5	基本指導法④（仕掛け技指導法②）	・基本指導法①②③の反復 ・切り返し
6	基本指導法⑤（仕掛け技指導法③）	・基本指導法①②③④の反復 ・切り返し2
7	基本指導法⑥	・基本指導法①②③④⑤の反復 ・打ちこみ稽古 ・掛かり稽古 ・互角稽古
8	基本指導法⑦（応じ技①）	・基本稽古①②③④⑤⑥の反復 ・返し技① ・すり上げ技① ・抜き技① ・出端技① ・互角稽古

9	基本指導法⑧（応じ技②）	・基本稽古①②③④⑤⑥⑦の反復 ・返し技② ・すり上げ技② ・抜き技② ・出端技② ・互角稽古
10	基本指導法⑨（応じ技③）	・模擬授業1 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 ・返し技③ ・すり上げ技③ ・返し技③ ・出端技③ ・互角稽古
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	・模擬授業2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 ・総合演習1（切り返し → 仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 互角稽古 → 切り返し） ・模擬授業3
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	・総合演習1 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 ・試合、審判法① ・模擬授業4
13	基本指導法⑫（総合演習指導法③）	・総合演習2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 ・試合審判法② ・模擬授業5
14	基本指導法⑬（評価・評定指導法、試験・まとめ）	・評価・評定の解説 ・スキルテストについて ・総合解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論実習」の学習内容・方法を詳細に記したレジュメを配布する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

- ①授業への参加態度
 - ②模擬授業評価
 - ③授業への貢献度（役割分担等）
- ①から③を総合的に判断して評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・剣道の特性から、継続して学ぶことが重要です。教職に就いた時に実技指導ができるために、参加態度を特に重視します。
- ・竹刀、竹刀袋、鐙（つば）、鐙止めは1時間目に業者が販売に来ます。必ず、各自で購入して下さい。竹刀は、他人から借用せず、自分の竹刀を使用して授業に臨んで下さい。
- ・小手下（小手を使用する際の手袋）、手ぬぐい（面の下につける）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）は学校からの支給となります。

【Outline and objectives】

The goal my class

1. To reskill knowledges and skills for physical education class through Kendo(japanese fencing) ,a field of japanese traditonal military arts.
2. To develope one's educational ability through trial lessons of Kendo practice to evaluate each other with my instruction and mentoring.

HSS100IA

剣道指導論演習

古澤 伸晃

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012 年 4 月より中学校において全ての生徒に武道を履修させることとなった。そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは、自分自身が相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を通じた練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。

【到達目標】

履修者が、中学校・高等学校において武道（剣道）の授業を展開することのできる指導力、知識、技能を身に付けさせることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎・基本を大切にしながら実技を中心として授業を展開する。また、試合を実施するとともに審判法についても授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道）の概要	授業の展開、剣道の歴史
2	基本指導法①	礼法（正座・座礼・立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方、納め方、足さばき、素振り、掛け声、切り返し
3	基本指導法②	模擬授業 1 基本指導法①の反復 剣道具の装着（胴・垂れ・小手）
4	基本指導法③	模擬授業 2 基本指導法①②の反復 間合、踏み込み足
5	基本指導法④	模擬授業 3 基本指導法①②③の反復 剣道具の装着（手拭い・面）
6	基本指導法⑤（しかけ技①）	模擬授業 4 基本指導法①②③④の反復 打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技
7	基本指導法⑥（しかけ技②）	模擬授業 5 基本指導法①②③④⑤の反復 払い技、引き技、出ばな技、
8	基本指導法⑦（応じ技①）	模擬授業 6 基本指導①②③④⑤⑥の反復 抜き技
9	基本指導法⑧（応じ技②）	模擬授業 7 基本指導①②③④⑤⑥⑦の反復 返し技
10	基本指導法⑨（応じ技③）	模擬授業 8 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 すり上げ技、打ち落とし技
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	模擬授業 9 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 切り返し、約束稽古、打ち込み稽古、掛かり稽古、互角稽古
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	模擬授業 10 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 試合・審判法① 8～10 名で構成するグループ 1 により、「試合稽古」を行う。終了後に、礼法、試合内容、有効打突、審判法についてディスカッションし検討する。

13	基本指導法⑫（総合演習指導法③）	模擬授業 11 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 試合・審判法② 3 名で構成するグループ 2 により、「審判」を行う。終了後に、審判法についてディスカッションし検討する。 基本技を中心とした実技試験を実施する。 剣道授業のまとめ
14	試験・解説	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし

ただし毎回の授業において資料を配布する。

【参考書】

剣道 社会体育教本 「改訂版」、全日本剣道連盟、全日本剣道連盟、2009.4.1

【成績評価の方法と基準】

- ①実技試験
- ②模擬授業評価
- ③授業への参加態度
- ①～③を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

剣道具、竹刀については学校で準備します。
手拭い、名札、小手下は学校から支給します。

【その他の重要事項】

実務経験～皇宮護衛官
警察で学んだ剣道経験を活かし学生にわかりやすく指導する。また、剣道本来の姿を模索しながら勝敗だけにこだわる剣道ではなく、礼法や相手を思いやる心を大切に授業を進めていく。

【Outline and objectives】

As the revision of Ministry of Education: Junior High School Government Course Guidelines, all the junior high students should complete martial arts after April 2012.
Based on what mentioned above, the purpose of this course is that: Comprehension of traditional idea of martial art(kendo) Getting able to do the practice, match, and judge Mastering the basic skills of offense and defense through hitting and receiving

HSS100IA

剣道指導論演習

古澤 伸晃

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012 年 4 月より中学校において全ての生徒に武道を履修させることとなった。そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは、自分自身が相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。

【到達目標】

履修者が、中学校・高等学校において武道（剣道）の授業を展開することのできる指導力、知識、技能を身に付けさせることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎・基本を大切にしながら実技を中心として授業を展開する。また、試合を実施するとともに審判法についても授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道）の概要	授業の展開、剣道の歴史
2	基本指導法①	礼法（正座・座礼・立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方、納め方、足さばき、素振り、掛け声、切り返し
3	基本指導法②	模擬授業 1 基本指導法①の反復 剣道具の装着（胴・垂れ・小手）
4	基本指導法③	模擬授業 2 基本指導法①②の反復 間合、踏み込み足
5	基本指導法④	模擬授業 3 基本指導法①②③の反復 剣道具の装着（手拭い・面）
6	基本指導法⑤（しかけ技①）	模擬授業 4 基本指導法①②③④の反復 打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技
7	基本指導法⑥（しかけ技②）	模擬授業 5 基本指導法①②③④⑤の反復 払い技、引き技、出ばな技、
8	基本指導法⑦（応じ技①）	模擬授業 6 基本指導①②③④⑤⑥の反復 抜き技
9	基本指導法⑧（応じ技②）	模擬授業 7 基本指導①②③④⑤⑥⑦の反復 返し技
10	基本指導法⑨（応じ技③）	模擬授業 8 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 すり上げ技、打ち落とし技
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	模擬授業 9 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 切り返し、約束稽古、打ち込み稽古、掛かり稽古、互角稽古
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	模擬授業 10 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 試合・審判法① 8～10 名で構成するグループ 1 により、「試合稽古」を行う。終了後に、礼法、試合内容、有効打突、審判法についてディスカッションし検討する。

13	基本指導法⑫（総合演習指導法③）	模擬授業 11 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 試合・審判法② 3 名で構成するグループ 2 により、「審判」を行う。終了後に、審判法についてディスカッションし検討する。 基本技を中心とした実技試験を実施する。 剣道授業のまとめ
14	試験・解説	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし

ただし毎回の授業において資料を配布する。

【参考書】

剣道 社会体育教本 「改訂版」、全日本剣道連盟、全日本剣道連盟、2009.4.1

【成績評価の方法と基準】

①実技試験

②模擬授業評価

③授業への参加態度

①～③を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

剣道具、竹刀については学校で準備します。

手拭い、名札、小手下は学校から支給します。

【その他の重要事項】

実務経験～皇宮護衛官

警察で学んだ剣道経験を活かし学生にわかりやすく指導する。また、剣道本来の姿を模索しながら勝敗だけにこだわる剣道ではなく、礼法や相手を思いやる心を大切に授業を進めていく。

【Outline and objectives】

As the revision of Ministry of Education: Junior High School Government Course Guidelines, all the junior high students should complete martial arts after April 2012.

Based on what mentioned above, the purpose of this course is that: Comprehension of traditional idea of martial art(kendo) Getting able to do the practice, match, and judge Mastering the basic skills of offense and defense through hitting and receiving

HSS200IA
器械運動実習

佐藤 彩乃

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
器械運動の種目であるマット運動・跳び箱運動における基礎的な技術習得する。
技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うためのコツ・ポイントを身に付ける。加えて、器械運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、器械運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】
器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感しつつ、教員採用試験の受験課題に合格するレベルの技能を習得し、かつ生徒を安全に指導できる基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の概要
器械運動の主要な2つの運動について実技学習する。
＜マット運動＞マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることを学習する。
＜跳び箱運動＞繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を学習する。
加えて、＜鉄棒運動＞の特性についても触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	「器械運動」の背景とその特性	これまでの器械運動の背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における器械運動の意義	体操競技と器械運動の違いを理解する
3	マット運動 接転系技群の基本技	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動 ほん転系技群の基本技	マット運動におけるほん転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動 技の組み合わせ 1	マット運動における技の組み合わせの方法と基本的な技の習得を目指す
6	マット運動 技の組み合わせ 2	マット運動における技の組み合わせの方法と発展的な技の習得を目指す
7	マット運動 接転系・ほん転系の知識・理解	これまで習得したマット運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
8	鉄棒運動 支持回転系・懸垂振動系の基本技と発展技	鉄棒運動における支持回転系の基本技と発展技の仕組みを理解する
9	跳び箱運動 繰り返し系の基本技	跳び箱運動における繰り返し系の基本技の習得を目指す
10	跳び箱運動 回転系の基本技 1	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す
11	跳び箱運動 繰り返し系・回転系の知識・理解	これまで習得した跳び箱運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	試験・まとめ（実技テスト）	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
倒立運動など、特に用具を使わなくとも可能な器械運動と類縁性のある（アナログン）運動体験を積極的に実践する。

【テキスト（教科書）】
文部科学省 動画サイト
<http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24>
【参考書】
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり,大修館書店,2008
金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱、平均台、鉄棒運動）,大修館書店,1984
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり,大修館書店,2009
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり,大修館書店,2009

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 70%, 試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価。加えて、随時設定した課題の達成度も評価の対象とする。
試験は実技テストとする。

【学生の意見等からの気づき】
学習者が各学習課題の技能を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This course will introduce basic knowledge about gymnastic skills, floor exercise and vaulting box.
The students will get to know gymnastic terminology, correct technique, and experience the fun and joy of performance.
Students will learn practical training for the methods of teaching skills.This course also provides skill building about safety on the floor.

HSS200IA

器械運動実習

佐藤 彩乃

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

器械運動の種目であるマット運動・跳び箱運動における基礎的な技術習得する。

技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うためのコツ・ポイントを身に付ける。加えて、器械運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、器械運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】

器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感しつつ、教員採用試験の受験課題に合格するレベルの技能を習得し、かつ生徒を安全に指導できる基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の概要

器械運動の主要な2つの運動について実技学習する。

＜マット運動＞マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることを学習する。

＜跳び箱運動＞繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を学習する。

加えて、＜鉄棒運動＞の特性についても触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「器械運動」の背景とその特性	これまでの器械運動の背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における器械運動の意義	体操競技と器械運動の違いを理解する
3	マット運動 接転系技群の基本技	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動 ほん転系技群の基本技	マット運動におけるほん転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動 技の組み合わせ 1	マット運動における技の組み合わせの方法と基本的な技の習得を目指す
6	マット運動 技の組み合わせ 2	マット運動における技の組み合わせの方法と発展的な技の習得を目指す
7	マット運動 接転系・ほん転系の知識・理解	これまで習得したマット運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
8	鉄棒運動 支持回転系・懸垂振動系の基本技と発展技	鉄棒運動における支持回転系の基本技と発展技の仕組みを理解する
9	跳び箱運動 繰り返し系の基本技	跳び箱運動における繰り返し系の基本技の習得を目指す
10	跳び箱運動 回転系の基本技 1	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す
11	跳び箱運動 繰り返し系・回転系の知識・理解	これまで習得した跳び箱運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	試験・まとめ（実技テスト）	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

倒立運動など、特に用具を使わなくとも可能な器械運動と類縁性のある（アナログ）運動体験を積極的に実践する。

【テキスト（教科書）】

文部科学省 動画サイト

<http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24>

【参考書】

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店,2008

金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱、平均台、鉄棒運動）, 大修館書店,1984

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店,2009

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店,2009

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%, 試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価。加えて、随時設定した課題の達成度も評価の対象とする。

試験は実技テストとする。

【学生の意見等からの気づき】

学習者が各学習課題の技能を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This course will introduce basic knowledge about gymnastic skills, floor exercise and vaulting box.

The students will get to know gymnastic terminology, correct technique, and experience the fun and joy of performance.

Students will learn practical training for the methods of teaching skills.This course also provides skill building about safety on the floor.

HSS200IA
器械運動指導論実習

佐藤 彩乃

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
器械運動の種目であるマット運動・跳び箱運動における基礎的な技術習得する。
技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うためのコツ・ポイントを身に付ける。加えて、器械運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、器械運動を行う上での安全面についても学習する。
【到達目標】
器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感しつつ、教員採用試験の受験課題に合格するレベルの技能を習得し、かつ生徒を安全に指導できる基礎を身に付けることを目標とする。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の概要
器械運動の主要な2つの運動について実技学習する。
＜マット運動＞マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることを学習する。
＜跳び箱運動＞繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を学習する。
加えて、＜鉄棒運動＞の特性についても触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	「器械運動」の背景とその特性	これまでの器械運動の背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における器械運動の意義	体操競技と器械運動の違いを理解する
3	マット運動 接転系技群の基本技	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動 ほん転系技群の基本技	マット運動におけるほん転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動 技の組み合わせ 1	マット運動における技の組み合わせの方法と基本的な技の習得を目指す
6	マット運動 技の組み合わせ 2	マット運動における技の組み合わせの方法と発展的な技の習得を目指す
7	マット運動 接転系・ほん転系の知識・理解	これまで習得したマット運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
8	鉄棒運動 支持回転系・懸垂振動系の基本技と発展技	鉄棒運動における支持回転系の基本技と発展技の仕組みを理解する
9	跳び箱運動 繰り返し系の基本技	跳び箱運動における繰り返し系の基本技の習得を目指す
10	跳び箱運動 回転系の基本技 1	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す
11	跳び箱運動 繰り返し系・回転系の知識・理解	これまで習得した跳び箱運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	試験・まとめ（実技テスト）	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
倒立運動など、特に用具を使わなくとも可能な器械運動と類縁性のある（アナログ）運動体験を積極的に実践する。

【テキスト（教科書）】
文部科学省 動画サイト
<http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24>
【参考書】
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり,大修館書店,2008
金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱、平均台、鉄棒運動）,大修館書店,1984
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり,大修館書店,2009
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり,大修館書店,2009
【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 70%, 試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価。加えて、随時設定した課題の達成度も評価の対象とする。
試験は実技テストとする。
【学生の意見等からの気づき】
学習者が各学習課題の技能を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。
【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具
【その他の重要事項】
特になし
【Outline and objectives】
This course will introduce basic knowledge about gymnastic skills, floor exercise and vaulting box.
The students will get to know gymnastic terminology, correct technique, and experience the fun and joy of performance.
Students will learn practical training for the methods of teaching skills.This course also provides skill building about safety on the floor.

HSS200IA

器械運動指導論実習

佐藤 彩乃

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

器械運動の種目であるマット運動・跳び箱運動における基礎的な技術習得する。

技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うためのコツ・ポイントを身に付ける。加えて、器械運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、器械運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】

器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感しつつ、教員採用試験の受験課題に合格するレベルの技能を習得し、かつ生徒を安全に指導できる基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の概要

器械運動の主要な2つの運動について実技学習する。

＜マット運動＞マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることを学習する。

＜跳び箱運動＞繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を学習する。

加えて、＜鉄棒運動＞の特性についても触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「器械運動」の背景とその特性	これまでの器械運動の背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における器械運動の意義	体操競技と器械運動の違いを理解する
3	マット運動 接転系技群の基本技	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動 ほん転系技群の基本技	マット運動におけるほん転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動 技の組み合わせ 1	マット運動における技の組み合わせの方法と基本的な技の習得を目指す
6	マット運動 技の組み合わせ 2	マット運動における技の組み合わせの方法と発展的な技の習得を目指す
7	マット運動 接転系・ほん転系の知識・理解	これまで習得したマット運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
8	鉄棒運動 支持回転系・懸垂振動系の基本技と発展技	鉄棒運動における支持回転系の基本技と発展技の仕組みを理解する
9	跳び箱運動 繰り返し系の基本技	跳び箱運動における繰り返し系の基本技の習得を目指す
10	跳び箱運動 回転系の基本技 1	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す
11	跳び箱運動 繰り返し系・回転系の知識・理解	これまで習得した跳び箱運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	試験・まとめ（実技テスト）	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

倒立運動など、特に用具を使わなくとも可能な器械運動と類縁性のある（アナログ）運動体験を積極的に実践する。

【テキスト（教科書）】

文部科学省 動画サイト

<http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24>

【参考書】

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり,大修館書店,2008

金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱、平均台、鉄棒運動）,大修館書店,1984

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり,大修館書店,2009

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり,大修館書店,2009

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%, 試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価。加えて、随時設定した課題の達成度も評価の対象とする。

試験は実技テストとする。

【学生の意見等からの気づき】

学習者が各学習課題の技能を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This course will introduce basic knowledge about gymnastic skills, floor exercise and vaulting box.

The students will get to know gymnastic terminology, correct technique, and experience the fun and joy of performance.

Students will learn practical training for the methods of teaching skills.This course also provides skill building about safety on the floor.

HSS200IA

器械運動指導論演習

小野田 桂子

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～年次／2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
器械運動のマット運動・跳び箱運動等における技能・知識・安全面を復習し、中学生・高校生を指導する際に必要な段階的な指導と安全な補助方法について、履修者が主体的に関わる演習形式を通して学習する。
【到達目標】
履修者が、中学校・高等学校において器械運動の体育授業を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付けることが到達目標である。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進めていく。また、グループワークによる協働的な演習を行う。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	基本学習 ①	マット運動 接転系技群の基本技
2	基本学習 ②	マット運動 ほん転系技群の基本技
3	基本学習 ③	跳び箱運動 切り返し系
4	基本学習 ④	跳び箱運動 回転系
5	基本学習 ⑤	鉄棒運動・平均台運動 理論学習
6	指導案計画作成	グループ分け・作成
7	指導案計画確認	指導計画・相談
8	模擬授業（マット運動 1）	「マット運動 接転系技群の基本技」の指導を中心とした模擬授業を行う。 終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。
9	模擬授業（マット運動 2）	「マット運動 ほん転系技群の基本技」の指導を中心とした模擬授業を行う。 終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。
10	模擬授業（跳び箱 1）	「跳び箱 切り返し系」の指導を中心とした模擬授業を行う。 終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。
11	模擬授業（跳び箱 2）	「跳び箱 回転系」の指導を中心とした模擬授業を行う。 終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。
12	模擬授業（鉄棒 1）	「鉄棒 支持系（前転）」の指導を中心とした模擬授業を行う。 終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。
13	模擬授業（鉄棒 2）	「鉄棒 支持系（後転）」の指導を中心とした模擬授業を行う。 終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。

14 模擬授業まとめ 模擬授業のまとめと振り返り
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
倒立運動など、特に用具を使わなくとも可能な器械運動と類縁性のある（アナログ）運動体験を積極的に実践する。
【テキスト（教科書）】
文部科学省 動画サイト
<http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24>
【参考書】
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店,2008
金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱, 平均台, 鉄棒運動）, 大修館書店,1984
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店,2009
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店,2009
【成績評価の方法と基準】
参加態度点 60 点、模擬授業点 20 点、模擬授業の振り返りレポート点 20 点
【学生の意見等からの気づき】
特になし
【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具
【その他の重要事項】
特になし
【Outline and objectives】
Students will actively participate in exercises with coaching and safety consideration of instrument movement.

HSS200IA

体づくり運動実習

新海 萌子

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体づくり運動には「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つの領域があり、前者は気付き・調整・交流の観点がねらいであり、後者は体力向上の行い方を知ることがねらいである。特に中学生・高校生を指導する際には運動をすることの楽しさを実感させることが基本になる。さらに、新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、本実習を通して、これらのねらいや行い方を理解するとともに、体づくり運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、体づくり運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】

新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、体づくり運動の様々なねらいに応じた動きや行い方を習得し、将来において指導できるようになるための基礎的な力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つのねらいを実施する。そのため、気付き・調整・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開する。自らの動きの世界を広げていくことで、「体づくり運動」の領域としての意義を考え、その必要性と役割を確認する。新学習指導要領の「体の動きを高める」も視野に入れて学習を進め、授業の最終段階では、一連の動きを構成し、作品づくりにも取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「体づくり運動」の背景とその特性	これまでの背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体づくり運動」の意義	学校体育における体づくり運動の特性を理解した上で、その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（１）・柔軟（静的ストレッチ）	気付く・調整するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（２）・柔軟（動的ストレッチ）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本・筋力（下肢）	テンポよくリズムカルに動くための基本を学ぶ
6	音楽に合わせた動きの発展・筋力（体幹）	様々な曲調の音楽に応じた体づくり運動の発展方法を学ぶ
7	手具を用いた動きの基本と発展（１）	体操ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（２）	G ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
9	手具を用いた動きの基本と発展（３）	縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（４）	輪を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（５）	布を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する発展的な能力を身につける
14	試験・まとめ	試験（各グループがこれまでにを行った運動を組み合わせ、発表を行う）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの生活に体づくり運動を採り入れ実践することを推奨する。

【テキスト（教科書）】

新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」「体育理論」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体づくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】

文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体づくり運動－授業の考え方と進め方－

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

In the National Curriculum Standards 'Gymnastics' has been renamed 'Exercise for Releasing Body and Mind'. It is comprised of two types of exercise which are 'Exercise for Physical Release' and 'Exercise for Physical Fitness'.

The purpose of this class is to understand the two Gymnastics's types and teaching methods.

Specifically, by using music, tools, and interacting with people, we will do activities to broaden the range of movement while enjoying.

HSS200IA

体づくり運動実習

新海 萌子

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体づくり運動には「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つの領域があり、前者は気付き・調整・交流の観点がねらいであり、後者は体力向上の行い方を知ることがねらいである。特に中学生・高校生を指導する際には運動をすることの楽しさを実感させることが基本になる。さらに、新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、本実習を通して、これらのねらいや行い方を理解するとともに、体づくり運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、体づくり運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】

新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、体づくり運動の様々なねらいに応じた動きや行い方を習得し、将来において指導できるようになるための基礎的な力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つのねらいを実施する。そのため、気付き・調整・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開する。自らの動きの世界を広げていくことで、「体づくり運動」の領域としての意義を考え、その必要性と役割を確認する。新学習指導要領の「体の動きを高める」も視野に入れて学習を進め、授業の最終段階では、一連の動きを構成し、作品づくりに取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「体づくり運動」の背景とその特性	これまでの背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体づくり運動」の意義	学校体育における体づくり運動の特性を理解した上で、その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（1）・柔軟（静的ストレッチ）	気付く・調整するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（2）・柔軟（動的ストレッチ）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本・筋力（下肢）	テンポよくリズムカルに動くための基本を学ぶ
6	音楽に合わせた動きの発展・筋力（体幹）	様々な曲調の音楽に応じた体づくり運動の発展方法を学ぶ
7	手具を用いた動きの基本と発展（1）	体操ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（2）	G ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
9	手具を用いた動きの基本と発展（3）	縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（4）	輪を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（5）	布を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する発展的な能力を身につける
14	試験・まとめ	試験（各グループがこれまでにを行った運動を組み合わせ、発表を行う）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの生活に体づくり運動を採り入れ実践することを推奨する。

【テキスト（教科書）】

新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」「体育理論」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体づくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】

文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体づくり運動－授業の考え方と進め方－

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

In the National Curriculum Standards 'Gymnastics' has been renamed 'Exercise for Releasing Body and Mind'. It is comprised of two types of exercise which are 'Exercise for Physical Release' and 'Exercise for Physical Fitness'.

The purpose of this class is to understand the two Gymnastics's types and teaching methods.

Specifically, by using music, tools, and interacting with people, we will do activities to broaden the range of movement while enjoying.

HSS200IA

体づくり運動指導論実習

新海 萌子

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体づくり運動には「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つの領域があり、前者は気付き・調整・交流の観点がねらいであり、後者は体力向上の行い方を知ることがねらいである。特に中学生・高校生を指導する際には運動をすることの楽しさを実感させることが基本になる。さらに、新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、本実習を通して、これらのねらいや行い方を理解するとともに、体づくり運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、体づくり運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】

新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、体づくり運動の様々なねらいに応じた動きや行い方を習得し、将来において指導できるようになるための基礎的な力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つのねらいを実施する。そのため、気付き・調整・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開する。自らの動きの世界を広げていくことで、「体づくり運動」の領域としての意義を考え、その必要性と役割を確認する。新学習指導要領の「体の動きを高める」も視野に入れて学習を進め、授業の最終段階では、一連の動きを構成し、作品づくりにも取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「体づくり運動」の背景とその特性	これまでの背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体づくり運動」の意義	学校体育における体づくり運動の特性を理解した上で、その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（1）・柔軟（静的ストレッチ）	気付く・調整するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（2）・柔軟（動的ストレッチ）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本・筋力（下肢）	テンポよくリズムカルに動くための基本を学ぶ
6	音楽に合わせた動きの発展・筋力（体幹）	様々な曲調の音楽に応じた体づくり運動の発展方法を学ぶ
7	手具を用いた動きの基本と発展（1）	体操ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（2）	G ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
9	手具を用いた動きの基本と発展（3）	縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（4）	輪を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（5）	布を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する発展的な能力を身につける
14	試験・まとめ	試験（各グループがこれまでにを行った運動を組み合わせ、発表を行う）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの生活に体づくり運動を採り入れ実践することを推奨する。

【テキスト（教科書）】

新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」「体育理論」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体づくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】

文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体づくり運動－授業の考え方と進め方－

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

In the National Curriculum Standards 'Gymnastics' has been renamed 'Exercise for Releasing Body and Mind'. It is comprised of two types of exercise which are 'Exercise for Physical Release' and 'Exercise for Physical Fitness'.

The purpose of this class is to understand the two Gymnastics's types and teaching methods.

Specifically, by using music, tools, and interacting with people, we will do activities to broaden the range of movement while enjoying.

HSS200IA

体づくり運動指導論実習

新海 萌子

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体づくり運動には「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つの領域があり、前者は気付き・調整・交流の観点がねらいであり、後者は体力向上の行い方を知ることがねらいである。特に中学生・高校生を指導する際には運動をすることの楽しさを実感させることが基本になる。さらに、新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、本実習を通して、これらのねらいや行い方を理解するとともに、体づくり運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、体づくり運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】

新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、体づくり運動の様々なねらいに応じた動きや行い方を習得し、将来において指導できるようになるための基礎的な力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つのねらいを実施する。そのため、気付き・調整・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開する。自らの動きの世界を広げていくことで、「体づくり運動」の領域としての意義を考え、その必要性と役割を確認する。新学習指導要領の「体の動きを高める」も視野に入れて学習を進め、授業の最終段階では、一連の動きを構成し、作品づくりにも取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「体づくり運動」の背景とその特性	これまでの背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体づくり運動」の意義	学校体育における体づくり運動の特性を理解した上で、その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（1）・柔軟（静的ストレッチ）	気付く・調整するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（2）・柔軟（動的ストレッチ）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本・筋力（下肢）	テンポよくリズムカルに動くための基本を学ぶ
6	音楽に合わせた動きの発展・筋力（体幹）	様々な曲調の音楽に応じた体づくり運動の発展方法を学ぶ
7	手具を用いた動きの基本と発展（1）	体操ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（2）	G ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
9	手具を用いた動きの基本と発展（3）	縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（4）	輪を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（5）	布を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する発展的な能力を身につける
14	試験・まとめ	試験（各グループがこれまでにを行った運動を組み合わせ、発表を行う）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの生活に体づくり運動を採り入れ実践することを推奨する。

【テキスト（教科書）】

新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」「体育理論」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体づくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】

文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体づくり運動－授業の考え方と進め方－

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

In the National Curriculum Standards 'Gymnastics' has been renamed 'Exercise for Releasing Body and Mind'. It is comprised of two types of exercise which are 'Exercise for Physical Release' and 'Exercise for Physical Fitness'.

The purpose of this class is to understand the two Gymnastics's types and teaching methods.

Specifically, by using music, tools, and interacting with people, we will do activities to broaden the range of movement while enjoying.

HSS200IA

体づくり運動指導論演習

小野田 桂子

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～年次／2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体づくり運動には「体はぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つの領域があり、前者は気付き・調整・交流の観点がねらいであり、後者は体力向上の行い方を知ることがねらいである。特に中学生・高校生を指導する際には運動をすることの楽しさを実感させることが基本になる。さらに、新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が体育授業において、生徒を体づくり運動に親しませることができるように、指導力を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

履修者が、中学校・高等学校において体づくり運動の体育授業を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付けることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることのできる模擬授業を中心に進めていく。また、グループワークによる協働的な演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基本学習 ①	グループコーディネーショントレーニング、柔軟
2	基本学習 ②	手具（長縄）を使用、柔軟
3	基本学習 ③	手具（輪）、筋力
4	基本学習 ④	手具（ボール）、筋力
5	基本学習 ⑤	音楽を使用、模倣運動
6	指導案計画作成	グループ分け・作成
7	指導案計画確認	指導計画・相談
8	模擬授業（グループコーディネーショントレーニング・柔軟）	「グループコーディネーショントレーニング・柔軟」の指導を中心とした模擬授業を行う。 終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
9	模擬授業（長縄・柔軟）	「長縄・柔軟」の指導を中心とした模擬授業を行う。 終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
10	模擬授業（輪・調整力）	「輪・調整力」の指導を中心とした模擬授業を行う。 終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
11	模擬授業（ボール・持久力）	「ボール・持久力」の指導を中心とした模擬授業を行う。 終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
12	模擬授業（音楽・瞬発力）	「音楽・瞬発力」の指導を中心とした模擬授業を行う。 終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
13	模擬授業（模倣運動・筋力）	「模倣運動・筋力」の指導を中心とした模擬授業を行う。 終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。

14 まとめ

模擬授業のまとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

模擬授業の指導案づくりに際する調べ学習等

【テキスト（教科書）】

新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」「体育理論」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体づくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】

文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体づくり運動－授業の考え方と進め方－

【成績評価の方法と基準】

参加態度点 60 点、模擬授業点 20 点、模擬授業の振り返りレポート点 20 点

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Students will actively participate in class for coaching and safety consideration of “Karadatukuri undou(Physical training exercises)”, “karada-hogushiundou(Physical relaxation exercises)”, “Tairyokuwotakameru-undou(strength improvement exercise)” , and “(karadanougokiwotakameruundou(exercise to enhance diverse movement)”.

HSS200IA

サッカー指導論実習

川田 尚弘

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3
旧うか科目名：サッカー指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を習得した上で、試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導が出来る人材を育成・養成する事を目的とする。

【到達目標】
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起っているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。この授業ではジュニア（U-12）からユース（U-18）までと女子の指導の基本を学ぶ。又、初心者から熟練者までレベルに応じた、技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識も身につける。この授業が中高教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティを上げられる授業になればうれしい。☆格言『学ぶことをやめたら、教えることをやめなくてはならない』
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	1、サッカーとは。サッカー選手の規律と態度について 2、日本サッカー協会のビジョン 3、競技規則とフェアプレー
2	基本技術の習得	1、キックの基本 2、ドリブルの基本 3、トラップの基本 4、ヘディングの基本
3	基本技術の習得	1、対敵での対応（個人） 2、対敵での対応（グループ）
4	コミュニケーションの重要性（実技）	オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールでのキーワードを知る ●コーチング・アイコンタクト・ボディーアクション
5	パス&サポート（実技）	スピード・タイミング・角度・距離の重要性を知る
6	ボール・ポゼッション（実技）	●グループでのボール保持の大切さを習得する ●攻守の切り替えの速さの大切さを知る
7	1、メディカルの知識（講義） 2、発育発達と一貫指導（講義）	●発育期のスポーツ障害・暑熱対策・救急措置法 ●栄養・休養・技術・戦術理論・コーチング理論 ●指導方法論
8	フィジカルの基本（リカバーと強化）	●リカバーリングの方法 ●フィジカル強化の方法（スプリント・ミドルパワー他）
9	スリーマンズ・コンビネーション（実技）	●オン・ザ・ボールでイニシアティブを取る ●3 人目の動き（オフ・ザ・ボールの動き）
10	スモールサイド・ゲーム（実技）	ボール・ポゼッションのキーワードを身に着ける（体の向き・ワンタッチコントロールなど）
11	ボールを奪う（個人・グループ）	アプローチ（インターセプト・ディレイ他）
12	ゴールを奪う（個人・グループ）	シュート・クロス・セカンドボール
13	戦術理論（講義）	個人・グループ・チームでのルール作成
14	基本の総合トレーニング I	指導の実践と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。（指導案の作成が出来るようにする）
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針～U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。
【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する
【参考書】
必要に応じて授業内で指示する
【成績評価の方法と基準】
指導テスト (70%)、実技テスト (30%) により評価する。
【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません
【学生が準備すべき機器他】
特に無し
【その他の重要事項】
特に無し

HSS200IA

サッカー実習

川田 尚弘

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を習得した上で、試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導が出来る人材を育成・養成する事を目的とする。

【到達目標】

(財)日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

サッカーの指導者は世界で今何が起きているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。この授業ではジュニア(U-12)からユース(U-18)までと女子の指導の基本を学ぶ。又、初心者から熟練者までレベルに応じた、技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識も身につける。この授業が中高教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティを広げられる授業になればうれしい。☆格言『学ぶことをやめたら、教えることをやめなくてはならない』

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	1、サッカーとは。サッカー選手の規律と態度について 2、日本サッカー協会のビジョン 3、競技規則とフェアプレー
2	基本技術の習得	1、キックの基本 2、ドリブルの基本 3、トラップの基本 4、ヘディングの基本
3	基本技術の習得	1、対敵での対応（個人） 2、対敵での対応（グループ）
4	コミュニケーションの重要性（実技）	オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールでのキーワードを知る ●コーチング・アイコンタクト・ボディーアクション
5	パス&サポート（実技）	スピード・タイミング・角度・距離の重要性を知る
6	ボール・ポゼッション（実技）	●グループでのボール保持の大切さを習得する ●攻守の切り替えの速さの大切さを知る
7	1、メディカルの知識（講義） 2、発育発達と一貫指導（講義）	●発育期のスポーツ障害・暑熱対策・救急措置法 ●栄養・休養・技術・戦術理論・コーチング理論 ●指導方法論
8	フィジカルの基本（リカバーと強化）	●リカバーリングの方法 ●フィジカル強化の方法（スプリント・ミドルパワー他）
9	スリーマンズ・コンビネーション（実技）	●オン・ザ・ボールでイニシアティブを取る ●3人目の動き（オフ・ザ・ボールの動き）
10	スモールサイド・ゲーム（実技）	ボール・ポゼッションのキーワードを身に着ける（体の向き・ワンタッチコントロールなど）
11	ボールを奪う（個人・グループ）	アプローチ（インターセプト・ディレイ他）
12	ゴールを奪う（個人・グループ）	シュート・クロス・セカンドボール
13	戦術理論（講義）	個人・グループ・チームでのルール作成
14	基本の総合トレーニング I	指導の実践と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)

① (財)日本サッカー協会 U-12 指導指針～U18 指導指針内容を理解しておく。

② (財)日本サッカー協会指導教本で予習する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する

【参考書】

必要に応じて授業内で指示する

【成績評価の方法と基準】

指導テスト (70%), 実技テスト (30%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特に無し

【その他の重要事項】

特に無し

HSS200IA

サッカー指導論演習

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3
旧うか科目名：サッカー指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、サッカーにおける基本的な理論と実践について学び、自ら指導を行うことによってそれらの理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、中高教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術を習得すること同時に試合の分析・評価ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

サッカーの指導者は世界で今何が起きているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。初心者から熟練者までのレベルに応じた、技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識を身につける。又、この授業ではジュニア (U-12) からユース (U-18) レベル (女子も含む) の選手に対しての指導の実践を行い、自身の指導レベルを確認する。この授業が中高の教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティを広げられる授業になればうれしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	年代別トレーニングの考え方 (講義)	●ジュニア (U-12)～ユース (U-18) までの特徴を学ぶ ●指導案の作成を学ぶ
2	①フィジカルトレーニング (実技) ②ワンタッチ・コントロール (実技)	①ボールを使ったトレーニングとボールを使わないトレーニング ②ボール・フィーリング
3	指導の実践 (テーマ：ワンタッチ・コントロール、ボールフィーリング)	学生が3名 (監督1名、コーチ2名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。
4	①キック (実技) ②ヘディング (実技) ③リ・スタート (実技)	●シュート・パス・クリアの技術の習得 ●フリーキック・コーナーキック・スローイン
5	指導の実践 (テーマ：リ・スタート)(実技)	学生が3名 (監督1名、コーチ2名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。(フリーキック・コーナーキック・スローイン) ☆得点の3割以上を占めるリスタートの重要性を知る。
6	アタック&ディフェンス (実技)	ゲーム・フリース
7	個人戦術 I	1対1のオフェンスおよびディフェンスの原則について理解する
8	グループ戦術	コミュニケーション (アイコンタクト・コーチング・ボディークション)、複数でのボールや人、スペースへの関わり方を理解する
9	チーム戦術	チームとしてゲームをどう運ぶか、特にサポートの重要性や判断・決断の速さについて理解を深める
10	チーム戦術とゲーム I	守備についてフォーカスし、組織としてどう守るかについて考えていく
11	チーム戦術とゲーム II	攻撃にフォーカスし、チームとしてどう攻めるか、相手の状況によってどう崩していくかについて考えていく
12	指導実践 I	学生が3名 (監督1名、コーチ2名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う
13	指導実践 II	学生が3名 (監督1名、コーチ2名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う

14 指導実践Ⅲ

学生が3名 (監督1名、コーチ2名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)

- ① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針～U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。

【テキスト（教科書）】

(財) 日本サッカー協会公認指導者養成テキスト

【参考書】

・日本代表コーチ・J クラブ監督・日本代表ユース時代のトレーニングノート
・サッカーのコーディネーショントレーニング (大修館書店)
・サッカー指導教本 2012 (J F A 公認 C 級コーチ) (公) 日本サッカー協会

【成績評価の方法と基準】

指導実践 (60%)、レポート (40%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

指導実践の充実 (受講者全員に指導の実践を体験させる)

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

ピッチ上でオーガナイズが出来るように導く

【Outline and objectives】

This course is to learn about the practice and theory of football. Students will be able to understand how they conduct coaching of football.

HSS200IA

バドミントン指導論実習

升 佑二郎

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

旧うか科目名：バドミントン指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してこれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術論を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、ノック技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる技術能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	基本技術	グリップと技術習得
2	基本技術	ラケットテクニックの技術習得
3	基本ストローク	ドライブ
4	基本ストローク	ハイクリア&ヘアピン
5	基本ストローク	ドロップ&ロビング
6	基本ストローク	プッシュ&レシーブ
7	基本ストローク	スマッシュ&レシーブ
8	基本技術 応用編	オールロング
9	基本技術 応用編	オールショート
10	シングルス	フットワーク
11	シングルス	ゲーム組立
12	ダブルス	フォーメーション
13	ダブルス	組立
14	実技試験とまとめ	試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業の復習

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017 年

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40%）、授業への参加度（20%）、技術習得および指導法の実技試験（40%）により評価する

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

【その他の重要事項】

秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会上級バドミントンコーチの資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】

Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton, and become able to teach this sport.

HSS200IA

バドミントン実習

升 佑二郎

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してこれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術論を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、ノック技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる技術能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	基本技術	グリップと技術習得
2	基本技術	ラケットテクニックの技術習得
3	基本ストローク	ドライブ
4	基本ストローク	ハイクリア&ヘアピン
5	基本ストローク	ドロップ&ロビング
6	基本ストローク	プッシュ&レシーブ
7	基本ストローク	スマッシュ&レシーブ
8	基本技術 応用編	オールロング
9	基本技術 応用編	オールショート
10	シングルス	フットワーク
11	シングルス	ゲーム組立
12	ダブルス	フォーメーション
13	ダブルス	組立
14	実技試験とまとめ	試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業の復習

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017 年

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40%）、授業への参加度（20%）、技術習得および指導法の実技試験（40%）により評価する

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

【その他の重要事項】

秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会上級バドミントンコーチの資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】

Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton, and become able to teach this sport.

HSS200IA

バドミントン指導論演習

升 佑二郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2
旧うか科目名：バドミントン指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してこれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

バドミントンの歴史、競技規則、基礎技術論を資料を参考に学ぶ。
バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、フィーディング技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	バドミントン概論
2	バドミントン技術論	講義と実技 「基本ストローク」
3	バドミントン技術論	講義と実技 「コースを打ち分ける」
4	バドミントン技術論	講義と実技 「フットワーク」
5	バドミントン競技指導	講義と実技 「ジュニア編」
6	バドミントン競技指導	講義と実技 「シニア編」
7	バドミントン・トレーニング論	講義と実技 「導入編」
8	バドミントン・トレーニング論	講義と実技 「応用編」
9	バドミントン・コーチ論	講義と実技
10	バドミントン戦術の指導と事例の研究	講義と実技
11	バドミントン競技規則	講義と実技
12	バドミントンゲームの分析	講義と実技 「シングルス」
13	バドミントンゲームの分析	講義と実技 「ダブルス」
14	理論及び技術習得試験とまとめ	試験と授業振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業の復習

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017 年

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40%）、授業への参加度（20%）、技術習得および指導法の実技試験（40%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

【その他の重要事項】

春学期科目のバドミントン実習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会上級バドミントンコーチの資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】

Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton, and become able to teach this sport.

HSS200IA

バレーボール指導論実習

山田 稔

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3
旧うか科目名：バレーボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バレーボールの基礎理論及び技能、指導方法について中学校・高等学校学習指導要領を基に学ぶ。
バレーボールの指導を行う上で必要な歴史、技術の名称、ルールや試合の行い方、作戦や戦術、技能の動作原理や指導法、練習方法について理解するとともに指導に必要な技能を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

【技能】

状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開できるようにする。

【態度】

バレーボールに主体的に取り組み、自己の役割に責任を持ち、的確に果たすことや、健康・安全を確保できるようにする。

【知識、思考・判断】

バレーボールの歴史の変遷、技術の名称、技術の構造や動作原理、体力の高め方、試合の仕方、作戦や戦術等を理解し、自己やチームの課題に応じた目標設定や課題解決の方法、戦術を考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・到達目標に示した技能を身に付けるため、ボール操作などの基本練習を行う。
- ・チーム内での学生同士の学び合いを中心として講義を進める。
- ・指導のコツやポイントを受講者の指導現場で言語化できるよう、受講者間の言語能力の向上を目指す。
- ・バレーボールの指導に必要な知識を講義やワークシート、課題レポートを通して習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 基本技術の練習（パス、レシーブ）	授業の概要と目的、到達目標、評価と その方法について説明する。 自己紹介、グループ分け、係分担の 決定。 基本技術（パス、レシーブ）の練習。
2	バレーボールの歴史の変遷について 基本技術の練習（サーブ） 簡易ゲーム（4 対 4）	バレーボールの歴史の変遷について説 明する。 サーブでは、ボールに変化をつけて 打つこと方法を理解する。 相手コートの守備のいない空間に緩急 をつけて打ち返す方法についてグルー プで考える。
3	基本技術の練習（ディグ） 簡易ゲーム（4 対 4）	1 対 1 や 2 対 2 でディグ練習を行う。 その際、ボールに回転をかけて打ち出 したり、回転に合わせて返球したりす ることができるようにする。 移動を伴うつなぎのボールに対応し て、攻撃につなげるためのトスを上げ ることについてできるようにする。
4	基本技術の練習（スパイク） ゲーム（6 対 6）	ボールをコントロールして、ネットよ り高い位置から相手側のコートに打ち 込むことができるようにする。 移動を伴うつなぎのボールに対応し て、攻撃につなげるためのトスを上げ ることができるようにする。
5	基本技術の練習（レセプション） ゲーム（6 対 6）	変化のあるサーブに対応して、面を合 わせてレセプションすることができる ようにする。 基本的なルールについて理解できるよ うにする。

6	基本技術の練習（ブロック） ゲーム（6 対 6） 課題レポート①の説明	仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができるようになる。 チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができるようになる。 課題レポート①の説明を行う。
7	実技試験①（基本技能の試験） 複合の練習（3 対 3） ゲーム（6 対 6） 課題レポート①の提出	評価規準に基づき、技能評価を行う。 状況に応じたボール操作と仲間と連携した動きができるようになる。ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることを理解できるようにする。 課題レポート①の提出を行う。
8	チームの課題解決のための練習 リーグ戦①	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動けるようにする。
9	チームの課題解決のための練習 リーグ戦②	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に攻撃面）仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きができるようになる。
10	チームの課題解決のための練習 リーグ戦③	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）ラリーの中で、相手の攻撃の変化や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができるようにする。
11	チームの課題解決のための練習 リーグ戦④ 課題レポート②の説明	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができるようにする。 課題レポート②の説明を行う。
12	実技試験②（チーム内における連携技能の習得状況を評価する） リーグ戦⑤ 課題レポート②の提出	評価規準に基づき、技能評価を行う。 リーグ戦を行う。 課題レポート②の提出を行う。
13	チームの課題解決のための練習 リーグ戦⑥	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に攻撃面）仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きができるようになる。
14	チームの課題解決のための練習 リーグ戦⑦ 本講義のふり振り返りレポートの作成	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）ラリーの中で、相手の攻撃の変化や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができるようにする。 本講義のふり振り返りレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎時間の授業に対する取組状況と復習について毎時レポートを提出する。
- ・講義中に課題レポートを 2 回提出するため、期日を厳守して提出すること。
- ・講義中に実技試験を 2 回行うため、技能の定着を図っておくこと。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）平成 29 年 7 月
高等学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）平成 30 年 7 月

【参考書】

特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

【成績評価の方法と基準】

バレーボールの基本技能 実技試験 5 0 %
授業中の活動に対する参画状況 1 5 %
授業への積極的な貢献度 1 5 %
課題レポート及び毎回の授業レポート 2 0 %
この成績評価は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義の学生からの評価はおおむね良い状況であった。
教職免許の取得を希望する履修者にとっては、学習指導要領に基づき発達段階に応じた系統的な指導方法について理解する場となるよう指導することが必要である。
教職免許の取得を希望しない履修者にとっては、学習指導要領に基づいた指導を行うことにより、将来スポーツ指導に関わる場合や職場のスポーツリーダーとして、役立つ知識や指導方法を理解する場となるよう指導することが必要である。

【その他の重要事項】

本講義は、中学校及び高等学校学習指導要領保健体育編に準じて、バレーボールの「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を発達段階に応じて系統的に学ぶ講義である。本講義及び秋に開講される『バレーボール指導論演習』を一体として受講することを前提として内容が設定されていることを理解した上で履修すること。単なるバレーボールのゲームを中心とした講義ではないことを理解して履修すること。将来、保健体育科教員として、またスポーツリーダーとなることを希望する学生が履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Learn the basic theory and skills of volleyball and teaching method based on the guidelines for teaching of junior high school and high school.

To understand the history, the name of the technology, the way of rules and games, the strategy and tactics, the principle of operation and teaching method of skills, the practice method and acquire skills necessary for instruction as necessary for teaching volleyball

HSS200IA

バレーボール実習

山田 稔

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バレーボールの基礎理論及び技能、指導方法について中学校・高等学校学習指導要領を基に学ぶ。

バレーボールの指導を行う上で必要な歴史、技術の名称、ルールや試合の行い方、作戦や戦術、技能の動作原理や指導法、練習方法について理解するとともに指導に必要な技能を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

【技能】

状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開できるようにする。

【態度】

バレーボールに主体的に取り組み、自己の役割に責任を持ち、的確に果たすことや、健康・安全を確保できるようにする。

【知識、思考・判断】

バレーボールの歴史の変遷、技術の名称、技術の構造や動作原理、体力の高め方、試合の仕方、作戦や戦術等を理解し、自己やチームの課題に応じた目標設定や課題解決の方法、戦術を考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・到達目標に示した技能を身に付けるため、ボール操作などの基本練習を行う。
- ・チーム内での学生同士の学び合いを中心として講義を進める。
- ・指導のコツやポイントを受講者の指導現場で言語化できるよう、受講者間の言語能力の向上を目指す。
- ・バレーボールの指導に必要な知識を講義やワークシート、課題レポートを通して習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 基本技術の練習（パス、レシーブ）	授業の概要と目的、到達目標、評価と その方法について説明する。 自己紹介、グループ分け、係分担の 決定。
2	バレーボールの歴史の変遷について 基本技術の練習（サーブ） 簡易ゲーム（4 対 4）	基本技術（パス、レシーブ）の練習。 バレーボールの歴史の変遷について説 明する。 サーブでは、ボールに変化をつけて 打つこと方法を理解する。 相手コートの守備のいない空間に緩急 をつけて打ち返す方法についてグルー プで考える。
3	基本技術の練習（ディグ） 簡易ゲーム（4 対 4）	1 対 1 や 2 対 2 でディグ練習を行う。 その際、ボールに回転をかけて打ち出 したり、回転に合わせて返球したりす ることができるようにする。 移動を伴うつなぎのボールに対応し て、攻撃につなげるためのトスを上げ ることについてできるようにする。
4	基本技術の練習（スパイク） ゲーム（6 対 6）	ボールをコントロールして、ネットよ り高い位置から相手側のコートに打ち 込むことができるようにする。 移動を伴うつなぎのボールに対応し て、攻撃につなげるためのトスを上げ ることができるようにする。
5	基本技術の練習（レセプション） ゲーム（6 対 6）	変化のあるサーブに対応して、面を合 わせてレセプションすることができる ようにする。 基本的なルールについて理解できるよ うにする。

6	基本技術の練習（ブロック） ゲーム（6 対 6） 課題レポート①の説明	仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができるようになる。 チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができるようになる。 課題レポート①の説明を行う。
7	実技試験①（基本技能の試験） 複合の練習（3 対 3） ゲーム（6 対 6） 課題レポート①の提出	評価規準に基づき、技能評価を行う。 状況に応じたボール操作と仲間と連携した動きができるようになる。ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることを理解できるようにする。 課題レポート①の提出を行う。
8	チームの課題解決のための練習 リーグ戦①	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動けるようにする。
9	チームの課題解決のための練習 リーグ戦②	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に攻撃面）仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きができるようになる。
10	チームの課題解決のための練習 リーグ戦③	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）ラリーの中で、相手の攻撃の変化や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができるようにする。
11	チームの課題解決のための練習 リーグ戦④ 課題レポート②の説明	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができるようにする。 課題レポート②の説明を行う。
12	実技試験②（チーム内における連携技能の習得状況を評価する） リーグ戦⑤ 課題レポート②の提出	評価規準に基づき、技能評価を行う。 リーグ戦を行う。 課題レポート②の提出を行う。
13	チームの課題解決のための練習 リーグ戦⑥	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に攻撃面）仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きができるようになる。
14	チームの課題解決のための練習 リーグ戦⑦ 本講義のふり振り返りレポートの作成	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）ラリーの中で、相手の攻撃の変化や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができるようにする。 本講義のふり振り返りレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎時間の授業に対する取組状況と復習について毎時レポートを提出する。
- ・講義中に課題レポートを 2 回提出するため、期日を厳守して提出すること。
- ・講義中に実技試験を 2 回行うため、技能の定着を図っておくこと。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）平成 29 年 7 月
高等学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）平成 30 年 7 月

【参考書】

特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

【成績評価の方法と基準】

バレーボールの基本技能 実技試験 5 0 %
授業中の活動に対する参画状況 1 5 %
授業への積極的な貢献度 1 5 %
課題レポート及び毎回の授業レポート 2 0 %
この成績評価は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義の学生からの評価はおおむね良い状況であった。
教職免許の取得を希望する履修者にとっては、学習指導要領に基づき発達段階に応じた系統的な指導方法について理解する場となるよう指導することが必要である。
教職免許の取得を希望しない履修者にとっては、学習指導要領に基づいた指導を行うことにより、将来スポーツ指導に関わる場合や職場のスポーツリーダーとして、役立つ知識や指導方法を理解する場となるよう指導することが必要である。

【その他の重要事項】

本講義は、中学校及び高等学校学習指導要領保健体育編に準じて、バレーボールの「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を発達段階に応じて系統的に学ぶ講義である。本講義及び秋に開講される『バレーボール指導論演習』を一体として受講することを前提として内容が設定されていることを理解した上で履修すること。単なるバレーボールのゲームを中心とした講義ではないことを理解して履修すること。将来、保健体育科教員として、またスポーツリーダーとなることを希望する学生が履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Learn the basic theory and skills of volleyball and teaching method based on the guidelines for teaching of junior high school and high school.

To understand the history, the name of the technology, the way of rules and games, the strategy and tactics, the principle of operation and teaching method of skills, the practice method and acquire skills necessary for instruction as necessary for teaching volleyball

HSS200IA

バレーボール指導論演習

山田 稔

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
 曜日・時限：火 3/Tue.3
 旧うか科目名：バレーボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習活動を中心に、教員からの講義（評価）を受け、自らの課題を把握し、これからの授業づくりに役立つようにする。
 教員として必要な、学習指導力、生徒指導力等の現状を確認し、自己の目指す教師像を明確にする。

【到達目標】

- ・教職免許を取得する学生は、これまで学んだ教職に関する基礎科目や自らの学習経験をもとに、自身の教員としての資質能力を確認し、課題を自己発見することができるようにする。
- ・教職免許を取得しない学生は、模擬授業を通して、人に指導することの難しさを知ることやリーダーシップの発揮の仕方、計画づくりや評価の大切さについて学び、自らの課題を自己発見することができるようにする。
- ・グループでの共同研究に参画し、自らの役割を的確に果たし、他者の意見を取り入れながら、より良い授業づくりに貢献することができるようにする。また、授業を受けた学生からの多様な意見を受け止め、自らの授業を的確に省察できる力をつけることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・グループ単位で、バレーボールの学習指導案を作成し模擬授業を行う。
- ・模擬授業の省察を行い、より良い授業づくりのための課題把握と改善方法を考え、次の時間に発表する。
- ・模擬授業のふり返りプレゼンテーションを作成して発表する。
- ・模擬授業を受ける側は、毎時模擬授業のふり返りレポートを作成し提出する。
- ・模擬授業終了後には、ふり返りのためのディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（講義室） 指導案の作成について① 指導案の検討①	・講義の概要と目的、到達目標、評価とその方法、講義の概要について説明する。 ・自己紹介、グループ分け、係分担の決定 ・指導案の作成方法について理解する。 ・グループごとに分かれ、模擬授業の指導計画を考える。
2	指導案の作成について②（講義室） 指導案の検討②	・指導案の作成について、履修者の質問に教員が答える。 ・グループごとに分かれ、模擬授業の指導計画を考える。
3	模擬授業①（体育館）	対象：中学校 1 学年 本時の目標：「ボールの操作」 相手側のコートの空いた場所にボールを返すことができるようにする。
4	模擬授業②（体育館）	対象：中学校 1 学年 本時の目標：「定位置に戻るなどの動き」 プレイを開始するときは、各ポジションごとの定位置に戻るができるようにする。
5	模擬授業③（体育館）	対象：中学校 2 学年 本時の目標：「ボールの操作」 テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むことができるようにする。
6	模擬授業④（体育館）	対象：中学校 2 学年 本時の目標：「定位置に戻るなどの動き」 ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対することができるようにする。

7	模擬授業⑤（体育館）	対象：中学校 3 学年 本時の目標：「連携した動き」 連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くことができるようにする。
8	前半グループの省察内容の発表（講義室） 課題レポートの提出について	模擬授業を終えたグループが省察を踏まえた、振り返りをプレゼンテーションで発表する。それを受け、履修者間の意見交換を行う。 省察内容 ・指導計画について ・教師行動について ・生徒の意欲の向上について ・技能の習得と定着について ・主体的・対話的で、深い学びの実現について ・体力の向上について ・知識の習得について 課題レポートの内容と提出についての説明を行う。
9	模擬授業⑥（体育館）	対象：高等学校 1 学年 本時の目標：「役割に応じたボール操作」 攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができるようにする。
10	模擬授業⑦（体育館） 課題レポートの提出	対象：高等学校 1 学年 本時の目標：「連携した動き」 ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができるようにする。 課題レポートの提出を行う
11	模擬授業⑧（体育館）	対象：高等学校 2 学年 本時の目標：「状況に応じたボール操作」 変化のあるサーブに対応して、攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にトスを上げることができるようにする。
12	模擬授業⑨（体育館）	対象：高等学校 2 学年 本時の目標：「連携した動き」 ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができるようにする。
13	模擬授業⑩（体育館）	対象：高等学校 3 学年 本時の目標：「状況に応じたボール操作」 チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができるようにする。
14	後半グループの省察内容の発表（講義室） 本講義のまとめ	模擬授業を終えたグループが省察を踏まえた、振り返りをプレゼンテーションで発表する。それを受け、履修者間の意見交換を行う。 省察内容は 8 限目に準じる 本講義をふり返り、学びの内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・模擬授業の実践へ向けての学習指導案作成を行う。
- ・模擬授業を受けた側の学生のふり返りレポートをもとに省察を行い、次時にふり返りの発表を行う準備をする。
- ・模擬授業の省察を行いプレゼン資料を作成し、履修者に向け発表する準備を行う。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）平成 29 年 7 月
 高等学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）平成 30 年 7 月

【参考書】

特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

【成績評価の方法と基準】

バレーボール学習指導案及び省察のまとめ（プレゼン発表） 4 0 %
 模擬授業の内容（グループとしての評価） 2 0 %
 授業への積極的な貢献度 2 0 %
 課題レポート及び授業レポート 2 0 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度の講義については学生よりおおむね良い評価をもらうことができた。しかし、課題はまだ多くある。教職を目指す学生にとっては、模擬授業のねらいに即した授業が確実にできるよう授業マネジメントや教授方法について丁寧に指導していく必要がある。教職を取らない学生にとっても有意義な講義となるよう、指導講評の中にリーダーシップの重要性や運動・スポーツと健康の繋がりが、生きる術を学ぶ保健体育の授業であることについて理解させたり体験する中で、将来社会に出て役立つ講義内容にしていかなければならない。

【その他の重要事項】

バレーボール実習では、バレーボール基礎理論及び技術の習得及びバレーボールの指導方法について、学習指導要領を基に丁寧に指導していく。したがって、バレーボール実習とバレーボール指導論演習を同時に履修することにより深い学びが実現すると考える。両方の講義を履修すること原則とすることを求めたい。

【Outline and objectives】

Mainly on exercise activities, receive lectures (evaluations) from faculty members, grasp their problems and make them useful for future class creation.

Confirm the present conditions of learning leadership skills, student leadership skills, etc. necessary for faculty members, and clarify the teacher image he / she wants.

HSS200IA

テニス実習

植村 直己

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、履修者が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。

また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】

履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。

- ① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
- ② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
- ③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サーブの基本動作を学び、応用技術として各ショットの連続プレーを練習する。
- ② 段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
- ③ 応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。
- ④ 将来、初心者、初級者を指導するための、テニスの楽しさを伝えられる様な指導法を自分なりに構築できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本 6 ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク（両手打ち・片手打ち）	グリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グラウンドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	スマッシュ、サーブの指導法	スマッシュ、サーブ段階的指導法の実践
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	ダブルス指導法	試合の進め方、スコアの数え方、試合形式
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。

実技の前日は体調を整えるように心がける。

毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。

テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界について学習する。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】

「新版テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「テニスクラシック」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】

本授業は講義、実技併用型の授業であるため、授業への参画姿勢等の平常点（70 %）ならびに授業内容の理解度、実技の上達度（30 %）を対象として総合的に評価する。

この評価は原則的なものであり、健康状態等による見学者については個別に対応、評価する。

なお、遅刻 3 回は 1 回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが臨ましい。

【Outline and objectives】

In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for beginners.

In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes, etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

テニス実習

植村 直己

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、履修者が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。

また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】

履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。

- ① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
- ② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
- ③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サーブの基本動作を学び、応用技術として各ショットの連続プレーを練習する。
- ② 段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
- ③ 応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。
- ④ 将来、初心者、初級者を指導するための、テニスの楽しさを伝えられる様な指導法を自分なりに構築できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本 6 ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク（両手打ち・片手打ち）	グリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グラウンドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	スマッシュ、サーブの指導法	スマッシュ、サーブ段階的指導法の実践
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	ダブルス指導法	試合の進め方、スコアの数え方、試合形式
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。

実技の前日は体調を整えるように心がける。

毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。

テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界について学習する。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】

「新版テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「テニスクラシック」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】

本授業は講義、実技併用型の授業であるため、授業への参画姿勢等の平常点（70 %）ならびに授業内容の理解度、実技の上達度（30 %）を対象として総合的に評価する。

この評価は原則的なものであり、健康状態等による見学者については個別に対応、評価する。

なお、遅刻 3 回は 1 回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが臨ましい。

【Outline and objectives】

In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for beginners.

In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes, etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

テニス指導論実習

植村 直己

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

旧うか科目名：テニス指導論（実習）[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、履修者が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。

また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】

履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。

- ① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
- ② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
- ③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サーブの基本動作を学び、応用技術として各ショットの連続プレーを練習する。
- ②段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
- ③応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。
- ④将来、初心者、初級者を指導するための、テニスの楽しさを伝えられる様な指導法を自分なりに構築できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本 6 ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク（両手打ち・片手打ち）	グリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グランドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	スマッシュ、サーブの指導法	スマッシュ、サーブ段階的指導法の実践
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	ダブルス指導法	試合の進め方、スコアの数え方、試合形式
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。

実技の前日は体調を整えるように心がける。

毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。

テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界について学習する。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】

「新版テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「テニスクラシック」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】

本授業は講義、実技併用型の授業であるため、授業への参画姿勢等の平常点（70 %）ならびに授業内容の理解度、実技の上達度（30 %）を対象として総合的に評価する。

この評価は原則的なものであり、健康状態等による見学者については個別に対応、評価する。

なお、遅刻 3 回は 1 回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for beginners.

In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes, etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

テニス指導論実習

植村 直己

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

旧うか科目名：テニス指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、履修者が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。

また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】

履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。

- ① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
- ② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
- ③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サーブの基本動作を学び、応用技術として各ショットの連続プレーを練習する。
- ②段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
- ③応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。
- ④将来、初心者、初級者を指導するための、テニスの楽しさを伝えられる様な指導法を自分なりに構築できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本 6 ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク（両手打ち・片手打ち）	グリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グランドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	スマッシュ、サーブの指導法	スマッシュ、サーブ段階的指導法の実践
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	ダブルス指導法	試合の進め方、スコアの数え方、試合形式
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。

実技の前日は体調を整えるように心がける。

毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。

テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界について学習する。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】

「新版テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「テニスクラシック」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】

本授業は講義、実技併用型の授業であるため、授業への参画姿勢等の平常点（70 %）ならびに授業内容の理解度、実技の上達度（30 %）を対象として総合的に評価する。

この評価は原則的なものであり、健康状態等による見学者については個別に対応、評価する。

なお、遅刻 3 回は 1 回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for beginners.

In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes, etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

テニス指導論演習

植村 直己

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

旧うか科目名：テニス指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、履修者が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。

また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】

履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。

- ① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
- ② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
- ③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サーブの基本動作を学び、応用技術として各ショットの連続プレーを練習する。
- ② 段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
- ③ 応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。
- ④ 将来、初心者、初級者を指導するための、テニスの楽しさを伝えられる様な指導法を自分なりに構築できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本 6 ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク（両手打ち・片手打ち）	グリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グラウンドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	スマッシュ、サーブの指導法	スマッシュ、サーブの段階的指導法の実践
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターン基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	ダブルス指導法	試合の進め方、スコアの数え方、試合形式
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルス応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。

実技の前日は体調を整えるように心がける。

毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。

テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界の事を学習する。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】

「新版テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」（日本テニス協会）

「テニスマガジン」「テニスクラシック」「スマッシュ」等月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】

本授業は講義、実技併用型の授業であるため、授業への参画姿勢等の平常点（70 %）ならびに授業内容の理解度、実技の上達度（30 %）を対象として総合的に評価する。

この評価は原則的なものであり、健康状態による見学者等については個別に対応、評価する。

なお、遅刻 3 回は 1 回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

春学期科目のテニス実習を併せて履修することが臨ましい。

【Outline and objectives】

In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for beginners.

In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes, etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

ソフトボール指導論実習

大田 穂

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

旧うか科目名：ベースボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソフトボールにおける「投・捕・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につけることを目的とする。

【到達目標】

中学校や高等学校の体育教員または地域スポーツ指導者として、ソフトボールを指導するために必要な「投・捕・打・走」の基本的技術を身につける。また、ルールや戦術、安全面への配慮など、指導の際に必要な知識や留意事項等も学習し、正しく安全に指導できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的技術を習得するため、屋外での実技を基本とする。ただし、ルールや戦術などの基本的知識を学習する場合には、室内での講義も実施する。また、天候等による急な変更もあり得る。
屋外での実技授業の場合にはグループでの学習シートの提出、室内での講義授業の場合には個人でのリアクションペーパーの提出を必須とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容および留意事項の説明
第 2 回	投球の基本的技術	ボール慣れ・オーバーハンドスロー
第 3 回	グラブ操作の基本的技術	グラブ操作・キャッチボール
第 4 回	捕球の基本的技術①	フライ捕球
第 5 回	捕球の基本的技術②	ゴロ捕球
第 6 回	打撃・犠打の基本的技術	ティーバッティング・トスバッティング・送りバント
第 7 回	投手の基本的技術	ウインドミル投法
第 8 回	走塁の基本的技術	ベースランニング
第 9 回	ノックの基本的技術	内野手および外野手へのノック
第 10 回	ソフトボールの基本的ルール	ソフトボールと野球のルールの違い
第 11 回	ソフトボールの基本的な技術の指導	各基本的技術を指導する際の留意点
第 12 回	ミニ試合	特別ルールを用いての試合
第 13 回	試合	これまでに学習および習得したルールと基本的技術を用いての試合
第 14 回	学期末まとめと試験	まとめ・春学期の理解度テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし。

第 2～13 回：前回授業の復習と次回授業の予習（提出課題等）。

第 14 回：春学期の総合的な復習。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

「ソフトボール指導教本」日本ソフトボール協会

「中学校学習指導要領」

「中学校学習指導要領解説（保健体育）」

その他は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30％）・授業時の課題提出（20％）・テスト（50％）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際などの話をするスピードが速いので、ゆっくりと話すように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通して履修すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge needed to coaching softball.

It also enhances basic skills of “throwing, catching, hitting, running” and knowledge of rules and safety in softball.

HSS200IA

ソフトボール実習

大田 穂

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソフトボールにおける「投・捕・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につけることを目的とする。

【到達目標】

中学校や高等学校の体育教員または地域スポーツ指導者として、ソフトボールを指導するために必要な「投・捕・打・走」の基本的技術を身につける。また、ルールや戦術、安全面への配慮など、指導の際に必要な知識や留意事項等も学習し、正しく安全に指導できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的技術を習得するため、屋外での実技を基本とする。ただし、ルールや戦術などの基本的知識を学習する場合には、室内での講義も実施する。また、天候等による急な変更もあり得る。屋外での実技授業の場合にはグループでの学習シートの提出、室内での講義授業の場合には個人でのリアクションペーパーの提出を必須とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容および留意事項の説明
第 2 回	投球の基本的技術	ボール慣れ・オーバーハンスロー
第 3 回	グラブ操作の基本的技術	グラブ操作・キャッチボール
第 4 回	捕球の基本的技術①	フライ捕球
第 5 回	捕球の基本的技術②	ゴロ捕球
第 6 回	打撃・犠打の基本的技術	ティーバッティング・トスバッティング・送りバント
第 7 回	投手の基本的技術	ウインドミル投法
第 8 回	走塁の基本的技術	ベースランニング
第 9 回	ノックの基本的技術	内野手および外野手へのノック
第 10 回	ソフトボールの基本的ルール	ソフトボールと野球のルールの違い
第 11 回	ソフトボールの基本的な技術の指導	各基本的技術を指導する際の留意点
第 12 回	ミニ試合	特別ルールを用いての試合
第 13 回	試合	これまでに学習および習得したルールと基本的技術を用いての試合
第 14 回	学期末まとめと試験	まとめ・春学期の理解度テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし。

第 2～13 回：前回授業の復習と次回授業の予習（提出課題等）。

第 14 回：春学期の総合的な復習。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

「ソフトボール指導教本」日本ソフトボール協会

「中学校学習指導要領」

「中学校学習指導要領解説（保健体育）」

その他は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30%）・授業時の課題提出（20%）・テスト（50%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際などの話をするスピードが速いので、ゆっくりと話すように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通して履修すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge needed to coaching softball.

It also enhances basic skills of “throwing, catching, hitting, running” and knowledge of rules and safety in softball.

HSS200IA

ソフトボール指導論演習

大田 穂

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

旧うか科目名：ベースボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソフトボールにおける「投・捕・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につけることを目的とする。

【到達目標】

中学校や高等学校の体育教員または地域スポーツ指導者として、ソフトボールを指導するために必要な「投・捕・打・走」の基本的技術を身につける。また、ルールや戦術、安全面への配慮など、指導の際に必要な知識や留意事項等も学習し、正しく安全に指導できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的技術や指導方法を習得するための屋外での実技、ルールや戦術などの基本的知識や指導のために必要となる知識を学習するための室内での講義を実施する。また、天候等による急な変更もあり得る。指導方法を習得するための実技では、小グループでの相互指導（模擬授業）を行う。屋外での実技授業の場合には小グループでの学習シートの提出、室内での講義授業の場合には個人でのリアクションペーパーの提出を必須とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容および留意事項の説明
第 2 回	さまざまな練習方法（守備・ピッチング）	守備とピッチングについての練習方法の紹介とその意図
第 3 回	さまざまな練習方法（打撃・走塁）	打撃と走塁についての練習方法の紹介とその意図
第 4 回	年代別のソフトボール指導	各世代・各カテゴリへの指導方法と留意点
第 5 回	学校体育におけるソフトボール指導	学習指導要領に示されている目標を踏まえた指導
第 6 回	ソフトボール（野球）を実施する上での安全面への配慮	ソフトボールおよび野球で起こりやすいケガや事故
第 7 回	投球の指導演習	投球についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 8 回	ゴロ捕球の指導演習	ゴロ捕球についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 9 回	フライ捕球の指導演習	フライ捕球についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 10 回	打撃の指導演習	打撃についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 11 回	ウインドミル投法の指導演習	ウインドミル投法についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 12 回	犠打・走塁の指導演習	犠打・走塁についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 13 回	指導者の役割と心得	指導者の役割と心得ておくべきこと
第 14 回	学期末まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：春学期の復習（基本的な技術およびルールの理解）。
第 2～13 回：前回授業の復習と次回授業の予習（提出課題等）。
第 14 回：秋学期の総合的な復習。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

「ソフトボール指導教本」日本ソフトボール協会
「中学校学習指導要領」
「中学校学習指導要領解説（保健体育）」
その他は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30％）・授業時の課題提出（20％）・相互指導（模擬授業）レポート（20％）・学期末レポート課題（30％）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際などの話をするスピードが速いので、ゆっくりと話すように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

秋学期授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。秋学期のみの履修は基本的には認めない。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge needed to coaching softball.

It also enhances basic skills of “throwing, catching, hitting, running” and knowledge of rules and safety in softball.

HSS200IA

バスケットボール指導論実習

清水 貴司

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

旧うか科目名：バスケットボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者であり防御者でもある球技種目である。従ってまずは瞬発力、持久力や状況に応じた素早い判断力を養わなくてはならない。それらの向上とバスケットボールの基礎技能を身につけるとともに、協調性や闘志面の向上もテーマとする。

審判法、ゲームの展開（運営）の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】

バスケットボールの基礎技能の習得とゲームの中での基本的な動きを各プレイヤーのポジションや役割を理解して実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

バスケットボール競技において必要な能力を実技によって身に付けていく。ファンダメンタル（ダッシュ、ストップ、ステップ、ジャンプ）と個人能力（ドリブル、パス、シュート）の練習から対人練習、ゲーム形式と進めていく。また、オフィシャル（審判方法）のやり方やバスケットボールというスポーツの歴史、ルールの改正、戦術を学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	履修についての諸注意、履修学生の選抜（最大 40 名）、ガイダンス
2	バスケットボールとルールの説明	ルール変遷や歴史を紹介、また実技を通してバイオレーションやファウルの種類を説明
3	実技によるファンダメンタル①	ボールコントロール、ボールハンドリング、ドリブルの練習
4	実技によるファンダメンタル②	フットワーク、ドリブル、パス、リバウンド、シュートの練習
5	ディフェンスについて	ディフェンスの目的や考え方を理解し、実際に 1 対 1 や 2 対 2 を行う
6	実技による対人及び集団技能	1 対 1、2 対 2、3 対 3 など
7	オフェンスについて	パス&ラン、スクリーンプレーを学び 3 対 3、4 対 4 を行いチームオフェンスを学ぶ
8	実技による対人及び集団技能	アウトナンバープレー、スクリーンプレー 4 対 4 など
9	リーグ戦に向けて	チーム編成、オフィシャル方法解説、ゲーム形式の練習
10	リーグ戦	試合形式による学習及びチーム練習
11	リーグ戦と実技試験についての説明	試合形式による学習と実技試験の練習
12	ゲームにおける戦術論（オフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からスクリーンプレーやアウトナンバープレーをより発展させていく。また実技試験の練習も行う
13	ゲームにおける戦術論（ディフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどのディフェンスを学ぶ。また実技試験の練習も行う
14	実技試験	個人技能のドリブル、シュートの実技試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ルールの確認。

授業で配布した資料を読み返すこと。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会編 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業点（リーダーシップ及び授業への参加態度などから総合的に評価（50 %）実技試験による評価（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

教職の学生も履修しているため、技術の習得だけでなく、指導時のポイントも授業に組み込んでいき、学生同士が指導できる環境をつくっていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には実技を取り入れていくので体育館で行いますが、毎時間授業のはじめは講義形式で行うので筆記用具を用意すること。

【その他の重要事項】

履修希望者が多い場合は第 1 回目の授業で選抜をします。受講希望者は必ず出席すること。選抜方法は上級生を優先とし男子 20 名、女子 20 名の計 40 名（男女の比率は変更する場合あり）を上限とします。また基本的には秋学期に行うバスケットボール指導論演習も同年度に履修することを条件とします。※履修人数によって授業内容を変更する場合があります

【Outline and objectives】

Everyone at the court is an offense player and a defense player for basketball. Therefore, instantaneous power, endurance, instantaneous judgment power are required. It aims at improving those abilities and acquiring the basic ability of basketball. Also learn about the way of refereeing in basketball, the history of basketball.

HSS200IA

バスケットボール実習

清水 貴司

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者であり防御者でもある球技種目である。従ってまずは瞬発力、持久力や状況に応じた素早い判断力を養わなくてはならない。それらの向上とバスケットボールの基礎技能を身につけるとともに、協調性や闘志面の向上もテーマとする。審判法、ゲームの展開（運営）の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】

バスケットボールの基礎技能の習得とゲームの中での基本的な動きを各プレイヤーのポジションや役割を理解して実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

バスケットボール競技において必要な能力を実技によって身に付けていく。ファンダメンタル（ダッシュ、ストップ、ステップ、ジャンプ）と個人能力（ドリブル、パス、シュート）の練習から対人練習、ゲーム形式と進めていく。また、オフィシャル（審判方法）のやり方やバスケットボールというスポーツの歴史、ルールの改正、戦術を学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	履修についての諸注意、履修学生の選抜（最大 40 名）、ガイダンス
2	バスケットボールとルールの説明	ルール変遷や歴史を紹介、また実技を通してバイオレーションやファウルの種類を説明
3	実技によるファンダメンタル①	ボールコントロール、ボールハンドリング、ドリブルの練習
4	実技によるファンダメンタル②	フットワーク、ドリブル、パス、リバウンド、シュートの練習
5	ディフェンスについて	ディフェンスの目的や考え方を理解し、実際に 1 対 1 や 2 対 2 を行う
6	実技による対人及び集団技能	1 対 1、2 対 2、3 対 3 など
7	オフェンスについて	パス&ラン、スクリーンプレーを学び 3 対 3、4 対 4 を行いチームオフェンスを学ぶ
8	実技による対人及び集団技能	アウトナンバープレー、スクリーンプレー 4 対 4 など
9	リーグ戦に向けて	チーム編成、オフィシャル方法解説、ゲーム形式の練習
10	リーグ戦	試合形式による学習及びチーム練習
11	リーグ戦と実技試験についての説明	試合形式による学習と実技試験の練習
12	ゲームにおける戦術論（オフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からスクリーンプレーやアウトナンバープレーをより発展させていく。また実技試験の練習も行う
13	ゲームにおける戦術論（ディフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどのディフェンスを学ぶ。また実技試験の練習も行う
14	実技試験	個人技能のドリブル、シュートの実技試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ルールの確認。

授業で配布した資料を読み返すこと。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会編 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業点（リーダーシップ及び授業への参加態度などから総合的に評価（50 %）実技試験による評価（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

教職の学生も履修しているので、技術の習得だけではなく、指導時のポイントも授業に組み込んでいき、学生同士が指導できる環境をつくっていききたい。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には実技を取り入れていくので体育館で行いますが、毎時間授業のはじめは講義形式で行うので筆記用具を用意すること。

【その他の重要事項】

履修希望者が多い場合は第 1 回目の授業で選抜をします。受講希望者は必ず出席すること。選抜方法は上級生を優先とし男子 20 名、女子 20 名の計 40 名（男女の比率は変更する場合あり）を上限とします。また基本的には秋学期に行うバスケットボール指導論演習も同年度に履修することを条件とします。※履修人数によって授業内容を変更する場合があります

【Outline and objectives】

Everyone at the court is an offense player and a defense player for basketball. Therefore, instantaneous power, endurance, instantaneous judgment power are required. It aims at improving those abilities and acquiring the basic ability of basketball. Also learn about the way of refereeing in basketball, the history of basketball.

HSS200IA

バスケットボール指導論演習

清水 貴司

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3
旧うか科目名：バスケットボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バスケットボールはオフェンスとディフェンスがまぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者及び防御者となる球技種目である。履修者はこの特性を理解し、中学生や高校生を指導する際には、瞬発力、持久力の向上と状況に応じた素早い判断力を養えるよう授業を展開していかなくてはならない。それらの指導力を本演習で養成したい。
また、指導者や教員としての知識を身に付ける為、審判法、ゲーム（運営）展開の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】

指導者としての立場で中学校・高校学校におけるバスケットボールの授業を展開していく指導力と知識を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

模擬授業を中心として授業を展開していく。グループワークを積極的に取り入れ、協働して演習を行う。また、中学校・高等学校における指導案の作成手順を適宜資料を配布して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	模擬授業について	模擬授業の準備と説明（指導案の作成、テーマと模擬授業の順番などを決める。）
2	模擬授業（ボールハンドリング・ドリブルについて）	グループ及び 1 名がボールハンドリング、ドリブルの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
3	模擬授業（パス・シュートについて）	グループ及び 1 名がパス、シュートの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
4	模擬授業（ディフェンス・ボールマンに対する守り方について）	グループ及び 1 名がボールマンに対するディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
5	模擬授業（オフェンス・カッティングプレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスにおけるカッティングプレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
6	模擬授業（オフェンス・スクリーンプレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスにおけるスクリーンプレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
7	模擬授業（オフェンス・アウトナンバープレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスにおけるアウトナンバープレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
8	模擬授業（マンツーマンディフェンスについて）	グループ及び 1 名がマンツーマンチームディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
9	模擬授業（ゾーンディフェンスについて）	グループ及び 1 名がゾーンディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
10	模擬授業（戦術・チームオフェンス、セットプレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスの戦術（セットプレー）の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
11	模擬授業（戦術・ヘルプディフェンスのローテーションについて）	グループ及び 1 名がディフェンスの戦術（ローテーション）の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。

12	模擬授業（授業の中でのリーグ戦の運営方法と審判方法、簡易ルールの設定などについて）	グループ及び 1 名がリーグ戦の運営方法、審判方法の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
13	模擬授業に対する反省と評価	模擬授業担当者にアンケート評価をフィードバックし、反省点と改善点をまとめる（レポート作成）
14	まとめ 各グループの発表、質疑応答	模擬授業を通して何を学べたのかをディスカッションして発表（レポート作成）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし
第 2～12 回：模擬授業の準備（担当の学生は指導案の作成）
第 13 回：模擬授業に対する反省点と改善点をまとめておく
第 14 回：他グループへの模擬授業に関する質問やディスカッションの準備

【テキスト（教科書）】

資料を配布する

【参考書】

バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会編 大修館書店
バスケットボール用語辞典 監修 小野修二 小谷究 廣済堂出版

【成績評価の方法と基準】

参加態度 40 点 指導案の評価 20 点 模擬授業の評価 20 点 レポート 20 点

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業を中心に進めていきますが、模擬授業終了後に時間のある場合はゲーム形式での学習の時間に充てていきます。毎時間ゲームを行うことで上達度も早く向上心を保つことに繋がると感じたのでゲームを楽しみながら技術を高めて欲しいと思います。

【その他の重要事項】

※春学期にバスケットボール指導論実習を受講した後に履修することが望ましい。履修人数に制限（最大 40 名）があるので履修希望者が多い場合は上級生とバスケットボール指導論実習の受講後の学生を優先とする。
※履修人数によって授業内容を変更する場合があります

【Outline and objectives】

Everyone at the court is an offense player and a defense player for basketball. Students first understand this characteristic. And we aim to learn how to teach basketball in this exercise. It also learns the ability to manage lessons and learns skills as teachers and coach.

HSS200IA

陸上競技指導論実習

苅部 俊二

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3
旧うか科目名：陸上競技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

陸上競技の走・跳・投について、基礎的な技術を習得し、陸上競技の指導法を身につける。

【到達目標】

陸上競技の走・跳・投について、実技力、実践力を高め、これらの習得のもとに将来指導者としてのあり方を学び、指導法、指導内容やトレーニング計画法を学習する。

また、教員採用試験の受験課題の対応した技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

陸上競技種目の走・跳・投について技術習得および指導のための科学的な知識を学習する。運動生理学やバイオメカニクスなどといった基礎的な運動学の視点から陸上競技をとらえ理解を深めるとともに実際にその技術を習得する。さらにトレーニング理論や発育発達、運動心理学をふまえたトレーニング方法の立案、コーチング法を学び、陸上競技の指導法を習得していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 陸上競技の歴史・概要	授業概要および陸上競技の特性について学習する。
第 2 回	陸上競技の基礎 I	陸上競技の生理学、力学について学習する。
第 3 回	走運動の理論と実技短距離走 I	短距離走の原理、ルール、方法について学習する。
第 4 回	走運動の理論と実技短距離走 II	スタート、中間疾走について実践をもとに学習する。
第 5 回	走運動の理論と実技ハードル走 I	ハードル走の原理、ルール、方法を学習する。
第 6 回	走運動の理論と実技ハードル走 II	ハードル走の実践および指導法を学習する。
第 7 回	走運動の理論と実技リレー競技 I	リレー競技の原理、ルール、方法を学習する。
第 8 回	走運動の理論と実技リレー競技 II	リレー競技の実践および指導法を学習する。
第 9 回	跳躍運動の理論と実技走幅跳 I	走幅跳の原理、ルール、方法について学習する。
第 10 回	跳躍運動の理論と実技走幅跳 II	走幅跳の実践から指導法を学習する。
第 11 回	跳躍運動の理論と実技走高跳 I	走高跳の原理、ルール、方法を学習する。
第 12 回	跳躍運動の理論と実技走高跳 II	走高跳の実践から指導法を学習する。
第 13 回	投運動の理論と実技砲丸投 I	砲丸投の原理、ルール、方法を学習する。
第 14 回	投運動の理論と実技砲丸投 II	砲丸投の実践から指導法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習

【テキスト（教科書）】

特に設けない。適宜資料を配布する。

【参考書】

陸上競技指導教本アンダー 16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編 財）日本陸上競技連盟編 大修館書店
陸上競技指導教本アンダー 16・19 レベルアップの陸上競技 上級編 財）日本陸上競技連盟編 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（30 %）と提出物（レポートなど）（50 %）、小テスト（20 %）による。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】

The aim of this practice course is to develop a theoretical understanding, then master theories and techniques of track-and-field.

HSS200IA

陸上競技実習

苅部 俊二

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

陸上競技の走・跳・投について、基礎的な技術を習得し、陸上競技の指導法を身につける。

【到達目標】

陸上競技の走・跳・投について、実技力、実践力を高め、これらの習得をもとに将来指導者としてのあり方を学び、指導法、指導内容やトレーニング計画法を学習する。

また、教員採用試験の受験課題の対応した技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

陸上競技種目の走・跳・投について技術習得および指導のための科学的な知識を学習する。運動生理学やバイオメカニクスなどといった基礎的な運動学の視点から陸上競技をとらえ理解を深めるとともに実際にその技術を習得する。さらにトレーニング理論や発育発達、運動心理学をふまえたトレーニング方法の立案、コーチング法を学び、陸上競技の指導法を習得していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 陸上競技の歴史・概要	授業概要および陸上競技の特性について学習する。
第 2 回	陸上競技の基礎 I	陸上競技の生理学、力学について学習する。
第 3 回	走運動の理論と実技短距離走 I	短距離走の原理、ルール、方法について学習する。
第 4 回	走運動の理論と実技短距離走 II	スタート、中間疾走について実践をもとに学習する。
第 5 回	走運動の理論と実技ハードル走 I	ハードル走の原理、ルール、方法を学習する。
第 6 回	走運動の理論と実技ハードル走 II	ハードル走の実践および指導法を学習する。
第 7 回	走運動の理論と実技リレー競技 I	リレー競技の原理、ルール、方法を学習する。
第 8 回	走運動の理論と実技リレー競技 II	リレー競技の実践および指導法を学習する。
第 9 回	跳躍運動の理論と実技走幅跳 I	走幅跳の原理、ルール、方法について学習する。
第 10 回	跳躍運動の理論と実技走幅跳 II	走幅跳の実践から指導法を学習する。
第 11 回	跳躍運動の理論と実技走高跳 I	走高跳の原理、ルール、方法を学習する。
第 12 回	跳躍運動の理論と実技走高跳 II	走高跳の実践から指導法を学習する。
第 13 回	投運動の理論と実技砲丸投 I	砲丸投の原理、ルール、方法を学習する。
第 14 回	投運動の理論と実技砲丸投 II	砲丸投の実践から指導法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習

【テキスト（教科書）】

特に設けない。適宜資料を配布する。

【参考書】

陸上競技指導教本アンダー 16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編 財）日本陸上競技連盟編 大修館書店

陸上競技指導教本アンダー 16・19 レベルアップの陸上競技 上級編 財）日本陸上競技連盟編 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（30 %）と提出物（レポートなど）（50 %）、小テスト（20 %）による。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】

The aim of this practice course is to develop a theoretical understanding, then master theories and techniques of track-and-field.

HSS200IA

陸上競技指導論演習

苅部 俊二

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2

単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

旧うか科目名：陸上競技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

陸上競技の走・跳・投について、その理論を習得し、陸上競技の指導法を身につける。

【到達目標】

陸上競技の走・跳・投について、理論、実技を通じて学習し、これらの習得をもとに将来指導者としてのあり方を学び、指導法、指導内容やトレーニング計画法を身につける。

教員採用試験の受験課題となる陸上競技の基礎的な理論、ルールを学習するとともに実際の授業の展開や安全な授業づくりの方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

陸上競技種目の走・跳・投について技術習得および指導のための科学的な知識を学習する。運動生理学やバイオメカニクスなどといった基本的な運動学の視点から陸上競技をとらえ理解を深めるとともに実際にその技術を習得する。さらにトレーニング理論や発育発達、運動心理学をふまえたトレーニング方法の立案、コーチング法を学び、陸上競技の指導法を習得していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	陸上競技の指導法	陸上競技のコーチング・心理について理解を深め指導法を学習する。 また、指導案の作成方法、トレーニング計画の立案法について学習する。
第 2 回	跳躍運動の理論と実技 三段跳	三段跳の実践から指導法を学習する。
第 3 回	跳躍運動の理論と実技 棒高跳Ⅰ	棒高跳の実践から指導法を学習する。
第 4 回	跳躍運動の理論と実技 棒高跳Ⅱ	棒高跳の実践から指導法を学習する。
第 5 回	短距離走の指導実習 ハードル走	ハードル走の実践から指導法を学習する。
第 6 回	歩運動の指導法概論 競歩	競歩種目の実践から指導法を学習する。
第 7 回	投運動の理論と実技 円盤投	円盤投の実践から指導法を学習する。
第 8 回	投運動の理論と実技 やり投	やり投の実践から指導法を学習する。
第 9 回	投運動の理論と実技 ハンマー投	投運動の実践から指導法を学習する。
第 10 回	走運動の理論と実技 長距離Ⅰ	走運動の実践から指導法を学習する。
第 11 回	走運動の理論と実技 長距離Ⅱ	走運動の実践から指導法を学習する。
第 12 回	走運動の指導案作成と指導実習	走運動の指導理論から指導案を作成し、模擬授業を行う。
第 13 回	跳躍運動の指導案作成と指導実習	跳躍運動の指導理論から指導案を作成し、模擬授業を行う。
第 14 回	投擲運動の指導案作成と指導実習	投擲運動の指導理論から指導案を作成し、模擬授業を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業への取り組みについて復習

【テキスト（教科書）】

特に設けない。適宜資料を配布する。

【参考書】

陸上競技指導教本アンダー 16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編 財)

日本陸上競技連盟編 大修館書店

陸上競技指導教本アンダー 16・19 レベルアップの陸上競技 上級編 財) 日

本陸上競技連盟編 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 (30 %)、提出物 (レポートなど) (50 %) 及び小テスト (20 %) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn and master the training theories and coaching methods of track-and-field.

HSS200IA

スイミング実習

八塚 明憲

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に、4 泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】

4 種目（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習する。100m 個人メドレー。出来れば 200m 個人メドレーを泳げる泳力を身に付けたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生涯スポーツとしての水泳はシーズンスポーツでなく室内プールの充実にともない年間を通じて計画されるスポーツになった。スイミングクラブの普及につれ社会体育における水泳の果たす役割も重要になり多くの指導者が求められるようになってきている。水泳指導者は、広い一般教養はもとより、水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた（実習）すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。実技を中心に学び指導者としての授業を展開して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック。 クラス分け。授業中に起こる事故・怪我等についての説明。
2	実技 自由形①	水慣れ 呼吸法 浮き身 蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足
3	実技 自由形②	蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 ビート板使用コンビネーション（呼吸付き） コンビネーション
4	実技 自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技 背泳ぎ①	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック 呼吸法
6	実技 背泳ぎ②	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック コンビネーション
7	実技 背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
8	実技 平泳ぎ①	プールサイドでのキック 壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック
9	実技 平泳ぎ②	壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック コンビネーション
10	実技 平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。

11	実技 バタフライ①	壁キック ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ ビート板無し片手バタフライ コンビネーション
12	実技 バタフライ②	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする。 4 種目の復習 バタフライから背泳ぎ 背泳ぎから平泳ぎ 平泳ぎから自由形のターンを意識して 100m 個人メドレーを泳ぐ。
13	実技 バタフライ③	
14	実技 個人メドレー①	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店
インターネットから日本代表選手等の泳ぎを予習復習すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 授業内の取り組み方
20% 泳力テスト（各泳法の評価と 100 m 個人メドレーを行う）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の映像をチェックして泳法指導に役立てる。
水温・室温の管理に気を配る

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

体調不良等で見学する場合も授業内の内容、注意点を学び指導者としての基礎知識を学んで欲しい。

【Outline and objectives】

Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating, then breathing. Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches. Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS200IA

スイミング指導論実習

八塚 明憲

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

旧うか科目名：スイミング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に、4 泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】

4 種目（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習する。100m 個人メドレー。出来れば 200m 個人メドレーを泳げる泳力を身に付けたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生涯スポーツとしての水泳はシーズンスポーツでなく室内プールの充実にともない年間を通じて計画されるスポーツになった。スイミングクラブの普及につれ社会体育における水泳の果たす役割も重要になり多くの指導者が求められるようになってきている。水泳指導者は、広い一般教養はもとより、水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた（実習）すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。実技を中心に学び指導者としての授業を展開して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック。 クラス分け。授業中に起こる事故・怪我等についての説明。
2	実技 自由形①	水慣れ 呼吸法 浮き身 蹴伸びからのバタ足
3	実技 自由形②	ビート板使用のバタ足 蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 ビート板使用コンビネーション (呼吸付き)
4	実技 自由形③	コンビネーション 呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技 背泳ぎ①	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック
6	実技 背泳ぎ②	呼吸法 浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック コンビネーション
7	実技 背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
8	実技 平泳ぎ①	ブルサイドでのキック 壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック
9	実技 平泳ぎ②	壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック コンビネーション
10	実技 平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。

11	実技 バタフライ①	壁キック ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ
12	実技 バタフライ②	ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ ビート板無し片手バタフライ コンビネーション
13	実技 バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする。
14	実技 個人メドレー①	4 種目の復習 バタフライから背泳ぎ 背泳ぎから平泳ぎ 平泳ぎから自由形のターンを意識して 100m 個人メドレーを泳ぐ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店
インターネットから日本代表選手等の泳ぎを予習復習すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 授業内の取り組み方
20% 泳力テスト（各泳法の評価と 100 m 個人メドレーを行う）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の映像をチェックして泳法指導に役立てる。
水温・室温の管理に気を配る

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

体調不良等で見学する場合も授業内の内容、注意点を学び指導者としての基礎知識を学んで欲しい。

【Outline and objectives】

Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing. Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches. Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS2001A

スイミング指導論演習

八塚 明憲

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3
旧うか科目名：スイミング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

水泳指導者、特に中学生、高校生を指導する際の基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に履修者（大学生）がこのような課題を認識し、生徒が水泳に親しむことができる。4 泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に関わりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】

履修者が中学校・高等学校において水泳指導の体育授業を展開できる指導力、知識、態度を身に付け、4 種目（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習し到達目標として 100m 個人メドレーを完泳する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることが出来る
模擬授業を中心に進めていく。またグループワークによる協働的な演習を行う。水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた（実習）すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
体育授業を展開する基礎知識を学び指導者としての模擬授業を展開して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス基本 技能の復習 自由形について	個人の泳力チェック、 クラス分け・授業中に起こる事故・怪我等についての説明。自由形の基本的指導について学ぶ。
2	基本技能の復習 自由形の模擬授業	1 回目の授業・自由形での指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ自由形を指導する。
3	基本技能の復習 背泳ぎ	背泳ぎの基本的指導について学ぶ。
4	基本技能の復習 背泳ぎの模擬授業	3 回目の授業・背泳ぎでの指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ背泳ぎを指導する。
5	基本的技能の復習 平泳ぎ	平泳ぎの基本的指導について学ぶ。
6	基本的技能の復習 平泳ぎの模擬授業	5 回目の授業・平泳ぎでの指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ平泳ぎを指導する。
7	基本的技能の復習 バタフライ	バタフライの基本的指導について学ぶ。
8	基本的技能の復習 バタフライの模擬授業	7 回目の授業・バタフライの指導法の復習。 模擬授業として先生役と生徒役に分かれバタフライを指導する。
9	基本的技能の復習 個人メドレー	個人メドレーの各種目へのターンの取得と指導法を学ぶ。
10	基本的技能の復習 個人メドレーの模擬授業	9 回目の授業・個人メドレーの指導法の復習。各ターンを先生役と生徒役に分かれてチェックする。
11	指導案作成 模擬授業 自由形 背泳ぎ	6～8 名のグループに分かれ先生役と生徒役に分かれ自由形・背泳ぎの模擬授業を行う。終了後に指導の反省会を行う。
12	指導案作成 模擬授業 平泳ぎ バタフライ	6～8 名のグループに分かれ先生役と生徒役に分かれ平泳ぎ・バタフライの模擬授業を行う。終了後に指導の反省会を行う。

13	実技 救助法・蘇生法	着衣水泳の実践、救助法の実践、蘇生法の実践
14	講義	水泳指導者としての定義・心得・任務・事故 ・原則を踏まえた中学生・高校生の指導について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習と次回授業の予習
テキスト「水泳指導教本」を参考に復習と予習。

【テキスト（教科書）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業内の取り組み方: 8 0 %
泳力テスト: 2 0 %（各泳法の評価と 100 m 個人メドレーのタイム測定を行う）

【学生の意見等からの気づき】

履修者の泳ぎの映像、模擬授業での指導映像をチェックして各泳法指導に役立てる。

【その他の重要事項】

将来、教員採用を目指す者、スポーツクラブでの指導者を目指す指導者を養成するための授業です。泳力の無い者の履修は出来ない。3 年時の水泳の授業で泳力的に合格できた者の履修が望ましい。

【Outline and objectives】

Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating, then breathing. Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches.
Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS200IA

ハンドボール実習

Nemes Roland

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

積極的に参加しながらハンドボールの基礎技術・戦術・ルールを習得する

【到達目標】

ゲームを中心にしたハンドボールの授業を展開し、ハンドボールの各ポジション・ゲームに求められる技術や戦術を理解できる。ハンドボール試合にてプレーできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

GSA(game sense approach), 様々なサイドゲームを導入し、常に戦術的な課題解決しながら必要な技術とルールを学ぶ。学生によるグループディスカッション形式にて課題解決を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・ミニゲーム	授業概要の説明、ハンドボールに関する基礎的知識の確認
2～7	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム	ハンドボール攻防に必要な技術、審判法
8	ゴールキーパーの基礎技術、ゲーム	ゴールキーパーの基礎技術と個人戦術、審判法およびゲーム
9～11	攻撃と防御のグループ戦術、ゲーム	2～3 人の連携におけるプレー
12～13	攻撃と防御のチーム戦術、ゲーム	基本的な攻撃と防御システムを学ぶ
14	まとめ、ハンドボール紅白試合	学生達が運営したハンドボール試合を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ハンドボール試合視察

【テキスト（教科書）】

未定

【参考書】

未定

【成績評価の方法と基準】

レポート 25 % テスト 25 % 授業の総合評価 50%

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

ハンドボールコートに適したシューズと運動着を準備すること

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Students will obtain the basic techniques and tactics of handball and understand the rules through active participation.

HSS200IA

ハンドボール指導論演習

Nemes Roland

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハンドボールの指導では年齢とレベルに応じて課題が異なる。本授業では、ハンドボールの種目特性と、特に中学生・高校生を指導する際の課題を認識させ、生徒をハンドボールに親しませることができるような体育授業を行える指導力を養成する。また、ルール、審判法、安全等に関する知識およびフェアプレイを遵守する態度についても理解を深めさせる。

【到達目標】

中学校や高等学校において、ゲームを中心にしたハンドボールの授業を展開し、生徒に基礎的な技術および戦術、知識、態度を習得させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進めていく。また、グループワークによる協働的な演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明、ハンドボールに関する基礎的知識の確認、指導に関する原理・原則の解説
2	ハンドボールの歴史と現況	ハンドボール競技の発展、ルール・戦術の発達
3	ハンドボールの特性及び指導理論	ハンドボールのゲーム構造 攻撃と防御の技術と戦術、一貫指導、年代別指導、学校体育での指導
4	個人技能の習得	コートプレーヤーの基礎技術とゲーム
5	個人戦術力の習得	コートプレーヤーの個人戦術とゲーム
6	グループ戦術力の習得	コートプレーヤーのグループ・チーム戦術とゲーム
7	ゴールキーピング技能の習得	ゴールキーパーの基礎技術と個人戦術、審判法およびゲーム
8	まとめとテスト 指導案作成	ルールのテスト 2～3名のグループに分かれ、担当する模擬授業の指導案を作成する
9	模擬授業 1	担当グループが「コートプレーヤーの基礎技術」をテーマとした模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
10	模擬授業 2	担当グループが「コートプレーヤーの基礎技術」をテーマとした模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
11	模擬授業 3	担当グループが「コートプレーヤーの基礎技術」をテーマとした模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
12	模擬授業 4	担当グループが「コートプレーヤーの基礎技術」をテーマとした模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
13	模擬授業 5	担当グループが「コートプレーヤーの基礎技術」をテーマとした模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。

14 まとめ、紅白試合 模擬授業のまとめと振り返り・試合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

未定

【テキスト（教科書）】

未定

【参考書】

未定

【成績評価の方法と基準】

テスト 25%、課題 25%、模擬授業の総合評価 50%

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

ハンドボールコートに適したシューズを準備すること

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Students will learn and practice the teaching methodology of handball, specially focused on the 10-16 years old age group. Beside learning the methodology, they will be able to refereeing and organizing handball game.

HSS200IA

青少年指導実習（サッカー）

川田 尚弘

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～年次／1 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

成長期の子どもの指導を目指す者として、運動の獲得、体力の向上において適切な指導ができるため、ヒトの身体の発育と機能の発達、発育発達に及ぼす運動の影響、発育発達期の運動指導について学習する。

【到達目標】

子どもの発育・発達の過程を理解し、動きの発達を促す運動の影響を説明できる。
発育発達期の運動指導の在り方が説明でき、時効果的に指導できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

発育発達に応じた青少年のサッカー指導に関し、講義・発表・実習形式を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方、受講に際し留意すべき点、評価の方法の確認
第 2 回	発育発達による身体変化①	発育による身体の変化（神経・形態）について理解する
第 3 回	発育発達による身体変化②	発育による身体の変化（筋系・呼吸循環器系）について理解する
第 4 回	動きの発達と運動①	動きの発達と運動（幼年期・少年期）について理解する
第 5 回	動きの発達と運動②	動きの発達と運動（青年期）について理解する
第 6 回	発育発達期の運動指導①	発育発達の運動指導（幼年期・少年期）について理解する
第 7 回	発育発達期の運動指導②	発育発達の運動指導（青年期）について理解する
第 8 回	発育発達期の運動指導③	発育発達の運動指導（女子）について理解する
第 9 回	発育発達に応じた指導実践①	年齢に応じたサッカートレーニングを計画し指導実践を行う
第 10 回	発育発達に応じた指導実践②	年齢に応じたサッカートレーニングを計画し指導実践を行う
第 11 回	発育発達に応じた指導実践③	年齢に応じたサッカートレーニングを計画し指導実践を行う
第 12 回	発育発達に応じた指導実践④	年齢に応じたサッカートレーニングを計画し指導実践を行う
第 13 回	発育発達に応じた指導実践⑤	年齢に応じたサッカートレーニングを計画し指導実践を行う
第 14 回	まとめ	本講義に関する総括・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身が青少年期に経験してきたサッカー指導方法等を振り返り多角的に分析しておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない、必要であればその際に資料等を配布する。

【参考書】

特定の参考書は使用しない、必要であればその際に資料等を配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のレポート 60 %、平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The goal is that students know different ways of training methods according to the age of the people.

HSS200IA

青少年指導実習（陸上）

苅部 俊二

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～年次／1 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では学童期から少年期のスポーツ指導の方法について理論を実践の両極面から学んでいく。

【到達目標】

本講義では、学童期から少年期のスポーツ指導の方法について理論を実践の両極面から学び、青少年スポーツ（陸上運動）の指導者に必要な知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

発育発達やトレーニング論、学童期から少年期の障害や心理について知識を養い、さらに少年アスリートの倶楽部チームに参加し、実際に指導を体験することで理解を深めていく。また、クラブチームに帯同するにあたり、指導の計画、方法について検討し、体験終了後にはその成果や反省点、改善点について発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方
第 2 回	発育発達①	身体の発育発達
第 3 回	発育発達②	心理の発育
第 4 回	発育発達③	トレーニング法
第 5 回	キッズの指導法①	指導法①
第 6 回	キッズの指導法②	指導法②
第 7 回	スポーツクラブの実際	スポーツクラブの現状
第 8 回	指導実習①	幼児の指導①
第 9 回	指導実習②	幼児の指導②
第 10 回	指導実習③	学童（低学年）の指導①
第 11 回	指導実習④	学童（低学年）の指導②
第 12 回	指導実習⑤	学童（高学年）の指導①
第 13 回	指導実習⑥	学童（高学年）の指導②
第 14 回	まとめ	指導の報告と発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復讐

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】

陸上競技指導教本アンダー 13 楽しいキッズの陸上競技 財）日本陸上競技連盟編 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（50%）、実習（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】

These practice sessions introduce the methods and practices of sports training for schoolchildren and preadolescents. Students will learn how to apply coaching theories to practice.

HSS200IA

野外教育実習（スノー）

平野 裕一

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：年次／単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウィンタースポーツとして人気の高い、スキーおよびスノーボードを生涯にわたって楽しむことができるための知識と技術を得得するとともに、ウィンタースポーツの指導者として活動できるための基盤を身につける。

【到達目標】

ウィンタースポーツについて、その特性や意義・役割を理解し、方法論、指導論を現場での実習によって行うことにより、ウィンタースポーツの技術と指導及び青少年教育のあり方について学ぶ。
 具体的な到達目標としては、①受講者全てがスキーまたはスノーボードを体験し、その素晴らしさ、魅力を体得する。②SAJ（全日本スキー連盟）のバッジテストに基づいた客観的エビデンスを得る。③将来、青少年教育に従事するときに必要な実技・ライフ・マネジメント・ディシジョンメイキング・リーダーとしての必要な資質と心構えを身につけた指導者を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を得得ることができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講者は、スキーまたはスノーボードのいずれかを選択し、レベルに合わせた班編成によって、スキーまたはスノーボードの楽しみ方や安全面も含め、技術の習得をねらう。実習期間中は日誌に実習内容と反省ならびに翌日の目標を記載し、自らの能力向上とスノースポーツキャンプの指導者として活動できる基盤の養成に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	事前学習	スノースポーツの特性を理解し、野外教育活動としてのスキー・スノーボードの役割と実施の仕方を学習する。
2	開講式、1日目午後の実技講習	実習のガイダンス、実習開始時の実技評価を実施する。種目および技術別のグループによる実技レクチャーを行う。
3	1日目夜の講義	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
4	2日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レクチャーを行う。
5	2日目午後の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レクチャーを行う。
6	2日目夜の講義	課題レポートを基にしたグループワークを行う。
7	3日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レクチャーを行う。
8	3日目午後の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レクチャーを行う。
9	3日目夜の講義	2日目のグループワークの成果を発表する。
10	4日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レクチャーを行う。
11	4日目午後の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レクチャーを行う。
12	4日目夜の講義	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
13	5日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レクチャーを行う。
14	実技テスト・閉講式	SAJの評価基準に基づいた実技評価を行い、実習開始時からの技術の向上を確認する。また、実習全体を振り返り、レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間が始まる前に、スキー、スノーボードの図書や映像教材によって技術や理論の理解を深めるとともに、必要な体力を身に付け、万全の体調で実習に望めるようにする。
 実習期間中は、毎日、実習日誌への記述を通して、滑走技術や野外教育の指導法などについて振り返りをする。

【テキスト（教科書）】

本授業用に作成したテキストおよび実習日誌を配布する

【参考書】

・『スキー教程』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）

・『スキーへの誘い』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
 ・『資格検定受検者のために』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）

【成績評価の方法と基準】

・実習前講義を、正当な理由無く欠席した者はスキー場での実習参加を認めない。したがって、単位の取得はできない。
 ・事前学習の平常点 (16%)
 ・レポート課題 (10%)
 ・実習の平常点 (42%)
 ・ワークショップの平常点 (12%)
 ・実技テスト (10%)
 ・実習日誌 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

現場からの学びを大切にすることを心がける。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to acquire knowledge and skills to enjoy skiing and snowboarding throughout life and to acquire the foundation for being able to act as a leader of winter sports.

HSS200IA

野外教育実習（マリン）

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：年次／単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、生涯スポーツとしてのマリンスポーツの技術や知識について学び、指導者として活動できるための基盤を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義及び実習では、野外活動におけるマリンスポーツについて、競技としての野外活動としてだけでなく、自然体験としての活動も視野に入れながら、その特性や意義・役割を提示し、運動学、方法論、指導論に関する講義と実習を行い、その技術と危機管理（身体的、環境的）についても正しい知識を深め、将来、青少年教育に従事する際に必要な実技・知見の習得のみならず、都市化や消費社会において、生活の質的向上の追求や健康および教育的観点からも重要性が増しつつある野外活動を通して、広い見識を持った指導者として活動しうる基盤の養成を目的とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、キャンパスでの講義および現場での実習により構成される。講義では、現代におけるスポーツの意義・役割とマリンスポーツの位置づけを示し、特に自然環境の中で行われる活動としての環境倫理的視点および危機管理に着目した内容で展開する。また、水中・水上の、あるいはそれを利用した活動はただ単に泳ぐだけではなく、環境や利用する道具によって、水辺における活動の幅が広がることを理解し、基本的な水の特性を理解するとともに青少年教育におけるスポーツ体育指導としての在り方を前提とした、水辺および水中の危険性や水中における身体的な状態について物理学、生理学、医学に関する知識を習得することにより、指導を行うための基礎的な知見や経験をつけることも目的とする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	実習における注意点や意義、本講義の内容についての理解を深める
2	講義 1	野外スポーツとしてのマリンスポーツの歴史
3	講義 2	水上および水中での活動環境について
4	講義 3	水辺および水中における身体運動学
5	プール実習 1	シュノーケリングの用具・技術について フィンやマスク、シュノーケルの役割と機能を理解する
6	プール実習 2	スキューバダイビングの機材について ダイビングに必要な機材とそれぞれの役割について理解する
7	プール実習 3	スキューバダイビングの技術について 1 タンクを背負った状態での泳法や水中での活動について理解する
8	プール実習 4	スキューバダイビングの技術について 2 水中でのコミュニケーションや、トラブルの際の対応について理解する
9	現地実習 1 ボードセイリング	機材の役割や、動力となる風と、動く原理について理解を深め、操作技術について学習する
10	現地実習 2 スキューバダイビング	水中で自由に移動する技術の獲得（中性浮力）、さらに、教育的な側面から、指導上のリスクや意義について検討する
11	現地実習 3 シーカヤック	カヤックやパドルの形状や機能、および潮の満ち引きや川の流れ、風との関係についても理解し、自由に操れるような操作技術について学習する
12	現地実習 4 ウェイクボード	器具の役割と、ジェットスキーとの関係についても理解し、水面に立ち、ボードをコントロールするための技術について学習する
13	現地実習 5 スタンドアップパドル	用具の理解や特徴を捉え、自由に海面を進めるような技術について学習する

14 総括

それぞれの種目の特徴やリスクを踏まえ、指導する際の問題点や、教育的な意義について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて資料を配布する

【テキスト（教科書）】

特に設けない

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度、授業内に行う小レポート（30%）や実習参加状況（40%）、終了後の課題レポート（30%）などから総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course is to acquire knowledge and skills to enjoy marine sports throughout life and to acquire the foundation for being able to act as a leader of marine sports.

HSS200IA

スポーツコーチング海外演習

井上 尊寛、川田 尚弘

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～年次／2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

欧州のトップスポーツクラブ（サッカーを中心に）を実際に現地視察し、コーチングの観点を持ちながら多角的に学ぶ。具体的には、ドイツ・ブンデスリーガに所属するチームを対象とする。履修者は (1) 欧州サッカーのレベルを直に感じ、選手の強化・育成（トップチームや下部組織）・普及について、コーチングや指導方法だけでなく、トレーニング環境やスタジアムなどの周辺の環境についても理解を深める。(2) 欧州のスポーツに対する考え方、文化、国としての制度・政策についても理解を深める。(3) プロスポーツという事業が指導現場といかにかかわっているのか、スポーツをマネジメント側の視点からの理解も深めていくことも目的とする。

【到達目標】

- ・海外のトップレベルのコーチング方法やモデルを理解する。
- ・強化・育成・普及といったクラブ構造やクラブ哲学に関して理解する。
- ・ヨーロッパの総合型スポーツクラブ・スポーツシュレをはじめとした、スポーツ環境などについて多角的な視点から学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は (1) 現地スポーツ大学ないしはクラブでの講義と (2) 現地での現場実習に区分される。現地スポーツ大学ないしはクラブの講義においては、欧州サッカーの特徴や選手の強化・育成・普及構造システム、指導方法、クラブフィロソフィーなどを学ぶ。また現地で実際に活躍されている海外の指導者やスタッフなどの専門家との講義・ディスカッションも行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習の進め方、留意すべき点、評価の方法
2	事前指導	ドイツ語の講義、欧州サッカーの現状についての講義
3	事前指導	ドイツ語の講義、ドイツのサッカー環境について
4～8	現地実習 1	・トップチームトレーニング視察 ・アカデミートレーニング視察 ・スクールトレーニング視察 ・関係周辺施設視察 ・スタジアム構造視察
9～12	現地実習 2	・海外の指導者、スタッフ、専門家とのディスカッション（コーチングプログラム・タレント養成発掘プログラム等について）
11～13	現地実習 3	・現地での試合観戦（事前のスカウティングも含む） ・スカウティングレポートの作成
14	報告会・総括 事後指導	海外演習での経験・体験を総括し、共有することで、今後のコーチング現場への活用を見出す。 ①現地での体験から得たものなどの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海外の文化・習慣・言語などについて情報をまとめておき、実際に自身がこの演習を通して何を学び、今後にかかすか目的を明確にしておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する

【参考書】

特定の参考書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する

【成績評価の方法と基準】

本演習の事前講義・海外演習・事後演習、報告会への全出席したうえで、理解度、平常点等を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき特になし

【Outline and objectives】

The goal of this stay is to know and to understand the football system in Europe live from Germany.

We will focus on:

- Training methods, coaching approach (visit of a Bundesliga team)
- Relationship with sport, differences between Asia and Europe
- Not only coaching approach but also sports management.

HSS200IA

野外教育指導論演習（スノー）

平野 裕一

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 3 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
旧うか科目名：ウィンタースポーツ指導論（実習）[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウィンタースポーツとして人気の高い、スキーおよびスノーボードを生涯にわたって楽しむことができるための知識と技術を習得するとともに、ウィンタースポーツの指導者として活動できるための基盤を身につける。

【到達目標】

ウィンタースポーツについて、その特性や意義・役割を理解し、方法論、指導論を現場での実習によって行うことにより、ウィンタースポーツの技術と指導及び青少年教育のあり方について学ぶ。
具体的な到達目標としては、①受講者全てがスキーまたはスノーボードを体験し、その素晴らしさ、魅力を体得する。② S A J（全日本スキー連盟）のパジャテストに基づいた客観的エビデンスを得る。③将来、青少年教育に従事するときに必要な実技・ライフ・マネジメント・ディシジョンメイキング・リーダーとしての必要な資質と心構えを身につけた指導者を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者は、スキーまたはスノーボードのいずれかを選択し、レベルに合わせた班編成によって、スキーまたはスノーボードの楽しみ方や安全面も含め、技術の習得をねらう。実習期間中は日誌に実習内容と反省ならびに翌日の目標を記載し、自らの能力向上とスノースポーツキャンプの指導者として活動できる基盤の養成に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

通年	テーマ	内容
回		
1	スポーツの意義・役割と野外活動の位置づけ	現代におけるスポーツの意義・役割と野外活動の位置づけを学習する。
2	野外活動としてのウィンタースポーツの特性	野外活動としてのウィンタースポーツの特性を学習する。
3	ウィンタースポーツの歴史	ウィンタースポーツの歴史の古代から隆盛期について学習し、スキーの現代における状況を理解する。
4	ウィンタースポーツ活動環境	ウィンタースポーツフィールドの自然環境、人文環境、社会環境について学習する。
5	スキー・スノーボードの身体運動学	スキー、スノーボードを解剖学、バイオメカニクス、生理学、心理学からアプローチする。
6	スキー・スノーボード技術の発達と用品・用具の関係	スキー技術の発達と用品・用具の関係を理解する。
7	スキー技術と方法論（ブルークターン	スキーのブルークターンの滑走とターンのメカニズムを学習する。
8	スキーの技術と方法論（シュテムターンとバラレルターン）	スキーのシュテムターンとバラレルターンのメカニズムを学習する。
9	スノーボードの技術と方法論（ロングターン）	スノーボードのロングターンの滑走とターンのメカニズムを学習する。
10	スノーボードの技術と方法論（ショートターン）	スノーボードのショートターンの滑走とターンのメカニズムを学習する。
11	スキー・スノーボードの指導法について（装備）	スキー・スノーボードの装備について学習する。
12	スキー・スノーボードの指導法について（学校教育）	学校教育におけるスキー・スノーボードの授業のあり方について学習する。
13	スキー・スノーボードの指導法について（リスクマネジメント）	スキー傷害への対応について学習する。
14	ウィンタースポーツキャンプのオーガナイズングー実技・ライフ・マネジメント・リーダーシップのあり方	スキーキャンプのオーガナイズングー実技・ライフ・マネジメント・リーダーシップのあり方を学習する。

15	現地実習の準備	スノースポーツの特性を理解し、野外教育活動としてのスキー・スノーボードの役割と実施の仕方を学習する。
16	開講式、1 日目午後の実技講習	実習のガイダンス、実習開始時の実技評価を実施する。種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
17	1 日目夜の全体講義	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
18	2 日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
19	2 日目午後の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
20	2 日目夜の種目別講義	基本技術のワークショップを行う。
21	3 日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
22	3 日目午後の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
23	3 日目夜の種目別講義	ストレッチ、マッサージのワークショップを行う。
24	4 日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
25	4 日目午後の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
26	4 日目夜の全体講義	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
27	5 日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
28	実技テスト・閉講式	S A J の評価基準に基づいた実技評価を行い、実習開始時からの技術の向上を確認する。また、実習全体を振り返り、レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間が始まる前に、スキー、スノーボードの図書や映像教材によって技術や理論の理解を深めるとともに、必要な体力を身に付け、万全の体調で実習に望めるようにする。
実習期間中は、毎日、実習日誌への記述を通して、滑走技術や野外教育の指導法などについて振り返りをする。

【テキスト（教科書）】

本授業用に作成したテキストおよび実習日誌を配布する

【参考書】

- ・『スキー教程』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
- ・『スキーへの誘い』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
- ・『資格検定受検者のために』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）

【成績評価の方法と基準】

- ・実習前講義を、無断または正当な理由無く欠席した者はスキー場での実習参加を認めない。したがって、単位の取得はできない。
- ・事前学習の平常点 (16%)
- ・レポート課題 (10%)
- ・実習の平常点 (42%)
- ・ワークショップの平常点 (12%)
- ・実技テスト (10%)
- ・実習日誌 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

現場からの学びを大切にすることを心がける。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to acquire knowledge and skills to enjoy skiing and snowboarding throughout life and to acquire the foundation for being able to act as a leader of winter sports.

HSS200IA

野外教育指導論演習（マリン）

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、生涯スポーツとしてのマリンスポーツの技術や知識について学び、指導者として活動できるための基盤を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義及び実習では、野外活動におけるマリンスポーツについて、競技としての野外活動としてだけでなく、自然体験としての活動も視野に入れながら、その特性や意義・役割を提示し、運動学、方法論、指導論に関する講義と実習を行い、その技術と危機管理（身体的、環境的）についても正しい知識を深め、将来、青少年教育に従事する際に必要な実技・知見の習得のみならず、都市化や消費社会において、生活の質的向上の追求や健康および教育的観点からも重要性が増しつつある野外活動を通して、広い見識を持った指導者として活動しうる基盤の養成を目的とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、キャンパスでの講義および現場での実習により構成される。講義では、現代におけるスポーツの意義・役割とマリンスポーツの位置づけを示し、特に自然環境の中で行われる活動としての環境倫理的視点および危機管理に着目した内容で展開する。また、水中・水上の、あるいはそれを利用した活動はただ単に泳ぐだけではなく、環境や利用する道具によって、水辺における活動の幅が広がることを理解し、基本的な水の特性を理解するとともに青少年教育におけるスポーツ体育指導としての在り方を前提とした、水辺および水中の危険性や水中における身体的な状態について物理学、生理学、医学に関する知識を習得することにより、指導を行うための基礎的な知見や経験をつけることも目的とする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	実習における注意点や意義、本講義の内容についての理解を深める
2	講義 1	野外スポーツとしてのマリンスポーツの歴史
3	講義 2	水上および水中での活動環境について
4	講義 3	水辺および水中における身体運動学
5	プール実習 1	シュノーケリングの用具・技術について フィンやマスク、シュノーケルの役割と機能を理解する
6	プール実習 2	スキューバダイビングの機材について ダイビングに必要な機材とそれぞれの役割について理解する
7	プール実習 3	スキューバダイビングの技術について 1 タンクを背負った状態での泳法や水中での活動について理解する
8	プール実習 4	スキューバダイビングの技術について 2 水中でのコミュニケーションや、トラブルの際の対応について理解する
9	現地実習 1	ウィンドサーフィンの機材について 機材の役割や、動力となる風と、動く原理について理解を深める
10	現地実習 2	ウィンドサーフィンの技術について ボードに立ち、風を受けながら進むための技術の獲得
11	現地実習 3	ウィンドサーフィンの技術について 2 ある程度自由にボードを操れるような操作技術の獲得
12	現地実習 4	スキューバダイビングの技術について 1 実際に海中にて活動し、プールとの違いを理解する
13	現地実習 5	スキューバダイビングの技術について 2 バディシステムについて理解を深め、お互いの状況に配慮しながら潜行する

14	現地実習 6	スキューバダイビングの技術について 3 海中の状況に応じた泳法や、中性浮力を保つ
15	現地実習 7	スキューバダイビングの技術について 4 水中で自由に移動する技術の獲得の他に、 海中でのリスクについても検討する
16	現地実習 8	スキューバダイビングの技術について 5 教育的な側面から、指導上のリスクや意義について検討する
17	現地実習 9	シーカヤックの技術 1 カヤックの形状や機能、パドルの形状や、推進力を得るための構造について理解する
18	現地実習 10	シーカヤックの技術 2 自由に艇を操縦するためのパドルングや、舵の取り方を学習する
19	現地実習 11	シーカヤックの技術 3 1 人乗りと 2 人のりそれぞれを操り、それぞれの違いについて理解する
20	現地実習 12	シーカヤックの技術 4 潮の満ち引きや、川上もしくは川下への移動におけるカヤックの状態について理解する
21	現地実習 13	シーカヤックの技術 5 教育的な側面から、指導の意義とリスクについて理解する
22	現地実習 14	ウェイクボードの技術 1 器具の役割と、ジェットスキーとの関係についても理解する
23	現地実習 15	ウェイクボードの技術 2 水面に立ち、ボードをコントロールするための技術の獲得
24	現地実習 16	ウェイクボードの技術 3 教育的な側面から、指導上のリスクや意義について検討する
25	現地実習 17	スタンドアップパドルの技術 1 用具の理解や、特徴を捉える
26	現地実習 18	スタンドアップパドルの技術 2 自由に海面を進めるような技術の獲得
27	講義	それぞれの種目の特徴やリスクを踏まえ、指導する際の問題点や、教育的な意義について検討する
28	総括	終了後、活動の内容をそれぞれでまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて資料を配布する

【テキスト（教科書）】

特に設けない

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度、授業内に行う小レポート（30%）や実習参加状況（40%）、終了後の課題レポート（30%）などから総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course is to acquire knowledge and skills to enjoy marine sports throughout life and to acquire the foundation for being able to act as a leader of marine sports.

HSS200IA

専門演習 I

安藤 正志

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【その他の重要事項】

学会や大学外で開催されるセミナーなどに参加し意欲を高めながら進めます

【Outline and objectives】

Learn functional anatomy

Learn about stretching technology

Learn training techniques

Learn massage technology

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

検査測定学分野：種々の検査機器を使用しながら身体機能の検査技術を学ぶ
健康科学分野：特に健康科学分野の文献を抄読しながら理解を深める

【到達目標】

上級生あるいは教員と協同して課題に取り込むことで、身体機能の測定やメンテナンスを指導できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、運動療法学・検査測定・健康科学・スポーツ傷害学・リハビリテーション医学などについて調査し自ら学ぶ課題解決型学習と実習形態である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期は課題を提供し実習し報告をする。これを繰り返すことで実験調査まとめプレゼンテーションの力をつける。
2	歩行分析 1（実習）	歩行分析 1（実習）
3	歩行分析 2（実習）	歩行分析 2（実習）
4	まとめ	まとめ
5	姿勢分析 1（実習）	姿勢分析 1（実習）
6	姿勢分析 2（実習）	姿勢分析 2（実習）
7	まとめ	まとめ
8	運動残効（実習）	運動残効（実習）
9	運動生理学分析（実習）	運動生理学分析（実習）
10	まとめ	まとめ
11	筋力評価 1（実習）	筋力評価 1（実習）
12	筋力評価 2（実習）	筋力評価 2（実習）
13	まとめ	まとめ
14	感覚検査（実習）	感覚検査（実習）

秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期のオリエンテーション	秋学期はグループで課題を見つけ実験調査をまとめ、プレゼンテーションする。
16	グループワーキング	課題ごとのワーキング
17	課題報告会（合宿）	課題報告会（合宿）
18	グループ学習	グループ学習
19	実験 1	実験 1
20	実験 2	実験 2
21	実験 3	実験 3
22	中間報告	中間報告
23	データ分析法	データ分析法 集計表、平均値、標準偏差など
24	データ分析	データ分析 t 検定、相関分析、分散分析など
25	発表資料作成	発表資料作成
26	最終課題発表 5 名	最終課題発表
27	最終課題発表 5 名	最終課題発表
28	学会参加（合宿）	学会参加（合宿）
	日程未定	日程未定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の調査、報告書のまとめなど

【テキスト（教科書）】

特に定めず。必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点；積極的発言や態度、小テストなど（50%）課題レポートの成績（50%）

【学生の意見等からの気づき】

より多くの文献を検索し読み取る機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用することがある。

HSS200IA

専門演習 I

泉 重樹

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミにおける 2 年次のテーマは以下の 3 つである。1. アスレティックトレーナーとして必要な基礎的な知識および技術を習得すること。2. アスレティックトレーナーの役割・現状に触れる機会をできるだけ多く持つこと。3. 自身の研究テーマに沿って文献検索を行い、読んだ上でその内容に関するプレゼンテーションが行えること。

【到達目標】

本ゼミにおける 2 年次の到達目標は以下の 3 点である。1. 機能解剖学の知識を習得すること。2. 文献検索ができるようになること。3. 選手に対して HOPS に基づいた評価ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には各自の事前学習・準備のうえでプレゼンテーションソフトを使用した発表によるディスカッションおよび実技・実習が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスを行う。
2	文献検索の方法と実際 1	文献検索の方法を紹介し、実際に自分で文献を探す方法を学習する。
3	文献検索の方法と実際 2	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方を習得する。
4	機能解剖学 1	機能解剖学の演習・小テストを行う。
5	機能解剖学 2	機能解剖学の演習・小テストを行う。
6	機能解剖学 3	機能解剖学の演習・小テストを行う。
7	機能解剖学 4	機能解剖学の演習・小テストを行う。
8	実技演習 1	スポーツ現場におけるコンディショニング手法を習得する。
9	実技演習 2	スポーツ現場におけるコンディショニング手法を習得する。
10	実技演習 3	スポーツ現場におけるコンディショニング手法を習得する。
11	実技演習 4	スポーツ現場におけるコンディショニング手法を習得する。
12	スポーツ分野における外傷・障害と評価 1	HOPS および SOAP について学習する。
13	スポーツ分野における外傷・障害と評価 2	スポーツ現場の応急処置について学習・実践する。
14	スポーツ分野における外傷・障害と評価 3	ロールプレイを通して HOPS を実践する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	スポーツ分野における外傷・障害と評価 4 / 夏季研究課題の決定	評価に関する基本的事項を学習した上で、夏季課題により、各自がどの部位の評価を担当するのかを決定する。
16	肩関節の外傷・障害 / 抄読会 1	肩関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
17	膝関節の外傷・障害 / 抄読会 2	膝関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
18	頸部の外傷・障害 / 抄読会 3	頸部の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
19	実技演習 5	これまでの評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
20	実技演習 6	これまでの評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
21	実技演習 7	これまでの評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。

22	実技演習 8	これまでの評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
23	腰部の外傷・障害 / 抄読会 4	腰部の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
24	股関節・骨盤の外傷・障害 / 抄読会 5	股関節・骨盤の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
25	足関節の外傷・障害 / 抄読会 6	足関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
26	肘・前腕・手関節の外傷・障害 / 抄読会 7	肘・前腕・手関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
27	実技演習 9	これまでの評価について、実技による実践練習・試験を行う。抄読会の予備日。
28	実技演習 10	これまでの評価について、実技による実践練習・試験を行う。抄読会の予備日。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

第 15 回：春学期の復習

第 16～28 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適時資料を用意する。

【参考書】

1. 日体協公認アスレティックトレーナーテキスト 1～9
2. 坂井建雄, 松村謙児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系。医学書院。2011
3. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編。大修館。2011
4. 小林直行, 成田崇矢, 泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング。医歯薬出版。2013
5. Starkey. C., Brown. S. M.: Examination of Orthopedic and Athletic Injuries. F.A.Davis Company; 3 edition. 2009
6. 臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド第 2 版。文光堂。2015
7. 中村千秋編：ファンクショナルトレーニングー機能向上と障害予防のためのパフォーマンストレーニング。文光堂。2010
8. 日本スポーツ医学検定機構，スポーツ医学検定公式テキスト 1 級，東洋館出版社，2019

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %），ゼミ内容や課外活動への取り組み（30 %）出席や学内・学外で行われる各種イベント等への参加姿勢等も鑑みながら、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

アスレティックトレーナーはスポーツと医学に関する知識の両方が求められるため学習する内容が座学・実習ともに多い。その中で、受講生は一生懸命頑張ってくれている。今後も継続してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

【Outline and objectives】

The purposes of the athletic training seminar are as follows, 1. Learning knowledge and skills necessary as an athletic trainer. 2. To have an opportunity experiencing the student trainer as much as possible.

HSS200IA

専門演習 I

伊藤 真紀

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学・社会心理学・社会学を応用したスポーツマネジメント学についての基本となる知識を総合的に学習する。「マネジメント（基本と原則）」を読み、マネジメントの基本を学修した後、スポーツマネジメント並びにスポーツ組織行動論の基礎知識を学習する。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. 「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグラウンドを踏まえた上で、説明できる。
3. スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

前期の授業では、マネジメントならびにスポーツマネジメントに関わる基礎理論について講義を行い、スポーツマネジメント学についての基本となる知識を習得する。後期の授業では、スポーツ組織行動論に関する講義を行い、総合的にスポーツマネジメントを学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	マネジメントとは	マネジメント（基本と原則）を学ぶ マネジメントの誕生：マネジメントの生成と発展について学習する。 マネジメントの生成から現代までの一連の流れを学習する。
3	マネジメントとは 2	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
4	マネジメントとは 3	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
5	マネジメントとは 4	トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
6	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得 1	スポーツマネジメントの定義 スポーツマネジメントの歴史的発展について学習する。
7	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得 2	スポーツとメディアの関係について学習する。
8	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得 3	スポーツとダイバーシティについて学習する。
9	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得 4	スポーツと人的資源（Human Resource）の関係について学習する。
10	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得 5	スポーツリーグのマネジメントについて学習する。 スポーツチームのマネジメントについて学習する。
11	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得 6	日本のスポーツ政策とマネジメントの課題について学習する。
12	プレゼンテーションの方法について	効果的なプレゼンテーション方法、コミュニケーションスキルを学ぶ
13	プレゼンテーション 1	これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う
14	プレゼンテーション 2	前期最終プレゼンテーション これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う

秋学期

回	テーマ	内容
15	後期授業オリエンテーション	後期の授業の進め方について説明を行う。 次年度に向けた授業方針の確認を行う。

16	スポーツ組織について基礎的な知識及び理論の体系的な習得 1	スポーツ組織のマネジメントについて学習する。
17	スポーツ組織について基礎的な知識及び理論の体系的な習得 2	スポーツ組織のガバナンスについて学習する。
18	スポーツ組織について基礎的な知識及び理論の体系的な習得 3	スポーツ組織の経営戦略について学習する。
19	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 1	スポーツ組織における組織開発に向けたマネジメントについて学習する。
20	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 2	スポーツ組織における組織文化について学習する。
21	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 3	スポーツ組織における組織の外部環境分析と市場分析方法について学習する。
22	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 4	スポーツ組織における組織、個人属性および成果について学習する。
23	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 5	スポーツ組織における問題の解決と意思決定について学習する。
24	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 6	スポーツ組織における競争優位を構築するための基本戦略について学習する。
25	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 7	スポーツ組織におけるリーダーシップについて学習する。
26	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 8	スポーツ組織におけるイノベーションについて学習する。
27	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 9	スポーツ組織における多様性マネジメントについて学習する。
28	ケーススタディー	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例についての資料を事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、授業でグループディスカッション、グループプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では必ず予習として教科書「マネジメントー基本と原則」や「スポーツマネジメント」を読んでから授業に参加して欲しい。

【テキスト（教科書）】

「マネジメント」[エッセンシャル版] 基本と原則（ピーター・F・ドラッカー 上田惇生）ダイヤモンド社「スポーツマネジメント」(改訂版)（原田宗彦・小笠原悦子編著）大修館書店
「経営組織論」 鈴木竜太著 東洋経済新報社

【参考書】

特になし（毎回資料を配布する）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）および課外活動（30 %）、課題 30 %）から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションの機会を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Comprehensively learn the basic knowledge about sports management studies through management science, social psychology, and sociology. After studying the fundamentals of management by reading "Principle of Management", you will study the basic knowledge of sports management and sports organization behavior theory.

HSS200IA

専門演習 I

井上 尊寛

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習ではスポーツマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際に調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、スポーツマーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下のとおりとする：

1. スポーツマーケティングの視点からスポーツビジネスを理解することができる（前期）。
2. スポーツマーケティング調査の質問項目を設定することができる。
3. スポーツマーケティングに関するデータを収集することができる。
4. スポーツマーケティングに関するデータを分析することができる。
5. スポーツマーケティングに関するデータを考察し、発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

前期の最初はスポーツマーケティングの事例を知るため、講義形式で授業を行う。次に、スポーツマーケティング調査の実施に向け、調査の目的、方法、注意点について学習し、前期の終わりには実際にデータを収集する。後期は収集したデータを用いて結果を分析するとともに、学期末に予定されたグループ発表に向けて準備を行い、最終的にプレゼンテーションまで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：前期の概要の説明	スポーツマーケティングに関する専門的な学びに向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	マーケティングの考え方	マーケティングの定義、特徴、重要性について学習する
第 3 回	スポーツマーケティングの考え方	スポーツマーケティングについて、定義、独自性、サービス業としての特性などとともに学習する
第 4 回	事例を知る：プロスポーツのマネジメント	プロスポーツの仕組み、収入構造、観戦者特性などについて学習する。
第 5 回	事例を知る：スポーツレガシーのマネジメント	スポーツイベントが開催地にもたらす長期的な恩恵をレガシーと呼ぶ。本授業ではこのレガシーのマネジメントについて理解を深める。
第 6 回	スポーツマーケティングに関する情報検索	スポーツマーケティング調査や研究を実施する際に必要な情報（論文、実践現場、新聞、書籍、雑誌、報告書、学会）の収集方法について学ぶ。
第 7 回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査	スポーツ消費者を対象としたマーケティング調査の目的、内容、実施方法、結果の報告などについて、スポーツ観戦者の調査を例に学習する。
第 8 回	データを読み取る：データ入力	スポーツビジネスに関する資料・データを収集し、エクセルに入力する。
第 9 回	データを読み取る：基礎集計	スポーツビジネスに関する資料・データを、統計ソフトを用いて集計し、度数分布および平均を算出する。
第 10 回	データを読み取る：グラフの作成	スポーツビジネスに関する資料・データを基礎集計としてまとめ、グラフを作成する
第 11 回	情報をまとめる：スライドの作成	スポーツビジネスに関する情報を、パワーポイントスライドを用いてまとめる
第 12 回	情報をまとめる：プレゼンテーションの方法	スポーツビジネスに関する情報をプレゼンテーションの方法について学ぶ
第 13 回	情報を報告する：前半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：前半グループ
第 14 回	情報を報告する：後半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：後半グループ

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	オリエンテーション：後期の概要の説明	前期に実施したスポーツマーケティング調査の目的および内容を再確認するとともに、後期の流れを理解し、最終発表までの計画を立てる。
第 16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などについて学ぶ。
第 17 回	調査データの記述統計：度数分布、クロス集計、平均、標準偏差	収集したデータを用いて、度数分布、平均値、標準偏差、クロス集計などの記述統計について学習する。
第 18 回	調査データの記述統計：セグメントの設定と分類に基づく集計	カテゴリ変数を用いて標本をいくつかのセグメントに分類し、グループ間で記述統計をまとめる方法について学習する。
第 19 回	自由回答の集計および分析	質的な自由回答を分析するため、コーディング、カテゴリ化、類型化について学習する。
第 20 回	心理的変数の分析	心理的尺度の信頼性と妥当性の分析方法について学ぶ。
第 21 回	グループ間の比較に関する統計分析	仮説検定の基本的な考え方を学ぶとともに、統計的にグループ間比較を行うため、カイニ乗検定、t 検定、分散分析について学ぶ。
第 22 回	要因間の関係性に関する統計分析	心理的変数や行動的変数の間の関係性を分析するため、相関分析および回帰分析の基礎を学ぶ。
第 23 回	セグメント別に要因間の関係性を分析する方法	性別、年齢、購買頻度などに基づいて消費者を細分化し、要因間の関係性を分析する方法について学ぶ。
第 24 回	分析結果をまとめる：図表の作成	記述統計や推計統計の結果をエクセルの図表でまとめる方法を学ぶ。
第 25 回	分析結果をまとめる：スライドの作成	分析結果および作成した図表を効果的に発表するため、パワーポイントスライドの作成方法を学ぶ。
第 26 回	分析結果をまとめる：発表方法	パワーポイントスライドを完成させるとともに、発表方法について学ぶ。
第 27 回	分析結果の報告：第 1 グループ	データを収集・分析した結果について、第 1 グループが発表する。
第 28 回	分析結果の報告：第 2 グループ	データを収集・分析した結果について、第 2 グループが発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外のグループ学習の課題として、質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備が順番に与えられます。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

- (1) みるスポーツのマーケティングに関するレポート（10 点、前期）
 - (2) 質問項目の作成（10 点、前期）
 - (3) データ収集（20 点、前期）
 - (4) 結果の分析（図表およびスライド資料）（30 点、後期）
 - (5) 結果の報告（プレゼンテーション）（30 点、後期）
- 合計：100 点

【評価基準】

それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。

100%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。

80%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出している。

60%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から解決策を導き出している。

40%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組んでいる。

20%：授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文脈も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【Outline and objectives】

This seminar is an introduction to the basic elements of sport marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct sport marketing research.

HSS200IA

専門演習 I

江川 賢一

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2～年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ること、そして、それらを実践の場面で活かせるようになることを目標とする。

【到達目標】

・研究の進め方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

子どもから高齢者にいたるまで幅広い性および年代について、健康体力づくりに関する事例や学術論文などの情報を収集してディスカッションを行う。そして、健康づくりに関わる現場を知り、様々な経験を積む。さらに、健康づくりへの取り組みの効果を科学的に評価する手法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、各自の関心のあるテーマを発表。
2	スポーツ健康学部役割	社会に対して学部として何ができるか、また、卒業後にはどのような所で活躍できるかをディスカッションする。
3	文献の検索	論文を選ぶ。
4	論文抄読	発表と質疑応答。
5	論文抄読	発表と質疑応答。
6	幼児の体力	幼稚園児の体力テスト測定の計画およびリハーサル
7	幼児の体力	幼稚園児の体力測定の実施
8	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果のデータ整理
9	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果についての考察
10	フィールドワーク	健康づくりに関連する場に出かけて調査する。
11	フィールドワーク	フィールドワークで得た結果についてディスカッションしてまとめる。
12	健康づくり教室	健康づくりを目的とした教室型の取り組みについて調べる。
13	健康づくり教室	健康づくり教室を企画する。
14	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。
15	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。
16	心拍数	心拍数の測定。
17	心拍数	心拍数の測定値を用いたショートレポートの発表。
18	酸素摂取量	酸素摂取量の測定。
19	酸素摂取量	酸素摂取量の測定値を用いたショートレポートの発表。
20	身体活動量	身体活動量の測定。
21	身体活動量	身体活動量の測定値を用いたショートレポートの発表。
22	身体組成	身体組成の測定。
23	身体組成	身体組成の測定値を用いたショートレポートの発表。
24	筋力	筋力の測定。
25	筋力	筋力の測定値を用いたショートレポートの発表。
26	アンケート調査	アンケート調査の実践。
27	アンケート調査	アンケート調査を用いたショートレポートの発表。
28	1 年間の反省	1 年を振り返って意見交換。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連の文献収集、測定や調査を実施した結果のまとめ。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業への参加 (40%)：ただ出席をカウントするだけでなく、ディスカッションに参加し、自分の意見をどれだけ述べられたかを評価する。

(2) 課題の提出および発表 (60%)：ショートレポートや企画したプログラムの、内容および発表・実施について評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活発な議論ができる環境を整える。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

専門演習 I では研究テーマを探索するため、集中講義、フィールドワークに積極的に参加し、他の受講者と積極的に協力すること。担当講師は研究機関で運動生理学研究に従事した経験を活かして、体力増進、介護予防や健康づくりについて教授する。

【Outline and objectives】

This seminar is intended to enhance the students' understanding of the role of life style (sports, exercise and physical activity) in physical education and health promotion. Students will learn to critically evaluate the evidence and literature in sports sciences and health research.

HSS200IA

専門演習 I

荻部 俊二

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位
曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義で修得した理論を主体的に受けとめ、実践する姿勢を育てる。

【到達目標】

2 年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をととして学習を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

学術論文や先行研究を読み、理解することを目的とし、体育学、コーチ学、スポーツ心理学などといった運動科学分野における論文の構成、研究の方法、分析方法などを学んでいく。また、プレゼンテーションによる討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期受講ガイダンス	演習の概要についてガイダンスを行う。
第 2 回	情報・文献の検索 1	図書館を利用し、情報・文献検索の方法を学習する。
第 3 回	情報・文献の検索 2	インターネットなど様々な方法での情報収集の方法、文献検索の方法について学習する。
第 4 回	統計解析の基礎 1	実験・研究に必要な統計解析の基礎について理解を深める。
第 5 回	統計解析の基礎 2	実験・研究に必要な統計解析について理解を深める。
第 6 回	統計解析の基礎 3	実験・研究に必要な統計解析について理解を深める。
第 7 回	研究法 1	分散分析 スポーツ科学に関する研究法・実験法を学習する。
第 8 回	研究法 2	スポーツ科学に関する研究法・実験法を学習する。
第 9 回	研究法 3	スポーツ科学に関する研究法・実験法を学習する。
第 10 回	文献の検索と輪読 1	興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。その文献を要約しレジュメを作成、発表を行う。
第 11 回	文献の検索と輪読 2	興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。その文献を要約しレジュメを作成、発表を行う。
第 12 回	文献の検索と輪読 3	興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。その文献を要約しレジュメを作成、発表を行う。
第 13 回	文献の検索と輪読 4	興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。その文献を要約しレジュメを作成、発表を行う。
第 14 回	文献の検索と輪読 5	興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。その文献を要約しレジュメを作成、発表を行う。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	春学期のまとめ	春学期授業のまとめを行う。 夏休み期間の課題研究について話し合う。
第 16 回	秋学期受講ガイダンス	秋学期授業のガイダンスを行う。 夏期研究のまとめを行う。
第 17 回	実験・調査の方法：実験法 1	研究・実験に必要な器を使用し理解を深める。
第 18 回	実験・調査の方法：実験法 2	研究・実験に必要な実験方法について実際に機器を使用し理解を深める。
第 19 回	実験・調査の方法：調査法 1	研究・実験に必要な調査の方法、について理解を深める。
第 20 回	実験・調査の方法：調査法 2	研究・実験に必要な調査の方法、について理解を深める。
第 21 回	実験・調査の方法：データの解釈方法 1	集まったデータの解析方法、解釈の方法について学習する。

第 22 回	実験・調査の方法：データの解釈方法 2	集まったデータの解析方法、解釈の方法について学習する。
第 23 回	論文の構成・書き方	論文の構成、書き方、ルールについて理解を深める。
第 24 回	プレゼンテーション方法	パワーポイントを使用したプレゼンテーションの方法について学習する。
第 25 回	各自研究テーマのプレゼン・ディスカッション 1	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
第 26 回	各自研究テーマのプレゼン・ディスカッション 2	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
第 27 回	今後の研究課題の方向性発表 1	演習Ⅱに向けた各自の研究課題について検討し、方向性について発表を行う。
第 28 回	今後の研究課題の方向性発表 2	演習Ⅱに向けた各自の研究課題について検討し、方向性について発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし
第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習
第 16 回：春学期の復習
第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）とプレゼンテーション（50 %）によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn how to conduct research in the field of physical education (and sports science), looking at things such as physical fitness and coaching methods. Students will learn how to read the precedent studies, analyze data and write an academic paper.

HSS200IA

専門演習 I

鬼頭 英明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、授業実践や文献輪読を通じて学校保健や公衆衛生上の健康課題について理解を深めることである。

いじめ、不登校、心の健康、不規則な生活習慣、性の逸脱行動、喫煙、飲酒、薬物乱用やアレルギーなど学校保健上の課題を取り上げ、全般的に理解を深めるとともに、どのような対応を考えていくべきかについて見識が深められるようにする。

【到達目標】

専門演習を通し、保健について理解を深めることにより、高度な専門性を備えることができるようにすることを目指すとともに、効果的な授業づくりができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、講義により基本的事項について理解を図る。その後、参考文献や関連図書を題材とし、レポート作成し、それをもとに討論を重ねる。課題解決のためにできる方策をまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	専門演習の進め方について確認する。
2	文献と検索	保健に関する専門雑誌を紹介し、論文の構成について理解する。
3	まとめ方	レポートのまとめ方について理解する。
4	子どもの健康課題	現代的な健康課題について理解する。
5	子どもの生活習慣病の課題	子どもの基本的な生活習慣の重要性について理解する。
6	性の逸脱行動	子どもの性に関する健康課題について理解する。
7	喫煙	子どもの喫煙に関する健康課題について理解する。
8	飲酒	子どもの飲酒に関する健康課題について理解する。
9	薬物乱用	子どもの薬物乱用に関する健康課題について理解する。
10	メディアと健康	子どものメディアから受ける健康課題について理解する。
11	子どもが身につけるべきミニマム	保健において子どもが身につけるべきミニマムとは何か理解を深める
12	ライフスキル教育	ライフスキル教育の構成概念について理解を深める
13	学校におけるライフスキル教育の進め方	学校でのライフスキル教育の進め方について理解を深める
14	学習指導要領の組み立て	保健に関する学習指導要領の組み立てについて理解する
15	学習指導要領の系統性	発達段階を踏まえた学習指導要領の校種間での系統性について理解する
16	保健に関する教材の考え方	保健の教材について既存の資料の内容の考え方について理解を深める
17	学習指導要領各論	学習指導要領で示される感染症の指導内容について理解する
18	感染症について	学校安全に関する指導内容について理解する
19	学校安全の教育内容	学習指導要領における性に関する指導内容について理解を深める
20	性に関する指導	学習指導要領における喫煙と健康に関する指導内容について理解を深める
21	喫煙防止教育	学習指導要領における飲酒と健康に関する指導内容について理解を深める
22	飲酒防止教育	学習指導要領における薬物乱用と健康に関する指導内容について理解を深める
23	薬物乱用防止教育	学習指導要領における医薬品に関する指導内容について理解を深める
24	医薬品に関する指導	

24	食育と食品安全	学習指導要領における食に関する指導及び食品安全に関する指導内容について理解を深める
25	心の健康	学習指導要領における心の健康に関する指導内容について理解を深める
26	環境と健康	学習指導要領における環境と健康に関する指導内容について理解を深める
27	がんに関する指導	がんに関する指導内容について理解を深める
28	科学的根拠とは	科学的根拠に基づいて指導することの重要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題による準備を基本とする。

【テキスト（教科書）】

配付資料による。

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート点 70 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見は積極的に取り入れる

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンの持参

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進展により変更がありうる

【Outline and objectives】

The purpose of this course is for students to deepen their understanding of school health, public health.

HSS200IA

専門演習 I

木下 訓光

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「見る・聞く・体験する」から始めて「読む・分析する・評価する」へ

【到達目標】

科学的分析および論理的思考能力を獲得するための基礎を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

① 2 年時においては、3 年時以降に本格的に取り組む研究テーマの探求と、実践の体験に必要な知識とスキルの習得を目的として講義・実習を行うが、3 年生、4 年生のプレゼンテーションとその指導からも学ぶ機会を得る。

② 扱う内容は、プレゼンテーション、インタビューやコミュニケーション、科学研究の方法論、スポーツ医学の理解に必要な統計学、英語論文・文献の読解法、体力の重要な構成要素である「持久力」、「体組成」、「筋力・パワー」についての正確な理解、スポーツ栄養などである。

③ スポーツ医学やスポーツ科学分野の学会・研究会に参加し、研究テーマと関連した、または興味のあるテーマについて学習・取材する。

④ 文章を読み、理解し、評価する能力を養うための抄読会式セッションも定期的に設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本専門演習の理念、各学生の目標設定、長期的な学習計画について。課題図書への提示。
2	プレゼンテーション・スキル①	【演習】2 年生の自己紹介（英語）
3	プレゼンテーション・スキル②	【講義】プレゼンテーションの方法論に関する講義
4	プレゼンテーション・スキル③	【演習】3 年生による課題報告（英語）
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
6	研究報告会①	【演習】3 年生による研究発表会-1
7	体組成①：体組成測定の精度	【講義】各種体組成測定方法の原理、component model について理解する。
8	体組成②：インピーダンス法	【実習】インピーダンス法による体組成評価を行う。 インピーダンス法の原理について学ぶ。
9	体組成③：骨密度	【実習】DXA 法による実際に体組成評価を行う。 DXA 法および骨密度について理解する。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
11	持久力①：最大酸素摂取量の測定①	【実習】最大酸素摂取量の測定を行う。
12	持久力②：最大酸素摂取量の測定②	【実習】最大酸素摂取量の測定を行う。
13	持久力③：最大酸素摂取量の測定③	【演習】測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。
14	持久力④：最大酸素摂取量の測定④	【演習】測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
16	LT の測定①	【実習】LT を測定する。
17	LT の測定②	【実習】LT を測定する。
18	LT の測定③	【演習】測定データをもとに、被検者の LT 等を検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
20	ヒューマンカロリーメーター ①	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。

21	ヒューマンカロリーメーター ②	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
22	ヒューマンカロリーメーター ③	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
23	ヒューマンカロリーメーター ④	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
24	研究報告会②	【演習】3 年生による研究発表会-2。
25	Book Club ⑤	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
26	スポーツ栄養①	【講義】栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの機序について正確に理解する。
27	スポーツ栄養②	【実習】栄養調査・分析を行う。
28	スポーツ栄養③	【演習】栄養調査・分析の結果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

① 課題図書・文献のレビュー作成

② データ解析

③ 学外研究会への参加

【テキスト（教科書）】

・本多勝一、『中学生からの作文技術』。朝日新聞社。（2004）※研究室収蔵
・福澤一吉、『議論のレッスン』。生活人新書。（2002）※資料室収蔵
・小笠原 喜康、片岡 則夫、『中学生からの論文入門』。講談社現代新書。（2019）

【参考書】

・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 10th ed. (2017) ※研究室収蔵、ただし旧版は資料室収にあり/b >

・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 4th ed. (2007) ※資料室収蔵

・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams & Wilkins; 4th ed (2012) ※研究室収蔵、ただし第 3 版は資料室にあり

・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed. (2018) ※研究室収蔵

【成績評価の方法と基準】

① 参加の仕方・姿勢（20%）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。成果はレポートなどで評価する。

② 抄読会（20 %）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。

③ プレゼンテーション（20 %）：発表の structure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skill の水準。

④ 実習参加（20 %）：実習参加、レポート作成を評価する。

⑤ 演習およびレポート作成（20 %）：科学的分析能力。

⑥ 夏期セミナー、研究会への参加（optional）：夏期セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】

実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic knowledge and skills of critical reading, scientific analysis, and logical thinking.

HSS2001A

専門演習 I

瀬戸 宏明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①運動器の障害に対する予防、再生について必要な基礎知識の獲得。
- ②実習などを通して医学、医療の現状を把握する。
- ③各自の研究テーマの決定とそれに沿った文献考察や研究成果について適時プレゼンテーションがおこなえる。

【到達目標】

- ①運動器疾患についての知識の獲得。
- ②運動器疾患について所見に基づいて評価ができる。
- ③科学的分析および論理的思考能力の基礎能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
- ②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
- ③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう。
2	プレゼンテーションの方法と実際 1	2 年生の自己紹介。
3	プレゼンテーションの方法と実際 2	プレゼンテーションの方法論に関する講義など。
4	文献検索の方法と実際	文献検索の方法を紹介して実際に自分で検索する方法を学習する。
5	機能解剖学/抄読会 1	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
6	機能解剖学/抄読会 2	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
7	機能解剖学/抄読会 3	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
8	機能解剖学/抄読会 4	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
9	機能解剖学/抄読会 5	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
10	機能解剖学/抄読会 6	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
11	機能解剖学/抄読会 7	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。

12	機能解剖学/抄読会 8	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
13	スポーツ現場での障害への評価・処置/抄読会 9	スポーツ現場での評価・処置について/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
14	春学期のまとめ	春学期の総括と秋学期以降の研究テーマを決定する。
秋学期	テーマ	内容
15	頭頸部について/抄読会	頭頸部の評価を含めた発表・討議/抄読会をおこなう。
16	肩関節について/抄読会	肩関節の評価を含めた発表・討議/抄読会をおこなう。
17	肘関節、手関節について/抄読会	肘関節・手関節の評価を含めた発表・討議/抄読会をおこなう。
18	体幹、骨盤、股関節について/抄読会	体幹・骨盤・股関節の評価を含めた発表・討議/抄読会をおこなう。
19	膝関節について/抄読会	膝関節の評価を含めた発表・討議/抄読会をおこなう。
20	足関節、足部について/抄読会	足関節・足部の評価を含めた発表・討議/抄読会をおこなう。
21	変形性関節症について/抄読会 1	変形性関節症の疫学、経過、治療などについて討議する/抄読会をおこなう。
22	変形性関節症について/抄読会 2	変形性関節症の疫学、経過、治療などについて討議する/抄読会をおこなう。
23	疲労骨折について/抄読会 1	疲労骨折の疫学、受傷機序、経過、治療などについて討議する/抄読会をおこなう。
24	疲労骨折について/抄読会 2	疲労骨折の疫学、受傷機序、経過、治療などについて討議する/抄読会をおこなう。
25	実技演習 1	これまでの知識を利用して傷害の評価を実習する。
26	実技演習 2	これまでの知識を利用して傷害の評価を実習する。
27	実技演習 3	これまでの知識を利用して傷害の評価を実習する。
28	秋学期のまとめ	秋学期の総括と 3 年時の研究テーマを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回 特になし

第 2-14 回：前回授業の復習

第 15 回：春学期の復習

第 16-28 回：前回授業の復習

その他：課題レポートなど

【テキスト（教科書）】

特に指定なし

適時資料を用意する

【参考書】

・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008)

・坂井 健雄、松村 譲児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動系、医学書院、2011
・臨床スポーツ医学編集委員会：新刊スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド、文光堂、2003

【成績評価の方法と基準】

基本的には

①平常点 70 点

②各内容や課題への取り組み 30 点

であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する場合がある。

プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

【Outline and objectives】

In this course, we study the fundamental concepts related with sports medicine especially orthopaedics diseases. By reading scientific articles and practical measurements during exercise, students will be able to learn about sports medicine and orthopaedics diseases.

HSS2001A

専門演習Ⅰ

永木 耕介

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位
曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育科教育学の基礎理論と授業づくりについて学ぶ。

【到達目標】

学校体育の目標と内容、体育科の学習指導、指導方略・技術、授業計画・授業づくり等に関する最新の基礎理論を習得する。それらを踏まえ、学習指導要領に示された各運動領域にもとづく授業づくりについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

「基礎理論」の習得については、中学校・高等学校の『学習指導要領解説・保健体育編』および体育科教育学・スポーツ教育学に関する参考書を読み解く。「授業づくり」については、学習指導要領に示された各運動領域＋体育理論の演習（模擬授業）に参加し、体験する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	体育科教育学・スポーツ教育学に関する資料・文献の紹介および演習の計画について確認する。
2	「体づくり運動」の理論的検討	「体づくり運動」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
3	「体づくり運動」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「体づくり運動」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
4	「器械運動」の理論的検討	「器械運動」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
5	「器械運動」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「器械運動」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
6	「陸上競技」の理論的検討	「陸上競技」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
7	「陸上競技」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「陸上競技」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
8	「球技」の理論的検討	「球技」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
9	「球技」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「球技」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
10	「武道」の理論的検討	「武道」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
11	「武道」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「武道」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
12	「ダンス」の理論的検討	「ダンス」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
13	「ダンス」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「ダンス」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
14	「体育理論」の理論的検討	「体育理論」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	「体づくり運動」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
16	「体づくり運動」の模擬授業の実施	担当グループが「体づくり運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。

17	「器械運動」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
18	「器械運動」の模擬授業の実施	担当グループが「器械運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
19	「陸上競技」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
20	「陸上競技」の模擬授業の実施	担当グループが「陸上競技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
21	「球技」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
22	「球技」の模擬授業の実施	担当グループが「球技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
23	「武道」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
24	「武道」の模擬授業の実施	担当グループが「武道」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
25	「ダンス」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
26	「ダンス」の模擬授業の実施	担当グループが「ダンス」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
27	「体育理論」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
28	「体育理論」の模擬授業の実施	担当グループが「体育理論」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外で各自が文献資料・データを収集して読み込み、指導案を作成する必要がある。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成 20 年版・平成 29 年版（東山書房）

高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編 （東山書房）

【参考書】

体育の教材を創る（大修館書店）
保健体育科教育法 （大修館書店）
新版体育科教育学入門 （大修館書店）
保健体育科教育法 （アイオーエム）
内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）

【成績評価の方法と基準】

参加状況・態度による平常点（50%）、プレゼンテーション・模擬授業（30%）、レポート点（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今後も学生参加型の授業方法で進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出において授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

授業計画は展開によって変更があり得る。

【Outline and objectives】

This seminar is for students wishing to study Physical Education pedagogy through an examination of fundamental theories, and looking at the design of lesson plans.

HSS2001A

専門演習 I

中澤 史

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマを絞り込むとともに、卒業論文作成のための基礎的な研究手法を学ぶ。

【到達目標】

1. スポーツ心理学領域の動向について理解を深め、研究テーマを絞り込む。
2. 卒業論文作成のための基礎的な心理学的研究手法を理解する。
3. 可能であれば予備調査に取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツメンタルトレーニングやチームビルディングを中核としたスポーツ心理学領域の学術論文や事例報告を収集・発表し、その内容についてディスカッションすることを通して、当該領域の動向について理解を深める。また、講義や体験的学習により、研究活動の遂行に不可欠となる基礎的な心理学の研究手法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明，他已紹介，演習方針の決定
2	心理サポートの動向	昨今の心理サポートの動向を探る
3	スポーツメンタルトレーニングの方法	スポーツメンタルトレーニングの方法について学ぶ
4	スポーツカウンセリングの方法	スポーツカウンセリングの方法について学ぶ
5	チームビルディングの方法	チームビルディングの方法について学ぶ
6	スポーツメンタルトレーニングの実践	個人を対象としたスポーツメンタルトレーニングの事例を概観する
7	スポーツカウンセリングの実践	個人を対象としたスポーツカウンセリングの事例を概観する
8	チームを対象とした心理サポートの実践	チームを対象とした心理サポートの事例を概観する
9	体育授業における心理サポートの実践	体育授業における心理サポートの事例を概観する
10	レジュメ	レジュメの書き方を学ぶ
11	文献	文献の検索方法と記載の仕方を学ぶ
12	プレゼンテーション	各自が関心のある研究課題についてプレゼンテーションする
13	プレゼンテーション	各自が関心のある研究課題についてプレゼンテーションする
14	総括	夏季休業中に取り組む研究計画の立案・発表
15	夏期の取り組みの振り返り	夏季休業中に実施した研究成果の発表
16	研究調査法	実験法，質問紙法，事例検討について解説する
17	実験法	実験法について学ぶ
18	事例検討の方法	インタビューの方法，面接の進め方・記録の仕方，倫理規定について学ぶ
19	事例検討の実践（KJ 法、GTA）	KJ 法，GTA による事例報告について学ぶ
20	事例検討の実践（語りの研究）	心理学的諸理論に基づく語りの研究について学ぶ
21	研究調査法の検討	各調査法の長所・短所，相互補完性について学ぶ
22	質問紙法の実践	精神力，パーソナリティの測定・評価を行なう
23	データの整理（心理統計の基礎）	心理統計の必要性を知る
24	データの整理（相関係数）	2 つの変数の関係：「相関係数」について学ぶ
25	データの整理（母集団と標本）	「母集団と標本」に関連したトピックについて学ぶ
26	データの整理（t 検定）	統計的仮説検定について学ぶ
27	データの整理（分散分析）	分散分析について学ぶ

28 総括

研究課題の選定・発表，演習全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関連する文献の収集・読解，およびプレゼンテーションの準備等への取り組みを期待する。

【テキスト（教科書）】

中澤 史「アスリートの心理学」日本文化出版 2016

【参考書】

1. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004
2. 藤田哲也（編）「大学基礎講座」北大路書房 2006

【成績評価の方法と基準】

1. 研究計画書，レジュメ，リアクションペーパー，各種課題等の提出物（50 %），授業への参画状況およびプレゼンテーション（50 %）による総合評価。
2. 原則として、欠席 3 回までを評価の対象とします。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. プレゼンテーションでは、発表の仕方，スライドの体裁等について評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教育実習，介護実習等の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡すること。社会的スキルの一つとみなされる「ハウ・レン・ソウ（報告，連絡，相談）」の実施を求めます。

【その他の重要事項】

1. 授業概要の説明，発表順の決定などを行なうため，必ず初回授業に出席すること。
2. 上記の授業計画は，受講者数等によって変更される場合がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students prepare the fundamental methods of graduation thesis.

HSS2001A

専門演習Ⅰ

成田 道彦

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位
曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツや健康など分野にとらわれず疑問、問題点など興味あるテーマを設定し、調査、研究する。

【到達目標】

各自が調査、研究し発表した中から次年度以降の研究テーマを見つけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

グループ別にスポーツに関することや興味のあることや疑問に思うことを調査発表し、プレゼンテーション能力を高めていく。秋学期はその過程で各自の研究テーマのヒントを見つけ、調査研究し発表してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の計画、自己紹介
2	指導者について	これまでに会った指導者について。
3	論文について	レポートと論文の違いについて学ぶ。
4	グループ別調査 1	グループに分かれて関心あるテーマを決める。
5	グループ別調査 2	調査方法と役割分担を明確化する。
6	グループ別調査 3	テーマに沿ってグループ別調査
7	グループ別調査 4	グループ別レジュメの作成
8	グループ別調査 5	グループ別発表準備
9	プレゼンテーション 1	グループ別発表
10	プレゼンテーション 2	グループ別発表
11	プレゼンテーション 3	グループ別発表
12	プレゼンテーション 4	グループ別発表
13	プレゼンテーション 5	グループ別発表
14	春学期まとめ	春学期の反省点を確認し秋学期に備える。

秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	秋学期の計画
16	個人別研究テーマの検討	各自の研究テーマを検討する。
17	個人別研究テーマの決定 1	各自の研究テーマ発表
18	個人別研究テーマの決定 2	各自の研究テーマ発表
19	個人別研究テーマの決定 3	各自の研究テーマ発表
20	個人別研究中間発表 1	文献の検討と講読。レジュメの作成
21	個人別研究中間発表 2	文献の検討と講読。レジュメの作成
22	個人別研究中間発表 3	文献の検討と講読。レジュメの作成
23	個人別研究中間発表 4	文献の検討と講読。レジュメの作成
24	個人別研究発表 1	個人別研究発表。論文作成
25	個人別研究発表 2	個人別研究発表。論文作成
26	個人別研究発表 3	個人別研究発表。論文作成
27	個人別研究発表 4	個人別研究発表。論文作成
28	秋学期まとめ	年間の授業を総括し、次年度へ備える。反省点・問題点を認識する。論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

第 15 回：春学期の復習

第 16～28 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、発表（40%）、積極性（20%）

授業に対する積極的な取り組み（研究・発表等）、授業態度等を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

発表した内容についてもっと幅広い議論が必要だったように思えるので改善していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

In this course students make a research on a topic which they wish to study in any field which is related or unrelated to sports and health.

HSS2001A

専門演習 I

Nemes Roland

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

球技におけるトップレベルの選手やコーチに求められていることについて知識を深めることを目標とする。年齢・性に応じた育成、又はトップレベルでのコーチングを学習する。

【到達目標】

各自が調査、研究し発表した中から次年度以降の研究テーマを見つけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

学術論文や先行研究を読み、理解することを目的とし、体育学、コーチ学、スポーツ心理学などといった運動科学分野における論文の構成、研究の方法、分析方法などを学んでいく。また、プレゼンテーションによる討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介。本演習について説明と意見交換を行う。
2	スポーツコーチングについて	情報收拾について学習する
3	国際的なコーチ育成の取り組み	国際的なスポーツコーチに求められている様々な能力
4	トップレベルまでの選手育成	コーチ育成のための海外の取組み
5	ジュニア期の育成について	年齢・性に応じたコーチング、長期的なアスリート開発（LTAD）、一貫指導
6	ジュニア期の育成について	海外で行う一貫指導における論文を紹介する
7	ジュニア期の育成について	国内の一貫指導における情報をグループ別発表を行う
8	ジュニア期の育成について	球技における様々なコーチング方法、Game Centred Approach に着目して
9	ジュニア期の育成について	ジュニア期の選手育成についてグループ別論文発表とディベート
10	実技	ジュニア期の選手育成についてグループ別論文発表とディベート
11	トップレベル・国際レベルコーチング	Game Centred Approach を実践的に学習する
12	トップレベル・国際レベルコーチング	トップアスリートのコーチングに求められている能力、環境
13	トップレベル・国際レベルコーチング	アスリートのパフォーマンスにおける情報收拾、研究法論
14	まとめ	現場視察

秋学期

回	テーマ	内容
15	夏季休業期間の取り組みの振り返り	前期をまとめて、後期に向けて準備する。夏季休業中に取り組む研究計画の立案・発表。
16	選手育成・コーチングについて①	夏季休業中に実施した研究成果の発表。
17	選手育成・コーチングについて②	様々な種目における選手育成・コーチング現場における情報共有とディスカッション。
18	選手育成・コーチングについて③	様々な種目における選手育成・コーチング現場における情報共有とディスカッション。
19	選手育成・コーチングについて④	様々な種目における選手育成・コーチング現場における情報共有とディスカッション。
20	選手育成・コーチングについて⑤	様々な種目における選手育成・コーチング現場における情報共有とディスカッション。

21	ゲーム分析	試合分析用のソフトを利用し、ゲーム分析について学習する。
22	コーチング評価方法論	コーチ人・コーチングの成果を評価法について学習する。
23	指導案の検討①	興味がある種目について担当グループで作成した指導案を作成し、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
24	指導案の検討②	興味がある種目について担当グループで作成した指導案を作成し、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
25	指導案の検討③	興味がある種目について担当グループで作成した指導案を作成し、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
26	大会、又は指導現場の見学①	コーチングが行われている現場の視察を行う。
27	大会、又は指導現場の見学②	現場視察における評価発表、ディスカッションを行う。
28	まとめ	1 年を振り返って意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外のグループ学習の課題として、質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備が順番に与えられます。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

その都度、用意する。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50 %) とプレゼン (50 %) によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文献も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ワード、エクセル、DVD、映像資料を使うことがある。

【Outline and objectives】

The main objective is to learn about coaching in a practical and theoretical way. Students will be required to search and present issues they are interested in sports coaching.

HSS2001A

専門演習 I

平野 裕一

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツのコーチングにおける科学の活用を探る。そのためにはスポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学の知識と活用法を理解していることが求められる。この授業では特に活用法に焦点を絞り、スポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学で用いられる測定法に習熟する。

【到達目標】

スポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学で用いられる測定法の原理を理解し、活用できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

測定法ごとにグループをつくる。2グループ並行で測定を進める。

測定法の原理、使い方を調べてプレゼンテーションする。

測定法を使った事前の測定を計画する。

事前の測定から実際の測定を計画する。

実際の測定を実施し、参加者にフィードバックする。

測定に関する先行研究を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方のガイダンス グループ分けと測定法の選択
2	VTRとフォースプレートの原理と使用方法	VTRの原理と高速撮影法、分析法のプレゼンテーション フォースプレートの原理と使い方のプレゼンテーション
3	VTRとフォースプレートの事前測定①	2グループに分けての事前測定の説明、実施
4	VTRとフォースプレートの実際の測定①	事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
5	VTRとフォースプレートの測定分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
6	VTRとフォースプレートの事前測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
7	VTRとフォースプレートの実際の測定② バイコンと筋電図の原理と使用方法	事前測定の結果報告 2グループ交替しての実際の測定の説明、実施 バイコンの原理と撮影法、分析法のプレゼンテーション 筋電図の原理と使い方のプレゼンテーション
8	VTRとフォースプレートの測定分析結果② バイコンと筋電図の事前測定①	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック 2グループに分けての事前測定の説明、実施
9	VTRとフォースプレートの先行研究 バイコンと筋電図の実際の測定①	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション 事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
10	バイコンと筋電図の測定分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
11	バイコンと筋電図の事前測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
12	バイコンと筋電図の実際の測定②	事前測定の結果報告 2グループ交替しての実際の測定の説明、実施
13	バイコンと筋電図の測定分析結果②	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック
14	バイコンと筋電図の先行研究	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション
15	後半のガイダンス	授業の進め方のガイダンス グループ分けと測定法の選択

16	酸素摂取量と筋力測定の原理と使用方法	酸素摂取量測定の原理と測定法のプレゼンテーション バイオデックスの原理と使い方のプレゼンテーション
17	酸素摂取量と筋力測定の事前測定①	2グループに分けての事前測定の説明、実施
18	酸素摂取量と筋力測定の実際の測定①	事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
19	酸素摂取量と筋力測定の測定分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
20	酸素摂取量と筋力測定の事前測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
21	酸素摂取量と筋力測定の実際の測定② 身体組成とGPSの原理と使用方法	2グループに分けての実際の測定の説明、実施 身体組成の原理と測定法のプレゼンテーション GPSの原理と使い方のプレゼンテーション
22	酸素摂取量と筋力測定の測定分析結果② 身体組成とGPSの事前測定①	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック 2グループに分けての事前測定の説明、実施
23	酸素摂取量と筋力測定の先行研究 身体組成とGPSの実際の測定①	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション 事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
24	身体組成とGPSの測定分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
25	身体組成とGPSの事前測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
26	身体組成とGPSの実際の測定②	事前測定の結果報告 2グループ交替しての実際の測定の説明、実施
27	身体組成とGPSの測定分析結果②	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック
28	身体組成とGPSの先行研究	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

測定法の原理について予め調査し、プレゼンテーション資料にまとめる。

測定法を事前に練習する。

測定結果を分析してプレゼンテーション資料にまとめる。

先行研究を読んで授業で紹介できる形式にする。

【テキスト（教科書）】

なし（資料を作成して提示する）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

・測定法の原理、使い方の調査報告（25点）

・作成した実際の測定デザイン（25点）

・測定結果のフィードバック（25点）

・先行研究の紹介（25点）

を総合的（100点）に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングになるように進める

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料を使うことがある。

【Outline and objectives】

Knowledges on sports biomechanics and sports physiology are necessary for the students to explore the effective utilization of sports sciences in sports coaching. In this class, mastery is aimed on the how to use of the sports biomechanics and sports physiology machines. Reading comprehension for the references are also necessary for the students to design their researches for the graduation thesis.

HSS2001A

専門演習 I

宮本 健史

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：年次／単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、自らが問題・課題を提起し、それらを先行研究の調査、実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ、実際の研究遂行を見据えた実践方法を学びます。

【到達目標】

1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索ができる。
2. 発表資料を作成し、聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。
3. 論文に記載されている実験・調査方法、分析法が理解できる。
4. 基本的な実験・測定・調査が実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション、研究・実験計画の基礎、文献のレビュー、実験・測定・調査の具体的方法、統計解析、研究仮説の設定などの各方法を学び、研究の方向性を探ります。まずはグループでの作業から取り組みますが、最終的には個人ごとにテーマを設定し、様々な作業・学習を実践します。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。

○身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御 / 生理的状態と心理的情報との対応

○種々の身体パフォーマンスに関係する体力の測定・評価、運動中のエネルギー代謝

○体型と減量行動・痩身指向・身体活動量・エネルギー代謝

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け、グループ分けを行う。
第 2 回	発表方法を学ぶ	レジュメおよび PC を用いたプレゼンテーションについて学ぶ。
第 3 回	発表方法の実際 (1)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (1)。
第 4 回	発表方法の実際 (2)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (2)。
第 5 回	発表方法の実際 (3)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (3)。
第 6 回	発表方法の実際 (4)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (4)。
第 7 回	研究計画を学ぶ (1)	文献を利用した研究の展開方法について学ぶ (1)。
第 8 回	研究計画を学ぶ (2)	文献を利用した研究の展開方法について学ぶ (2)。
第 9 回	先行研究の調査 (1)	個人の研究テーマについて、現在の知見をまとめて発表する (1)。
第 10 回	先行研究の調査 (2)	個人の研究テーマについて、現在の知見をまとめて発表する (2)。
第 11 回	実験・調査方法を学ぶ (1)	尺度の判定 (名義・順位・間隔・比率尺度データ)、相関・予測の分析について学ぶ。
第 12 回	実験・調査方法を学ぶ (2)	実験計画法と分散分析 (一要因の分散分析) を学ぶ。
第 13 回	実験・調査方法を学ぶ (3)	実験計画法と分散分析 (二要因の分散分析) を学ぶ。
第 14 回	測定方法を学ぶ (1)	骨格筋活動の測定についてグループで調査して発表し、論議する。
第 15 回	測定方法の実際 (1)	骨格筋活動 (筋電図) の測定方法を学ぶ。
第 16 回	測定方法を学ぶ (2)	エネルギー代謝の測定についてグループで調査して発表し、論議する。
第 17 回	測定方法の実際 (2)	エネルギー代謝 (呼吸ガス分析) の測定方法を学ぶ。
第 18 回	測定方法を学ぶ (3)	身体の動作解析についてグループで調査して発表し、論議する。
第 19 回	測定方法の実際 (3)	動作解析の測定方法を学ぶ。

第 20 回 測定方法を学ぶ (4)

第 21 回 測定方法の実際 (4)

第 22 回 測定方法を学ぶ (5)

第 23 回 研究課題の設定

第 24 回 研究計画の立案 (1)

第 25 回 研究計画の立案 (2)

第 26 回 研究の実践 (1)

第 27 回 研究の実践 (2)

第 28 回 研究成果の発表

質問紙調査についてグループで調査して発表し、論議する。

質問紙調査の方法について学ぶ。

種々のコーチングや指示・指導方法についてグループで調査して発表し、論議する。

研究テーマに関する文献をレビューし、グループごとに研究課題を設定する。

グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する (1)。

グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する (2)。

グループごとに、ミニ研究に向けたデータ収集の準備を行う。

グループごとに、ミニ研究のデータ分析・考察を行う。

ミニ研究の結果報告会 (ミニ研究の結果をグループごとに発表する)。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの回で文献の検索やレビュー (まとめ)、プレゼンテーションの準備、研究計画書の作成などの課題を課します。毎回の授業での指示に従って学習を進めて下さい。

また、個人研究、グループ研究共に、授業以外に時間を設けて実験・調査、発表準備などの作業を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付、書籍・文献の紹介をします。

【参考書】

Thomas J. R. and Nelson J. K. (田中 喜代次 訳). 身体活動科学における研究方法. ナップ.

出村慎一, 山下秋二, 佐藤進. 健康・スポーツ科学のための調査研究法. 杏林書院.

浦上昌則, 脇田貴文. 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方. 東京図書.

田中敏, 山際 勇一郎. ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法—方法の理解から論文の書き方まで. 教育出版.

【成績評価の方法と基準】

評価は、1) 実験・調査・発表の内容：60%、2) 授業への参画状況 (出席・発言など)：40%、で行います。

【学生の意見等からの気づき】

理解度については概ね目標を達成できたと感じているが、一方で授業内での活動については、個人差が大きいように感じられた。

また、授業の進行に際して、受講生から改善の意見があったことから、発表や作業と、測定機器の使用法学習などのバランスを再検討し、学習効率の向上を目指す予定である。

【その他の重要事項】

運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to learn the practical methodology for future research activities through raising own research questions and solving them by investigating previous studies, experiments, surveys and data analysis.

HSS2001A

専門演習Ⅰ

山本 浩

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生主体で進む 100 分間である。ジャーナルな視点を大切に「スポーツの中の社会」「社会の中のスポーツ」の両方を意識しながら、さまざまな問題やスポーツ組織のありよう、アスリートの環境などを綿密に調べ上げていく。卒論につながる専門演習Ⅲまでを視野に入れて進める。基本的な手法も身につけなければならない。①資料を選択しポイントをいかに取り出すか②複数の情報源に当たり取り出した材料の重複部分を探す③素材の断片をどう組み合わせる自分の論理に重なるか④理解促進や論理強化のための写真やデータをどう配剤するか。世論を意識しながらも世論に流されない、自分なりの世界観を身につけてもらいたい。そのために法の定めるところ、経済の原則に倣うところ、社会の求めに応じるところをわきまえて自分の意見表明を構成する。

【到達目標】

専門演習Ⅰのポイントは、示されたテーマに対しさまざまな体験と知見をもとに焦点を定め、くまなく見回し、深く考えて持論をまとめ上げること。求めるのは論理立てた表現だ。スポーツの世界でおきるさまざまな出来事を「私はこう思う」というのではなく「こう主張する以外に手立てがないではないか」と強く説得できるような素材を集め、それを提示すること。切り取って伝える際の根本原則は、①わかりやすい構成②新鮮な情報③魅力的な提示④説得力のある論理立て⑤第三者の意見の尊重、そして⑥他人にはない個性があつてなお均整のとれたものの見方。そうした手法を自らのものにしながら、社会を貫く世界観を人前で提示できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の基本原則は、教員の指導に頼りきることなく学ぶ姿勢だ。折に触れて提示されたテーマに対し、自分なりの視点を設定するところから始まる。体験や過去の知見に加え調べ上げたことを元に作成する自分の主張は、文章、プレゼンテーション、ディベートなどどんな形で示せるようにする必要がある。他人の発表に対しては、ポジティブに受け止めながらも批判的に検証すること。日本の論調だけでなく、世界の視点も大切にしたい。調査、情報収集、分析、研究など一連の活動は、演習の間だけではなく、自分で時間を工夫して深く追い求めること。定期的に発表の機会を設け、演習室のスクリーンをフルに活用してものの見方捉え方を発展させられるようにする。どう伝えるかと同じようにどう問いただすかも重要なテーマだ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと自己紹介 ゼミ長選定	これからの演習の進め方をガイドするとともに新たな参加者の自己紹介を口頭で受ける。2 年生のゼミ長、副ゼミ長を決定する。
2	プレゼンテーションの見方、聞き方、読み方	専門演習Ⅱのゼミ生のプレゼンテーションを見て、そのあり方を分析し、どうとらえたかを発表する。
3	素材のあり所と押さえ方	テーマを追求するのに当たって、材料がどんなところにあるのか。具体的なテーマを巡って選択肢やアプローチの方法を知る。
4	プレゼンテーション制作 ①	他人のプレゼンテーションを参考にしながら、あるべきスタイルやその構成を知る。アニメーションの使い方、スライドの構成を実際に作って体験する。
5	プレゼンテーション①	前週に制作したプレゼンをスクリーンで発表し、意見交換。それぞれの過不足を論じる。
6	調査・インタビュー・素材抽出	自分の主張を構成する素材を集めるに当たって、自ら方向付けをするのがインタビューやアンケートだ。その考え方を学び取る。
7	論文の分析、書き方	先行研究のとらえ方、目次、アブストラクト、章だてなど論文の手法を内外の論文や記事を参考にしながら確認する。
8	プレゼンテーション制作 ②	近年、社会で話題になったスポーツ界のトピックを取り上げ、自分なりの分析を PPT で制作する。

9	プレゼンテーション②	前週の制作 PPT を発表。参加者の批評を元に、新たな方向付け、深みの取り方を学ぶ。
10	スポーツの常識／非常識 ①	私たちが理解しているスポーツ界のポジティブな面とそこに隠れたネガティブな面を比較検討する。
11	スポーツの常識／非常識 ②	複数のメディアを比較しながらそれぞれの主張の違い、その背景を検証する。
12	プレゼンテーション制作 ③	海外の論調を取り入れて、これまでの主張を改訂する。
13	プレゼンテーション③	プレゼンテーションを制作し発表する。
14	プレゼンテーション④	プレゼンテーションを制作し発表する。また、夏の課題を提示する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	夏課題総括①	春学期に設定しておいた夏課題の成果を発表する。
16	夏課題総括②	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
17	夏課題総括③	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
18	プレゼンテーション制作 ④	ジャーナルなテーマを元にプレゼンテーションを制作。それによってスポーツ界の構造変化を再確認する。
19	プレゼンテーション⑤	前週制作したものを発表する。
20	プレゼンテーション⑥	前々週から制作にかかっていたものを発表する。
21	プレゼンテーション制作 ⑤	過去 2 週の間演習で受けた批評をもとに、自作のプレゼンテーションを改訂する。
22	プレゼンテーション⑦	前週の改訂版をプレゼンする。
23	プレゼンテーション⑧	前々週から改訂してきたプレゼンを披露する。
24	プレゼンテーションを元に論文制作	二次研究発表＝夏以降降った研究の改訂版と批評。
25	論文発表①	総括研究発表。
26	論文発表とプレゼンテーション①	総括研究発表。
27	論文発表とプレゼンテーション②	総括研究発表。
28	小論文により研究、執筆、PPT 制作の力量試験	これまでの演習で伝えられた、議論になった内容から、持論を展開する小論文を執筆する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①情報取得のために信頼の置ける情報源に対する接触を怠らないこと。特にその際の出典元を誤らないようにしっかりメモしておく。
- ②自分自身の体験を取り込んで、そこにある普遍性を大切にすること。自分の口で訊ね、自分の耳で聞き、自分の手で書き残すことが重要。
- ③気になったシーンは写真に撮っておく。自分の発表に利用すると効果的なスライドになることがある。写真の撮影時期、対象、場所などの記録も必要。
- ④専門演習Ⅱの受講生とも密に情報交換し、その手法や視点を学ぶこと。
- ⑤テレビのプレゼンテーションをよく分析する。流れ、展開、材料の引き出し方。参考になるものがたくさんある。

【テキスト（教科書）】

なし（必要に応じその都度、用意する）。

【参考書】

求めに応じて個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配分：

平常点（批評の内容/PPT 発表）50 %、最終章小論文 50 %。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなど。
最終演習日の小論文は、演習の総括として大きな意味がある。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の発表でできるチャンスをさらに増やす。
学生主体のアクティブな時間を有効に組み立てる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンで PPT を使用する。携帯できる自分のパソコンがある場合は持参すること。パワーポイント、DVD、映像資料などは頻繁に使用する。

【その他の重要事項】

【研究室】担当教員の研究室は 456。分からないこと、新しいアイデア、何かを抱えていたら一人で閉じこもらず、コミュニケーションの機会を増やすこと。
【外部講師】どんなジャンルの人物をどのタイミングで招くのか。盛んな意見を出してもらいたい。
【ゼミ合宿】休みを利用したゼミ合宿が予定されている。関東近県をターゲットに予定を検討する。演習室で獲得できない時間を過ごす。

【特記事項】

今年 5 月から 6 月にかけてドイツ人教員の英語によるスポーツメディアに関する特別講義（特講）がある。週 2 回ベースの講義だ。登録し思い切ってチャレンジしようという学生を求めている。ドイツに行かなくてもドイツ人教員の講義を直に受けられる減多にない機会だ。強く推薦する。

[Outline and objectives]

The participants should stand on their own feet. You should keep journalistic views, especially under the consciousness of the society in the sports world and the sports world in the society. The two structures will be good and well aware that the athletes live in it. The fundamental technique must be mastered, to collect material for your own theory, to find out the essential parts which overlap on two different sources, to combine several materials up to the stuff, to organize some appropriate pictures on your slides. You would be expected to maintain reliable viewpoints.

HSS2001A

専門演習 I

吉田 政幸

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習ではスポーツマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際に調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、スポーツマーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下のとおりとする：

1. スポーツマーケティングの視点からスポーツビジネスを理解することができる。
2. スポーツマーケティング調査の質問項目を設定することができる。
3. スポーツマーケティングに関するデータを収集することができる。
4. スポーツマーケティングに関するデータを分析することができる。
5. スポーツマーケティングに関するデータを考察し、発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の最初はスポーツマーケティングの事例を知るため、講義形式で授業を行う。次に、スポーツマーケティング調査の実施に向け、調査の目的、方法、注意点について学習し、春学期の終わりには実際にデータを収集する。秋学期は収集したデータを用いて結果を分析するとともに、学期末に予定されたグループ発表に向けて準備を行い、最終的にプレゼンテーションまで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：前期の概要の説明	スポーツマーケティングに関する専門的な学びに向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	調査ガイダンス	春学期に実施する調査の目的、実施方法、意義について理解する。
第 3 回	スポーツマネジメントの考え方	スポーツマネジメントについて、定義、独自性、基本特性などについて理解を深める。
第 4 回	スポーツマーケティングの考え方	スポーツマーケティングについて、定義、独自性、サービス業としての特性などとともに学習する。
第 5 回	スポーツマーケティングに関する情報検索	スポーツマーケティング調査や研究を実施する際に必要な情報（論文、実践現場、新聞、書籍、雑誌、報告書、学会）の収集方法について学ぶ。
第 6 回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査	スポーツ消費者を対象としたマーケティング調査の目的、内容、実施方法、結果の報告などについて、スポーツ観戦者の調査を例に学習する。
第 7 回	データを読み取る：データ入力	スポーツビジネスに関する資料・データを収集し、エクセルに入力する。
第 8 回	データを読み取る：基礎集計	スポーツビジネスに関する資料・データを、統計ソフトを用いて集計し、度数分布および平均を算出する。
第 9 回	データを読み取る：グラフの作成	スポーツビジネスに関する資料・データを基礎集計としてまとめ、グラフを作成する。
第 10 回	情報をまとめる：スライドの作成	スポーツビジネスに関する情報を、パワーポイントスライドを用いてまとめる。
第 11 回	卒業論文を知る	卒業論文の中間報告会に参加し、研究について理解を深める。
第 12 回	情報をまとめる：プレゼンテーションの方法	スポーツビジネスに関する情報をプレゼンテーションの方法について学ぶ。
第 13 回	情報を報告する：前半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：前半グループ
第 14 回	情報を報告する：後半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：後半グループ
第 15 回	オリエンテーション：後期の概要の説明	前期に実施したスポーツマーケティング調査の目的および内容を再確認するとともに、後期の流れを理解し、最終発表までの計画を立てる。

第 16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などについて学ぶ。
第 17 回	調査データの記述統計：度数分布、クロス集計、平均、標準偏差	収集したデータを用いて、度数分布、平均値、標準偏差、クロス集計などの記述統計について学習する。
第 18 回	調査データの記述統計：セグメントの設定と分類に基づく集計	カテゴリー変数を用いて標本をいくつかのセグメントに分類し、グループ間で記述統計をまとめる方法について学習する。
第 19 回	自由回答の集計および分析	質的な自由回答を分析するため、コーディング、カテゴリー化、類型化について学習する。
第 20 回	心理的変数の分析	心理的尺度の信頼性と妥当性の分析方法について学ぶ。
第 21 回	グループ間の比較に関する統計分析	仮説検定の基本的な考え方を学ぶとともに、統計的にグループ間比較を行うため、カイニ乗検定、t 検定、分散分析について学ぶ。
第 22 回	要因間の関係性に関する統計分析	心理的変数や行動的変数の間の関係性を分析するため、相関分析および回帰分析の基礎を学ぶ。
第 23 回	セグメント別に要因間の関係性を分析する方法	性別、年齢、購買頻度などに基づいて消費者を細分化し、要因間の関係性を分析する方法について学ぶ。
第 24 回	分析結果をまとめる：図表の作成	記述統計や推計統計の結果をエクセルの図表でまとめる方法を学ぶ。
第 25 回	分析結果をまとめる：スライドの作成	分析結果および作成した図表を効果的に発表するため、パワーポイントスライドの作成方法を学ぶ。
第 26 回	分析結果をまとめる：発表方法	パワーポイントスライドを完成させるとともに、発表方法について学ぶ。
第 27 回	分析結果の報告：第 1 グループ	データを収集・分析した結果について、第 1 グループが発表する。
第 28 回	分析結果の報告：第 2 グループ	データを収集・分析した結果について、第 2 グループが発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外のグループ学習の課題として、質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備が順番に与えられます。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

- (1) スポーツメーカー分析：データ収集（20 点、春学期）
- (2) スポーツメーカー分析：結果の集計と報告（20 点、前期）
- (3) プロスポーツフィールド演習：結果分析（25 点、秋学期）
- (4) プロスポーツフィールド演習：結果報告（25 点、秋学期）
- (5) 学期末レポート（10 点、秋学期）

合計：100 点

【評価基準】

それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。
100%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができる。
80%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出している。
60%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から解決策を導き出している。
40%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組んでいる。
20%：授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文獻も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

ゼミナールは学生の主体的な学びの場です。伸び伸びと積極的学習してください。

【Outline and objectives】

This seminar is an introduction to the basic elements of sport marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct sport marketing research.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

安藤 正志

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

検査測定学分野：種々の検査器具を使用しながら身体機能の検査技術を学ぶ。
また課題をもち課題を解決する力を身につける。
健康科学分野、運動療法分野、健康科学分野の科学論文を抄読することで科学論文の読解力を高める。

【到達目標】

各自研究テーマを持ち実験しデーターを処理し報告するまでを学ぶ。
自ら科学論文を収集し、読解し、報告する能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

少人数グループに分かれ課題を定め課題解決のために実験を実施しデーターをまとめ報告する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 1	グループに分かれ課題決定
2	オリエンテーション 2	各課題発表。オリエンテーションを行う
3	クラス別課題	クラスに分かれ文献を探す
4	調査・まとめ・発表のしかた	検索方法・調査方法について教員の助言を受けながら列挙し確認する。また調べた事項をまとめる方法や発表の方法を確認する。
5	クラス別課題	クラスに分かれ文献報告
6	クラス別課題	クラスに分かれ文献報告
7	クラス別課題	クラスに分かれ文献報告
8	クラス別課題	クラスに分かれ文献報告
9	全体課題	実験計画を作成する
10	クラス別課題	実験計画に基づき実験を行う
11	クラス別課題	実験計画に基づき実験を行う
12	クラス別課題	実験計画に基づき実験を行う
13	クラス別課題	実験計画に基づき実験を行う
14	全体課題 中間報告	これまでの実験データをまとめ報告する

秋学期

回	テーマ	内容
15	全体オリエンテーション	秋学期課題タイムスケジュールを発表。オリエンテーションを行う
16	クラス別課題	実験計画の見直しをし課題の修正
17	クラス別課題	実験計画の見直しをし課題の修正
18	文献検索	関連のある文献を収集し報告する
19	文献検索	関連のある文献を収集し報告する
20	文献検索	関連のある文献を収集し報告する
21	文献検索	関連のある文献を収集し報告する
22	中間報告会	調査した文献に基づき課題解決のための研究計画書を作成する
23	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する
24	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する
25	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する
26	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する
27	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する
28	学会参加	学会参加（日程未定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：配付資料を持参する

第 4 回：ディスカッションで決まった事項をまとめる

第 5～6 回：翌週までに発表の準備をする

第 7～8 回：翌週までに課題について調べまとめる

第 9 回：報告資料をコピーし配布しておく

第 16 回：配付資料を持参する

第 18～22 回：発表原稿のコピーと配布

第 23～27 回：資料のコピーと配布

第 28 回：プレゼンテーション資料の作成第、意見をまとめ整理する

【テキスト（教科書）】

特に定めず、必要に応じて教員が資料を配付する

【参考書】

特に定めず、学生が課題解決のため決定する

【成績評価の方法と基準】

平常点；積極的発言や参加態度や小テスト（40%）、課題評価；発表資料のできばえあるいは仕方（60%）

【学生の意見等からの気づき】

少人数で進める必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

課題報告のためプレゼンスライドを作成し持参する
パソコンなど

【その他の重要事項】

専門演習Ⅰを履修済みであるものが対象

【Outline and objectives】

Learn functional anatomy

Learn physical function evaluation

Learn to stretch

Learn massage technology

Learn training

HSS3001A

専門演習Ⅱ

泉 重樹

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミにおける 3 年次のテーマは以下の 3 つである。1. アスレティックトレーナーとして必要な基礎的な知識および技術を得得すること。2. スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの役割・現状に触れる機会を実習を通してできるだけ多く持つこと。3. 自身の研究テーマに沿って研究のレビューを行い卒業論文にいたる課題を設定すること。

【到達目標】

アスレティックトレーナー（学生トレーナー）として、スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの業務および役割を理解し、活動ができることが 3 年次の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を得得ることができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

2 年時から引き続き、春学期では事前準備の上で発表・実践が中心になる。秋学期は自身の研究分野に関する論文の抄読・研究手法や実験機器の習熟を経て、卒業論文へいたる研究課題の設定および発表、可能な限り予備実験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	3 年時のゼミナールの目的・内容の確認。
2	文献検索の方法と実際	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法に習熟する。
3	足関節の評価と運動療法	足関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
4	膝関節の評価と運動療法	膝関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
5	大腿部の評価と運動療法	大腿部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
6	骨盤部の評価と運動療法	骨盤部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
7	腰部の評価と運動療法	腰部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
8	頸部の評価と運動療法	頸部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
9	肩関節の評価と運動療法	肩関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
10	肘・前腕・手関節の評価と運動療法	肘・前腕・手関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
11	下肢のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた下肢全体のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
12	体幹のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた体幹全体のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
13	上肢のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた上肢全体のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
14	アスレティックリハビリテーションのまとめ	アスレティックリハビリテーションとコンディショニングとの関わりについてディスカッションを行う。

秋学期

回	テーマ	内容
15	研究の方法/抄読会 1	研究とは何かについて再度学習する。英語論文抄読会。
16	機器の操作方法確認 1/抄読会 2	バイオデックス・パワーマックスの使い方について学習する。論文抄読会。

17	機器の操作方法確認 2/抄読会 3	フォースプレートの使い方について学習する。論文抄読会。
18	機器の操作方法確認 3/抄読会 4	筋電図の使い方について学習する。論文抄読会。
19	機器の操作方法確認 4/抄読会 5	トレッドミル・ハートレートモニターの使い方について学習する。論文抄読会。
20	機器の操作方法確認 5/抄読会 6	超音波診断機器の使い方について学習する。論文抄読会。
21	研究計画の作成 1/抄読会 7	研究計画を作成する。機器類使用方法の予備日。英語論文抄読。
22	研究計画の作成 2/抄読会 8	研究計画を作成する。機器類使用方法の予備日。英語論文抄読。
23	現場実習報告 1/抄読会 9	アスレティックトレーナー現場での活動の報告・ディスカッションを行う。英語論文抄読。
24	現場実習報告 2/抄読会 10	アスレティックトレーナー現場での活動の報告・ディスカッションを行う。英語論文抄読。
25	予備実験 1/抄読会 11	卒業研究の準備として各自課題を設定し、予備実験を行う。
26	予備実験 2/抄読会 12	卒業研究の準備として各自課題を設定し、予備実験を行う。
27	研究計画発表会	卒業研究の研究計画発表会を行う。
28	まとめ	3 年時のまとめと卒業研究に向けた方向性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

第 16 回：春学期の復習

第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

【参考書】

1. 日体協公認アスレティックトレーナーテキスト 1～9
2. ドナルド・A. ニューマン：筋骨格系のキネシオロジー。医歯薬出版。2012
3. 坂井建雄，松村譲児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系。医学書院。2011
4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編。大修館書店。2011
5. 小林直行，成田崇矢，泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング。医歯薬出版。2013
6. Starkey. C., Brown. S. M.: Examination of Orthopedic and Athletic Injuries. F.A.Davis Company; 3 edition. 2009
7. 臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド第 2 版。文光堂。2015
8. 中村千秋編：ファンクショナルトレーニング機能向上と障害予防のためのパフォーマンストレーニング。文光堂。2010
9. 日本スポーツ医学検定機構，スポーツ医学検定公式テキスト 1 級，東洋館出版社，2019

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%、種々の活動への取り組み 40%。また学外活動（課外活動）への取り組みや実習内容、運営的立場などを通して、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

アスレティックトレーナーは体育・スポーツと医学に関する知識の両方が求められるため学習する内容が多岐にわたる。その中で、モチベーションを落とさずに継続して学習していくために、実際の臨床現場の経験が大変重要である。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

【Outline and objectives】

The purposes of the athletic training seminar are as follows, 1. To learn knowledge and skills necessary as an athletic trainer. 2. To have an opportunity experiencing the student trainer as much as possible. 3. To review the study along a graduation study theme and set a problem to reach the graduation thesis.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

伊藤 真紀

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の授業では、スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。後期の授業では、コミュニケーション能力を高めるために、毎回プレゼンテーションを行う。専門演習Ⅰならびに専門演習Ⅱの講義を通して学んだ内容から、卒業研究に発展させることのできる研究課題を決定することを目的とし、過去の卒業研究、先行研究を読み込み、研究概要についてプレゼンテーションを行う。

【到達目標】

1. スポーツマネジメントを深く学ぶこと。
2. 4 年次に挑戦することとなる卒業研究のテーマを把握すること。
3. 受講者は専門演習Ⅰならびに専門演習Ⅱの講義を通して学んだ内容から、卒業研究に発展させることのできる研究課題を決定すること。
4. 自身が選んだ研究を実行するために必要な先行研究を読み、適切な研究方法を他の受講者と共に検討すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年次を対象に、少人数でのプレゼンテーション・討論・実践をとおして学習を深める演習である。これまでに講義で修得した基礎的な理論を理解し、2 年次の専門演習Ⅰにおいて学んだ知識ならびに本講義で学んだ理論をもとに卒業研究テーマの決定を目標とし、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業研究に向けた準備の進め方、調査の手法などについて説明する
2	マネジメントとは 1	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
3	マネジメントとは 2	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
4	マネジメントとは 3	トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
5	組織とは スポーツの組織化 スポーツ組織の文化	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態、経営組織と集団行動（チームのダイナミクス）ならびに、組織文化について学習する。
6	スポーツ組織のコントロールシステム	スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、それらの評価手法について学習する。
7	組織コミットメント 個人の理解（パーソナリティと対人認知）	パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める。
8	スポーツ組織におけるモチベーションマネジメント	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する
9	スポーツ組織におけるリーダーシップ	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
10	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。
11	プレゼンテーションの方法について 1	効果的なプレゼンテーション方法、コミュニケーションスキルを学ぶ。
12	プレゼンテーションの方法について 2	効果的なプレゼンテーション方法、コミュニケーションスキルを学ぶ。
13	プレゼンテーション 1	これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う。

14	プレゼンテーション 2	前期最終プレゼンテーション これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う。
秋学期	テーマ	内容
15	後期演習の概説	後期の演習の概要及び卒業研究の意義を理解する。
16	研究の進め方について 1	量的研究の手法について解説する。
17	研究の進め方について 2	質的研究の手法について解説する。
18	情報・文献の検索について 1	研究を進めるための文献および情報の収集方法について解説する。
19	情報・文献の検索について 2	研究を進めるための文献および情報の収集方法について解説する。
20	過去の卒業研究の検討 1	過去の卒業研究について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
21	過去の卒業研究の検討 2	過去の卒業研究について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
22	過去の卒業研究の検討 3	過去の卒業研究について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
23	先行研究の検討 1	一般論文について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
24	先行研究の検討 2	一般論文について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
25	先行研究の検討 3	一般論文について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
26	研究課題の選択 1	各自興味をもった研究テーマに関する、（1）研究背景、（2）研究目的、（3）方法について発表する。
27	研究課題の選択 2	各自興味をもった研究テーマに関する、（1）研究背景、（2）研究目的、（3）方法について発表する。
28	研究課題発表	秋学期の総括をおこない、各自来年度に向けた卒業研究案を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】特になし

【テキスト（教科書）】特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関する過去の卒業論文と一般論文

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、文献発表時のプレゼンテーションのクオリティ（30 %）、卒業研究のプロポーザルの発表の内容とプレゼンテーションのスキル（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションの行う機会を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

In the 1st semester, we will study the various organizational theory in sports from different perspectives (management organization theory, human resource management theory, management theory, management strategy theory, leadership theory, motivation theory, etc.) in order to understand the basic theory to effectively manage sports organizations. In the 2nd semester, presentation will be required every time to enhance communication skills. We will read up previous graduation research and preceding studies in order determine the research subjects that can be developed into graduation research from the contents learned through the lectures of seminar I and seminar II class lectures.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

井上 尊寛

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅰで学習したマーケティングリサーチの手法や分析方法を活用し、自ら調査設計から調査まで行う。本演習の後半は 4 年次の卒業研究に向け、スポーツマーケティングに関する研究計画を立て、それに基づいて卒業論文の緒言および方法を執筆する。

【到達目標】

受講者は演習を通じて以下の目標に到達する：

- (1) 調査の手法やデータの扱い方を学びながら、現場で求められている調査内容や分析についても検討し、実践する。
- (2) 後期の演習では、各自が選んだ研究テーマに関連する先行研究を概括し、過去の研究群が明らかにできなかった課題を特定するとともに、それを克服するための新しいアイデアと研究計画を示すことができる。
- (3) 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
- (4) 目的に応じて研究方法を適切に設定し、実施計画を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生を対象に少人数の指導体制のもと、報告・討論・実践をおとして学びを深める。これまでに講義で修得した知識を踏まえるとともに、2 年次の専門演習Ⅰにおいて設定した自身のテーマを掘り下げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび演習の概説	卒業研究に向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	研究とは何か	研究・調査の進め方について学習する。
第 3 回	調査・研究の方法	問題を解決するための調査の手法や、統計的な分析の手法について学習する。
第 4 回	調査の妥当性と信頼性	調査および研究の妥当性や信頼性について理解する。
第 5 回	調査ガイダンス	スタジアム観戦者調査について、調査の方法や注意点について学習する。
第 6 回	統計解析の基礎	基本的な統計分析の手法（記述統計、カイ二乗検定、平均値の差の検定など）について学ぶ。
第 7 回	推計統計	分散分析、回帰分析、多変量分散分析などについて学習する。
第 8 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：観戦動機	人がスポーツ観戦を行う理由は多岐に渡る。ここではスポーツ観戦者の動機因子について学ぶ。
第 9 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：スポーツ関与	人とスポーツの関わり方の強さをスポーツ関与という。今回はこのスポーツ関与について学ぶ。
第 10 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：顧客満足	スポーツ消費者のニーズ充足と顧客満足の関係を説明する顧客満足理論について学ぶ。
第 11 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：社会的アイデンティティ	スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる特徴を持つ。両者を区分する最大の特徴であるチームアイデンティティについて学ぶ。
第 12 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：顧客ロイヤリティ	スポーツにおける顧客ロイヤリティと併せて、近年注目される顧客エンゲージメントについても学ぶ。
第 13 回	各自の研究テーマの設定	興味のある対象に対して、問題点を整理し、問題解決のための手目的や手法を踏まえ、テーマを設定する。
第 14 回	ゼミ内プレゼンテーション	設定したテーマを踏まえ、卒業論文につながるような内容にてプレゼンを行う。
秋学期	テーマ	内容
第 15 回	後期の演習の概要の説明	後期の演習の概要および卒業研究の意義を理解する。
第 16 回	過去の卒業研究の検討：第 1 グループ	第 1 グループが、過去の卒業研究について (1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。

第 17 回	過去の卒業研究の検討：第 2 グループ	第 2 グループが、過去の卒業研究について (1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。
第 18 回	過去の卒業研究の検討：第 3 グループ	第 3 グループが、過去の卒業研究について (1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。
第 19 回	先行研究（一般の研究）の検討：第 1 グループ	第 1 グループが、一般の研究論文について (1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。
第 20 回	先行研究（一般の研究）の検討：第 2 グループ	第 2 グループが、一般の研究論文について (1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。
第 21 回	先行研究（一般の研究）の検討：第 3 グループ	第 3 グループが、一般の研究論文について (1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。
第 22 回	研究課題の選択	各自のテーマについて、(1) 研究の背景、(2) 研究目的、(3) 学術的な重要性、(4) 実践的な重要性をまとめ、発表する。
第 23 回	序論の執筆：研究の背景	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定する。
第 24 回	序論の執筆：問題の所在	各自の研究テーマは、先行研究によってどこまで理解されているかを把握するとともに、未解明の研究課題を特定する。
第 25 回	序論の執筆：問題の所在、研究の目的、重要性	研究の目的を設定し、その目的を達成することでどのような学術的貢献を果たすことができるのかについても述べる。
第 26 回	序論の執筆：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
第 27 回	序論の執筆：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を理論的根拠とともに導出する。
第 28 回	方法の執筆：研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。前期は事前に配布される資料を読んで疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してきてください。後期は毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】

- (1) 研究手法に関するレポート：10 点（前期）
- (2) 研究テーマの発表：10 点（前期）
- (3) 過去の卒業研究のレビュー：10 点（後期）
- (4) 一般の先行研究のレビュー：10 点（後期）
- (5) 序論（緒言、問題の所在）の執筆：20 点（後期）
- (6) 序論（目的、重要性）の執筆：20 点（後期）
- (7) 序論（概念的枠組み）の執筆：20 点（後期）

合計：100 点

【評価基準】

それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。

100%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。

80%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出している。

60%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から解決策を導き出している。

40%：自身が立てた計画に沿い、課題に客観的に取り組んでいる。

20%：自身が立てた計画に沿って課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

レポートやディスカッションの資料を作成するための個人用パソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【Outline and objectives】

This course is a seminar of sport marketing research. Students will learn how to conduct sport marketing research based on their own interests and research questions. Upon successful completion of this course, students will be able to (1) develop a proposal for their graduation theses and (2) write the introduction and method sections of their manuscripts.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

江川 賢一

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ること、そして、それらを実践の場面で活かせるようになることを目標とする。

【到達目標】

・研究の進め方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

子どもから高齢者にいたるまで幅広い性および年代について、健康体力づくりに関する事例や学術論文などの情報を収集してディスカッションを行う。そして、健康づくりに関わる現場を知り、様々な経験を積む。さらに、健康づくりへの取り組みの効果を科学的に評価する手法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、各自の関心のあるテーマを発表。
2	スポーツ健康学部役割	社会に対して学部として何ができるか、また、卒業後にはどのような所で活躍できるかをディスカッションする。
3	文献の検索	論文を選ぶ。
4	論文抄読	発表と質疑応答。
5	論文抄読	発表と質疑応答。
6	幼児の体力	幼稚園児の体力テスト測定の計画およびリハーサル
7	幼児の体力	幼稚園児の体力測定の実施
8	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果のデータ整理
9	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果についての考察
10	フィールドワーク	健康づくりに関連する場に出かけて調査する。
11	フィールドワーク	フィールドワークで得た結果についてディスカッションしてまとめる。
12	健康づくり教室	健康づくりを目的とした教室型の取り組みについて調べる。
13	健康づくり教室	健康づくり教室を企画する。
14	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。
15	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。
16	心拍数	心拍数の測定。
17	心拍数	心拍数の測定値を用いたショートレポートの発表。
18	酸素摂取量	酸素摂取量の測定。
19	酸素摂取量	酸素摂取量の測定値を用いたショートレポートの発表。
20	身体活動量	身体活動量の測定。
21	身体活動量	身体活動量の測定値を用いたショートレポートの発表。
22	身体組成	身体組成の測定。
23	身体組成	身体組成の測定値を用いたショートレポートの発表。
24	筋力	筋力の測定。
25	筋力	筋力の測定値を用いたショートレポートの発表。
26	アンケート調査	アンケート調査の実践。
27	アンケート調査	アンケート調査を用いたショートレポートの発表。
28	1 年間の反省	1 年を振り返って意見交換。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連の文献収集、測定や調査を実施した結果のまとめ。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業への参加 (40%)：ただ出席をカウントするだけでなく、ディスカッションに参加し、自分の意見をどれだけ述べられたかを評価する。

(2) 課題の提出および発表 (60%)：ショートレポートや企画したプログラムの、内容および発表・実施について評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活発な議論ができる環境を整える。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

専門演習Ⅱでは研究デザインを策定するため、集中講義、フィールドワークに積極的に参加し、他の受講者と積極的に協力すること。担当講師は研究機関で運動生理学研究に従事した経験を活かして、体力増進、介護予防や健康づくりについて教授する。

【Outline and objectives】

This seminar is intended to enhance the students' understanding of the role of life style (sports, exercise and physical activity) in physical education and health promotion. Students will learn to critically evaluate the evidence and literature in sports sciences and health research.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

苅部 俊二

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育学、コーチ学などといった運動科学分野における文献分析から、自分の取り組みたいテーマを選択していく。

【到達目標】

自らの研究テーマについて、研究方法や実験方法、分析方法など研究に必要なスキルを高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

3年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をととして学習を深める演習である。これまでに講義で修得した理論を主体的に受けとめ、2年次の専門演習Ⅰにおいて設定したテーマを掘り下げることを目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期受講ガイダンス	春学期受講のガイダンスを行う。
第 2 回	情報収集 1	興味のあるテーマについて文献検索を行う。
第 3 回	情報収集 2	興味のあるテーマについて文献検索を行う。
第 4 回	演習合同研究テーマの検討	演習合同で行う研究についてテーマを決定する。
第 5 回	文献検索と輪読 1	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読する。
第 6 回	文献検索と輪読 2	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読する。
第 7 回	研究方法の立案	演習合同テーマについてその研究方法、調査方法を検討する。
第 8 回	予備実験	演習合同テーマについてその研究方法、調査方法を検討に基づき予備実験を行う。
第 9 回	データ解析	演習合同テーマ予備実験のデータの解析を行う。
第 10 回	論文作成 1	演習合同テーマの論文を作成する。
第 11 回	論文作成 2	演習合同テーマの論文を作成する。
第 12 回	論文作成 3	演習合同テーマの論文を作成する。
第 13 回	発表 1	演習合同テーマの論文を発表する。
第 14 回	発表 2	演習合同テーマの論文を発表する。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。
第 16 回	秋学期受講ガイダンス	夏期研究テーマを検討する。 秋学期ガイダンスを行う。
第 17 回	ポスター発表作製	夏期研究の成果を発表する。 合同研究もしくは夏期研究についてポスターを作製する。
第 18 回	論文計画書作成	各自の研究テーマについて論文作成計画の立案を行う。
第 19 回	研究テーマのプレゼン 1	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
第 20 回	研究テーマのプレゼン 2	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
第 21 回	研究テーマのプレゼン 3	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
第 22 回	研究テーマのプレゼン 4	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
第 23 回	研究テーマのプレゼン 5	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
第 24 回	実験計画書作成	各自の研究テーマにそって実験の計画書を作成する。
第 25 回	予備実験 1	各自の研究テーマの実験計画書に従って予備実験を行う。
第 26 回	予備実験 2	各自の研究テーマの実験計画書に従って予備実験を行う。

第 27 回 今後の研究課題の方向性 卒業論文作成に向け研究課題の方向性について発表する。

第 28 回 今後の研究課題の方向性 卒業論文作成に向け研究課題の方向性について発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

第 16 回：春学期の復習

第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に設けない

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）とプレゼン（50 %）によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn how to conduct research in the field of physical education (and sports science), looking at things such as physical fitness and coaching methods. Students will learn how to read the precedent studies, analyze data and write an academic paper.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

鬼頭 英明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、いじめ、不登校、心の健康、不規則な生活習慣、性の逸脱行動、喫煙、飲酒、薬物乱用やアレルギーなどの学校保健上の課題、公衆衛生上の課題について論文輪読などの活動を通じて全般的に理解を深め、研究課題をもてるようにするとともに、特に教職希望者は授業実践を通じて実践力を高められるようにする。

【到達目標】

専門演習Ⅱを通し、保健について理解を深めることにより、高度な専門性を備えることができるようにすることを目指すとともに、効果的な授業づくりができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

参考文献や関連図書を題材とし、レポート作成し、それをもとに討論を重ねる。課題解決のためにできる方策をまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習Ⅰを振り返り、Ⅱの演習計画について確認する。
2	子どもの健康課題	現代的な健康課題についてデータを読みとく。
3	子どもの生活習慣病の課題	子どもの健康課題、生活習慣病の課題に関わる文献を読みとく。
4	性の逸脱行動	性の逸脱行動に関わるデータの意味を理解する。
5	性の逸脱行動の文献を読む	性の逸脱行動に関する文献を読み解く。
6	性に関する指導	指導案を作成する。
7	未成年喫煙に関する知見	未成年喫煙に関するデータを理解する。
8	未成年喫煙の健康影響	文献を読み解く。
9	未成年喫煙に関する指導案作成	指導案を作成する。
10	未成年飲酒に関する知見	未成年飲酒に関するデータを理解する。
11	未成年飲酒の健康影響	文献を読み解く。
12	未成年飲酒の健康影響に関する指導案作成	指導案を作成する。
13	薬物乱用と健康	薬物乱用に関するデータを理解する。
14	薬物乱用の健康影響	関連薬物の実態と課題について理解する。
15	薬物乱用の健康影響	関連薬物の実態と課題について理解する。
16	大麻と危険ドラッグ	文献を読み解く。
17	薬物乱用に関する文献	指導案を作成する。
18	メディアによる影響	文献を読み解く。
19	広告分析	広告分析により批判的思考を養う指導案を作成する。
20	ライフスキル教育	ライフスキル教育の構成概念について専門演習Ⅰの理解を踏まえ、さらに理解を深める。
21	ライフスキル教育	危険行動を防ぐための意義について構成スキルとの関連性を踏まえ理解を深める。
22	ライフスキル教育の指導案作成	指導案を作成する。
23	医薬品に関する指導	関連文献を読みとく。
24	医薬品に関する指導案作り	医薬品に関する指導案を作成する。
25	安全教育に関する領域構造	安全教育に関する領域と系統性について理解を深める。
26	安全教育に関するデータ解析	安全教育に関するデータを読み解く。
27	安全教育に関する指導案作成	安全教育に関する指導案を作成する。

28 環境と健康に関するデータ 環境を健康に関するデータを読み解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導案の作成、文献を読みレポートを作成する

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説保健体育編
高等学校学習指導要領保健体育編

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
参加状況、取組状況による平常点（60 %）、レポート点（40 %）により評価

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見は積極的に取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンの持参

【その他の重要事項】
授業計画は授業の進展により変更がありうる。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is for students to deepen their understanding of school health and public health.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

木下 訓光

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「読む・分析する・評価する」から「調べる・発表する」へ

【到達目標】

春学期終了までに卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

研究テーマに沿って調査活動を行う。

研究活動の報告を行う。論理的思考に基づく議論、論文作成の技術などに関して、文献抄読やレポート提出、プレゼンテーションなどを通じて学習する。

英語によるプレゼンテーション、文章作成の指導を行う。

各学生の研究に必要な実験・測定を行う。

ヒューマンカロリーメーターを用いた測定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本専門演習の理念、各学生の目標設定、長期的な学習計画について。課題図書への提示。
2	プレゼンテーション・スキル①	【演習】2 年生の自己紹介（英語）。3 年生による評価。
3	プレゼンテーション・スキル②	【講義】プレゼンテーションの方法論に関する講義
4	プレゼンテーション・スキル③	【演習】3 年生による課題報告（英語）
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
6	研究報告会①	【演習】3 年生による研究発表会-1
7	体組成①：体組成測定の精度	【講義】各種体組成測定方法の原理、compornent model について理解する。
8	体組成②：インピーダンス法	【実習】インピーダンス法による体組成評価を行う。
9	体組成③：骨密度	インピーダンス法の原理について学ぶ。 【実習】DXA 法による実際に体組成評価を行う。 DXA 法および骨密度について理解する。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
11	持久力①：最大酸素摂取量の測定①	【実習】最大酸素摂取量の測定を行う。
12	持久力②：最大酸素摂取量の測定②	【実習】最大酸素摂取量の測定を行う。
13	持久力③：最大酸素摂取量の測定③	【演習】測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。
14	持久力④：最大酸素摂取量の測定④	【演習】測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
16	LT の測定①	【実習】LT を測定する。
17	LT の測定②	【実習】LT を測定する。
18	LT の測定③	【演習】測定データをもとに、被検者のLT 等を検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
20	ヒューマンカロリーメーター ①	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
21	ヒューマンカロリーメーター ②	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
22	ヒューマンカロリーメーター ③	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
23	ヒューマンカロリーメーター ④	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
24	研究報告会②	【演習】3 年生による研究発表会-2

25 Book Club ⑤

26 スポーツ栄養①

27 スポーツ栄養②

28 スポーツ栄養③

モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。

【講義】栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの機序について正確に理解する。

【実習】栄養調査・分析を行う。

【演習】栄養調査・分析の結果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

① 課題図書・文献のレビュー作成

② データ解析

③ 学外研究会への参加

【テキスト（教科書）】

・本多勝一、『中学生からの作文技術』。朝日新聞社。（2004）※研究室収蔵

・福澤一吉、『議論のレッスン』。生活人新書。（2002）※資料室収蔵

・小笠原 喜康、片岡 則夫、『中高生からの論文入門』。講談社現代新書。（2019）

【参考書】

・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 10th ed. (2017) ※研究室収蔵、ただし旧版は資料室収蔵にあり/b >

・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 4th ed. (2007) ※資料室収蔵

・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams & Wilkins; 4th ed (2012) ※研究室収蔵、ただし第 3 版は資料室にあり

・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed. (2018) ※研究室収蔵

【成績評価の方法と基準】

① 参加の仕方・姿勢（20%）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。成果はレポートなどで評価する。

② 抄読会・Book Club（20 %）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。

③ プレゼンテーション（20 %）：発表の structure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skill の水準。

④ 実習参加（20 %）：実習参加、レポート作成を評価する。

⑤ 演習およびレポート作成（20 %）：科学的分析能力。

⑥ 授業外セミナー、研究会への参加（optional）：各種セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic knowledge and skills of scientific investigation, statistical analysis, and presentation of data.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

清雲 栄純

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習Ⅱでは我が国におけるスポーツ振興の現状やスポーツ産業の広がりによる効果などを検証し、自身の将来を構想する機会とする。又、Jリーグや総合型地域スポーツクラブが地域に与える影響をについて演習Ⅰでの学びを進化させる。

【到達目標】

・2 年次で習得したスキルに加え、フィールドワークやインターンシップで体験する事で卒業後にどのような分野に行っても通用する基礎力を身に着ける。
・資格取得にチャレンジする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

日本における学校体育や生涯スポーツ・競技スポーツの実態を把握した上で、J リーグなどのプロスポーツクラブや総合型地域スポーツクラブの役割について理解した上で、インターンを通じてライフスタイルに応じたスポーツ社会の創造に向けてシミュレートする。又、社会全体でスポーツを支える基盤整備の現状を調査・研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス	・学習計画や研究計画の設定
2	・3 年次で取り組む研究	・3 年次で取り組む内容・将来に向けて各自で発表
3	・3 年次で取り組む研究	・3 年次で取り組む内容・将来に向けて各自で発表
4	・日本のスポーツこれからの5 年	・各自、テーマを選び調査する
5	・日本のスポーツこれからの5 年	・調査した結果をプレゼンテーションする
6	・海外の総合型スポーツクラブの現状を分析	・各自で調査する
7	海外の総合型クラブの現状分析	・プレゼンテーション
8	・J クラブの現状調査・分析	J クラブ（54 クラブ）のストロング・ポイントとウイーク・ポイントの調査・分析をグループごとに実施する
9	・J クラブの現状調査・分析	J クラブ（54 クラブ）のストロング・ポイントとウイーク・ポイントの調査・分析をグループごとに実施する
10	・総合型地域スポーツクラブの経営・運営	・地域スポーツクラブを自身で選定・分析し、自身が関わる役割をシミュレートする
11	・総合型地域スポーツクラブの経営・運営	・地域スポーツクラブを自身で選定・分析し、自身が関わる役割をシミュレートする
12	・スポーツ庁	・調査
13	・スポーツ庁	・プレゼンテーション ・ディベート
14	・スポーツの功罪	・研究テーマの発表 1

秋学期

回	テーマ	内容
15	・学校体育と地域スポーツクラブ	・研究テーマの発表 2
16	・地域スポーツクラブの役割	・NPO 法人法政クラブの現状分析と将来展望についてのグループ調査
17	・地域スポーツクラブの役割	・グループで選定した地域スポーツクラブの分析と将来展望についてのグループ調査
18	・日本サッカーの現状	・インターンシップで経験したことを発表
19	・日本サッカーの将来	・インターンシップで経験したことを発表
20	・スポーツの功罪	ディベート
21	・学校体育と地域スポーツ	ディベート

22	・スポーツ事業の計画・運営・評価	・J クラブのスポンサー獲得の現状を分析
23	・スポーツ事業の計画・運営・評価	・プレゼンテーション
24	・海外のサッカークラブと J リーグ	研究テーマ発表—3
25	・海外のサッカークラブと J リーグ	研究テーマ発表—4
26	・スポンサーシップ	・J クラブのスポンサー獲得の現状を分析
27	・スポンサーシップ	・海外クラブのスポンサー獲得の現状を分析
28	・研究テーマの決定	研究テーマ発表—5（卒業論文向けて）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

第 16 回：春学期の復習

第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

テキストはその都度、参考書は必要に応じて用意します。

【参考書】

テキストはその都度、参考書は必要に応じて用意します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 30 %、小論文・学外活動 50 %、調査研究 20 %

【学生の意見等からの気づき】

・J クラブや総合型地域スポーツクラブへのインターンの実施。

・アンケート調査地点の事前リサーチの実施。

【Outline and objectives】

In seminar Ⅱ The current state of lo keru sports promotion in JAPAN and

To verify the Effect of the spread of the sports industry or the opportunity to envisage the futur of its own.

The evlution of learning in seminar I the impaicton the region is Jleague and comprehensive community sports club.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

瀬戸 宏明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①運動器の障害に対する予防、再生について専門知識の獲得
- ②各自の研究テーマに沿った文献考察や研究成果についてプレゼンテーションがおこなえる

【到達目標】

- ①運動器疾患について所見といままで獲得した知識に基づいて評価ができる。
- ②科学的分析および論理的思考能力の応用力を獲得する。
- ③卒業論文にむけての研究テーマの検索と課題の設定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
- ②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
- ③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう。
2	文献検索の方法と実際	オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法に習熟
3	機能解剖学の復習 1	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習、抄読会
4	機能解剖学の復習 2	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習、抄読会
5	機能解剖学の復習 3	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習、抄読会
6	機能解剖学の復習 4	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習、抄読会
7	機能解剖学の復習 5	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習、抄読会
8	運動器疾患の学習/抄読会 1	運動器疾患の学習とそれに関連した抄読会
9	運動器疾患の学習/抄読会 2	運動器疾患の学習とそれに関連した抄読会
10	運動器疾患の学習/抄読会 3	運動器疾患の学習とそれに関連した抄読会
11	運動器疾患の学習/抄読会 4	運動器疾患の学習とそれに関連した抄読会
12	研究方法の学習 1/抄読会 5	卒業研究のすすめかた、抄読会
13	研究方法の学習 2/抄読会 6	卒業研究のすすめかた、抄読会
14	春学期のまとめ	春学期のまとめと秋学期の以降の方向性について確認する。
15	ガイダンス	秋学期の内容の確認
16	器械操作の確認 1/抄読会 1	バイオデックスについて、抄読会
17	器械操作の確認 2/抄読会 2	筋電図について、抄読会
18	器械操作の確認 3/抄読会 3	超音波について、抄読会
19	器械操作の確認 4/抄読会 4	DEXA の結果の検討、抄読会
20	抄読会 5	課題文献を決めて討論する。
21	研究計画の作成 1/抄読会 6	研究計画の作成、抄読会
22	研究計画の作成 2/抄読会 7	研究計画の作成、抄読会
23	研究計画の作成 3/抄読会 8	研究計画の作成、抄読会
24	予備実験 1	各自課題を設定して予備実験を行う。
25	予備実験 2	各自課題を設定して予備実験を行う。
26	予備実験 3	各自課題を設定して予備実験を行う。
27	今後の研究計画発表	卒業研究の研究計画発表会を行う。
28	まとめ	1：3 年時のまとめ 2：卒業研究に関する方向性の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 特になし
- 第 2-14 回：前回授業の復習
- 第 15 回：春学期の復習
- 第 16-28 回：前回授業の復習
- その他：課題レポートなど

【テキスト（教科書）】

特に指定なし
適時資料を用意する

【参考書】

- ・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008)
- ・坂井 健雄、松村 譲児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動系、医学書院、2011
- ・臨床スポーツ医学編集委員会：新刊スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド、文光堂、2003

【成績評価の方法と基準】

- 基本的には
 - ①平常点 70 点
 - ②各内容や課題への取り組み 30 点
- であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する場合がある。
プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わっている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

【Outline and objectives】

In this course, we study the fundamental concepts of sports medicine and Orthopaedics diseases by reading scientific articles and practical measurements during exercise. Theoretical background in this scientific area enables us to learn about sports medicine and Orthopaedics diseases.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

永木 耕介

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位
曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育授業における指導法の理論と実際について学ぶ。

【到達目標】

指導計画の立て方、授業における指導法、評価の方法等について、理論と実際の両面から理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

学習指導要領に示された各運動領域の実際の授業における計画を立て、模擬授業を行う。後半では、専門演習Ⅰの受講生が行う模擬授業に対する指導を行いながら、自己の授業づくりへの理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習Ⅰについて振り返り、Ⅱの学習計画について確認等を行う。
2	「体づくり運動」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
3	「体づくり運動」の模擬授業の実施	担当者が「体づくり運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
4	「器械運動」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
5	「器械運動」の模擬授業の実施	担当者が「器械運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
6	「陸上競技」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
7	「陸上競技」の模擬授業の実施	担当者が「陸上競技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
8	「球技」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
9	「球技」の模擬授業の実施	担当者が「球技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
10	「武道」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
11	「武道」の模擬授業の実施	担当者が「武道」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
12	「ダンス」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
13	「ダンス」の模擬授業の実施	担当者が「ダンス」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
14	「体育理論」の模擬授業の実施	担当者が「体育理論」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。

秋学期

回	テーマ	内容
15	春学期の振り返り	春学期で行った各運動領域の模擬授業を振り返り、専門演習Ⅰの受講者に対する指導的役割の確認を行う。
16	「体づくり運動」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
17	「体づくり運動」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
18	「器械運動」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
19	「器械運動」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
20	「陸上競技」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
21	「陸上競技」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。

22	「球技」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
23	「球技」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
24	「武道」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
25	「武道」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
26	「ダンス」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
27	「ダンス」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
28	「体育理論」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外で指導案を作成する必要がある。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成 20 年版・平成 29 年版（東山書房）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編 （東山書房）

【参考書】

体育の教材を創る（大修館書店）
保健体育科教育法 （大修館書店）
新版体育科教育学入門 （大修館書店）
保健体育科教育法 （アイオーエム）
内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）

【成績評価の方法と基準】

参加状況・態度による平常点（60％）、レポート点（40％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今後も学生参加型の授業方法で進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出において授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

授業計画は展開によって変更があり得る。

【Outline and objectives】

This seminar is for students wishing to study Physical Education pedagogy through teaching theory and practice.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

中澤 史

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅰにおいて習得した知見や研究手法を精査し、卒業論文作成に向けた研究テーマの確定と研究計画の作成に取り組む。

【到達目標】

1. 卒業論文作成に向けて、各自の研究課題を整理する。
2. 研究テーマを決定し、研究計画書を作成する。
3. 研究計画の作成に寄与する予備調査に取り組む。
4. 予備調査の結果を報告書にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

専門演習Ⅰで習得した知見を下敷きとして各自が課題設定を行ない、先行研究の精読や仮説検証に向けた予備調査に取り組む。その進捗状況を適宜発表し、全体討議や個別指導を通して課題の明確化を図り、研究テーマおよび研究計画を確定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明，他已紹介，演習方針の決定
2	競技力向上に関連する論文講読・発表	競技力向上のための心理サポートに関連する文献講読・発表
3	実力発揮に関連する論文講読・発表	実力発揮のための心理サポートに関連する文献講読・発表
4	スポーツカウンセリングに関連する論文講読・発表	スポーツカウンセリングによる心理サポートに関連する文献講読・発表
5	チームビルディングに関連する論文講読・発表	チームビルディングを用いた心理サポートに関連する文献講読・発表
6	球技に関連する論文講読・発表	球技を対象とした心理サポートに関連する文献講読・発表
7	対人競技に関連する論文講読・発表	対人競技を対象とした心理サポートに関連する文献講読・発表
8	チームに関連する論文講読・発表	チームを対象とした心理サポートに関連する文献講読・発表
9	体育授業に関連する論文講読・発表	体育授業における心理サポートに関連する文献講読・発表
10	研究テーマの検討	研究論文のテーマについて検討する
11	研究方法の検討	研究方法について検討する
12	プレゼンテーション	各自が関心のあるテーマについてプレゼンテーションする
13	ディスカッション	個々の研究テーマについてディスカッションする
14	総括	夏季休業中に取り組む研究計画の立案・発表
15	夏季休業期間の取り組みの振り返り	夏季休業中に実施した研究成果の発表
16	研究計画書の書き方①	緒言，目的，方法の記載の仕方について学ぶ
17	研究計画書の書き方②	期待される結果，研究の意義
18	研究計画書の書き方③	フローチャートの作成
19	予備調査①	質問紙調査の仕方を学ぶ
20	予備調査②	データ入力の方法を学ぶ
21	予備調査③	データ分析に取り組む
22	結果分析①	予備調査の結果を分析する
23	結果分析②	予備調査の結果について再考する
24	研究計画の再考①	調査方法を精査する
25	研究計画の再考②	分析方法を精査する
26	研究計画の再考③	考察の内容を検討する
27	研究計画書の作成	研究計画書を作成する
28	総括	演習全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関連する文献の収集・読解，およびプレゼンテーションの準備等への取り組みを期待する。

【テキスト（教科書）】

中澤 史「アスリートの心理学」日本文化出版 2016

【参考書】

1. 松井 豊「改訂新版心理学論文の書き方：卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 2014
2. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004
3. 藤田哲也（編）「大学基礎講座」北大路書房 2006

【成績評価の方法と基準】

1. 研究計画書，レジュメ，リアクションペーパー，各種課題等の提出物（50 %），授業への参画状況およびプレゼンテーション（50 %）による総合評価。
2. 原則として、欠席 3 回までを評価の対象とします。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. プレゼンテーションでは、発表の仕方，スライドの体裁等について評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教育実習，介護実習等の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡すること。社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告，連絡，相談）」の実施を求めます。

【その他の重要事項】

1. 授業概要の説明，発表順の決定などを行なうため，必ず初回授業に出席すること。
2. 上記の授業計画は，受講者数等によって変更される場合がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students examine the knowledge and research methods acquired in professional exercise Ⅰ. It also enhances the development of students' skill in making graduation thesis.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

成田 道彦

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位
曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでの各自の研究テーマをより深く掘り下げ、疑問点、問題点を整理し 4 年次演習Ⅲの卒業論文作成に備える。

【到達目標】

2 年次秋学期の演習Ⅰで研究発表したテーマを参考に秋学期各自の演習Ⅲに向けて研究テーマを決定し、4 年次の卒論に向けて準備する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年次を対象に少人数での報告、検討、実践をとおして学習を深める演習である。2 年次秋学期で設定したテーマに沿ってさらに調査研究し発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の計画。自己紹介
2	演習Ⅰを振り返る	各自の研究テーマの再検討を行う。
3	論文について	レポートと論文の違いについて学ぶ。
4	グループ別調査 1	グループに分かれ関心あるテーマを決める。
5	グループ別調査 2	調査方法と役割分担を明確化する。
6	グループ別調査 3	テーマに沿ってグループ別調査。
7	グループ別調査 4	レジュメの作成
8	グループ別調査 5	発表資料作成
9	プレゼンテーション 1	グループ別発表
10	プレゼンテーション 2	グループ別発表
11	プレゼンテーション 3	グループ別発表
12	プレゼンテーション 4	グループ別発表
13	プレゼンテーション 5	グループ別発表
14	春学期まとめ	春学期授業の反省点を確認し、秋学期に備える。

秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	秋学期の計画
16	個人別研究テーマの再検討	各自の研究テーマを明確化する。
17	個人別研究テーマの決定 1	各自の研究テーマ発表
18	個人別研究テーマの決定 2	各自の研究テーマ発表
19	個人別研究テーマの決定 3	各自の研究テーマ発表
20	個人別研究中間発表 1	文献の検討と講読。レジュメの作成
21	個人別研究中間発表 2	文献の検討と講読。レジュメの作成
22	個人別研究中間発表 3	文献の検討と講読。レジュメの作成
23	個人別研究中間発表 4	文献の検討と講読。レジュメの作成
24	個人別研究発表 1	個人別研究発表。論文作成
25	個人別研究発表 2	個人別研究発表。論文作成
26	個人別研究発表 3	個人別研究発表。論文作成
27	個人別研究発表 4	個人別研究発表。論文作成
28	秋学期まとめ	年間の授業を総括し次年度に備える。 年間を振り返り反省点・問題点を確認する。論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

第 15 回：春学期の復習

第 16～28 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、発表（40％）、積極性（20％）

授業に対する積極的な取り組み（研究・発表）、業態度等を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今後の目標を明確に把握し指導していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Students investigate their topics, elucidate doubtful points and problems and develop a research.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

Nemes Roland

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、自らが問題・課題を提起し、それらを先行研究の調査、実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ、実際の研究遂行を見据えた実践方法を学びます。

【到達目標】

1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索ができる。
2. 発表資料を作成し、聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。
3. 論文に記載されている実験・調査方法、分析法が理解できる。
4. 基本的な実験・測定・調査が実践できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

少人数グループに分かれ、国内外の文献を検索と発表することを通じ、コーチングに関連している様々な研究法と論文の書方について学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	3 年時のゼミナールの目的・内容の確認
2	文献検索の方法と実際①	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法に習熟する。
3	文献検索の方法と実際②	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法に習熟する。
4	統計解析の基礎①	実験、又は研究に必要な統計解析について学習する。
5	統計解析の基礎②	実験、又は研究に必要な統計解析について学習する。
6	統計解析の基礎③	実験、又は研究に必要な統計解析について学習する。
7	研究法①	コーチング・スポーツ科学に関する研究法について学習する。
8	研究法②	コーチング・スポーツ科学に関する研究法について学習する。
9	研究法③	コーチング・スポーツ科学に関する研究法について学習する。
10	プレゼンテーション方法	パワーポイントプレゼンテーションについて学習する。
11	文献検索と輪読①	興味のあるテーマにおける論文を検索し、概要を作成、発表を行う。
12	文献検索と輪読②	興味のあるテーマにおける論文を検索し、概要を作成、発表を行う。
13	文献検索と輪読③	興味のあるテーマにおける論文を検索し、概要を作成、発表を行う。
14	まとめ	前期をまとめて、後期に向けて準備する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	秋学期授業のガイダンスを行う。
16	文献検索と輪読①	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読とディスカッションする。
17	文献検索と輪読②	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読とディスカッションする。
18	文献検索と輪読③	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読とディスカッションする。
19	文献検索と輪読④	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読とディスカッションする。
20	文献検索と輪読⑤	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読とディスカッションする。
21	研究方法の立案	演習合同テーマについてその研究方法、調査方法を検討する。
22	論文作成①	演習合同テーマの論文を作成する。
23	論文作成②	演習合同テーマの論文を作成する。
24	論文作成③	演習合同テーマの論文を作成する。
25	発表①	演習合同テーマの論文を発表する。

26	発表②	演習合同テーマの論文を発表する。
27	発表③	演習合同テーマの論文を発表する。
28	まとめ	1 年を振り返って意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマが設定され、分野と方向性が決まれば、そこにかかわる組織やグループと積極的に接触の機会を持つこと。ひとつの組織に限定せず、多方面からそれを眺め渡せるような環境下に自分を置くことも大切。講義の形態から、随時研究室に顔を出しコミュニケーションを図ること。ジャーナルな視点で、研究テーマに関わる記事・論文などには必ず目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

個々の研究テーマにしたがって、それぞれに勘案する。

【参考書】

海外の文献なども積極的に視野に入れる。インターネットの英語への翻訳ソフトを使えば、何語で書かれていようとそれなりの内容がつかめるようになる。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50 %) とプレゼン (50 %) によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

レポートやディスカッションの資料を作成するための個人用パソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The main objective is to learn about coaching in a practical and theoretical way. Students will be required to search and present issues they are interested in sports coaching.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

平野 裕一

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツのコーチングにおける科学の活用を探る。そのためにはスポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学の知識と活用法を理解していることが求められる。この授業では特に活用法に焦点を絞り、スポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学で用いられる測定法に習熟する。

【到達目標】

スポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学で用いられる測定法の原理を理解し、活用できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

測定法ごとにグループをつくる。2グループ並行で測定を進める。

測定法の原理、使い方を調べてプレゼンテーションする。

測定法を使った事前の測定を計画する。

事前の測定から実際の測定を計画する。

実際の測定を実施し、参加者にフィードバックする。

測定に関する先行研究を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方のガイダンス グループ分けと測定法の選択
2	VTRとフォースプレートの原理と使用法	VTRの原理と高速撮影法、分析法のプレゼンテーション フォースプレートの原理と使い方のプレゼンテーション
3	VTRとフォースプレートの事前測定①	2グループに分けての事前測定の説明、実施
4	VTRとフォースプレートの実際の測定①	事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
5	VTRとフォースプレートの測定分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
6	VTRとフォースプレートの事前測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
7	VTRとフォースプレートの実際の測定② バイコンと筋電図の原理と使用法	事前測定の結果報告 2グループ交替しての実際の測定の説明、実施 バイコンの原理と撮影法、分析法のプレゼンテーション 筋電図の原理と使い方のプレゼンテーション
8	VTRとフォースプレートの測定分析結果② バイコンと筋電図の事前測定①	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック 2グループに分けての事前測定の説明、実施
9	VTRとフォースプレートの先行研究 バイコンと筋電図の実際の測定①	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション 事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
10	バイコンと筋電図の測定分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
11	バイコンと筋電図の事前測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
12	バイコンと筋電図の実際の測定②	事前測定の結果報告 2グループ交替しての実際の測定の説明、実施
13	バイコンと筋電図の測定分析結果②	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック
14	バイコンと筋電図の先行研究	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション
15	後半のガイダンス	授業の進め方のガイダンス グループ分けと測定法の選択

16	酸素摂取量と筋力測定の原理と使用法	酸素摂取量測定の原理と測定法のプレゼンテーション バイオデックスの原理と使い方のプレゼンテーション
17	酸素摂取量と筋力測定の事前測定①	2グループに分けての事前測定の説明、実施
18	酸素摂取量と筋力測定の実際の測定①	事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
19	酸素摂取量と筋力測定の測定分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
20	酸素摂取量と筋力測定の事前測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
21	酸素摂取量と筋力測定の実際の測定② 身体組成とGPSの原理と使用法	2グループに分けての実際の測定の説明、実施 身体組成の原理と測定法のプレゼンテーション GPSの原理と使い方のプレゼンテーション
22	酸素摂取量と筋力測定の測定分析結果② 身体組成とGPSの事前測定①	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック 2グループに分けての事前測定の説明、実施
23	酸素摂取量と筋力測定の先行研究 身体組成とGPSの実際の測定①	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション 事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
24	身体組成とGPSの測定分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
25	身体組成とGPSの事前測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
26	身体組成とGPSの実際の測定②	事前測定の結果報告 2グループ交替しての実際の測定の説明、実施
27	身体組成とGPSの測定分析結果②	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック
28	身体組成とGPSの先行研究	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

測定法の原理について予め調査し、プレゼンテーション資料にまとめる。

測定法を事前に練習する。

測定結果を分析してプレゼンテーション資料にまとめる。

先行研究を読んで授業で紹介できる形式にする。

【テキスト（教科書）】

なし（資料を作成して提示する）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

・測定法の原理、使い方の調査報告（25点）

・作成した実際の測定デザイン（25点）

・測定結果のフィードバック（25点）

・先行研究の紹介（25点）

を総合的（100点）に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングになるように進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料を使うことがある。

【Outline and objectives】

Knowledge on sports biomechanics and sports physiology are necessary for the students to explore the effective utilization of sports sciences in sports coaching. In this class, mastery is aimed on the how to use of the sports biomechanics and sports physiology machines. Reading comprehension for the references are also necessary for the students to design their researches for the graduation thesis.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

宮本 健史

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、自らが問題・課題を提起し、それらを先行研究の調査、実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ、実際の研究遂行を見据えた実践方法を学びます。

【到達目標】

1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索ができる。
2. 発表資料を作成し、聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。
3. 論文に記載されている実験・調査方法、分析法が理解できる。
4. 基本的な実験・測定・調査が実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション、研究・実験計画の基礎、文献のレビュー、実験・測定・調査の具体的方法、統計解析、研究仮説の設定などの各方法を学び、研究の方向性を探ります。まずはグループでの作業から取り組みますが、最終的には個人ごとにテーマを設定し、様々な作業・学習を実践します。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。

○身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御 / 生理的状態と心理的情報との対応

○種々の身体パフォーマンスに関係する体力の測定・評価、運動中のエネルギー代謝

○体型と減量行動・痩身指向・身体活動量・エネルギー代謝

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け、グループ分けを行う。
第 2 回	発表方法を学ぶ	レジュメおよび PC を用いたプレゼンテーションについて学ぶ。
第 3 回	発表方法の実際 (1)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (1)。
第 4 回	発表方法の実際 (2)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (2)。
第 5 回	発表方法の実際 (3)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (3)。
第 6 回	発表方法の実際 (4)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (4)。
第 7 回	研究計画を学ぶ (1)	文献を利用した研究の展開方法について学ぶ (1)。
第 8 回	研究計画を学ぶ (2)	文献を利用した研究の展開方法について学ぶ (2)。
第 9 回	先行研究の調査 (1)	個人の研究テーマについて、現在の知見をまとめて発表する (1)。
第 10 回	先行研究の調査 (2)	個人の研究テーマについて、現在の知見をまとめて発表する (2)。
第 11 回	実験・調査方法を学ぶ (1)	尺度の判定 (名義・順位・間隔・比率尺度データ)、相関・予測の分析について学ぶ。
第 12 回	実験・調査方法を学ぶ (2)	実験計画法と分散分析 (一要因の分散分析) を学ぶ。
第 13 回	実験・調査方法を学ぶ (3)	実験計画法と分散分析 (二要因の分散分析) を学ぶ。
第 14 回	測定方法を学ぶ (1)	骨格筋活動の測定についてグループで調査して発表し、論議する。
第 15 回	測定方法の実際 (1)	骨格筋活動 (筋電図) の測定方法を学ぶ。
第 16 回	測定方法を学ぶ (2)	エネルギー代謝の測定についてグループで調査して発表し、論議する。
第 17 回	測定方法の実際 (2)	エネルギー代謝 (呼吸ガス分析) の測定方法を学ぶ。
第 18 回	測定方法を学ぶ (3)	身体の動作解析についてグループで調査して発表し、論議する。
第 19 回	測定方法の実際 (3)	動作解析の測定方法を学ぶ。

第 20 回 測定方法を学ぶ (4)

第 21 回 測定方法の実際 (4)

第 22 回 測定方法を学ぶ (5)

第 23 回 研究課題の設定

第 24 回 研究計画の立案 (1)

第 25 回 研究計画の立案 (2)

第 26 回 研究の実践 (1)

第 27 回 研究の実践 (2)

第 28 回 研究成果の発表

質問紙調査についてグループで調査して発表し、論議する。

質問紙調査の方法について学ぶ。種々のコーチングや指示・指導方法についてグループで調査して発表し、論議する。

研究テーマに関する文献をレビューし、グループごとに研究課題を設定する。グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する (1)。

グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する (2)。

グループごとに、ミニ研究に向けたデータ収集の準備を行う。

グループごとに、ミニ研究のデータ分析・考察を行う。

ミニ研究の結果報告会 (ミニ研究の結果をグループごとに発表する)。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの回で文献の検索やレビュー (まとめ)、プレゼンテーションの準備、研究計画書の作成などの課題を課します。毎回の授業での指示に従って学習を進めて下さい。

また、個人研究、グループ研究共に、授業以外に時間を設けて実験・調査、発表準備などの作業を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付、書籍・文献の紹介をします。

【参考書】

Thomas J. R. and Nelson J. K. (田中 喜代次 訳). 身体活動科学における研究方法. ナッパ.

出村慎一, 山下秋二, 佐藤進. 健康・スポーツ科学のための調査研究法. 杏林書院.

浦上昌則, 脇田貴文. 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方. 東京図書.

田中敏, 山際 勇一郎. ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法—方法の理解から論文の書き方まで. 教育出版.

【成績評価の方法と基準】

評価は、1) 実験・調査・発表の内容：60%、2) 授業への参画状況 (出席・発言など)：40%、で行います。

【学生の意見等からの気づき】

理解度については概ね目標を達成できたと感じているが、一方で授業内での活動については、個人差が大きいように感じられた。

また、授業の進行に際して、受講生から改善の意見があったことから、発表や作業と、測定機器の使用法学習などのバランスを再検討し、学習効率の向上を目指す予定である。

【その他の重要事項】

運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to learn the practical methodology for future research activities through raising own research questions and solving them by investigating previous studies, experiments, surveys and data analysis.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

山本 浩

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既に専門演習Ⅰを経験した学生によるⅡは、専門演習Ⅰで培った力を元にさらに大きな世界観でスポーツを捉えるところに重心を置く。引き続き「メディア」「スポーツの社会問題」「スポーツ組織のありよう」などが柱をなす主題だ。Ⅱに参加する学生は専門演習Ⅲを見据え、「将来取り組むテーマ」をより具体的に抽出すること。となれば「何に取り組むのか」を超えて、「どう取り組むのか」を意識に置くことだろう。根本原則は、論文でもプレゼンテーションでも変わらない。正確で論理的な整合性があり、論文の基本原則を踏まえた上で：①キャッチのある導入②わかりやすい構成③新鮮な情報④飽きさせない流れ⑤説得力のある論理立て、そして⑥個性があって毅然としたものの見方すること。これを体得する 1 年間で。

【到達目標】

専門演習Ⅰで身につけた手法を元に、揺るぎない指摘、説得力のある論理展開を身につけること。そのためには取り組むテーマを分析・検討した上で、関連する資料やデータを十分に精査していかなければならない。資料の選択や抽出に矛盾はないか。対立意見を十分に検討しているか。出典は正確か。アンケートの項目を、答える側に立って検証しているか。説得力のある発言を取り込んでいるか。具体的な事例を元にひとつずつ積み上げていく。完成度が高くなる論文を書く能力を獲得することが目標だ。そのためには個別の能力を磨くこと。そうすれば他の受講生のプレゼンテーションに対する鋭い批評眼も養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

あくまで学生主体の授業である。参加者は専門演習Ⅰと同じ空間にいるが、ステージは更に高い。授業の中で求められるのは；①積極的なリーダーシップの発揮②後進の手本となるような研究成果の発表③幅広いジャンルに対する知見、斬新なものの見方の提示。
初めて専門演習の世界に入ってくるⅠの学生たちの期待は大きい。経験を生かして、Ⅰの学生たちにあるときは厳しくあるときは寛容に、自身の研究成果はわかりやすくなお深く対応する。リーダーシップを随所に発揮しながら、専門演習Ⅱの学生達が軸になって演習を回していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 演習生Ⅱの自己紹介	自己紹介では、演習生Ⅱらしく、焦点を定めた見本となるべき紹介が求められる。連絡系統の確認をする。
2	プレゼンテーションの見方、聞き方、考え方	演習生Ⅱの代表者数人によるプレゼンテーション見本。意見交換。
3	素材のあり所と押さえ方	テーマを追求するのに当たって、材料のあり所、テーマを巡る選択肢の場所探し、そしてアプローチの方向を検討。演習生Ⅰの制作をサポートする。
4	プレゼンテーション制作①	
5	プレゼンテーション①	前週に制作したプレゼンテーションをスクリーンで発表。意見交換から過不足の検討
6	調査・インタビュー・素材抽出	素材を集める際に使われるひとつの方法がインタビューやアンケート。その考え方を議論する。
7	論文の分析、書き方	先行研究のとらえ方、目次、アブストラクト、章立てなど論文執筆の手法を内外の論文や記事を参考にしながら確認する。
8	プレゼンテーション制作②	話題になっているスポーツ界のトピックを取り上げ、自分なりの分析を PPT で制作する。演習生Ⅰとは違った取組をする。
9	プレゼンテーション②	前週制作の PPT を演習生Ⅱの代表数人が提示、議論する。
10	スポーツの常識／非常識	私たちが理解しているスポーツ界のポジティブな面とネガティブな面を比較検討する。
11	スポーツの常識／非常識	複数のメディアを比較しながらそれぞれの主張の違い、その背景を検証する。

12	プレゼンテーション制作③	海外の論調を取り入れて、これまでの主張を改訂する。
13	プレゼンテーション③	プレゼンテーションを制作し発表する。
14	プレゼンテーション④	プレゼンテーションを制作し発表する。また、夏の課題を提示する。ゼミ合宿の最終確認。
秋学期		
回	テーマ	内容
15	夏課題総括①	春学期に設定しておいた夏課題の成果を発表する。
16	夏課題総括②	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
17	夏課題総括③	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
18	プレゼンテーション制作④	ジャーナルなテーマを元にプレゼンテーションを制作。それによってスポーツ界の構造変化を再確認する。
19	プレゼンテーション⑤	前週制作したものを発表する。
20	プレゼンテーション⑥	前々週から制作にかかっていたものを発表する。
21	プレゼンテーション制作⑤	過去 2 週間に演習で受けた批評を元に、自作のプレゼンテーションを改訂する。
22	プレゼンテーション⑦	前週の改訂版をプレゼンする。
23	プレゼンテーション⑧	前々週から改訂してきたプレゼンを披露する。
24	プレゼンテーションを元に論文制作	二次研究発表＝夏以降作った研究の改訂版と批評。
25	論文発表①	総括研究発表①
26	論文発表とプレゼンテーション①	総括研究発表②
27	論文発表とプレゼンテーション②	総括研究発表③
28	小論文により研究、執筆、PPT 制作の力量試験	これまでの演習で伝えられた、議論になった内容から、持論を展開する小論文を執筆する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディアの情報に敏感に。ただし「鵜呑み」であっては意味がない。他のメディアがどんな論調でいるのか。このコラムに足りないところはないのか。ちょっとしたチャンスに自分の世界観をぶつけてもらいたい。そのためには、自分の考えがどこからきたのか、足下を探っておくことも必要だ。もう一つ大切なことは、自分の将来設計と自分の追い求めるテーマとがどこかで重なるような組み立てができるかどうか。エネルギーの向かう方向が定まったとき、その一撃は途方もなく大きな力を発揮する。

【テキスト（教科書）】

なし（必要に応じてその都度、用意する）。

【参考書】

求めに応じて個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（批評の内容/研究発表）50 %、最終章論文 50 %。
評価基準：経験をどう生かしているか。積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているか、鋭い批評眼があるかどうかなど。
最終演習日には、小論文を課す。必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

専門演習Ⅰの学生に対する、アクティブな対応ができるチャンスを増やす。学外での経験を増やせるように、社会参加へのサポートを続けたい。エントリーシートのチェックなど依頼には応じる。
参加学生の評価が高い外部講師の招聘を、これまで通り継続する。演習生の積極的な提案を待ちたい。

【学生が準備すべき機器他】

自分のパソコンを持っている演習生は、それを持参すること。パワーポイント、DVD、映像資料などを頻繁に使用する。

【その他の重要事項】

自分のテーマだけでなく、ゼミ全体のテーマを次々に提案するような気概を一人一人に持ってもらいたい。夏休みに、夏ゼミ合宿を検討する。万難を排して参加してもらいたい。
オフィスアワーとは別に、メールで打診して積極的に研究室に足を運ぶよう求めたい。
演習の際には、指名が無くてもどんどん積極的に発言すること。

【実務経験のある教員授業】

過去 32 年間にわたって、放送局勤務でスポーツ報道に携わった。国内外のメディアのやりとりやスポーツ現場の成り立ちなど経験したことは少なくない。演習では、そこで獲得した知見やネットワークをフルに生かしていく。

【特記事項】

今年 5 月、6 月にドイツ人客員教授時短夜短期集中の特別講義がある。スポーツメディア論を英語で講義するものだ。週に二回の講義は、二ヶ月で単位Ⅱを獲得するチャンスであるだけにとどまらず、現代ドイツスポーツメディア界の著名教授による欧州のスタンダードを学んでもらいたい。積極的に登録することを勧めたい。

[Outline and objectives]

A student who has already experienced the seminar I could capture sports with a larger world view. Students who participate in II should broaden their horizons to the seminar III and try to extract a future theme of their studies. They find there some fundamental principles: ① introduction with good catch ② easy-to-understand composition ③ fresh information ④ development not to be got weary ⑤ convincing logic and ⑥ originality.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

吉田 政幸

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅰで学習したマーケティングリサーチの手法や分析方法を活用し、自ら調査設計から調査まで行う。本演習の後半は 4 年次の卒業研究に向け、スポーツマーケティングに関する研究計画を立て、それに基づいて卒業論文の序論および方法を執筆する。

【到達目標】

受講者は演習を通じて以下の目標に到達する：

- (1) 調査の手法やデータの扱い方を学びながら、現場で求められている調査内容や分析についても検討し、実践する。
- (2) 後期の演習では、各自が選んだ研究テーマに関連する先行研究を概括し、過去の研究群が明らかにできなかった課題を特定するとともに、それを克服するための新しいアイデアと研究計画を示すことができる。
- (3) 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
- (4) 目的に応じて研究方法を適切に設定し、実施計画を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生を対象に少人数の指導体制のもと、報告・討論・実践をおとして学びを深める。これまでに講義で修得した知識を踏まえるとともに、2 年次の専門演習Ⅰにおいて設定した自身のテーマを掘り下げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび演習の概説	卒業研究に向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	研究とは何か	研究・調査の進め方について学習する。
第 3 回	調査・研究の方法	問題を解決するための調査の手法や、統計的な分析の手法について学習する。
第 4 回	調査の妥当性と信頼性	調査および研究の妥当性や信頼性について理解する。
第 5 回	調査ガイダンス	スタジアム観戦者調査について、調査の方法や注意点について学習する。
第 6 回	統計解析の基礎	基本的な統計分析の手法（記述統計、カイニ乗検定、平均値の差の検定など）について学ぶ。
第 7 回	推計統計	分散分析、回帰分析、多変量分散分析などについて学習する。
第 8 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：観戦動機	人がスポーツ観戦を行う理由は多岐に渡る。ここではスポーツ観戦者の動機因子について学ぶ。
第 9 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：スポーツ関与	人とスポーツの関わり方の強さをスポーツ関与という。今回はこのスポーツ関与について学ぶ。
第 10 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：顧客満足	スポーツ消費者のニーズ充足と顧客満足の関係を説明する顧客満足理論について学ぶ。
第 11 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：社会的アイデンティティ	スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる特徴を持つ。両者を区分する最大の特徴であるチームアイデンティティについて学ぶ。
第 12 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：顧客ロイヤリティ	スポーツにおける顧客ロイヤリティと併せて、近年注目される顧客エンゲージメントについても学ぶ。
第 13 回	各自の研究テーマの設定	興味のある対象に対して、問題点を整理し、問題解決のための手目的や手法を踏まえ、テーマを設定する。
第 14 回	ゼミ内プレゼンテーション	設定したテーマを踏まえ、卒業論文につながるような内容にてプレゼンを行う。
第 15 回	後期の演習の概要の説明	後期の演習の概要および卒業研究の意義を理解する。
第 16 回	過去の卒業研究の検討：第 1 グループ	第 1 グループが、過去の卒業研究について (1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。
第 17 回	過去の卒業研究の検討：第 2 グループ	第 2 グループが、過去の卒業研究について (1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。

第 18 回	過去の卒業研究の検討：第 3 グループ	第 3 グループが、過去の卒業研究について (1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。
第 19 回	先行研究（一般の研究）の検討：第 1 グループ	第 1 グループが、一般の研究論文について (1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。
第 20 回	先行研究（一般の研究）の検討：第 2 グループ	第 2 グループが、一般の研究論文について (1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。
第 21 回	先行研究（一般の研究）の検討：第 3 グループ	第 3 グループが、一般の研究論文について (1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。
第 22 回	研究課題の選択	各自のテーマについて、(1) 研究の背景、(2) 研究目的、(3) 学術的な重要性、(4) 実践的な重要性をまとめ、発表する。
第 23 回	序論の執筆：研究の背景	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定する。
第 24 回	序論の執筆：問題の所在	各自の研究テーマは、先行研究によってどこまで理解されているかを把握するとともに、未解明の研究課題を特定する。
第 25 回	序論の執筆：問題の所在、研究の目的、重要性	研究の目的を設定し、その目的を達成することでどのような学術的貢献を果たすことができるのかについても述べる。
第 26 回	序論の執筆：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
第 27 回	序論の執筆：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を理論的根拠とともに導出する。
第 28 回	方法の執筆：研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。前期は事前に配布される資料を読んで疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してきてください。後期は毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】

- (1) 研究手法に関するレポート：10 点（春学期）
 - (2) 研究テーマの発表：10 点（春学期）
 - (3) 先行研究のレビュー：20 点（秋学期）
 - (4) 序論（緒言、問題の所在）の執筆：20 点（秋学期）
 - (5) 序論（目的、重要性）の執筆：20 点（秋学期）
 - (6) 序論（概念的枠組み）の執筆：20 点（秋学期）
- 合計：100 点

【評価基準】

それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。
100%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができています。
80%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出している。
60%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から解決策を導き出している。
40%：自身が立てた計画に沿い、課題に客観的に取り組んでいる。
20%：自身が立てた計画に沿って課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者が深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

レポートやディスカッションの資料を作成するための個人用パソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【Outline and objectives】

This course is a seminar of sport marketing research. Students will learn how to conduct sport marketing research based on their own interests and research questions. Upon successful completion of this course, students will be able to (1) develop a proposal for their graduation theses and (2) write the introduction and method sections of their manuscripts.

HSS4001A

専門演習Ⅲ

安藤 正志

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をととして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文、あるいは発表として練り上げていくことを目的とする。

【到達目標】

論文に仕上げ報告するまでの課程を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

4 年間の総括として健康科学に関する疑問を学生自ら見だし、それを種々の実験あるいは調査を通して検証する。得られた結果について報告、討論を行い健康科学に対する問題解決能力を養う総括的演習とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	今後の予定のオリエンテーション	今後の予定をオリエンテーションする
2	実験データ者の報告	下級学年との報告会
3	論文組み立て案	教員との面談で方針を決める
4	関連した文献報告を行う①	文献を検索しこれを報告する
5	関連した文献報告を行う②	文献を検索しこれを報告する
6	関連した文献報告を行う③	文献を検索しこれを報告する
7	関連した文献報告を行う④	文献を検索しこれを報告する
8	関連した文献報告を行う⑤	文献を検索しこれを報告する
9	関連した文献報告を行う⑥	文献を検索しこれを報告する
10	関連した文献報告を行う⑦	文献を検索しこれを報告する
11	論文指導を行う①	面談で論文指導を行う
12	論文指導を行う②	面談で論文指導を行う
13	論文指導を行う③	面談で論文指導を行う
14	論文指導を行う④	面談で論文指導を行う

秋学期

回	テーマ	内容
15	報告会	中間報告会
16	秋学期オリエンテーション	下学年ゼミ生徒の合同報告会
17	論文報告会	下学年ゼミ生徒の合同報告会
18	論文報告会	下学年ゼミ生徒の合同報告会
19	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導①	協同実験 順番で面接指導
20	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導②	協同実験 順番で面接指導
21	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導③	協同実験 順番で面接指導
22	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導④	協同実験 順番で面接指導
23	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑤	協同実験 順番で面接指導
24	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑥	協同実験 順番で面接指導
25	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑦	協同実験 順番で面接指導

26	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑧	協同実験 順番で面接指導
27	論文完成	論文を仕上げ完成させ提出する
28	学術大会への参加	学会へ参加し学術的雰囲気を経験する (日程未定) 順番で面接指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文に仕上げるまでの課程を学ぶ

【テキスト（教科書）】

各自関連した文献を 10 論文以上検索し読む。

【参考書】

各自関連した参考書を見つける

【成績評価の方法と基準】

発表会の成績 (30%)、論文の完成度 (60%)、宿題等論文の作成のための課題 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

個人面接による指導を中心とする

【学生が準備すべき機器他】

研究に関する参考文献や図書を各自が検索しみつける。

【その他の重要事項】

専門演習Ⅱを履修済みで、卒業研究、卒業論文を完成させる意志のあるものが対象である。

【Outline and objectives】

Individual graduation research guidance is conducted.

Think about the idea of research.

Think about the method of research.

Collect data.

Analyze and consider the data.

Finish research papers

HSS4001A

専門演習Ⅲ

泉 重樹

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年次を対象に、綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文、あるいは発表表として練り上げていくことを目的とする。

【到達目標】

スポーツ医学、特に運動器系のスポーツ外傷・障害予防に関する実験研究、実践的な取り組みや具体的な事例に対する報告等の研究を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本ゼミでは実験研究を中心とした卒業研究を、先行研究の読み込みから、研究仮説・方法の立案、予備実験、本実験を通して、卒業論文を仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習内容の確認
2	研究テーマの立案 1	研究テーマをプレゼンテーションすることで、ディスカッションを深める。
3	研究テーマの立案 2	研究テーマをプレゼンテーションすることで、ディスカッションを深める。
4	予備実験の準備	研究テーマに基づいた予備実験を計画する。
5	予備実験 1	予備実験を通して研究の方向性を決定する。
6	予備実験 2	予備実験を通して研究の方向性を決定する。
7	予備実験 3	予備実験を通して研究の方向性を決定する。
8	予備実験 4	予備実験を通して研究の方向性を決定する。
9	予備実験 5	予備実験を通して研究の方向性を決定する。
10	これまでの振り返り	予備実験を振り返り、本実験へ向けた最終的な確認を行う。
11	倫理書作成と本実験準備	倫理書を作成し、本実験を行う。
12	本実験 1	本実験を開始する。
13	本実験 2	本実験を行う。
14	本実験 3	本実験を行う。

秋学期

回	テーマ	内容
15	中間発表会	春学期の活動に基づき、研究テーマに基づいたこれまでの活動のプレゼンテーションを行う。
16	本実験・追加実験 1	中間発表会の結果に基づき、本実験・追加実験を行う。
17	本実験・追加実験 2	本実験・追加実験を行う。
18	本実験・追加実験 3	本実験・追加実験を行う。
19	本実験・追加実験 4	本実験・追加実験を行う。
20	本実験・追加実験 5	本実験・追加実験を行う。
21	データ集計・振り返り	本実験データを集計・解析する。
22	データ解析	集計したデータを解析する。
23	論文執筆開始	データ解析とともに、卒業論文の執筆を開始する。
24	結果の振り返りと考察	研究結果をまとめあげ、考察に取り掛かる。
25	考察の完成	卒業論文の考察を完成させる。
26	卒業研究発表予演	卒業研究発表会前に予演をゼミ内で行う。
27	卒業論文発表会	これまでの研究の成果を発表する。
28	卒業論文提出	発表会などのディスカッションを踏まえて、最終的な完成版の卒業論文を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1～14 回 研究方法自体を理解する。使用する機器に精通する。先行研究を読み込み理解する。

15～28 回 先行研究を読み込み理解する。自身で論文を書く際には、繰り返し論文を推敲する。

【テキスト（教科書）】

田中喜代次、西嶋尚彦監訳：身体活動科学における研究方法。NAP, 2004

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究計画書（10 %）

プレゼンテーション（デザイン発表・中間発表・卒業論文発表）（20 %）

卒業論文（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

研究は一人で行うのは難しい。研究は同級生のゼミ生同士や上級生・下級生たちの協力なしには行えない。ゼミ活動を通して、積極的に縦と横の仲間達とのコミュニケーションをとりながら、皆で「卒業研究」に積極的に取り組んでもらいたい。

【Outline and objectives】

A purpose of the athletic training seminar 3 is to finish writing the graduation thesis of the athletic training and/or sports science field.

HSS4001A

専門演習Ⅲ

伊藤 真紀

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：年次／単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅰ・Ⅱの講義を通して学んだ内容から研究課題を決定し、学生自身が選んだ研究テーマについて先行研究のレビューから研究の方向性を見だし、計画的に研究を実施し、データ収集・分析、考察を行い、研究成果をまとめ卒業論文を執筆し、発表することを目的とします。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下のとおりとする：

1. 研究テーマの設定
2. 先行研究の検討
3. 研究の目的、重要性、要因の定義、仮説の設定
4. 研究方法を適切に設定し、データを収集
5. データを分析し、標本の特性と仮説の検証
6. 結果、考察、結論の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

自らの興味に沿って研究テーマを設定し、1年をとおして計画的に卒業論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に支持された点について準備し、記述・分析内容について演習で添削を受ける。各自の研究計画にあわせて、全体・個別に学指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーションおよび卒業論文の説明	本演習の目的および授業計画や実践内容などについて理解するとともに、卒業研究の内容と構成、意義、執筆をとおして高められる能力について学ぶ。
2 回	研究計画の設定	研究遂行に関する講義、併せて再度論文の構成に関する講義を受け、各自1年を通して取り組む研究計画を立てる。
3 回	研究テーマの設定	スポーツマネジメントに関して理解が深まるような研究テーマを設定する。
4 回	序論:研究の背景	これまでの研究背景をもとに研究課題を設定し、卒業研究の目的を設定する。
5 回	序論:研究の目的および重要性	これまでの研究背景をもとに研究課題を設定し、卒業研究の目的を設定する。自身の研究の必要性・意義・従来の研究との差（独創性）について明確にする。
6 回	序論:概念的枠組み	卒業論文のデータを収集する卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
7 回	仮説の設定	仮説を理論的根拠とともに導出する。
8 回	方法:研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境を設定し、対象とする母集団と標本抽出方法を特定する。
9 回	方法：調査票の作成	調査対象者の基本的属性、心理的要因を測定するための調査票を作成する。
10 回	方法：記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計について学習し、本文にその分析方法を記述する。
11 回	方法：推計統計	研究の目的および仮説に応じて必要とされる記述統計と推計統計を見極め、記述する。
12 回	調査計画の発表準備（抄録）	卒業論文の緒言と方法を要約し、研究計画をまとめた抄録を作成する。
13 回	調査計画の発表準備（スライド）	卒業論文の緒言と方法に関して発表するためのスライド資料を作成する。
14 回	調査計画の発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。
15 回	オリエンテーションおよび後期の概要の説明	卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する。
16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを行う。

17 回	結果：基本的属性と行動的特性の集計	対象者の基本的属性と行動的特性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
18 回	結果：心理的特性の分析	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
19 回	卒業論文の中間発表	研究計画に基づいてデータを収集し、基本属性を集計した結果を発表する。推計統計を用いて仮説を検証し、その結果を説明する文章を記述する。
20 回	結果：仮説の検証（基本的な統計分析）	必要に応じて二元配置の分散分析や重回帰分析などを行い、その結果を説明する文章を記述する。
21 回	結果：仮説の検証（発展的な統計分析）	分析結果を考察するとともに、仮説の検証が示す意味を客観的に解釈し、そこから引き出した知見について記述する。仮説に対する答え、先行研究との比較検討、問題点を記述する。
22 回	考察：全体の考察	研究テーマの実践に関わる実務担当者の業務の遂行をさらに促進するための提案を行う。
23 回	考察:実践的貢献	考察から言えること、仮説への答え、この研究で示されたことを結論として記述する。
24 回	結論	実施した卒業研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述するとともに、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。
25 回	考察：研究の限界と今後の展望	引用文献や巻末資料を整え、卒業論文を完成させる。
26 回	引用文献、巻末資料	卒業論文を発表するためのパワーポイントスライドを作成するとともに、卒業論文の要約を抄録としてまとめる。
27 回	最終発表の準備	パワーポイントスライドを用いて卒業論文を発表し、他の受講生と議論する。
28 回	最終発表	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付、書籍・文献の紹介をします。

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】

テーマ発表：10点

調査計画の発表：10点

中間発表：10点

最終発表：20点

卒業論文（①緒言、②方法、③結果、④考察、⑤その他文章力、論理性、書式など）：50点

合計：100点

【学生の意見等からの気づき】

本年度が初年度となります。

【学生が準備すべき機器他】

論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

1年を通じて各自積極的にかつ計画的に取り組んでください。

【Outline and objectives】

Student decide research theme based on the contents learned through the lectures of the specialized exercises I and II, find the direction from the research of the previous research on the research theme chosen by the student himself/herself. Student conduct the research in a systematic manner and aim at considering, summarizing research results, writing graduation thesis, and presenting it.

HSS4001A

専門演習Ⅲ

井上 尊寛

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の執筆では、学生自身が選んだ研究テーマについて深く考え、計画的に研究を実施し、4 年間の学びの集大成として研究成果をまとめ発表する。本演習では卒業研究の意義、内容と構成、実施方法、結果の分析・考察、アカデミック・ライティングについて総合的に学習する。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下のとおりとする：

1. 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
2. 研究の目的、重要性、要因の定義、仮説を適切に記述できる。
3. 目的に応じて研究方法を適切に設定し、データを収集できる。
4. データを分析し、標本の特性と仮説の検証結果を詳細に報告できる。
5. 結果を深く考察し、結論を導き出すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

1 年をととして計画的に卒業論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期 回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーションおよび卒業論文の説明	本演習の目的および進め方を理解するとともに、卒業研究の内容と構成、意義、執筆をとおして高められる能力について学ぶ。各自が1 年を通して取り組む研究計画を立てる。
2 回	序論：研究の背景と問題点の整理	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定するとともに、未解明の研究課題を特定する。
3 回	序論：研究の目的および重要性	研究課題を受け、卒業研究の目的を設定する。併せて、その目的を達成することのできるような学術的貢献を果たすことができるのかについても述べる。
4 回	序論：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
5 回	序論：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を理論的根拠とともに導出する。
6 回	方法：研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
7 回	方法：質問項目（基本属性）	調査対象者の人口動態的特性や行動的特性などを測定するための質問項目を設定する。
8 回	方法：質問項目（心理的要因）	調査対象者の心理的要因を測定するため、心理的尺度を観測変数として設定する。
9 回	方法：調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成する。
10 回	方法：記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計について学習し、本文にその分析方法を記述する。
11 回	方法：推計統計	研究の目的および仮説に応じて必要とされる記述統計と推計統計を見極め、記述する。
12 回	調査計画の発表準備（抄録）	卒業論文の緒言と方法を要約し、研究計画をまとめた抄録を作成する。
13 回	調査計画の発表準備（スライド）	卒業論文の緒言と方法に関して発表するためのスライド資料を作成する。
14 回	調査計画の発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。

秋学期 回	テーマ	内容
15 回	オリエンテーションおよび後期の概要の説明	卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する。
16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを行う。
17 回	結果：人口動態的特性と行動的特性の集計	対象者の人口動態的特性と行動的特性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
18 回	結果：心理的特性の分析	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
19 回	卒業論文の中間発表	研究計画に基づいてデータを収集し、基本属性を集計した結果を発表する。
20 回	結果：仮説の検証（基本的な統計分析）	推計統計を用いて仮説を検証し、その結果を説明する文章を記述する。
21 回	結果：仮説の検証（発展的な統計分析）	必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の重回帰分析などを行い、その結果を説明する文章を記述する。
22 回	考察：全体の考察	分析結果を考察するとともに、仮説の検証が示す意味を客観的に理解し、記述する。
23 回	考察：セグメント別の考察	より深い考察を行うため、仮説検証を顧客セグメント間で行う。
24 回	考察：実践的貢献	研究テーマの実践に関わる実務担当者の業務の遂行をさらに促進するための提案を行う。
25 回	考察：研究の限界と今後の展望	実施した卒業研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述するとともに、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。
26 回	結論、引用文献、巻末資料	研究の目的と結果として示した科学的証左との対応の中で結論を導き出す。併せて、引用文献や巻末資料も整え、卒業論文を完成させる。
27 回	最終発表の準備	卒業論文を発表するためのパワーポイントスライドを作成するとともに、卒業論文の要約を抄録としてまとめる。
28 回	最終発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文を発表し、他の受講生と議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】
テーマ発表： 10 点
調査計画の発表： 10 点
中間発表： 10 点
最終発表： 20 点
卒業論文（①緒言、②方法、③結果、④考察、⑤その他文章力、論理性、書式など）： 50 点
合計： 100 点
【評価基準】

4 回の発表と卒業論文の本文の執筆によって獲得する得点は、以下の基準によって決定する。
100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。
80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。
60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。
40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表（または記述）している。
20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

[Outline and objectives]

This course is an advanced seminar to write a graduation thesis in the fields of sport management. Students will (1) understand the purpose, importance, and benefit of a graduation thesis, (2) conduct research focusing on their own interests, (3) collect and analyze data in the sport industry, and (4) interpret conclusions drawn from their findings. Upon successful completion of this course, students will be able to submit their theses that are worthy of being considered as sport management articles.

HSS4001A

専門演習Ⅲ

荻部 俊二

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマに関する報告書を学術的な論文を作成し、発表する。

【到達目標】

4 年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をととして学習を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

演習Ⅰ、Ⅱで学んだ知識、方法論をベースとし、運動科学における研究を行い論文にまとめ、発表する。オリジナリティのあるテーマを選定し、研究計画の設計、研究の実施、データ処理などを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回

テーマ

内容

第 1 回 春学期受講ガイダンス

春学期受講のガイダンスを行う。

第 2 回 卒業研究

卒業研究のテーマの検討を行う①

第 3 回 卒業研究

卒業研究のテーマの検討を行う②

第 4 回 卒業研究

卒業研究のテーマの検討を行う③

第 5 回 卒業研究

卒業研究の研究手法の検討を行う。

実験の計画書の作成。①

第 6 回 卒業研究

卒業研究の研究手法の検討を行う。

実験の計画書の作成。②

第 7 回 卒業研究

卒業研究の研究手法の検討を行う。

実験の計画書の作成。③

第 8 回 卒業研究

卒業研究の実験、調査などの実施および発表①

第 9 回 卒業研究

卒業研究の実験、調査などの実施および発表②

第 10 回 卒業研究

卒業研究の実験、調査などの実施および発表③

第 11 回 卒業研究

中間発表①

第 12 回 卒業研究

中間発表②

第 13 回 卒業研究

中間発表③

第 14 回 卒業研究

中間発表④

秋学期

回

テーマ

内容

第 15 回 卒業研究

夏期休暇の研究計画

第 16 回 秋学期受講ガイダンス

秋学期ガイダンスを行う。

夏期研究の成果を発表する。

第 17 回 卒業研究

卒業論文作成。

必要に応じてプロGRESS・レポートを

提出、発表する①。

第 18 回 卒業研究

卒業論文作成。

必要に応じてプロGRESS・レポートを

提出、発表する②。

第 19 回 卒業研究

卒業論文作成。

必要に応じてプロGRESS・レポートを

提出、発表する③。

第 20 回 卒業研究

卒業論文作成。

必要に応じてプロGRESS・レポートを

提出、発表する④。

第 21 回 卒業研究

卒業論文作成。

必要に応じてプロGRESS・レポートを

提出、発表する⑤。

第 22 回 卒業研究

卒業論文作成。

必要に応じてプロGRESS・レポートを

提出、発表する⑥。

第 23 回 卒業研究

卒業論文作成。

必要に応じてプロGRESS・レポートを

提出、発表する⑦。

第 24 回 卒業研究

卒業論文作成。

必要に応じてプロGRESS・レポートを

提出、発表する⑧。

第 25 回 卒業研究

卒業論文作成。

必要に応じてプロGRESS・レポートを

提出、発表する⑨。

第 26 回 卒業研究

卒業論文作成。

第 27 回 中間発表

抄録作成、発表資料作成。

第 28 回 卒業研究発表会

卒業論文の進捗状況などを発表する。

卒業研究発表会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

第 16 回：春学期の復習

第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に設けない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

論文 (70%) と発表 (30%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】

In this seminar, students write a graduation thesis using investigative and analytical research methodologies on a topic which the individual students select.

HSS4001A

専門演習Ⅲ

鬼頭 英明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、設定した研究課題について先行研究を踏まえて研究を進め、論文に仕上げる過程を体験し、卒業論文としてまとめあげることで、研究の流れと意義を学ぶことである。

研究課題を探索し、その課題に関して現在までに報告されている知見についてまとめる。そのうえで、新規性のある知見を得るための研究方法を検討し、調査の実施とともに得られた結果を分析・考察する。一連の成果を論文としてまとめられるようにする。この学びは社会にでてからでも役に立つことを学ぶ。

【到達目標】

学術論文を構成するそれぞれのパーツがどのように構成され、どのような研究手法があるのかを理解できるようにする。卒業論文を仕上げることにより、研究とは何かについて認識を深めるとともに、新たな知見をまとめ上げて報告することの重要性に気付くようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方は、実施しようとする課題（研究テーマ）により進捗状況が異なるので個別に指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	課題の探索	学生の研究対象と考える領域について資料や論文を提供し、読み込む。
2	課題の探索	興味関心のある研究テーマについて意見交換し、研究対象について絞り込む。
3	資料及び文献検索	研究テーマについて、課題を考える背景に関わる資料や文献について検索を行い、概要をまとめる。
4	先行研究の報告 その 1	先行研究を内容別に分類し、内容ごとに先行研究の研究方法や得られた結果をまとめる。
5	先行研究の報告 その 2	先行研究を内容別に分類し、内容ごとに先行研究の研究方法や得られた結果をまとめる。
6	先行研究の報告 その 3	先行研究を内容別に分類し、内容ごとに先行研究の研究方法や得られた結果をまとめる。
7	先行研究の報告 その 4	先行研究を内容別に分類し、内容ごとに先行研究の研究方法や得られた結果をまとめる。
8	先行研究のまとめ	先行研究について全体を整理し、課題を抽出する。
9	研究方法の検討 その 1	抽出された課題を明らかにするための実施可能な研究手法について検討する。
10	研究方法の検討 その 2	抽出された課題を明らかにするための実施可能な研究手法について検討する。
11	研究方法の検討 その 3	抽出された課題を明らかにするための実施可能な研究手法について検討する。
12	統計解析	量的調査、質的調査に関する統計解析の方法について検討する。
13	統計解析	量的調査、質的調査に関する統計解析の方法について検討する。
14	まとめ	調査方法を確定するとともに、これまでに得られた成果を整理する。
15	調査（実践）の実施 その 1	調査又は実践を行う。
16	調査（実践）の実施 その 2	調査又は実践を行う。
17	調査（実践）の実施 その 3	調査又は実践を行う。
18	結果の解析 その 1	得られた結果を整理・入力し、データの確認を行う。実践については効果評価を行う。

19	結果の解析 その 2	統計解析を実施する。実践については問題点の洗い出しとともに修正作業を行う。
20	結果の解析 その 3	統計解析を実施する。
21	図表の作成 その 1	得られた結果をもとに図表の作成を行う。
22	図表の作成 その 2	得られた結果をもとに図表の作成を行う。
23	考察 その 1	結果から導き出される考察を検討する。
24	考察 その 2	結果から導き出される考察を検討する。
25	卒業論文執筆指導 その 1	卒業論文の執筆について指導
26	卒業論文執筆指導 その 2	卒業論文の執筆について指導
27	論文完成	卒業論文の校正作業と課題の抽出。
28	プレゼンテーションにむけて	発表に向けてのプレゼンテーションの指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学術論文を要約する。

与えられた課題を仕上げる。

【テキスト（教科書）】

教育実践をテーマとする場合は高等学校保健体育教科教科書

【参考書】

教育実践をテーマとする場合は適宜参考資料を配布

【成績評価の方法と基準】

卒業論文への取組方とその内容（100%）

【学生の意見等からの気づき】

テーマごとに学生個別に対応することで、適宜学生の意見を組み入れる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The purpose of this course is for students to graduation thesis for research on school or public health.

HSS4001A

専門演習Ⅲ

木下 訓光

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学的分析と論理的考察に基づく学術論文の作成。

【到達目標】

卒業論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

研究データの集積、分析を随時指導する。研究計画書を作成する。進捗があればゼミ内で発表する。研究計画書は最終的に抄録として完成させる。優れた内容の研究は、学会で発表するための指導をする。抄録をもとに、論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
春学期開始時	卒業論文作成	研究計画を完成し実験や調査を始める。夏期休暇期間中に分析、論文執筆を行えるようにしておくこと。
秋学期開始時	卒業論文作成	「緒言」（研究の背景などを書く論文のイントロダクション）の執筆をほぼ終えていること。
12 月初旬	卒業論文作成	卒業論文の完成・提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 研究データ解析
- ② 調査活動
- ③ 学会・研究会参加

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

卒業論文（100 %）：科学的データに基づき、論理的に考察され、かつ指定された様式にのっとって記述された卒業論文の完成をもつてのみ単位認定をする。

【学生の意見等からの気づき】

個人指導を早期から開始し、卒業研究を計画的に完成させられるように支援する。

【その他の重要事項】

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

原則として木下の方からゼミの講義の中で指導時間を作っていくことはせず、個別指導が中心である。

自ら研究室を訪れ、準備・学習・相談の機会を作るように。これを自主的、積極的かつ計画的に行い間断なく継続していかなければ、論文完成は極めて難しいと考えられるので注意すること。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic and advanced knowledge and skill of writing a graduation thesis.

HSS4001A

専門演習Ⅲ

清雲 栄純

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・2年，3年時に取り組んだ調査・研究をベースに卒業論文を作成し発表する。
- ・全員の論文集として編集する。
- ・優れた論文は学会等で発表する。

【到達目標】

卒業論文を完成させ、学内外で発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

①研究テーマを決定し研究計画を作成する。②先行研究を行い、研究に沿ったデータ収集や分析について指導する。研究テーマのアウトラインに沿った、資料の収集・分析の進捗状況に応じて9月中旬を目標に中間報告を受ける。11月末を目標にテーマの内容構成を行い12月にはゼミ内で発表会を行う。1月初旬を目標に卒業論文を提出する。

テーマ例：育成年代の指導者のアンケート結果から考察する日本サッカーの将来について。：スポーツ（サッカー）指導者のスキルアップについての考察。：我が国における総合型地域スポーツクラブの現状。：我が国の総合型地域スポーツクラブが抱えている課題についての考察。：人材ビジネスの現状と今後の展開：プロスポーツ選手のセカンドキャリア案に関する考察。：スポーツ選手のセカンドキャリアに関する考察。：スポーツにおける戦争と平和の関わりについての考察。：オリンピックが日本に与える経済効果について。など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒業論文作成や先行研究についてのガイダンスを行う。
2	研究テーマの選択と先行研究①	専門演習Ⅰ、Ⅱで調査研究した内容をさらに深め、テーマを設定する。
3	研究テーマの選択と先行研究②	専門演習Ⅰ、Ⅱで調査研究した内容をさらに深め、テーマを設定する。
4	研究テーマの決定	事前調査した候補の中から内容を検討し、テーマを決定する。
5	研究テーマの発表	決定したテーマを履修者全員が共有する。
6	研究テーマの資料収集①	テーマに関する文献の調査を図書館やインターネットで収集する。（先行研究）アンケート調査や実験も必要に応じて実施する。
7	研究テーマの資料収集②	テーマに関する文献の調査を図書館やインターネットで収集する。アンケート調査や実験も必要に応じて実施する。
8	研究テーマの資料収集③	テーマに関する文献の調査を図書館やインターネットで収集する。アンケート調査や実験も必要に応じて実施する。
9	研究テーマの資料を分析する①	文献の解読と整理を行い、全体の流れを考える。
10	研究テーマの資料を分析する②	文献の解読と整理を行い、全体の流れを考える。
11	研究テーマの資料を分析する③	文献の解読と整理を行い、全体の流れを考える。
12	研究テーマのアウトラインの作成①	中間報告が出来るように、大筋をまとめる。
13	研究テーマのアウトラインの作成②	中間報告が出来るように、大筋をまとめる。
14	研究テーマの中間報告①	テーマの中間報告を行う。

秋学期

回	テーマ	内容
15	卒論完成に向けて①	秋学期で行う内容の確認
16	卒論完成に向けて②	秋学期で行う内容の確認
17	研究テーマの内容を検討し、構成する①	中間発表での修正点、付け加える内容を検討し構成する。
18	研究テーマの内容を検討し、構成する②	中間発表での修正点、付け加える内容を検討し構成する。
19	研究テーマの内容を検討し、構成する③	中間発表での修正点、付け加える内容を検討し構成する。

20	研究テーマの内容を検討し、構成する④	中間発表での修正点、付け加える内容を検討し構成する。
21	研究テーマのまとめと校正①	最終発表が出来るように完成版作成する。
22	研究テーマのまとめと校正②	最終発表が出来るように完成版作成する。
23	研究テーマのまとめと校正③	最終発表が出来るように完成版作成する。
24	研究テーマのまとめと校正④	最終発表が出来るように完成版を作成する。（抄録の作成）
25	卒業論文発表会（ゼミ内）①	専任教員・履修生の前でプレ発表を行う。
26	卒業論文発表会（ゼミ内）②	専任教員・履修生の前でプレ発表を行う。
27	卒業論文 最終修正	発表会。専任教員・履修生の前で発表する。（ゼミ内）
28	論文提出	論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館の活用

データの分析

調査活動（アンケート調査など）

インターン

【テキスト（教科書）】

定めない

【参考書】

定めない

【成績評価の方法と基準】

調査研究 70 % 学外活動 10 %、プレゼンテーション 20 %

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

P C、U S B

【Outline and objectives】

・ Create a graduation thesis to announce based on reseach worked in 2years,

3year

・ To edit all of the graduation thesis

・ Itis presented at the society excellent grduation thesis

HSS4001A

専門演習Ⅲ

瀬戸 宏明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：年次／単位

曜日・時限：集中・その他/Intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅱで決定したテーマから科学的分析や論理的考察に基づいて卒業論文を完成させる。

【到達目標】

1：卒業論文完成までの作成過程の学習

2：卒業論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1：実験より得られたデータの分析

2：先行研究より考えられる仮説、実験方法を随時検討する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	卒業論文作成について方向性の確認
第2回	先行研究の検討	先行研究について精査する
第3回	研究方法の精査	研究方法について検討する
第4回	予備実験の準備	先行研究に基づいて研究デザインを決定する
第5回	予備実験①	予備実験をおこない研究の方向性の確認をおこなう
第6回	予備実験②	予備実験をおこない研究の方向性の確認をおこなう
第7回	予備実験③	予備実験をおこない研究の方向性の確認をおこなう
第8回	データの収集	データの収集
第9回	データの解析	データの解析
第10回	倫理書作成と論文作成について	倫理書の作成と今後論文作成についてのガイダンスをおこなう
第11回	論文指導①	論文作成の指導をおこなう
第12回	論文指導②	論文作成の指導をおこなう
第13回	論文指導③	論文作成の指導をおこなう
第14回	論文指導④	論文作成の指導をおこなう
第15回	ガイダンス	中間報告と今後の方向性の検討
第16回	実験①	本実験をおこなう
第17回	実験②	本実験をおこなう
第18回	実験③	本実験をおこなう
第19回	実験④・追加実験①	本実験・追加実験をおこなう
第20回	実験⑤・追加実験②	本実験・追加実験をおこなう
第21回	卒業論文の作成①	仮説、緒言、目的について精査する
第22回	卒業論文の作成②	方法について精査する
第23回	卒業論文の作成③	結果について精査する
第24回	卒業論文の作成④	考察について精査する
第25回	卒業論文の作成⑤	全体について振り返りをおこなう
第26回	卒業論文の予演	ゼミ内での予演をおこなう
第27回	卒業論文の発表	卒業研究の発表
第28回	卒業論文の提出	卒業論文の完成・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定論文の精読

データの解析

学会、研究会への参加

【テキスト（教科書）】

特に指定なし

【参考書】

適時紹介する

【成績評価の方法と基準】

卒業論文 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターなど

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

論文作成という性質上本人より自主的に相談の機会を作ること。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

【Outline and objectives】

The lecture intends to complete of the graduation thesis based on scientific analysis and logical consideration.

HSS4001A

専門演習Ⅲ

永木 耕介

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育科教育学・スポーツ教育学領域における卒業研究の完成を目指し、研究テーマ・目的の設定の仕方、研究方法の選択の仕方、結果に対する分析および考察の仕方等について学ぶ。

【到達目標】

研究テーマの設定に際する先行研究の調査力、研究方法に対する妥当性・信頼性の検討力、結果に対する考察力、まとめる力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員の指導の下、受講者が研究に対する調査・考察を各自で進めながら、定期的にプレゼンテーションを行い、研究をブラッシュアップしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究テーマの紹介①	指導教員が「体育」の「目標論」に関する研究論文を紹介する。
2	研究テーマの紹介②	指導教員が「体育」の「カリキュラム論」に関する研究論文を紹介する。
3	研究テーマの紹介③	指導教員が「体育」の「教材論」に関する研究論文を紹介する。
4	研究テーマの紹介④	指導教員が「体育」の「学習環境論」に関する研究論文を紹介する。
5	研究テーマの紹介⑤	指導教員が「体育」の「学習指導論」に関する研究論文を紹介する。
6	研究テーマの紹介⑥	指導教員が「体育」の「学習評価論」に関する研究論文を紹介する。
7	研究テーマの紹介⑦	指導教員が「体育」の「国際比較論」に関する研究論文を紹介する。
8	研究テーマの紹介⑧	指導教員が「運動部活動論」に関する研究論文を紹介する。
9	研究テーマの紹介⑨	指導教員が「体育」の「教師養成論」に関する研究論文を紹介する。
10	研究テーマの紹介⑩	指導教員が「体育」の「教師行動論」に関する研究論文を紹介する。
11	研究テーマの設定と方法の選択①	「目標論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
12	研究テーマの設定と方法の選択②	「カリキュラム論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
13	研究テーマの設定と方法の選択③	「教材論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
14	研究テーマの設定と方法の選択④	「学習環境論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
15	研究テーマの設定と方法の選択⑤	「学習指導論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
16	研究テーマの設定と方法の選択⑥	「学習評価論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
17	研究テーマの設定と方法の選択⑦	「国際比較論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
18	研究テーマの設定と方法の選択⑧	「運動部活動論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。

19	研究テーマの設定と方法の選択⑨	「教師行動論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
20	研究テーマの設定と方法の選択⑩	「学習環境論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
21	調査方法の指導①	質問紙調査法についてレクチャーする。
22	調査方法の指導②	観察法についてレクチャーする。
23	統計分析法の指導①	単純集計、クロス集計、カイニ乗検定等についてレクチャーする。
24	統計分析法の指導②	T 検定、分散分析、多重比較等についてレクチャーする。
25	統計分析法の指導③	調査項目・内容の設定の仕方、因子分析等についてレクチャーする。
26	質的分析法の指導①	内容分析・カテゴリ分析等についてレクチャーする。
27	質的分析法の指導②	テキスト分析、記録法等についてレクチャーする。
28	まとめ方とプレゼンテーションの指導	まとめ方とプレゼンテーションの行い方についてレクチャーする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の作成へ向けて各自で授業時間外の努力を要する。

【テキスト（教科書）】

高橋建夫編著「新版・体育科教育学入門」、大修館書店

【参考書】

随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文内容（80%）、卒業論文発表（20%）

【学生の意見等からの気づき】

研究の具体像をより明確に示し、研究のオリジナル性を担保しつつも、学生が迷路に陥らないように指導していく。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、記録用媒体（USB 等）

【その他の重要事項】

上記以外、特に無し。

【Outline and objectives】

This seminar is for students wishing to study the making of a Physical Education/Sports Education thesis from the viewpoint of setting a purpose, selecting appropriate methodology, analyzing data, and examining contents.

HSS4001A

専門演習Ⅲ

中澤 史

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅱで取り組んだ予備調査の結果から新たな課題を抽出し、その課題の解明を通して卒業論文を完成する。

【到達目標】

1. 卒業論文を完成する。
2. 学内で実施する卒業研究発表会において発表する。
3. 可能であれば学外の学会や研究会において卒業論文の内容を発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

専門演習Ⅱで取り組んだ予備調査の結果から得られた新たな課題の解明を通して、卒業論文の完成に向けた作業に取り組む。その進捗状況に対する個別指導やグループディスカッションを通して、論文の完成度を高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒業論文作成に向けた方向性の確認
2	研究テーマ	研究テーマを確定する
3	研究の意義	研究の意義について検討する
4	先行研究の精査	先行研究を精査する
5	研究方法の精査	研究方法について検討する
6	予想される結果	予想される結果について検討する
7	研究計画①	研究計画を作成する
8	研究計画②	研究計画を精査する
9	研究計画③	研究計画を確定する
10	調査	調査の準備を整える
11	データ収集	データを収集する
12	データ整理	データを整理する
13	データ分析①	データを統計的に分析する
14	結果①	図を作成する
15	結果②	表を作成する
16	データ分析②	データを質的に分析する
17	結果③	質的に結果をまとめる
18	考察①	先行研究を踏まえて数量的に考察する
19	考察②	先行研究を踏まえて質的に考察する
20	考察③	総合的に考察する
21	まとめ	まとめの作業を行う
22	論文の作成①	緒言、目的の内容について精査する
23	論文の作成②	結果、考察の内容について精査する
24	論文の作成③	文献を整理する
25	論文の作成④	論文の内容を精査する
26	プレゼンテーション	プレゼンテーションを通して課題を抽出する
27	論文の精査	抽出された課題を踏まえ、論文の精度を高める
28	論文の完成	論文を完成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文完成に向けた主体的・積極的な取り組みを期待する。

【テキスト（教科書）】

中澤 史「アスリートの心理学」日本文化出版 2016

【参考書】

松井 豊「改訂新版心理学論文の書き方：卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 2014

【成績評価の方法と基準】

1. 卒業論文（50 %）、授業・発表会等への参画状況（50 %）による総合評価。
2. 原則として、欠席 3 回までを評価の対象とします。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの体裁等について評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教育実習、介護実習等の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡すること。社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【その他の重要事項】

授業概要の説明、個別指導順の決定などを行なうため、必ず初回授業に出席すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students complete graduation thesis.

HSS4001A

専門演習Ⅲ

成田 道彦

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各個人の研究テーマを決定し、資料収集の整理、分析し論文を作成する。

【到達目標】

3 年次の専門演習Ⅱの研究テーマを基に内容をさらに深め、最終的に卒業論文として完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年次で調査研究したテーマに関する問題点を整理・検討しさらに研究を進め、定期的に報告・検討を行い卒業論文を作成・提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間計画について
2	卒論テーマの決定 1	専門演習Ⅰ・Ⅱの論文分析
3	卒論テーマの決定 2	Ⅰ・Ⅱの内容を踏まえテーマの確認
4	卒論テーマの決定 3	テーマを決定する。
5	研究方法	研究方法の検討と計画
6	資料の収集 1	テーマに関する先行研究の収集と整理
7	資料の収集 2	テーマに関する先行研究の収集と整理
8	資料の収集 3	テーマに関する先行研究の収集と整理
9	資料の収集 4	テーマに関する先行研究の収集と整理
10	収集資料の分析 1	テーマに関する資料の分析
11	収集資料の分析 2	テーマに関する資料の分析
12	収集資料の分析 3	テーマに関する資料の分析
13	収集資料の分析 4	テーマに関する資料の分析
14	中間報告 1	進行状況の確認

秋学期

回	テーマ	内容
15	中間報告 2	進行状況の確認
16	中間報告 3	中間報告の検討・修正
17	卒業論文作成 1	論文作成。必要に応じて経過報告する。
18	卒業論文作成 2	論文作成。必要に応じて経過報告する。
19	卒業論文作成 3	論文作成。必要に応じて経過報告する。
20	卒業論文作成 4	論文作成。必要に応じて経過報告する。
21	卒業論文作成 5	論文作成。必要に応じて経過報告する。
22	卒業論文作成 6	論文作成。必要に応じて経過報告する。
23	卒業論文作成 7	論文作成。必要に応じて経過報告する。
24	卒業論文作成 8	論文作成。必要に応じて経過報告する。
25	ゼミ発表	ゼミで論文発表
26	最終確認 1	卒業論文の内容・構成を再度検討する。抄録作成
27	最終確認 2	卒業論文の内容・構成を再度検討する。抄録作成
28	卒業論文提出	論文を完成させ提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文のテーマについての資料収集と分析を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

卒業論文提出を最低条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

論文作成に向けて計画性を持って指導していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Students progress on their research themes, collect, organize and analyze data and materials and complete a thesis.

HSS4001A

専門演習Ⅲ

Nemes Roland

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：年次／単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の執筆では、学生自身が選んだ研究テーマについて深く考え、計画的に研究を実施し、4 年間の学びの集大成として研究成果をまとめ発表する。本演習では卒業研究の意義、内容と構成、実施方法、結果の分析・考察、アカデミック・ライティングについて総合的に学習する。

【到達目標】

3 年次の専門演習Ⅱの研究テーマを基に内容をさらに深め、最終的に卒業論文として完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

3 年次で調査研究したテーマに関する問題点を整理・検討しさらに研究を進め、定期的に報告・検討を行い卒業論文を作成・提出する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間計画と進み方について
2~4	研究テーマの決定	専門演習Ⅰ、Ⅱの内容を踏まえ卒業論文のテーマを決める
5~13	資料収集と分析	テーマに関する資料の収集と分析進行状況を報告する
14	中間発表 1	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する。
1	ガイダンス	
2	中間発表 2	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。
3~10	卒業論文作成	個人的な課題解説
11	論文の執筆:結果	論文の「結果」を執筆して全体で議論・推敲する。
12	論文の執筆:考察	論文の「考察」を執筆して全体で議論・推敲する。
13	論文の執筆:全体	卒業論文全体を執筆し、全体で推敲・意見交換を行う。
14	論文発表	完成した卒業論文を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文のテーマについての参考文献収集と分析を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

中間発表 1: 10 %

中間発表 2: 10 %

最終発表: 20 %

卒業論文: 50 %

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【Outline and objectives】

The objective is the course to learn and utilize necessary academic skills in order to write a university thesis in coaching related subject.

HSS4001A

専門演習Ⅲ

平野 裕一

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成に向けて、改めて研究デザインを検討、作成し、必要となる測定・調査を実施する。並行して先行研究を読み進め、論文の緒言、方法を作成し、測定・調査の分析をもとに結果、考察、結論と書き進める。

【到達目標】

- ・研究デザインの検討・作成
- ・測定・調査の実施
- ・先行研究の検討
- ・論文の緒言、方法の作成
- ・測定・調査の分析
- ・結果、考察、結論の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

個別対応で到達目標をクリアしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒論作成へ向けてのスケジュール確認 個別対応の方法確認
2	卒業論文の作成に向けて1	研究デザインのプレゼンテーションと検討
3	卒業論文の作成に向けて2	研究デザインの再プレゼンテーションと検討
4	卒業論文の作成に向けて3	研究デザインの再々プレゼンテーションと検討
5	デザインの検討を受けて1	研究デザインの作成と検討 先行研究の調査 緒言の作成
6	デザインの検討を受けて2	研究デザインの修正と検討 先行研究の調査 緒言の作成
7	デザインの検討を受けて3	研究デザインの完成 先行研究の調査 緒言の完成
8	調査・測定法の習得1	調査・測定法の確認と練習
9	調査・測定法の習得2	調査・測定法の習得
10	調査・測定法の習得3	調査・測定法の習得
11	調査・測定データの分析1	データの分析法の確認と練習
12	調査・測定データの分析2	データの分析法の習得
13	調査・測定データの分析3	データの分析法の習得
14	事前の調査・測定・分析1	トライアルとしての調査・測定の実施と検討
15	事前の調査・測定・分析2	トライアルとしての調査・測定データの分析と検討
16	事前の調査・測定・分析3	トライアルとしての調査・測定データの総括
17	実際の調査・測定・分析1	実際の調査・測定の実施と検討 方法の作成
18	実際の調査・測定・分析2	実際の調査・測定の実施と検討 方法の作成
19	実際の調査・測定・分析3	実際の調査・測定の実施と検討 方法の完成
20	緒言と方法を受けて1	改めての緒言と方法の検討
21	緒言と方法を受けて2	方法に使う図の作成
22	緒言と方法を受けて3	調査・測定データ（結果）の記述 結果の図表の作成
23	考察1	結果を受けての考察すべき内容の検討
24	考察2	必要な箇所への先行研究の引用
25	考察3	考察全体の精査
26	結果・考察を受けて1	全体の構成を確認し、結論を導く
27	結果・考察を受けて2	全体の論旨を確認する
28	結果・考察を受けて3	卒論の完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個別対応になるので、対応の前には各自課題を検討して臨む

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

研究計画の作成（40点）と卒業論文（60点）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

できる限りオフィスアワーを増やして個々との対応を密にする。

【学生が準備すべき機器他】

PC

【Outline and objectives】

For the graduation thesis, research design is examined again. In addition to the reading and understanding the references, measurements and/or survey are carried out several times. Thereafter, introduction, procedures, results and discussion of the thesis are created. Personal meeting on the thesis is scheduled for each student.

HSS4001A

専門演習Ⅲ

宮本 健史

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：年次／単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、自らが問題・課題を提起して、先行研究のレビューから研究の方向性を見だし、これまでに修得した知識、経験、手法等を用いて実際に情報収集、データ収集・分析、文章作成を行い、卒業論文を作成することを目的とします。

【到達目標】

1. 研究テーマ・課題を設定し、適切な研究計画を立案できる。
2. 適切な方法を用いてデータ収集・分析し、適切に図表を用いて結果を提示できる。
3. 得られた結果に対して、論理的な考察ができる。
4. 的確な表記・表現を用いて学術論文が執筆できる。
5. 得られた結果を効果的にプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

自らの興味に沿って研究テーマを設定し、グループでミニ研究を行い、論文作成に向けた準備を行います。その後、研究課題・研究仮説の設定、実験・測定・調査、統計解析方法を検討して研究計画書を作成し、全体で論議を行います。計画が立案した後は、各自でデータ収集や分析を行い、結果について発表・意見交換をします。最終的に卒業論文を完成させ、内容のプレゼンテーションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け、グループ分けを行う。
第2回	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する。
第3回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし、グループごとに研究課題を設定する。
第4回	研究計画の立案 1	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する。
第5回	研究計画の立案 2	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する。
第6回	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受ける。グループで研究計画書を作成する。
第7回	研究の実践 1	グループごとに、ミニ研究に向けたデータ収集の準備・実践を行う。
第8回	研究の実践 2	グループごとに、データ分析、結果のまとめ・解釈を行う。
第9回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。
第10回	論文作成法の解説	研究結果を論文にまとめる技法などの講義を受ける。
第11回	個人研究の計画	卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ、課題を明らかにする。
第12回	個人研究の発表 1	卒業論文で対象としたい研究テーマについて、研究計画を発表する。
第13回	個人研究の発表 2	卒業論文で対象としたい研究テーマについて、研究計画を発表する。
第14回	個人研究の計画	卒業論文の研究計画について討論し、まとめる。
第15回	卒業論文執筆に向けたスケジュール確認	授業内容の説明と卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認する。
第16回	研究計画発表	研究計画を発表し、問題点などを含めて全体で論議する。
第17回	データ収集に向けた確認と準備	卒業論文に使用するデータの収集に係る機器や方法を確認し、実際の測定・実験・調査に向けた準備を行う。
第18回	論文の執筆：方法	論文の「方法」を執筆し、全体で論議・推敲する。
第19回	収集データ・分析結果の発表 1	収集データを分析して発表し、全体で論議する。
第20回	収集データ・分析結果の発表 2	全体での論議を踏まえて図表を踏まえて結果を示し、発表する。

第21回 論文の執筆：結果

論文の「結果」を執筆して全体で論議・推敲する。

第22回 論文の執筆：考察（1）

論文の「考察」を執筆して全体で論議・推敲する。

第23回 論文の執筆：考察（2）

前回の遂行を踏まえて執筆した「考察」を発表し、意見交換を行う。

第24回 論文の執筆：全体

卒業論文全体を執筆し、全体で推敲・意見交換を行う。

第25回 要約の執筆

卒業論文の要約を完成させ、発表する。

第26回 プレゼンテーション（1）

卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う（1）。

第27回 プレゼンテーション（2）

卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う（2）。

第28回 口頭発表練習

指定の時間内で卒業論文の内容についてプレゼンテーションを行い、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外での予習・復習の作業が、論文の完成や種々の発表の重要な要件となります。課された課題に添って、資料作成や発表準備を行って下さい。また、個人研究、グループ研究共に、各回のテーマ・内容に沿って授業以外に時間を設けて実験・調査、発表準備などの作業を行う必要があります。授業内活動の補足など、必要な作業をしてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付、書籍・文献の紹介をします。

【参考書】

Thomas J. R. and Nelson J. K. (田中 喜代次 訳). 身体活動科学における研究方法. ナップ.

出村慎一, 山下秋二, 佐藤進. 健康・スポーツ科学のための調査研究法. 杏林書院.

浦上昌則, 脇田貴文. 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方. 東京図書.

田中敏, 山際 勇一郎. ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法—方法の理解から論文の書き方まで. 教育出版.

【成績評価の方法と基準】

1) 研究実施状況・研究論文の内容：70%、2) 発表・質疑応答の内容 20%、3) 発表への質問状況・論議への参加状況：10%、として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

最終的には、授業の到達目標に全員が達しており、高いレベルでの学習および卒業論文の執筆ができたが、その過程においては大きな個人差が見受けられた。授業中の活動や個人々人とのやり取りにおいても、習得したスキルや課題に取り組む時期などに差異がみられたため、特に今年度は卒業論文執筆に向けたライティングの学習内容を再検討し、充実させていきたいと考えている。

【その他の重要事項】

・シラバスの内容については、授業の進行状況や学習者の理解状況によって多少の変更が生じる場合があります。
・授業の運営方針や受講に際しての注意点を説明しますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to write a graduation thesis. To achieve this objective, students raise their research questions and experimental designs as well as they collect and analyze data based on the knowledge, experience and methods learned in previous classes.

HSS4001A

専門演習Ⅲ

山本 浩

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年生を対象とした集中授業。メディア、ジャーナリズム、コミュニケーション、組織論。自分のテーマを設定し、調査・情報収集・分析をしながら、これまで積み上げてきた研究や専門演習Ⅱで掘り下げた方法論をもとに、学術的な論文執筆、および発表としてのプレゼンテーション作成を目的とする。自らの進路の延長上、あるいは専門演習Ⅰに始まり、専門演習Ⅱで繰り返し追いかけてきた事象、高校生の頃から持ち続けている疑問など、自らに近いテーマを取り上げることが、多角的でより深い論理を展開する助けとなる。

【到達目標】

テーマのとらえ方を表面的に終わらせない。ネット・活字・番組など受動的な情報をもとに論理を構築するばかりでなく、現場に足を運び、人に話を聞き、実際に試すという能動的なアクションを加えて、より深い成果に結びつける。調査を素材にした論文であれば、設問の準備や倫理規定の遵守、それに調査対象の了承などが必要になる。早め早めの対応が求められる。そのためには工程表の設定が必須だ。論文は、最低目標 20000 字。そこから抄録（abstract）を用意する。卒論提出のあと、プレゼンテーションの場が設けられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

集中講義の形式で、随時指導を基本原則とする。順序立てて言えば、①テーマの設定、②工程表の設計、③先行研究のチェックと読み込み、④研究法の構築、⑤資料や調査の方法検討、⑥執筆と進んでいく。追いかけた研究テーマを、いったん下った位置からもういちど見渡すこと。しかも自分で実際に現場に足を運んで更に深く掘り下げることも忘れない。構築した理論に基づき予め想定したイメージと、現場で発見した事実との間にギャップが生じた場合、それをどう調整するのか。スポーツ固有の環境下で得られるいろいろな体験を通じて、自分なりの視座を醸成しながら研究を仕上げる。何度も繰り返す直接のやりとりの中で、進捗具合の確認をする。広い裾野、整然とした積み上げ、そして揺るぎない筆致で成果が示されるかを問う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	テーマとスケジュールの確認	3 年次に設定したテーマの輪郭を改めてチェックし、スケジュールを再確認する。
2	調査・研究の道筋と千個研究分析	どのような方法論を採るべきか、深く検証し可能性を探る一方で先行研究の検証に取りかかる。
3	工程表の製作	国内外の情報源や人脈を整理し、研究の流れや道筋を決定する。工程表の提出（必須）。
4	先行研究分析	先行研究を読み込んだ結果を提示し、それを検証する。
5	調査・研究①	調査、研究、文献購読を継続する。
6	調査・研究②	調査、研究、文献購読を継続する。工程表チェック（必須）。
7	中間報告①	調査、研究、文献購読を継続しながら、問題点や新たな発見を整理し報告する。
8	中間報告②	調査、研究、文献購読を継続しながら、問題点や新たな発見を整理し報告する。
9	中間報告③	調査、研究、文献購読を継続しながら、問題点や新たな発見を整理し報告する。
10	継続研究①	問題点や発見の整理を経て、調査・研究の修正、継続を続ける。
11	継続研究②	問題点や発見の整理を経て、調査・研究の修正、継続を続ける。
12	修正報告①	修正点、不明事象のありなしをチェックする。
13	修正報告②	修正点、不明事象のポイントをチェックし手を加える。
14	プレゼンテーションと相互議論、夏休みの計画立案	ここまでの研究の成果をプレゼンにまとめ、卒論執筆者同士で互いに議論を深める。

秋学期

回	テーマ	内容
15	進捗状況報告①	全体像を検証しながら、夏休みの研究計画と課題を規定する。
16	進捗状況報告②	夏休みを経て得られた新たな状況を加味し、報告する。必要があれば軌道修正にかかる。
17	継続研究③	研究を継続する。
18	継続研究④	研究を継続する。
19	継続研究⑤	研究を継続する。
20	継続研究⑥	研究を継続する。
21	中間報告④	研究成果を交互に発表し、演習生同士の意見交換を行う。
22	最終検証①	素材、情報、引用などに矛盾や自家撞着がないか確認する。
23	最終検証②	構成に無理がないかチェックをする。
24	最終検証③	結論に至るまでの論理構成のチェック。引用や出典に関する表記の確認をする。
25	審査と発表①	研究発表の確認と質疑応答（複数名）。
26	審査と発表②	研究発表の確認と質疑応答（複数名）。
27	審査と発表③	研究発表の確認と質疑応答（複数名）。
28	審査と発表④	研究発表の確認と質疑応答（複数名）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論執筆には、テーマの設定によって時間的なずれが生じることがある。早め早めの対応が、優れた論文執筆の基本的な要件だ。うちに籠もらず、様々な関連組織やグループと積極的に接触の機会を持つこと。ひとつに限定せず、多方面からそれを眺め渡せるような環境下に自分を置くことも大切。演習の形態から、随時研究室に顔を出しコミュニケーションを図ること。ジャーナルな視点で、研究テーマに関わる記事・論文などには必ず目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

個々の研究テーマにしたがって、それぞれに勘案する。

【参考書】

海外の文献なども積極的に視野に入れる。インターネットの英語への翻訳ソフトを使えば、何語で書かれていようとそれなりの内容がつかめるようになる。国会審議の検索、最高裁の判例検索など、社会の考え方や視点に常に注意を払いながら進めること。

【成績評価の方法と基準】

主たる成果は、プリントアウトした通常の論文の形式とする。副たる成果として、途中経過にパワーポイントなどを使ってプレゼンテーションを求める。自分なりの哲学があって、適切な引用やインタビュー情報を十分に咀嚼し、論理的整合性を保ちながら取り込めているかどうか。一方的であったり、思い込みに資料を強引にあわせるような論法に陥らないこと。研究を待つまでもなく誰もが知っているような当たり前の結論だけで満足しないこと。評価配分：卒業論文 70 % プレゼンテーション作成 15 % 工程表 15 %。

【学生の意見等からの気づき】

「もっと早く取りかかっていれば良かった」専門演習Ⅲ履修生からたびたび寄せられた言葉だ。「先行研究」に対する意識。「工程表」への手際の良い取り組みが、悔いの残らない卒論執筆につながっていく。ここがクリアできれば、あとは強い探究心とこれまでの積み重ねでそれなりの推力を発揮できる。後手後手に回りがちな卒論への取り組みを、早めの刺激を用意しながらエンジンの回転数を上げていきたい。一人一人のテーマを繰り返し議論の俎上にあげ、意見の交換を増やして検証、分析、修正などのチャンスを増加させる。

【学生が準備すべき機器他】

研究室で、随時スクリーンを使っている検証ができる。必要に応じて、パソコンやメモリーチップなどを持ち歩くこと。工程表の作成だけでなく、いつどのタイミングで指導教官のチェックを受けるのか、あらかじめ予定を立てて申告すること。本来は学生の側からの申告が前提だが、期日については担当教官からの指示も準備しておきたい。

【その他の重要事項】

③引用に対して、必ず出典や URL を残しておくこと⑥写真や材料をことあるごとに集めておく⑥人の声を聞いたら、いつでも誰に聞いたかを含め、メモを取っておく。そうしたデータが、論文の執筆で大きな助けになる。専門演習Ⅰ・Ⅱの講義に顔を出し、後進のゼミ生にも強い刺激を与えるよう求めたい。

とくく、論文制作への取りかかりが遅れがちになる。就活など、別の活動に気持ちが傾くからだ。論文のテーマを自分の将来設計と連動させられるようであれば、これから先進企業や組織から独自の視点を引き出すことが可能だ。その意味で、テーマ設定には熟考を求めたい。執筆方法に迷いや不安が生じた場合は、担当教官ないしは図書館のアシストを積極的に活用すること。「高等教育の負担軽減制度に係る『実務経験のある教員による授業配置』に関する対応」

法政大学専任教員になる前に 32 年間にわたって放送の現場に従事。スポーツ報道、スポーツメディアの現場経験は、国の内外を問わず豊富に所持している。そこで得た知見を元に、活字や番組に現れない現実社会の構造を見据えた上での指導を実施する。

【特記事項】

5 月 6 月の 2 ヶ月間、ドイツ人客員教員が週 2 回のペースで特講を設定する。英語での講義だが、メディアに関わる卒論執筆者は、単位取得とは別に授業に参加することを進めたい。もちろん、登録しての受講は更にお勧めだ。広い視野からの知見を学ぶとともに減多にないチャンスを有効に使ってもらいたい。

【研究テーマに関して】

ある時期、就活との同時並行は避けて通れない。内定を受けた場合には、その先の世界に自分の研究を重ね合わせることができるのかどうか検討してみる。少しでも重なる部分があれば、意欲的な研究を引っ張る牽引車になってくれることがある。

【Outline and objectives】

Intensive Seminar for fourth graders. Media, journalism, communication, organization theory. While setting your own theme, surveying, collecting information, analyzing, based on the methodology delved down by the research in the seminar II, writing a graduation thesis and producing a powerpoint work as presentation.

To take up the theme that you were studying in your seminar I, repeatedly researching during the seminar II, which has been holding since high school students, it could help you strongly with multifaceted and deeper logic on your thesis.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

吉田 政幸

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の執筆では、学生自身が選んだ研究テーマについて深く考え、計画的に研究を実施し、4 年間の学びの集大成として研究成果をまとめ発表する。本演習では卒業研究の意義、内容と構成、実施方法、結果の分析・考察、アカデミック・ライティングについて総合的に学習する。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下のとおりとする：

1. 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
2. 研究の目的、重要性、要因の定義、仮説を適切に記述できる。
3. 目的に応じて研究方法を適切に設定し、データを収集できる。
4. データを分析し、標本の特性と仮説の検証結果を詳細に報告できる。
5. 結果を深く考察し、結論を導き出すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

1 年をととして計画的に卒業論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーションおよび卒業論文の説明	本演習の目的および進め方を理解するとともに、卒業研究の内容と構成、意義、執筆をととして高められる能力について学ぶ。各自が1 年を通して取り組む研究計画を立てる。
2 回	序論：研究の背景と問題点の整理	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定するとともに、未解明の研究課題を特定する。
3 回	序論：研究の目的および重要性	研究課題を受け、卒業研究の目的を設定する。併せて、その目的を達成することのできるのかについても述べる。
4 回	序論：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
5 回	序論：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を理論的根拠とともに導出する。
6 回	方法：研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
7 回	方法：質問項目（基本属性）	調査対象者の人口動態的特性や行動的特性などを測定するための質問項目を設定する。
8 回	方法：質問項目（心理的要因）	調査対象者の心理的要因を測定するため、心理的尺度を観測変数として設定する。
9 回	方法：調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成する。
10 回	方法：記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計について学習し、本文にその分析方法を記述する。
11 回	方法：推計統計	研究の目的および仮説に応じて必要とされる記述統計と推計統計を見極め、記述する。
12 回	調査計画の発表準備（抄録）	卒業論文の緒言と方法を要約し、研究計画をまとめた抄録を作成する。
13 回	調査計画の発表準備（スライド）	卒業論文の緒言と方法に関して発表するためのスライド資料を作成する。
14 回	調査計画の発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。

15 回	オリエンテーションおよび後期の概要の説明	卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する。
16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを行う。
17 回	結果：人口動態の特性と行動的の集計	対象者の人口動態の特性と行動的の特性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
18 回	結果：心理的の特性の分析	対象者の心理的の特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
19 回	卒業論文の中間発表	研究計画に基づいてデータを収集し、基本属性を集計した結果を発表する。
20 回	結果：仮説の検証（基本的な統計分析）	推計統計を用いて仮説を検証し、その結果を説明する文章を記述する。
21 回	結果：仮説の検証（発展的な統計分析）	必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の重回帰分析などを行い、その結果を説明する文章を記述する。
22 回	考察：全体の考察	分析結果を考察するとともに、仮説の検証が示す意味を客観的に理解し、記述する。
23 回	考察：セグメント別の考察	より深い考察を行うため、仮説検証を顧客セグメント間で実施し、場合によっては追加分析を行う。
24 回	考察：実践的貢献	研究テーマの実践に関わる実務担当者の業務の遂行をさらに促進するための提案を行う。
25 回	考察：研究の限界と今後の展望	実施した卒業研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述するとともに、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。
26 回	結論、引用文献、巻末資料	研究の目的と結果として示した科学的証左との対応の中で結論を導き出す。併せて、引用文献や巻末資料も整え、卒業論文を完成させる。
27 回	最終発表の準備	卒業論文を発表するためのパワーポイントスライドを作成するとともに、卒業論文の要約を抄録としてまとめる。
28 回	最終発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文を発表し、他の受講生と議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】

テーマ発表：10点

調査計画の発表：10点

中間発表：10点

最終発表：20点

卒業論文（①緒言、②方法、③結果、④考察、⑤その他文章力、論理性、書式など）：50点

合計：100点

【評価基準】

4回の発表と卒業論文の本文の執筆によって獲得する得点は、以下の基準によって決定する。

100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。

80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。

60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。

40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表（または記述）している。

20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

研究（research）とは、繰り返し（re）探求（search）を続けることです。1年を通じて計画的に取り組んでください。

【Outline and objectives】

This course is an advanced seminar to write a graduation thesis in the fields of sport management. Students will (1) understand the purpose, importance, and benefit of a graduation thesis, (2) conduct research focusing on their own interests, (3) collect and analyze data in the sport industry, and (4) interpret conclusions drawn from their findings. Upon successful completion of this course, students will be able to submit their theses that are worthy of being considered as sport management articles.

LIN200IA

英語演習 I

相馬 美明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

まず何より数多くの問題をこなすことで問題に慣れ、その問題の傾向と対策について自ら考える。

【到達目標】

精読、多読の両面から、短時間で確実に英文を読み取る能力を養うこと。また、複雑な英文を読み解くことを通じ、さらなる自信をつけていくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には教科書の順序にしたがって進められるが、教科書のみならず、学生の興味のわきそうなトピックをさまざま扱っていく予定である。授業は、学生の理解度を主体に進めていきたいと考える。要は、一年かけて自分がどれくらい伸びたかである。その点では、なにより学生のやる気が大切となろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、年間計画、諸注意など	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	Pre-test (1)	Pre-test (1)
3	Pre-test (2)	Pre-test (2)
4	Racial Discrimination Problem	Racial Discrimination Problem
5	Racial Discrimination Problem	Racial Discrimination Problem
6	Short Conversations	Short Conversations
7	The Discovery of a New Medicine	The Discovery of a New Medicine
8	The Discovery of a New Medicine	The Discovery of a New Medicine
9	Looking for Reference books in the library	Looking for Reference books in the library
10	American Insurance System	American Insurance System
11	American Insurance System	American Insurance System
12	Instructions on Class by a Professor	Instructions on Class by a Professor
13	Instructions on Class by a Professor	Instructions on Class by a Professor
14	まとめ	まとめ

秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期予定確認	秋学期予定確認
16	Financial Crisis	Financial Crisis
17	Financial Crisis	Financial Crisis
18	Conversation between a Professor and a Student	Conversation between a Professor and a Student
19	Conversation between a Professor and a Student	Conversation between a Professor and a Student
20	Native American	Native American
21	Native American	Native American
22	The Civil War	The Civil War
23	Environmental Problem	Environmental Problem
24	Environmental Problem	Environmental Problem
25	Astronomy	Astronomy
26	Astronomy	Astronomy
27	Post-test (1)	Post-test (1)

28 Post-test (2)

Post-test (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習は必須であり、また出席についても基本的に全出席が原則となる。学生は自らの無限の可能性を信じ、授業に臨んでもらいたい。

【テキスト（教科書）】

Power-up Trainer for the TOEFL ITP (CENGAGE Learning), およびプリント使用

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

定期試験（60 %）、レポート（10 %）、平常点（20 %）、発表点（10 %）など、それらを総合的に評価する。懸命に努力する姿を評価したい。

出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。

レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their English proficiency through reading articles on current topics and also focuses on transferable literacy skills that will assist you in academic writing. Attendance is mandatory, your active participation will be needed.

LIN200IA

英語演習Ⅱ

松下 晴彦

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2～4 年次／ 4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの上手な取り方を知得すること、国際ビジネスで使われる英語を身につけることを目標としている。

【到達目標】

学生は、ビジネスに相応しい上品な英語を使うことができる。国際的なビジネスマナーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

ビジネス英語といっても特別な英語を使うのではなく、場面にふさわしい英語、大人らしい英語を学習していく。テキスト・プリントにて基本的なビジネス英語を学び、演習を行っていく。英語力の定着を目指し、復習の小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明
2	Lesson 1	初めて会う人と待ち合わせ
3	Lesson 2	会議・商談で自己紹介する
4	Lesson 3	客先を同僚に紹介する
5	Lesson 4	電話で：ヴォicemail
6	Lesson 5	電話で：初めての人と
7	Lesson 6	客先に訪問して
8	Lesson 7	海外出張：飛行場でチェックイン
9	Lesson 8	入国審査・通関
10	Lesson 9	ホテルで
11	Lesson 10	会議で
12	Lesson 11	アポをとる
13	Lesson 12	雑談
14	試験・学期末のまとめ	読解、単語、表現、リスニングの試験

秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	授業の紹介等
16	Unit 1	Introducing Yourself
17	Unit 2	Introducing Companies
18	Unit 3	Explaining Your Role
19	Unit 4	Introducing Products
20	Unit 5	Checking Information
21	Unit 6	Giving Your Opinion
22	Unit 7	Making Requests
23	Unit 8	Asking Permission
24	Unit 9	Making Invitations
25	Unit 10	Making Appointments
26	Unit 11	Canceled and Rescheduling
27	Unit 12	Describing Locations
28	試験・学期末のまとめ	読解、単語、表現、リスニングの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～13 回：付属 CD のリスニング、テキストの予習、前回授業の復習

第 14 回：春学期試験対策の総復習

第 15 回：特になし

第 16～27 回：自習用 CD を使いリスニングする、およびテキストの予習、前回授業の復習

第 28 回：秋学期試験対策の総復習

テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。

【テキスト（教科書）】

春学期『ビジネス会話で学ぶアメリカ文化』Todd Jay Leonard（成美堂）税込：2,160 円

秋学期『Go Global』Garry Pearson（成美堂:2019）税別：2,400 円

【参考書】

『敬語の英語』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）

『敬語の英語:実践編』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）

『スーパーアンカー和英辞典』（学研）を自習用の辞典としてお薦めする。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度：30 %

授業内小テスト：30 %

定期試験：40 %

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

ビジネスで役立つ英語、知識が学べた、という意見が頂いた。学生の役に立つ授業を展開できるように今後も努力します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

大学生に相応しい英語力は必須である。

受講を希望する学生、興味がある学生は必ず初回の授業に出席すること。

演習が主となるので全出席が期待されている。

なお、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The course will focus on helping students develop their command of English used in the business world to communicate better with each other.

EDU2001A

保健体育科教育法Ⅰ

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校教育の法的根拠、保健体育科教育の変遷を踏まえ、「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】

中等教育における保健体育科教育の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、将来の体育教師として勤めるための知識や能力、態度を身につける。また、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした体育の授業づくりの基礎知識について学び、体育(分野) 学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	体育科教育の必要性	体育科教育とはなにか
2	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
3	保健体育教師の心得	姿勢・態度、服装、生徒との関わり方
4	学習指導要領 変遷 (1)	法的根拠 (憲法・教育基本法・学校教育法・施行規則等)
5	学習指導要領 変遷 (2)	戦前から現在の体育の捉え方
6	学習指導要領 要点 (1)	教科及び科目の目標 (中学校・高等学校)
7	学習指導要領 要点 (2)	領域及び内容の取扱い 授業時数
8	授業づくり①	学習形態の考え方と 具体的な展開方法 (人的条件・物的条件)
9	授業づくり②	学習過程の効果的な進め方 (運動の特性に触れる)
10	授業づくり③	学習環境の具体的な工夫 (ICT・学習カード・視聴覚教材等の活用方法を含む)
11	授業づくり④	学習評価のねらい、方法、観点
12	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
13	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元時間計画/単元における 評価規準の 設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案/ 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
- ・学習指導要領の各領域について熟読すること
- ・以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと

【テキスト（教科書）】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】

- ・『保健体育科教育法』（大修館書店）
- ・『新版体育科教育学入門』（大修館書店）
- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【中学校 保健体育】
(文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター)
- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【高等学校 保健体育】
(文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター)

【成績評価の方法と基準】

- ・試験 40%
- ・小レポート・小テスト 30%
- ・学習指導案 20%
- ・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】

- ・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を自分なりに精一杯参加すること

【その他の重要事項】

- ・授業の展開によっては、若干の変更があり得る

【Outline and objectives】

These lectures will make you understand,purpose,target,learning contents,educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education.To acquire the knowledge,the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU2001A

保健体育科教育法Ⅰ

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校教育の法的根拠、保健体育科教育の変遷を踏まえ、「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】

中等教育における保健体育科教育の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、将来の体育教師として勤めるための知識や能力、態度を身につける。また、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした体育の授業づくりの基礎知識について学び、体育(分野) 学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	体育科教育の必要性	体育科教育とはなにか
2	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
3	保健体育教師の心得	姿勢・態度、服装、生徒との関わり方
4	学習指導要領 変遷 (1)	法的根拠 (憲法・教育基本法・学校教育法・施行規則等)
5	学習指導要領 変遷 (2)	戦前から現在の体育の捉え方
6	学習指導要領 要点 (1)	教科及び科目の目標 (中学校・高等学校)
7	学習指導要領 要点 (2)	領域及び内容の取扱い 授業時数
8	授業づくり①	学習形態の考え方と 具体的な展開方法 (人的条件・物的条件)
9	授業づくり②	学習過程の効果的な進め方 (運動の特性に触れる)
10	授業づくり③	学習環境の具体的な工夫 (ICT・学習カード・視聴覚教材等の活用方法を含む)
11	授業づくり④	学習評価のねらい、方法、観点
12	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
13	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元時間計画/単元における 評価規準の 設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案/ 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
- ・学習指導要領の各領域について熟読すること
- ・以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと

【テキスト（教科書）】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】

- ・『保健体育科教育法』（大修館書店）
- ・『新版体育科教育学入門』（大修館書店）
- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【中学校 保健体育】
(文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター)
- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【高等学校 保健体育】
(文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター)

【成績評価の方法と基準】

- ・試験 40%
- ・小レポート・小テスト 30%
- ・学習指導案 20%
- ・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】

- ・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を自分なりに精一杯参加すること

【その他の重要事項】

- ・授業の展開によっては、若干の変更があり得る

【Outline and objectives】

These lectures will make you understand,purpose,target,learning contents,educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education.To acquire the knowledge,the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU2001A

保健体育科教育法Ⅱ

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の示す中学校及び高等学校の「保健」の目標・内容・評価等について講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】

中等教育における保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解し、授業論・指導論を中心とした授業研究及び分析、ICT(PCやタブレット)や教材を活かした保健の授業づくりの基礎的知識について学び、学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに個人・社会生活における健康・安全に貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

「保健」における教授法や指導論などに関する概論を学び、各単元の授業づくりのためのポイントについて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	保健科教育の概念及び必要性	保健科教育とはなにか
2	学校における保健教育	教育課程における位置づけ・歴史
3	学習指導要領 要点 (1)	中学校 (保健分野) 目標
4	学習指導要領 要点 (2)	高等学校 (科目保健) の目標 ヘルスプロモーションの意義
5	保健における 各単元内容 (1)	中学校 (4 単元) における 主なねらい・留意点
6	保健における 各単元内容 (2)	高等学校 (3 単元) における 主なねらい・留意点
7	授業づくり①	学習形態 (効果的な展開方法)
8	授業づくり②	学習過程 (種類と利点・欠点)
9	授業づくり③	学習環境 (実習・実験などを効果的に行うための ICT 活用方法)
10	授業づくり④	学習評価 (テスト作成方法/発問方法)
11	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
12	保健科学習指導の課題	現状と問題点、役割、特質
13	学習指導案作成 (1)	単元目標と単元における 評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案と 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
- ・中学校及び高等学校の保健の教科書を熟読しておくこと
- ・新聞やインターネットなどで、最近の病気、けが、事故や健康にまつわる新しい情報を収集すること
- ・以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと

【テキスト（教科書）】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】

- ・『保健科教育の基礎』（教育出版）
- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【中学校 保健体育】
(文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター)

- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』

【高等学校 保健体育】

(文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター)

【成績評価の方法と基準】

- ・試験 40 %
- ・小レポート・小テスト 30 %
- ・学習指導案 20 %
- ・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】

- ・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を自分なりに精一杯参加すること

【その他の重要事項】

- ・授業の進展状況によっては、講義内容の若干の変更があり得る

【Outline and objectives】

These lectures will make you understand, purpose, target, learning contents, educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education. In these lectures I talk about the basic knowledge of Health and Physical Education making use of ICT and teaching materials. To acquire the knowledge, the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU2001A

保健体育科教育法Ⅱ

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の示す中学校及び高等学校の「保健」の目標・内容・評価等について講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】

中等教育における保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解し、授業論・指導論を中心とした授業研究及び分析、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎的知識について学び、学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに個人・社会生活における健康・安全に貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

「保健」における教授法や指導論などに関する概論を学び、各単元の授業づくりのためのポイントについて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	保健科教育の概念及び必要性	保健科教育とはなにか
2	学校における保健教育	教育課程における位置づけ・歴史
3	学習指導要領 要点 (1)	中学校 (保健分野) 目標
4	学習指導要領 要点 (2)	高等学校 (科目保健) の目標 ヘルスプロモーションの意義
5	保健における 各単元内容 (1)	中学校 (4 単元) における 主なねらい・留意点
6	保健における 各単元内容 (2)	高等学校 (3 単元) における 主なねらい・留意点
7	授業づくり①	学習形態 (効果的な展開方法)
8	授業づくり②	学習過程 (種類と利点・欠点)
9	授業づくり③	学習環境 (実習・実験などを効果的に行うための ICT 活用方法)
10	授業づくり④	学習評価 (テスト作成方法/発問方法)
11	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
12	保健科学習指導の課題	現状と問題点、役割、特質
13	学習指導案作成 (1)	単元目標と単元における 評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案と 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
- ・中学校及び高等学校の保健の教科書を熟読しておくこと
- ・新聞やインターネットなどで、最近の病気、けが、事故や健康にまつわる新しい情報を収集すること
- ・以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと

【テキスト（教科書）】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】

- ・『保健科教育の基礎』（教育出版）
- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【中学校 保健体育】
(文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター)

・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』

【高等学校 保健体育】

(文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター)

【成績評価の方法と基準】

- ・試験 40 %
- ・小レポート・小テスト 30 %
- ・学習指導案 20 %
- ・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】

- ・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を自分なりに精一杯参加すること

【その他の重要事項】

- ・授業の進展状況によっては、講義内容の若干の変更があり得る

【Outline and objectives】

These lectures will make you understand, purpose,target,learning contents,educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education.In these lectures I talk about the basic knowledge of Health and Physical Education making use of ICT and teaching materials.To acquire the knowledge,the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU3001A

保健体育科教育法Ⅲ

永木 耕介

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校・高等学校における体育科教育法について、模擬授業を通した具体的な授業づくりと実践的指導力の養成を目指す。

【到達目標】

学習指導案の作成、評価法等の検討ができるようになるとともに、模擬授業を通して、説明力やコミュニケーション能力の向上等、実践につながる指導力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

①グループによって選択した運動領域について、目標の設定、教材・教具、指導法、評価法等を検討し、単元計画を踏まえた学習指導案の作成を行う。②グループごとで指導案にもとづいた模擬授業を実施し、受講者全員による振り返りによって各模擬授業を評価し合う。それらを踏まえ、最終的に各自が改善した学習指導案を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明、グループ分け
2	学習指導案の作成①	各グループによる運動領域の選択、単元目標の設定、単元計画の作成
3	学習指導案の作成②	各グループによる効果的な教材・教具、指導方法、指導形態等の検討
4	模擬授業の準備①	各グループによる模擬授業のシミュレーションと時間計画の練り上げ
5	模擬授業① 「体づくり運動」	グループ①による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
6	模擬授業② 「器械運動」	グループ②による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
7	模擬授業③ 「陸上競技」	グループ③による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
8	模擬授業④ 「水泳」	グループ④による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
9	模擬授業⑤ 「球技」	グループ⑤による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
10	模擬授業⑥ 「武道」	グループ⑥による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
11	模擬授業⑦ 「ダンス」	グループ⑦による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
12	模擬授業⑧ 「体育理論」	グループ⑧による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
13	模擬授業の振り返り	各グループで模擬授業実施後に調査した授業評価、授業記録等を分析・検討
14	総括	各グループで模擬授業のまとめをプレゼンテーション、グループ間による相互評価、改善指導案の提出（後日）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習指導案の作成、模擬授業の準備についてはグループ毎で授業時間外も打ち合わせを必要とする。模擬授業の実施後、グループ毎で授業評価、授業記録等にもとづいた振り返りを行うこと。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編 （東山書房）

高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編 （東山書房）

中学保健体育 （学研）

最新高等保健体育 （大修館書店）

【参考書】

体育科教育学入門（大修館書店）

保健体育科教育法（大修館書店）

体育授業を観察評価する（明和出版）

内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）

体育の教材を創る（大修館書店）

楽しい体育理論の授業をつくろう（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

参加状況・態度による平常点（60％）、プレゼンテーション（20％）、レポート点（20％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も受講生が積極的に参加しながら理解を深めることができる授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出については授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

「保健体育科教育法Ⅰ」を履修していること。本授業計画は履修者数や授業展開によって若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The aim of this class is for students to acquire the capability to design lessons and deliver practical instruction based on the Physical Education pedagogy for both Junior and Senior High Schools.

EDU3001A

保健体育科教育法Ⅳ

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校「保健」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価などを踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業の経験を通して教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】

保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解した上で、実際に「保健」における学習指導計画の作成及び授業展開を行うことで、教育的実践力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

中学校及び高等学校「保健」において、学習指導要領の示す目標・指導内容・評価などを踏まえて、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎知識など保健体育科教育法Ⅱで学んだ内容を発展・具体化して学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。その後、学生同士で互いに評価し振り返りを行い、教師としての資質や態度、責任などを認識・理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の進め方 成績評価 各担当単元の班編成 学習指導案立案手順方法
2	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元計画・単元における評価規準の設定方法
3	学習指導案作成 (2)	教材 (実習・実験を行うために必要な ICT 活用、グループワーク、討議法)、指導方法、指導形態の選定
4	模擬授業準備	黒板や教壇、教材を用いた模擬授業のシミュレーション及び学習指導案の修正
5	模擬授業及び省察①	健康の考え方、生活習慣病 (中学校：4 単元 高等学校：1 単元)
6	模擬授業及び省察②	飲酒・喫煙、薬物乱用 (中学校：4 単元 高等学校：1 単元)
7	模擬授業及び省察③	応急手当、心肺蘇生法 (中学校：3 単元 高等学校：1 単元)
8	模擬授業及び省察④	性への関心、性行動 (中学校：1 単元 高等学校：2 単元)
9	模擬授業及び省察⑤	妊娠・出産、結婚生活 (中学校：1 単元 高等学校：2 単元)
10	模擬授業及び省察⑥	労働、加齢 (高等学校：2 単元)
11	模擬授業及び省察⑦	大気汚染、水質汚濁・土壌汚染 (高等学校：3 単元)
12	模擬授業及び省察⑧	ごみ処理・上下水道 (飲料水)、食品安全、環境の取り組み (中学校：2 単元 高等学校：3 単元)
13	模擬授業振り返り	各模擬授業後に課した学生への授業評価記録や録画による分析・検討
14	まとめ	各班における模擬授業反省のプレゼンテーション、振り返りを踏まえた学習指導案の修正作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学校及び高等学校における学習指導要領及び教科書（保健部分）を熟読し、担当分野の資料を常日頃から収集しておくこと

【テキスト（教科書）】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】

- ・『保健科教育の基礎』（教育出版）

- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』

【中学校 保健体育】

（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）

- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』

【高等学校 保健体育】

（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）

【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案（模擬授業前/振り返り後）40%
- ・模擬授業に対する意欲・態度及び教材の工夫 20%
- ・模擬授業者への授業評価（コメント）20%
- ・模擬授業反省のプレゼンテーション 10%
- ・毎回の授業を受けるにあたっての参加態度 10%

【学生の意見等からの気づき】

- ・模擬授業を行う場合、展開部分はどこがポイントになるのか明確にして進めること
- ・模擬授業を受ける学生は、毎回の授業者が行う授業より、参考になったこと（良かった点）、改善すべきこと（改善点）を具体的に見つけながら参加すること

【その他の重要事項】

授業の進行状況によっては、内容の若干の変更があり得る

【Outline and objectives】

These lectures focus on class development, educational guidance plan in "Health" and keeping an educational practice attitude, based on understanding purpose, target, learning contents, educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education.

EDU3001A

教育実習（事前指導）

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

次年度の教育実習に向けて、教育実習の意義や重要性、教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】

教材研究、学習指導案の作成、教壇実習（模擬授業）の実施により、実習に取り組む姿勢を自覚し、基本的な指導方法、指導技術を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

模擬授業の準備、実施、省察を中心に進める。また、教育実習を経験した4年生から教育実習の様子を伺い、自分の実習をイメージする機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明、グループ分け
2	模擬授業準備（指導案作成）	教材研究の進め方 学習指導案作成・用具確認（4年生とともに）
3	模擬授業準備（教壇指導練習）	学習指導案作成 教壇指導練習（4年生とともに）
4	模擬授業1：体育（体づくり運動）及び省察	領域：体づくり運動の担当グループによる模擬授業及び講評
5	模擬授業2：体育（器械運動）及び省察	領域：器械運動の担当グループによる模擬授業及び講評
6	模擬授業3：体育（陸上競技）及び省察	領域：陸上競技の担当グループによる模擬授業及び講評
7	模擬授業4：体育（水泳）及び省察	領域：水泳の担当グループによる模擬授業及び講評
8	模擬授業5：体育（球技）及び省察	領域：球技の担当グループによる模擬授業及び講評
9	模擬授業6：体育（ダンス）及び省察	領域：ダンスの担当グループによる模擬授業及び講評
10	模擬授業7：保健（食事、運動・休養）	保健（主に日常生活の在り方）担当者による模擬授業及び講評
11	模擬授業8：保健（喫煙、飲酒、薬物乱用）	保健（主に嗜好品）担当者による模擬授業及び講評
12	模擬授業9：保健（結婚、妊娠・出産、避妊法）	保健（主に性教育）担当者による模擬授業及び講評
13	模擬授業10：保健（大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、環境への取り組み）	保健（主に環境）担当者による模擬授業及び講評
14	模擬授業のまとめ	模擬授業の振り返りと教育実習に向けての取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習指導案の作成、模擬授業のための準備作業、模擬授業後の評価シート作成、模擬授業を行ってからの学習指導案修正作業

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案作成（模擬授業前＋模擬授業後）(30%)
- ・模擬授業 (40%)
- ・他学生の模擬授業のリアクションペーパー作成 (20%)
- ・4年生からの指導・アドバイスに対する姿勢・態度 (10%)
- ・7月のオリエンテーションにて、模擬授業の担当分野（体育・保健）を決めるため参加必須 遅刻・無断欠席は厳禁とする
- ・教育実習事前指導は、○×の評価となる（×の評価を受けると、次年度の実習が行えない）

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業において保健体育科教員として人の前に立つことを体験することで、より体育教師として必要な知識・能力・態度を実感できるような場づくりを提供する

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用します

【Outline and objectives】

These classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course.

EDU3001A

教育実習（事前指導）

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

次年度の教育実習に向けて、教育実習の意義や重要性、教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】

教材研究、学習指導案の作成、教壇実習（模擬授業）の実施により、実習に取り組む姿勢を自覚し、基本的な指導方法、指導技術を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

模擬授業の準備、実施、省察を中心に進める。また、教育実習を経験した4年生から教育実習の様子を伺い、自分の実習をイメージする機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明、グループ分け
2	模擬授業準備（指導案作成）	教材研究の進め方 学習指導案作成・用具確認（4年生とともに）
3	模擬授業準備（教壇指導練習）	学習指導案作成 教壇指導練習（4年生とともに）
4	模擬授業1：体育（体づくり運動）及び省察	領域：体づくり運動の担当グループによる模擬授業及び講評
5	模擬授業2：体育（器械運動）及び省察	領域：器械運動の担当グループによる模擬授業及び講評
6	模擬授業3：体育（陸上競技）及び省察	領域：陸上競技の担当グループによる模擬授業及び講評
7	模擬授業4：体育（水泳）及び省察	領域：水泳の担当グループによる模擬授業及び講評
8	模擬授業5：体育（球技）及び省察	領域：球技の担当グループによる模擬授業及び講評
9	模擬授業6：体育（ダンス）及び省察	領域：ダンスの担当グループによる模擬授業及び講評
10	模擬授業7：保健（食事、運動・休養）	保健（主に日常生活の在り方）担当者による模擬授業及び講評
11	模擬授業8：保健（喫煙、飲酒、薬物乱用）	保健（主に嗜好品）担当者による模擬授業及び講評
12	模擬授業9：保健（結婚、妊娠・出産、避妊法）	保健（主に性教育）担当者による模擬授業及び講評
13	模擬授業10：保健（大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、環境への取り組み）	保健（主に環境）担当者による模擬授業及び講評
14	模擬授業のまとめ	模擬授業の振り返りと教育実習に向けての取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習指導案の作成、模擬授業のための準備作業、模擬授業後の評価シート作成、模擬授業を行ってからの学習指導案修正作業

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案作成（模擬授業前＋模擬授業後）(30%)
- ・模擬授業 (40%)
- ・他学生の模擬授業のリアクションペーパー作成 (20%)
- ・4年生からの指導・アドバイスに対する姿勢・態度 (10%)
- ・7月のオリエンテーションにて、模擬授業の担当分野（体育・保健）を決めるため参加必須 遅刻・無断欠席を厳禁とする
- ・教育実習事前指導は、○×の評価となる（×の評価を受けると、次年度の実習が行えない）

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業において保健体育科教員として人の前に立つことを体験することで、より体育教師として必要な知識・能力・態度を実感できるような場づくりを提供する

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用します

【Outline and objectives】

These classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course.

EDU4001A

教育実習（高）

林 園子

カテゴリ：

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／3 単位
曜日・時限：集中・その他/Intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年次秋学期に行われる「事前指導」において、模擬授業を中心に教職課程に関する知識と教壇指導の実践力の基礎を身に付ける。4 年次春学期（または秋学期）に教育実習に行き、教育現場を学び、秋学期に行われる「事後指導」において、教育実習を振り返り、将来教育現場で働くために必要な資質・能力を養う。

【到達目標】

教育現場における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。

- ①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）
- ②高等学校における現場実習
- ③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導（3 年次）	模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象に現職教員より、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を受ける。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習（2～4 週間）	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業（教育実習総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、教科の先生方からの講評・指導）
実習後	事後指導	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える 3 年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する単元内容の学習指導案作成

【テキスト（教科書）】
各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】
必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】

- ・3 年次事前指導評価（20%）
- ・実習校の指導教員による採点（50%）
- ・事後指導（事前指導を受ける 3 年生への指導・サポート）（20%）
- ・実習日誌、実習後にまとめる実習レポート（10%）

【学生の意見等からの気づき】

事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するよう導く。

【その他の重要事項】

定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断遅刻・無断欠席をしないこと。特に4 年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。

【Outline and objectives】

First,these classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course. Next,students go trial teaching at different schools and gain experience in the field of education. Finally,students evaluate their trial teaching experience and put it to use to improve their practical skills to work in the field of education from now on.

EDU4001A

教育実習（中・高）

林 園子

カテゴリ：

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／ 5 単位
曜日・時限：集中・その他/Intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年次秋学期に行われる「事前指導」において、模擬授業を中心に教職課程に関する知識と教壇指導の実践力の基礎を身に付ける。4 年次春学期（または秋学期）に教育実習に行き、教育現場を学び、秋学期に行われる「事後指導」において、教育実習を振り返り、将来教育現場で働くために必要な資質・能力を養う。

【到達目標】

教育現場における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。

- ①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）
- ②高等学校における現場実習
- ③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導（3 年次）	模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象に現職教員より、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を受ける。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習（3～4 週間）	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業（教育実習総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、教科の先生方からの講評・指導）
実習後	事後指導	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える 3 年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する単元内容の学習指導案作成

【テキスト（教科書）】
各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】
必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】

- ・3 年次事前指導評価（20%）
- ・実習校の指導教員による採点（50%）
- ・事後指導（事前指導を受ける 3 年生への指導・サポート）（20%）
- ・実習日誌、実習後にまとめる実習レポート（10%）

【学生の意見等からの気づき】

事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するように導く。

【その他の重要事項】

定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断遅刻・無断欠席をしないこと。特に4 年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。

【Outline and objectives】

First,these classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course. Next,students go trial teaching at different schools and gain experience in the field of education. Finally,students evaluate their trial teaching experience and put it to use to improve their practical skills to work in the field of education from now on.

EDU4001A

教職実践演習

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：4 年次／2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、中学校及び高等学校の保健体育教員になる上で、自己の課題を把握し、必要に応じて不足している知識、技能、教員の資質を補い、その定着を図ることにより 4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げを行う。

【到達目標】

「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」について以下を到達できるようにする。①教育における使命感や責任感、熱意・愛情について自分の課題を見出す②教員としての社会性や対人関係能力を身につける③生徒理解や学級経営等の問題点を挙げて解決方法を考える④専門教科領域における教材研究・教材作成及び指導力について知識を深める⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーション（人の前に立つこと）の技能向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式でおこなう。「到達目標」に記された内容を踏まえ、教育実習を通して考えさせられたこと・課題になったことを具体的な議題として挙げ、それらについて討議を行い様々な意見をもとに解決策をみつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・本講義の性格、課題、到達目標の確認 ・進め方、成績評価、出席、グループ分け
2	ディスカッション (起案)	「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」をめぐるテーマ設定を行う
3	ディスカッション (準備)	討議法・テーマに沿った具体的な議題の立案・役割を決める
4	ディスカッション (模擬)	グループ内で模擬討議を行い、円滑に進行できるように組み立てる
5	ディスカッション (保健体育教員)	テーマ：「学校における保健体育科教員の役割」
6	ディスカッション (教科-保健・体育-)	テーマ：「教科の指導力」
7	ディスカッション (安全管理)	テーマ：「生徒に対する責任」
8	ディスカッション (生徒理解)	テーマ：「生徒理解の重要性」
9	ディスカッション (学級経営)	テーマ：「学級崩壊・生徒の進路・学級担任の在り方」
10	ディスカッション (特別活動)	テーマ：「部活動顧問」
11	ディスカッション (社会適応力)	テーマ：「社会的態度の育成」
12	ディスカッション (職務内容)	テーマ：「生徒指導」
13	ディスカッション (対人関係能力)	テーマ：「生徒・保護者・地域住民・他の教員との関わり方」
14	まとめ	ディスカッションの振り返り、最終課題提出に向けての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・7 月の事前オリエンテーションへの参加必須
・この科目の一時限前は 3 年生の「教育実習（事前指導）」になっていることから、その場にも参加することがあるため、できる限り、「教育実習（事前指導）」「教職実践演習」を連続で参加できるようにすること。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

・ディスカッション起案と内容等のグループワーク、役割の遂行 (40%)

・討論の参加及びリアクションペーパー作成 (30%)
・最終レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】

4 年間の教職課程の講義、介護等体験、教育実習などを通して改めて将来教員になるうえで必要なこと、課題などを討論の中で、クラスの皆で考える場を提供していく

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用する

【Outline and objectives】

This information is those who want become Health and Physical Education teachers at Junior High School or High School in the future. These classes make up for a deficiency of knowledge, skill, caliber and capability of teachers. The teacher training course is completed at university in a 4 year course.

EDU4001A

教職実践演習

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：4 年次／ 2 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、中学校及び高等学校の保健体育教員になる上で、自己の課題を把握し、必要に応じて不足している知識、技能、教員の資質を補い、その定着を図ることにより 4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げを行う。

【到達目標】

「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」について以下を到達できるようにする。①教育における使命感や責任感、熱意・愛情について自分の課題を見出す②教員としての社会性や対人関係能力を身につける③生徒理解や学級経営等の問題点を挙げて解決方法を考える④専門教科領域における教材研究・教材作成及び指導力について知識を深める⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーション（人の前に立つこと）の技能向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式でおこなう。「到達目標」に記された内容を踏まえ、教育実習を通して考えさせられたこと・課題になったことを具体的な議題として挙げ、それらについて討議を行い様々な意見をもとに解決策をみつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・本講義の性格、課題、到達目標の確認 ・進め方、成績評価、出席、グループ分け
2	ディスカッション (起案)	「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」をめぐるテーマ設定を行う
3	ディスカッション (準備)	討議法・テーマに沿った具体的な議題の立案・役割を決める
4	ディスカッション (模擬)	グループ内で模擬討議を行い、円滑に進行できるように組み立てる
5	ディスカッション (保健体育教員)	テーマ：「学校における保健体育科教員の役割」
6	ディスカッション (教科-保健・体育-)	テーマ：「教科の指導力」
7	ディスカッション (安全管理)	テーマ：「生徒に対する責任」
8	ディスカッション (生徒理解)	テーマ：「生徒理解の重要性」
9	ディスカッション (学級経営)	テーマ：「学級崩壊・生徒の進路・学級担任の在り方」
10	ディスカッション (特別活動)	テーマ：「部活動顧問」
11	ディスカッション (社会適応力)	テーマ：「社会的態度の育成」
12	ディスカッション (職務内容)	テーマ：「生徒指導」
13	ディスカッション (対人関係能力)	テーマ：「生徒・保護者・地域住民・他の教員との関わり方」
14	まとめ	ディスカッションの振り返り、最終課題提出に向けての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・7 月の事前オリエンテーションへの参加必須
・この科目の一時限前は 3 年生の「教育実習（事前指導）」になっていることから、その場にも参加することがあるため、できる限り、「教育実習（事前指導）」「教職実践演習」を連続で参加できるようにすること。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

・ディスカッション起案と内容等のグループワーク、役割の遂行 (40%)

・討論の参加及びリアクションペーパー作成 (30%)
・最終レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】

4 年間の教職課程の講義、介護等体験、教育実習などを通して改めて将来教員になるうえで必要なこと、課題などを討論の中で、クラスの皆で考える場を提供していく

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用する

【Outline and objectives】

This information is those who want become Health and Physical Education teachers at Junior High School or High School in the future. These classes make up for a deficiency of knowledge, skill, caliber and capability of teachers. The teacher training course is completed at university in a 4 year course.

